

こども文教委員会 案件一覧

(令和6年6月21日・24日開催分)

○付託議案審査 1件

部局	上程順	件名	資料番号	説明者(所管課長名等)
家庭こども部	1	第73号議案 大田区家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	1	齋藤 保育サービス推進担当課長

○大田区立入新井第一小学校及び仮称大田区大森北四丁目複合施設の改築工事における漏水事故について(経過報告) 1件

部局	報告順	件名	資料番号	説明者(所管課長名等)
各部共通	1	大田区立入新井第一小学校及び仮称大田区大森北四丁目複合施設の改築工事における漏水事故について(経過報告)	1	鈴木 教育総務課長

所管事務報告 9件

部局	報告順	件名	資料番号	説明者(所管課長名)
共通	1	令和6年度学童保育利用状況について	1	長岡 教育総務部副参事(教育地域力担当) 青木 子育て支援事業調整担当課長
教育委員会	2	「おおた 地球さんご賞」作文コンクールの開催について	1	長岡 教育総務部副参事(教育地域力担当)
	3	大田区学校施設個別施設計画(案)に係る区民意見公募手続(パブリックコメント)・区民説明会の実施結果及び計画の策定について	2	小野澤 教育施設担当課長
	4	令和6年5月1日現在 小・中学校在籍者数について	3	高野 学務課長

	5	令和6年度 新1年生指定校変更許可件数について	4	高野 学務課長
	6	学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の運営に関するワークショップの参加者募集について	5	木下 指導企画担当課長
子ども家庭部	7	次期大田区子ども・子育て支援計画策定に係る区民意向調査の結果について	1	長沼 子育て支援課長
	8	ファミリー・アテンダント事業の実施について	2	松尾 子ども家庭支援センター所長
	9	（仮称）大田区子ども家庭総合支援センターの検討状況について	3	山本 子ども家庭総合支援センター開設準備室長

第73号議案 大田区家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める
条例の一部を改正する条例

- 1 改正理由
家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の改正に伴い、本条例の一部を改正する。
- 2 改正内容（案）
新旧対照表のとおり
- 3 施行予定年月日
公布の日から施行する。

大田区家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例（平成26年条例第38号）

新旧対照表

新	旧
○大田区家庭的保育事業等の設備及び 運営に関する基準を定める条例 平成26年9月30日 条例第38号	○大田区家庭的保育事業等の設備及び 運営に関する基準を定める条例 平成26年9月30日 条例第38号
目次（略）	目次（略）
第1条から第29条まで（略） （職員）	第1条から第29条まで（略） （職員）
第30条 小規模保育事業所A型には、当該小規模保育事業所A型の長、保育士、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。 （1）及び（2）（略）	第30条 小規模保育事業所A型には、当該小規模保育事業所A型の長、保育士、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。 （1）及び（2）（略）
2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とする。 （1）乳児 おおむね3人につき1人 （2）満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人 （3）満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね <u>15人</u> につき1人（法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れ	2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とする。 （1）乳児 おおむね3人につき1人 （2）満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人 （3）満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね <u>20人</u> につき1人（法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れ

新	旧
<p>る場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>25人</u>につき1人</p> <p>3 (略)</p> <p>第31条 (略)</p> <p>(職員)</p> <p>第32条 小規模保育事業B型を行う事業所(以下「小規模保育事業所B型」という。)には、当該小規模保育事業所B型の長、保育士その他保育に従事する職員として区長が行う研修(区長が指定する都道府県知事その他の機関が行う研修を含む。)を修了した者(以下この条において「保育従事者」という。)、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。</p> <p>(1)及び(2) (略)</p> <p>2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち6割以上は保育士とする。</p> <p>(1) 乳児 おおむね3人につき1人</p> <p>(2) 満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人</p> <p>(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね<u>15人</u>につき1人(法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>25人</u>につき1人</p> <p>3 (略)</p> <p>第33条から第44条まで (略)</p> <p>(職員)</p> <p>第45条 保育所型事業所内保育事業所には、保育士、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。</p> <p>(1)及び(2) (略)</p> <p>2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数以上とする。ただし、保育所型事業所内保育事業</p>	<p>る場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>30人</u>につき1人</p> <p>3 (略)</p> <p>第31条 (略)</p> <p>(職員)</p> <p>第32条 小規模保育事業B型を行う事業所(以下「小規模保育事業所B型」という。)には、当該小規模保育事業所B型の長、保育士その他保育に従事する職員として区長が行う研修(区長が指定する都道府県知事その他の機関が行う研修を含む。)を修了した者(以下この条において「保育従事者」という。)、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。</p> <p>(1)及び(2) (略)</p> <p>2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち6割以上は保育士とする。</p> <p>(1) 乳児 おおむね3人につき1人</p> <p>(2) 満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人</p> <p>(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね<u>20人</u>につき1人(法第6条の3第10項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。)</p> <p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>30人</u>につき1人</p> <p>3 (略)</p> <p>第33条から第44条まで (略)</p> <p>(職員)</p> <p>第45条 保育所型事業所内保育事業所には、保育士、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。</p> <p>(1)及び(2) (略)</p> <p>2 保育士の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数以上とする。ただし、保育所型事業所内保育事業</p>

新	旧
<p>所1につき2人を下回ることはできない。</p> <p>(1) 乳児 おおむね3人につき1人</p> <p>(2) 満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人</p> <p>(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね<u>15人</u>につき1人（法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）</p> <p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>25人</u>につき1人</p>	<p>所1につき2人を下回ることはできない。</p> <p>(1) 乳児 おおむね3人につき1人</p> <p>(2) 満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人</p> <p>(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね<u>20人</u>につき1人（法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）</p> <p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>30人</u>につき1人</p>
<p>3 (略)</p>	<p>3 (略)</p>
<p>第46条及び第47条 (略)</p>	<p>第46条及び第47条 (略)</p>
<p>(職員)</p>	<p>(職員)</p>
<p>第48条 事業所内保育事業（利用定員が19人以下のものに限る。以下この条及び次条において「小規模型事業所内保育事業」という。）を行う事業所（以下この条及び次条において「小規模型事業所内保育事業所」という。）には、保育士その他保育に従事する職員として区長が行う研修（区長が指定する都道府県知事その他の機関が行う研修を含む。）を修了した者（以下この条において「保育従事者」という。）、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。</p>	<p>第48条 事業所内保育事業（利用定員が19人以下のものに限る。以下この条及び次条において「小規模型事業所内保育事業」という。）を行う事業所（以下この条及び次条において「小規模型事業所内保育事業所」という。）には、保育士その他保育に従事する職員として区長が行う研修（区長が指定する都道府県知事その他の機関が行う研修を含む。）を修了した者（以下この条において「保育従事者」という。）、嘱託医及び調理員を置かなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、調理員を置かないことができる。</p>
<p>(1)及び(2) (略)</p>	<p>(1)及び(2) (略)</p>
<p>2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち6割以上は保育士とする。</p>	<p>2 保育従事者の数は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める数の合計数に1を加えた数以上とし、そのうち6割以上は保育士とする。</p>
<p>(1) 乳児 おおむね3人につき1人</p>	<p>(1) 乳児 おおむね3人につき1人</p>
<p>(2) 満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人</p>	<p>(2) 満1歳以上満3歳に満たない幼児 おおむね6人につき1人</p>
<p>(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね<u>15人</u>につき1人（法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）</p>	<p>(3) 満3歳以上満4歳に満たない児童 おおむね<u>20人</u>につき1人（法第6条の3第12項第2号の規定に基づき受け入れる場合に限る。次号において同じ。）</p>
<p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>25人</u>につき1人</p>	<p>(4) 満4歳以上の児童 おおむね<u>30人</u>につき1人</p>
<p>3 (略)</p>	<p>3 (略)</p>
<p>第49条から第51条まで (略)</p>	<p>第49条から第51条まで (略)</p>
<p>別表第1及び別表第2 (略)</p>	<p>別表第1及び別表第2 (略)</p>

新	旧
<u>付 則</u> <u>この条例は、公布の日から施行する。</u>	

大田区立入新井第一小学校及び仮称大田区大森北四丁目複合施設の 改築工事における漏水事故について（経過報告）

1 事故の概要

本工事は、令和6年6月28日の工期に向け、受注者において、各所試験運転、検査、調整等を進めていたが、次のとおり3件の漏水事故が連続して発生した。

	確認日時	漏水場所	事象	被害範囲
1	6月11日（火） 14：30頃	1階 女子便所	給水ポンプ作動試験時、 加圧により配管接合部で 抜管し漏水した	【1階】 昇降口、図書室、備蓄倉 庫、便所、教員室他 【地下1階】 きこえとことばの教室 各室他 【地下2階】 EVピット他
2	6月13日（木） 7：45頃	地下1階 個別指導室	排水管の施工不良により、 接合部から漏水した	【地下1階】 きこえとことばの教室 各室他
3	6月13日（木） 8：00頃	地下2階 受水槽 ポンプ室	試運転調整がされていない 水中ポンプが継続的に稼働 したことで、水槽内から 水が越流し漏水した	【地下2階】 多目的ホール、廊下、 機械室、倉庫、便所他

2 区の対応状況

- 漏水事故による影響の大きさを踏まえ、6月17日16時に区長を本部長とする対策本部を設置した。
- 漏水による影響が広範囲かつ長時間であったことから、対策本部会議において、9月1日に予定していた複合施設の開設時期を延期することとし、同日プレス発表した。
- 詳細な被害状況及び原因については継続して調査中。事故の影響による各事業や利用者への対応方法については検討中。

3 今後の対応

上記調査等を踏まえ、今後の対応について逐次判断の上、区民、議会への情報提供を行っていく。

こども文教委員会 令和6年6月21・24日	
教育委員会事務局 こども家庭部	資料1番
所管 教育総務課 子育て支援課	

令和6年度学童保育利用状況について

(令和6年5月1日現在)

1 学童保育施設 85施設

内訳	施設数	定員(人)
児童館等	35	2,530
放課後ひろば・おおたっ子ひろば	50	3,520

2 学童保育利用状況等の推移

単位：人

	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
定員	5,715	5,765	5,795	5,815	6,050
(前年度比)	(+300)	(+50)	(+30)	(+20)	(+235)
申請数	5,295	5,324	5,519	5,680	5,915
(前年度比)	(+195)	(+29)	(+195)	(+161)	(+235)
利用登録者数	5,068	4,984	5,080	5,213	5,489
(前年度比)	(+283)	(△84)	(+96)	(+133)	(+276)
保留数	161	112	153	112	158
(前年度比)	(+10)	(△49)	(+41)	(△41)	(+46)

「おおた 地球さんご賞」作文コンクールの開催について

1 概要

「地球環境や地域の環境について考え、次の世代の行動につなげるプロジェクト」として、小中学生から作文を募集し、「おおた 地球さんご賞」と題してコンクールを行う。

地域で取り組んだ経験や、大田区独自教科「おおたの未来づくり」など学校で学んだことなどをもとに、地球環境や身近な環境に関係することをテーマとした作品を募集する。作品の中から、“おおた 地球さんご賞”大賞、準大賞等の各賞、および全国大会推薦作品を選考する。

このコンクールを通じて、地球環境や自らが暮らす地域等への関心を高め、課題に主体的に向かい合う児童・生徒の育成を図る。

※「地球さんご(3×5)」とは、3は人間が持つ能力(見る・考える・行動する)、5は地球が直面する環境問題(地球温暖化・海洋汚染・水質汚染・大気汚染・森林破壊)をイメージしたもので、5つの問題に3つの能力で立ち向かうことを意味している。

※コンクールを主催する一般社団法人水のもり文化プロジェクトには、大田区在住の直木賞作家 安部龍太郎氏が参画している。

2 応募資格

区内在住または在学などの小中学生

3 スケジュール(予定)

募集告知 おおたの教育第160号掲載(令和6年7月1日発行)

区ホームページ等で周知

募集締切 9月13日(金)

表彰式 1月下旬

4 主催・共催

主催 一般社団法人水のもり文化プロジェクト

共催 大田区教育委員会

【大森海苔のふるさと館による
竹ひびたて】



【多摩川:
うのき水辺の楽校の活動】



【大森第六中学校
ヘイケボタルの放流】



大田区学校施設個別施設計画（案）に係る区民意見公募手続 （パブリックコメント）・区民説明会の実施結果及び計画の策定について

1 区民意見公募手続（パブリックコメント）

(1) 実施期間

令和6年5月15日（水）から6月4日（火）

(2) 対象

区内に在住、在勤、在学の方、その他計画に関係を有する方

2 区民説明会等

(1) 実施日、開催場所

令和6年5月19日（日） 午前10時から 消費者生活センター2階大集会室

令和6年5月23日（木） 午後6時30分から 消費者生活センター2階大集会室

(2) 参加者数

計6名

(3) 区ホームページアクセス数

471回

3 大田区学校施設個別施設計画（案）に対する意見

(1) 提出者数 8名

(2) 提出意見数 18件

意見	件数
改築の考え方について	12
諸室等について	3
防災について	2
働き方改革について	1

(3) 意見要旨及び大田区教育委員会の考え方

別紙のとおり

4 計画の周知（予定）

6月21日 こども文教委員会で報告、同日公表（区ホームページなど）

大田区学校施設個別施設計画(案)パブリックコメント実施結果一覧

別紙

No.	分野	意見要旨	大田区教育委員会の考え方
1	改築の考え方	4-3今後の整備予定の学校に入っていない学校について、どうなるのかを明記してほしい。	4-3今後の整備予定に記載の学校については、令和7年度から令和16年度までの10年間において、改築または長寿命化改修を実施する予定の学校です。 記載がない学校については、適切な時期において改築または長寿命化改修を検討し計画する予定です。改築または長寿命化改修を実施するまでは、防水改修や外壁改修などを行い機能回復を図っていきます。
2	改築の考え方	中期的に整備すべき学校一覧（30校）はどのように選んだか。比較的新しい学校が30校に入っていて、古いところが入っていないのはなぜか。	中期的に整備すべき学校一覧（30校）は、改築事業中及び「新たな取組」のモデルプランに選ばれている学校を除く、築年数が古い学校と長寿命化改修を予定している学校を記載しています。 同じ児童・生徒が小中学校ともに在学期間と工事期間が重ならないように配慮し、改築は中学校を優先して取り組みます。また、学区が重なる小中学校の改築は一定の年数を空けることとします。 記載がない学校については、適切な時期において改築または長寿命化改修を検討し計画する予定です。改築または長寿命化改修を実施するまでは、防水改修や外壁改修などを行い機能回復を図っていきます。
3	改築の考え方	改築の新たな取組＝無人改築は、旧北蒲小学校を使って行えるところはやればいいが、その数は少ないと考える。「新たな取組」の①～④の計画を考えることも大切だが、そもそも地域の学校、校舎をどのようにしていきたいかという議論を各地で行い、区民の声を集めていくことが必要だと思う。改築が決まった段階ですでにどんな校舎を建てるのか（複合化など）あらかじめ決まってしまうと動かせないというのでは区民の声を聞いた学校改築とは言えない。	学校改築は、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計といった手順を踏んで、改築事業に進んでいきます。教育委員会事務局では、「学校改築懇談会」などを設置し、学校及び地域関係者の意見を聞きながら、学校改築事業基本構想・基本計画を策定し、地域と共にある学校づくりを推進しています。

No.	分野	意見要旨	大田区教育委員会の考え方
4	改築の考え方	<p>義務教育期間の学校だけと位置付けたハード的な視点であれば、計画案は良く練られ検討されていると思う。</p> <p>しかし、小学校・中学校を地域の学びのコミュニティ拠点と考えると義務教育期間だけでなく地域住民の活きた生涯教育の拠点や多様性を認める暮らしの拠点でもあって欲しい。</p> <p>具体的には、住民向けの公園機能、スポーツ施設、交流施設、生涯学習機能、図書館機能なども近隣に併設(複合施設化など)させ、子どもたちに多様性社会を実感させ、地域住民との交流が深められる仕組みや地域住民も活用できる施設にしていきたい。</p>	<p>計画P15の方針③に記載のとおり、地域の伝統・特色を踏まえた施設整備や必要に応じて周辺他施設と複合化・多機能化を図るなど、地域の拠点として特色ある学校づくりを進めます。</p> <p>計画P15下段に記載のとおり、「大田区学校施設の整備方針及び学校施設における複合化の考え方」に基づき、学校施設における複合化については、敷地が学校用地であることを踏まえ、学校施設として必要な敷地を確保したうえで下記の要素を含む施設につき複合化施設を検討してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の質の向上や特色ある教育活動に寄与する施設 ・施設間交流により、生きる力をはぐくむ社会的な経験を積むことができる施設 ・地域の生涯学習や防災活動等に寄与し、地域力を高める基盤となりうる施設 <p>また、下記に留意しながら検討を進めてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合化に伴う連携によって生じる教育環境の高機能化・多機能化に資する配置とすること。 ・児童・生徒の安全を第一に動線やセキュリティに配慮すること。 ・複合化により、学校施設の工事期間が長期化しないよう配慮すること。
5	改築の考え方	<p>計画全般に「工事期間の短縮」の必要性が強調されている。工期が長いと、大田区教育委員会の教育施設担当課が同時に所管する学校数はとも多くなる。大田区には全88校と多くの学校がある。例えば、他区と比較すると、他区の区立学校数は30校なので、おのずと教育施設担当課の所管する学校数が大田区と比べて少ないと推察される。大田区教育委員会の教育施設担当課が同時に所管できる適正な学校数ほどのくらいでしょうか？そのために、現在の年2校の改築ペースでは、平均的な工期を何年から何年に短縮すべきなのか。</p>	<p>工期は、改築等を実施する学校の規模や地形などの条件により異なるため、何年にすべきということは一概には言えません。しかし、これまでの工事期間などを勘案すると、このペースを継続した場合、目標使用年数を超えてから事業が完了する学校が発生するおそれがあり、児童・生徒の学習環境や避難所機能の維持が困難となりかねません。そのため、区の施設整備状況、予算の平準化及び効果的・効率的な施設整備や老朽化状況等を踏まえて設定した整備基準に基づき、第5章の「新たな取組」で示す工事期間短縮の方策も導入しながら、一体改築だけでなく、部分的な改築または長寿命化改修を組み合わせ、適正な人員配置の下、毎年2～3校ずつ新規の改築事業に着手することを目標とします。</p>
6	改築の考え方	<p>計画P. 27において、従来手法(居ながら改築)、新たな取組(無人改築)が対比されていて分かりやすい。</p> <p>従来手法(居ながら改築)は「工事ステップが多くなり、工期が長い」と示されているが、それは前回計画策定時でも当然に分かっていたと思う。その際に、工期短縮の取組を検討しなかったのか。</p>	<p>前回計画策定時でも、工期短縮に向けた取組の必要性は認識しており、今後の検討課題として記載していましたが、今回はより具体化するために、モデルプランとともに記載しました。</p>

No.	分野	意見要旨	大田区教育委員会の考え方
7	改築の考え方	<p>計画P. 5において、小学校は 11学級以下の小規模校が 9 校、中学校は小規模校が 11校となっています。計画全般に「工事期間の短縮」の必要性が強調されているからこそ、一体的改築をして、標準的規模に調整していくべきだと考える。計画P. 27以降「第 5 章 新たな取組」には具体的に反映されているのか。</p>	<p>新たな取組の「取組④」として、小中学校について一体的な改築を行うことを検討することを記載しており、課題として「学校運営を行うに適切な児童・生徒数か」ということを挙げていますが、小中学校それぞれを標準的規模に調整することまでは含んでおりません。</p>
8	改築の考え方	<p>今後改築する施設は80年以上と長期間使用することになるのだから、割高になっても校舎・体育館とも免震構造の採用を望みたい。</p>	<p>学校は構造設計指針に基づき耐震構造とし、法で求められている耐力の1.25倍にすることにより、大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標として、人命の安全確保に加えて機能保全が図られるよう設計しております。</p>
9	改築の考え方	<p>学校施設を使用する主役は通学する児童・生徒なので、教職員は勿論、児童・生徒の意見も取り入れて計画・設計して欲しい。</p>	<p>学校改築は、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計といった手順を踏んで、改築事業に進んでいきます。教育委員会事務局では、「学校改築懇談会」などを設置し、学校及び地域関係者の意見を聞きながら、学校改築事業基本構想・基本計画を策定し、地域と共にある学校づくりを推進しています。 直近に基本構想・基本計画を行った学校については生徒、教職員、保護者、周辺地域住民から改築後の新しい学校について意見を募集し、意見を基に計画を行っているところです。</p>

No.	分野	意見要旨	大田区教育委員会の考え方
10	改築の考え方	<p>改築する校舎は学校の他に、貸店舗、貸事務所等が入る複合施設としてみてはどうか。 例えば10階建てで、1階を貸店舗（コンビニ、飲食店等）、2階～5階を学校の教室、6階～10階を賃貸事務所、区営住宅、ホテル等にし、そこで得た賃料収入を校舎の修繕費や次に改築する学校の建設費に充てるなどいいのでは。</p>	<p>計画P15下段に記載のとおり、「大田区学校施設の整備方針及び学校施設における複合化の考え方」に基づき、学校施設における複合化については、敷地が学校用地であることを踏まえ、学校施設として必要な敷地を確保したうえで下記の要素を含む施設につき複合化施設を検討してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の質の向上や特色ある教育活動に寄与する施設 ・施設間交流により、生きる力をはぐくむ社会的な経験を積むことができる施設 ・地域の生涯学習や防災活動等に寄与し、地域力を高める基盤となりうる施設 <p>また、下記に留意しながら検討を進めてまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複合化に伴う連携によって生じる教育環境の高機能化・多機能化に資する配置とすること。 ・児童・生徒の安全を第一に動線やセキュリティに配慮すること。 ・複合化により、学校施設の工事期間が長期化しないよう配慮すること。
11	改築の考え方	<p>学校の意見が、教育委員会や工事担当の所管に共有され、反映できるような組織体制を構築してほしい。</p>	<p>教育委員会事務局や工事担当の所管は、学校の教職員と日常的にコミュニケーションを取り、要望等把握に努めています。</p> <p>また、学校改築は、基本構想、基本計画、基本設計、実施設計といった手順を踏んで、改築事業に進んでいきます。教育委員会事務局では、「学校改築懇談会」などを設置し、学校及び地域関係者の意見を聞きながら、学校改築事業基本構想・基本計画を策定し、地域と共にある学校づくりを推進しています。</p> <p>直近に基本構想・基本計画を行った学校については生徒、教職員、保護者、周辺地域住民から改築後の新しい学校について意見を募集し、意見を基に計画を行っているところです。</p>
12	改築の考え方	<p>「館山さざなみ学校」は、築後41年と改築の検討が必要かもしれないが、生徒数26名とたいへんに小規模校である。仮に改築費用が26億円したならば、1人当たり1億円もの設備投資となる。どのような理由があろうとも、改築はしてはならないと考える。一方で、建物が老朽化することで、在籍する生徒の満足度の低下、さらには身体の危険へとつながるため、いつかは廃止するべきである。</p>	<p>館山さざなみ学校は、温暖な気候と澄んだ空気に恵まれた房総の地で、寄宿舎生活による規則正しい生活習慣の確立、栄養のバランスの取れた食事、毎日の積極的な運動などによって、一人ひとりが健康課題の克服に取り組んでいます。館山さざなみ学校のように健康上の課題を抱えた児童が自然豊かな地で課題の解決を目指す同様の学校は、特別区では大田区のほかに3区が設置しており、そのうち同じ房総半島に設置されている2区の学校とは毎年交流会を行っています。</p> <p>今後については、平成25年の「館山さざなみ学校の今後のあり方検討委員会報告書」に示された方向性を踏まえ、今日の児童を取り巻く社会状況の変化等を考慮しながら検討を進めているところです。同様の学校を有する他区との連携、協力等も含め、引き続き、他区の状況等について調査・研究をしてまいります。</p>

No.	分野	意見要旨	大田区教育委員会の考え方
13	諸室等	単独で学童の教室を設けられず、他の教室とのシェアが多くある。単独での教室を設けることを明記してほしい。	改築後の小学校については、原則学童専用の部屋を整備することとしています。既存の学校については、今ある諸室の中で転用やシェアなど運用での工夫をしています。
14	諸室等	学校を地域の居場所とし、開放できる部屋の充実をお願いしたい。	計画P15の方針③に記載のとおり、地域の伝統・特色を踏まえた施設整備や必要に応じて周辺他施設と複合化・多機能化を図るなど、地域の拠点として特色ある学校づくりを進めます。
15	諸室等	プールは1階だと泳いでいて木の枝や落ち葉に当たると痛いので、校舎又は体育館の屋上に設置した方がよい。	近年の改築校については、グラウンドを現状同等以上確保するため、屋上に配置する計画となっています。
16	避難所	避難所の考え方を教えてほしい。自宅避難を前提としている自治体もある。	学校は、学校防災活動拠点として、避難所機能など地域の防災活動の拠点としての役割を担っています。改築時においても、避難所としての機能が維持できるよう以下の視点をもって改築計画を検討していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮設校舎における避難所機能の確保 ・ 既存の受入人数の確保（代替となる施設の確保） ・ 学校防災活動拠点の運営に関する理解の確保 など
17	避難所	地域の高齢化に伴い、避難所となった場合を想定した整備が必要である。エレベーター設置など高齢者の視点、バリアフリーの視点から整備していただきたい。	計画P14に記載のとおり、災害時の避難所機能やバリアフリーにも配慮した施設機能の強化・充実を図ります。

No.	分野	意見要旨	大田区教育委員会の考え方
18	働き方改革	教職員が前向きに建替え業務に取り組む時間的、物理的な余裕を作るため、人員増による働き方改革を実施することを希望する。	<p>教員のなり手不足や長時間勤務等が社会問題化する中、この間、教育委員会では「大田区立学校における働き方改革推進プラン」のもと、学校における働き方改革の取組を推進してまいりました。新たなおおた教育ビジョンでは、質の高い教育の実現に向けて、教員の授業力向上や学校の組織的な運営力の向上とあわせて、学校における働き方改革等による教育職の魅力の向上を施策の1つとして掲げており、教員が本来行うべき業務に集中できる体制を整え、児童・生徒に向き合う時間を確保できるよう、働き方改革をより一層推進してまいります。</p> <p>また、教育委員会事務局や工事担当の所管は、学校の教職員と日常的にコミュニケーションを取り、要望等を確認しながら効率的な事務ができるよう支援に努めています。</p>

大田区学校施設個別施設計画 概要版

第1章 背景・目的等

1 背景

- ◆ 令和2年度に「大田区学校施設長寿命化計画」を策定し毎年2校ずつ新規整備に着手しているが、目標使用年数を超える学校施設が発生するおそれがある。
- ◆ 改築等をペースアップし児童・生徒の安全・安心な学習環境を確保するため、長寿命化計画を改訂し「大田区学校施設個別施設計画」を策定する。

2 目的

- ◆ 学校施設の数や整備状況、建物の健全度などを踏まえ計画的な老朽化対策を行う。
- ◆ 児童・生徒の良好な学習環境や避難所機能など安全・安心な施設環境を確保し維持する。

- ◆ 大量に見込まれる更新需要に対応し、工事期間の短縮を図りながら改築事業をペースアップさせる。

3 対象施設

- ◆ 区立学校施設全88校における校舎、屋内運動場及びプール付附属棟、機械室、倉庫等の付帯設備 ※ プール本体、フェンス、遊具等は除く。

4 計画期間

- ◆ R6 (2024) 年度からR42 (2060) 年度までの37年間

5 SDGsとの関係

- ◆ 学校施設の整備においても、SDGsの目標達成に向けた取組を推進する。

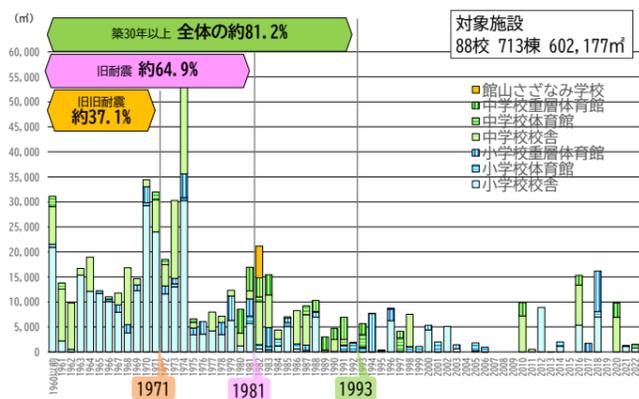
第2章 学校施設等の実態

1 児童・生徒数の推移と傾向

- ◆ R5 (2023) 年度の児童・生徒数は、ピーク時のS55 (1980) 年度から約47%減少している。
- ◆ ピーク以降一度は減少するも、その後緩やかに増加し現在は現在とほぼ同数で推移していく見込み。
- ◆ 地域ごとに明確な推移と傾向の違いはないが、将来的に年少人口は糀谷・羽田地域で増加、大森地域では減少するエリアが見られる。

2 建物の保有状況

- ◆ 区の学校施設は築30年以上が約81.2%
- ◆ 耐震基準別では「旧耐震基準 (S56 (1981) 以前)」の棟が全体の約64.9%、RC造柱の帯筋間隔改正前の「旧旧耐震基準 (S46 (1971) 以前)」の棟が全体の約37.1%

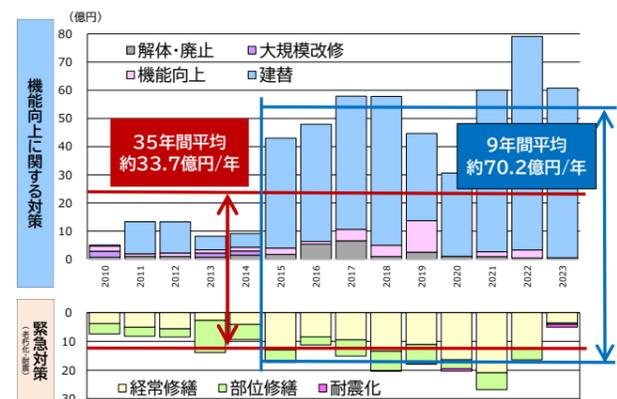


3 老朽化状況等の把握 (R1及びR5実施)

- ◆ 既存データ及び目視により劣化状況等を調査
- ◆ 旧耐震基準以前の建物の約5割では、屋根・屋上、外壁及び内部で広範囲の劣化が進行
- ◆ 設備も、履歴と耐用年数の評価では老朽化が進行
- ◆ 教室の空調化は9割以上で整備されているが、だれでもトイレやエレベーターの設置は1~2割程度

4 学校施設関連経費

- ◆ 過去32年間 (H1 (1989) ~R5 (2023)) における施設関連経費の実績額は33.7億円/年
- ◆ 年2校程度の改築と機能向上等を行っている。H27 (2015) 以降の直近9年間では70.2億円/年 (ただしR5 (2023) 年度は予算額)



第3章 学校施設整備基本方針

1 学校の目指すべき姿

- 安全・安心な施設環境の確保**
(児童・生徒の安全・安心な学習環境提供、改築のペースアップ、効果的・効率的な改築手法の確立)
- 時代のニーズに合わせた教育環境の向上**
(多様な学びの姿に対応した施設、省エネルギー化などの推進、特別支援教育の充実、感染症対策)
- 地域拠点としての一面を持つ学校施設**
(災害時の避難所機能、必要に応じた複合化、連携・協働による学校運営の支援)

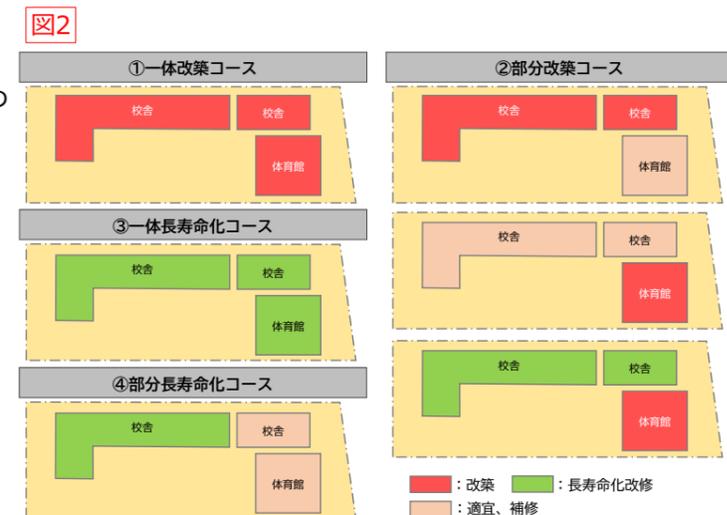
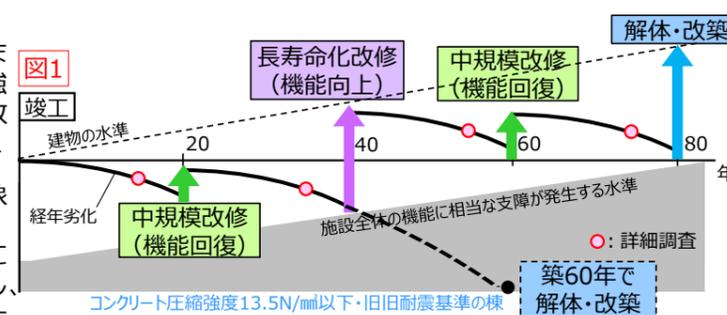
2 学校施設整備方針

- ① 効果的・効率的な学校施設の整備
- ② 新しい時代に適した良好な学習環境の整備
- ③ 学校施設の複合化・多機能化や地域の拠点として特色ある学校づくり
- ④ 施設状況等の継続的把握による変化への対応
- ⑤ 児童・生徒数等の変化への柔軟な対応

第4章 改築及び長寿命化改修の実施に向けた考え方

1 整備基準の設定

- ◆ 耐用年数等を基に、修繕サイクルを20年に設定
- ◆ 原則、建物を40年で長寿命化改修し築後80年まで活用、長寿命化に適さないコンクリート圧縮強度13.5N/mm以下や旧旧耐震基準の棟は60年を改築の目安とし、実施段階では総合的に判断 ※図1
- ◆ 各校の建物全体に占める改築・長寿命化改修対象の棟の割合により、全校を一体改築、部分改築、一体長寿命化及び部分長寿命化の4つのコースに分類 (棟毎の改築・長寿命化改修を基本、ただし、同じ時期にまとめた方がよいものについては、一体的に改築・長寿命化改修を実施) ※図2
- ◆ 整備水準、改築・改修単価等を設定
- ◆ 改築等のペースアップに向け、毎年2~3校ずつ新規整備に着手する。



2 今後の維持・更新コスト

- ◆ 令和5 (2023) 年度から令和44 (2062) 年度までの40年間で3,312.51億円 (82.8億円/年) を見込む。

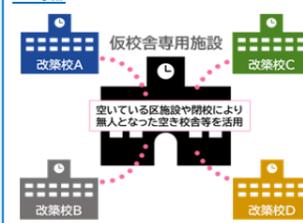
3 今後の整備予定

- ◆ 令和7 (2025) 年度から令和16 (2034) 年度までの10年間において、改築または長寿命化改修を実施する予定の学校を選定

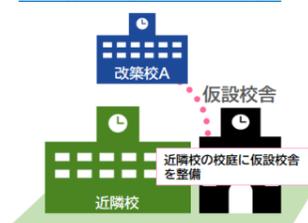
第5章 新たな取組

従来手法 (居ながら改築) からステップが少なく工事期間が短い新たな取組 (無人改築) の実現を図る。

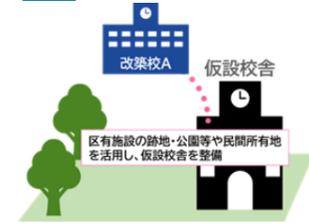
取組① 仮校舎専用施設の整備



取組② 近隣校との相互連携 (仮設校舎設置等)



取組③ 区内公共施設等の活用



取組④ 隣接・近接する学校の一体的改築



第6章 今後の検討事項

学校施設の改築をペースアップし児童・生徒に安全・安心な学習環境を提供するための検討事項

- ① 新たな発注方式の検討
・ 解体及び建築の異業種JVやデザインビルド 等
- ② 改築時における工法等の工夫
・ ユニット化した躯体の採用による工事期間の短縮
・ 給食、プールなどの外部リソースの活用 等
- ③ 財政対応力の効果的な活用
- ④ 改築事業を通じたキャリア教育の検討
- ⑤ 防災機能の維持

第7章 計画の継続的運用方針

1 情報基盤の整備と活用

- ◆ 建築基準法12条点検+劣化状況調査
 - ◆ 施設管理者である学校も日常点検を実施
- 計画見直しや予防修繕に活用

2 推進体制・フォローアップ

- ◆ 教育委員会を中心に区長部局と連携して事業を推進
- ◆ 教育委員会によるPFI・CM方式の導入に向けた検討
- ◆ PDCAサイクルにより5年ごとに部分更新、10年ごとに計画の見直しを実施

大田区学校施設個別施設計画



令和6年6月
大田区教育委員会

大田区学校施設個別施設計画

目次

第1章 背景・目的等

1-1 背景	1
1-2 目的	2
1-3 対象施設	2
1-4 計画期間	2
1-5 SDGsとの関係	2

第2章 学校施設等の実態

2-1 児童・生徒数の推移	3
2-2 学校施設の概要	5
2-3 建物の保有状況	7
2-4 老朽化状況等の把握	8
2-5 学校施設関連経費	13

第3章 学校施設整備方針

3-1 学校施設のめざすべき姿	14
3-2 学校施設整備方針	15

第4章 改築及び長寿命化改修の実施に向けた考え方

4-1 整備基準の設定	17
4-2 今後の維持・更新コスト	23
4-3 今後の整備予定	24

第5章 新たな取組

5-1 手法別の分類	26
------------	----

第6章 今後の検討事項

6-1 検討を進める事項	32
--------------	----

第7章 計画の継続的運用方針

7-1 情報基盤の整備と活用	33
7-2 推進体制の整備	34
7-3 フォローアップ	35

用語集

第1章 背景・目的等

1-1 背景

わが国では、高度経済成長期の急激な人口増加に伴い建設された公共施設が数多く存在しており、大田区(以下「区」という。)が所管する小学校、中学校及び特別支援学校の施設(以下「学校施設」という。)も児童・生徒数が急増した昭和30年代後半から同40年代にかけて整備されたものが多く、老朽化が進んでいます。

今後、学校施設における機能維持や調査、構想、計画、設計の検討・策定及び工事(以下「改築事業」という。)に係る費用増加が見込まれることから、効果的・効率的な施設整備を進めるため、区は令和3年3月に「大田区学校施設長寿命化計画」(以下「長寿命化計画」という。)を策定し、学校施設整備に取り組んできました。

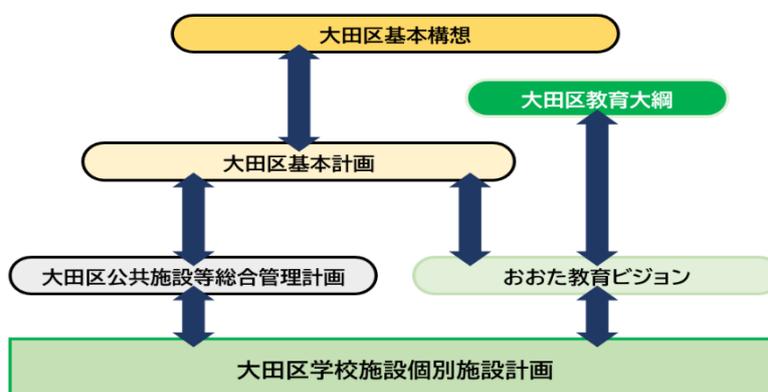
現在、長寿命化計画に基づき毎年2校ずつ改築事業に着手していますが、このペースを継続した場合、目標使用年数を超えてから改築事業が完了する学校が発生するおそれがあり、児童・生徒の学習環境や避難所機能の維持が困難となりかねません。

今後は、学校施設の数や整備状況、建物の健全度などを踏まえた計画的な老朽化対策を進めつつ、大量に見込まれる更新需要に対応し、工事期間の短縮を図りながら改築事業をペースアップしていく必要があります。

この間、令和4(2022)年3月には、文部科学省の審議会である学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議により「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」の最終報告が公表され、柔軟で創造的な学習空間の実現など、学び・生活・共創・安全・環境という5つの姿の方向性が示されました。

また、区は「大田区基本構想」(令和5(2023)年度策定)における4つの基本目標(将来像を実現するためのまちの姿)の1つとして、「未来を創り出す子どもたちが夢と希望をもって健やかに育つまち」を掲げています。さらに、「おおた教育ビジョン」(第4期大田区教育振興基本計画)(令和6(2024)年4月)では、理念を「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」と設定しました。

国や区の掲げた学校施設の姿や理念の実現に向け、適切な改築サイクルを確立し、児童・生徒に安全でより良い学習環境を提供するため、「大田区公共施設等総合管理計画(令和4年3月)」に基づく学校施設の個別施設計画として長寿命化計画を改訂し、「大田区学校施設個別施設計画」(以下「本計画」という。)を策定します。



【図表 1-1 計画の位置づけ】

1-2 目的

本計画は、学校施設の老朽化や、学校施設に求められる機能の多様化に着実に対応していくことを目的とし、以下の3つの視点に基づき推進します。

- ① 学校施設の数や整備状況、建物の健全度などを踏まえ計画的な老朽化対策を行います。
- ② 児童・生徒の良好な学習環境や避難所機能など安全・安心な施設環境を確保し維持します。
- ③ 大量に見込まれる更新需要に対応し、工事期間の短縮を図りながら改築事業をペースアップさせます。

1-3 対象施設

対象となる施設は、小学校 59 校、中学校 28 校、特別支援学校(館山さざなみ学校)1校の計 88 校の校舎、屋内運動場及びプール付属棟、機械室、倉庫などその施設に付帯する設備とします。

なお、対象とならない施設は、プール本体、フェンス、グラウンド、遊具等です。

1-4 計画期間

本計画の計画期間は、長寿命化計画の計画期間を引継ぎ、令和6(2024)年度から令和 42(2060)年度までの 37年間とします。

1-5 SDGsとの関係

SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成 27 年(2015 年)9月開催の国連サミットにおいて全会一致で採択された、2030 年までに達成すべき国際目標であり、先進国を含む国際社会共通の目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されています。

区は SDGs の達成に向けて優れた取組を提案する都市として、内閣府から 2023 年度の「SDGs 未来都市」に選定されるとともに、その中でも特に優れた先導的な取組を行う「自治体 SDGs モデル事業」にも選定されました。

学校施設の整備においても、SDGsの目標達成に向けた取組を推進します。

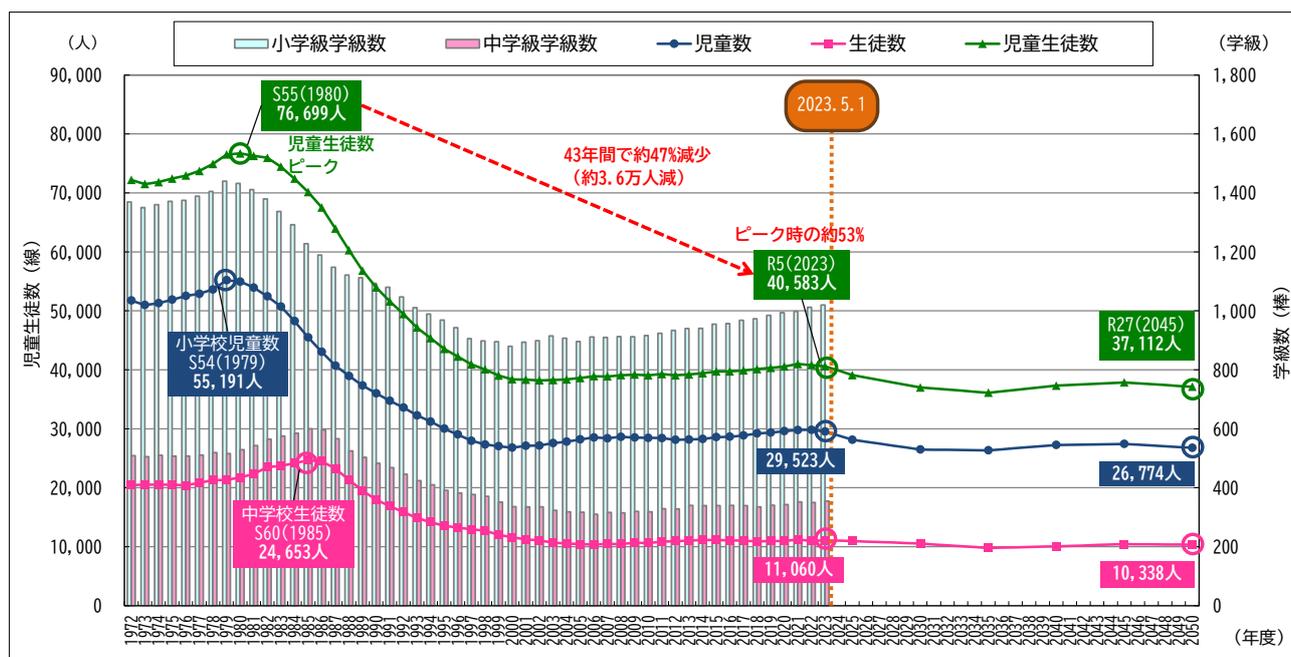


第2章 学校施設等の実態

2-1 児童・生徒数の推移

(1) 児童・生徒数の変化

令和5(2023)年度の児童・生徒数は 40,583 人で、児童・生徒数がピーク時の昭和 55(1980)年度から約 47%減少しています。ピーク年以降一度減少しましたが、その後緩やかに増加し、今後は現在とほぼ同数で推移していく見込みです。

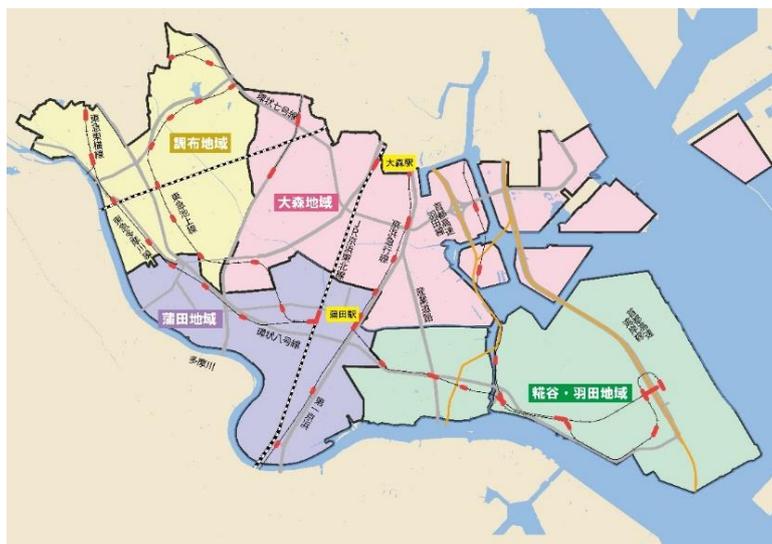


※推計は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」による。5歳階級の推計値を小学生学齢人口(6~11歳)と中学生学齢人口(12~14歳)に配分。なお、学齢人口に対する公立小中学校への進学率は直近5年間の実績値を適用。

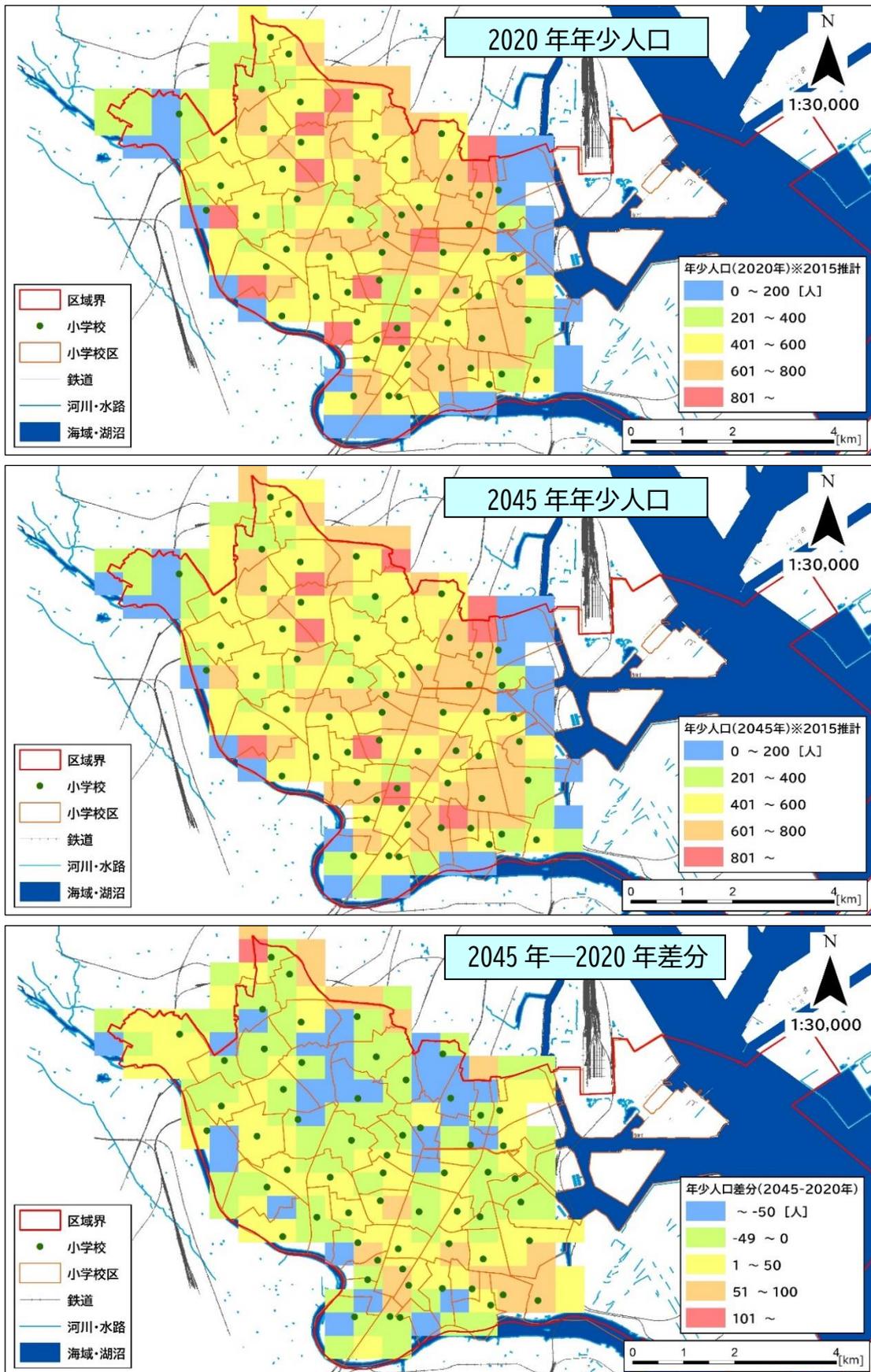
【図表 2-1 児童・生徒数の推移及び将来予測】

(2) 4地域の推移と傾向

2020年及び2045年の区内年少人口のメッシュ値(500m四方)比較では、4地域で明確な推移と傾向の違いは見られないものの、糶谷・羽田地域で年少人口が増加するエリアがやや多くみられます。一方、大森地域では減少するエリアが他の地域に比べ散見される結果となりました。なお、学校規模や今後の児童・生徒数の増減の見通しについては、各校の学区の状況等により異なっており、マンション開発等の影響で大きく変化することに注意が必要です。



【図表 2-2 区の4地域】



【図表 2-3 年少人口推計値(上段:2020年、中段:2045年、下段:差分 2045年—2020年)】

※500m メッシュ推計人口は、国土数値情報ダウンロードサイト(国土交通省 国土政策局)よりオープンデータを使用している。推計人口は、平成 27 年国勢調査結果を元に国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計人口(平成 30 年 3 月推計)」の推計値である。

2-2 学校施設の概要

令和5(2023)年5月1日現在の学校規模について、小学校は 19 学級以上の大規模校が 20 校、12～18 学級の標準規模校が 30 校、11 学級以下の小規模校が9校となっています。中学校には大規模校がなく、標準規模校が 17 校、小規模校が 11 校となっています。また、千葉県館山市に特別支援学校の「館山さざなみ学校」を設置しています。

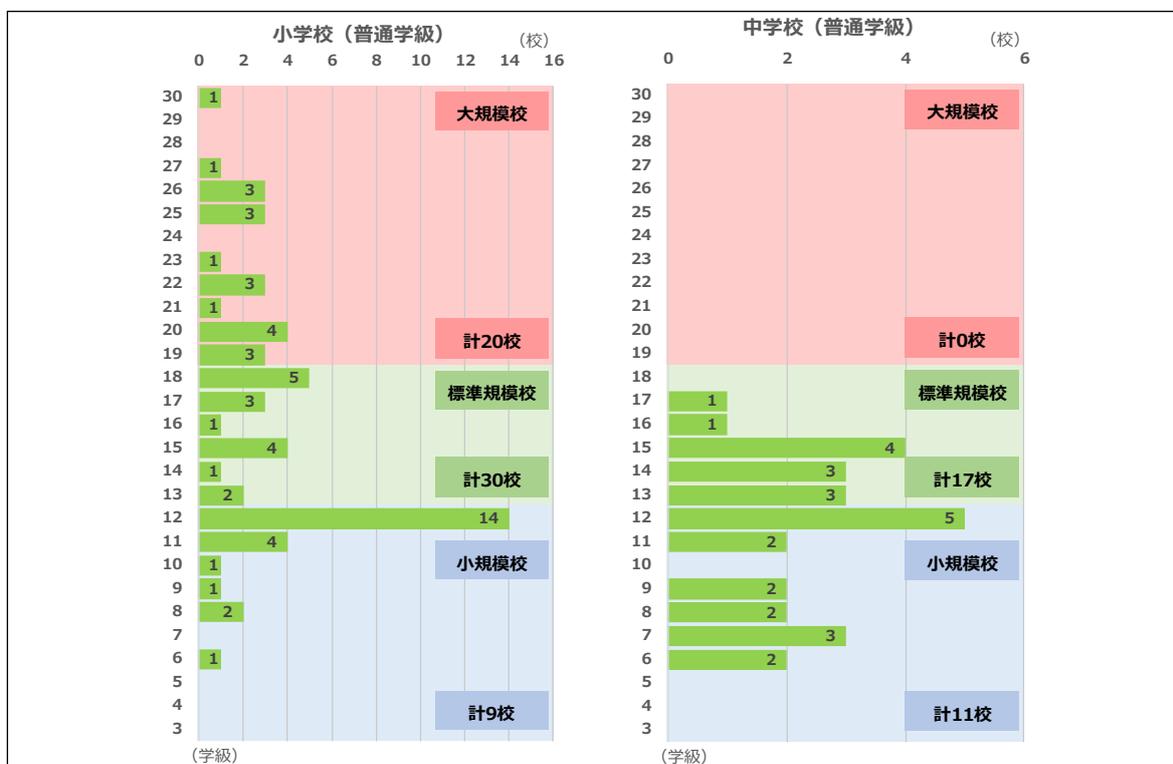
なお、学校施設の一覧は図表 2-4 のとおりです。

4地域	学校名	住所	敷地面積 (m)	延床面積 (m)	保有棟数	建築年度 (西暦)	建築年度 (和暦)	築後年数	児童生徒数		学級数	
									普通学級	特別支援	普通学級	特別支援
大森	1 大森第四小学校	大森南三丁目1番26号	8,238	8,809	4	2018	H30	5	526		17	
	2 中富小学校	大森東五丁目6番24号	6,750	5,854	10	1966	S41	57	198		8	
	3 大森第一小学校	大森東三丁目1番18号	8,027	8,606	5	1996	H8	27	558		18	
	4 開桜小学校	大森西二丁目2番3号	8,262	6,889	9	1969	S44	54	650		21	
	5 大森第三小学校	大森西五丁目2番18号	10,106	6,366	8	1968	S43	55	535		18	
	6 大森第五小学校	大森本町一丁目10番5号	7,139	5,415	5	1965	S40	58	259	13	11	2
	7 大森東小学校	大森東一丁目2番9号1	12,476	6,589	7	1981	S56	42	137		6	
	8 入新井第五小学校	大森北六丁目4番8号	5,769	4,598	7	1960	S35	63	389		12	
	9 入新井第一小学校	大森北四丁目6番7号	8,726	3,906	7	1958	S33	65	490	23	15	3
	10 山王小学校	山王一丁目2番33号	11,496	7,069	9	1970	S45	53	825		25	
	11 馬込小学校	南馬込一丁目3番1号	7,908	6,012	7	1963	S38	60	706		22	
	12 馬込第二小学校	南馬込三丁目1番1号	6,761	5,412	6	1964	S39	59	435	20	15	3
	13 馬込第三小学校	北馬込一丁目2番8号1	10,951	6,747	9	1963	S38	60	772		25	
	14 梅田小学校	南馬込六丁目6番1号	14,442	7,476	15	1963	S38	60	977		30	
	15 池上小学校	池上一丁目3番8号	12,061	5,866	9	1960	S35	63	612	28	19	4
	16 池上第二小学校	中央八丁目9番1号	8,210	6,061	8	1971	S46	52	484	13	16	2
	17 徳持小学校	池上七丁目1番1号	8,552	6,415	7	1971	S46	52	647		20	
	18 入新井第二小学校	中央二丁目1番5号1	9,103	6,463	10	1959	S34	64	671		22	
	19 入新井第四小学校	中央三丁目5番8号	5,445	4,979	7	1961	S36	62	369		12	
調布	20 東調布第一小学校	田園調布南2番7号	9,137	7,132	9	1973	S48	50	642	29	20	4
	21 田園調布小学校	田園調布二丁目3番16号	8,456	6,259	8	1960	S35	63	602		19	
	22 調布大塚小学校	雪谷大塚町1番1号	8,730	5,072	8	1963	S38	60	363		12	
	23 東調布第三小学校	南久が原二丁目1番1号	6,951	5,614	12	1956	S31	67	645		20	
	24 嶺町小学校	田園調布南6番10号	10,269	10,070	3	2012	H24	11	866		27	
	25 千鳥小学校	千鳥二丁目5番1号	6,314	4,813	6	1971	S46	52	338		11	
	26 久原小学校	久が原四丁目1番10号	8,460	7,028	7	2002	H14	21	822		26	
	27 松仙小学校	久が原一丁目1番1号	11,278	7,002	13	1970	S45	53	744		23	
	28 池雪小学校	東雪谷五丁目7番1号	9,223	7,462	8	1958	S33	65	856		26	
	29 小池小学校	上池台二丁目2番7号	7,691	7,900	6	1988	S63	35	827		25	
	30 雪谷小学校	南雪谷三丁目9番23号	8,779	6,577	6	1969	S44	54	715	20	22	3
	31 洗足池小学校	南千束三丁目3番2号	7,200	5,061	8	1968	S43	55	453	26	15	4
	32 赤松小学校	北千束二丁目3番8号	7,151	3,254	5	1958	S33	65	327		12	
	33 清水窪小学校	北千束一丁目2番15号	7,959	4,989	6	1967	S42	56	374		13	
糀谷・羽田	34 糀谷小学校	西糀谷三丁目1番21号	11,443	7,001	11	1970	S45	53	492		17	
	35 東糀谷小学校	東糀谷五丁目1番23号	8,511	7,117	7	1963	S38	60	372	25	12	4
	36 北糀谷小学校	北糀谷二丁目2番5号	5,690	4,703	7	1971	S46	52	292		12	
	37 羽田小学校	羽田三丁目3番14号	9,318	7,700	4	1994	H6	29	271		11	
	38 都南小学校	本羽田三丁目1番2号	6,614	4,975	10	1961	S36	62	374		13	
	39 秋中小学校	本羽田三丁目4番22号	14,420	5,398	11	1972	S47	51	224		9	
	40 中秋中小学校	秋中二丁目1番1号	9,126	6,357	8	1970	S45	53	360		12	
	41 出雲小学校	本羽田一丁目2番4号	9,151	7,271	10	1965	S40	58	520	28	17	4
蒲田	42 六郷小学校	東六郷三丁目7番1号	10,879	7,200	8	1970	S45	53	286	5	11	1
	43 西六郷小学校	西六郷二丁目3番1号	8,403	5,600	9	1970	S45	53	358	22	12	3
	44 高畑小学校	西六郷三丁目2番23号	12,489	6,797	9	1971	S46	52	825		26	
	45 仲六郷小学校	仲六郷一丁目2番1号	7,990	5,599	10	1959	S34	64	238		10	
	46 志茂田小学校	西六郷一丁目4番2号	10,727	8,114	1	2018	H30	5	327		12	
	47 東六郷小学校	東六郷二丁目3番1号	9,559	7,040	2	2016	H28	7	367		14	
	48 南六郷小学校	南六郷三丁目7番1号	6,844	5,727	5	1985	S60	38	356		12	
	49 矢口小学校	多摩川一丁目1番22号	9,074	6,429	9	1970	S45	53	521		18	
	50 矢口西小学校	下丸子一丁目7番1号	6,796	6,863	8	1958	S33	65	638	18	20	3
	51 多摩川小学校	矢口三丁目2番25号	8,244	6,219	8	1970	S45	53	560		19	
	52 相生小学校	西蒲田六丁目1番1号	6,478	4,861	9	1964	S39	59	296		12	
	53 矢口東小学校	東矢口三丁目9番20号	7,494	5,515	5	1966	S41	57	313	17	12	3
	54 おなづか小学校	西蒲田一丁目1番1号	7,832	4,439	8	1967	S42	56	471		15	
	55 道塚小学校	新蒲田三丁目3番18号	9,149	7,089	9	1964	S39	59	527		18	
	56 蒲田小学校	蒲田一丁目30番1号	11,787	6,759	11	1965	S40	58	532	18	18	3
	57 南蒲小学校	南蒲田一丁目1番11号	8,641	6,151	10	1964	S39	59	352	7	12	1
	58 新宿小学校	蒲田本町一丁目5番1号	11,553	5,272	7	1971	S46	52	278		12	
	59 東蒲小学校	東蒲田一丁目1番25号	7,488	5,667	6	1965	S40	58	221		8	
小学校59校計			523,720	369,628	456	-	-	-	29,185	312	967	47

中学校	大森	1	大森第一中学校	大森南五丁目6番5号	17,418	6,606	7	1964	S39	59	232		7	
		2	大森東中学校	大森東四丁目1番1号	12,341	7,688	7	1982	S57	41	353	14	11	2
		3	大森第二中学校	大森北六丁目18番1号	9,169	8,081	9	1961	S36	62	433		12	
		4	大森第八中学校	大森西二丁目21番1号	14,626	9,686	13	1958	S33	65	531	24	15	3
		5	馬込中学校	西馬込二丁目35番6号	15,223	8,042	15	1963	S38	60	225	21	7	3
		6	馬込東中学校	南馬込二丁目26番30号	9,776	5,880	8	1962	S37	61	302		9	
		7	貝塚中学校	中馬込三丁目13番1号	11,630	8,544	9	1986	S61	37	502		15	
		8	大森第四中学校	池上一丁目15番1号	16,370	9,335	12	1962	S37	61	475		14	
		9	大森第三中学校	中央四丁目12番8号	14,576	7,812	6	1998	H10	25	485		14	
	調布	10	東調布中学校	田園調布南29番15号	12,085	7,394	11	1958	S33	65	282	13	9	2
		11	田園調布中学校	田園調布二丁目60番1号	10,632	6,727	9	1961	S36	62	158		6	
		12	大森第七中学校	南久が原一丁目3番1号	13,184	9,782	4	2020	R2	3	616		17	
		13	雪谷中学校	南雪谷五丁目1番1号	15,681	7,830	12	1974	S49	49	408		12	
		14	大森第十中学校	仲池上二丁目13番1号	15,888	9,141	12	1970	S45	53	458		13	
		15	大森第六中学校	南千束一丁目33番1号	17,413	6,320	6	1962	S37	61	400		12	
		16	石川台中学校	石川町二丁目23番1号	11,504	6,084	11	1968	S43	55	195	11	6	2
		17	羽田中学校	東糀谷六丁目10番12号	13,187	10,088	3	2010	H22	13	187	20	7	3
	糀谷・羽田	18	糀谷中学校	西糀谷三丁目6番23号	13,111	9,030	10	1961	S36	62	400		12	
		18	糀谷中学校 (夜間)			0	0				16		3	
		19	出雲中学校	本羽田三丁目4番15号	16,991	9,197	8	1972	S47	51	558		16	
	蒲田	20	六郷中学校	仲六郷三丁目11番11号	13,725	8,383	10	1971	S46	52	416	16	13	2
		21	志茂田中学校	西六郷一丁目4番10号	8,624	9,959	3	2016	H28	7	560	23	15	3
		22	南六郷中学校	南六郷三丁目2番1号	15,175	7,588	10	1961	S36	62	542		15	
		23	矢口中学校	下丸子二丁目23番1号	9,996	7,640	7	1971	S46	52	497	12	14	2
		24	御園中学校	西蒲田八丁目5番1号	10,944	7,740	9	1964	S39	59	285		8	
		25	蓮沼中学校	西蒲田二丁目3番1号	16,506	8,426	9	1973	S48	50	365	25	11	4
		26	安方中学校	東矢口二丁目1番1号	10,312	6,537	9	1960	S35	63	371		12	
		27	東蒲中学校	東蒲田二丁目38番1号	10,530	8,448	7	1978	S53	45	404		13	
28		蒲田中学校	蒲田一丁目12番5号	11,282	8,240	7	1987	S62	36	225		8		
中学校28校 計					367,899	226,228	243	-	-	10,881	179	326	26	
特別支援学校	-	1	館山さざなみ学校	千葉県館山市洲宮768番地の117	19,545	6,321	14	1982	S57	41	26		6	
学校施設88校 合計					911,164	602,177	713	-	-	40,092	491	1,299	73	

延床面積は、付属棟を含む

【図表 2-4 学校施設一覧(令和5(2023)年度末現在)】



【図表 2-5 学級数の状況(令和5(2023)年度末現在)】

2-3 建物の保有状況

(1) 保有状況

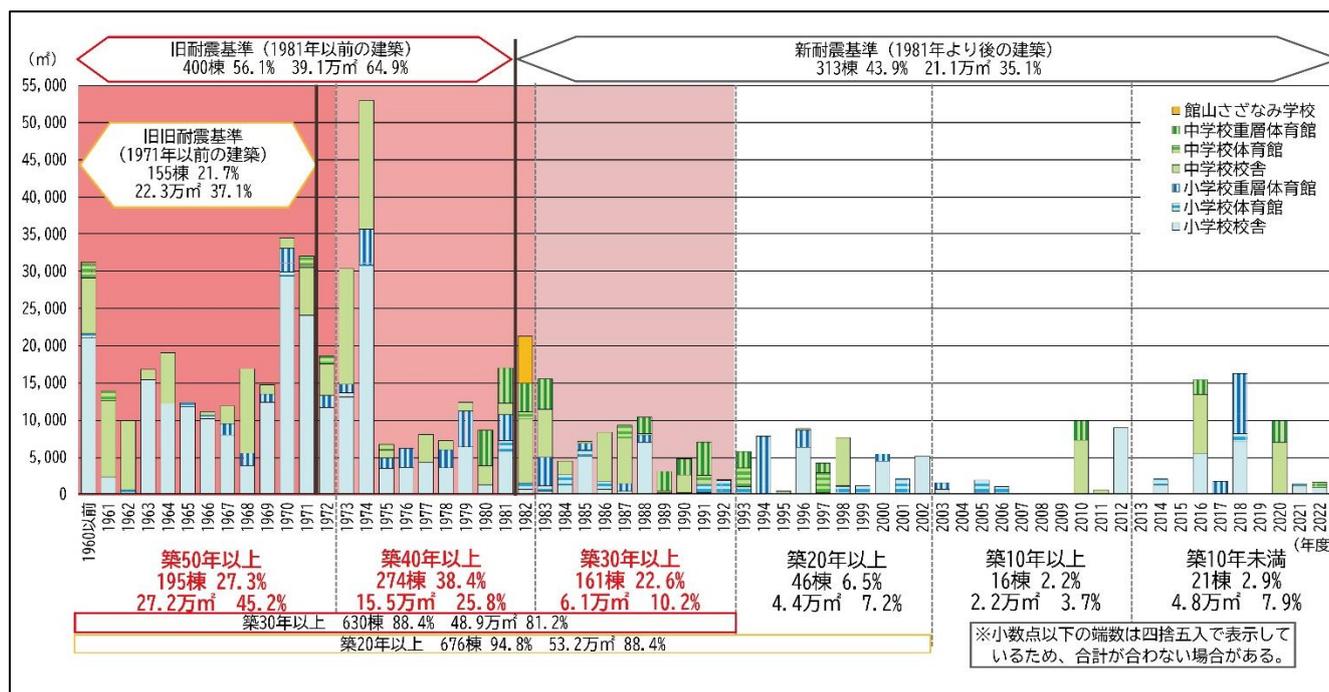
校舎及びそれに付帯する全ての建物(屋内運動場、武道場等)の床面積を小・中・特別支援学校別にみると、小学校約 37.0 万㎡、中学校約 22.6 万㎡、特別支援学校約 0.6 万㎡、総合計は約 60.2 万㎡です。

(2) 築年別整備状況

築年別にみると、学校施設は築 30 年以上の建物が全体床面積の約 81.2%を占め、老朽化が進んでいます。児童・生徒数の増加等により昭和 36(1961)年度から昭和 49(1974)年度にかけて多くの建物が建設され、特に昭和 45(1970)年度から昭和 49(1974)年度に集中しています。最も古い建物は昭和 29(1954)年度の建物で、令和5(2023)年度末時点で築後 69 年経過しています。

耐震基準別でみると、昭和 56(1981)年の建築基準法改正前に建設された「旧耐震基準」の建物が、全体床面積の約 64.9%(400 棟・約 39.1 万㎡)を占めています。このうち、RC 造柱の帯筋間隔が改正された昭和 46(1971)年の建築基準法改正以前(旧旧耐震基準)の建物が、全体床面積の約 37.1%(155 棟・約 22.3 万㎡)を占めており、全 88 校中 68 校に旧旧耐震基準の建物があります。

なお、学校施設は全校で耐震診断を終えており、耐震改修による耐震化は既に完了しています。



【図表 2-6 築年別整備状況(令和5(2023)年度末現在)】

2-4 老朽化状況等の把握

老朽化状況等の把握は、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(平成29年3月)」の第2章ステップ2「老朽化状況の把握」に基づき、令和元(2019)年度及び本計画の策定時に実施しました。

(1) 構造躯体の健全性の把握(令和元年度)

ア 調査対象

旧耐震基準の414棟(39.9万㎡)について調査を実施しました。

イ 調査方法

耐震診断時のコンクリートのコア抜きによる試験結果から、コンクリート圧縮強度が13.5N/㎢以下の棟を抽出しました。あわせて、目視調査で躯体に亀裂等が発見された棟を「要詳細調査(長寿命化に適さない)」と判断しています。

耐震安全性は、全ての棟が耐震改修によりIs値0.6以上を確保しています。

ウ 調査結果

コンクリート圧縮強度が13.5N/㎢以下の棟は8棟(18,747㎡)ありました。

(2) 構造躯体以外の劣化状況の把握及び評価

ア 調査対象

令和元(2019)年度の調査(以下「前回調査」という。)及び令和5(2023)年度調査(以下「今回調査」という。)の調査内訳は図表2-7のとおりです。なお、今回調査では200㎡未満の付属棟(経常修繕対象)並びに既に改築が決まっている学校10校及び近年改築を行った学校5校は除外しました。

年度 内訳	前回調査			今回調査		
	校数	棟数	延べ面積	校数	棟数	延べ面積
小学校	48校	185棟	289,014㎡	22校	48棟	67,375㎡
中学校	24校	101棟	187,789㎡	7校	11棟	20,705㎡
特別支援学校	1校	5棟	6,084㎡	1校	5棟	6,084㎡
合計	73校	291棟	482,887㎡ (全体の約80%)	30校	64棟	94,137㎡ (全体の約16%)

【図表2-7 調査対象校数等】

イ 調査方法

令和元(2019)年度に、専門家(一級建築士)8名による現地目視調査を実施し、建物の外部、内部、設備等及び施設の供用部位(グラウンド、プール、受変電設備及び給水設備)の劣化状況評価を行いました。また、本計画の策定にあたり、安全性確保の観点から、旧耐震基準かつ前回調査で屋根・屋上、外壁及び外部開口部がC評価とされた建物を対象とした現地目視調査を令和5(2023)年度に実施し、劣化状況評価の見直しを行いました。

ウ 評価方法

前回調査の結果に基づき、建物の部位ごとに、図表 2-8 に示す劣化状況の評価基準A、B、C、D の4段階で評価しました(屋根・屋上、外壁、外部開口部は左表、それ以外は右表を使用)。なお、前回調査以降に修繕・改修した箇所や直近の建築基準法第 12 条の定期点検における指摘内容を踏まえ、評価結果は適宜、見直しました。

		基準	
良好 	A	概ね良好	
	B	部分的に劣化 (安全上、機能上、問題なし)	
	C	広範囲に劣化 (安全上、機能上、低下の兆し)	
	D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を及ぼしている) (設備が故障し施設運営に支障をきたしている)	

部位	標準 耐用年数 ※	経過年数による評価基準			
		A	B	C	D
内部仕上	40	20年 未済	20~40年	40年以上	著 し い 劣 化 が あ る 場 合
電気設備	30	15年 未済	15~30年	30年以上	
	20	10年 未済	10~20年	20年以上	
給排水衛生設備	20	10年 未済	10~20年	20年以上	
空調設備	20	10年 未済	10~20年	20年以上	
エレベーター設備	30	15年 未済	15~30年	30年以上	

※ 基準は「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書(文部科学省)」による

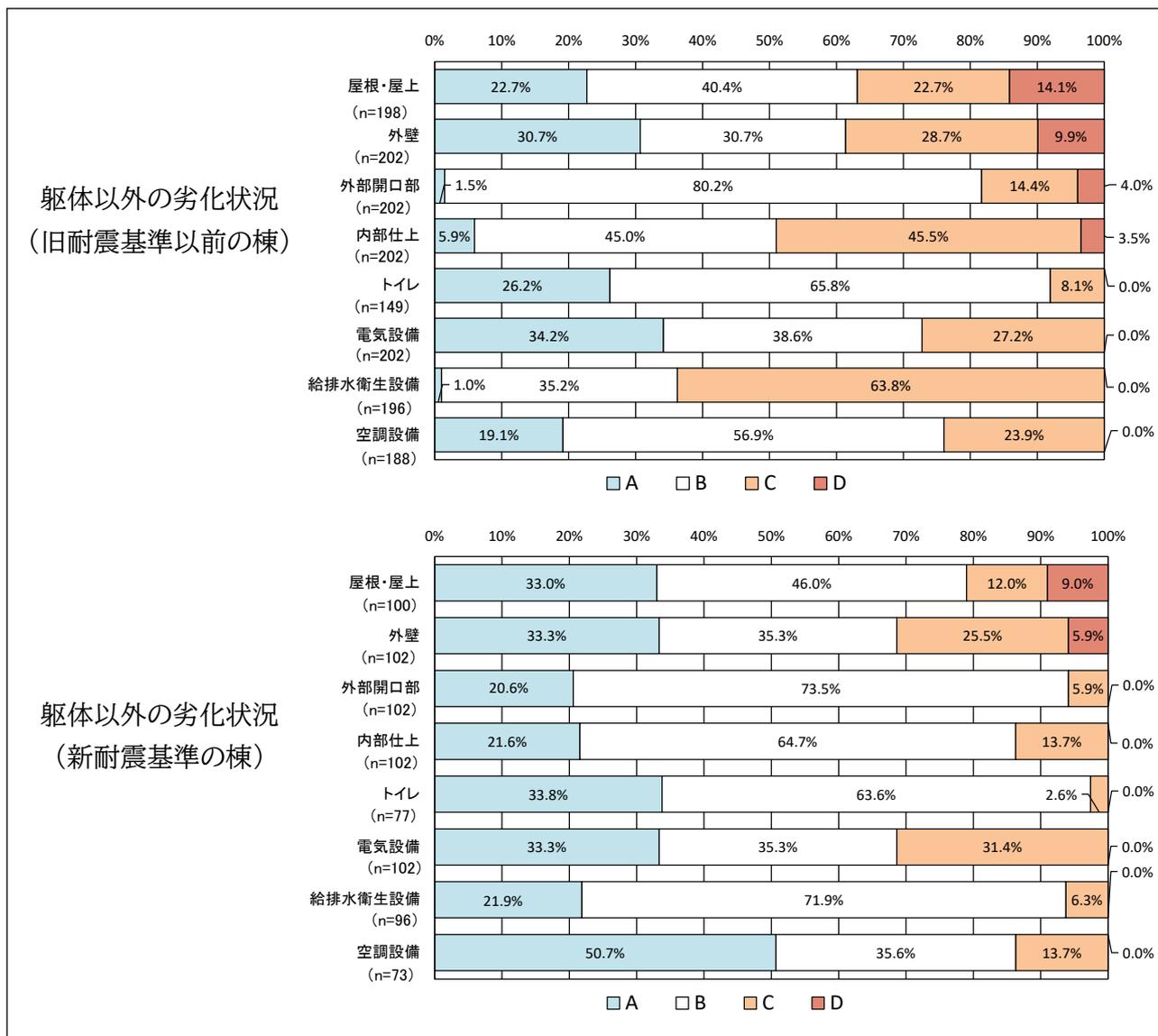
※ 標準耐用年数は「建築物のライフサイクルコスト(建築保全センター)」による

【図表 2-8 劣化状況評価基準】

エ 調査結果

部位別の劣化状況は、旧耐震基準以前の建物で劣化が進行しており、特に躯体に影響を及ぼす恐れのある屋根・屋上及び外壁は、約 40%程度をC・D 評価が占めています。

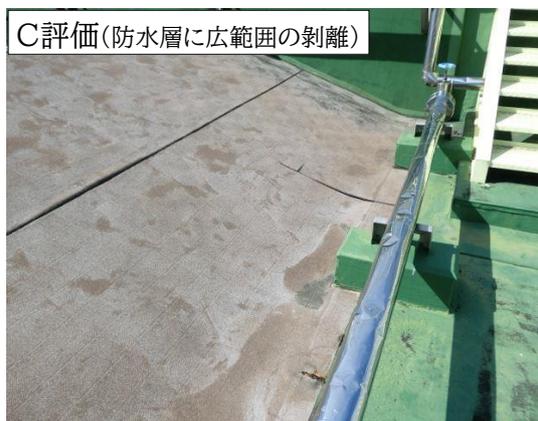
電気設備、給排水衛生設備、空調設備及びエレベーター設備は、目視状況では特に問題はありませんでしたが、履歴を考慮した耐用年数で評価すると、老朽化が進行していると考えられます。



【図表 2-9 調査結果の概要】

オ 劣化状況判定のイメージ(主な部位)

【屋根・屋上】



【外壁】



【内部仕上】

A評価(内部仕上が全体的に良好)



B評価(経年劣化はあるが問題なし)



C評価(天井の広範囲に雨漏り痕)

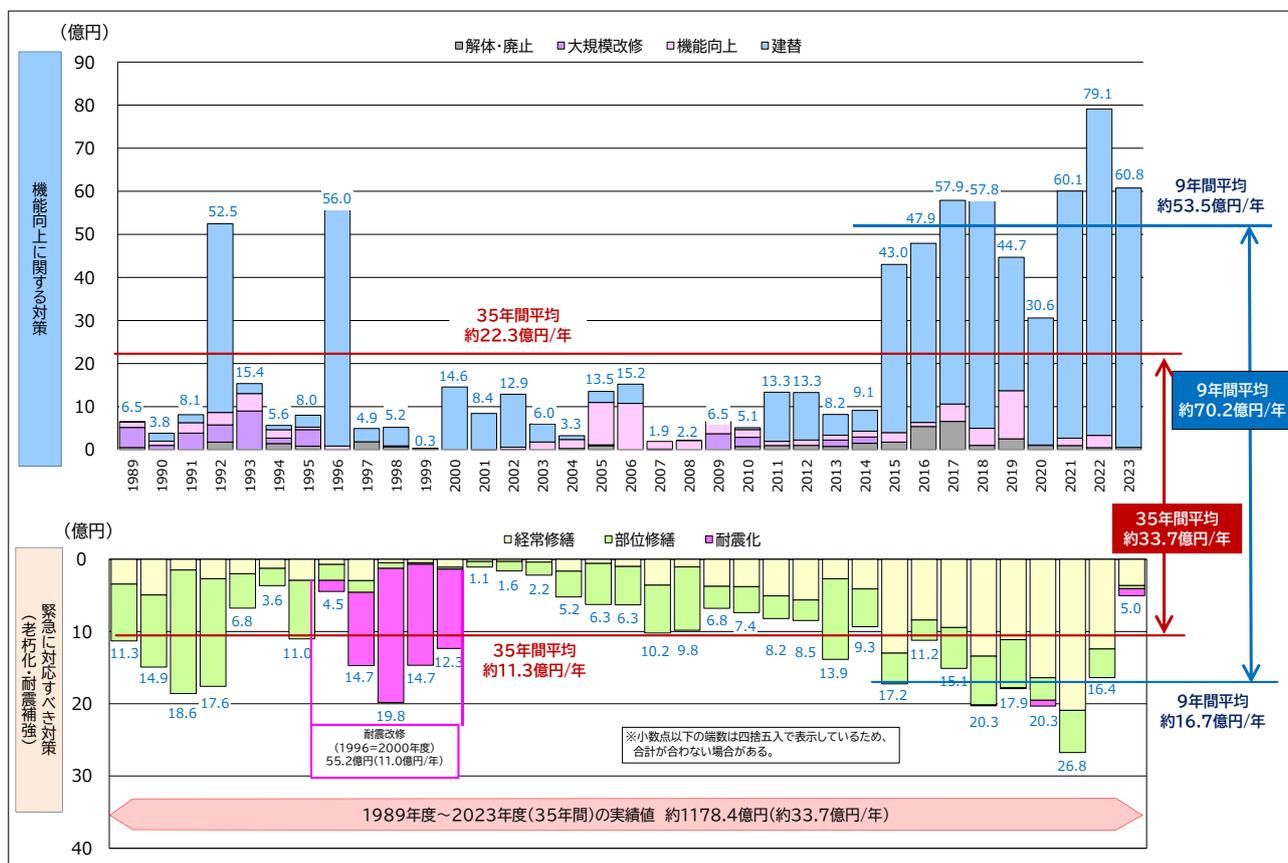


D評価(天井劣化により他部分への影響)



2-5 学校施設関連経費

過去 35年間(平成元(1989)～令和5(2023)年度)における区の学校施設関連経費の実績額は 33.7億円/年ですが、年2校の改築事業を開始した平成 27(2015)年度以降の9年間(令和5(2023)年度まで)では、70.2億円/年となっています(ただし令和5(2023)年度は予算額)。



【図表 2-10 過去 35 年間の施設関連経費の推移】

区分	改築事業済(完了年度)	改築事業中(工事中)
学校名	<ul style="list-style-type: none"> ・大森第四小学校(H30(2018)) ・大森第七中学校(R2(2020)) 	<ul style="list-style-type: none"> ・入新井第一小学校 ・赤松小学校 ・東調布第三小学校 ・安方中学校 ・入新井第二小学校 ・矢口西小学校

【図表2-11 改築事業済及び令和5(2023)年度末現在、改築事業中の学校一覧】

第3章 学校施設整備方針

3-1 学校施設のめざすべき姿

区では、平成 21(2009)年から大田区教育振興基本計画を策定し、教育施策を総合的かつ計画的に推進しています(現在は「おおた教育ビジョン」(第4期大田区教育振興基本計画))。

一方、学校施設については、平成7(1995)年の阪神・淡路大震災を受け、全校の耐震診断を行った上で耐震改修を実施するなど、施設の安全確保を第一に整備を進めてきました。学校施設は、大田区教育振興基本計画の教育施策を体現する場であり、新たな社会的要請に応えた多様な教育活動を支える安全・安心な施設づくりが必要です。

このため、以下のとおり「学校施設のめざすべき姿」を掲げ、今後の整備を進めていきます。

(1)安全・安心な学習環境の確保

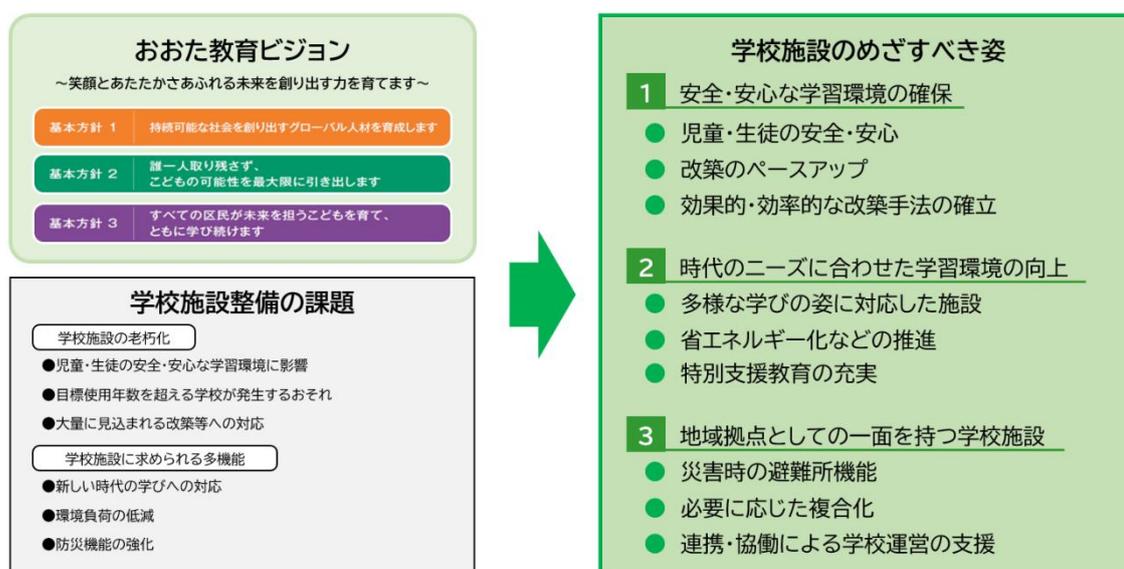
- ・児童・生徒に安全・安心な学習環境を提供するため、改築事業を効果的・効率的に進めます。
- ・学校施設の調査・点検結果を踏まえた修繕や施設更新を計画的に実施し、適切な維持管理を行います。

(2)時代のニーズに合わせた学習環境の向上

- ・ ICT 教育、少人数教育などに対応した学習環境の向上を図ります。
- ・ 省エネルギー化の推進など、環境負荷の低減に取り組みます。
- ・ 障がいのある児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実を図ります。
- ・ 感染症対策など、健康や保健衛生に配慮した整備を進めます。

(3)地域拠点としての一面を持つ学校施設

- ・ 災害時の避難所機能やバリアフリーに配慮した施設機能の強化・充実を図ります。
- ・ 必要に応じて周辺施設と複合化し、地域コミュニティの拠点づくりを支えます。
- ・ 学校・家庭・地域が連携・協働して学校運営を支える環境づくりを進めます。



【図表 3-1 学校施設のめざすべき姿】

3-2 学校施設整備方針

学校施設のめざすべき姿を実現しつつ、恒久的に全ての児童・生徒に良好な学習環境を提供するため、「おおた教育ビジョン」及び「大田区公共施設等総合管理計画」との整合を図りながら、次の方針に基づき施設整備を推進します。

方針①	効果的・効率的な学校施設の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 建物の実態や課題を踏まえた整備水準・改築サイクルの確立 ✓ 躯体の状態等を踏まえ、改築と長寿命化改修を併用 ✓ 学校ごとの整備手法は一体・部分改築と一体・部分長寿命化から総合的に判断 ✓ 工事期間の短縮、ペースアップを推進し、安全・安心な学習環境を確保
方針②	新しい時代に適した良好な学習環境の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1人1台のタブレット端末環境など、学びのスタイルの変容への対応 ✓ 省エネルギーや創エネルギーに対応した、快適で環境に優しい学校施設を整備
方針③	学校施設の複合化・多機能化や地域の拠点として特色ある学校づくり
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 地域の伝統・特色を踏まえた施設整備や災害時の避難所機能等に配慮した整備を推進 ✓ 必要に応じて周辺他施設と複合化・多機能化を図る ✓ コミュニティ・スクールなどによる「特色ある学校づくり」の推進
方針④	施設状況等の継続的把握による変化への対応
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日常点検や定期点検等を通じて施設の実態を把握 ✓ 情報の一元化及び継続的な更新 ✓ 施設状況、教育環境、区の財政状況等の変化を踏まえた定期的な計画の見直し
方針⑤	児童・生徒数等の変化への柔軟な対応
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「大田区公共施設等総合管理計画」に基づき、児童・生徒数等の変化に対し柔軟に対応

※ 大田区学校施設の整備方針及び学校施設における複合化の考え方(抜粋)

○基本事項
学校施設における複合化については、敷地が学校用地であることを踏まえ、学校施設として必要な敷地を確保したうえで、その他の施設を建設可能な余剰がある場合に検討するものである。
○複合化として考えられる施設
学校施設と複合化を行う施設については、次に掲げる施設が考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学習の質の向上や特色ある教育活動に寄与する施設 ・施設間交流により、生きる力をはぐくむ社会的な経験を積むことができる施設 ・地域の生涯学習や防災活動等に寄与し、地域力を高める基盤となりうる施設
○複合化の際の留意事項
学校施設における複合化に当たっては、基本事項を十分踏まえながら検討するとともに、特に次の事項に留意することとする。
<ul style="list-style-type: none"> ・複合化に伴う連携によって生じる教育環境の高機能化・多機能化に資する配置とすること。 ・児童・生徒の安全を第一に動線やセキュリティに配慮すること。 ・複合化により、学校施設の工事期間が長期化しないよう配慮すること。

※ 大田区公共施設等総合管理計画(小学校・中学校の適正配置方針を抜粋)

- ①学校整備にあたっては、保有すべき標準機能（普通教室、特別教室、多目的室、職員室、体育館、プール、校庭等）の一定水準を確保するため、「大田区立学校諸室等仕様標準」及び「大田区立学校改築標準設計仕様書」に基づき整備する。
- ②標準機能に加え、各校の特色や敷地・周辺環境を踏まえて整備することで、学校教育活動の一層の向上を目指す。
- ③教育環境の充実を最優先に、地域の状況や行政需要に応じた機能を施設相互の相乗効果や付加価値の創出を目的に複合化し、新たな地域力の推進拠点とする。
- ④良好な学校環境を恒久的に維持するため、「大田区学校施設長寿命化計画」に基づき、一体改築、部分改築、長寿命化改修等の手法を活用し、財政の平準化を念頭に年2校の更新を推進する。
- ⑤少人数学級の導入等の新たな諸条件を踏まえ、児童生徒数の予測から必要学級数を検証し、学校の適正規模や配置について検討を行う。
- ⑥放課後の児童の居場所づくりとして、学童保育機能を児童館から小学校に移行し、放課後ひろば事業をすべての区立小学校で実施する。
- ⑦学校改築の工期短縮に向け、改築・長寿命化改修のための代替施設（他校の敷地利用・民間敷地利用・統合後の校舎活用等）や付帯施設（校庭・体育館・プール・給食調理施設等）の外部利用を検討する。また、代替施設を活用する学校は、徒歩圏内にある小中学校のみならず、スクールバスによる運用の可能性を他自治体の事例を踏まえて検討する。
- ⑧不登校児童・生徒の支援施設として、自らの生き方を主体的・肯定的に捉え、社会とのつながり、自立するための資質・能力を身に付けることができる不登校特例校の開校を検討する。

第4章 改築及び長寿命化改修の実施に向けた考え方

4-1 整備基準の設定

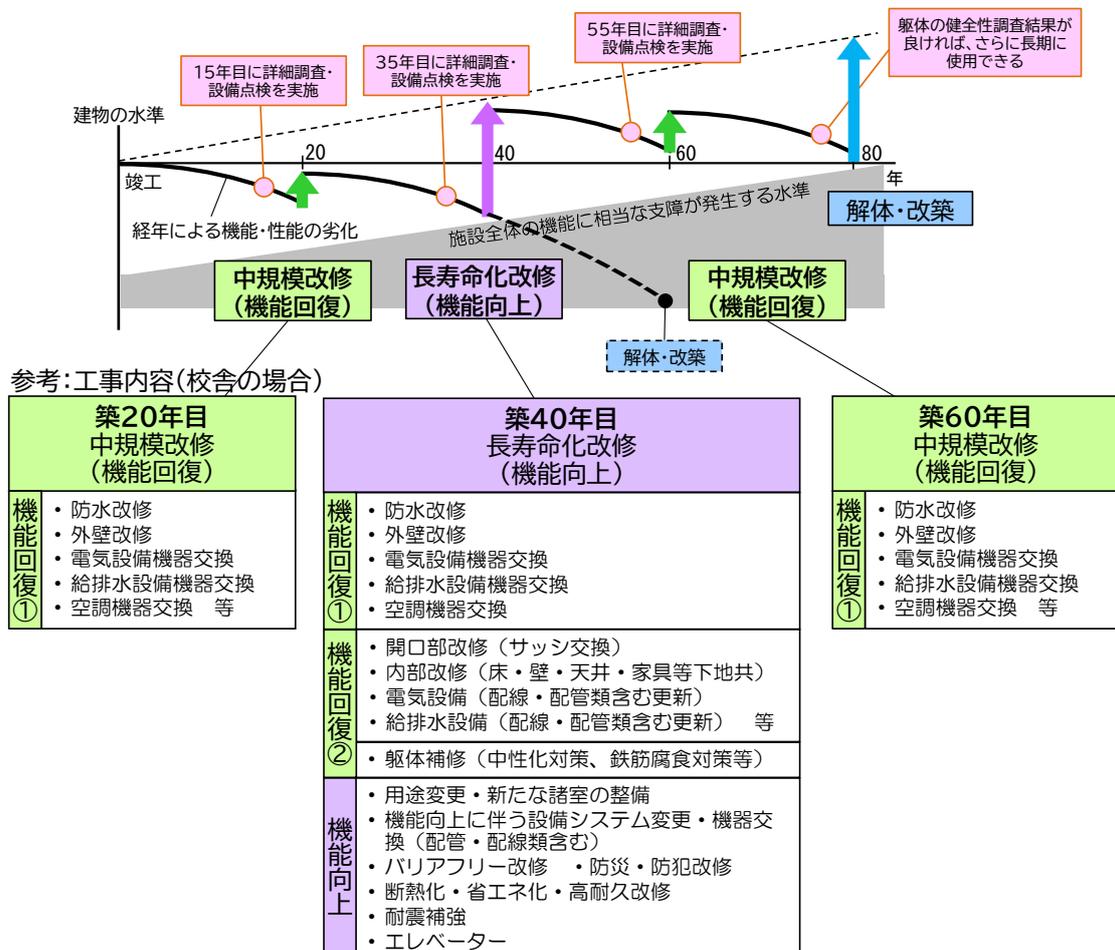
(1) 改修・改築の基本的なサイクルの考え方

「大田区公共施設等総合管理計画」では、今後の施設別適正配置方針の中で、改築と長寿命化改修の併用により整備を進めることとしています。

本計画では、特にコストのかかる屋上や外壁の改修が概ね 20 年サイクルであることから、修繕サイクルを 20 年とし、耐用年数が 15 年とされている設備関連は、15 年目(中規模改修や長寿命化改修の5年前)に詳細調査・点検を実施することとします。また、維持更新コストの抑制を図るとともに、施設の安全性及び機能維持を担保する取り組みとして、施設管理者による日常的な管理や計画的な予防保全を実施します。

躯体の健全性調査の結果が良好な施設については長寿命化改修を進め、建築後 80 年間使用することを目標とします。ただし、維持管理に係るトータルコストの削減や改築時期の分散による中長期的な整備費用の平準化のため、躯体の調査で圧縮強度 13.5N/mm²以下とされた棟や、旧耐震基準の中でもより基準の古い昭和 46(1971)年以前(旧耐震基準)に建てられた棟は、原則として長寿命化改修ではなく改築で対応する方針とします。

実施段階では、築年数や躯体の健全性、躯体以外の劣化状況及び改修履歴など様々な要素を基に総合的に判断し、整備を実施します。

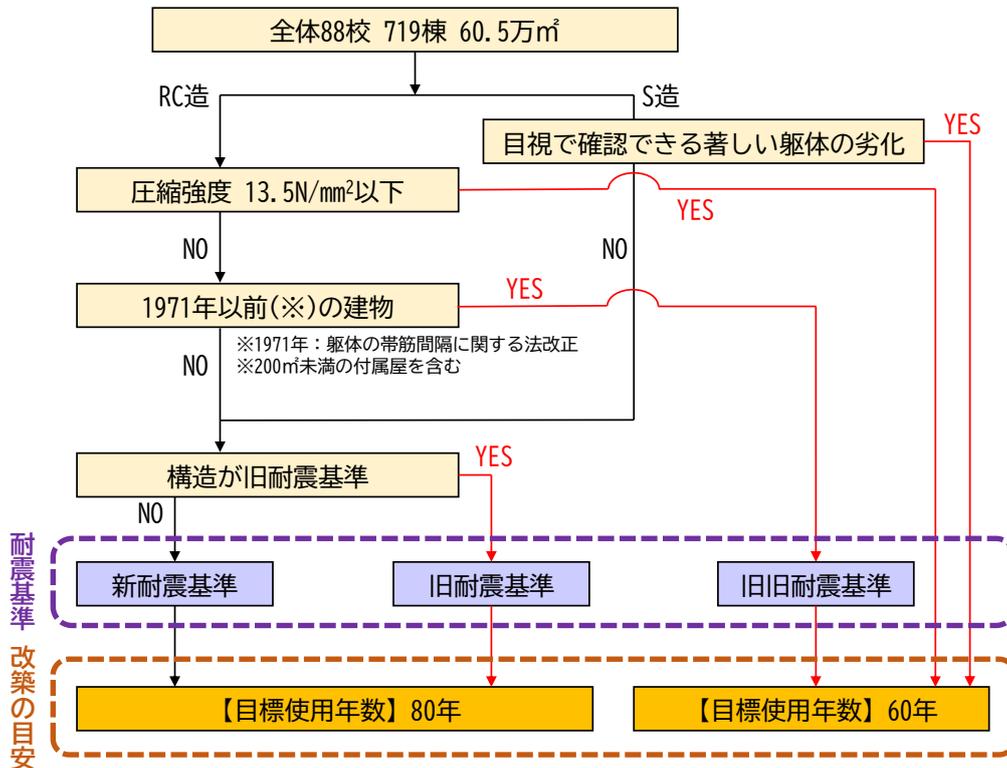


【図表 4-1 長寿命化の基本的な考え方と整備内容】

(2) 改築時期の目安

改築時期の判定は、以下のフローに基づき行います。

原則、建物を長寿命化改修して築後 80 年まで使用しますが、劣化や耐震基準により、長寿命化改修で躯体の補修や機能向上のコストをかけても、残りの使用年数を考慮するとコストメリットが低くなるような棟は築後 60 年を改築の目安とし、築後 80 年を待たずに改築していきます。



【図表 4-2 改築時期の目安】

(3)改築、長寿命化の分類と優先順位

第3章で示した学校施設整備方針の方針①「学校ごとの整備手法は一体・部分改築と一体・部分長寿命化から総合的に判断」に基づき、整備手法の検討にあたっては、学校施設の多くに整備時期の異なる複数の棟が混在している点に注意が必要です。

こうした現状を踏まえると、学校全体で一体的に改築・改修を行うことに対して棟ごとに改築・改修を行うことにはメリット・デメリットが存在しますが、児童・生徒の安全・安心な学習環境を確保するという観点から、従来の一体的な改築に加え、これからは棟ごとの改築または長寿命化改修も取り入れていきます。

主なメリット	主なデメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・工事のボリュームが縮小されるため、一体的な改築または改修に比べ工事費用及び工事期間が短縮される ・劣化状況に即した効果的・効率的な改築または改修が可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・工事対象外の棟が既存不適格の場合、現行法に適合させるための工事費用が発生する ・工事期間中の施設利用方法など、検討及び調整事項が多岐に渡る

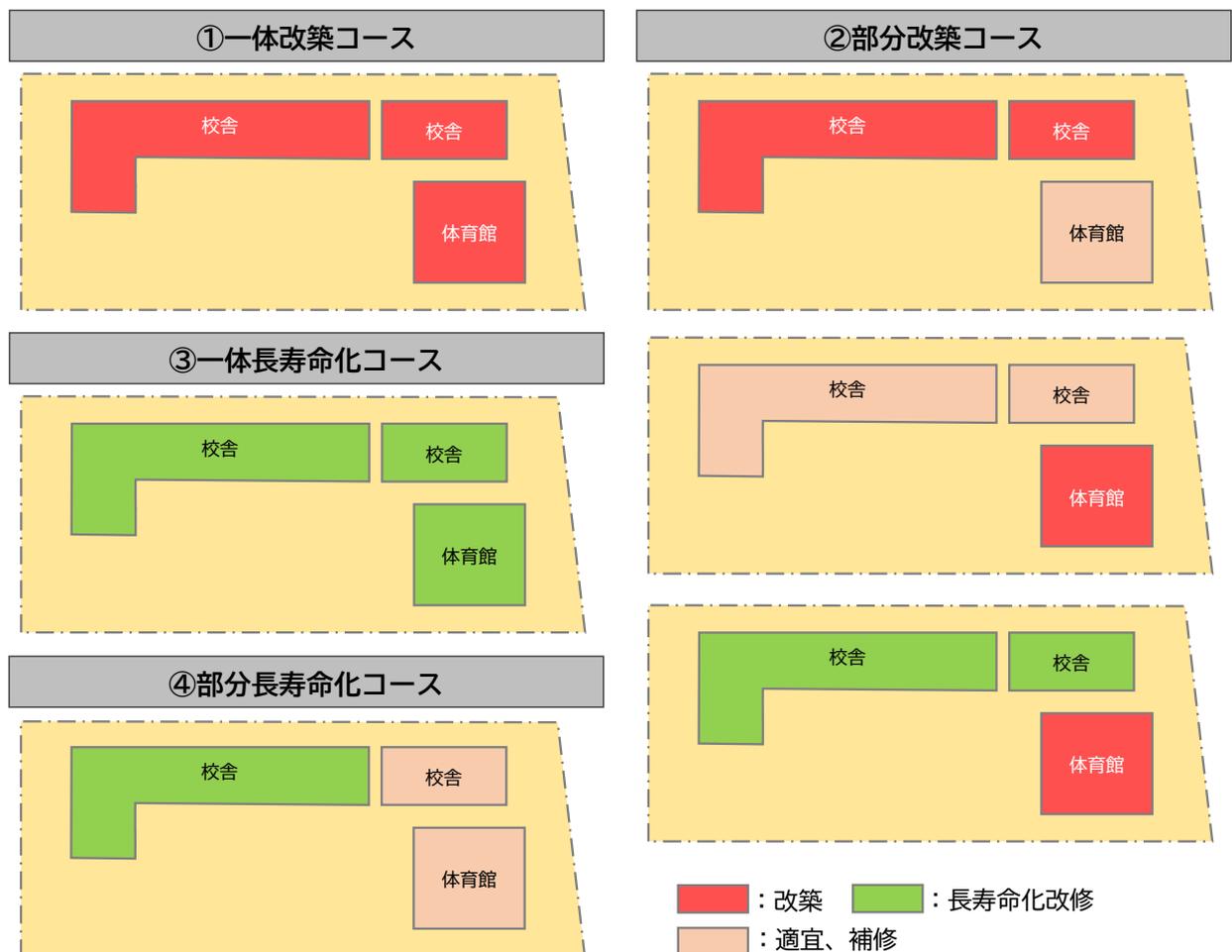
【図表 4-3 改築または長寿命化改修を棟単位で行うことの主なメリット・デメリット】

なお、改築及び長寿命化改修を行う学校施設の順位付け及び手法については、改築事業をペースアップし効果的・効率的な施設整備を推進する観点から、以下の視点で行うこととします。

- 改築及び長寿命化改修は学校単位でなく棟単位での検討を基本とする
- 優先順位を設定する際は、目標使用年数に対する残存年数と劣化度を複合させた指標を用いる
- コンクリートの圧縮強度 13.5N/mm²以下とされた棟を優先し、当該建物の占める割合が大きい学校を上位とするが、それ以外の学校は原則として目標使用年数に対する残存年数の短い棟を有する学校順とする

以上を踏まえ、学校施設を以下の4つのコースに分類します。

- ① 一体改築コース
学校敷地内の建物全棟を一体的に改築する場合は、「一体改築コース」とします。
- ② 部分改築コース(ア 部分改築のみ イ 部分改築及び部分長寿命化)
学校敷地内の建物のうち部分的に改築する場合は、「部分改築コース」とします。
なお、改築対象外の棟で長寿命化改修が予定される場合、可能ならば改築と改修を同時に実施します(イ 部分改築及び部分長寿命化)。
- ③ 一体長寿命化コース
学校敷地内の建物全棟を一体的に長寿命化改修する場合は、「一体長寿命化コース」とします。
- ④ 部分長寿命化コース
学校敷地内の建物のうち部分的に長寿命化改修する場合は、「部分長寿命化コース」とします。



【図表 4-4 ①～④のコースのイメージ】

(4)改築及び長寿命化改修時の整備水準

学校施設の改築及び長寿命化改修にあたっては、「おおた教育ビジョン」で示す取組内容の実現に向け、第3章で示した学校施設整備方針に基づき整備していきます。

また、長寿命化改修は改築時の整備仕様を参考として、学校間の質的な格差が生じないように改修内容を設定します。その際、建築物の耐久性向上、光熱水費の削減及び環境負荷低減の視点と費用対効果を勘案し、最適な仕様を設定していきます。

なお、バリアフリー化の推進やICT環境の充実などで諸室や面積が増加し、改築前後で全体の延床面積が増加する傾向にあることには留意します。

事業名	取組内容(抜粋)
新しい時代の学びに対応した施設環境	・単一的な機能・特定の教科等に捉われない、横断的で多様な学習スタイルに対応可能な学習空間(教室空間の実現、可動間仕切りによる普通教室と廊下の一体利用、学校図書館と一体となったメディアセンター等)の実現をめざす。
環境負荷低減の推進	・照明のLED化や高効率型の空調の導入による省エネルギー化や太陽光発電など再生可能エネルギーの導入によりZEBの基準をめざす ・学校敷地の緑化や校舎等の木質化の推進
地域の拠点としての特色ある学校施設の整備	・学校や地域の伝統・特色を踏まえた施設の整備を進めます。また、地域の人々が集い、学校を核とした地域の活性化につなげるため、災害時の避難所機能やバリアフリーにも配慮した施設機能を推進します。

【図表4-5 教育ビジョンで示す施設整備の主な取組内容】



【図表 4-6 普通教室の整備後のイメージ】

(5)改修・改築単価の設定

改修・改築を行う上で、整備水準に基づき、校舎・体育館・重層体育館・特別支援学校校舎及び寄宿舎といった棟ごとに単価を設定し、その単価には、設計・監理費、解体費、グラウンド整備費などを含むこととします。

なお、長寿命化改修及び中規模改修時の単価については、棟ごとの改築単価を参考に金額を設定します。また、校舎の改築、長寿命化改修時には仮設校舎の単価を見込みます(直近に改築を行った学校の実績単価相当額)。

あわせて、改築や長寿命化改修、中規模改修、部位別修繕のほか、緊急的に必要となる修繕のために経常修繕も見込みます。

(6)整備方式の考え方

本計画は、前述した学校施設を取り巻く現状と課題、学校施設整備方針に基づいて、各学校の整備方式、内容及びスケジュールを決定し、整備費用を平準化して37年間の長期計画を策定するものです。整備方式の設定における考え方を以下に示します。

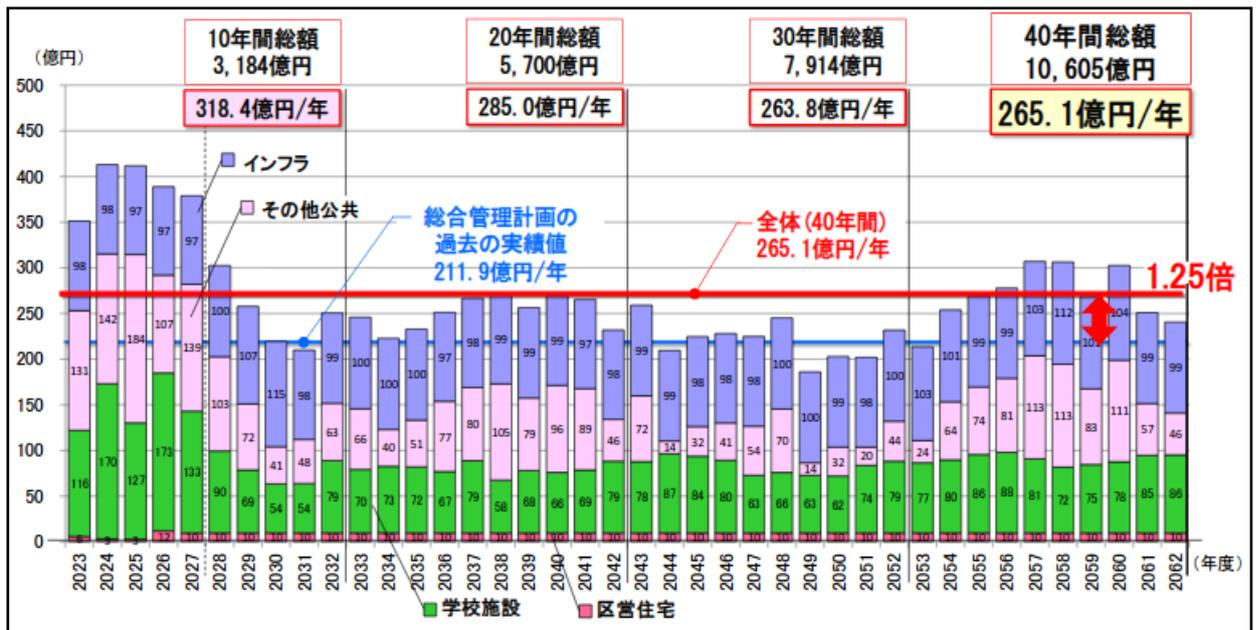
- ▶ 区の施設整備状況、予算の平準化及び効果的・効率的な施設整備や老朽化状況等を踏まえて設定した整備基準に基づき、第5章の「新たな取組」で示す工事期間短縮の方策も導入しながら、一体や部分的な改築または長寿命化改修を組み合わせ、毎年2～3校ずつ新規の改築事業に着手します。
- ▶ 同じ児童・生徒が小学校・中学校ともに在学期間と工事期間が重ならないように配慮し、改築は中学校を優先して取り組みます。また、学区が重なる小・中学校の改築は一定の年数を空けることとします。
- ▶ 学校施設の整備スケジュールが他の公共工事や再開発事業などの大規模工事と重複しないように注意します。

4-2 今後の維持・更新コスト

(1)コスト試算

学校施設に係る今後の維持・更新コストは「大田区公共施設改築・改修等中期プラン(令和5年3月策定)」に記載のとおり、令和5(2023)年度から令和44(2062)年度までの40年間で3,312.51億円を見込んでいます。

今後の維持・更新コストについては、社会経済情勢等の変化により改築時の床面積が増加する場合がありますが、公共施設の適正配置方針に則り総量削減を目標にするとともに、学校施設の改築事業の進捗や区の財政状況により適宜見直しを行っていきます。



【図表 4-7 40年間の改築・改修に要する費用(試算)(大田区公共施設改築・改修等中期プランより抜粋)】

					百万円
	2023-2032	2033-2042	2043-2052	2053-2062	計
	R 5-R 14	R 15-R 24	R 25-R 34	R 35-R 44	
学校施設	106,610	70,172	73,636	80,833	331,251

【図表 4-8 40年間の改築・改修に要する費用内訳(試算)(大田区公共施設改築・改修等中期プランより抜粋)】

4-3 今後の整備予定

令和7(2025)年度から令和16(2034)年度までの10年間に、改築または長寿命化改修を実施する予定の学校を選定しました。着手の順番など具体的な内容は総合的に検討・判断していきますが、対象となる学校施設は4-1(3)で示した4つのコースに分類し、改築事業を推進します。

あわせて、令和5(2023)年度末現在、改築事業中(工事以外)の学校施設及び第5章「新たな取組」のモデルプランで示す学校施設も今後の整備予定校として改築事業に取り組みます。

また、改築等による学校施設の整備と並行し、劣化度解消や機能向上のための部位別改修も実施していきます。

		4地域		学校名				4地域		学校名	
小学校	大森	3	大森第一小学校	中学校	大森	1	大森第一中学校				
		8	入新井第五小学校			2	大森東中学校				
		11	馬込小学校			3	大森第二中学校				
		12	馬込第二小学校			4	大森第八中学校				
		14	梅田小学校			5	馬込中学校				
		15	池上小学校			7	貝塚中学校				
		16	池上第二小学校			8	大森第四中学校				
	調布	19	入新井第四小学校		9	大森第三中学校					
		22	調布大塚小学校		11	田園調布中学校					
		28	池雪小学校		15	大森第六中学校					
	糎谷・羽田	29	小池小学校		-	-					
		35	東糎谷小学校		-	-					
	蒲田	37	羽田小学校		-	-					
		43	西六郷小学校		20	六郷中学校					
		45	仲六郷小学校		22	南六郷中学校					
		48	南六郷小学校		-	-					
		52	相生小学校		-	-					
	55	道塚小学校	-		-						

【図表4-9 中期的に整備すべき学校一覧(30校)】

		4地域		学校名				4地域		学校名	
小学校	大森	6	大森第五小学校	中学校	大森	5	馬込東中学校				
		13	馬込第三小学校			-	-				
	調布	21	田園調布小学校		調布	10	東調布中学校				
		30	雪谷小学校			16	石川台中学校				
	糎谷・羽田	36	北糎谷小学校		糎谷・羽田	18	糎谷中学校				
		39	萩中小学校			19	出雲中学校				
	蒲田	-	-		蒲田	-	-				

【図表4-10 令和6(2024)年6月現在、改築事業中(工事以外)の学校一覧(11校)】

	4地域	学校名			4地域	学校名	
小学校	大森	5	大森第三小学校	中学校	大森	-	-
	調布	-	-		調布	-	-
	糀谷・羽田	-	-		糀谷・羽田	-	-
	蒲田	56	蒲田小学校		蒲田	27	東蒲中学校
		57	南蒲小学校			28	蒲田中学校
		59	東蒲小学校			-	-

【図表4-11 第5章「新たな取組」のモデルプランで示す学校一覧(6校)】

※今後、改築事業の着手に向け個別に調査を進める中で、劣化状況等により図表に記載の学校に変更が生じる場合があります。

第5章 新たな取組

5-1 手法別の分類

現在、区では校庭に仮設校舎を建設し、児童・生徒が学校生活を送る傍ら同一敷地内で改築工事を進める「居ながら改築」事例が中心ですが、「居ながら改築」では仮設校舎及び新校舎それぞれの工事を分割して行うため、工事期間が長期化する傾向にあります。

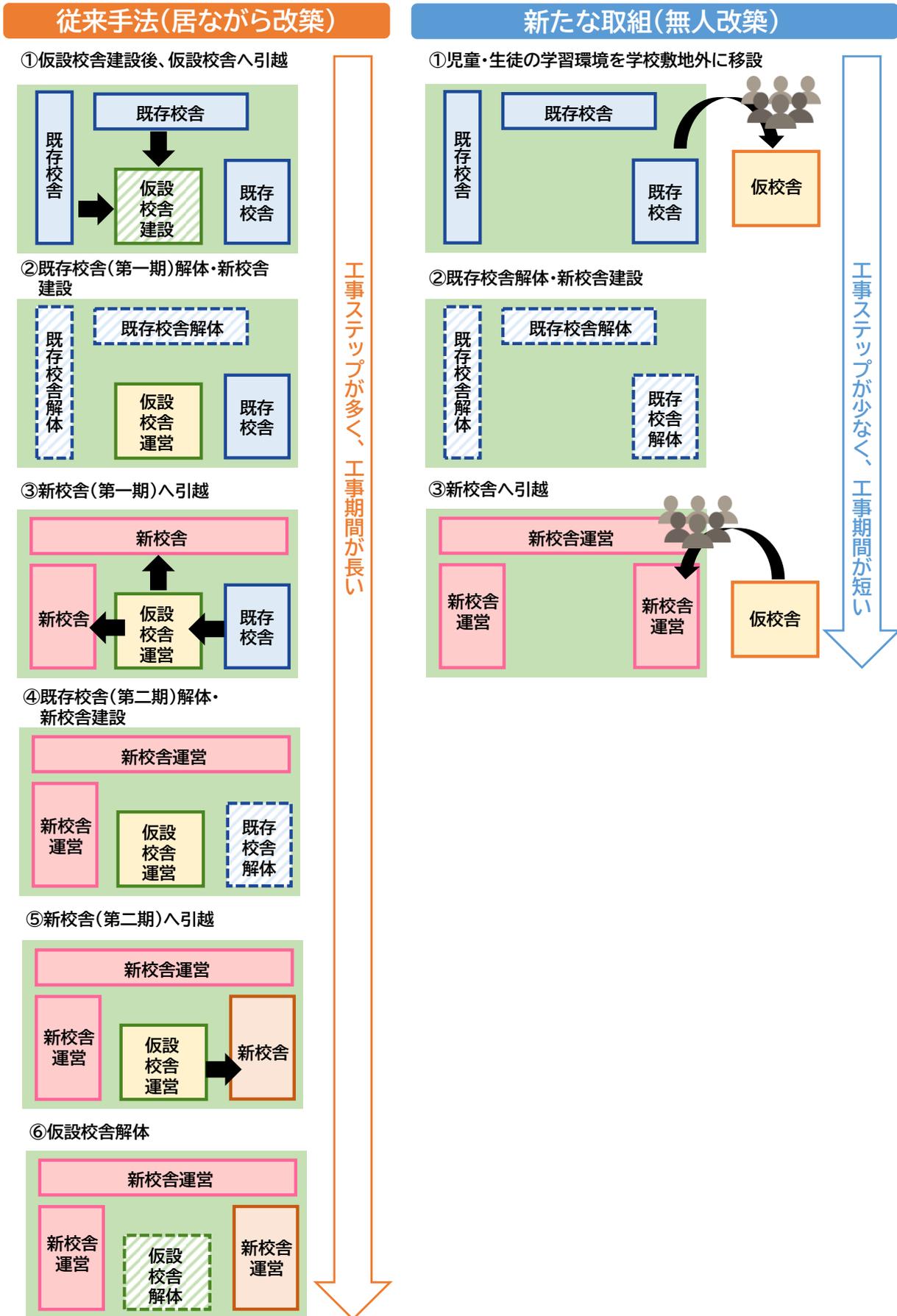
また、区には北西部の台地部と中央部の低地部がありますが、台地部の学校施設では改築時に擁壁工事が必要なケースもあるなど、学校敷地の高低差や形状も工事期間が長期化する一因となっています。

こうした背景を踏まえつつ、児童・生徒に安全・安心で質の高い学習環境を提供するためには着実かつ迅速に改築を進める必要があり、改築着手校数の増加だけではなく、工事期間の短縮が不可欠です。

工事期間を短縮するためには、少ない工事ステップで工事を進めることが重要であり、工事期間中の良好な学習環境の確保や工事期間の短縮を目的に、児童・生徒の学習環境を学校敷地外に移設する「無人改築」を実現する必要があります。「無人改築」では自校敷地への仮設校舎設置が不要となるなど、工事ステップが省略され、旧校舎の解体後ただちに新校舎の改築工事に着手可能です。

本計画の推進にあたり、「居ながら改築」における工事期間の短縮や「無人改築」の実現など、効果的・効率的な改築手法の確立・活用をめざし、改築事業のペースアップにつながる取組について、その概要と教育委員会として基本構想・計画の開始までに検討し解決すべき課題(共通・個別)を整理しました。

あわせて、取組毎に具体的な事例である「モデルプラン」を設定し、事業化に向けて検討を行ったうえで実施・効果検証を行うとともに、今後の改築校を選定する際においても、各学校の状況に応じた適切な取組を活用していきます。

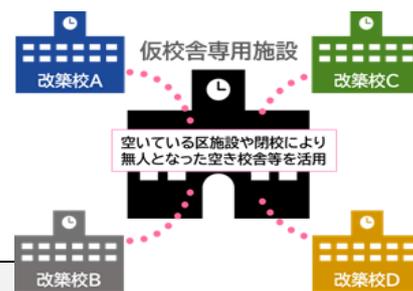


【図表5-1 従来手法及び新たな取組における工事ステップ例】

取組①仮校舎専用施設の整備

1 概要

建て替え・移転などで空いた区施設や統合により無人となった空き校舎を常設の仮校舎専用施設として整備し、学校改築校の仮校舎として活用を検討する。



2 基本構想・計画までに検討・解決すべき課題

項目・課題
1 仮校舎専用施設及び校庭の面積は適当か
・児童・生徒の教育及び生活環境に必要な機能、広さか
・児童・生徒へ給食を提供することは可能か
・体育の授業や部活動等の実施に問題ないか
2 児童・生徒の学区域や通学時間は考慮されているか
・通学時の負担は発生するのか
・通学距離は適切か
・スクールバスは必要か、スクールバスを活用する場合の圏域及び運用方法は適切か
3 学校機能の移転は円滑に進むか
・仮校舎と新校舎間の移転など、効率的に進めるための準備は適切か

3 特長

- (1) 工事現場から離れた環境に移ることで、児童・生徒の快適かつ安全な教育環境が確保される。
- (2) 各学校を改築する際に学校毎に仮校舎を建設する必要がなくなり、1校あたりの改築にかかる工事費が低減される。

4 モデルプラン「北蒲広場の活用」

- (1) 北蒲広場(平成 17 年に蒲田小学校と統合した旧北蒲小学校跡地)を令和9年度以降に再整備し、学校改築校の仮校舎専用施設としての活用を検討する。
- (2) 北蒲広場を中心とした半径 1 km圏内に学校施設(小中学校)が複数存在しており、その学校施設は以下のとおりである。
 - ア 小学校 大森第三小学校、蒲田小学校、南蒲小学校及び東蒲小学校など
 - イ 中学校 東蒲中学校及び蒲田中学校など

(3) 想定フロー

	2~3年	3年	3年	3年
仮校舎専用施設	施設整備・大規模改修	改築校A 活用	改築校B 活用	改築校C 活用
改築校A	構想・計画・設計	工事		
改築校B		構想・計画・設計	工事	
改築校C			構想・計画・設計	工事

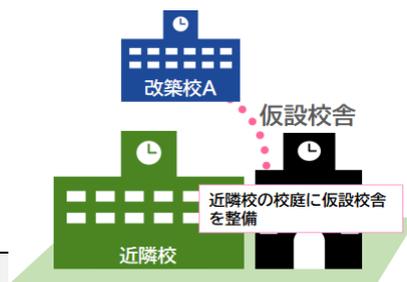
※内容は現時点での想定

取組②近隣校との相互連携(仮設校舎設置等)

1 概要

近隣校との校庭利用等の連携や、仮設校舎を整備し、学校改築校の仮設校舎として活用を検討する。

2 基本構想・計画までに検討・解決すべき課題



項目・課題
1 仮設校舎及び校庭等の面積は適当か
・児童・生徒の教育及び生活環境に必要な機能、広さか
・児童・生徒へ給食を提供することは可能か
・体育の授業や部活動等の実施に問題ないか
2 各校の学校運営は適当か
・カリキュラムなど学校運営について、施設や仮設共有校及び改築校の学習環境は維持できるか
・特に「近隣中学校の校庭に中学校の仮設校舎を整備する」場合、両校の生徒間の関係は良好か
3 児童・生徒の学区域や通学時間は考慮されているか
・通学時の負担は発生するのか
・通学距離は適切か
4 学校機能の移転は円滑に進むか
・仮設校舎と新校舎間の移転など、効率的に進めるための準備は適切か

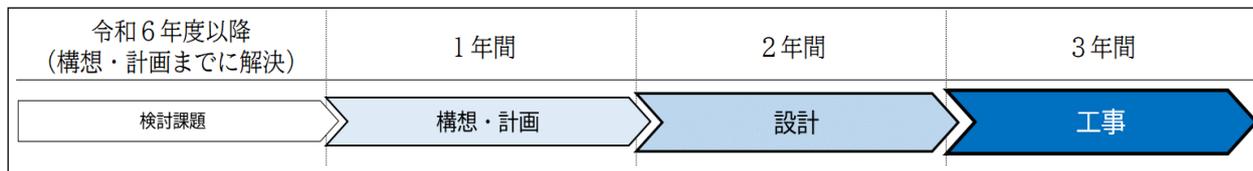
3 特長

近隣校同士で施設や仮設を共有し改築することで工事ステップの工夫が可能となり、改築工事の進捗に教育環境が左右されない。

4 モデルプラン「近隣校である糶谷中学校の活用」

(1) 広い校庭を持つ近隣校である糶谷中学校の校庭の一部を仮設設置場所として活用し、糶谷中学校の改築工事について検討するとともに、工事後の仮設校舎は北糶谷小学校が利用するなど無人改築手法を検討する。

(2) 想定フロー

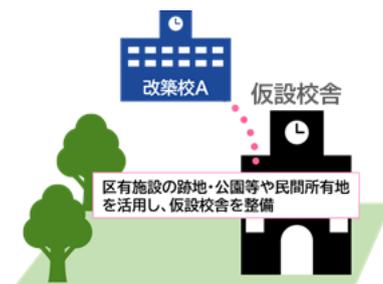


※内容は現時点での想定

取組③区内公共施設等の活用

1 概要

これまでの学校改築では、体育授業等において周辺の学校敷地をはじめ、公園や緑地、民間施設(プール)を活用して改築に取り組んでいる。一方、学校施設の中には校庭が小規模な事例もあり、学校施設(敷地)のみの改築には限界が生じる。この状況に対処する新たな手法として、学校近隣の公共施設等(区有施設の跡地・公園、国及び都用地など)や民間所有地を活用し、学校改築校の仮設校舎を整備することを検討する。



2 基本構想・計画までに検討・解決すべき課題

項目・課題
1 区内公共施設等に仮設校舎設置は可能か ・仮設校舎を設置する際、法的な制限はクリアできるか
2 仮設校舎及び校庭の面積は適当か ・児童・生徒の教育及び生活環境に必要な機能、広さか ・児童・生徒へ給食を提供することは可能か ・体育の授業や部活動等の実施に問題ないか
3 区内公共施設等の利用者、学校関係者及び地域住民の理解を得ているか ・理解を得るため、適切な改築手法の検討や丁寧な説明は行っているか
4 児童・生徒の学区域や通学時間は考慮されているか ・通学時の負担は発生するのか ・通学距離は適切か
5 学校機能の移転は円滑に進むか ・仮設校舎と新校舎間の移転など、効率的に進めるための準備は適切か

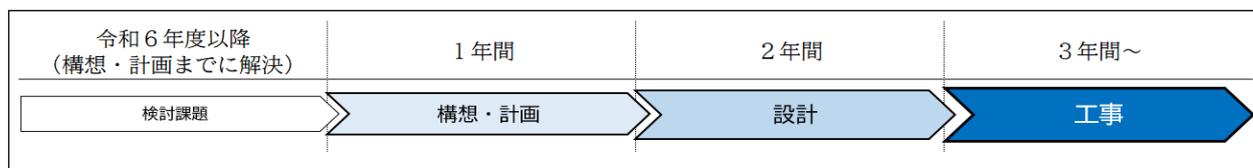
3 特長

区内公共施設等が近接している区立公園の場合、各々を体育やプール授業の代替地として活用することができる。

4 モデルプラン「区立公園の活用」

(1)大森第五小学校は敷地狭小だが、区立公園である「平和の森公園」に隣接しており、同公園を活用することで無人での学校改築について検討する。また、代替施設として大森スポーツセンター、青少年交流センターゆいっつ及び平和島公園水泳場の活用を検討する。

(2)想定フロー

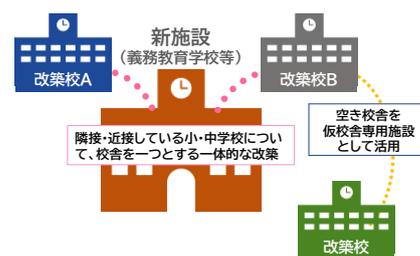


※内容は現時点での想定

取組④隣接・近接する学校の一体的改築

1 概要

区は、「おおた教育ビジョン」において「小中一貫の視点に立った指導」を事業として挙げている。こうした視点も踏まえ、隣接・近接している小・中学校について、校舎を一つとする一体的な改築を行うことを検討する。



2 基本構想・計画までに検討・解決すべき課題

項目・課題					
1	一体的に改築する学校の規模は適切か ・学校運営を行うに適切な児童・生徒数か ・学校の組み合わせは適切か				
2	校舎及び校庭の面積は適切か ・児童・生徒の教育及び生活環境に必要な機能、広さか ・体育の授業や部活動等の実施に問題ないか				
3	各校の学校運営は適切か ・カリキュラムなど学校運営について、各校の学習環境は維持できるか				
4	児童・生徒の学区や通学時間は考慮されているか ・通学時の負担は発生するのか ・通学距離は適切か				
5	義務教育学校の設置検討はされているか ・義務教育学校の設置検討について、「おおた教育ビジョン」に基づき課題は整理されているか				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>義務教育学校の設置検討</td> <td>義務教育の9年間を一貫して行う義務教育学校について、教育課程や学校運営、施設整備等の課題を整理し、設置を検討します。</td> </tr> </tbody> </table> <p>「おおた教育ビジョン」より抜粋</p>	事業名	取組内容	義務教育学校の設置検討	義務教育の9年間を一貫して行う義務教育学校について、教育課程や学校運営、施設整備等の課題を整理し、設置を検討します。
事業名	取組内容				
義務教育学校の設置検討	義務教育の9年間を一貫して行う義務教育学校について、教育課程や学校運営、施設整備等の課題を整理し、設置を検討します。				

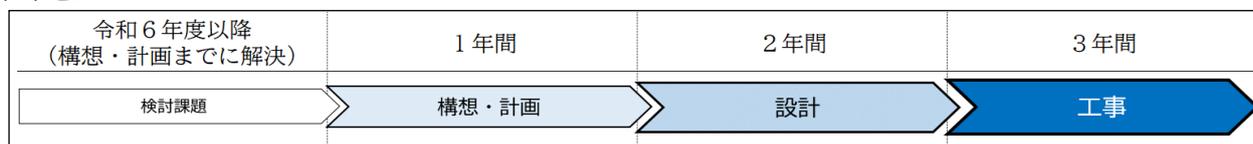
3 特長

隣接・近接する学校施設を一体的に改築することで、工事期間が短縮するとともに工事費用の縮減が見込まれる。また、集合化に伴い無人となった学校施設がある場合、その空き校舎を他校で改築事業(無人改築)を行う際の仮設校舎として活用することを検討する。

4 モデルプラン「隣接する中学校・小学校の一体的な改築」

(ア) 菟中小学校・出雲中学校は隣接しており、両校の敷地を活用して一体的な改築について手法を検討する。

(イ) 想定フロー



※内容は現時点での想定

第6章 今後の検討事項

6-1 検討を進める事項

本計画に基づき学校施設の改築をペースアップし児童・生徒に安全・安心な学習環境を提供するため、今後は以下の事項について検討を進めます。あわせて、改築事業を児童・生徒の学習に結びつけられるよう、創意工夫を図ります。

①新たな発注方式の検討

解体及び建築の異業種 JV による発注やデザインビルド方式の採用など、手続きに要する時間の短縮に向け、新たな発注方式の検討に取り組みます。

②改築時における工法等の工夫

働き方改革による「建設業の 2024 年問題」により週休2日が徹底され、工事期間の長期化が懸念されます。こうした社会的要請の中、例えばユニット化した躯体を採用するなど、工法を工夫しながら少しでも工事期間が短縮されるよう努めます。

また、改築中も自校で調理した給食を提供し続けるための給食室、体育の授業や避難所機能維持のための体育館及び自校で授業を続けるためのプール維持などより工事ステップが増加し、工事期間の長期化につながる場合もあります。

教育委員会として、改築中は外部のリソース活用も検討するなど、ソフト面での工夫にも取り組んでいきます。

③財政対応力の効果的な活用

学校施設の改築にあたっては、これまで計画的に積み立ててきた積立基金と発行余力を蓄えてきた特別区債といった財政対応力を効果的に活用し、世代間バランスにも十分配慮し、計画的な整備を進めてまいります。

④改築事業を通じたキャリア教育の実施検討

改築事業に対する児童・生徒の興味・関心を喚起するため、改築事業中の学校施設において工事写真や改築だよりを掲示するなど、改築を通じたキャリア教育の実施を検討していきます。

⑤防災機能の維持

学校は、学校防災活動拠点として、避難所機能など地域の防災活動の拠点としての役割を担っています。改築時においても、避難所としての機能が維持できるよう以下の視点をもって改築計画を検討していきます。

- ・ 仮設校舎における避難所機能の確保
- ・ 既存の受入人数の確保(代替となる施設の確保)
- ・ 学校防災活動拠点の運営に関する理解の確保、など

第7章 計画の継続的運用方針

7-1 情報基盤の整備と活用

安全・安心で、快適な学習環境を維持・向上するためには、改築や改修を着実に行うだけでなく、継続的に施設の状況を把握しておくことが重要です。引き続き建築基準法第12条の定期点検を実施し、必要に応じて劣化状況調査により評価するとともに、それらの情報を、修繕・改修履歴などと合わせて「建物情報一覧」に蓄積・整理し、本計画の見直しや学校施設全体のマネジメントに活用します。

また、施設管理者である学校は日常的に点検を行い、その結果を予防的な修繕に向けて活用します。

さまざまな既存資料

文科省
学校施設台帳
固定資産台帳
耐震データ
12条点検
報告書
工事台帳
決算書
(投資的経費)
設計図書
(竣工図)
内訳書

① 建物情報一覧 (概要情報) 現在

(1) 基礎情報						(2) 躯体の健全性						(3) 劣化状況			(4) 仕様・機能		(5) 履歴			(6) 計画			
学校名	所在地	校名	棟名	建築年	延床面積	耐震安全性			中性化区分			劣化状況	劣化ポイント	劣化度	仕様	機能	履歴			計画			
						1次評価	2次評価	3次評価	1次	2次	3次						30年前	20年前	10年前	10年後	20年後	30年後	
学校単位 000番, 200番			北館	1972	2,543	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
			北館別館	1972	1,129	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
			南館棟 (1975年耐震改修)	1975	793	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
			南館棟 (1975年耐震改修)	1975	254	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
			南館棟 (1975年耐震改修)	1975	972	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
		南館棟 (1975年耐震改修)	1975	81	999	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
		センター	1972	59	200	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
		南館棟 (1975年耐震改修)	1975	553	999	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
		南館棟 (1975年耐震改修)	1975	1,129	999	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
		生徒昇降口	1971	234	999	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R
		センターハウス	1972	694	999	5A	5B	5C	5D	5E	5F	5G	5H	5I	5J	5K	5L	5M	5N	5O	5P	5Q	5R

② カルテ (詳細情報)

(劣化状況) (劣化写真)

各部位の劣化状況・範囲・コメント(詳細)

③ 全体把握

● 築年別整備状況

● 将来コスト

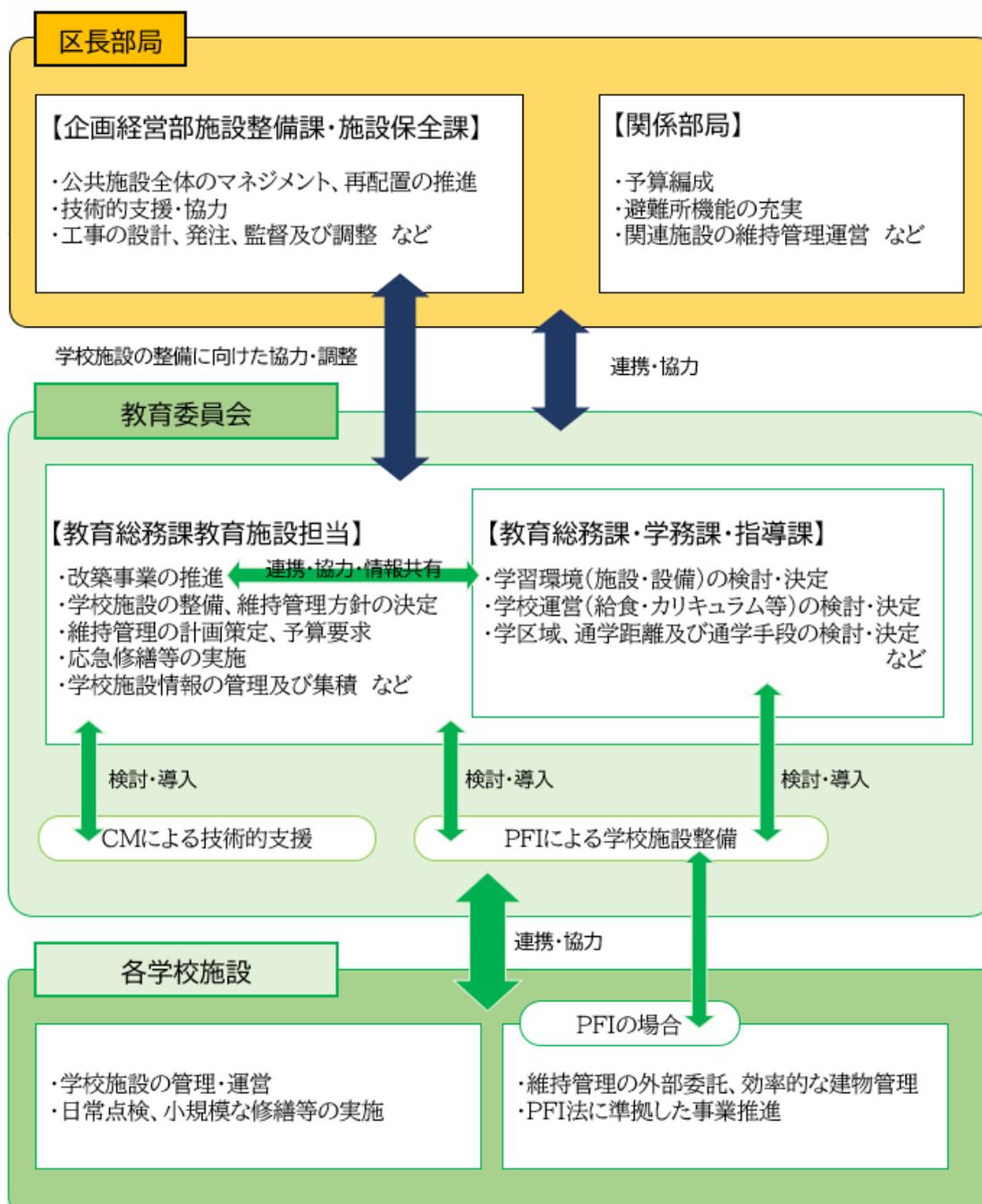
情報の一元化・見える化

【図表 7-1 情報の一元化イメージ図】

7-2 推進体制の整備

児童・生徒の安全・安心な教育環境を確保し維持するためには、教育委員会が一体となって学校施設の整備に取り組む必要があります。施設の仕様、授業カリキュラムや給食など学校運営に係る項目は多岐に渡るため、教育総務課、学務課及び指導課など各所管が連携して本計画を推進し、効果的・効率的な施設整備を行うための体制整備に取り組みます。

また、学校施設の整備には営繕など関連部署との連携も不可欠であり、計画的な修繕や施設更新に向け協力していきます。また、学校施設の整備をより一層推進させるため、区長部局及び教育委員会の執行体制も併せて検討していきます。あわせて、改築を着実に進めるため、教育委員会としてPFI方式や、CM(コンストラクションマネジメント)方式等の導入を検討していきます。

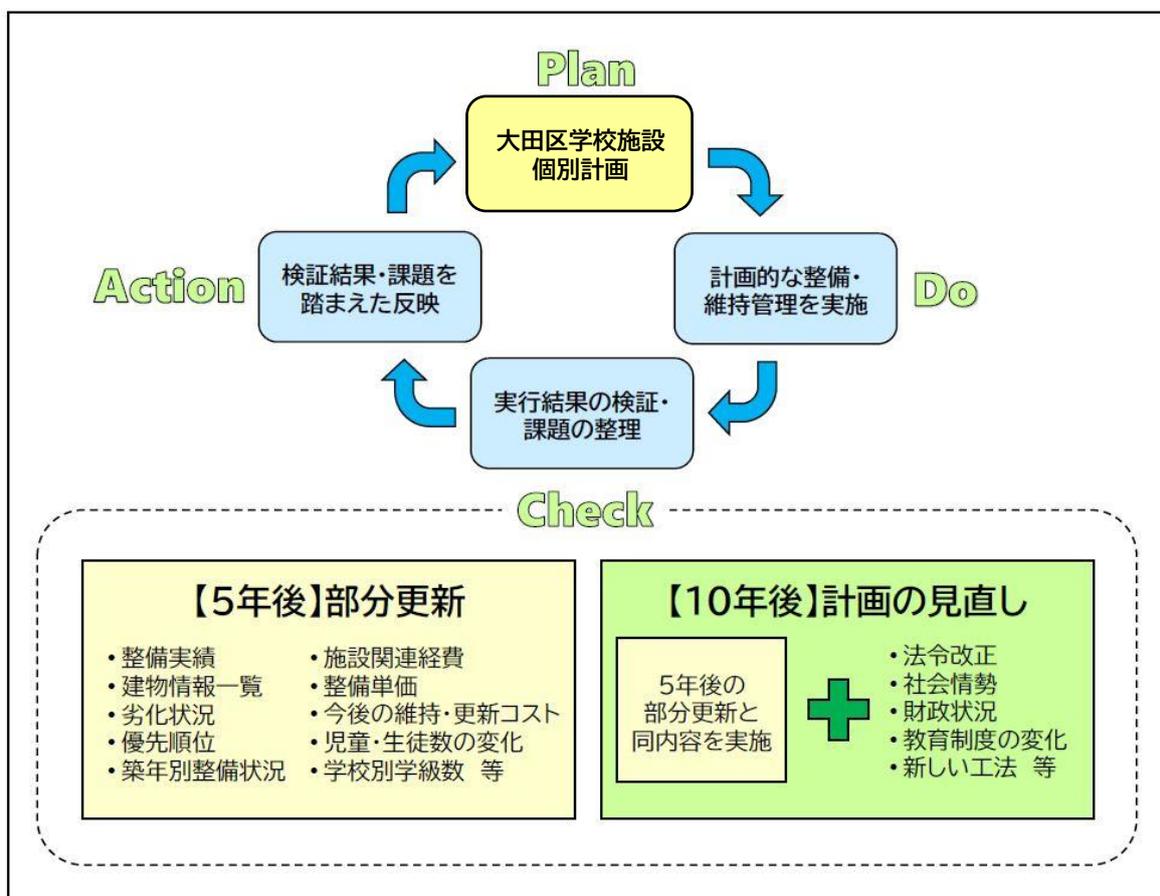


【図表 7-2 連携イメージ】

7-3 フォローアップ

本計画は、維持・更新費用(単価)、児童・生徒数の動向など、PDCAサイクルにより継続的に見直し、改善検討を行いながら、5年ごとに部分更新、10年ごとに計画の見直しを行います。

なお、更新・見直しサイクルについては、社会情勢や制度の変化に伴い、早まる場合もあります。また、上位計画など他の関連計画の進捗状況を踏まえ、大田区全体の公共施設マネジメントと連携して本計画を進めていきます。



【図表 7-3 継続的な見直しイメージ図】

用語解説

用 語	定 義
CM	Construction Management の略語。発注者の補助者・代行者である CMR(コンストラクション・マネージャー)が、技術的な中立性を保ちつつも発注者の側に立って、設計の検討や発注方式の検討、工程管理、コスト管理などマネジメント業務の全部または一部を行う方式。主に「発注者体制」「コスト」「品質」の向上が期待される。
Is 値 (Seismic Index of Structure)	建物の耐震性能を表す指標(構造耐震指標)であり、地震力に対する建物の強度、地震力に対する建物の靱性(変形能力、粘り強さ)、経年劣化により求められる。Is 値の目安として 0.3 未満は倒壊・崩壊する危険性が高い、0.3 以上 0.6 未満では危険性がある、0.6 以上では危険性が低いとしている。
ICT 教育	ICTとは Information and Communication Technology の頭文字をとった略語で、ICT 教育は、IT 技術を使ってコミュニケーションをとっていく教育方針や取り組みのこと。
PFI	Private Finance Initiative の略語。公共施設等の建設、維持管理、運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、同一水準のサービスをより安く、又は、同一価格でより上質のサービスを提供する手法で「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI 法)に基づき実施。民間の資金、ノウハウ等の活用により、公共施設等の整備等にかかるコストの縮減や、必要な社会資本整備を公的資金のみでなく、民間の資金やノウハウを活用することにより効率的に進めることができる。
SDGs	Sustainable Development Goals の略で、持続可能な開発目標のこと。2030 年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標であり、17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っている。
RC 造	RC は Reinforced Concrete の略で、構造躯体の構造区分で鉄筋コンクリート造のこと。
S 造	S は steal の略で、構造躯体の構造区分で鉄骨造のこと。
ZEB	Net Zero Energy Buildingの略で、快適な室内空間を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支をゼロにすることをめざした建物のこと。省エネによって使うエネルギーを減らし、創エネによって使う分のエネルギーを作ることで、エネルギー消費量を正味でゼロにする。

用語	定義
改築	老朽化により構造上危険な状態であったり、教育環境上著しく不適当な状態にある既存の建物を「建て替える」こと。
学校規模	学校教育法施行規則第 41 条では、「小学校の学級数は、十二学級以上十八学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りでない。」としている。また同施行規則第 79 条では、「第四十一条から第四十九条まで、第五十条第二項、第五十四条から第六十八条までの規定は、中学校に準用する。」とあるため、本計画では、学級数 12 学級未満の小中学校を「小規模校」、学級数 12～18 学級の小中学校を「標準規模校」、学級数 19 学級以上の小中学校を「大規模校」としている。
義務教育学校	小学校課程から中学校課程までの義務教育を一貫して行う学校のこと。義務教育学校の教育課程は、前期6年の前期課程、後期3年の後期課程に区分される。
旧耐震基準、新耐震基準、旧旧耐震基準	建築基準法に基づき定められ、建築物の設計において適用される地震に耐えうる構造の基準で、昭和 56(1981)年6月1日以前の基準を「旧耐震基準」、それ以降の基準を「新耐震基準」と呼ぶ。さらに柱の帯筋の間隔に関する法令改正以前の昭和 46(1971)年以前の建築物を「旧旧耐震基準」と呼んでいる。
建築基準法第 12 条の定期点検	建築物等の安全性や適法性を確保するために、専門の技術者により建築物等を3年に1度定期的に点検する制度のこと。
構造躯体	建築構造を支える骨組みにあたる部分のことで、基礎・基礎杭・壁・柱・小屋組・土台・斜材(筋かいなど)・床版・屋根版又は横架材(梁など)を指す。
コミュニティ・スクール	地域教育行政の組織及び運営に関する法律に示された学校運営協議会を設置した学校のこと。学校運営に地域の声を積極的に活かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進める仕組み。
施設関連経費	施設整備費及び維持修繕費等の総計。
小中一貫教育	小学校で行われる教育と中学校で行われる教育を連携させ、一貫性をもたせた体系的な教育を行うこと。
少人数教育	習熟度に合わせてクラスを少ない人数で分けて授業を実施する等、学習を効率的・効果的に実施する教育の方法。

用語	定義
耐震診断	旧耐震基準で設計され、耐震性能を保有していない建物について、現行の構造基準(新耐震基準)で耐震性の有無を確認すること。旧耐震基準で設計されている建物の耐震性を確認することで建物構造の耐震性が分かり、耐震補強案や概算での耐震改修費用を検討することが可能となる。
耐力度調査	公立学校施設における建物の構造耐力、経年による耐力・機能の低下、立地条件による影響の3項目により、建物の老朽化を総合的に評価する調査のこと。
館山さぎなみ学校	喘息、肥満、病虚弱などのこどものために設置した全寮制の学校(対象は小学校第3学年から第6学年)で、区内の学校と同じ学習をしながら、各自の健康状態に応じた健康、栄養指導により、体力の増進を図っている。
中規模改修	経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事のことで、屋上防水改修、外壁改修、設備機器更新のほか、劣化の著しい部位の修繕、故障・不具合の修繕等が含まれる。
長寿命化改修	既存の建物を長期に使用するため、建物や設備の不良箇所・劣化箇所の改修に加えて、耐久性を高め、社会的要請に対応する機能向上を行う改修のこと。基礎・柱・梁などの構造躯体を残して、それ以外の全ての箇所を改修する。
鉄筋のかぶり厚さ	鉄筋コンクリート造(RC造)と鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC造)の躯体部分のコンクリート表面から鉄筋までの深さのこと。表面からコンクリートの中性化が進行していき、鉄筋に達すると、錆による腐食の原因になる。

大田区学校施設個別施設計画 令和6年6月

編集・発行：大田区教育委員会 東京都大田区蒲田五丁目37番1号

電話：03-5744-1399 FAX：03-5744-1535

令和6年5月1日現在 在籍者数一覧

こども文教委員会 令和6年6月21・24日
教育委員会事務局 資料3番
所管 学務課

(小 学 校)

番号	学 校 名	児 童 数							学 級 数							特別支援学級		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	児童数	学級数	
1	大森第四	91	81	90	82	85	87	516	3	3	3	3	3	3	18			
2	中富	48	28	49	41	25	22	213	2	1	2	2	1	1	9			
3	大森第一	93	90	85	93	93	98	552	3	3	3	3	3	3	18			
4	開桜	106	107	114	99	110	113	649	3	4	4	3	4	3	21			
5	大森第三	93	90	75	102	89	87	536	3	3	3	3	3	3	18			
6	大森第五	32	46	36	41	44	40	239	1	2	2	2	2	1	10	14	2	
7	大森東	34	18	24	25	26	21	148	1	1	1	1	1	1	6	5	1	
8	入新井第五	57	49	55	65	66	65	357	2	2	2	2	2	2	12			
9	入新井第一	85	86	69	97	70	78	485	3	3	2	3	2	2	15	22	3	
10	山王	126	145	130	136	141	137	815	4	5	4	4	4	4	25			
11	馬込	137	113	125	111	128	112	726	4	4	4	4	4	3	23			
12	馬込第二	77	78	70	85	79	75	464	3	3	2	3	3	2	16	22	3	
13	馬込第三	140	107	131	140	122	129	769	4	4	4	4	4	4	24			
14	梅田	166	175	147	172	166	142	968	5	5	5	5	5	4	29			
15	池上	90	92	112	99	101	93	587	3	3	4	3	3	3	19	27	4	
16	池上第二	74	76	76	94	86	83	489	3	3	3	3	3	3	18	10	2	
17	徳持	111	104	126	99	98	107	645	4	3	4	3	3	3	20			
18	入新井第二	114	114	129	117	109	100	683	4	4	4	4	4	3	23			
19	入新井第四	61	58	61	66	60	70	376	2	2	2	2	2	2	12			
20	東調布第一	114	90	116	111	98	110	639	4	3	4	4	3	3	21	31	4	
21	田園調布	91	94	93	107	96	113	594	3	3	3	4	3	3	19			
22	調布大塚	61	48	60	64	60	71	364	2	2	2	2	2	2	12			
23	東調布第三	118	99	124	122	119	95	677	4	3	4	4	4	3	22			
24	嶺町	117	119	147	166	143	136	828	4	4	5	5	5	4	27			
25	千鳥	47	64	69	58	61	39	338	2	2	2	2	2	1	11			
26	久原	124	132	132	149	151	131	819	4	4	4	4	5	4	26			
27	松仙	100	104	125	121	134	133	717	3	3	4	4	4	4	22			
28	池雪	131	128	134	139	148	151	831	4	4	4	4	5	4	25			
29	小池	128	131	141	136	151	138	825	4	4	5	4	5	4	26			
30	雪谷	97	106	127	119	124	119	692	3	4	4	4	4	3	22	28	4	
31	洗足池	75	87	90	82	67	71	472	3	3	3	3	2	2	16	27	4	
32	赤松	52	52	57	51	58	51	321	2	2	2	2	2	2	12			
33	清水窪	58	56	63	49	72	66	364	2	2	2	2	3	2	13			
34	糀谷	79	63	92	73	75	103	485	3	2	3	3	3	3	17			
35	東糀谷	57	54	56	58	64	54	343	2	2	2	2	2	2	12	29	4	
36	北糀谷	55	42	47	57	45	44	290	2	2	2	2	2	2	12			
37	羽田	31	44	46	47	52	42	262	1	2	2	2	2	2	11			
38	都南	63	63	50	77	64	57	374	2	2	2	3	2	2	13			
39	萩中	40	31	45	29	41	35	221	2	1	2	1	2	1	9			
40	中萩中	45	60	59	55	59	66	344	2	2	2	2	2	2	12			
41	出雲	83	83	90	86	93	96	531	3	3	3	3	3	3	18	23	3	
42	六郷	54	62	50	54	42	27	289	2	2	2	2	2	1	11	6	1	
43	西六郷	65	69	47	52	67	65	365	2	2	2	2	2	2	12	23	3	
44	高畑	165	171	141	145	113	111	846	5	5	5	5	4	3	27			
45	仲六郷	38	45	43	36	39	36	237	2	2	2	2	2	1	11			
46	志茂田	45	53	55	59	49	56	317	2	2	2	2	2	2	12			
47	東六郷	63	54	52	75	74	54	372	2	2	2	3	3	2	14			
48	南六郷	29	59	54	57	56	68	323	1	2	2	2	2	2	11			
49	矢口	80	87	80	100	83	79	509	3	3	3	3	3	2	17			
50	矢口西	106	102	114	109	107	110	648	3	3	4	4	4	3	21	21	3	
51	多摩川	105	102	86	117	76	84	570	3	3	3	4	3	3	19			
52	相生	39	42	55	44	52	50	282	2	2	2	2	2	2	12			
53	矢口東	55	48	66	44	44	55	312	2	2	2	2	2	2	12	17	3	
54	おなづか	74	85	69	86	81	73	468	3	3	2	3	3	2	16			
55	道塚	82	89	82	75	85	101	514	3	3	3	3	3	3	18			
56	蒲田	88	99	94	84	90	83	538	3	3	3	3	3	3	18	20	3	
57	南蒲	51	69	54	61	61	44	340	2	2	2	2	2	2	12	9	2	
58	新宿	41	43	40	47	47	46	264	2	2	2	2	2	2	12			
59	東蒲	39	37	41	44	29	37	227	2	2	2	2	1	1	10			
	大森第四(みらい学園)				3	6	6	15				1	1	1	3			
	計	4,720	4,723	4,890	5,012	4,874	4,765	28,984	162	162	169	173	169	147	982	334	49	
	館山さざなみ			2	5	3	9	19			1	1	1	2	5			
	小 計	4,720	4,723	4,892	5,017	4,877	4,774	29,003	162	162	170	174	170	149	987	334	49	
	大田区立小学校在籍児童数総計						29,337			大田区立小学校学級数総計							1,036	

※大田区立小学校在籍児童数・学級数の総計は、特別支援学級及び館山さざなみ学校を含めた総数である。

令和6年5月1日現在 在籍者数一覧

(中 学 校)

番号	学 校 名	生 徒 数				学 級 数				特別支援学級 (知的障害)	
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計	生徒数	学級数
1	大 森 第 一	58	73	77	208	2	2	2	6		
2	大 森 東	120	115	105	340	4	3	3	10	17	3
3	大 森 第 二	158	138	158	454	5	4	4	13		
4	大 森 第 八	180	161	188	529	6	4	5	15	22	3
5	馬 込	75	67	83	225	2	2	3	7	27	4
6	馬 込 東	102	87	107	296	3	3	3	9		
7	貝 塚	149	177	155	481	5	5	4	14		
8	大 森 第 四	176	157	179	512	5	4	5	14		
9	大 森 第 三	163	169	151	483	5	5	4	14		
10	東 調 布	84	92	92	268	3	3	3	9	15	2
11	田 園 調 布	45	50	47	142	2	2	2	6		
12	大 森 第 七	214	216	216	646	6	6	6	18		
13	雪 谷	135	147	135	417	4	4	4	12		
14	大 森 第 十 六	148	172	125	445	5	5	4	14		
15	大 森 第 十 六	120	121	132	373	4	4	4	12		
16	石 川 台	67	66	69	202	2	2	2	6	11	2
17	羽 田	43	74	68	185	2	2	2	6	14	2
18	糺 谷	151	129	125	405	5	4	4	13		
19	出 雲	158	186	188	532	5	5	5	15		
20	六 郷	131	125	132	388	4	4	4	12	17	3
21	志 茂 田	181	181	188	550	5	5	5	15	25	4
22	南 六 郷	184	171	189	544	6	5	5	16		
23	矢 口	156	175	153	484	5	5	4	14	13	2
24	御 園	104	92	53	249	3	3	2	8		
25	蓮 沼	119	125	146	390	4	4	4	12	27	4
26	安 方	135	143	103	381	4	4	3	11		
27	東 蒲	104	148	127	379	3	4	4	11		
28	蒲 田	82	73	63	218	3	2	2	7		
	御園(みらい学園)	15	9	15	39	1	1	1	3		
	計	3,557	3,639	3,569	10,765	113	106	103	322	188	29
	夜 間 学 級	2	7	5	14	1	1	1	3		
	小 計	3,559	3,646	3,574	10,779	114	107	104	325	188	29
大田区立中学校在籍生徒数総計				10,967		大田区立中学校学級数総計				354	

※大田区立中学校在籍生徒数・学級数の総計は、特別支援学級（知的障害）及び夜間学級を含めた総数である。

令和6年5月1日現在 在籍者数一覧

特別支援教室（小学校）

番号	学 校 名	拠点校	児童数	グループ
2	中 富	※	19	1
1	大 森 第 四		34	
3	大 森 第 一		20	
7	大 森 東	※	6	2
6	大 森 第 五		5	
8	入 新 井 第 五		5	
9	入 新 井 第 一		8	3
14	梅 田	※	24	
10	山 王		13	
12	馬 込 第 二		22	4
18	入 新 井 第 二	※	28	
4	開 桜		19	
15	池 上		14	5
19	入 新 井 第 四		12	
13	馬 込 第 三	※	23	
11	馬 込 池		33	6
28	池 雪		24	
29	小 池	※	17	
31	洗 足 池		8	7
32	赤 松		10	
33	清 水 窪		9	
22	調 布 大 塚	※	5	8
21	田 園 調 布		3	
30	雪 谷		9	
23	東 調 布 第 三	※	17	9
26	久 原		21	
27	松 仙		26	
24	嶺 町	※	30	10
20	東 調 布 第 一		15	
25	千 鳥		16	
51	多 摩 川	※	24	11
49	矢 口		23	
50	矢 口 西		19	
46	志 茂 田	※	24	12
52	相 生		15	
53	矢 口 東		12	
55	道 塚		41	13
54	お な づ か	※	11	
16	池 上 第 二		19	
17	徳 持		11	14
42	六 郷	※	10	
43	西 六 郷		18	
44	高 畑		21	15
48	南 六 郷		19	
45	仲 六 郷	※	8	
47	東 六 郷		20	16
58	新 宿		8	
37	羽 田	※	14	
34	糺 谷		4	17
35	東 糺 谷		14	
40	中 萩 中	※	16	
38	都 南		10	18
39	萩 中		7	
57	南 蒲 谷	※	27	
36	北 糺 谷		14	19
41	出 雲		31	
59	東 蒲 田	※	12	
5	大 森 第 三		21	計
56	蒲 田		8	
計			976	

※がついていない学校は巡回校です。

特別支援学級（小学校・通級）

	小 学 校	種別	児童数	学級数
9	入 新 井 第 一	難聴	9	1
		言語	30	2
23	東 調 布 第 三	弱視	5	1
		言語	23	2
36	北 糺 谷	難聴	8	1
		言語	25	2
46	志 茂 田	言語	42	3
合 計			142	12

特別支援教室（中学校）

	学 校 名	拠点校	生徒数	グループ
14	大 森 第 十	※	2	1
5	馬 込 塚		2	
7	貝 塚		6	
11	田 園 調 布		1	
13	雪 谷		1	2
15	大 森 第 六		2	
16	石 川 台		3	
27	東 蒲	※	17	
1	大 森 第 一		11	3
17	羽 田		6	
18	糺 谷		5	
19	出 雲		8	
20	六 郷		3	4
22	南 六 郷		18	
3	大 森 第 二	※	4	
2	大 森 東		14	
4	大 森 第 八		7	5
6	馬 込 東		6	
8	大 森 第 四		10	
9	大 森 第 三		14	
28	蒲 田		6	6
24	御 園	※	7	
10	東 調 布		3	
12	大 森 第 七		14	
21	志 茂 田		9	7
23	矢 口		13	
25	蓮 沼		5	
26	安 方		10	
合 計			207	

特別支援学級（中学校・通級）

	中 学 校	種別	生徒数	学級数
24	御 園	難聴	9	1
合 計			9	1

日本語学級（小学校・通級）

	小 学 校	児童数	学級数
56	蒲 田	21	2

日本語学級（中学校・通級）

	中 学 校	生徒数	学級数
28	蒲 田	16	1

令和6年度 新1年生指定校変更許可件数

こども文教委員会
令和6年6月21・24日
教育委員会事務局 資料4番
所管 学務課

番号	学校名	在籍者数 5/1	許可件数	指定校変更 在籍者率(%)
1	大森第四小学校	91	13	14
2	中富小学校	48	2	4
3	大森第一小学校	93	9	10
4	開桜小学校	106	4	4
5	大森第三小学校	93	8	9
6	大森第五小学校	32	3	9
7	大森東小学校	34	3	9
8	入新井第五小学校	57	7	12
9	入新井第一小学校	85	20	24
10	山王小学校	126	0	0
11	馬込小学校	137	4	3
12	馬込第二小学校	77	1	1
13	馬込第三小学校	140	12	9
14	梅田小学校	166	2	1
15	池上小学校	90	3	3
16	池上第二小学校	74	9	12
17	徳持小学校	111	22	20
18	入新井第二小学校	114	2	2
19	入新井第四小学校	61	6	10
20	東調布第一小学校	114	16	14
21	田園調布小学校	91	5	5
22	調布大塚小学校	61	2	3
23	東調布第三小学校	118	0	0
24	嶺町小学校	117	7	6
25	千鳥小学校	47	1	2
26	久原小学校	124	12	10
27	松仙小学校	100	10	10
28	池雪小学校	131	2	2
29	小池小学校	128	10	8
30	雪谷小学校	97	8	8
31	洗足池小学校	75	4	5
32	赤松小学校	52	2	4
33	清水窪小学校	58	12	21
34	糍谷小学校	79	12	15
35	東糍谷小学校	57	2	4
36	北糍谷小学校	55	14	25
37	羽田小学校	31	3	10
38	都南小学校	63	1	2
39	萩中小学校	40	1	3
40	中萩中小学校	45	5	11
41	出雲小学校	83	15	18
42	六郷小学校	54	5	9
43	西六郷小学校	65	6	9
44	高畑小学校	165	0	0
45	仲六郷小学校	38	1	3
46	志茂田小学校	45	8	18
47	東六郷小学校	63	10	16
48	南六郷小学校	29	11	38
49	矢口小学校	80	26	33
50	矢口西小学校	106	2	2
51	多摩川小学校	105	4	4
52	相生小学校	39	3	8
53	矢口東小学校	55	4	7
54	おなづか小学校	74	7	9
55	道塚小学校	82	0	0
56	蒲田小学校	88	3	3
57	南蒲小学校	51	22	43
58	新宿小学校	41	4	10
59	東蒲小学校	39	10	26
小学校 計		4,720	400	8

番号	学校名	在籍者数 5/1	許可件数	指定校変更 在籍者率(%)
1	大森第一中学校	58	4	7
2	大森東中学校	120	33	28
3	大森第二中学校	158	0	0
4	大森第八中学校	180	27	15
5	馬込中学校	75	10	13
6	馬込東中学校	102	40	39
7	貝塚中学校	149	36	24
8	大森第四中学校	176	17	10
9	大森第三中学校	163	14	9
10	東調布中学校	84	10	12
11	田園調布中学校	45	4	9
12	大森第七中学校	214	46	21
13	雪谷中学校	135	19	14
14	大森第十中学校	148	1	1
15	大森第六中学校	120	64	53
16	石川台中学校	67	18	27
17	羽田中学校	43	9	21
18	糍谷中学校	151	37	25
19	出雲中学校	158	22	14
20	六郷中学校	131	0	0
21	志茂田中学校	181	89	49
22	南六郷中学校	184	28	15
23	矢口中学校	156	5	3
24	御園中学校(不登校特例校含む)	119	18	15
25	蓮沼中学校	119	11	9
26	安方中学校	135	46	34
27	東蒲中学校	104	34	33
28	蒲田中学校	82	9	11
中学校 計		3,557	651	18
		8,277	1,051	13

こども文教委員会 令和6年6月21・24日
教育委員会事務局 資料5番
所管 指導課

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の運営に関するワークショップの 参加者募集について

学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の運営に関するワークショップを開催するにあたり、以下のとおり参加者を募集する。

1 目的

令和12年度に学校型の学びの多様化学校の開校を目指している。当該学校の目指す姿として「社会とのつながりを大切にした多様な学びを通して不登校状態にある児童・生徒の社会的自立を目指す学校」を掲げている。これを実現するための機能の一つとして、「児童・生徒が明日も来たいくなる新たな学びの場」を備えることとしている。

開校準備を進めるにあたり、児童・生徒が学校へ来たいくなる取組など、運営のヒントとなるアイデアや意見を出し合うワークショップを開催する。そのため、不登校支援関係者等のほか、公募枠の参加者を広く募集する。

2 ワークショップの概要

(1) テーマ

児童・生徒が学校へ来たいくなる取組について

(2) 日時

令和6年7月10日（水）午後4時から5時30分まで（予定）

(3) 場所

ふれあいはすぬま第5集会室

(4) 方法

1 グループ6名程度で意見を出し合い、その結果を全体へ共有し、評価し合う。

3 募集対象

区内在住・在勤・在学の方（応募者多数の場合は、抽選による。）

4 周知方法

大田区報6月11日号及び区のホームページへ募集案内を掲載する。

こども文教委員会 令和6年6月21・24日
こども家庭部 資料1番
所管 子育て支援課

次期大田区子ども・子育て支援計画策定に係る区民意向調査の結果について

1 調査対象及び回収率

対 象	配布数	回収数	回収率	前回回収率
就学前児童の保護者	2,500件	1,167件	46.7%	49.4%
小学校児童の保護者	2,500件	1,050件	42.0%	55.9%
小学校4～6年生	1,250件	366件	29.3%	—
中学校1～3年生	1,250件	350件	28.0%	29.1%
高校生世代	1,250件	217件	17.4%	25.5%

※ 今回の調査からインターネット上のアンケートフォームでの回答も実施。

2 調査結果の概要

今回の調査結果では、子育て家庭の状況が前回調査時（平成31年度）から次のとおり変化していることが分かった。

●母親の就労状況：「フルタイムで就労している」（休業中を含む。）の回答率

	今回	前回
就学前児童の保護者	59.7%	47.5%
小学校児童の保護者	47.3%	34.1%

●父親の育児参加：子育てを主に「父母ともに行っている」の回答率

	今回	前回
就学前児童の保護者	67.6%	54.9%
小学校児童の保護者	60.5%	54.0%

このような状況の変化がある中で、子育てを「楽しい」「楽しいことの方が多い」と回答した保護者の割合は前回と同程度の約9割となっている。

一方で、子育てを「つらい」「つらいことの方が多い」と回答した保護者が約1割いることや、子育てに関して孤立感を「強く感じる」「やや感じる」と回答した保護者の割合が前回と同程度の約2割いることも分かった。

●子育ての楽しさ：子育てを「楽しい」「楽しいことの方が多い」の回答率

	今回	前回
就学前児童の保護者	91.7%	90.8%
小学校児童の保護者	88.7%	89.9%

●子育ての楽しさ：子育てを「つらい」「つらいことの方が多い」の回答率

	今回	前回
就学前児童の保護者	7.7%	8.3%
小学校児童の保護者	10.5%	9.3%

●子育ての孤立感：子育てに関して孤立感を「強く感じる」「やや感じる」の回答率

	今回	前回
就学前児童の保護者	23.9%	24.1%
小学校児童の保護者	21.3%	20.1%

こどもについては、毎日の生活が「楽しい」「やや楽しい」と回答した割合が約9割、また、自分のことが「好き」「まあまあ好き」と回答した割合は約7、8割となっている。

●生活の楽しさ：毎日の生活が「楽しい」「やや楽しい」の回答率

	今回	前回
小学校4～6年生	92.3%	—
中学校1～3年生	90.0%	—
高校生世代	95.0%	—

●自分への愛着：自分のことが「好き」「まあまあ好き」の回答率

	今回	前回
小学校4～6年生	82.8%	—
中学校1～3年生	69.5%	56.3%
高校生世代	72.3%	57.1%

3 調査結果の分析

一例として、保護者の抱える悩みについて配偶者の有無別でクロス集計したところ、次のような傾向が見られた。

	配偶者	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な負担となっている	こどもとの時間が十分にとれない
就学前児童の保護者	あり	9.0%	17.1%	24.3%
	なし	<u>22.0%</u>	<u>26.8%</u>	<u>36.6%</u>
小学校児童の保護者	あり	7.0%	8.2%	24.9%
	なし	<u>10.1%</u>	<u>10.1%</u>	<u>30.4%</u>

	配偶者	子育てにかかる金銭面で不安がある	こどもの遊ばせ方やしつけに悩んでいる	仕事や自分のことが十分にできない
就学前児童の保護者	あり	35.0%	<u>34.7%</u>	<u>29.7%</u>
	なし	<u>41.5%</u>	19.5%	22.0%
小学校児童の保護者	あり	31.7%	<u>25.3%</u>	<u>21.9%</u>
	なし	<u>49.3%</u>	20.3%	17.4%

配偶者のいない保護者は、配偶者のいる保護者に比べ、「子育てが精神的・身体的な負担になっている」「こどもとの時間が十分とれない」「子育てにかかる金銭面で不安がある」といった回答が多くなっている。更なる分析を行い、ひとり親家庭に対する支援策の検討に活用していく。

4 次期計画の策定

令和7年度から5年間を計画期間とする次期大田区子ども・子育て支援計画の策定作業に調査の分析結果等を反映していく。

次期計画を通じて、区の子育ての環境や支援に対する満足度や現在暮らしている地域への愛着度の更なる向上を目指していく。

●保護者：区の子育ての環境や支援に「満足」「まあまあ満足」の回答率

	今回	前回
就学前児童の保護者	51.8%	46.7%
小学校児童の保護者	48.6%	46.5%

●こども：現在暮らしている地域が「好き」の回答率

	今回	前回
小学校4～6年生	71.6%	—
中学校1～3年生	57.1%	47.0%
高校生世代	58.1%	41.5%

大 田 区
子ども・子育て支援計画改訂に向けた
アンケート調査報告書

令和6年5月

大 田 区

目次

第1章 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査対象と期間等	1
3 回収結果	1
4 報告書を利用するにあたって	1
第2章 調査結果	2
1 就学前児童の保護者	2
（1）住まいの地域について	2
（2）お子さんと家族の状況について	3
（3）こどもの育ちをめぐる環境について	5
（4）保護者の就労状況について	10
（5）平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について	24
（6）地域の子育て支援事業の利用状況について	72
（7）土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について	80
（8）病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）	84
（9）不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	92
（10）小学校就学後の放課後の過ごし方について	101
（11）育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について	108
（12）子育て全般について	113
2 小学校児童の保護者	136
（1）住まいの地域について	136
（2）お子さんと家族の状況について	136
（3）こどもの育ちをめぐる環境について	139
（4）保護者の就労状況について	143
（5）地域の子育て支援事業の利用状況について	156
（6）病気の際の対応について	160
（7）不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	168
（8）放課後の過ごし方について	176
（9）子育て全般について	181
3 小学生	199
（1）あなたとご家族の状況について	199
（2）あなた自身のこと、家族との関係について	201
（3）地域での活動について	210
（4）将来についての考えについて	213

(5) ふだんの過ごし方について.....	215
(6) あなたのお考えについて.....	226
4 中学生	230
(1) あなたとご家族の状況について.....	230
(2) あなた自身のこと、家族との関係について.....	232
(3) 地域での活動について.....	240
(4) 将来についての考えについて.....	242
(5) 普段の過ごし方について.....	245
(6) あなたのお考えについて.....	255
5 高校生世代	259
(1) あなたとご家族の状況について.....	259
(2) あなた自身のこと、家族との関係について.....	261
(3) 地域での活動について.....	269
(4) 将来についての考えについて.....	271
(5) 普段の過ごし方について.....	274
(6) あなたのお考えについて.....	284
6 自由意見	288
(1) 就学前児童保護者.....	288
(2) 小学生児童保護者.....	289
(3) 小学生	293
(4) 中学生	293
(5) 高校生世代.....	294
7 調査結果の分析	295
(1) 前回調査との比較.....	295
(2) 抱えている悩み.....	300
(3) 行政に求めるサービス・施策.....	309
(4) 調査結果から考えられる支援の方向性.....	316

第1章 調査概要

1 調査の目的

「大田区子ども・子育て支援計画（計画期間：令和7年度～11年度）」の策定に向けて、大田区内に居住する子育て家庭の生活状況やニーズ等を把握し、教育・保育施設及び子ども子育て支援事業の需要量の見込み及び確保量を設定するための基礎資料とすることを目的として、調査を実施しました。

2 調査対象と期間等

- (1) 調査対象：大田区在住の就学前児童・小学校児童を持つ保護者、小学生（4年生～6年生）、中学生、高校生世代
- (2) 調査期間：令和5年12月20日～令和6年1月15日
- (3) 調査方法：郵送による配布・回収およびWeb回答（礼状を兼ねた督促を実施）

3 回収結果

区 分	配布数	回収数			回収率
		郵送	Web	合計	
就学前児童の保護者	2,500件	566件	601件	1,167件	46.7%
小学校児童の保護者	2,500件	560件	490件	1,050件	42.0%
小学生	1,250件	242件	124件	366件	29.3%
中学生	1,250件	216件	134件	350件	28.0%
高校生世代	1,250件	94件	123件	217件	17.4%
合 計	8,750件	1,678件	1,472件	3,150件	36.0%

4 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のn、回答者数とは基数となる実数のことです。
- 回答はn、回答者数を100%として百分率で算出しています。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがあります。
- 図・表中の「-」は回答者が皆無のものです。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- 一部の図・表について、クロス集計をする上で「無回答」を省略しているものがあります。
- 表において、最も多い割合のものに  (グレー) で網掛けをしています（無回答を除く）。

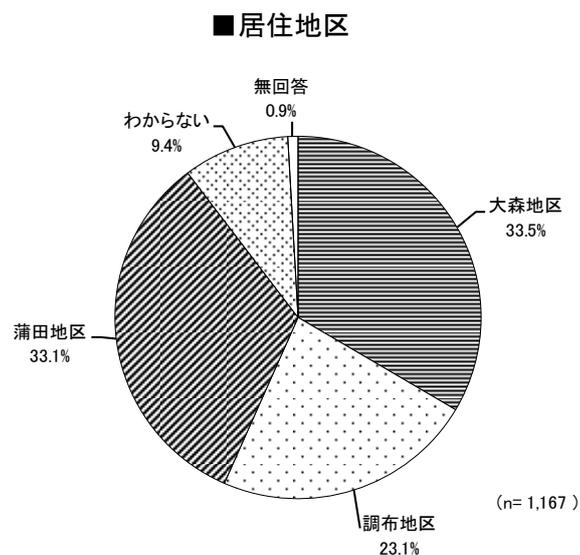
第2章 調査結果

1 就学前児童の保護者

(1) 住まいの地域について

問1 あなたのお住まいの地域（特別出張所）はどこですか。

「大森地区」(33.5%)、「調布地区」(23.1%)、「蒲田地区」(33.1%)となっています。



【居住地区】教育・保育提供区域による区域設定

大森地区：大森東、大森西、入新井、馬込池上、新井宿

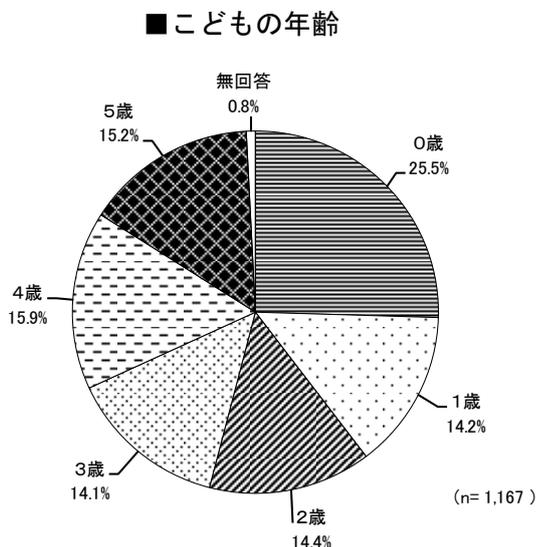
調布地区：嶺町、田園調布、鶉の木、久が原、雪谷、千束

蒲田地区：六郷、矢口、蒲田西、蒲田東、糀谷、羽田

(2) お子さんと家族の状況について

問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。

「0歳」(25.5%)、「1歳」(14.2%)、「2歳」(14.4%)、「3歳」(14.1%)、「4歳」(15.9%)、「5歳」(15.2%)となっています。



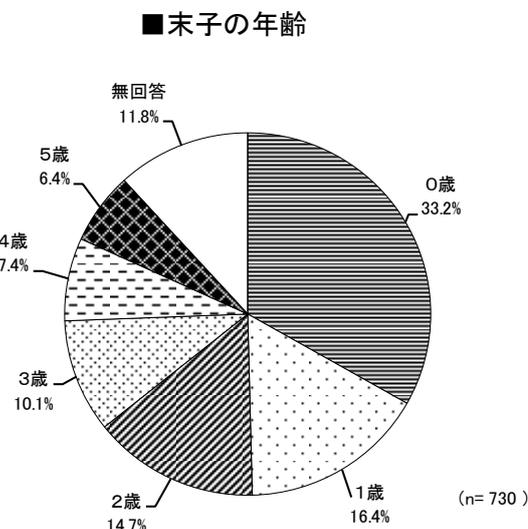
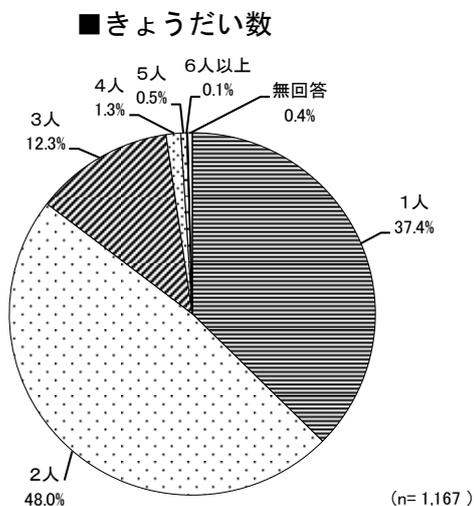
問3 宛名のお子さんの兄弟姉妹は何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数をご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

①きょうだい数

「2人」(48.0%)が最も多く、「1人」(37.4%)、「3人」(12.3%)と続きます。

②末子の年齢

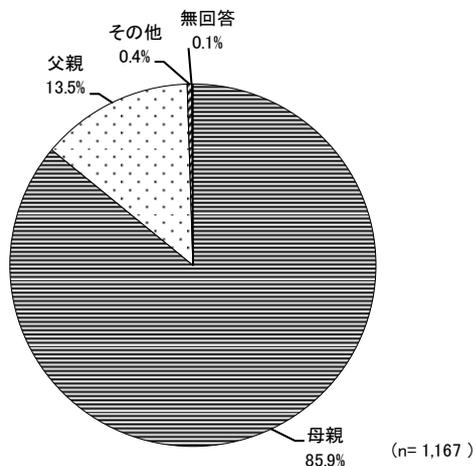
「0歳」(33.2%)が最も多く、「1歳」(16.4%)、「2歳」(14.7%)と続きます。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

「母親」(85.9%)、「父親」(13.5%)となっています。

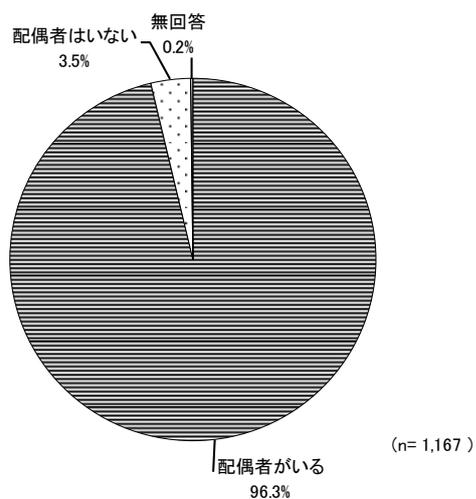
■ 調査票の回答者



問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

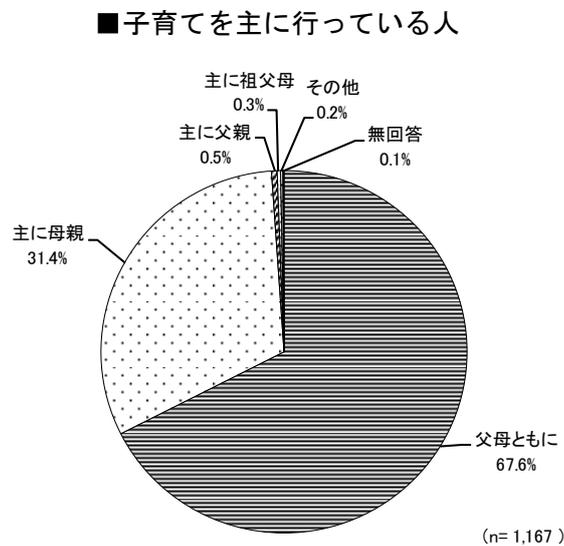
「配偶者がいる」(96.3%)、「配偶者がいない」(3.5%)となっています。

■ 調査回答者の配偶者の有無



問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

「父母ともに」(67.6%)が最も多く、「主に母親」(31.4%)、「主に父親」(0.5%)となっています。

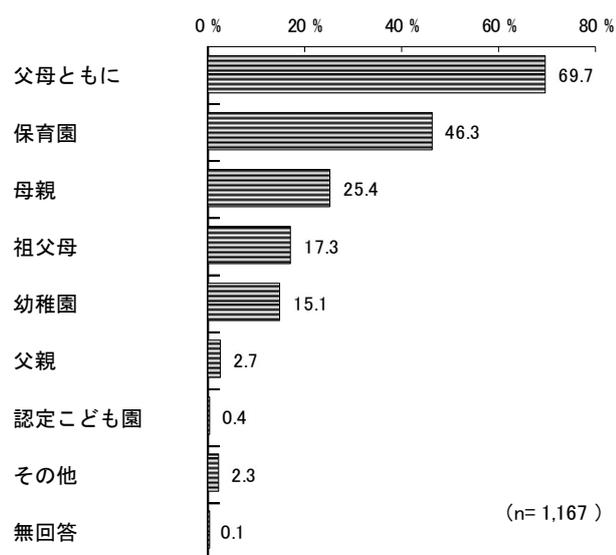


(3) こどもの育ちをめぐる環境について

問7 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。

「父母ともに」(69.7%)が最も多く、「保育園」(46.3%)、「母親」(25.4%)と続きます。

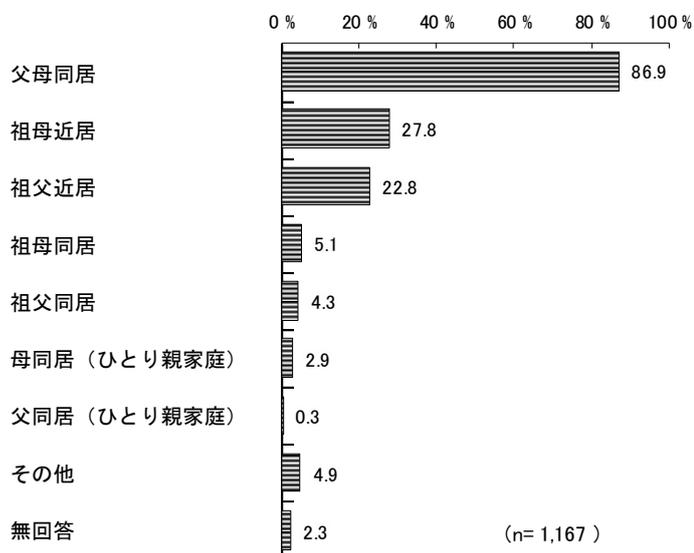
■子育て（教育を含む）に日常的に関わっている人（施設）（複数回答）



問8 宛名のお子さんとの同居・近居（およそ30分以内で行き来できる範囲）の状況についてうかがいます。

「父母同居」（86.9%）が最も多く、「祖母近居」（27.8%）、「祖父近居」（22.8%）と続きます。

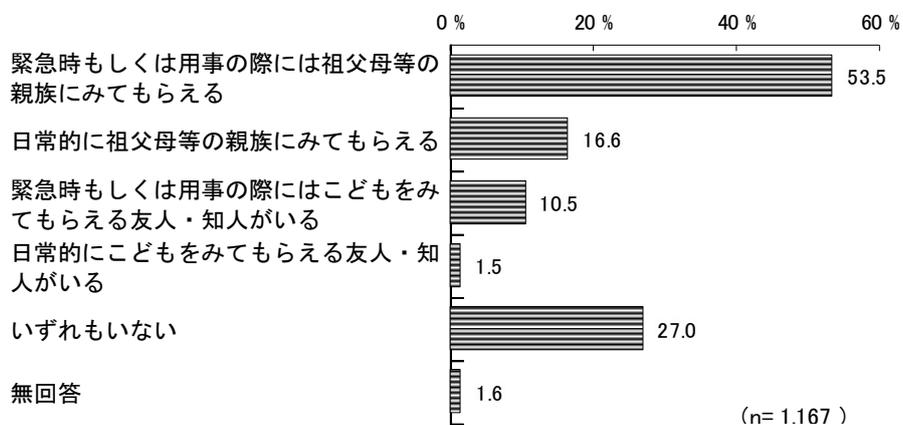
■同居・近居の状況（複数回答）



問9 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」（53.5%）が最も多く、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（16.6%）、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」（10.5%）と続きます。一方、「いずれもない」（27.0%）が2割半ばとなっており、約4人に1人が日頃お子さんをみてもらえる親族・知人がいないことが伺えます。

■子どもの面倒をみてくれる親族・知人の有無（複数回答）

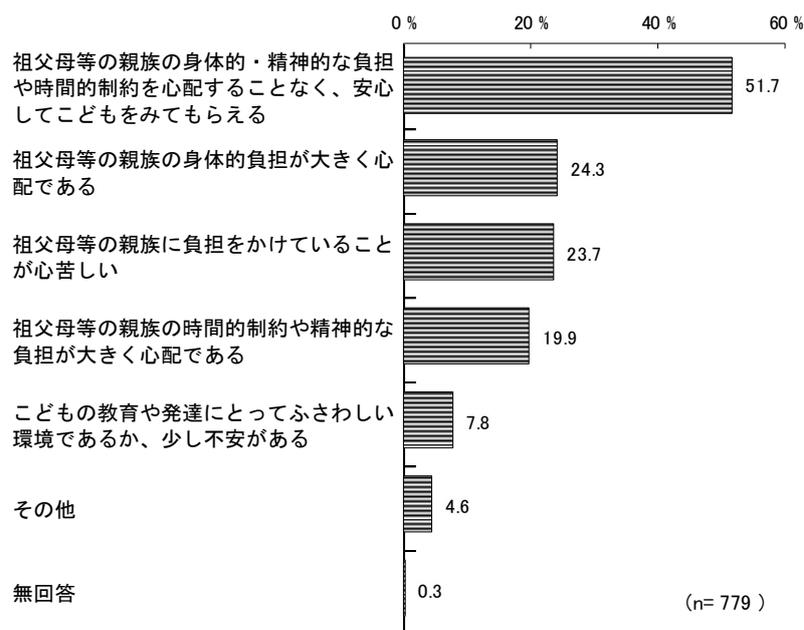


【問9で「1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」に○をつけた方】

問9-1 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(51.7%)が最も多く、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」(24.3%)、「祖父母等の親族に負担をかけていることが心苦しい」(23.7%)と続きます。

■祖父母等の親族に子どもをみてもらっている状況について（複数回答）

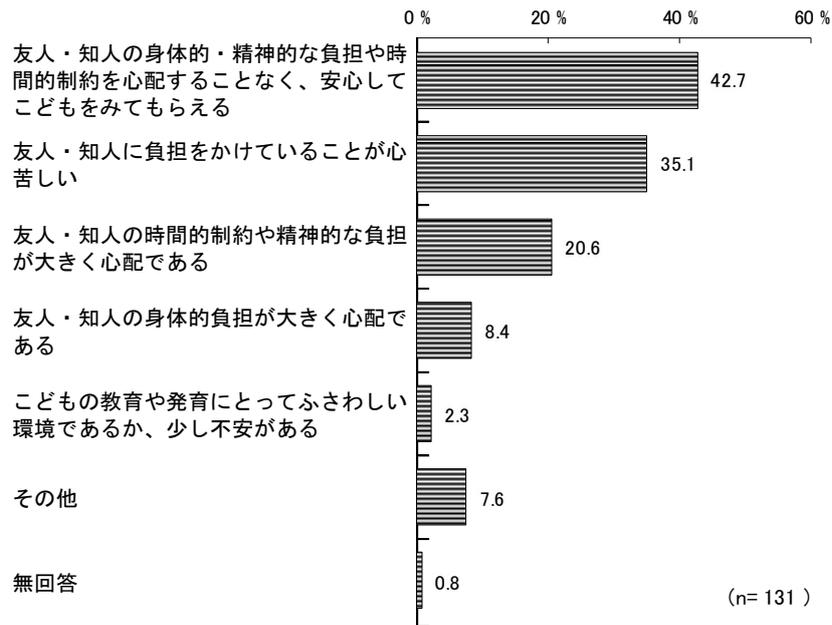


【問9で「3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」に○をつけた方】

問9-2 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(42.7%)が最も多く、「友人・知人に負担をかけていることが心苦しい」(35.1%)、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(20.6%)と続きます。

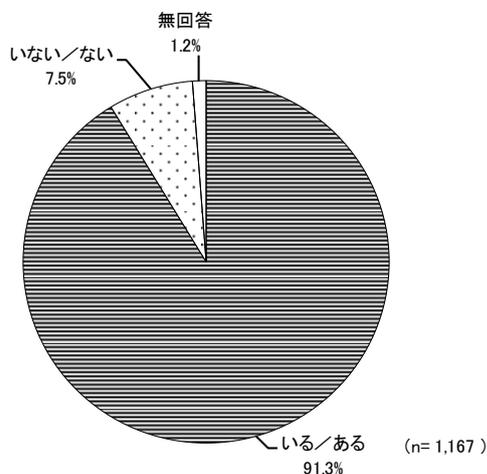
■友人・知人に子どもをみてもらっている状況について（複数回答）



問10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

「いる／ある」(91.3%)、「いない／ない」(7.5%)となっています。

■相談できる人・場所の有無

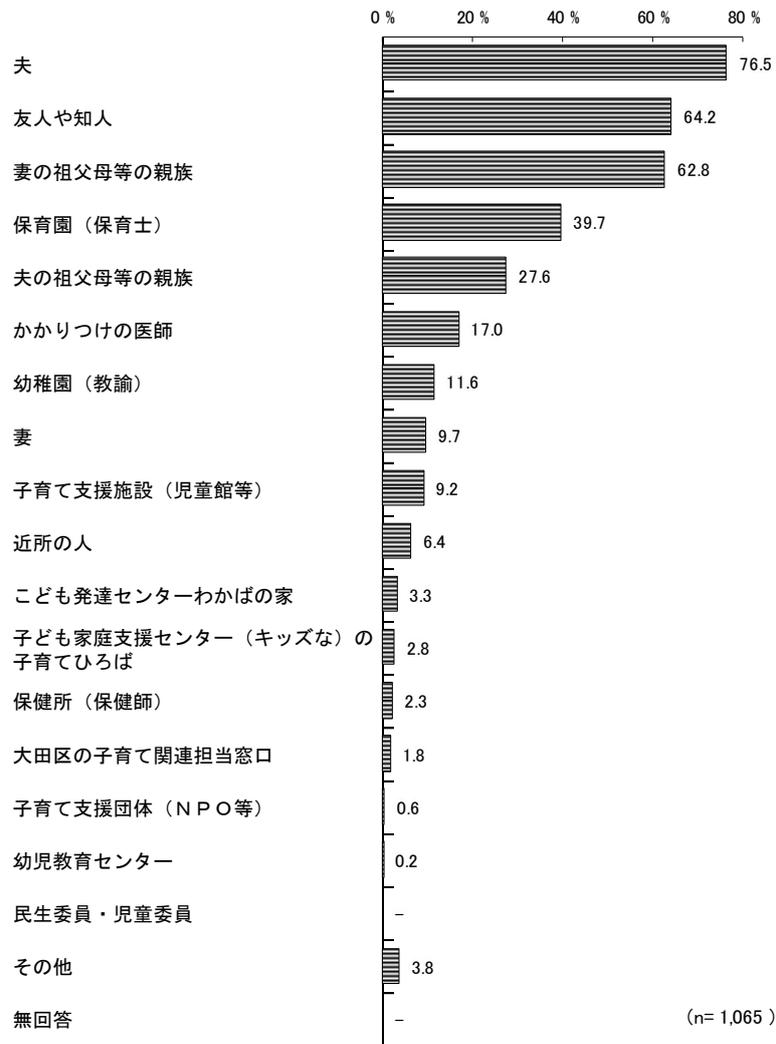


【問10で「1. いる／ある」に○をつけた方】

問10-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

「夫」（76.5%）が最も多く、「友人や知人」（64.2%）、「妻の祖父母等の親族」（62.8%）、「保育園（保育士）」（39.7%）、「夫の祖父母等の親族」（27.6%）と続きます。

■気軽にできる相談先（複数回答）



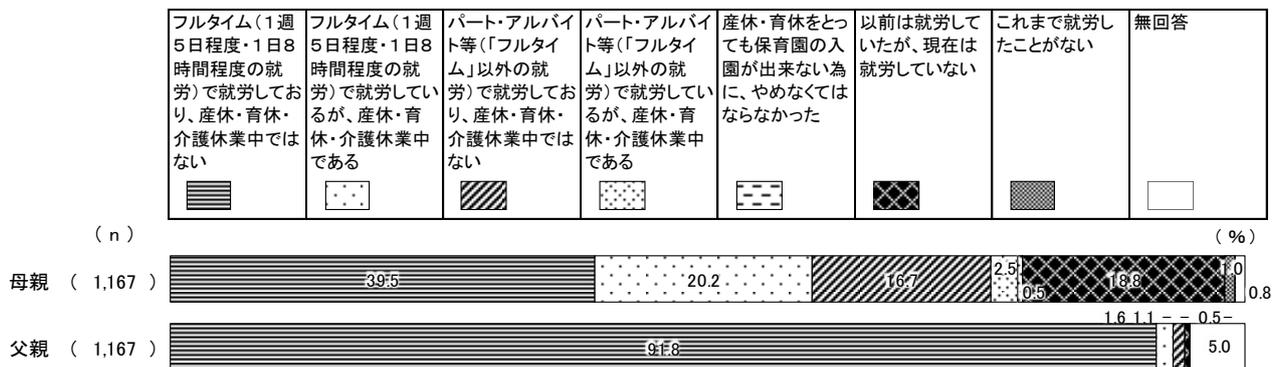
(4) 保護者の就労状況について

問 11 あて名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

母親は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（39.5%）が最も多く、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」（20.2%）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（18.8%）と続きます。

父親は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（91.8%）が最も多く、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」（1.6%）、「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（1.1%）と続きます。

■保護者の就労状況



【母親：年齢別】

年齢別にみると、“0歳”は「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」、それ以外の年齢は「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等(フルタイム)以外の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等(フルタイム)以外の就労)で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等(フルタイム)以外の就労)で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	産休・育休をとっても保育園の入园が出来ない為に、やめなくてはならなかった	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
全体	1,167	39.5	20.2	16.7	2.5	0.5	18.8	1.0	0.8	
0歳	298	17.8	50.0	9.1	5.0	0.3	16.8	1.0	0.0	
1歳	166	51.8	10.8	16.3	0.6	1.8	18.1	0.0	0.6	
2歳	168	47.6	14.9	14.3	1.8	0.0	20.2	1.2	0.0	
3歳	164	48.8	9.8	21.3	2.4	0.0	17.1	0.0	0.6	
4歳	185	42.2	9.2	25.4	0.0	0.0	20.5	1.6	1.1	
5歳	177	45.8	5.6	18.6	2.8	1.1	22.0	2.3	1.7	

【母親：経年比較】

前回調査と比べて、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である」「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が多く、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が少なくなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等(「フルタイム」以外の就労)で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	産休・育休をとつても保育園の入园が出来ない為に、やめなくてはならなかった	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
今回(R5)	1,167	39.5	20.2	16.7	2.5	0.5	18.8	1.0	0.8
前回(H30)	1,234	30.8	16.7	11.9	1.9	1.0	35.8	1.8	0.9

【(1) で「1.~4.」(就労している)に○をつけた方】

(1)-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。

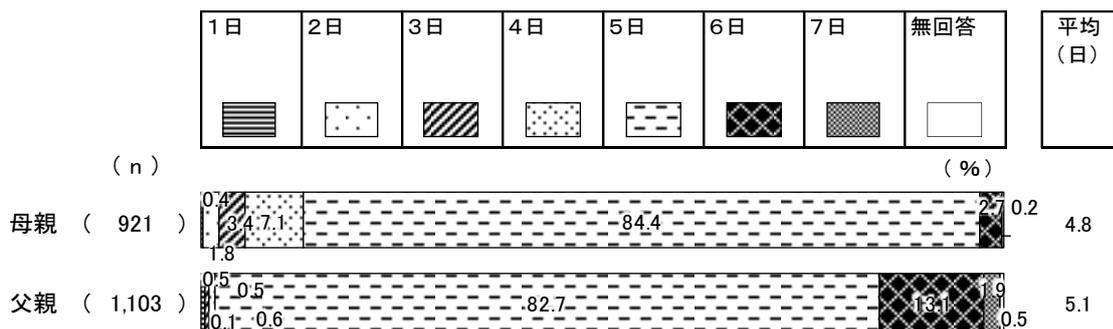
※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。

※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

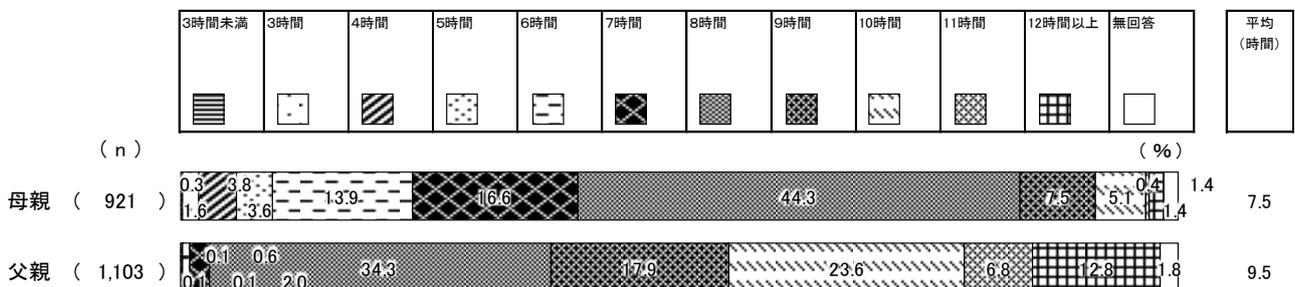
就労日数は、母親は「5日」(84.4%)が最も多く、「4日」(7.1%)、「3日」(3.4%)と続きます。1週当たりの平均就労日数は4.8日となっています。父親は、「5日」(82.7%)が最も多く、「6日」(13.1%)、「7日」(1.9%)と続きます。1週当たりの平均就労日数は5.1日となっています。

就労時間は、母親は「8時間」(44.3%)が最も多く、「7時間」(16.6%)、「6時間」(13.9%)と続きます。1日当たりの平均就労時間は7.5時間となっています。父親は、「8時間」(34.3%)が最も多く、「10時間」(23.6%)、「9時間」(17.9%)と続きます。1日当たりの平均就労時間は9.5時間となっています。

■ 1週当たりの就労日数



■ 1日当たりの就労時間



【(1) で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方】

(1)-2 土曜日・日曜日・祝日の勤務や夜勤はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

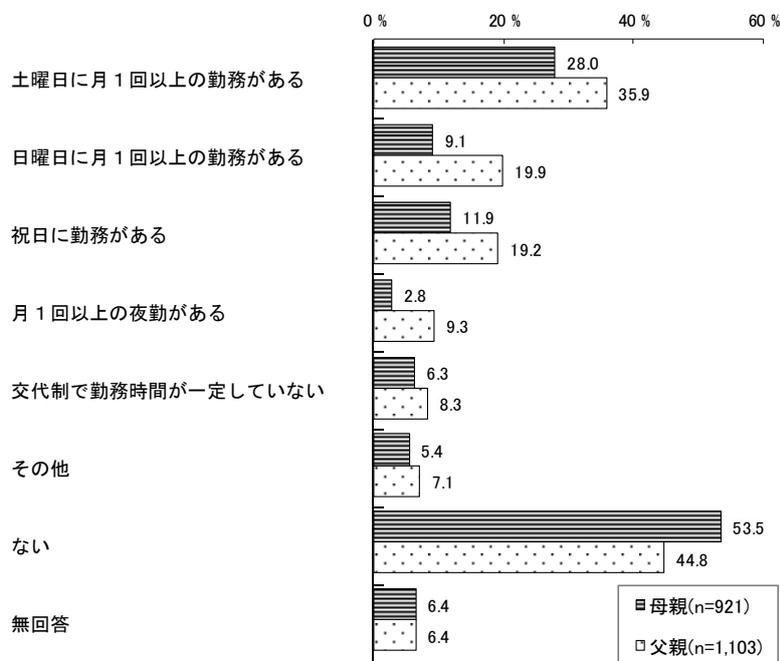
□内に数字でご記入ください。(時間は24時間制(例:午後6時→18時)でご記入ください。)

※「夜勤」とは深夜時間に労働することで、深夜労働の時間帯は「午後10時から午前5時まで」と労働基準法第61条で定義されています。

母親は「土曜日に月1回以上の勤務がある」(28.0%)が最も多く、「祝日に勤務がある」(11.9%)、「日曜日に月1回以上の勤務がある」(9.1%)と続きます。

父親は「土曜日に月1回以上の勤務がある」(35.9%)が最も多く、「日曜日に月1回以上の勤務がある」(19.9%)、「祝日に勤務がある」(19.2%)と続きます。

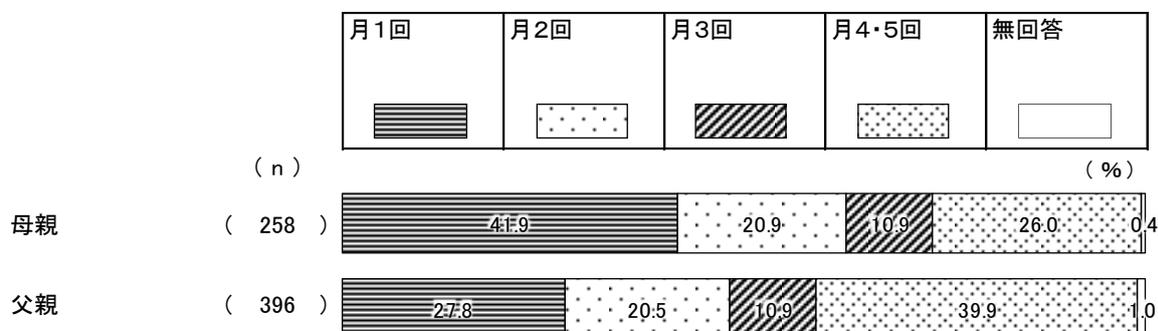
■土日、祝日の勤務や夜勤の状況



①月当たりの土曜日の就労回数

母親は「月1回」(41.9%)が最も多く、「月4・5回」(26.0%)と続きます。
 父親は「月4・5回」(39.9%)が最も多く、「月1回」(27.8%)と続きます。

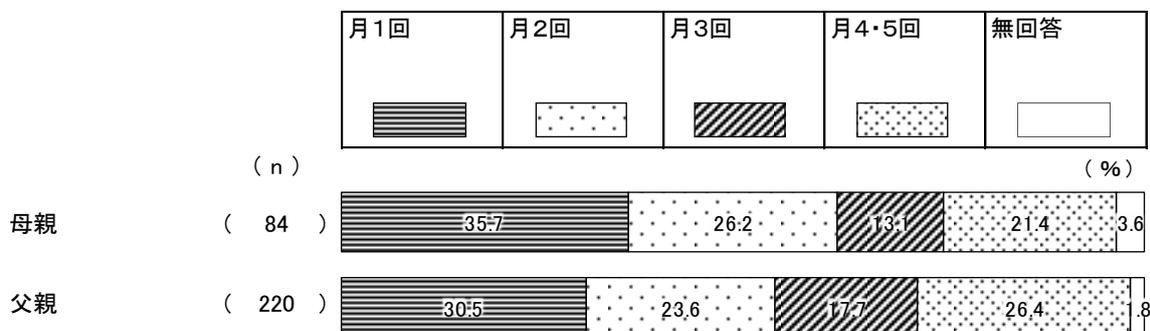
■月当たりの就労回数①土曜日



②月当たりの日曜日の就労回数

母親は「月1回」(35.7%)が最も多く、「月2回」(26.2%)、「月4・5回」(21.4%)と続きます。
 父親は「月1回」(30.5%)が最も多く、「月4・5回」(26.4%)、「月2回」(23.6%)と続きます。

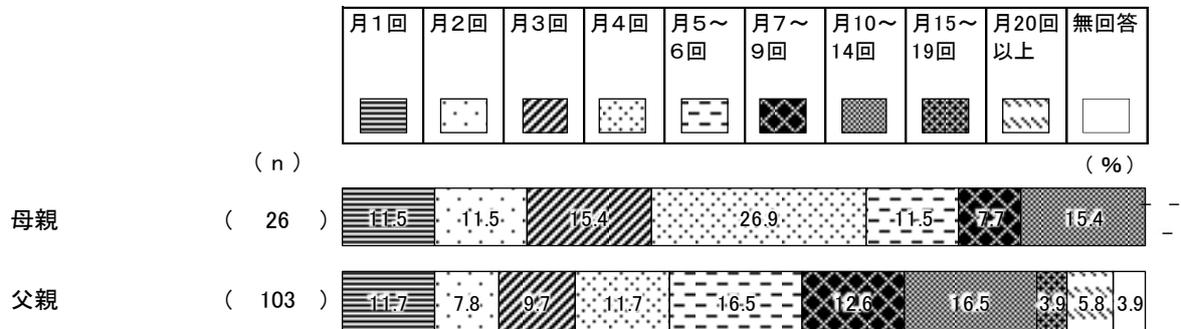
■月当たりの就労回数②日曜日



③月当たりの夜勤の就労回数

母親は「月4回」(26.9%)が最も多く、「月3回」(15.4%)、「月10～14回」(15.4%)と続きます。
 父親は「月5～6回」「月10～14回」(16.5%)が最も多く、「月7～9回」(12.6%)と続きます。

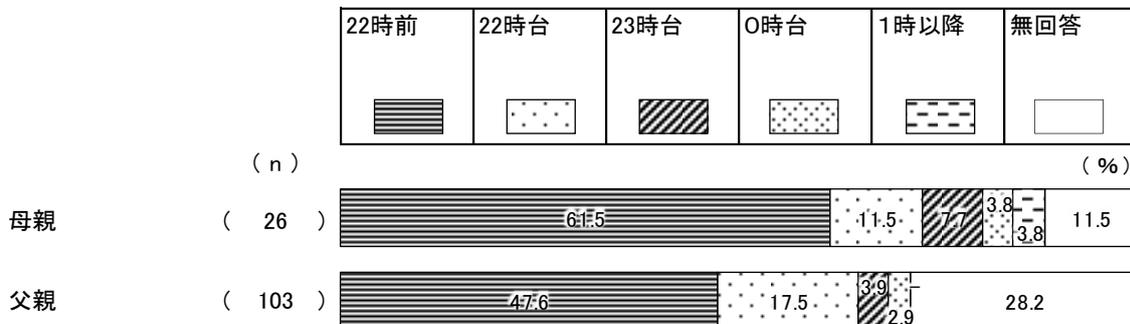
■月当たりの就労回数



④夜勤開始時間

母親は「22時前」(61.5%)が最も多く、「22時台」(11.5%)、「23時台」(7.7%)と続きます。
 父親は「22時前」(47.6%)が最も多く、「22時台」(17.5%)、「23時台」(3.9%)と続きます。

■夜勤開始時間

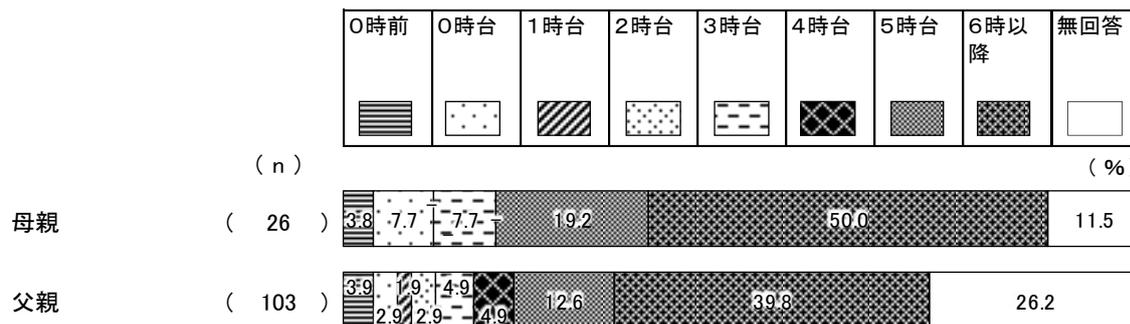


⑤夜勤終了時間

母親は「6時以降」(50.0%)が最も多く、「5時台」(19.2%)、「0時台」「3時台」(7.7%)と続きます。

父親は「6時以降」(39.8%)が最も多く、「5時台」(12.6%)、「3時台」「4時台」(4.9%)と続きます。

■夜勤終了時間



【就労している方】

(1)-3 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。

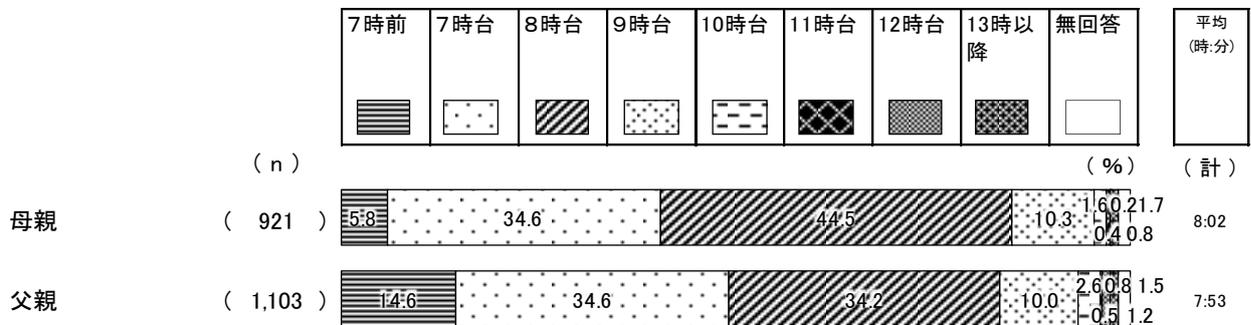
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

(□内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。時間は24時間制(例：午後6時→18時)でご記入ください。)

母親は、「8時台」(44.5%)が最も多く、「7時台」(34.6%)、「9時台」(10.3%)と続きます。平均時刻は8時2分となっています。

父親は、「7時台」(34.6%)が最も多く、「8時台」(34.2%)、「7時前」(14.6%)と続きます。平均時刻は7時53分となっています。

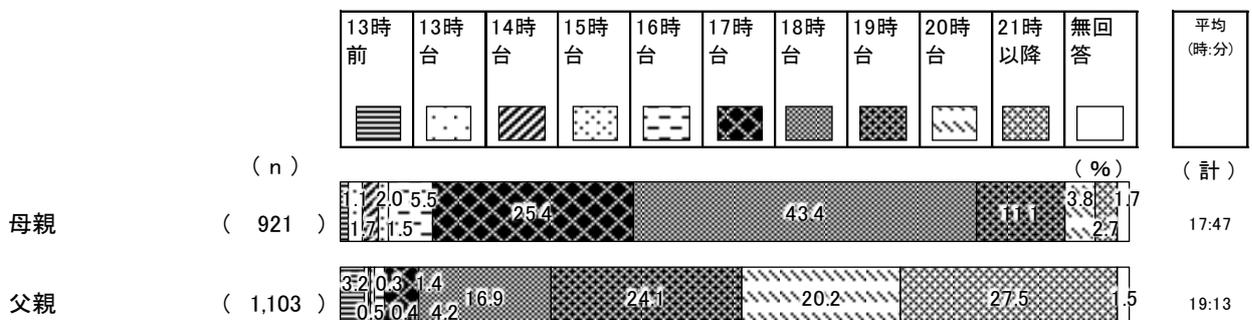
■家を出る時間



母親は、「18時台」(43.4%)が最も多く、「17時台」(25.4%)、「19時台」(11.1%)と続きます。平均時刻は17時47分となっています。

父親は、「21時以降」(27.5%)が最も多く、「19時台」(24.1%)、「20時台」(20.2%)と続きます。平均時刻は19時13分となっています。

■帰宅時間



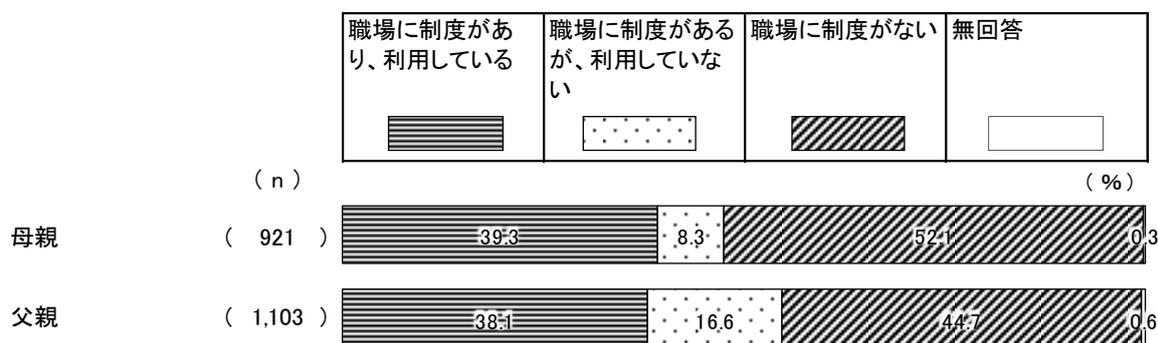
【就労している方】

(1) - 4 職場での在宅勤務（テレワーク）制度の導入状況及びあなたの利用状況についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

母親は、「職場に制度がない」(52.1%)が最も多く、「職場に制度があり、利用している」(39.3%)、「職場に制度があるが、利用していない」(8.3%)と続きます。

父親は、「職場に制度がない」(44.7%)が最も多く、「職場に制度があり、利用している」(38.1%)、「職場に制度があるが、利用していない」(16.6%)と続きます。

■職場でのテレワーク制度の導入状況及び利用状況



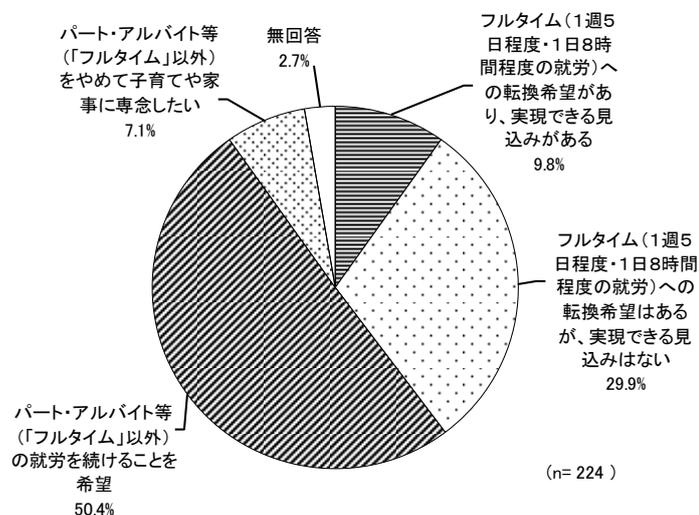
【パート・アルバイト等で就労している方】

問12 フルタイムへの転換希望はありますか。

母親は「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」（50.4%）が最も多く、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」（29.9%）、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある」（9.8%）と続きます。

父親は「パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望」が7件、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある」が2件、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が2件となっています。

■フルタイムへの転換希望／母親

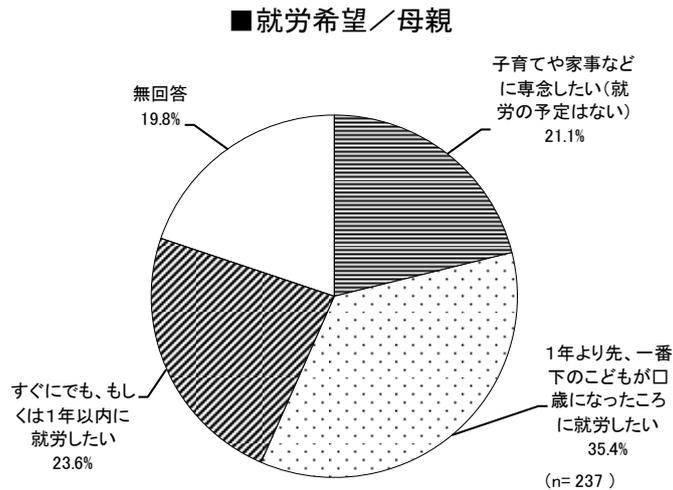


【就労していない方】

問 13 就労したいという希望はありますか。

母親は「1年より先、一番下のこどもが□歳になったところに就労したい」(35.4%)が最も多く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(23.6%)、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」(21.1%)と続きます。

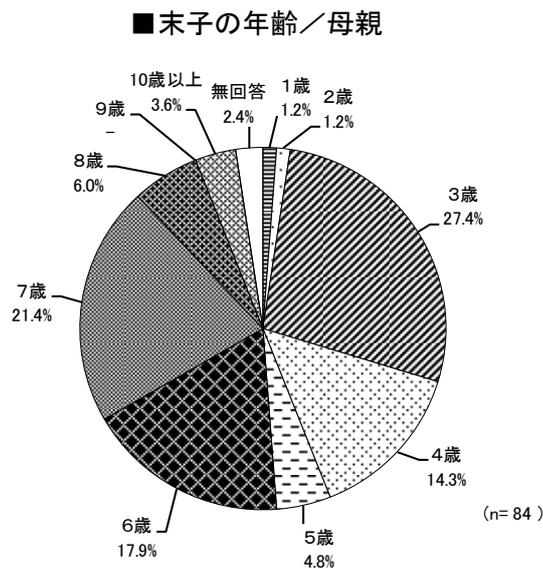
父親は「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」が2件、「1年より先、一番下のこどもが□歳になったところに就労したい」が1件、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が2件となっています。



①こどもの年齢(1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい)

母親は「3歳」(27.4%)が最も多く、「7歳」(21.4%)、「6歳」(17.9%)と続きます。

父親は「10歳以上」が1件となっています。

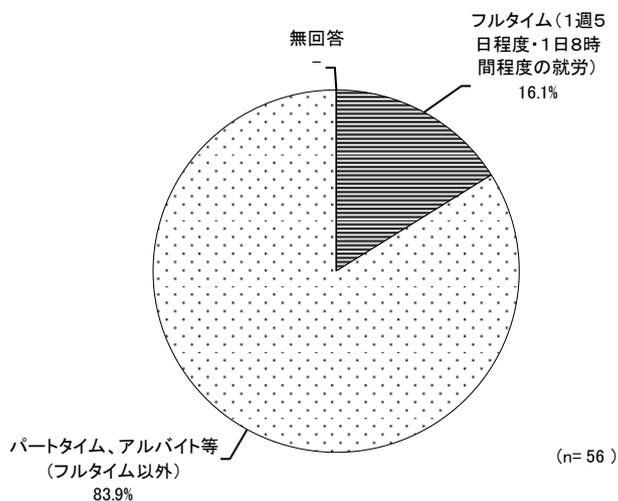


②希望する就労形態（すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい）

母親は、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」（16.1%）、「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」（83.9%）となっています。

父親は「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が2件となっています。

■希望する就労形態／母親



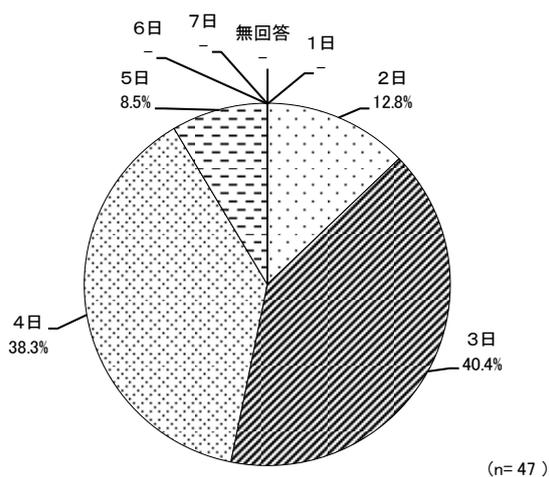
ア 1週当たり就労日数：母親

「3日」（40.4%）が最も多く、「4日」（38.3%）、「2日」（12.8%）と続きます。

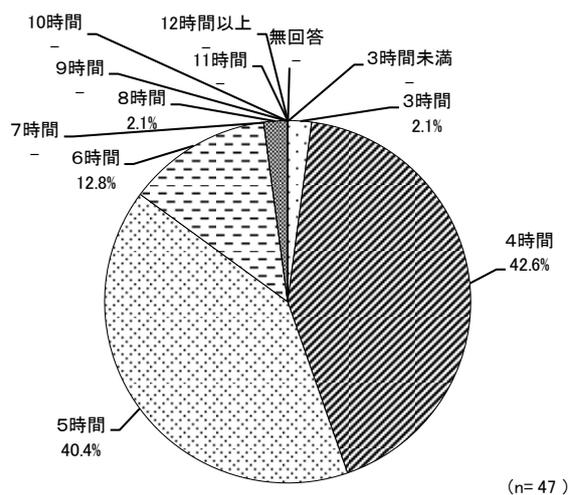
イ 1日当たり就労時間：母親

「4時間」（42.6%）が最も多く、「5時間」（40.4%）、「6時間」（12.8%）と続きます。

■1週当たり就労日数／母親



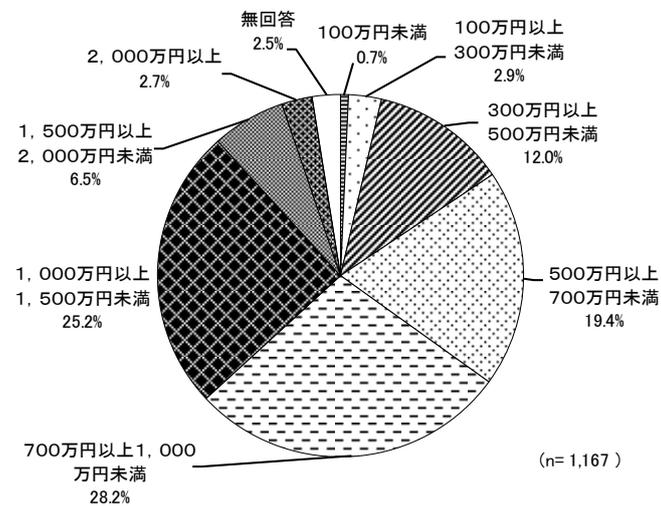
■1日当たり就労時間／母親



問 14 昨年の子間の世帯の総収入はどのくらいですか。生計を一つにする世帯の収入でお答えください。

「700万円以上1,000万円未満」(28.2%)が最も多く、「1,000万円以上1,500万円未満」(25.2%)、「500万円以上700万円未満」(19.4%)と続きます。

■年間世帯総収入



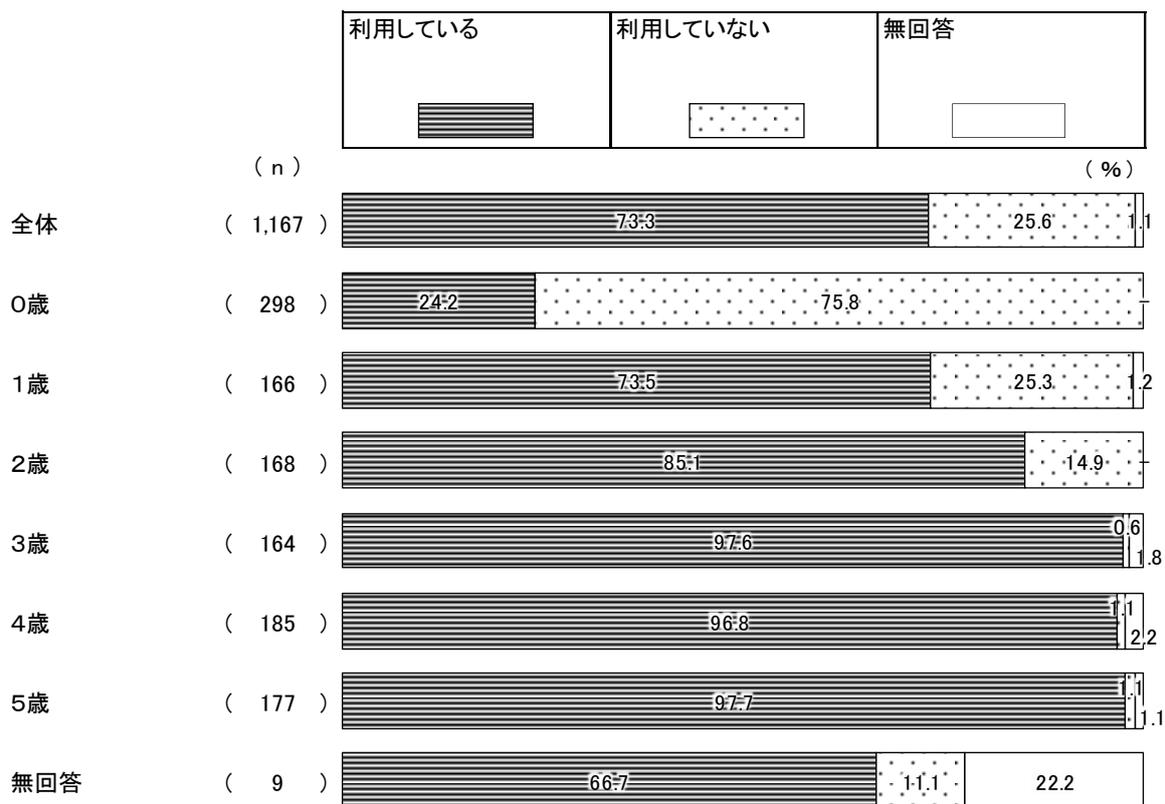
(5) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

問 15 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。

「利用している」(73.3%)、「利用していない」(25.6%)となっています。

年齢別にみると、“0歳”は「利用していない」が7割半ばとなっています。年齢が上がるにつれて「利用している」が多くなる傾向がみられ、3歳以上では100%に近い利用となっています。

■ 定期的な教育・保育事業の利用有無



【母親の就労状況別】

定期的な教育・保育事業を「利用している」は、“フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない” (95.7%)、“パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない” (90.3%)、“産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった” “これまで就労したことがない” (ともに 66.7%) となっています。

(単位:%)

	有効回答者数	利用している	利用していない	無回答
全体	1,167	73.3	25.6	1.1
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	461	95.7	3.0	1.3
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	236	34.3	65.7	0.0
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	195	90.3	8.2	1.5
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	29	37.9	62.1	0.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	6	66.7	33.3	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	219	58.0	40.6	1.4
これまで就労したことがない	12	66.7	33.3	0.0

【経年比較】

前回調査と比べて、「利用している」割合が多くなっています。

(単位:%)

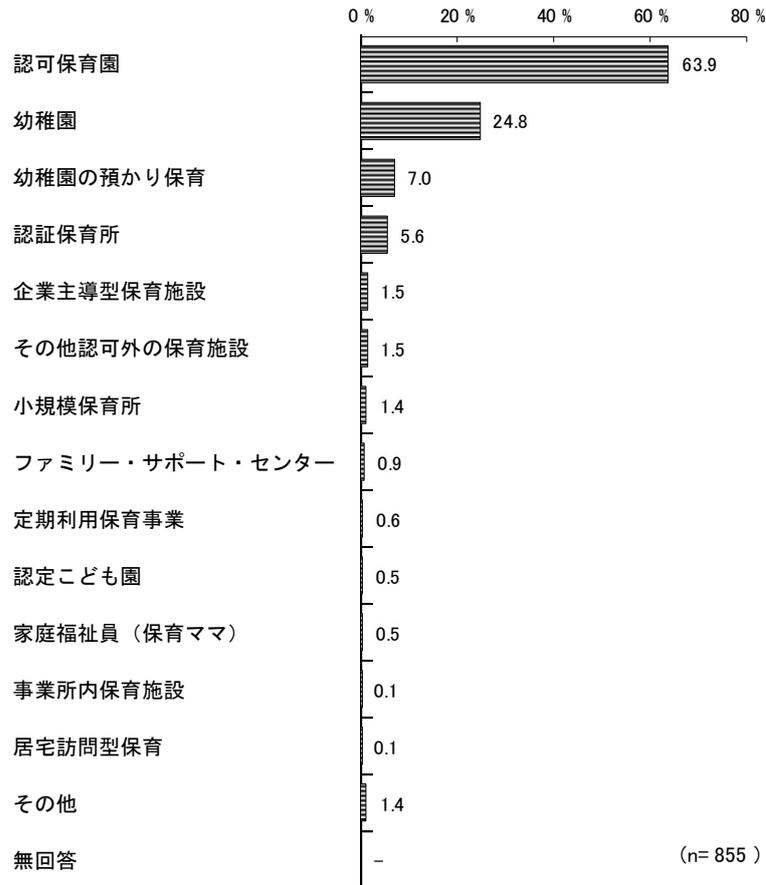
	有効回答者数	利用している	利用していない	無回答
今回(R5)	1,167	73.3	25.6	1.1
前回(H30)	1,234	66.5	33.4	0.2

【問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方】

問 15-1 宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。

「認可保育園」(63.9%)が最も多く、「幼稚園」(24.8%)、「幼稚園の預かり保育」(7.0%)、「認証保育所」(5.6%)、「企業主導型保育施設」(1.5%)、「その他認可外の保育施設」(1.5%)と続きます。

■利用している教育・保育事業（複数回答）



【地区別】

すべての地区で「認可保育園」の割合が最も多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	855	24.8	7.0	63.9	0.5	1.4	0.5	0.1	5.6	1.5	0.6	1.5	0.1	0.9	1.4	0.0
大森地区	285	29.1	9.5	62.5	1.1	1.4	0.4	0.0	4.6	0.4	0.7	1.8	0.0	0.7	1.1	0.0
調布地区	206	27.2	8.3	60.2	0.0	1.0	0.5	0.0	5.8	1.0	1.0	3.4	0.0	1.9	1.9	0.0
蒲田地区	278	19.8	4.3	66.2	0.4	2.2	0.7	0.4	5.8	3.2	0.4	0.4	0.0	0.4	1.4	0.0

【年齢別】

すべての年齢で「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	855	24.8	7.0	63.9	0.5	1.4	0.5	0.1	5.6	1.5	0.6	1.5	0.1	0.9	1.4	0.0
0歳	72	2.8	0.0	75.0	1.4	0.0	5.6	0.0	11.1	5.6	0.0	1.4	0.0	0.0	2.8	0.0
1歳	122	0.8	0.8	77.9	0.0	3.3	0.0	0.0	10.7	3.3	0.8	1.6	0.0	0.0	0.8	0.0
2歳	143	11.9	0.7	71.3	0.0	5.6	0.0	0.0	6.3	1.4	2.1	1.4	0.7	2.1	0.7	0.0
3歳	160	28.1	8.8	61.9	0.6	0.0	0.0	0.6	5.0	1.3	0.0	1.9	0.0	1.3	1.3	0.0
4歳	179	39.1	15.1	55.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.6	2.2	0.0	0.6	2.2	0.0
5歳	173	43.4	9.8	54.3	1.2	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.6	0.0	1.2	1.2	0.0

【母親の就労状況別】

“フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない” “フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である” “パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない” “パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である” は「認可保育園」、 “産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった” “以前は就労していたが、現在は就労していない” は「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	855	24.8	7.0	63.9	0.5	1.4	0.5	0.1	5.6	1.5	0.6	1.5	0.1	0.9	1.4	0.0
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	441	5.4	2.0	83.7	0.7	1.4	0.5	0.2	5.2	2.0	0.2	2.0	0.2	1.1	1.1	0.0
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	81	4.9	1.2	82.7	0.0	1.2	0.0	0.0	7.4	2.5	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	176	32.4	19.9	51.7	0.0	2.3	1.1	0.0	9.1	1.1	1.7	1.1	0.0	0.6	1.1	0.0
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	11	27.3	9.1	63.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	127	87.4	9.4	6.3	0.8	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.8	0.8	0.0	0.8	3.9	0.0
これまで就労したことがない	8	100.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【経年比較】

前回調査と比べて、「認可保育園」が多く、「幼稚園」が少なくなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
今回 (R5)	855	24.8	7.0	63.9	0.5	1.4	0.5	0.1	5.6	1.5	0.6	1.5	0.1	0.9	1.4	0.0
前回 (H30)	820	36.8	8.5	48.5	—	1.5	0.5	0.1	7.2	0.9	0.7	2.3	—	1.2	2.3	0.2

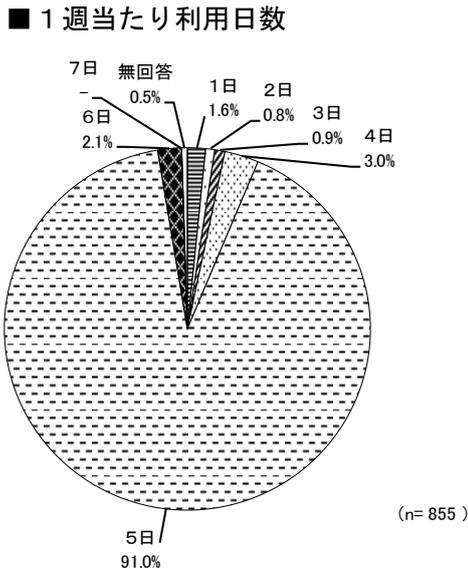
【問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方】

問 15-2 平日に定期的に利用している教育・保育事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。

①現在

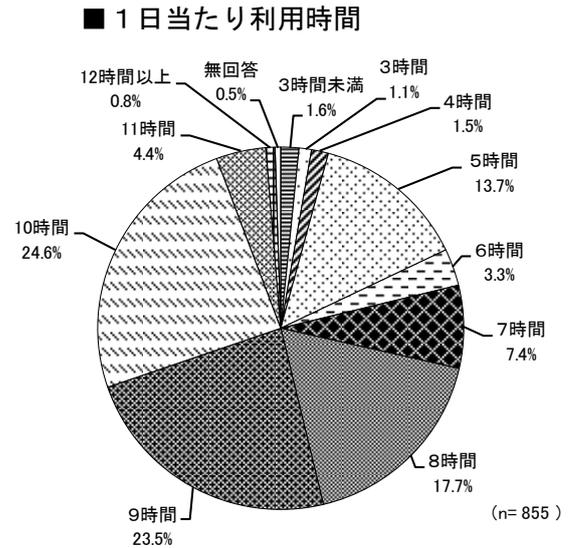
ア 1週当たり利用日数

「5日」(91.0%)が最も多く、「4日」(3.0%)、「6日」(2.1%)と続きます。



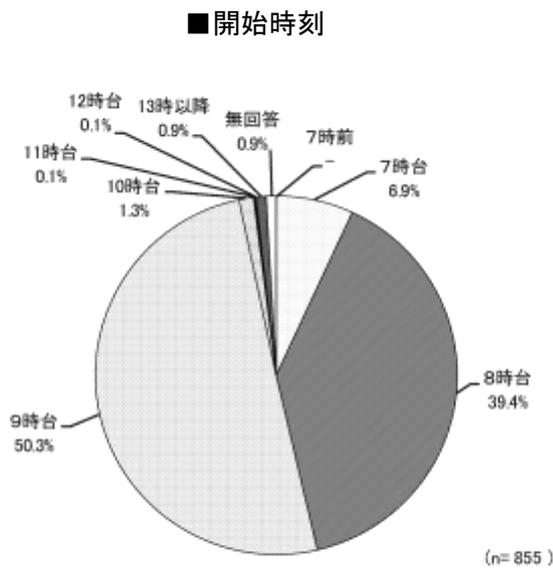
イ 1日当たり利用時間

「10時間」(24.6%)が最も多く、「9時間」(23.5%)、「8時間」(17.7%)と続きます。



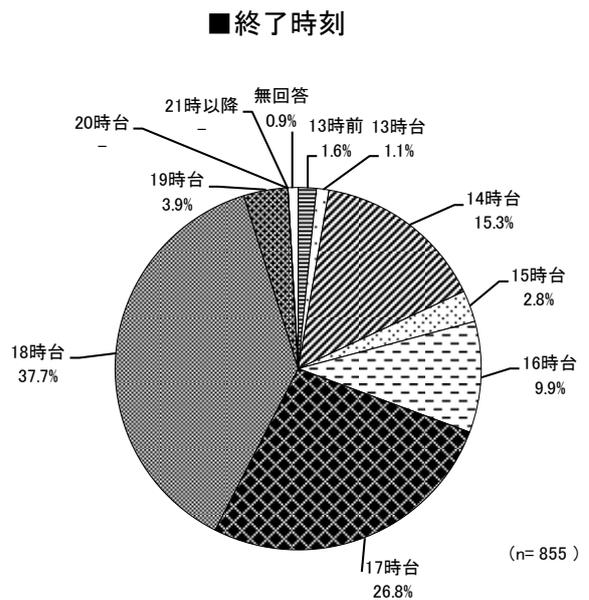
ウ 開始時刻

「9時台」(50.3%)が最も多く、「8時台」(39.4%)、「7時台」(6.9%)と続きます。



エ 終了時刻

「18時台」(37.7%)が最も多く、「17時台」(26.8%)、「14時台」(15.3%)と続きます。

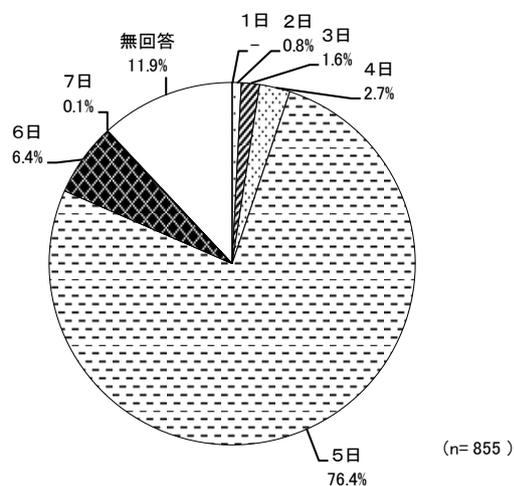


②希望

ア 1週当たり利用日数

「5日」(76.4%)が最も多く、「6日」(6.4%)、「4日」(2.7%)と続きます。

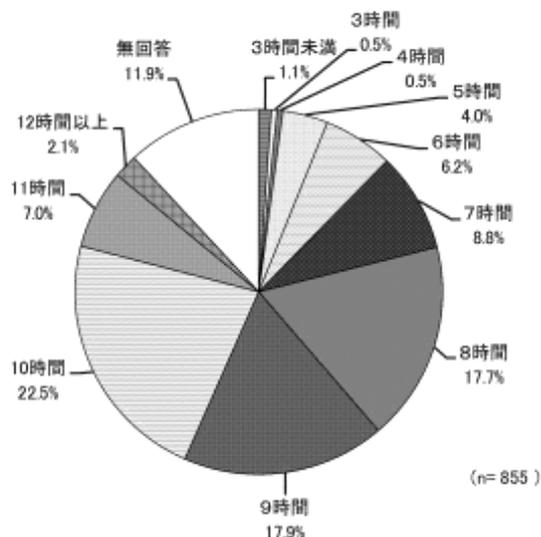
■ 1週当たり利用日数



イ 1日当たり利用時間

「10時間」(22.5%)が最も多く、「9時間」(17.9%)、「8時間」(17.7%)と続きます。

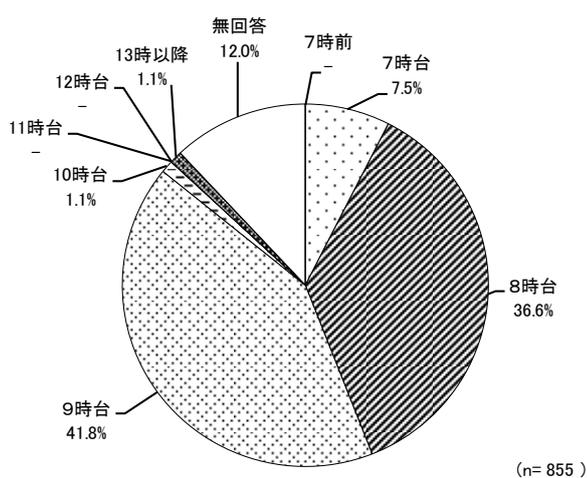
■ 1日当たり利用時間



ウ 開始時刻

「9時台」(41.8%)が最も多く、「8時台」(36.6%)、「7時台」(7.5%)と続きます。

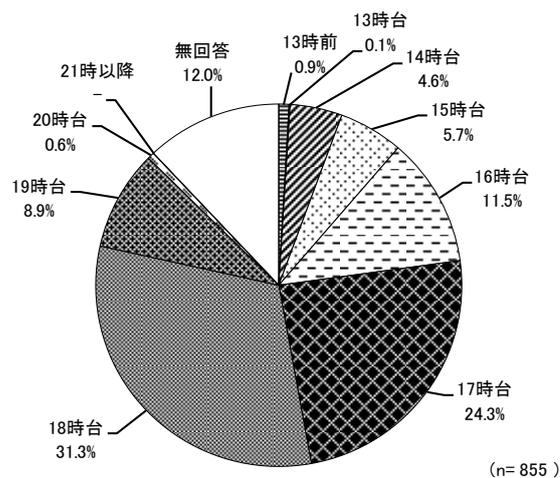
■ 開始時刻



エ 終了時刻

「18時台」(31.3%)が最も多く、「17時台」(24.3%)、「16時台」(11.5%)と続きます。

■ 終了時刻

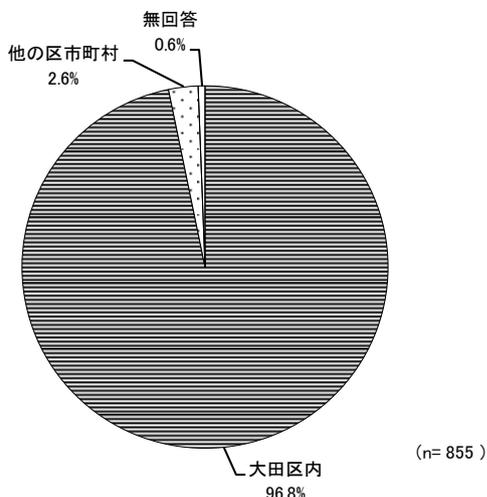


【問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方】

問 15-3 現在、利用している教育・保育事業の実施場所についてうかがいます。

「大田区内」(96.8%)、「他の区市町村」(2.6%)となっています。

■利用している教育・保育事業の実施場所

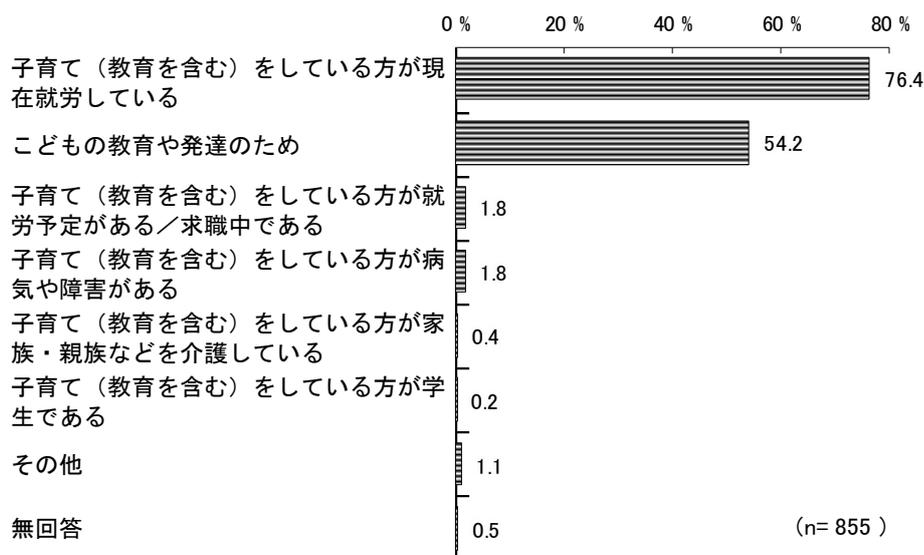


【問 15 で「1. 利用している」に○をつけた方】

問 15-4 平日に定期的に教育・保育の事業を利用されている理由についてうかがいます。

「子育て（教育を含む）をしている方が現在就労している」(76.4%)が最も多く、「こどもの教育や発達のため」(54.2%)、「子育て（教育を含む）をしている方が就労予定がある／求職中である」「子育て（教育を含む）をしている方が病気や障害がある」（ともに1.8%）と続きます。

■教育・保育事業を利用している理由（複数回答）

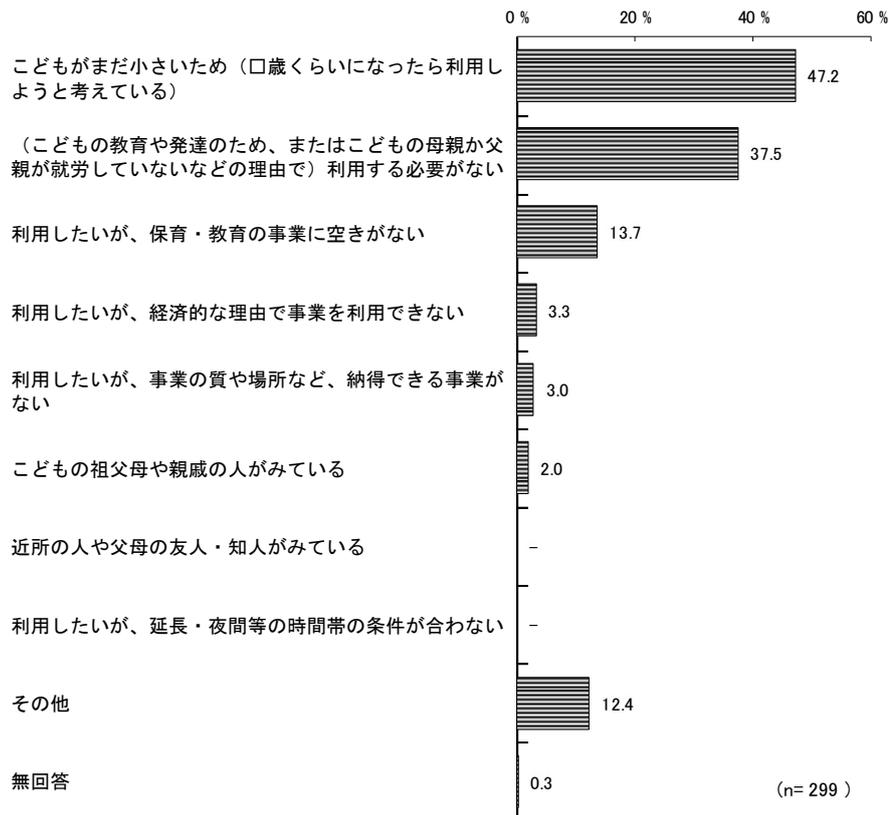


【問 15 で「2. 利用していない」に○をつけた方】

問 15-5 利用していない理由は何ですか。

「こどもがまだ小さいため（□歳くらいになったら利用しようと考えている）」（47.2%）が最も多く、「（こどもの教育や発達のため、またはこどもの母親か父親が就労していないなどの理由で）利用する必要がない」（37.5%）、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」（13.7%）と続きます。

■教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）



【年齢別】

“0歳”は「こどもがまだ小さいため()歳くらいになったら利用しようと考えている」、それ以外の年齢は「(こどもの教育や発達のため、またはこどもの母親か父親が就労していないなどの理由で)利用する必要がない」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	利用する必要がない	こどもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	こどもがまだ小さいため	その他	無回答
全体	299	37.5	2.0	0.0	13.7	3.3	0.0	3.0	47.2	12.4	0.3
0歳	226	30.1	1.3	0.0	15.0	2.7	0.0	2.2	53.5	11.1	0.4
1歳	42	57.1	4.8	0.0	14.3	2.4	0.0	4.8	31.0	16.7	0.0
2歳	25	60.0	4.0	0.0	4.0	12.0	0.0	8.0	24.0	20.0	0.0
3歳	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
4歳	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
5歳	2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【母親の就労状況別】

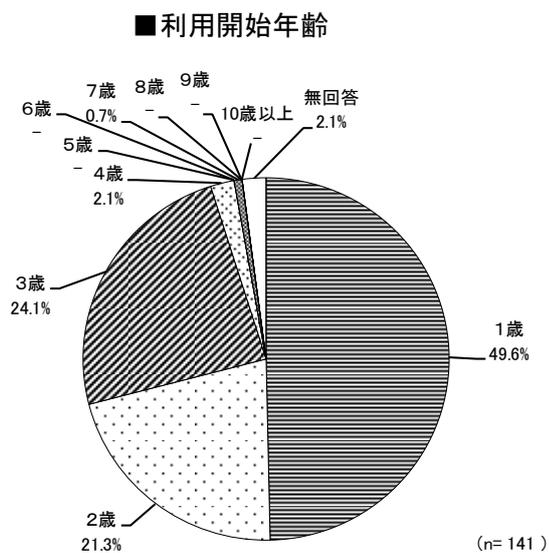
“フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である”は「こどもがまだ小さいため（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている）、“以前は就労していたが、現在は就労していない”は「(こどもの教育や発達のために、またはこどもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	利用する必要がない	こどもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	こどもがまだ小さいため	その他	無回答
全体	299	37.5	2.0	0.0	13.7	3.3	0.0	3.0	47.2	12.4	0.3
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	14	14.3	14.3	0.0	28.6	7.1	0.0	0.0	50.0	14.3	0.0
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	155	27.1	1.3	0.0	16.1	1.3	0.0	1.9	57.4	14.2	0.0
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	16	37.5	12.5	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	37.5	6.3	0.0
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	18	33.3	0.0	0.0	27.8	5.6	0.0	0.0	27.8	22.2	0.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	89	60.7	0.0	0.0	4.5	3.4	0.0	5.6	37.1	7.9	1.1
これまで就労したことがない	4	25.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0

①こどもの年齢（ ）歳くらいになったら利用しようと考えている

「1歳」(49.6%)が最も多く、「3歳」(24.1%)、「2歳」(21.3%)、「4歳」(2.1%)と続きます。



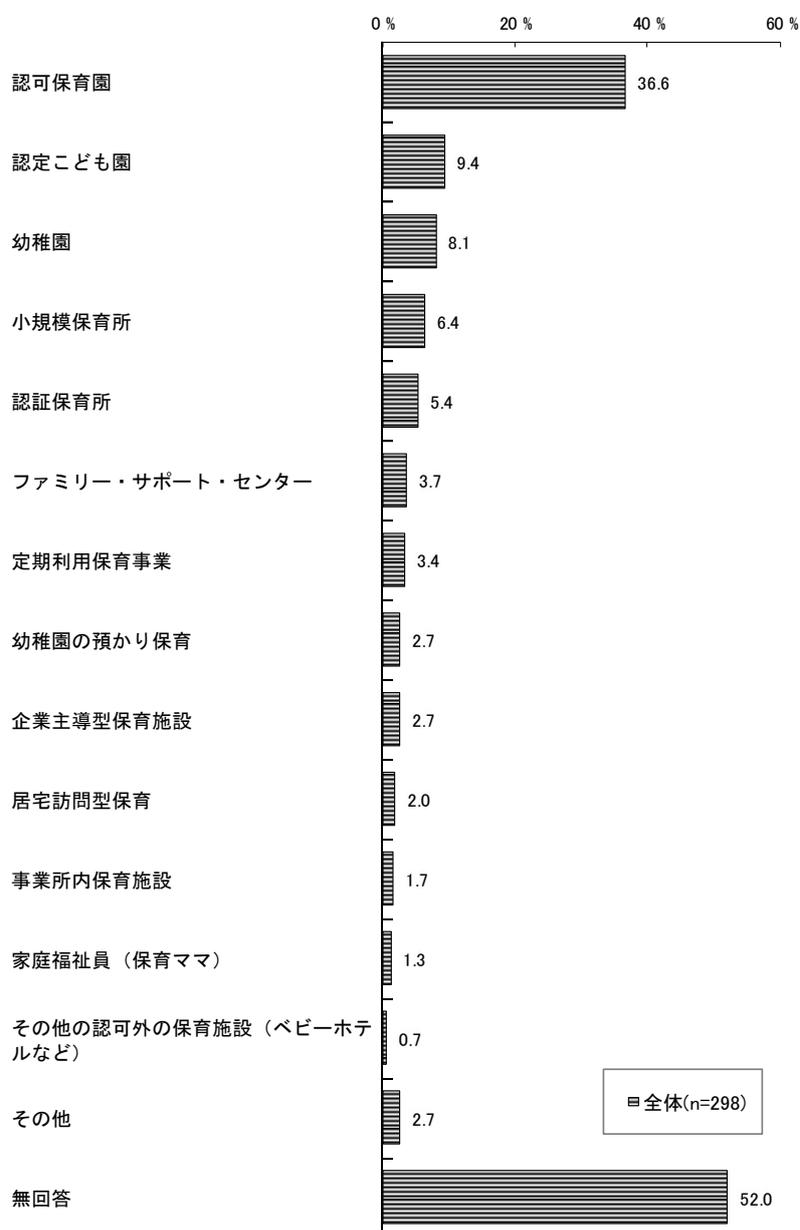
問 16 宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業について、年齢ごとに希望する事業を【A群：希望する教育・保育事業】から3つまで番号を記入してください。（現在のお子さんの年齢以降、5歳までについてお答えください。）また、その事業を希望する上で重視する条件について、あてはまる条件を【B群：事業を希望する上で重視する条件】から3つまで番号を記入してください。あわせて、1週当たりの利用希望日数、1日当たりの利用希望時間もご記入ください。

① A群：希望する教育・保育事業

ア 0歳

「認可保育園」(36.6%)が最も多く、「認定こども園」(9.4%)、「幼稚園」(8.1%)、「小規模保育所」(6.4%)と続きます。

■希望する教育・保育事業：0歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

“産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった”、“これまで就労したことがない”を除いたすべての就労状況で「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	298	8.1	2.7	36.6	9.4	6.4	1.3	1.7	5.4	2.7	3.4	0.7	2.0	3.7	2.7	52.0
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	53	3.8	0.0	17.0	5.7	0.0	1.9	1.9	3.8	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	79.2
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	149	6.0	0.7	46.3	12.1	8.7	0.7	2.0	6.7	3.4	2.7	0.7	1.3	4.0	2.7	45.0
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	27	7.4	7.4	33.3	11.1	3.7	3.7	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	15	0.0	0.0	40.0	0.0	6.7	0.0	0.0	6.7	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	6.7	53.3
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	50	22.0	10.0	32.0	8.0	6.0	2.0	2.0	2.0	4.0	6.0	2.0	6.0	6.0	6.0	36.0
これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	66.7

【母親の就労希望別】

“子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)”は「幼稚園」、その他の就労希望で「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーカーなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	54	20.4	9.3	29.6	7.4	7.4	1.9	1.9	1.9	3.7	5.6	1.9	7.4	9.3	5.6	37.0
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	10	30.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	30.0
1年より先、一番下のこどもが0歳になったころに就労したい	19	21.1	15.8	26.3	10.5	10.5	0.0	0.0	0.0	5.3	10.5	0.0	5.3	15.8	10.5	26.3
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	16	25.0	0.0	43.8	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	37.5

【教育・保育事業の利用有無別】

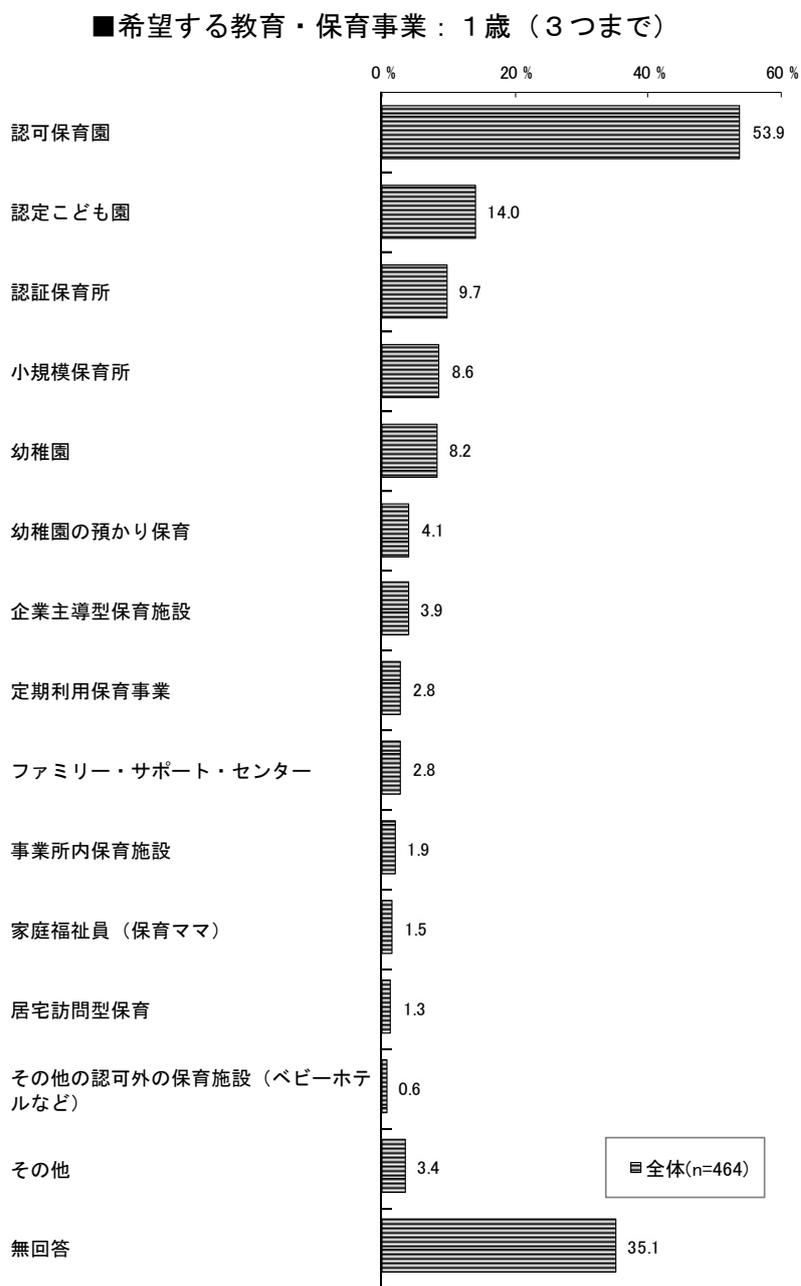
“利用している”“利用していない”ともに「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーカーなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	298	8.1	2.7	36.6	9.4	6.4	1.3	1.7	5.4	2.7	3.4	0.7	2.0	3.7	2.7	52.0
利用している	72	4.2	2.8	15.3	1.4	1.4	4.2	0.0	4.2	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	79.2
利用していない	226	9.3	2.7	43.4	11.9	8.0	0.4	2.2	5.8	3.5	4.0	0.9	2.7	4.9	3.5	43.4

イ 1歳

「認可保育園」(53.9%)が最も多く、「認定こども園」(14.0%)、「認証保育所」(9.7%)、「小規模保育所」(8.6%)と続きます。



【母親の就労状況別】

すべての就労状況で「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	464	8.2	4.1	53.9	14.0	8.6	1.5	1.9	9.7	3.9	2.8	0.6	1.3	2.8	3.4	35.1
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	139	2.2	0.7	46.0	7.9	2.9	2.9	1.4	3.6	3.6	0.7	0.0	0.7	0.7	2.9	50.4
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	167	7.8	1.8	75.4	21.0	13.8	0.6	3.0	15.6	6.0	2.4	0.6	0.6	2.4	3.0	15.0
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	54	7.4	3.7	38.9	7.4	5.6	3.7	1.9	11.1	1.9	5.6	3.7	3.7	1.9	0.0	53.7
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	16	6.3	6.3	93.8	18.8	6.3	0.0	0.0	25.0	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	80	20.0	13.8	26.3	13.8	10.0	0.0	1.3	5.0	1.3	5.0	0.0	1.3	7.5	8.8	42.5
これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3

【母親の就労希望別】

“1年より先、一番下のこどもが〇歳になったころに就労したい”は「幼稚園」が最も多く、それ以外の就労希望では「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	87	18.4	12.6	26.4	13.8	10.3	0.0	1.1	4.6	1.1	4.6	0.0	2.3	8.0	8.0	43.7
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	17	17.6	17.6	23.5	11.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	11.8	35.3
1年より先、一番下のこどもが〇歳になったころに就労したい	34	20.6	14.7	17.6	17.6	8.8	0.0	2.9	0.0	2.9	2.9	0.0	2.9	11.8	14.7	41.2
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	21	28.6	9.5	52.4	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6

【教育・保育事業の利用有無別】

“利用している”“利用していない”ともに「認可保育園」が最も多くなっています。

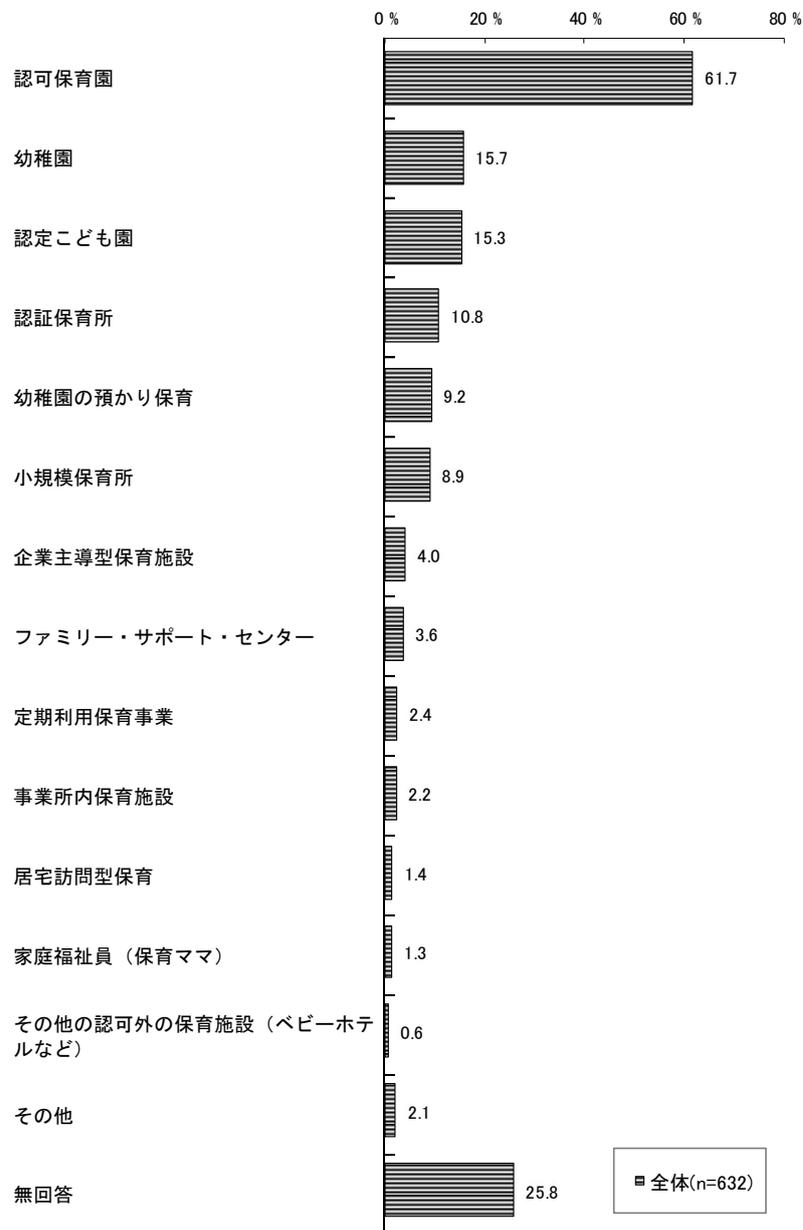
(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	464	8.2	4.1	53.9	14.0	8.6	1.5	1.9	9.7	3.9	2.8	0.6	1.3	2.8	3.4	35.1
利用している	194	3.1	1.0	40.7	5.7	4.1	2.6	1.0	6.7	2.6	1.5	0.5	1.0	1.0	2.1	55.2
利用していない	268	11.9	6.3	63.8	20.1	11.9	0.7	2.6	11.9	4.9	3.7	0.7	1.5	4.1	4.5	20.1

ウ 2歳

「認可保育園」(61.7%)が最も多く、「幼稚園」(15.7%)、「認定こども園」(15.3%)、「認証保育所」(10.8%)と続きます。

■希望する教育・保育事業：2歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

“以前は就労していたが、現在は就労していない”と“これまで就労したことがない”を除いたすべての就労状況で「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	632	15.7	9.2	61.7	15.3	8.9	1.3	2.2	10.8	4.0	2.4	0.6	1.4	3.6	2.1	25.8
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	219	10.0	5.5	61.2	12.3	5.0	2.3	1.4	8.7	4.1	1.4	0.0	0.9	2.3	1.4	32.4
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	192	10.4	4.7	80.7	20.8	12.5	0.0	4.2	15.6	4.7	2.1	1.0	1.0	3.6	1.6	11.5
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	78	15.4	9.0	60.3	12.8	9.0	2.6	1.3	15.4	2.6	2.6	1.3	2.6	2.6	0.0	32.1
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	19	10.5	15.8	68.4	21.1	5.3	0.0	0.0	10.5	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	21.1
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	50.0	25.0	75.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	114	35.1	21.9	32.5	12.3	9.6	0.9	1.8	4.4	3.5	4.4	0.9	1.8	7.0	6.1	32.5
これまで就労したことがない	5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	60.0

【母親の就労希望別】

“子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)”“1年より先、一番下のこどもが()歳になったところに就労したい”は「幼稚園」、その他の就労希望で「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーカーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	123	34.1	21.1	32.5	13.0	10.6	0.8	1.6	4.1	3.3	4.1	0.8	2.4	7.3	5.7	33.3
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	26	42.3	23.1	19.2	15.4	3.8	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	3.8	7.7	11.5	30.8
1年より先、一番下のこどもが〇歳になったところに就労したい	46	39.1	32.6	32.6	15.2	6.5	2.2	2.2	0.0	6.5	4.3	2.2	4.3	13.0	8.7	21.7
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	29	34.5	6.9	51.7	13.8	27.6	0.0	0.0	13.8	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	27.6

【教育・保育事業の利用有無別】

“利用している” “利用していない” とともに「認可保育園」が最も多くなっています。

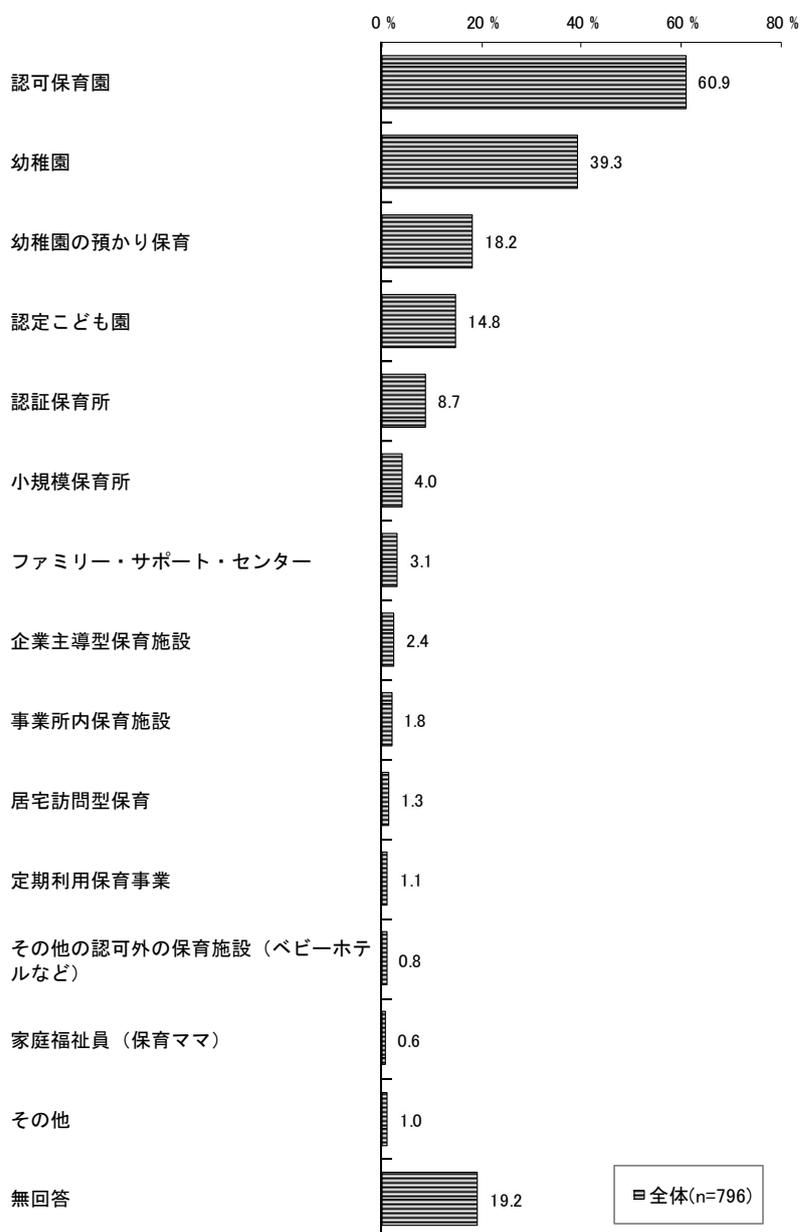
(単位：%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	632	15.7	9.2	61.7	15.3	8.9	1.3	2.2	10.8	4.0	2.4	0.6	1.4	3.6	2.1	25.8
利用している	337	13.4	6.2	55.5	10.4	5.9	1.8	0.9	10.4	3.3	1.2	0.3	0.9	2.7	0.9	37.7
利用していない	293	18.4	12.6	68.6	21.2	11.9	0.7	3.4	11.3	4.8	3.8	1.0	2.0	4.8	3.4	12.3

エ 3歳

「認可保育園」(60.9%)が最も多く、「幼稚園」(39.3%)、「幼稚園の預かり保育」(18.2%)、「認定こども園」(14.8%)と続きます。

■希望する教育・保育事業：3歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

就労している方（休業中含む）は「認可保育園」、就労していない方は「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	796	39.3	18.2	60.9	14.8	4.0	0.6	1.8	8.7	2.4	1.1	0.8	1.3	3.1	1.0	19.2
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	299	24.7	11.0	68.9	11.4	4.7	0.7	1.3	7.7	3.3	1.0	0.7	1.3	2.7	1.3	23.1
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	208	38.5	14.9	79.8	21.6	5.3	0.5	2.9	13.9	1.9	1.0	1.4	1.0	3.4	0.0	6.7
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	113	38.1	21.2	51.3	10.6	0.9	1.8	0.9	9.7	1.8	0.9	0.9	1.8	3.5	0.0	32.7
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	23	30.4	26.1	60.9	17.4	4.3	0.0	0.0	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	17.4
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	75.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	142	71.1	33.8	24.6	12.7	3.5	0.0	2.1	2.1	1.4	2.1	0.0	1.4	4.2	2.1	18.3
これまで就労したことがない	5	80.0	0.0	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

【母親の就労希望別】

すべての就労希望で「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	151	71.5	33.1	26.5	15.2	3.3	0.0	2.0	2.0	1.3	2.0	0.0	1.3	4.0	2.0	18.5
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	30	73.3	23.3	13.3	23.3	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	6.7	6.7	16.7
1年より先、一番下のこどもが口歳になったところに就労したい	59	76.3	44.1	23.7	11.9	1.7	0.0	1.7	1.7	3.4	1.7	0.0	1.7	5.1	1.7	15.3
すぐにも、もしくは1年以内に就労したい	35	71.4	28.6	45.7	20.0	5.7	0.0	0.0	2.9	0.0	5.7	0.0	0.0	2.9	0.0	14.3

【教育・保育事業の利用有無別】

“利用している”、“利用していない”ともに「認可保育園」が最も多くなっています。

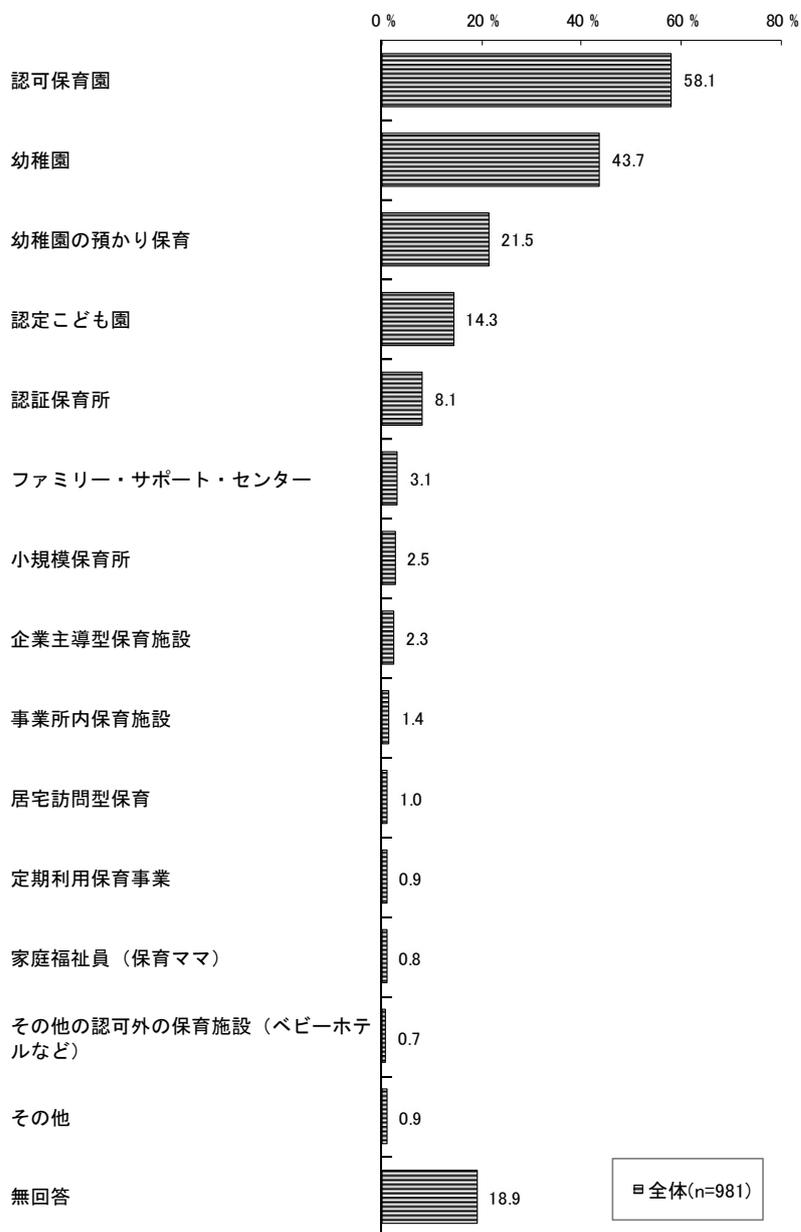
(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	796	39.3	18.2	60.9	14.8	4.0	0.6	1.8	8.7	2.4	1.1	0.8	1.3	3.1	1.0	19.2
利用している	497	31.2	14.5	59.4	10.3	3.0	0.8	1.4	8.2	2.6	1.0	0.6	1.6	3.4	1.0	27.4
利用していない	294	53.1	24.5	63.9	22.8	5.4	0.3	2.0	9.5	2.0	1.4	1.0	0.7	2.4	1.0	5.1

オ 4歳

「認可保育園」(58.1%)が最も多く、「幼稚園」(43.7%)、「幼稚園の預かり保育」(21.5%)、「認定こども園」(14.3%)と続きます。

■希望する教育・保育事業：4歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

就労している方（休業中含む）は「認可保育園」、就労していない方は「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	981	43.7	21.5	58.1	14.3	2.5	0.8	1.4	8.1	2.3	0.9	0.7	1.0	3.1	0.9	18.9
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	377	30.8	16.4	70.8	14.1	2.9	1.1	1.3	7.2	3.7	1.1	1.1	0.8	2.9	1.3	18.6
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	225	42.7	17.3	77.3	20.4	4.0	0.4	1.8	12.9	2.2	0.4	1.3	0.9	3.1	0.0	8.9
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	160	45.0	25.6	48.8	10.0	0.6	1.9	1.3	10.0	1.3	0.6	0.0	1.9	4.4	0.6	28.1
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	23	39.1	34.8	56.5	8.7	4.3	0.0	0.0	13.0	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	13.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	75.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	180	71.1	32.2	17.8	10.6	1.7	0.0	1.1	2.2	0.6	1.7	0.0	1.1	2.8	1.1	22.8
これまで就労したことがない	8	50.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5

【母親の就労希望別】

すべての就労希望で「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	192	70.3	31.3	18.8	12.0	1.6	0.0	1.6	2.1	0.5	1.6	0.0	1.0	2.6	1.0	23.4
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	40	67.5	17.5	5.0	15.0	2.5	0.0	2.5	2.5	2.5	0.0	0.0	0.0	2.5	5.0	25.0
1年より先、一番下のこどもが0歳になったところに就労したい	70	81.4	40.0	15.7	11.4	0.0	0.0	1.4	1.4	0.0	1.4	0.0	1.4	4.3	0.0	17.1
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	44	63.6	34.1	36.4	13.6	4.5	0.0	0.0	2.3	0.0	4.5	0.0	2.3	2.3	0.0	22.7

【教育・保育事業の利用有無別】

“利用している” “利用していない” とともに「認可保育園」が最も多くなっています。

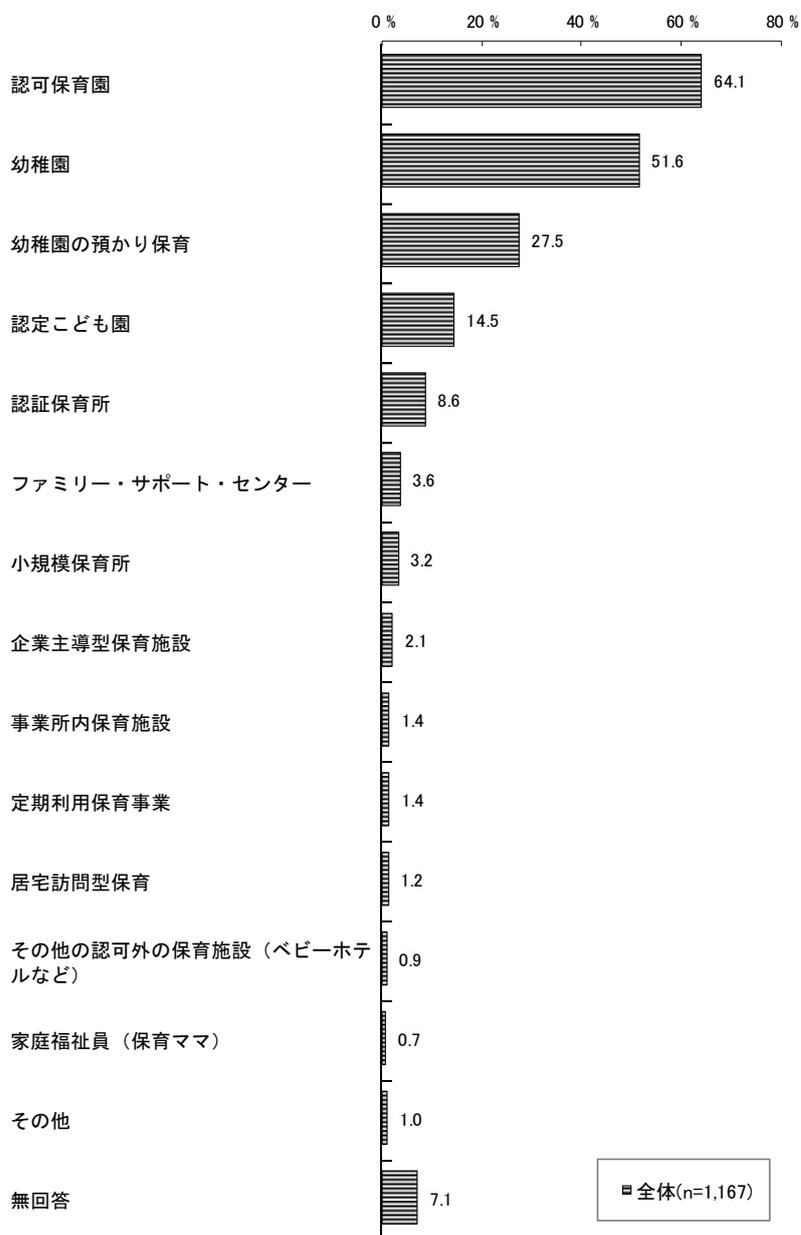
(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	981	43.7	21.5	58.1	14.3	2.5	0.8	1.4	8.1	2.3	0.9	0.7	1.0	3.1	0.9	18.9
利用している	676	37.3	20.0	57.5	11.1	1.8	1.0	1.3	7.8	2.5	0.7	0.7	1.3	3.6	1.0	24.6
利用していない	296	58.1	24.7	60.1	21.6	4.4	0.3	1.4	8.8	2.0	1.4	0.7	0.3	1.7	0.7	5.1

カ 5歳

「認可保育園」(64.1%)が最も多く、「幼稚園」(51.6%)、「幼稚園の預かり保育」(27.5%)、「認定こども園」(14.5%)と続きます。

■希望する教育・保育事業：5歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

フルタイムで就業している方(休業中含む)やパート・アルバイトで就業している方(休業中)は「認可保育園」、パート・アルバイトで就業している方(休業中以外)や就労していない方は「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	1,167	51.6	27.5	64.1	14.5	3.2	0.7	1.4	8.6	2.1	1.4	0.9	1.2	3.6	1.0	7.1
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	461	36.9	20.6	82.0	14.3	3.7	0.9	1.7	8.5	3.3	1.1	1.5	0.9	3.9	1.1	6.1
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	236	44.5	18.6	82.2	19.9	4.7	0.4	1.7	13.1	2.5	0.4	1.3	0.8	3.8	0.0	3.4
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	195	55.9	38.5	52.3	11.8	1.5	1.5	1.0	11.8	1.0	2.6	0.0	1.5	3.6	1.5	11.3
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	29	34.5	27.6	65.5	13.8	10.3	0.0	0.0	10.3	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	10.3
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	6	83.3	50.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7
以前は就労していたが、現在は就労していない	219	85.8	42.5	20.5	11.0	1.4	0.0	0.9	1.8	0.5	1.8	0.5	2.3	3.7	1.4	8.2
これまで就労したことがない	12	83.3	16.7	33.3	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3

【母親の就労希望別】

すべての就労希望で「幼稚園」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	237	85.7	41.4	21.5	12.2	1.3	0.0	0.8	1.7	0.4	2.1	0.4	2.1	3.4	1.3	8.4
子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)	50	82.0	28.0	8.0	16.0	2.0	0.0	0.0	2.0	2.0	2.0	0.0	2.0	2.0	4.0	10.0
1年より先、一番下のこどもが口歳になったところに就労したい	84	97.6	53.6	22.6	13.1	0.0	0.0	1.2	1.2	0.0	1.2	0.0	2.4	4.8	0.0	2.4
すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい	56	78.6	42.9	32.1	12.5	3.6	0.0	0.0	1.8	0.0	3.6	0.0	1.8	3.6	0.0	8.9

【教育・保育事業の利用有無別】

“利用している”、“利用していない”ともに「認可保育園」が最も多くなっています。

(単位:%)

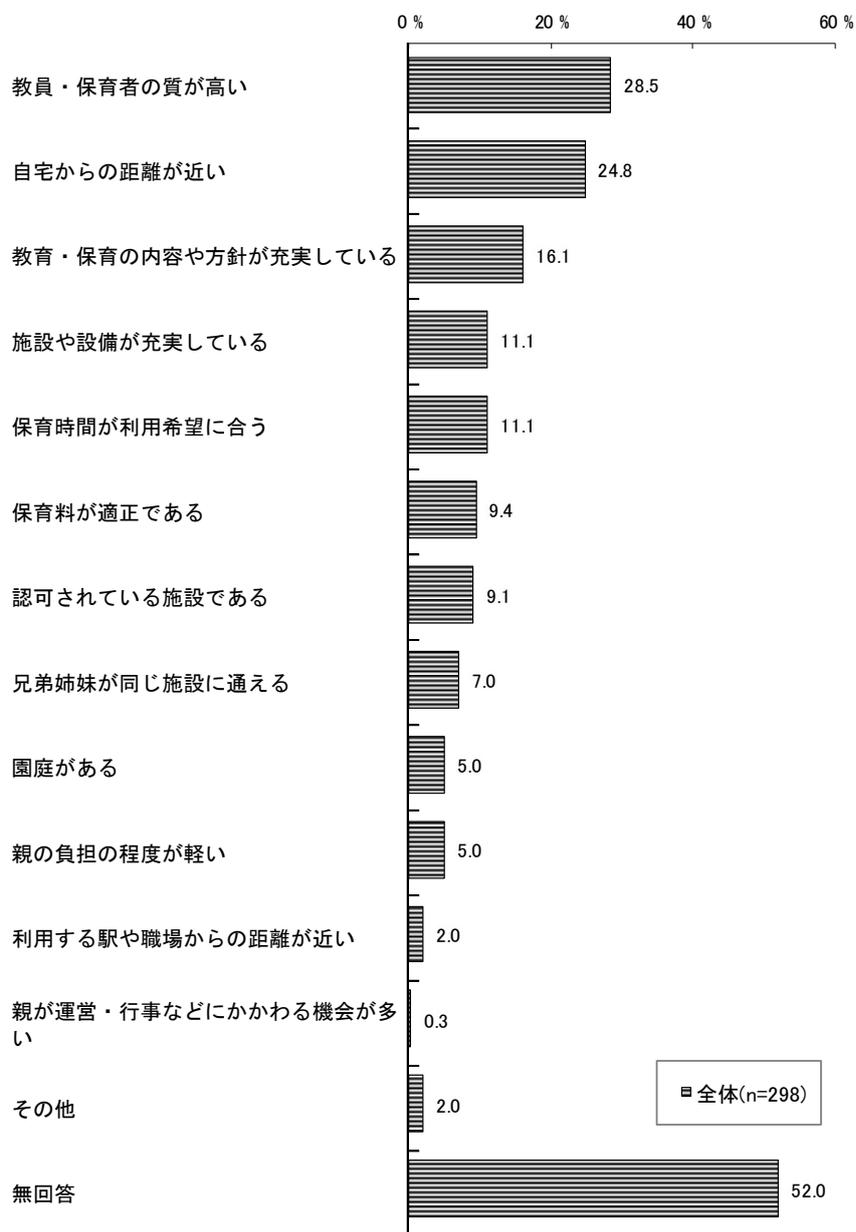
	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他の認可外の保育施設(ベビーホテルなど)	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
全体	1,167	51.6	27.5	64.1	14.5	3.2	0.7	1.4	8.6	2.1	1.4	0.9	1.2	3.6	1.0	7.1
利用している	855	49.4	27.8	65.8	12.3	2.3	0.8	1.4	8.3	2.2	1.3	1.1	1.5	4.2	1.2	7.6
利用していない	299	57.9	26.4	59.9	20.7	5.4	0.3	1.0	8.7	2.0	1.7	0.7	0.3	1.7	0.7	5.0

②B群：事業を希望する上で重視する条件

ア 0歳

「教員・保育者の質が高い」(28.5%)が最も多く、「自宅からの距離が近い」(24.8%)、「教育・保育の内容や方針が充実している」(16.1%)、「施設や設備が充実している」「保育時間が利用希望に合う」(ともに11.1%)と続きます。

■事業を希望する上で重視する条件：0歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

フルタイムあるいはパート・アルバイト等で就労しており休業中でない方は「教員・保育者の質が高い」の割合が多くなっています。また休業中の方は「自宅からの距離が近い」の割合が多くなっています。

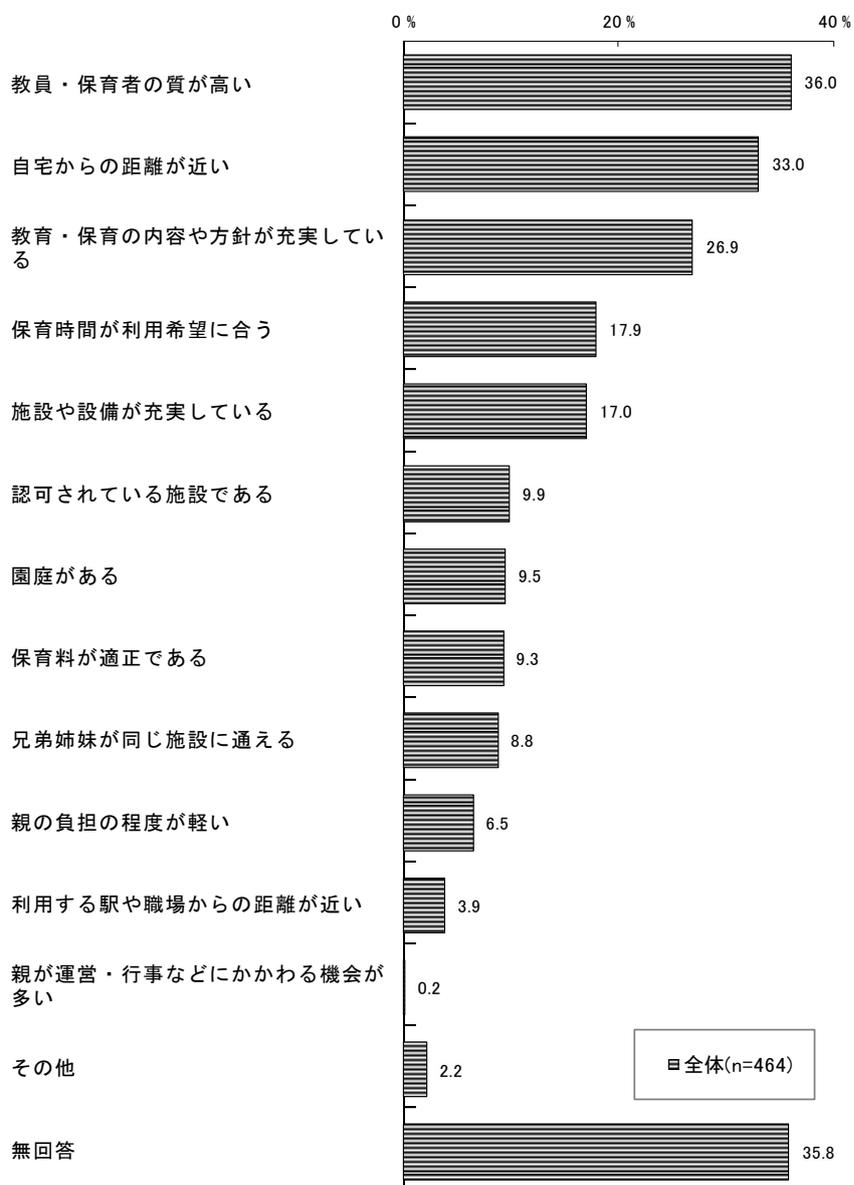
(単位:%)

	有効回答者数	教育・保育の内容や方針が充実している	教員・保育者の質が高い	施設や設備が充実している	園庭がある	保育時間が利用希望に合う	認可されている施設である	保育料が適正である	親の負担の程度が軽い	親が運営・行事などにかかわる機会が多い	自宅からの距離が近い	利用する駅や職場からの距離が近い	兄弟姉妹が同じ施設に通える	その他	無回答
全体	298	16.1	28.5	11.1	5.0	11.1	9.1	9.4	5.0	0.3	24.8	2.0	7.0	2.0	52.0
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	53	11.3	15.1	5.7	1.9	5.7	5.7	3.8	1.9	0.0	5.7	1.9	1.9	0.0	79.2
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	149	16.8	30.9	11.4	6.7	15.4	11.4	10.7	4.7	0.0	33.6	2.0	8.1	2.0	45.0
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	27	18.5	33.3	14.8	0.0	0.0	14.8	3.7	3.7	0.0	7.4	0.0	3.7	0.0	66.7
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	15	13.3	20.0	0.0	6.7	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	33.3	0.0	26.7	0.0	53.3
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	1	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	50	18.0	38.0	18.0	6.0	8.0	6.0	14.0	8.0	2.0	26.0	2.0	6.0	6.0	36.0
これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7

イ 1歳

「教員・保育者の質が高い」(36.0%)が最も多く、「自宅からの距離が近い」(33.0%)、「教育・保育の内容や方針が充実している」(26.9%)、「保育時間が利用希望に合う」(17.9%)と続きます。

■事業を希望する上で重視する条件：1歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

就労している方（休業中含む）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は「教育・保育者の質が高い」の割合が多くなっています。また、休業中の方は「自宅からの距離が近い」の割合も多くなっています。

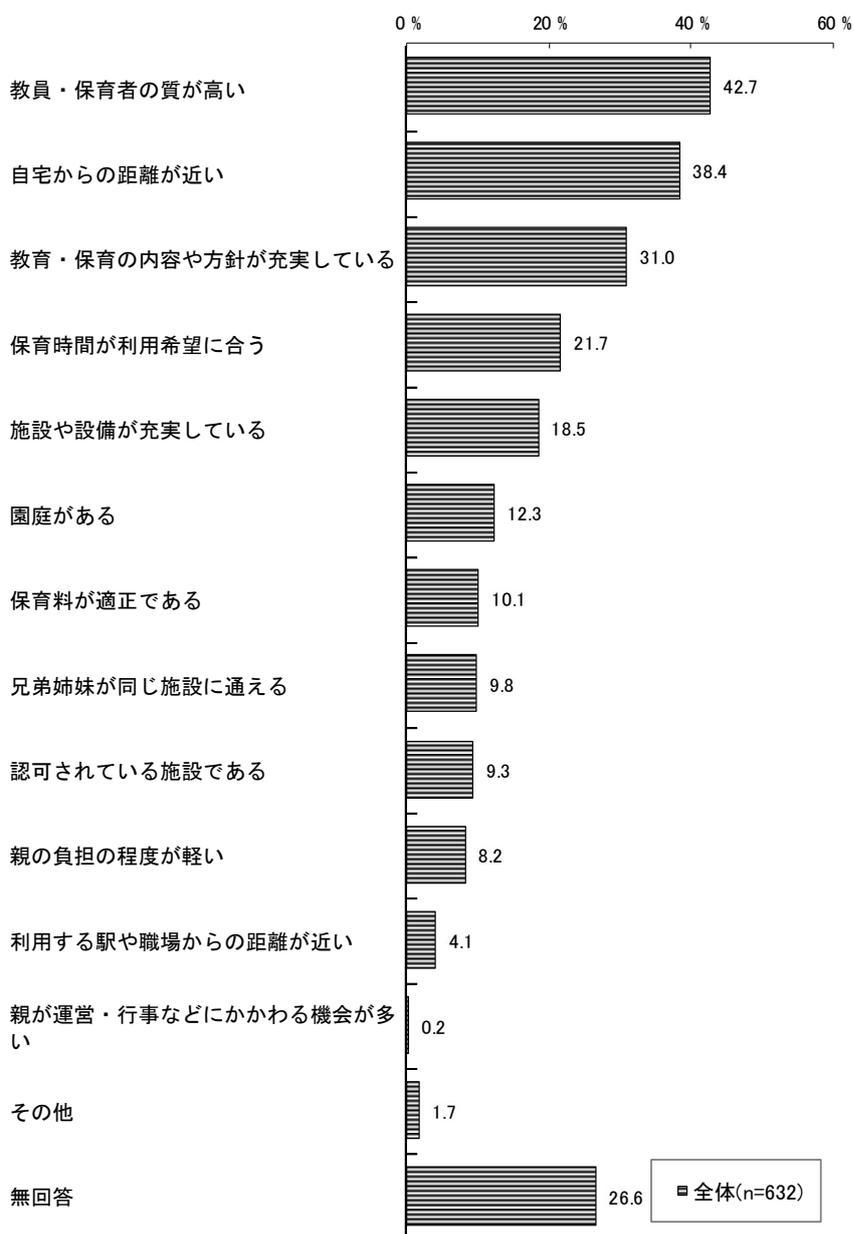
(単位:%)

	有効回答者数	教育・保育の内容や方針が充実している	教員・保育者の質が高い	施設や設備が充実している	園庭がある	保育時間が利用希望に合う	認可されている施設である	保育料が適正である	親の負担の程度が軽い	親が運営・行事などにかかわる機会が多い	自宅からの距離が近い	利用する駅や職場からの距離が近い	兄弟姉妹が同じ施設に通える	その他	無回答
全体	464	26.9	36.0	17.0	9.5	17.9	9.9	9.3	6.5	0.2	33.0	3.9	8.8	2.2	35.8
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	139	20.1	29.5	15.1	8.6	18.7	5.0	4.3	7.2	0.0	25.2	2.9	6.5	0.0	51.1
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	167	35.3	47.9	20.4	11.4	22.8	16.2	12.0	7.2	0.0	47.9	5.4	11.4	3.0	16.2
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	54	22.2	29.6	14.8	7.4	11.1	9.3	7.4	5.6	1.9	14.8	0.0	5.6	0.0	53.7
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	16	37.5	56.3	12.5	18.8	18.8	6.3	12.5	0.0	0.0	56.3	6.3	37.5	0.0	6.3
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	80	23.8	26.3	16.3	6.3	11.3	6.3	12.5	5.0	0.0	23.8	2.5	3.8	6.3	42.5
これまで就労したことがない	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	66.7	33.3	0.0	33.3

ウ 2歳

「教員・保育者の質が高い」(42.7%)が最も多く、「自宅からの距離が近い」(38.4%)、「教育・保育の内容や方針が充実している」(31.0%)、「保育時間が利用希望に合う」(21.7%)と続きます。

■事業を希望する上で重視する条件：2歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

“フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である” “以前は就労していたが、現在は就労していない” “これまで就労したことがない” を除く就労状況で「教員・保育者の質が高い」の割合が多くなっています。また、就労している方は「自宅からの距離が近い」の割合も多くなっています。

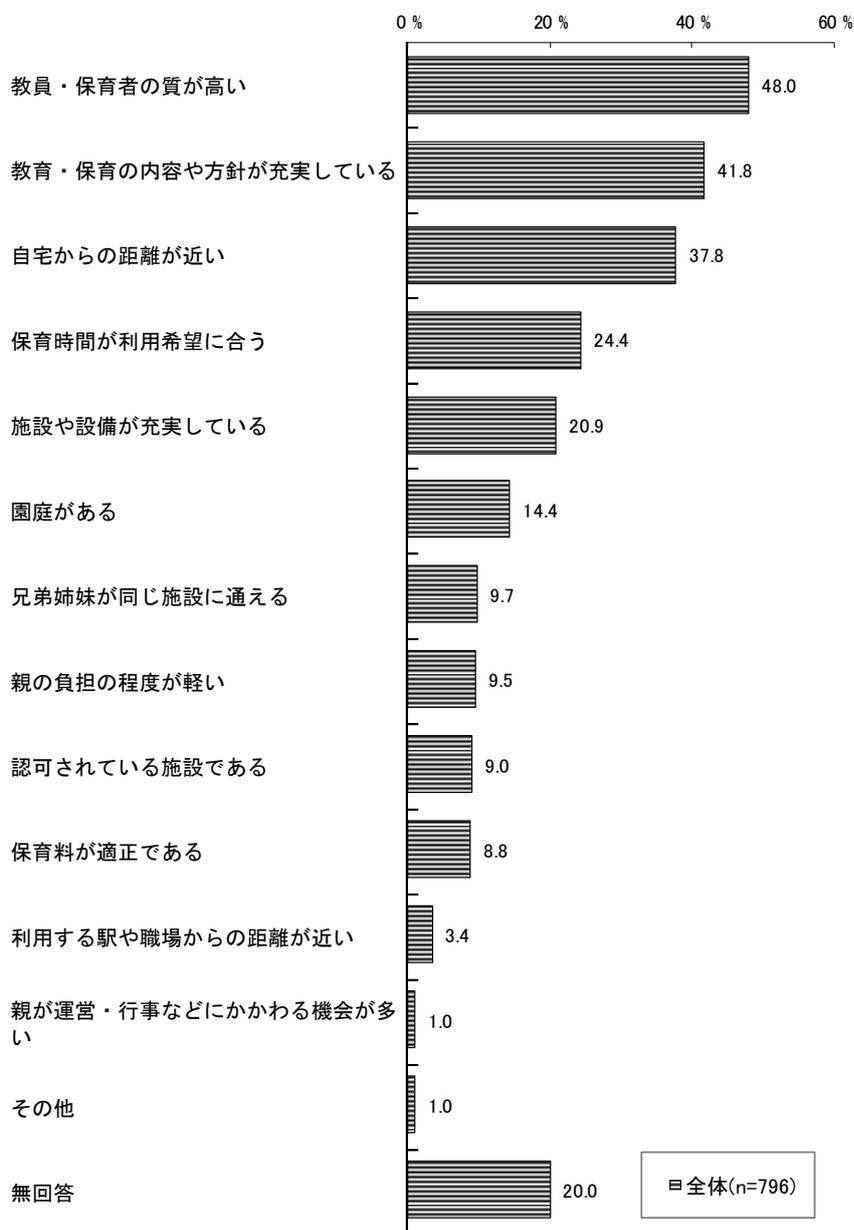
(単位:%)

	有効回答者数	教育・保育の内容や方針が充実している	教員・保育者の質が高い	施設や設備が充実している	園庭がある	保育時間が利用希望に合う	認可されている施設である	保育料が適正である	親の負担の程度が軽い	親が運営・行事などにかかわる機会が多い	自宅からの距離が近い	利用する駅や職場からの距離が近い	兄弟姉妹が同じ施設に通える	その他	無回答
全体	632	31.0	42.7	18.5	12.3	21.7	9.3	10.1	8.2	0.2	38.4	4.1	9.8	1.7	26.6
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	219	25.6	39.3	17.8	12.8	24.7	7.3	7.8	9.1	0.0	36.5	2.7	8.7	0.0	33.8
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	192	35.4	50.0	18.8	13.5	24.5	15.6	10.4	8.3	0.0	52.1	5.7	14.1	2.1	12.5
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	78	26.9	42.3	16.7	12.8	20.5	9.0	9.0	10.3	1.3	35.9	2.6	6.4	1.3	32.1
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	19	26.3	47.4	15.8	15.8	10.5	5.3	10.5	0.0	0.0	36.8	5.3	31.6	0.0	21.1
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	114	39.5	38.6	21.1	7.9	14.0	3.5	14.9	6.1	0.0	22.8	4.4	3.5	5.3	32.5
これまで就労したことがない	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	60.0

エ 3歳

「教員・保育者の質が高い」(48.0%)、「教育・保育の内容や方針が充実している」(41.8%)、「自宅からの距離が近い」(37.8%)、「保育時間が利用希望に合う」(24.4%)と続いています。

■事業を希望する上で重視する条件：3歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

“パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である”を除く就労状況で「教員・保育者の質が高い」の割合が多くなっています。また、就労している方は「自宅からの距離が近い」の割合も多くなっています。

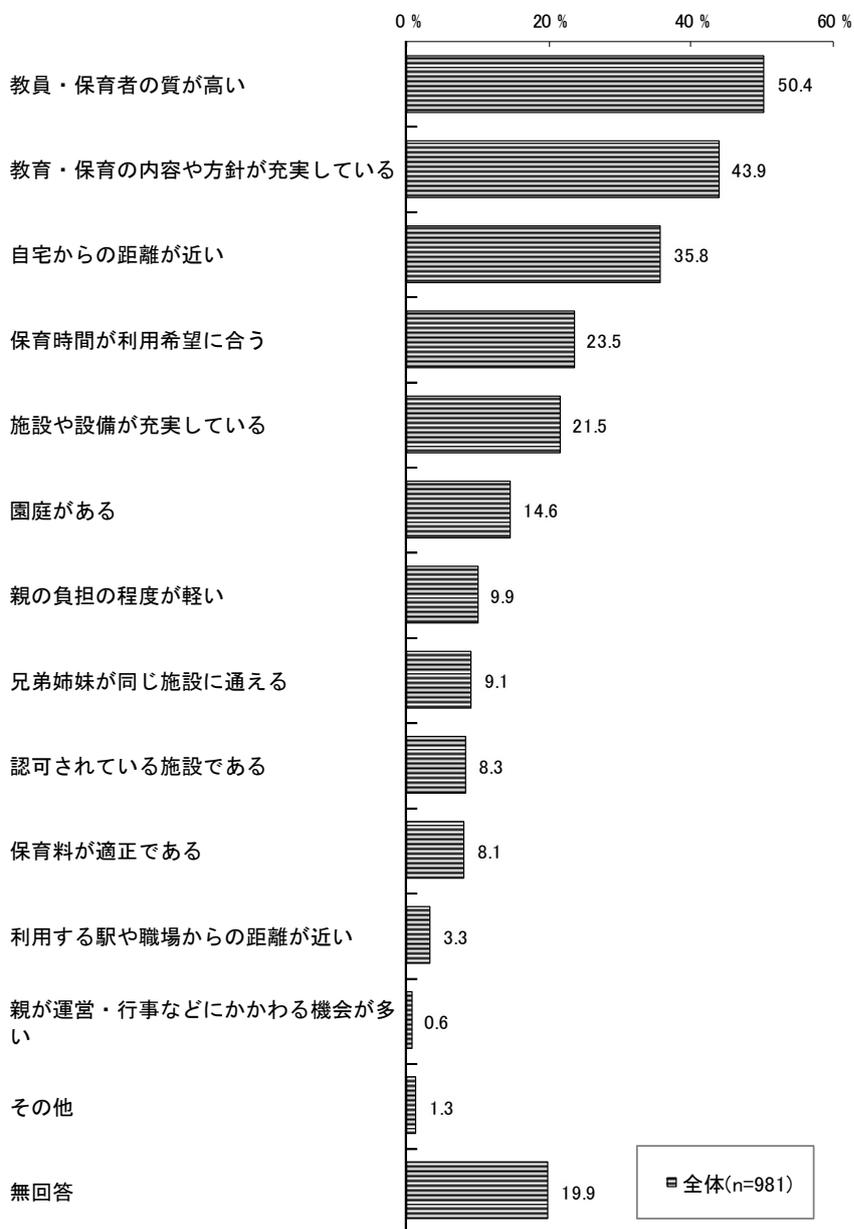
(単位:%)

	有効回答者数	教育・保育の内容や方針が充実している	教員・保育者の質が高い	施設や設備が充実している	園庭がある	保育時間が利用希望に合う	認可されている施設である	保育料が適正である	親の負担の程度が軽い	親が運営・行事などにかかわる機会が多い	自宅からの距離が近い	利用する駅や職場からの距離が近い	兄弟姉妹が同じ施設に通える	その他	無回答
全体	796	41.8	48.0	20.9	14.4	24.4	9.0	8.8	9.5	1.0	37.8	3.4	9.7	1.0	20.0
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	299	36.1	42.8	19.4	13.0	31.4	9.7	6.0	10.0	0.3	37.8	3.0	8.4	0.7	24.7
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	208	44.2	54.8	22.1	16.8	26.9	14.9	8.7	9.1	1.4	46.6	4.8	15.4	1.4	7.2
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	113	36.3	39.8	18.6	13.3	19.5	4.4	7.1	10.6	0.9	34.5	2.7	5.3	1.8	32.7
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	23	47.8	39.1	21.7	13.0	13.0	0.0	4.3	4.3	0.0	34.8	8.7	30.4	0.0	17.4
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	142	54.9	57.0	23.2	14.8	12.0	4.2	16.9	8.5	2.1	28.9	2.1	4.9	0.7	18.3
これまで就労したことがない	5	40.0	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0

オ 4歳

「教員・保育者の質が高い」(50.4%)が最も多く、「教育・保育の内容や方針が充実している」(43.9%)、「自宅からの距離が近い」(35.8%)、「保育時間が利用希望に合う」(23.5%)と続きます。

■事業を希望する上で重視する条件：4歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

“パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である”を除く就労状況で「教員・保育者の質が高い」の割合が多くなっています。また、就労している方は「自宅からの距離が近い」の割合も多くなっています。

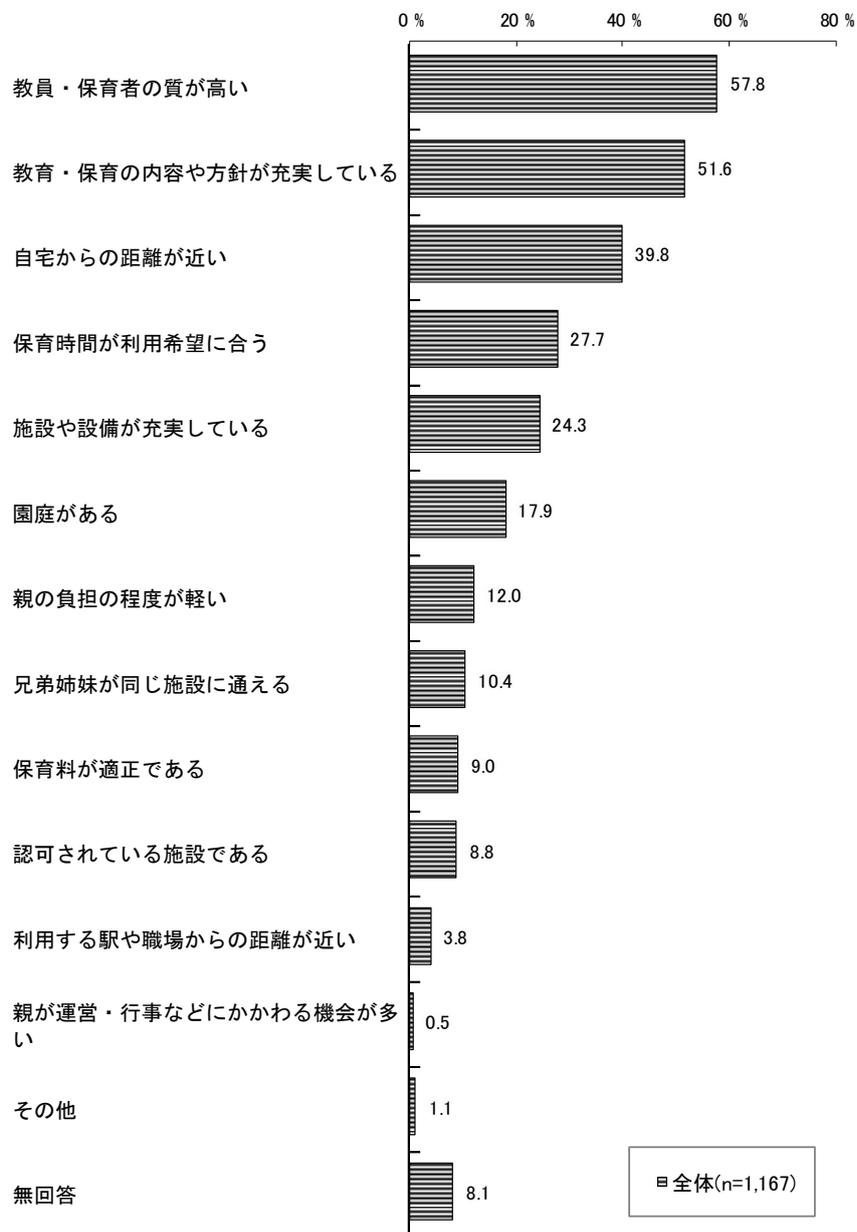
(単位:%)

	有効回答者数	教育・保育の内容や方針が充実している	教員・保育者の質が高い	施設や設備が充実している	園庭がある	保育時間が利用希望に合う	認可されている施設である	保育料が適正である	親の負担の程度が軽い	親が運営・行事などにかかわる機会が多い	自宅からの距離が近い	利用する駅や職場からの距離が近い	兄弟姉妹が同じ施設に通える	その他	無回答
全体	981	43.9	50.4	21.5	14.6	23.5	8.3	8.1	9.9	0.6	35.8	3.3	9.1	1.3	19.9
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	377	41.6	50.9	21.2	11.7	31.3	9.5	7.2	9.8	0.5	34.2	2.9	8.5	1.1	20.7
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	225	44.4	53.3	23.1	16.4	26.7	12.4	8.0	8.0	0.0	44.0	5.3	14.7	1.3	9.8
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	160	41.3	41.9	17.5	15.0	20.0	5.6	6.9	13.1	0.6	36.3	2.5	5.0	1.9	28.1
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	23	52.2	39.1	17.4	26.1	13.0	0.0	4.3	8.7	0.0	39.1	8.7	26.1	0.0	13.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	4	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	180	52.2	55.0	24.4	15.6	8.3	3.9	11.7	9.4	1.7	28.9	1.7	5.0	1.7	22.8
これまで就労したことがない	8	12.5	50.0	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	37.5

カ 5歳

「教員・保育者の質が高い」(57.8%)が最も多く、「教育・保育の内容や方針が充実している」(51.6%)、「自宅からの距離が近い」(39.8%)、「保育時間が利用希望に合う」(27.7%)と続きます。

■事業を希望する上で重視する条件：5歳（3つまで）



【母親の就労状況別】

“パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中でない”を除く就労状況で「教員・保育者の質が高い」の割合が多くなっています。また、就労している方は「自宅からの距離が近い」の割合も多くなっています。

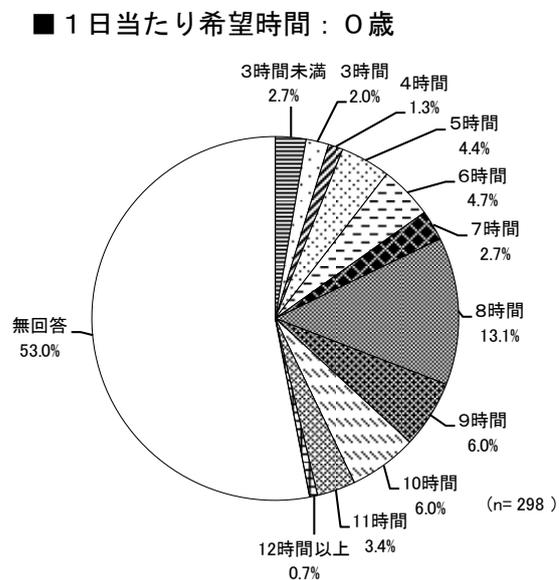
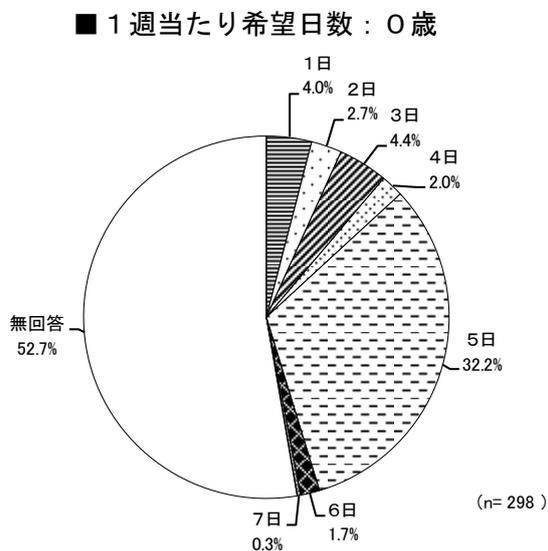
(単位:%)

	有効回答者数	教育・保育の内容や方針が充実している	教員・保育者の質が高い	施設や設備が充実している	園庭がある	保育時間が利用希望に合う	認可されている施設である	保育料が適正である	親の負担の程度が軽い	親が運営・行事などにかかわる機会が多い	自宅からの距離が近い	利用する駅や職場からの距離が近い	兄弟姉妹が同じ施設に通える	その他	無回答
全体	1,167	51.6	57.8	24.3	17.9	27.7	8.8	9.0	12.0	0.5	39.8	3.8	10.4	1.1	8.1
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	461	49.2	56.8	25.2	16.9	36.9	11.1	7.8	10.4	0.2	39.0	3.9	9.5	0.9	7.6
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	236	47.0	57.2	22.5	15.7	30.5	12.7	8.9	10.2	0.0	48.7	5.1	16.9	1.3	4.2
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	195	50.8	49.7	19.0	20.5	24.1	6.7	11.8	17.4	0.5	41.0	3.6	7.2	1.5	11.3
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	29	44.8	51.7	13.8	20.7	13.8	3.4	3.4	6.9	3.4	44.8	6.9	24.1	0.0	10.3
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	6	66.7	66.7	0.0	33.3	33.3	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
以前は就労していたが、現在は就労していない	219	63.9	68.5	29.7	18.3	11.9	2.7	11.0	12.3	1.4	32.9	2.3	6.4	1.4	8.7
これまで就労したことがない	12	50.0	75.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0	8.3

③ 1週当たり希望日数と1日当たり希望時間

ア 0歳

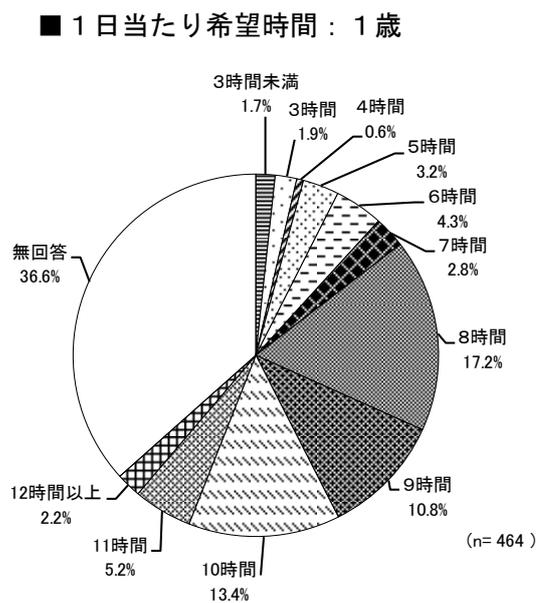
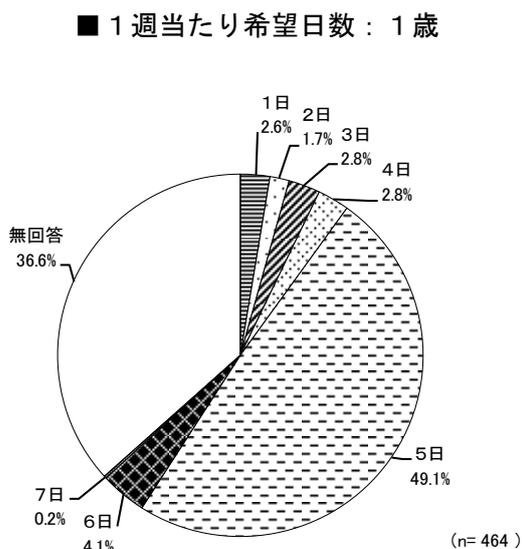
希望日数は「5日」(32.2%)が最も多く、「3日」(4.4%)、「1日」(4.0%)と続きます。
 希望時間は「8時間」(13.1%)が最も多く、「9時間」「10時間」(ともに6.0%)、「6時間」(4.7%)と続きます。



イ 1歳

希望日数は「5日」(49.1%)が最も多く、「6日」(4.1%)、「4日」「3日」(ともに2.8%)と続きます。

希望時間は「8時間」(17.2%)が最も多く、「10時間」(13.4%)、「9時間」(10.8%)と続きます。

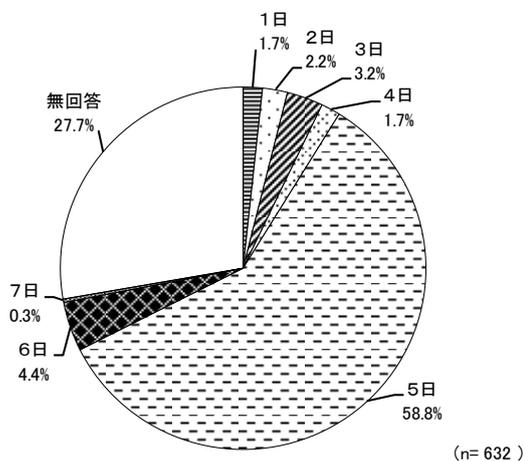


ウ 2歳

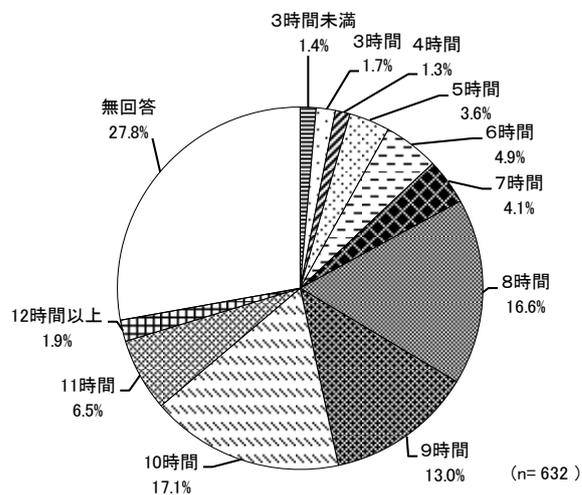
希望日数は「5日」(58.8%)が最も多く、「6日」(4.4%)、「3日」(3.2%)と続きます。

希望時間は「10時間」(17.1%)が最も多く、「8時間」(16.6%)、「9時間」(13.0%)と続きます。

■ 1週当たり希望日数：2歳



■ 1日当たり希望時間：2歳

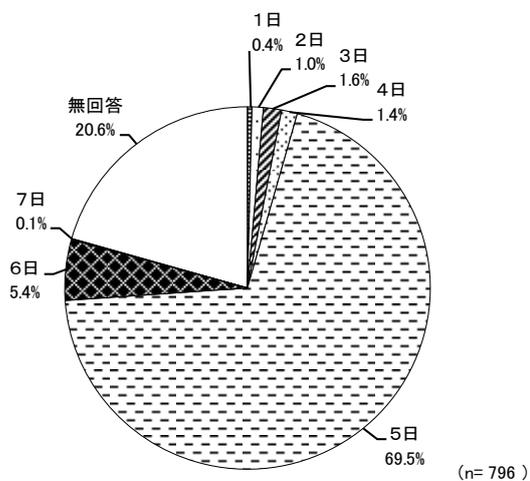


エ 3歳

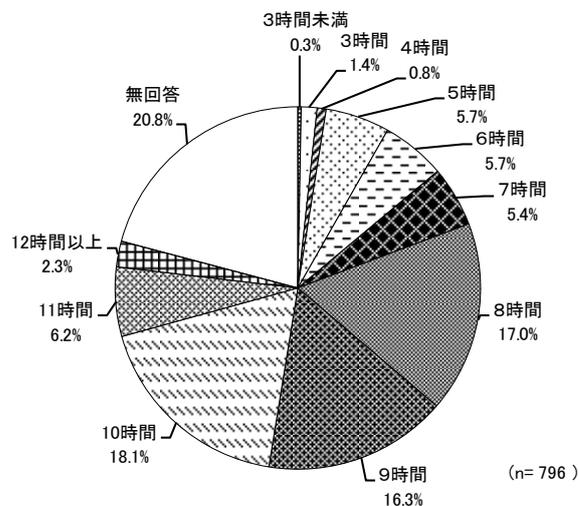
希望日数は「5日」(69.5%)が最も多く、「6日」(5.4%)、「3日」(1.6%)と続きます。

希望時間は「10時間」(18.1%)が最も多く、「8時間」(17.0%)、「9時間」(16.3%)と続きます。

■ 1週当たり希望日数：3歳



■ 1日当たり希望時間：3歳

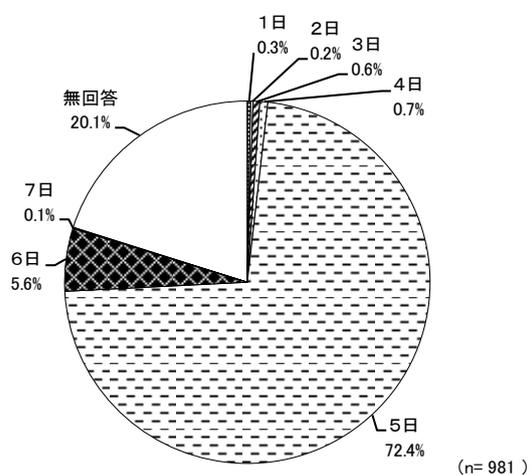


オ 4歳

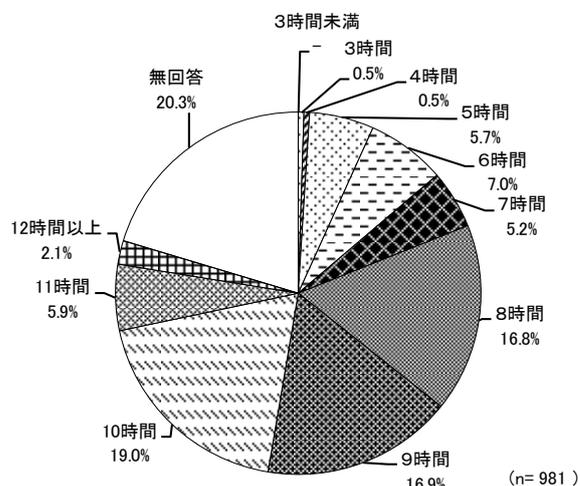
希望日数は「5日」(72.4%)が最も多く、「6日」(5.6%)、「4日」(0.7%)と続きます。

希望時間は「10時間」(19.0%)が最も多く、「9時間」(16.9%)、「8時間」(16.8%)と続きます。

■ 1週当たり希望日数：4歳



■ 1日当たり希望時間：4歳

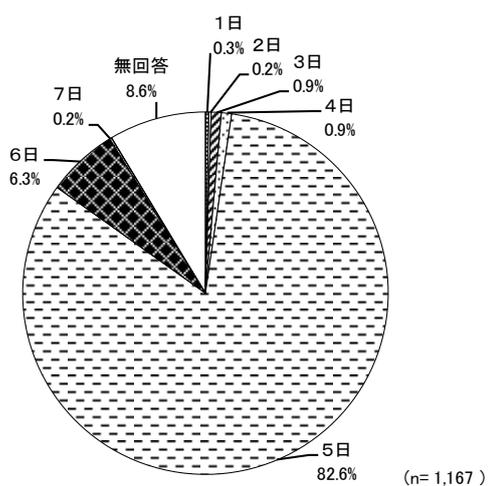


カ 5歳

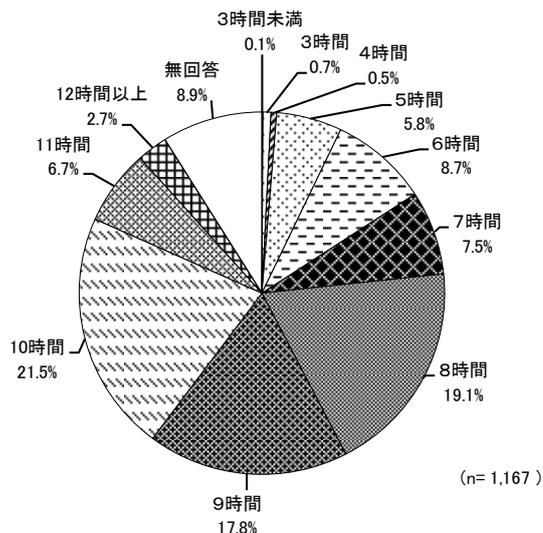
希望日数は「5日」(82.6%)が最も多く、「6日」(6.3%)、「3日」「4日」(ともに0.9%)と続きます。

希望時間は「10時間」(21.5%)が最も多く、「8時間」(19.1%)、「9時間」(17.8%)と続きます。

■ 1週当たり希望日数：5歳



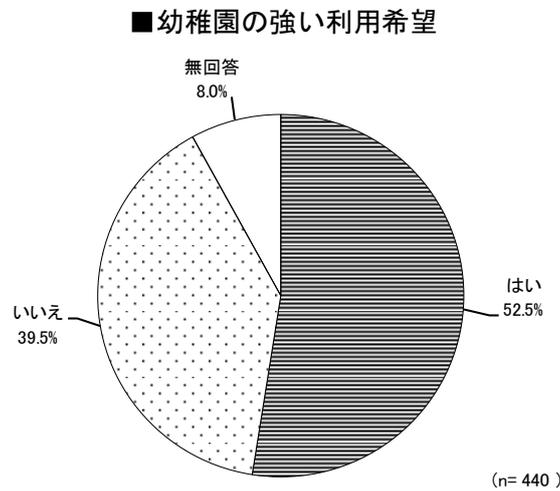
■ 1日当たり希望時間：5歳



【問 16 で【A 群：希望する教育・保育事業】から「1. 幼稚園」または「2. 幼稚園の預かり保育」を選び、かつ「3. 認可保育園」～「14. その他」も選んだ方】

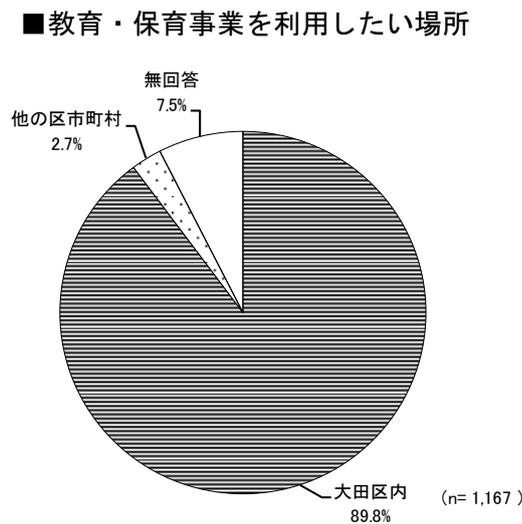
問 16-1 選んだ事業の中で、もっとも利用したいと考えるのは幼稚園（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）ですか。

「はい」(52.5%)、「いいえ」(39.5%)となっています。



問 16-2 教育・保育事業を利用したい場所についてうかがいます。

「大田区内」(89.8%)、「他の区市町村」(2.7%)となっています。

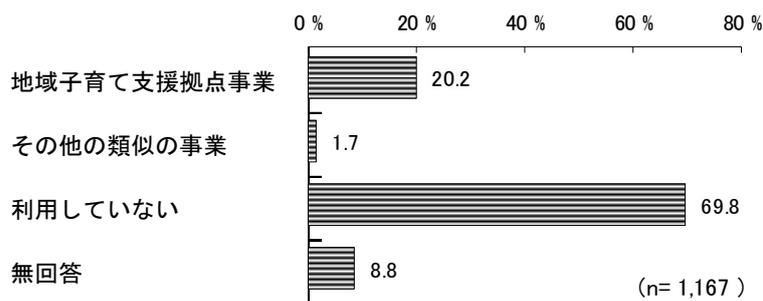


(6) 地域の子育て支援事業の利用状況について

問 17 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（※子ども家庭支援センター（キッズな）の子育てひろばや児童館ファミリールーム等）を利用していますか。

「利用していない」(69.8%)が最も多く、「地域子育て支援拠点事業」(20.2%)、「その他の類似の事業」(1.7%)と続きます。

■地域子育て支援拠点事業の利用状況（複数回答）



【年齢別】

すべての年齢で「利用していない」が最も多くなっています。「地域子育て支援拠点事業」の利用割合が多いのは、“0歳”～“2歳”となっており、年齢が低くなるにつれて利用が多くなる傾向が見られます。

(単位:%)

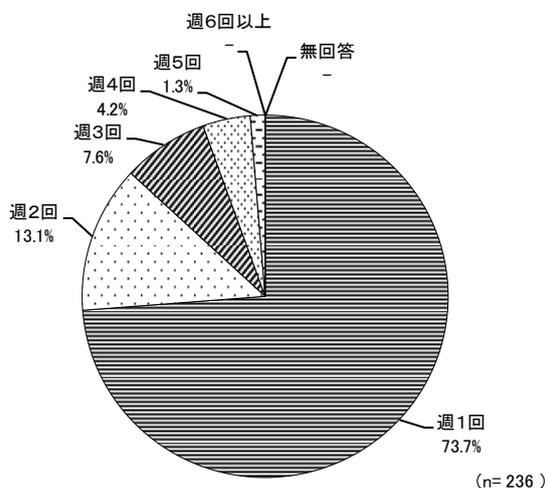
	有効回答者数	地域子育て支援拠点事業	その他の類似の事業	利用していない	無回答
全体	1,167	20.2	1.7	69.8	8.8
0歳	298	35.9	2.3	58.1	5.4
1歳	166	18.7	1.8	71.7	8.4
2歳	168	25.0	1.8	65.5	8.3
3歳	164	15.9	0.6	74.4	9.1
4歳	185	8.6	1.1	81.6	8.6
5歳	177	7.3	2.3	76.3	14.1

① 1週当たり利用回数

ア 地域子育て支援拠点事業

「週1回」(73.7%)が最も多く、「週2回」(13.1%)、「週3回」(7.6%)と続きます。

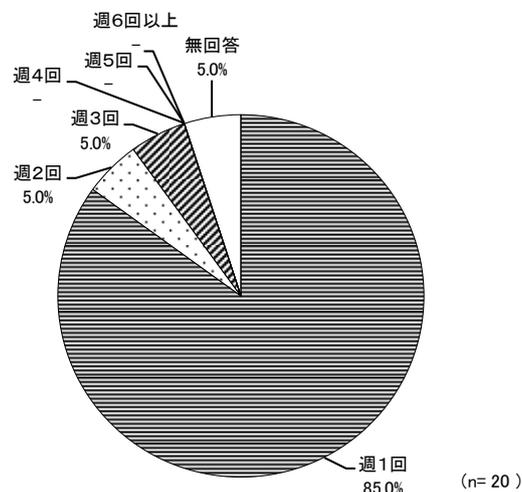
■地域子育て支援拠点事業



イ その他の類似の事業

「週1回」(85.0%)が最も多く、「週2回」(5.0%)、「週3回」(ともに5.0%)と続きます。

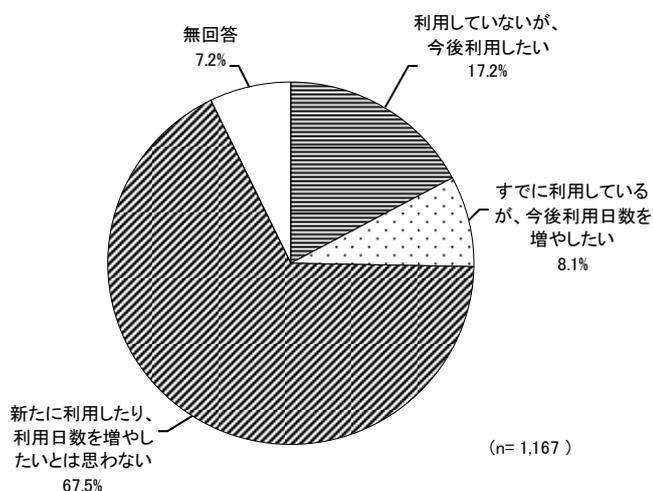
■その他の類似の事業



問 18 子ども家庭支援センター（キッズな）の子育てひろば等の地域子育て支援拠点事業について、今は利用していないが、できれば今後利用したい、あるいは、利用日数を増やしたいと思いますか。

「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」(67.5%)が最も多く、「利用していないが、今後利用したい」(17.2%)、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」(8.1%)となっています。

■今後の利用意向



【年齢別】

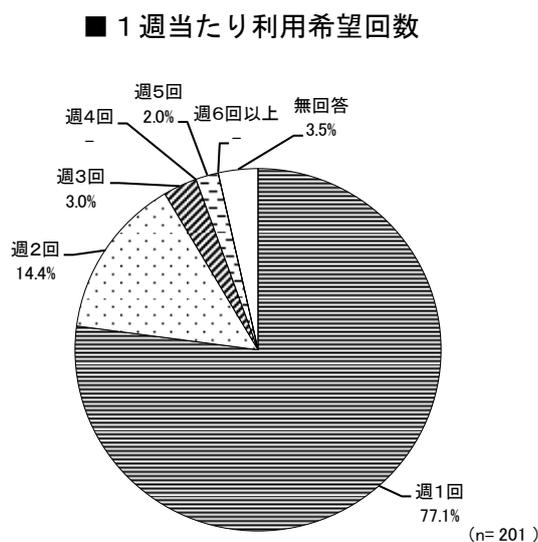
すべての年齢で「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も多くなっています。年齢が低くなるにつれて「利用していないが、今後利用したい」「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が多くなる傾向がみられます。

(単位:%)

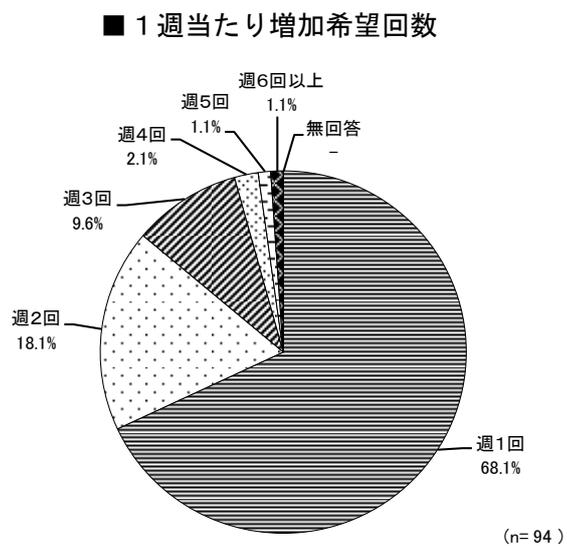
	有効回答者数	利用していないが、 今後利用したい	すでに利用しているが、 今後利用日数を増やしたい	新たに利用したり、 利用日数を増やしたいとは思わない	無回答
全体	1,167	17.2	8.1	67.5	7.2
0歳	298	31.5	15.8	47.7	5.0
1歳	166	13.3	6.0	75.9	4.8
2歳	168	13.7	8.3	72.0	6.0
3歳	164	9.8	6.7	73.2	10.4
4歳	185	14.1	3.2	77.8	4.9
5歳	177	10.2	3.4	74.0	12.4

① 1週当たり利用希望回数（利用していないが、今後利用したい）

「週1回」(77.1%)が最も多く、「週2回」(14.4%)、「週3回」(3.0%)と続きます。



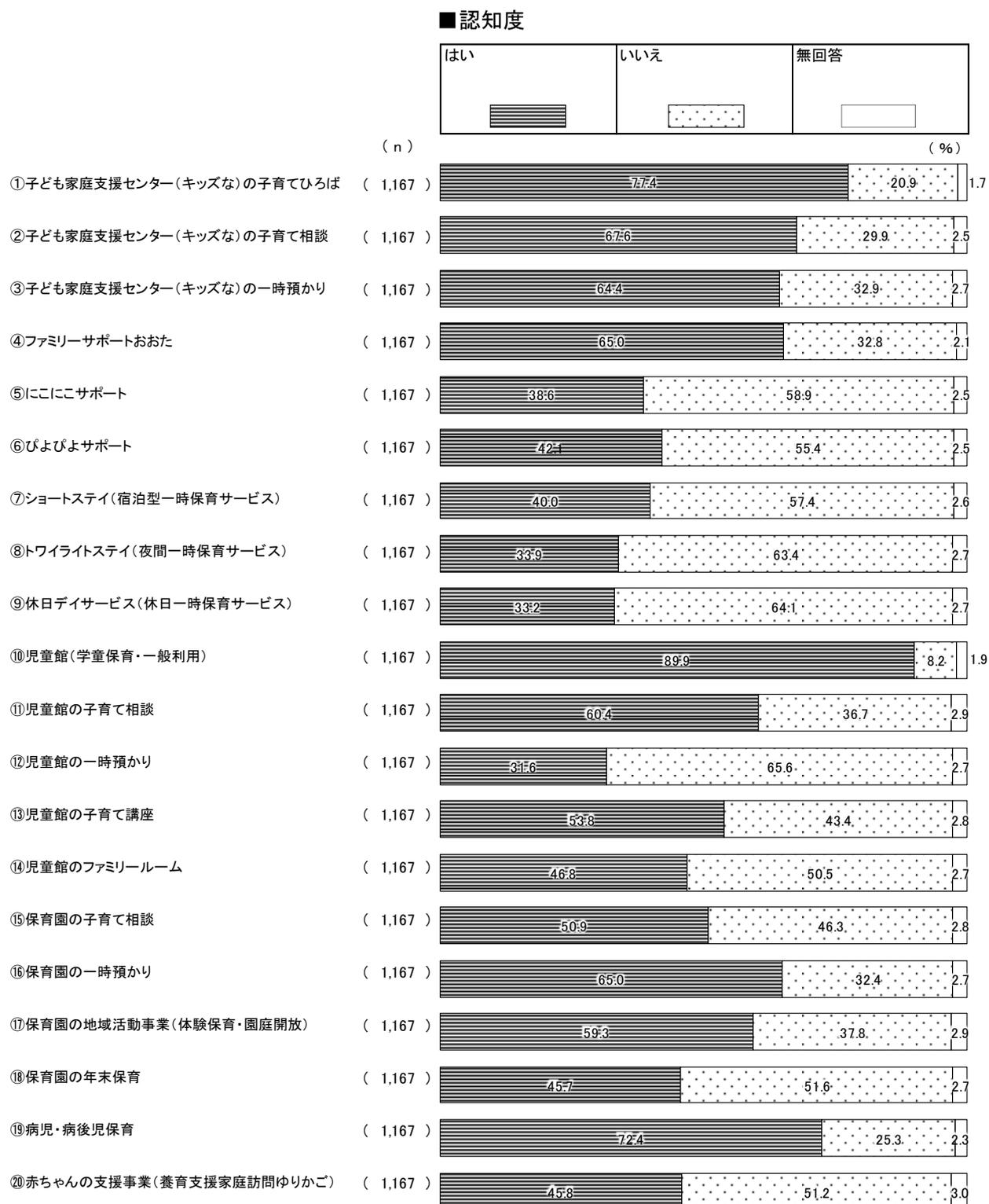
- ② 1週当たり増加希望回数（すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい）
「週1回」（68.1%）が最も多く、「週2回」（18.1%）、「週3回」（9.6%）と続きます。



問 19 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

①認知度（知っている）

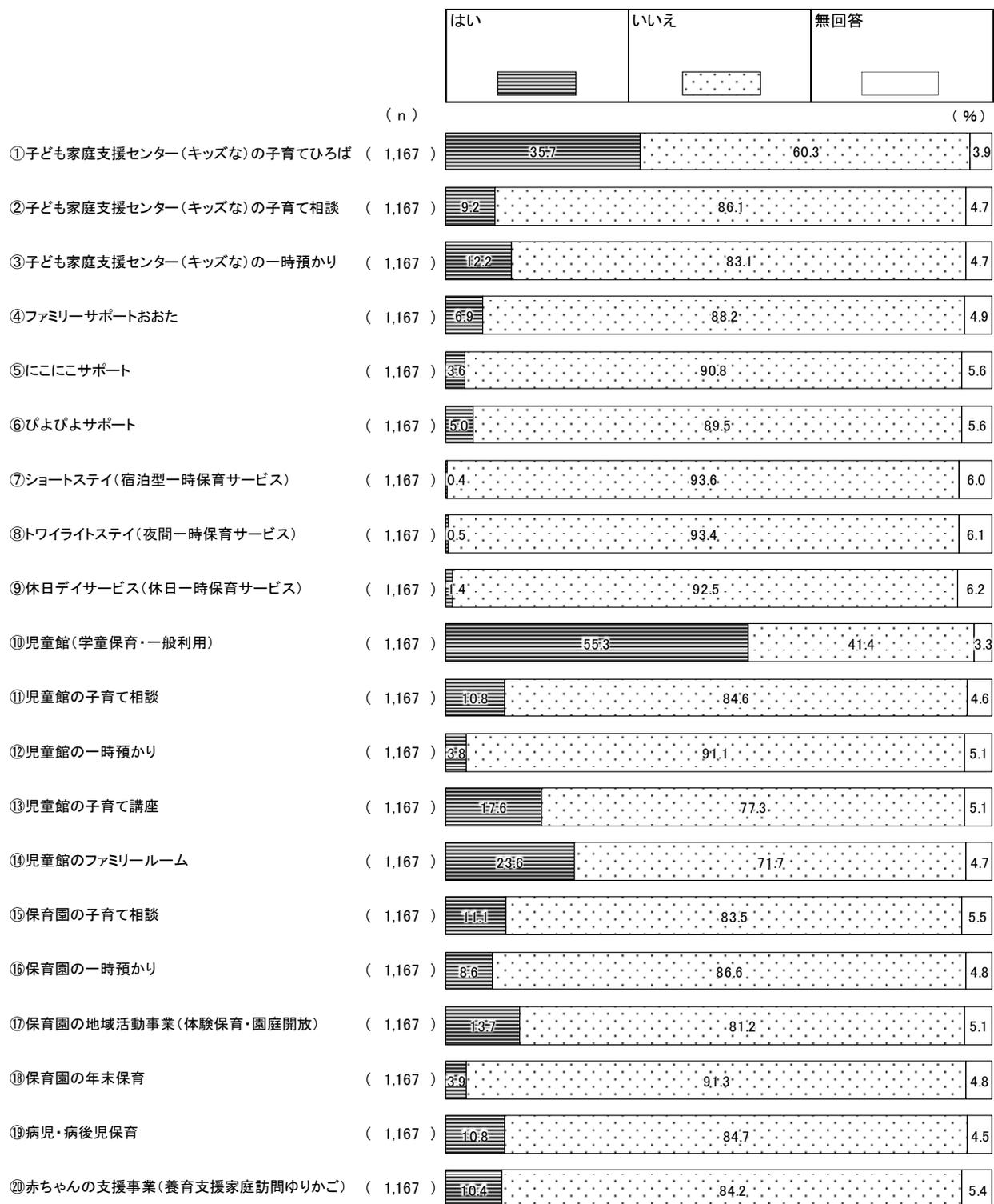
“児童館（学童保育・一般利用）”の認知度は約9割となっています。一方“トワイライトステイ（夜間一時保育サービス）”“休日デイサービス（休日一時保育サービス）”“児童館の一時預かり”の認知度は約3割から3割半ばとなっています。



②利用経験（これまでに利用したことがある）

“児童館（学童保育・一般利用）”は5割半ば、“子ども家庭支援センター（キッズな）の子育てひろば”は3割半ばがこれまでに利用したことがあるとなっています。

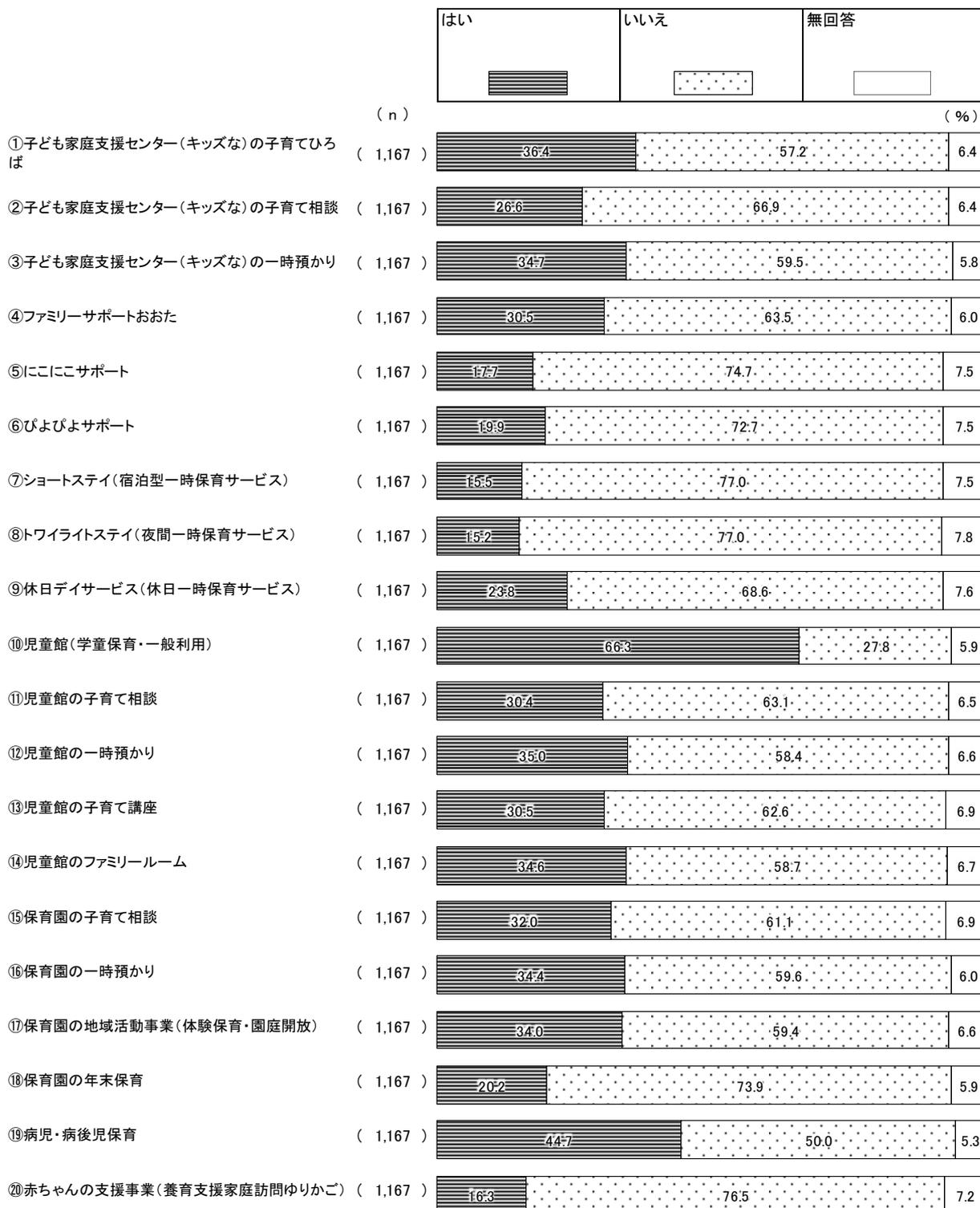
■利用経験



③利用意向（今後利用したい）

“児童館（学童保育・一般利用）”は6割半ば、“病児・病後児保育”は4割半ば、“子ども家庭支援センター（キッズな）の子育てひろば”は3割半ばが今後利用したいとなっています。

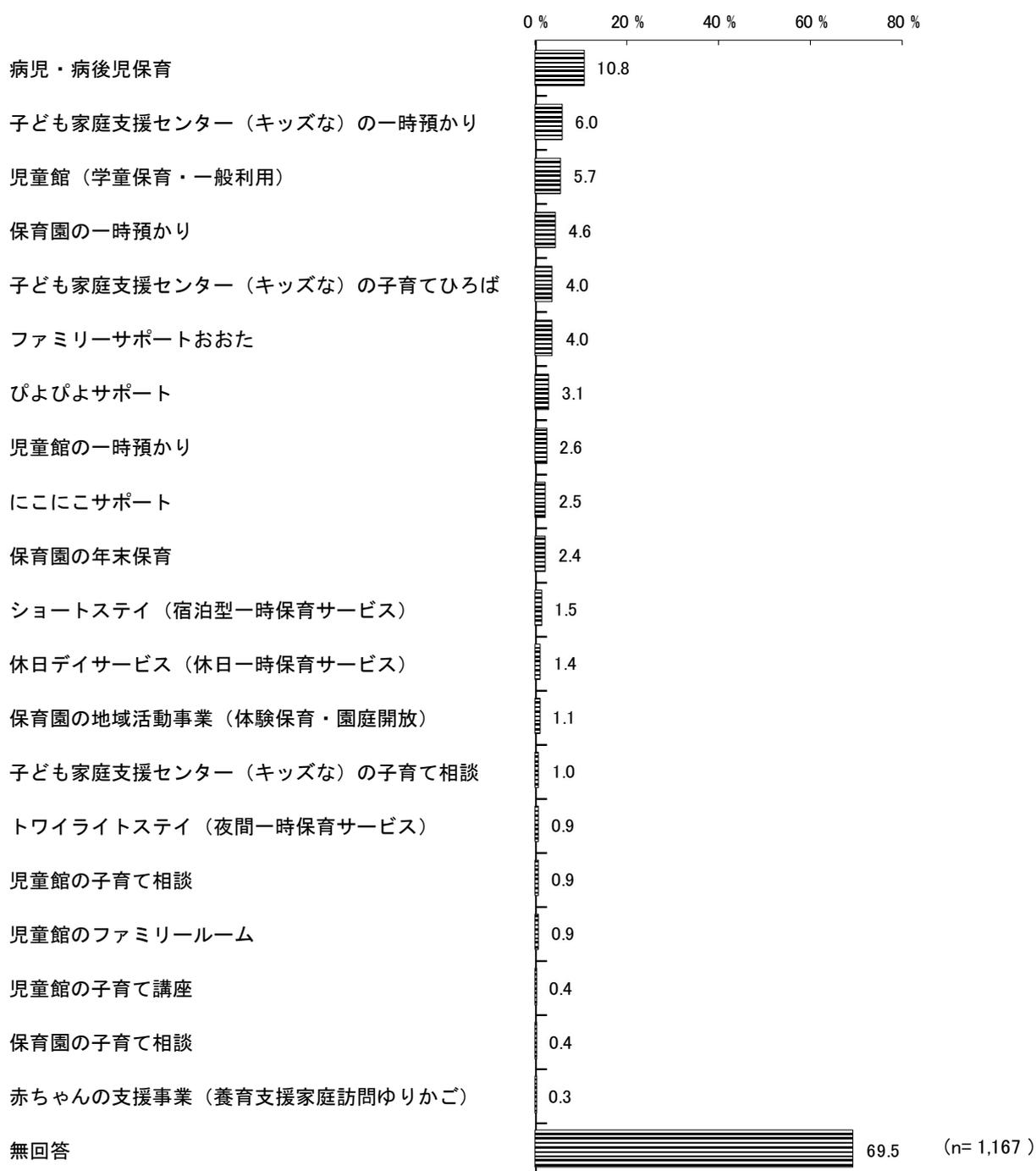
■利用意向



問 20 問 19①～⑳の事業について、改善してほしい事業はありますか。改善してほしい事業を3つまで選び、①～㉔の番号をご記入ください。また、改善点を各事業についてご記入ください。

「病児・病後児保育」(10.8%)が最も多く、「子ども家庭支援センター(キッズな)の一時預かり」(6.0%)、「児童館(学童保育・一般利用)」(5.7%)、「保育園の一時預かり」(4.6%)、「子ども家庭支援センター(キッズな)の子育てひろば」「ファミリーサポートおおた」(ともに4.0%)、「ぴよぴよサポート」(3.1%)と続きます。

■改善してほしい事業(複数回答)

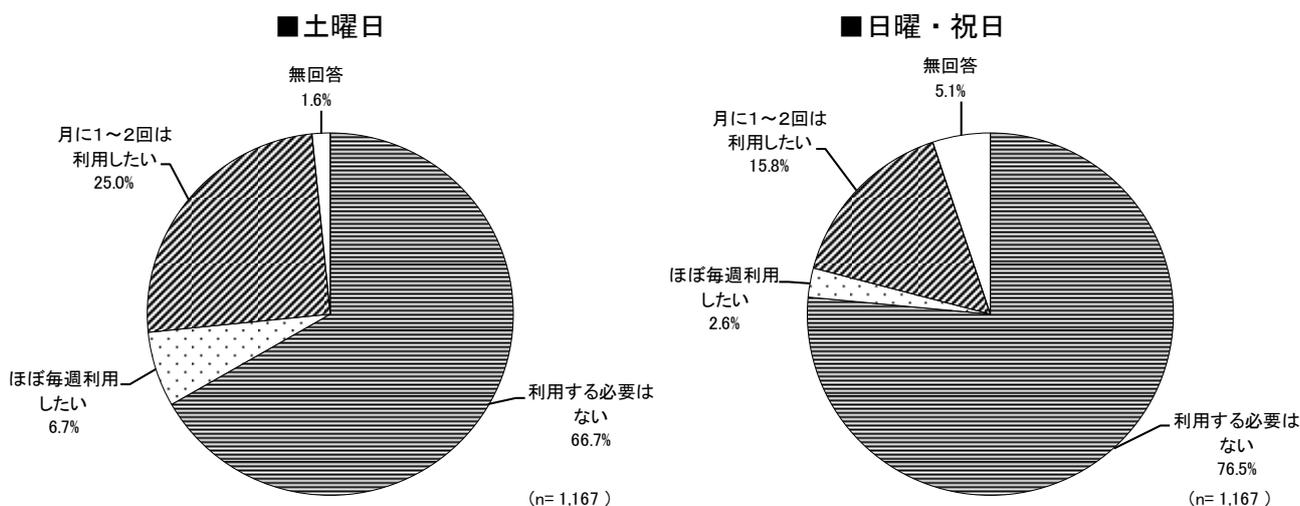


(7) 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について

問 21 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、幼稚園や保育園などの定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

土曜日は「利用する必要はない」（66.7%）、「月に1～2回は利用したい」（25.0%）、「ほぼ毎週利用したい」（6.7%）となっています。

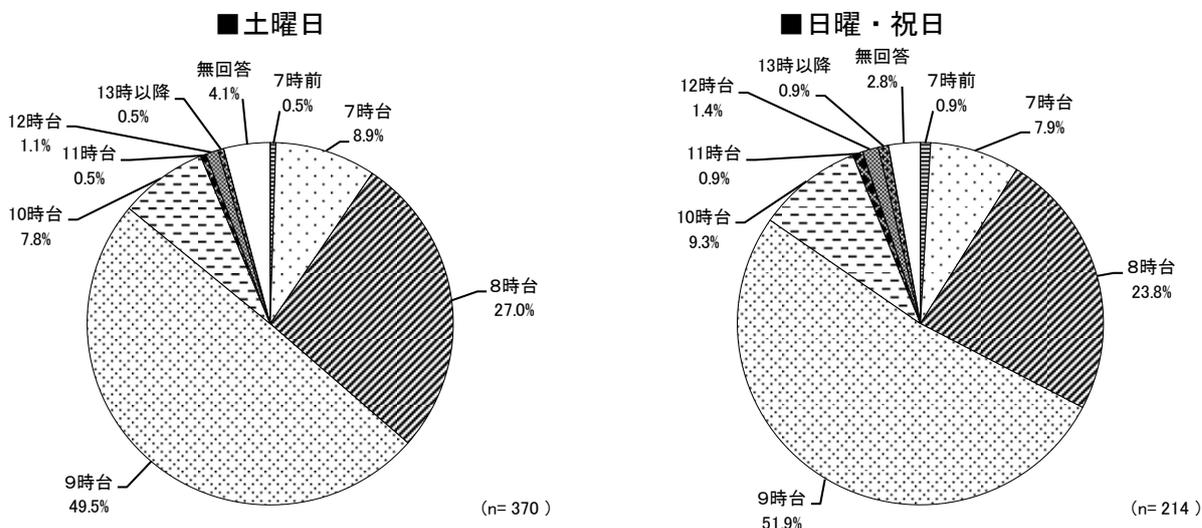
日曜・祝日も「利用する必要はない」（76.5%）、「月に1～2回は利用したい」（15.8%）、「ほぼ毎週利用したい」（2.6%）となっています。



①利用したい時間帯

ア 開始時刻

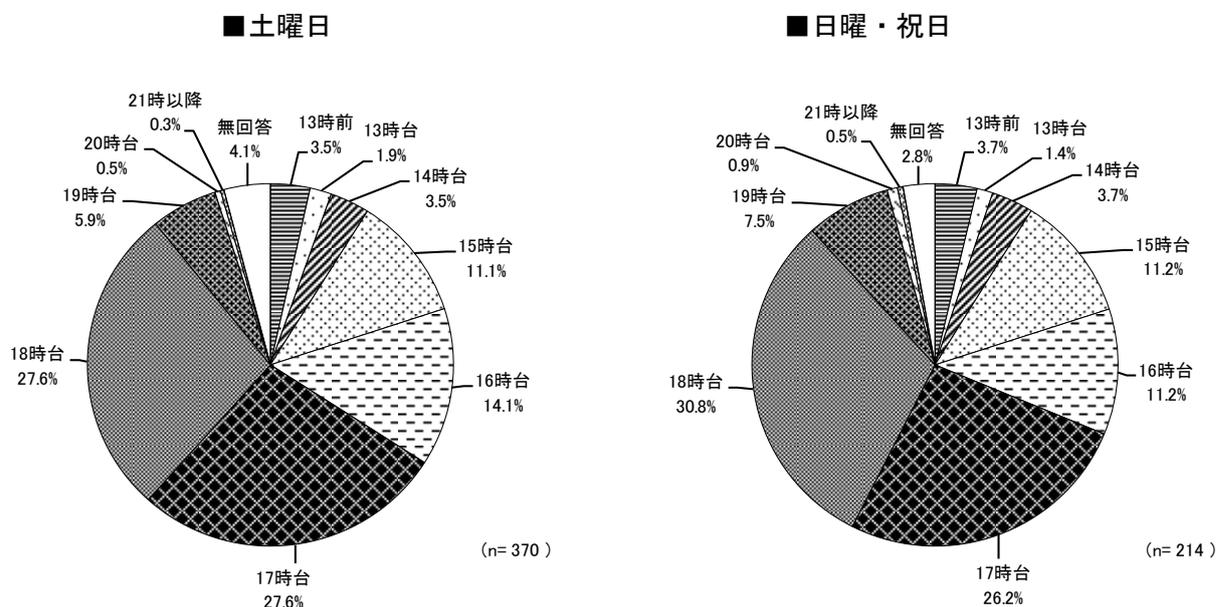
土曜日は「9時台」（49.5%）が最も多く、「8時台」（27.0%）、「7時台」（8.9%）と続きます。日曜・祝日も「9時台」（51.9%）が最も多く、「8時台」（23.8%）、「10時台」（9.3%）と続きます。



イ 終了時刻

土曜日は「18 時台」「17 時台」（ともに 27.6%）が最も多く、「16 時台」（14.1%）、「15 時台」（11.1%）と続きます。

日曜・祝日は「18 時台」（30.8%）が最も多く、「17 時台」（26.2%）、「15 時台」「16 時台」（ともに 11.2%）と続きます。

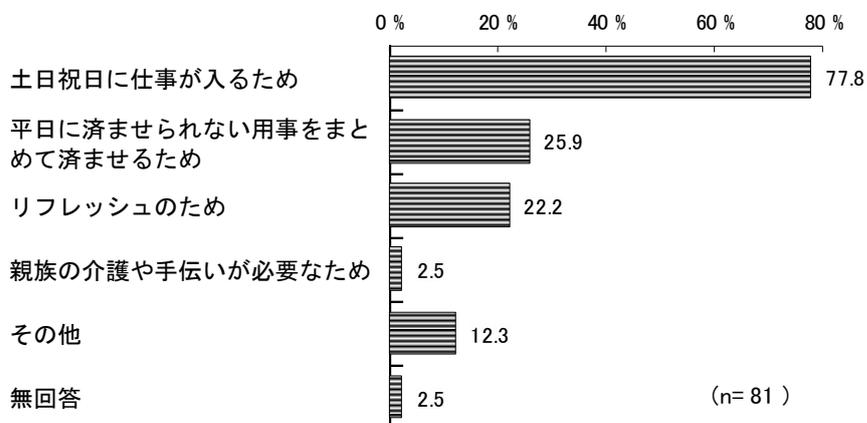


【問 21（1）もしくは（2）で「2. ほぼ毎週利用したい」に○をつけた方】

問 21-1 月に1～2回ではなく、ほぼ毎週利用したい理由は何ですか。

「土日祝日に仕事が入るため」（77.8%）が最も多く、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」（25.9%）、「リフレッシュのため」（22.2%）と続きます。

■毎週利用したい理由（複数回答）

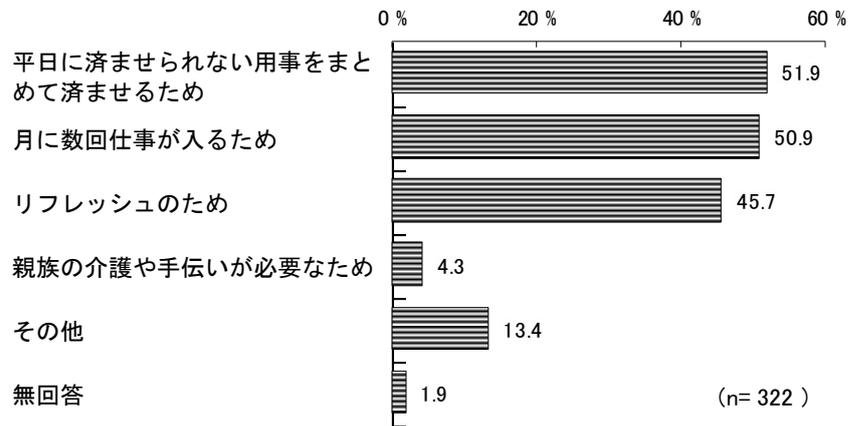


【問 21（1）もしくは（2）で「3. 月に1～2回は利用したい」に○をつけた方】

問 21-2 毎週ではなく、月に1～2回は利用したい理由は何ですか。

「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(51.9%)が最も多く、「月に数回仕事が入るため」(50.9%)、「リフレッシュのため」(45.7%)と続きます。

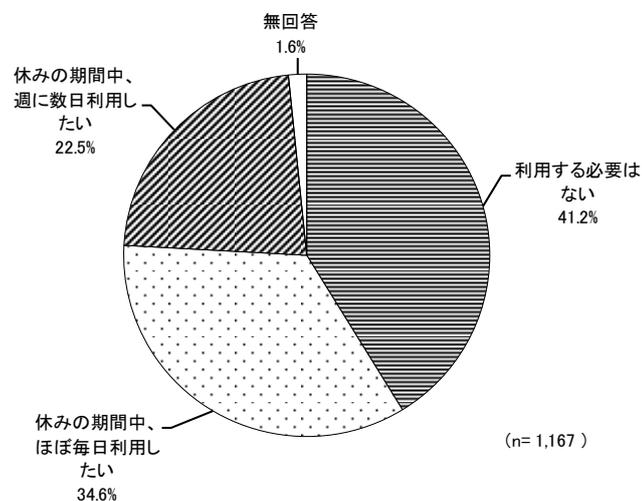
■月に1～2回利用したい理由（複数回答）



問 22 宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。

「利用する必要はない」(41.2%)、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(34.6%)、「休みの期間中、週に数日利用したい」(22.5%)となっています。

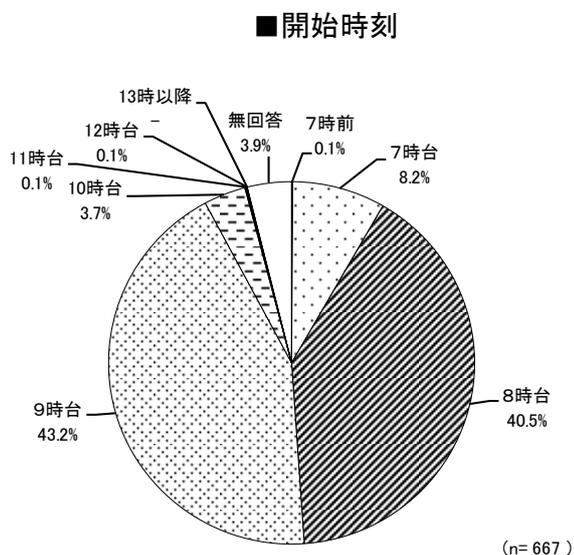
■夏休み・冬休みなど長期休暇期間中の教育・保育事業の利用希望



①利用したい時間帯

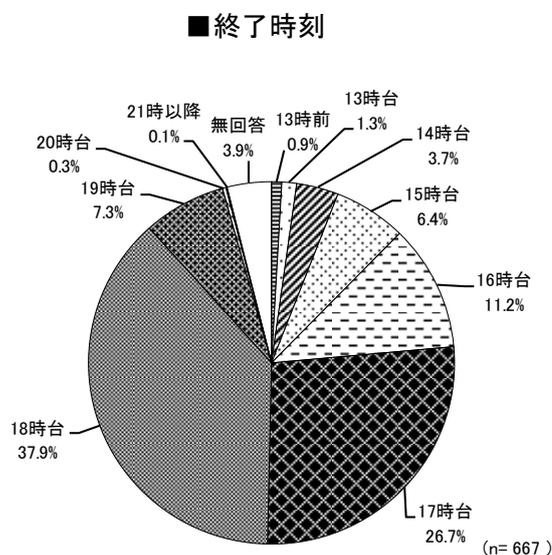
ア 開始時刻

「9時台」(43.2%)が最も多く、「8時台」(40.5%)、「7時台」(8.2%)と続きます。



イ 終了時刻

「18時台」(37.9%)が最も多く、「17時台」(26.7%)、「16時台」(11.2%)と続きます。

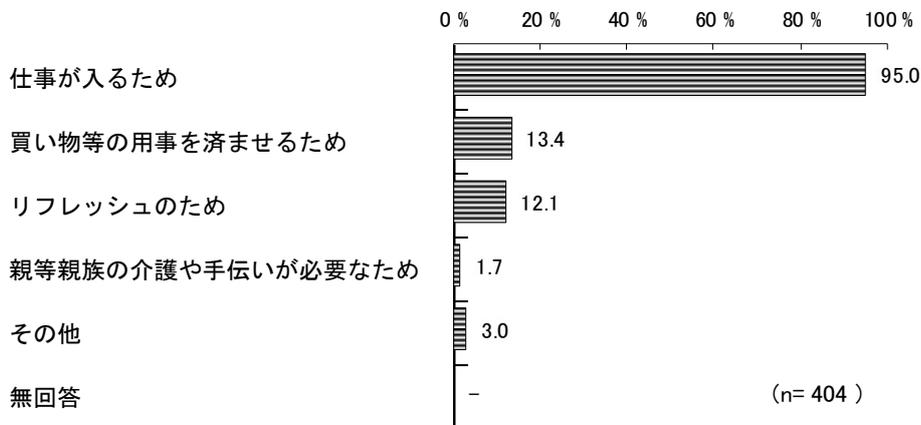


【問 22 で、「2. 休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」に○をつけた方】

問 22-1 ほぼ毎日利用したい理由は何ですか。

「仕事が入るため」(95.0%)が最も多く、「買い物等の用事を済ませるため」(13.4%)、「リフレッシュのため」(12.1%)と続きます。

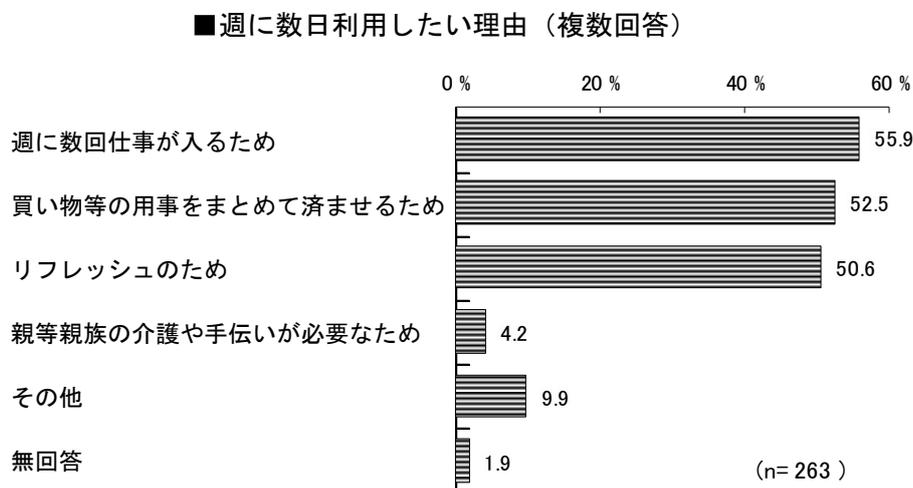
■ほぼ毎日利用したい理由（複数回答）



【問 22 で、「3. 休みの期間中、週に数日利用したい」に○をつけた方】

問 22-2 毎日ではなく、週に数日利用したい理由は何ですか。

「週に数回仕事が入るため」(55.9%)が最も多く、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(52.5%)、「リフレッシュのため」(50.6%)、と続きます。

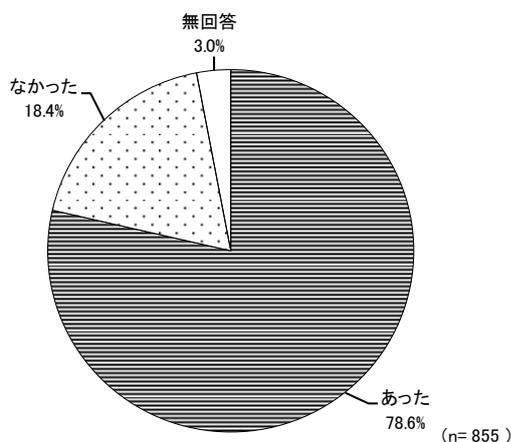


(8) 病気の際の対応について（平日の教育・保育を利用する方のみ）

問 23 この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。

「あった」(78.6%)、「なかった」(18.4%)となっています。

■病気やケガで通常の事業が利用できなかったこと



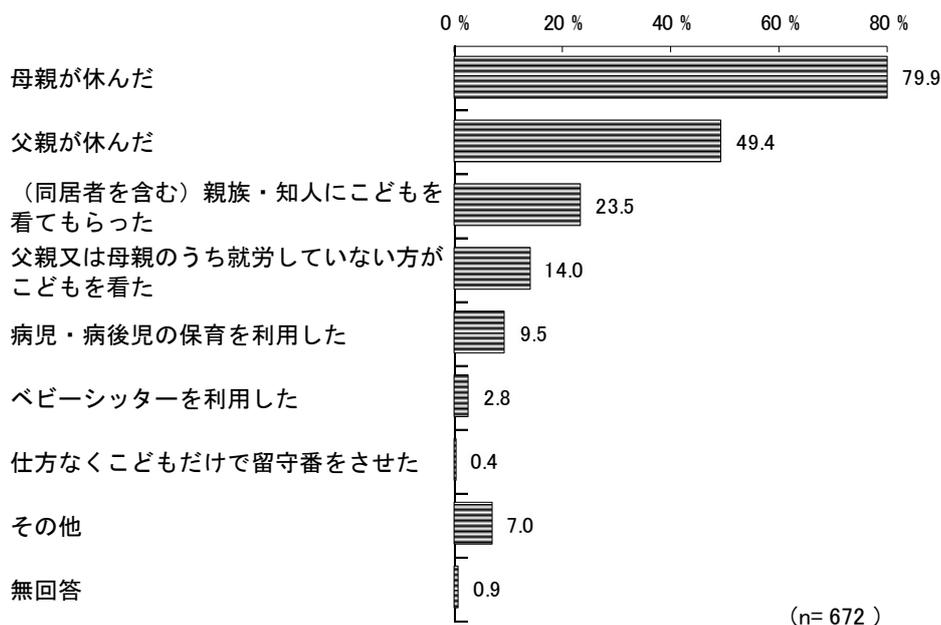
【問 23 で「1. あった」に○をつけた方】

問 23-1 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合、この1年間に行った対処方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数もご記入ください。

① 1年間の対処方法

「母親が休んだ」(79.9%)が最も多く、「父親が休んだ」(49.4%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもを看てもらった」(23.5%)と続きます。

■ 1年間の対処方法（複数回答）

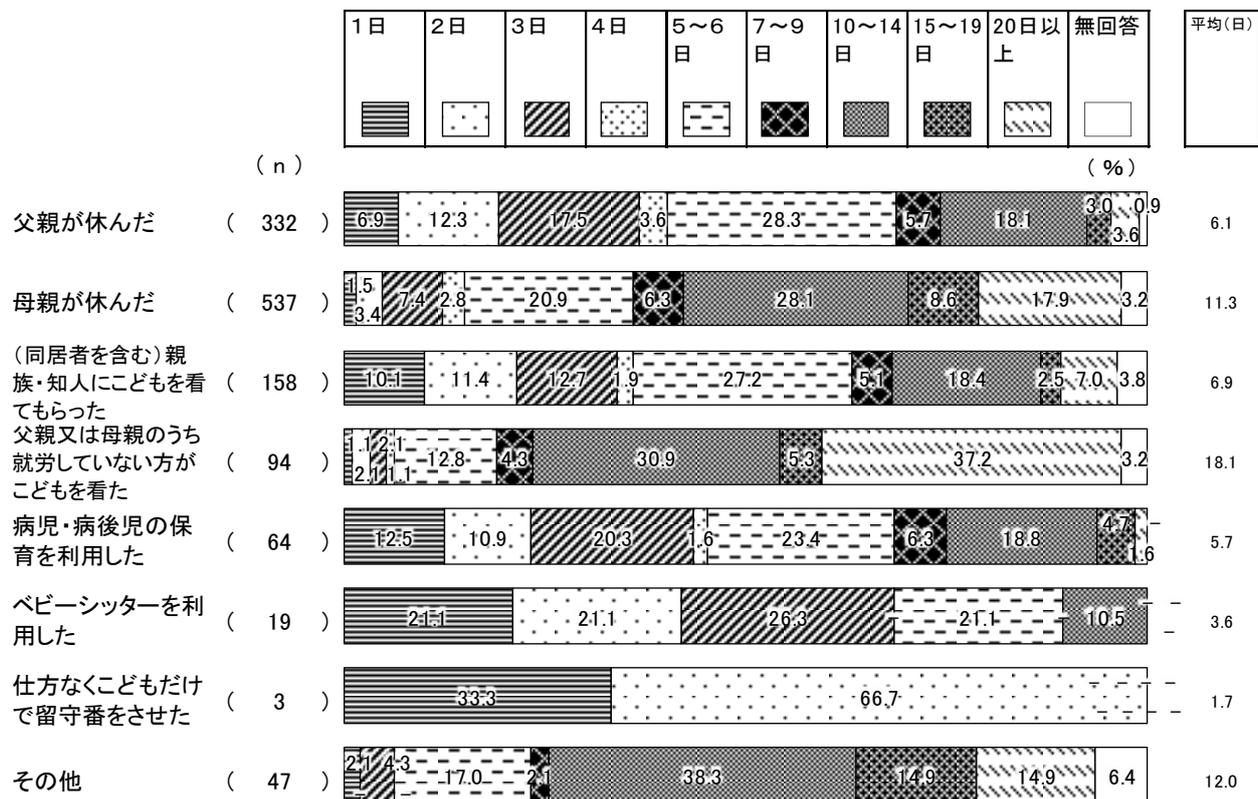


② 1年間の対処方法別日数

“父親が休んだ”は「5～6日」(28.3%)が最も多く、「10～14日」(18.1%)、「3日」(17.5%)と続いており、平均6.1日となっています。

“母親が休んだ”は「10～14日」(28.1%)が最も多く、「5～6日」(20.9%)、「20日以上」(17.9%)と続いており、平均11.3日となっています。

■ 1年間の対処方法別日数

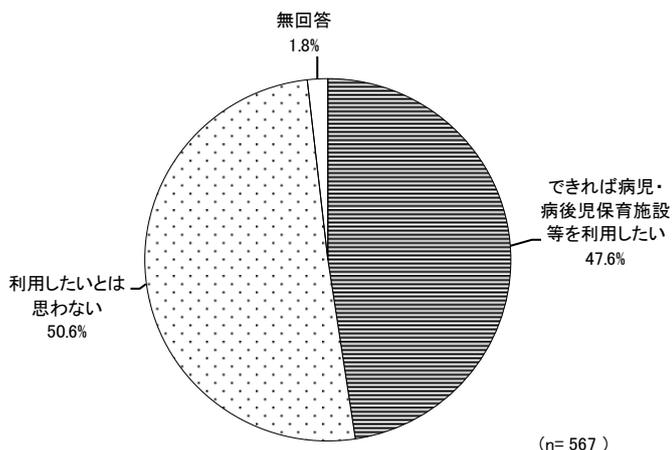


【問 23-1 で「1. 父親が休んだ」または「2. 母親が休んだ」に○をつけた方】

問 23-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかります、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」(47.6%)、「利用したいとは思わない」(50.6%)となっています。

■病児・病後児保育施設等の利用希望



【母親の就労状況別】

フルタイムで就労している方は「できれば病児・病後保育施設等を利用したい」、パート・アルバイトで就労している方は「利用したいとは思わない」が多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	できれば病児・病後児保育施設等を利用したい	利用したいとは思わない	無回答
全体	567	47.6	50.6	1.8
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	348	54.6	44.8	0.6
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	52	48.1	46.2	5.8
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	134	33.6	64.9	1.5
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	5	0.0	80.0	20.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	2	50.0	50.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	21	33.3	61.9	4.8
これまで就労したことがない	1	100.0	0.0	0.0

【お子さんをみてもらえる親族・知人の有無別】（複数回答）

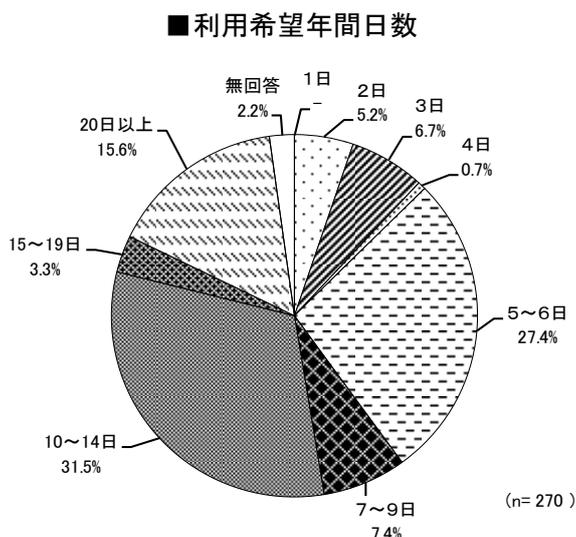
“日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる”、“いずれもない”は「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が多くなっています。

（単位：％）

	有効回答者数	できれば病児・病後児保育施設等を利用したい	利用したいとは思わない	無回答
全体	567	47.6	50.6	1.8
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	81	32.1	63.0	4.9
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	303	46.9	51.5	1.7
日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	5	60.0	40.0	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	59	44.1	55.9	0.0
いずれもない	172	55.2	44.2	0.6

①利用希望年間日数

「10～14日」(31.5%)が最も多く、「5～6日」(27.4%)、「20日以上」(15.6%)と続きます。

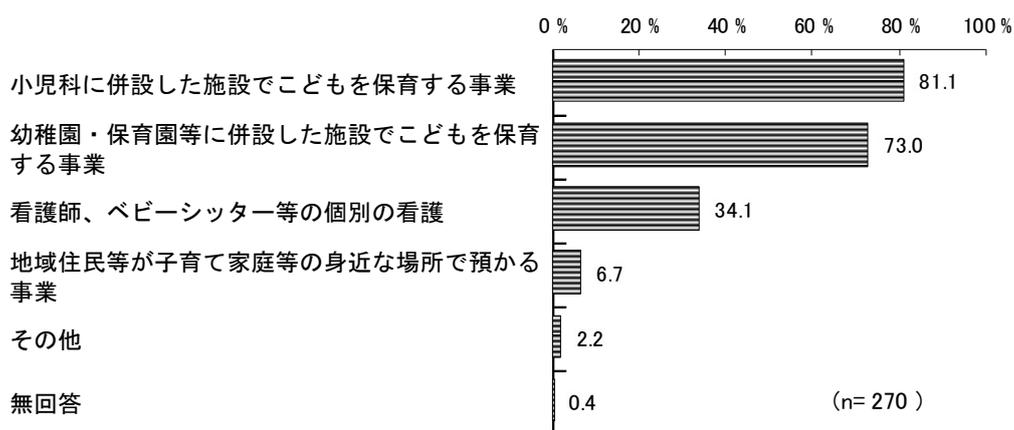


【問 23-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方】

問 23-3 上記の目的でこどもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われるですか。

「小児科に併設した施設でこどもを保育する事業」(81.1%)が最も多く、「幼稚園・保育園等に併設した施設でこどもを保育する事業」(73.0%)、「看護師、ベビーシッター等の個別の看護」(34.1%)と続きます。

■病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態（複数回答）

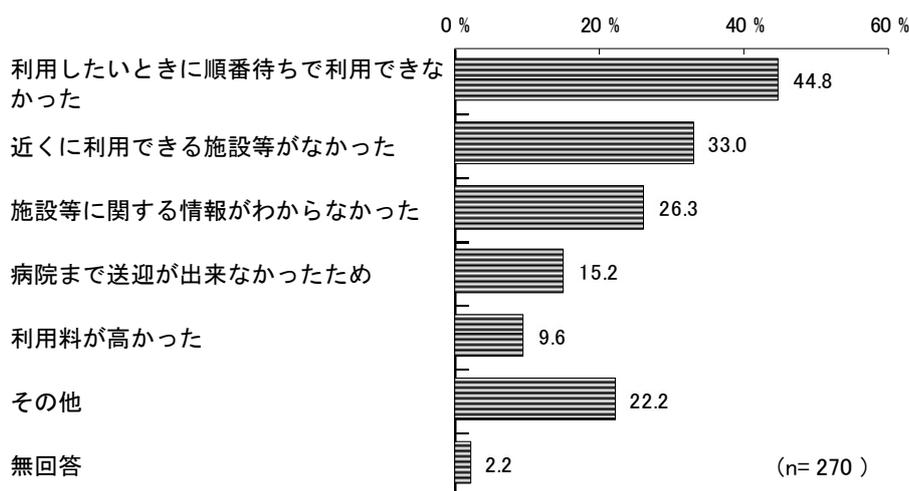


【問 23-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方】

問 23-4 病児・病後児保育施設等を利用したいとお考えであったのに、利用ができなかった理由は何ですか。

「利用したいときに順番待ちで利用できなかった」(44.8%)が最も多く、「近くに利用できる施設等がなかった」(33.0%)、「施設等に関する情報がわからなかった」(26.3%)と続きます。

■病児・病後児保育施設等が利用できなかった理由（複数回答）

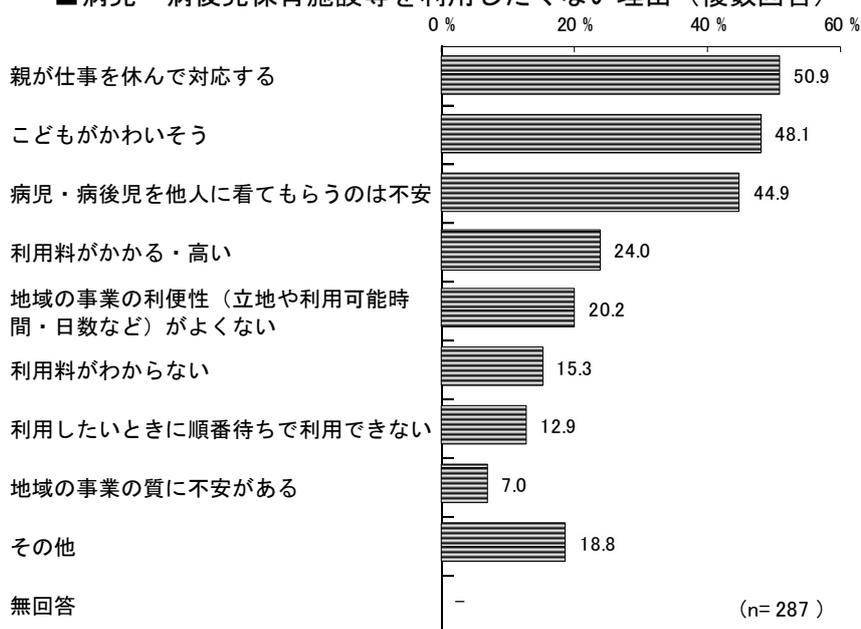


【問 23-2 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方】

問 23-5 そう思われる理由は何ですか。

「親が仕事を休んで対応する」(50.9%)が最も多く、「こどもがかawaiiそう」(48.1%)、「病児・病後児を他人に看てもらふのは不安」(44.9%)と続きます。

■病児・病後児保育施設等を利用したくない理由（複数回答）

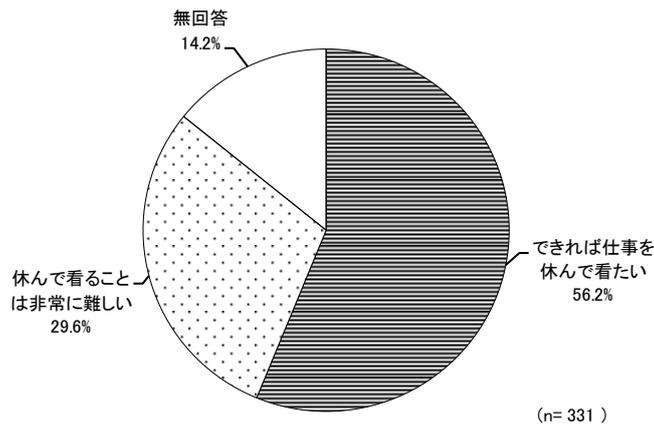


【問 23-1 で「3. (同居者を含む) 親族・知人に子どもを看てもらった」～「8. その他」に○をつけた方】

問 23-6 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。

「できれば仕事を休んで看たい」(56.2%)、「休んで看することは非常に難しい」(29.6%)となっています。

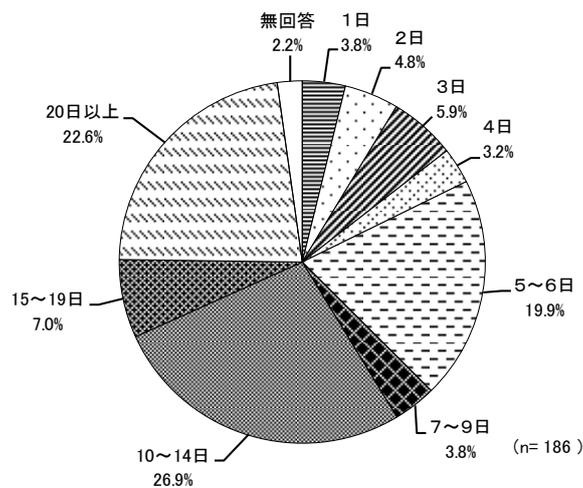
■ できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったこと



① 仕事を休んで看たい希望年間日数

「10～14日」(26.9%)が最も多く、「20日以上」(22.6%)、「5～6日」(19.9%)と続きます。

■ 仕事を休んで看たい希望年間日数

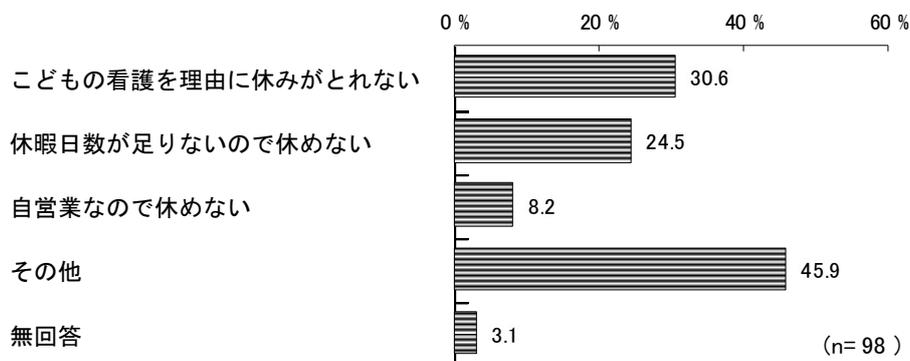


【問 23-6 で「2. 休んで見ることは非常に難しい」に○をつけた方】

問 23-7 そう思われる理由は何ですか。

「こどもの看護を理由に休みがとれない」(30.6%)が最も多く、「休暇日数が足りないので休めない」(24.5%)、「自営業なので休めない」(8.2%)と続きます。

■休んで見ることは非常に難しいと思う理由（複数回答）



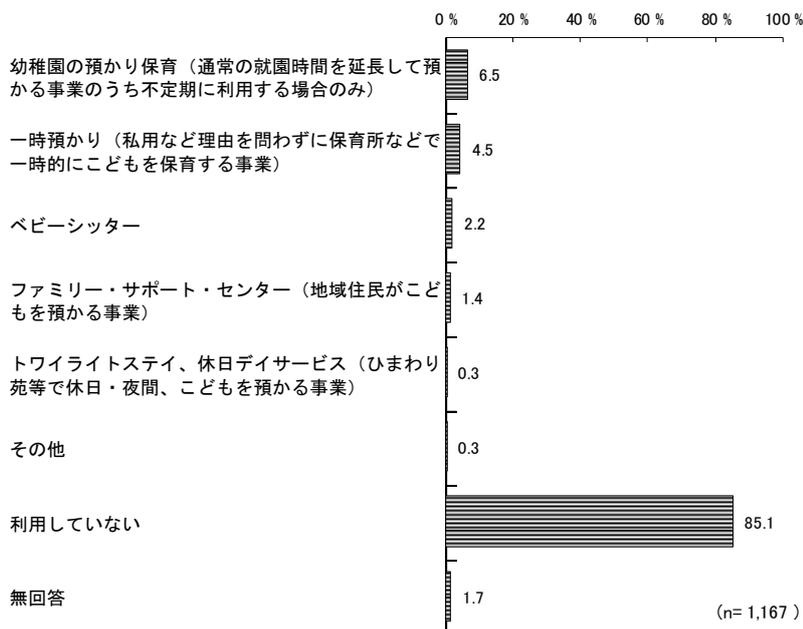
(9) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 24 宛名のお子さんについて、日中の幼稚園や保育園などの定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用はありますか。

①利用している事業

「幼稚園の預かり保育（通常の見園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ）」(6.5%)が最も多く、「一時預かり（私用など理由を問わずに保育所などで一時的にこどもを保育する事業）」(4.5%)、「ベビーシッター」(2.2%)と続きます。

■利用している事業（複数回答）



【年齢別】

すべての年齢で「利用していない」が最も多くなっています。また、3歳以上は「幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ)」が多くなっています。

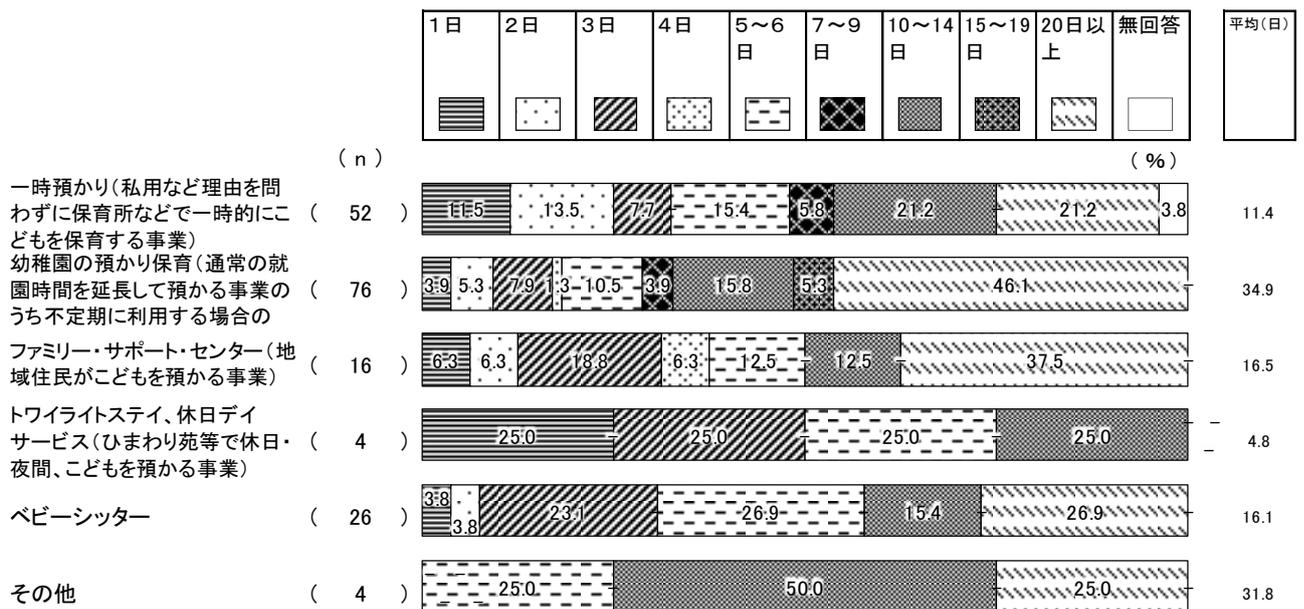
(単位:%)

	有効回答者数	一時預かり(私用など理由を問わずに保育所などで一時的にこどもを保育する事業)	幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期に利用する場合のみ)	ファミリー・サポート・センター(地域住民がこどもを預かる事業)	トワイライトステイ、休日デイサービス(ひまわり苑等で休日・夜間、こどもを預かる事業)	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答
全体	1,167	4.5	6.5	1.4	0.3	2.2	0.3	85.1	1.7
0歳	298	6.0	0.0	1.0	0.0	5.0	0.0	86.9	3.0
1歳	166	5.4	1.8	2.4	0.0	0.6	0.6	88.0	1.8
2歳	168	5.4	1.8	1.2	0.6	2.4	0.0	89.3	1.8
3歳	164	4.9	9.8	1.8	0.6	1.2	0.6	84.1	0.6
4歳	185	2.7	14.1	1.1	1.1	0.5	0.5	82.2	0.5
5歳	177	1.1	15.3	0.6	0.0	1.1	0.6	81.9	0.6

②利用している事業別年間日数

“幼稚園の預かり保育”は「20日以上」(46.1%)が最も多く、平均34.9日となっています。

■利用している事業別年間日数

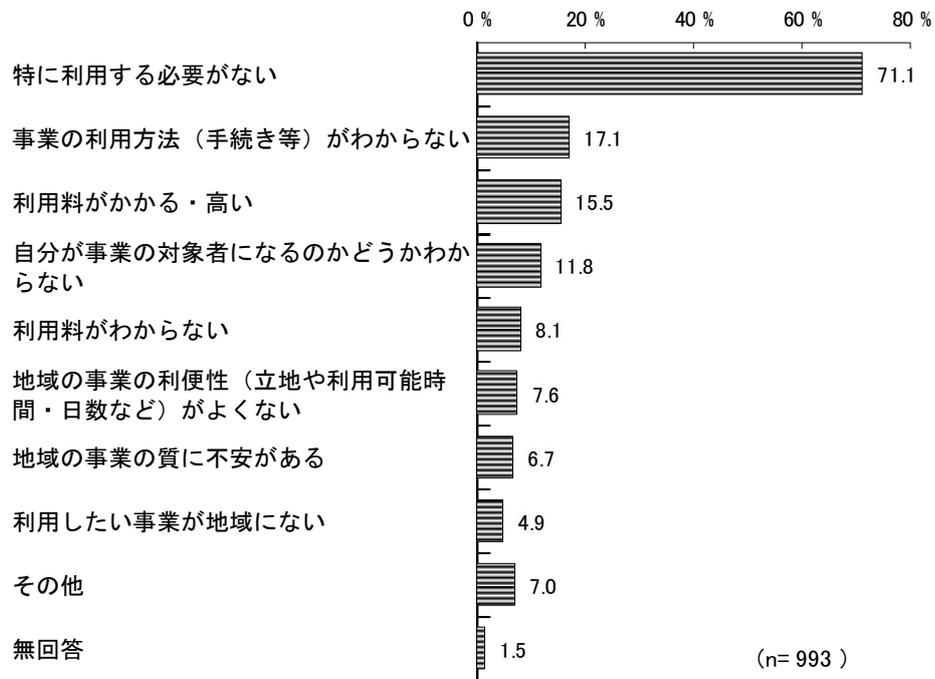


【問 24 で「7. 利用していない」に○をつけた方】

問 24-1 現在利用していない理由は何ですか。

「特に利用する必要がない」(71.1%)が最も多く、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(17.1%)、「利用料がかかる・高い」(15.5%)と続きます。

■利用していない理由(複数回答)

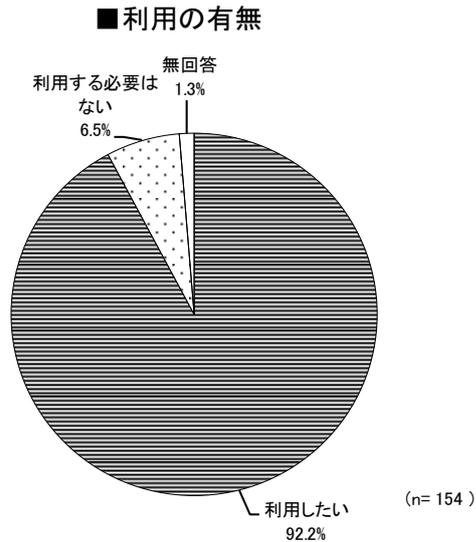


【問 24 で「1. ～6.」(利用している) に○をつけた方】

問 25 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、問 24 のような事業を利用する必要があると思いますか。利用の有無と利用の目的、利用したい年間日数をお答えください。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

①利用の有無

「利用したい」(92.2%)、「利用する必要はない」(6.5%)となっています。



【年齢別】

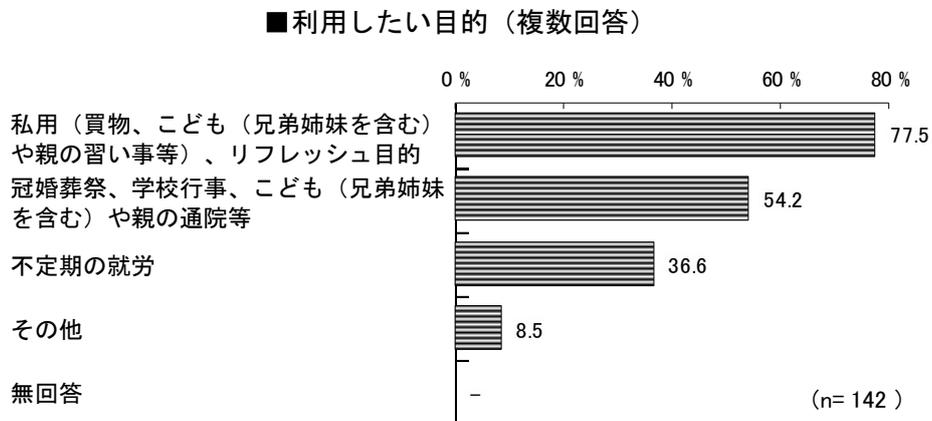
すべての年齢で「利用したい」が多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	利用したい	利用する必要はない	無回答
全体	154	92.2	6.5	1.3
0歳	30	100.0	0.0	0.0
1歳	17	82.4	11.8	5.9
2歳	15	86.7	13.3	0.0
3歳	25	100.0	0.0	0.0
4歳	32	96.9	3.1	0.0
5歳	31	83.9	16.1	0.0

②利用したい目的

「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（77.5%）が最も多く、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（54.2%）、「不定期の就労」（36.6%）と続きます。

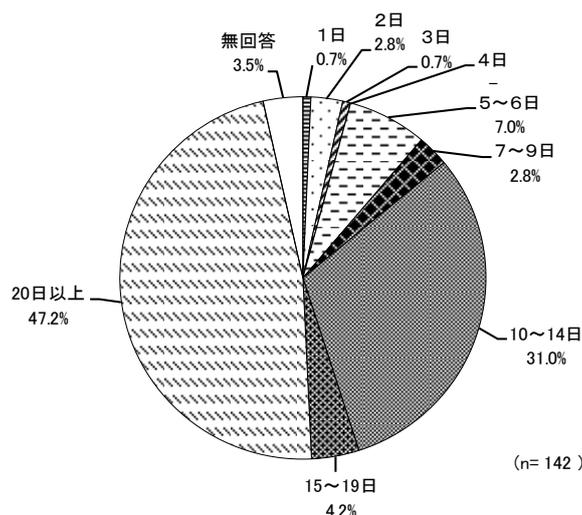


③利用したい年間日数

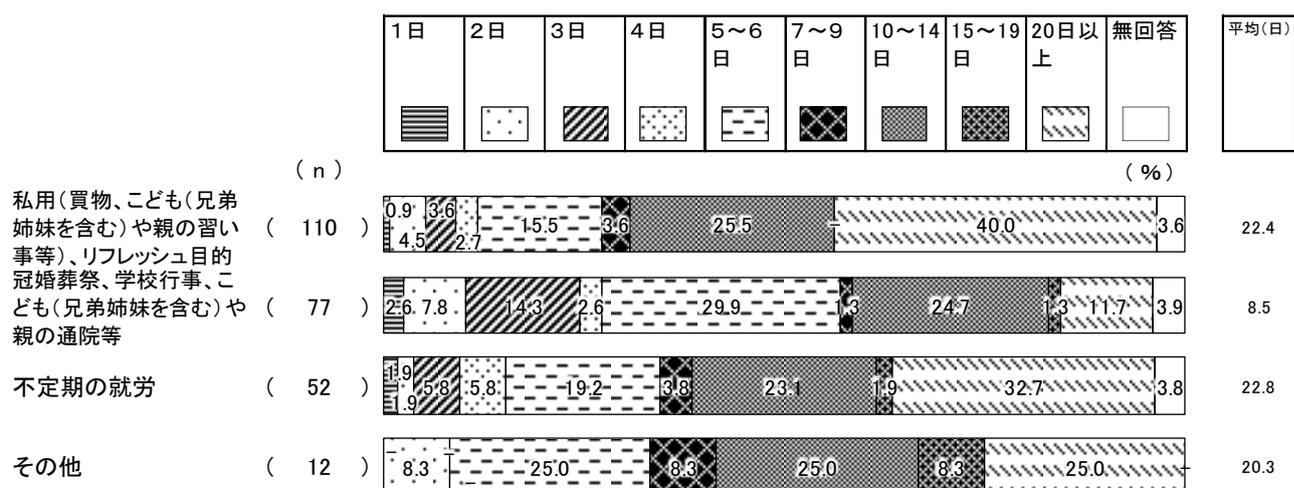
利用したい年間日数は、「20日以上」(47.2%)が最も多く、「10～14日」(31.0%)、「5～6日」(7.0%)となっています。平均は32.0日となっています。

利用したい年間日数(目的別)をみると“私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等、リフレッシュ目的)” “不定期の就労”は「20日以上」、「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等”は「5～6日」、が最も多くなっています。

■利用したい年間日数(合計)



■利用したい年間日数(目的別)

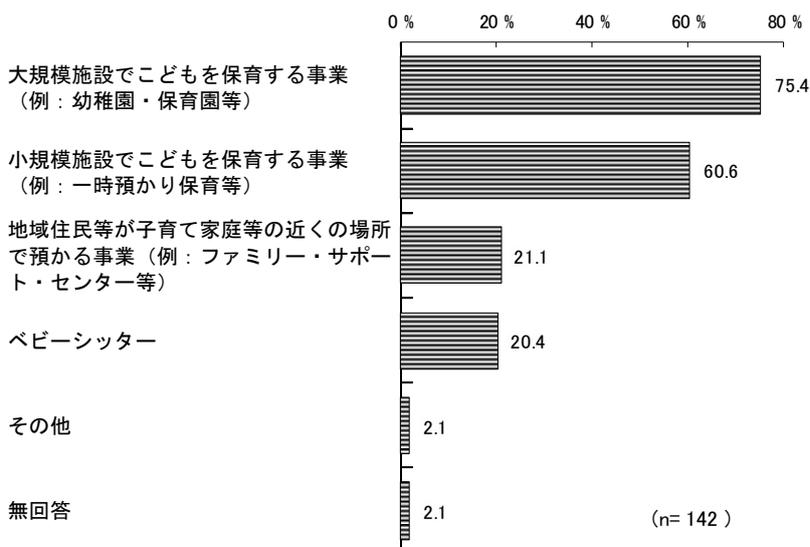


【問 25 で「1. 利用したい」に○をつけた方】

問 25-1 問 25 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われるですか。

「大規模施設でこどもを保育する事業（例：幼稚園・保育園等）」（75.4%）が最も多く、「小規模施設でこどもを保育する事業（例：一時預かり保育等）」（60.6%）、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で預かる事業（例：ファミリー・サポート・センター等）」（21.1%）と続きます。

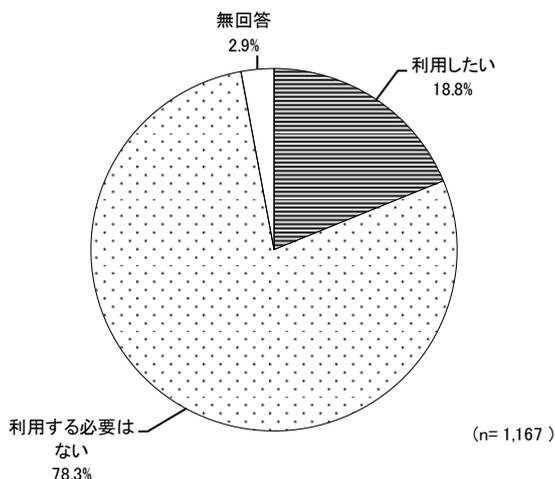
■望ましい事業形態（複数回答）



問 26 宛名のお子さんについて、1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、こどもを保護する事業）の利用希望の有無について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

「利用したい」（18.8%）、「利用する必要はない」（78.3%）となっています。

■短期入所生活援助事業の利用希望の有無

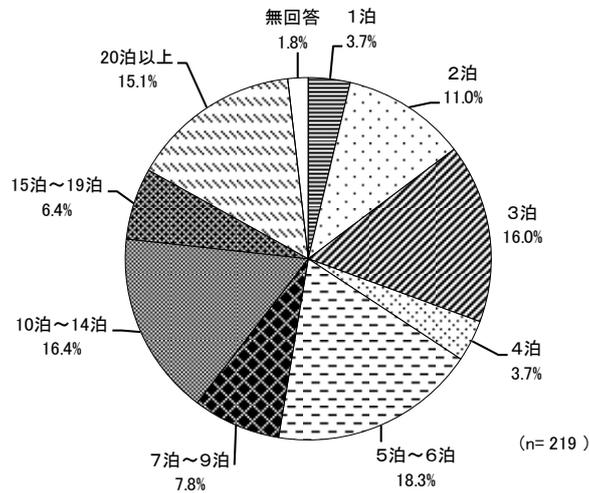


①利用したい年間日数

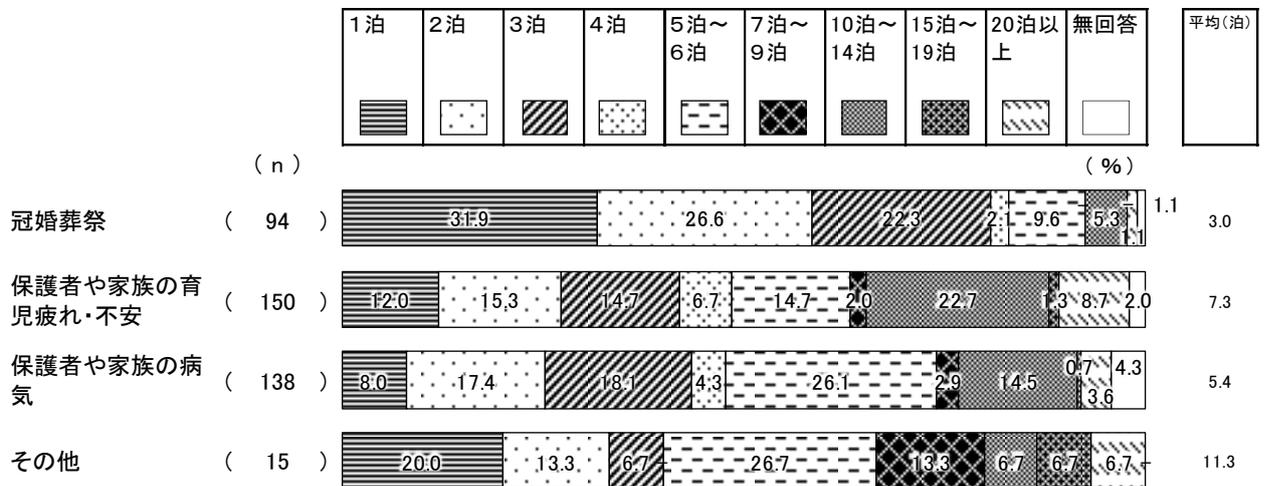
「5泊～6泊」(18.3%)が最も多く、「10泊～14泊」(16.4%)、「3泊」(16.0%)と続きます。

利用したい年間日数(目的別)をみると“冠婚葬祭”は「1泊」、「保護者や家族の育児疲れ・不安」は「10～14泊」、「保護者や家族の病気」は「5～6泊」が最も多くなっています。

■利用したい年間泊数（合計）



■利用したい年間泊数（目的別）

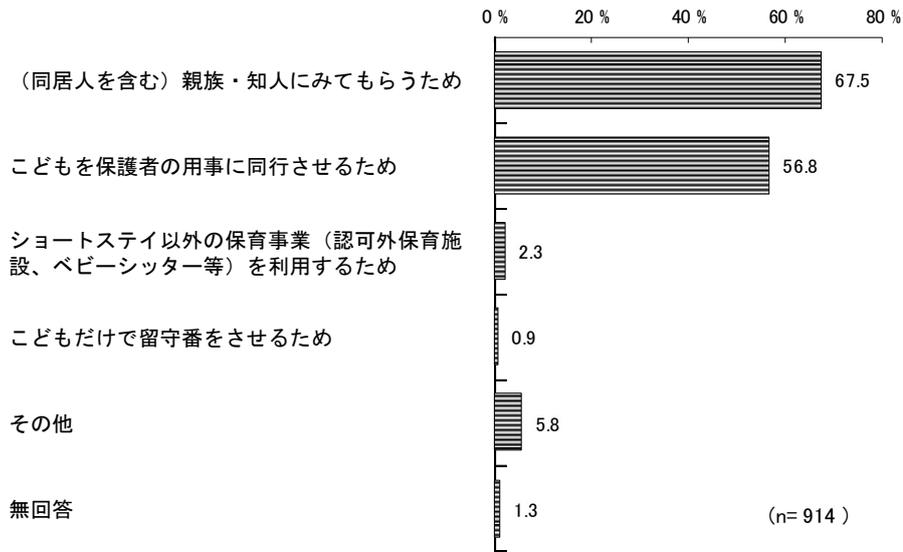


【問 26 で「2. 利用する必要はない」に○をつけた方】

問 26-1 利用する必要がない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「(同居人を含む) 親族・知人にみてもらうため」(67.5%)が最も多く、「子どもを保護者の用事に同行させるため」(56.8%)、「ショートステイ以外の保育事業(認可外保育施設、ベビーシッター等)を利用するため」(2.3%)と続きます。

■利用する必要がない理由(複数回答)



(10) 小学校就学後の放課後の過ごし方について

問 27 宛名のお子さんについて、小学校低学年（１～３年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「５．学童保育」の場合には、利用を希望する時間をご記入ください。

問 28 宛名のお子さんについて、小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「５．学童保育」の場合には利用を希望する時間をご記入ください。

① 過ごさせたい場所

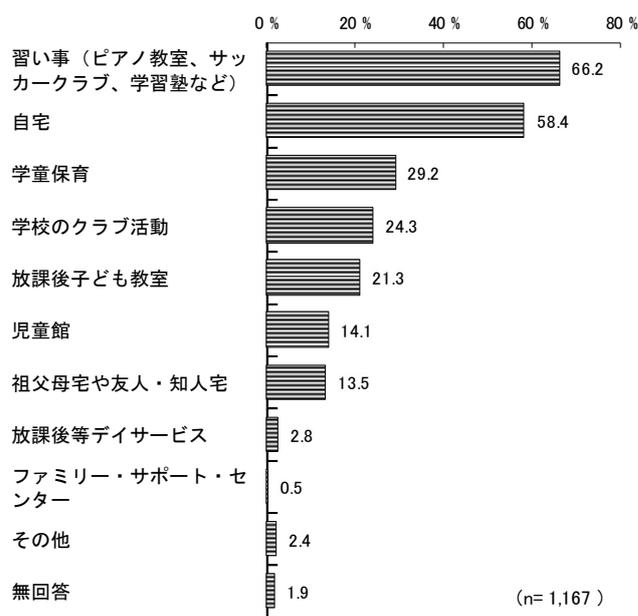
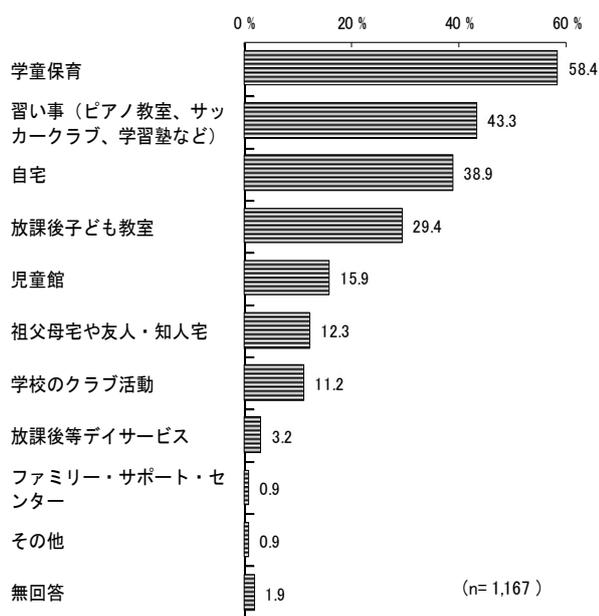
低学年は「学童保育」(58.4%)が最も多く、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(43.3%)、「自宅」(38.9%)と続きます。

高学年は「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」(66.2%)が最も多く、「自宅」(58.4%)、「学童保育」(29.2%)、「学校のクラブ活動」(24.3%)と続きます。

高学年になると、「学童保育」が約 30 ポイント少なくなり、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が約 20 ポイント多くなっています。

■ 低学年（複数回答）

■ 高学年（複数回答）



【経年比較】

低学年は前回同様「学童保育」が最も多くなっています。高学年も前回同様「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が最も多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	児童館	放課後子ども教室	学童保育	ファミリー・サポート・センター	放課後等デイサービス	習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	学校のクラブ活動	その他	無回答
低学年	今回 (R5)	1,167	38.9	12.3	15.9	29.4	58.4	0.9	3.2	43.3	11.2	0.9	1.9
	前回 (H30)	1,234	43.4	17.6	16.0	36.5	54.6	1.9	3.2	52.8	17.5	2.6	3.0
高学年	今回 (R5)	1,167	58.4	13.5	14.1	21.3	29.2	0.5	2.8	66.2	24.3	2.4	1.9
	前回 (H30)	1,234	54.1	20.1	14.6	31.0	33.6	1.4	2.4	72.7	35.1	3.5	3.2

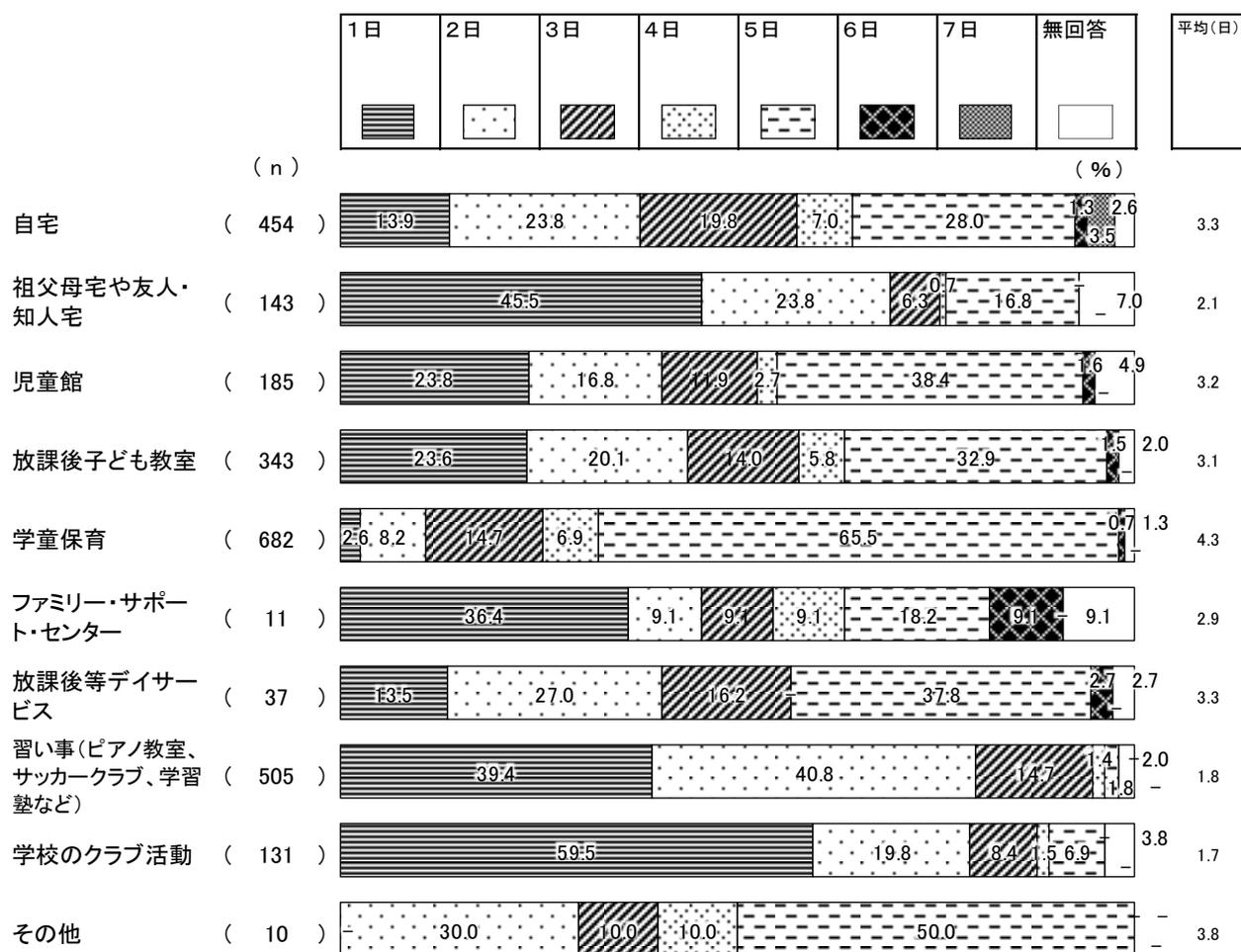
②過ごさせたい場所別週当たり日数

低学年のうち、過ごさせたい場所として多かったものをみると、“学童保育”は「5日」(65.5%)が最も多く、「3日」(14.7%)、「2日」(8.2%)と続きます。

“習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)”は「2日」(40.8%)が最も多く、「1日」(39.4%)、「3日」(14.7%)と続きます。

“自宅”は「5日」(28.0%)が最も多く、「2日」(23.8%)、「3日」(19.8%)と続きます。

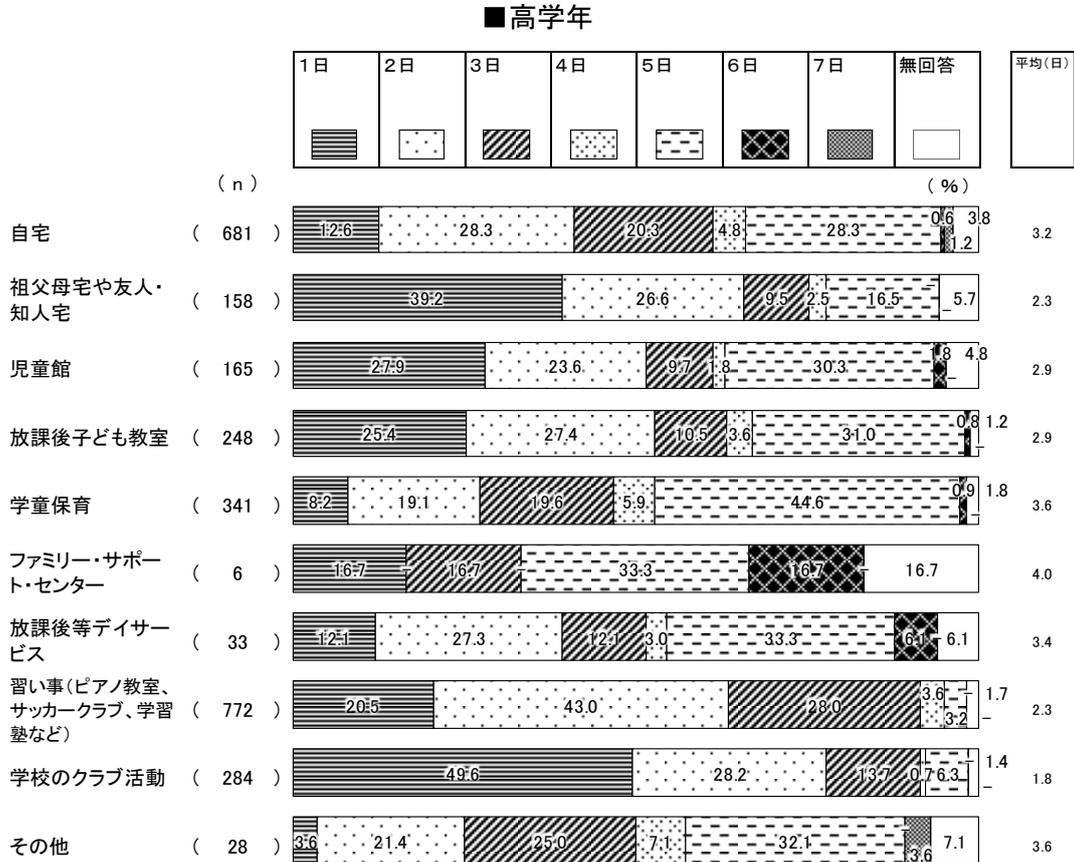
■低学年



高学年のうち、過ごさせたい場所として多かったのを見ると、“習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）”は「2日」（43.0%）が最も多く、「3日」（28.0%）、「1日」（20.5%）と続きます。

“自宅”は「2日」「5日」（ともに28.3%）が最も多く、「3日」（20.3%）と続きます。

“学童保育”は「5日」（44.6%）が最も多く、「3日」（19.6%）、「2日」（19.1%）と続きます。

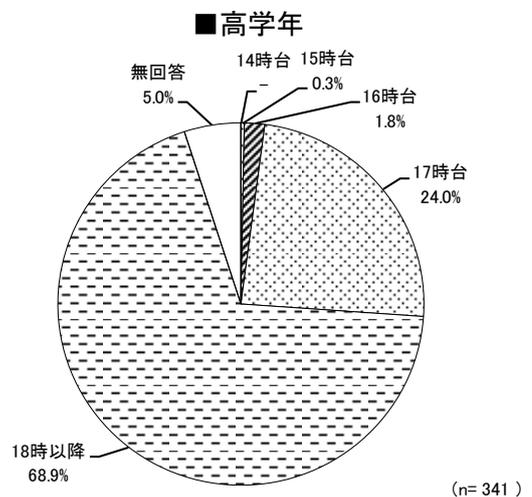
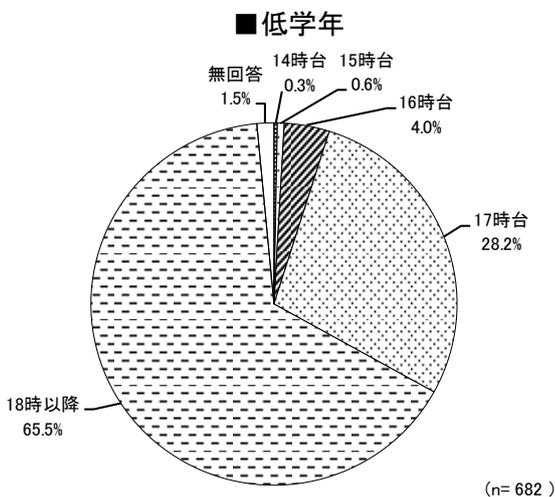


【「5. 学童保育」に○をつけた方】

③学童保育の終了時刻

低学年は「18時以降」（65.5%）が最も多く、「17時台」（28.2%）、「16時台」（4.0%）と続きます。

高学年も「18時以降」（68.9%）が最も多く、「17時台」（24.0%）、「16時台」（1.8%）と続きます。

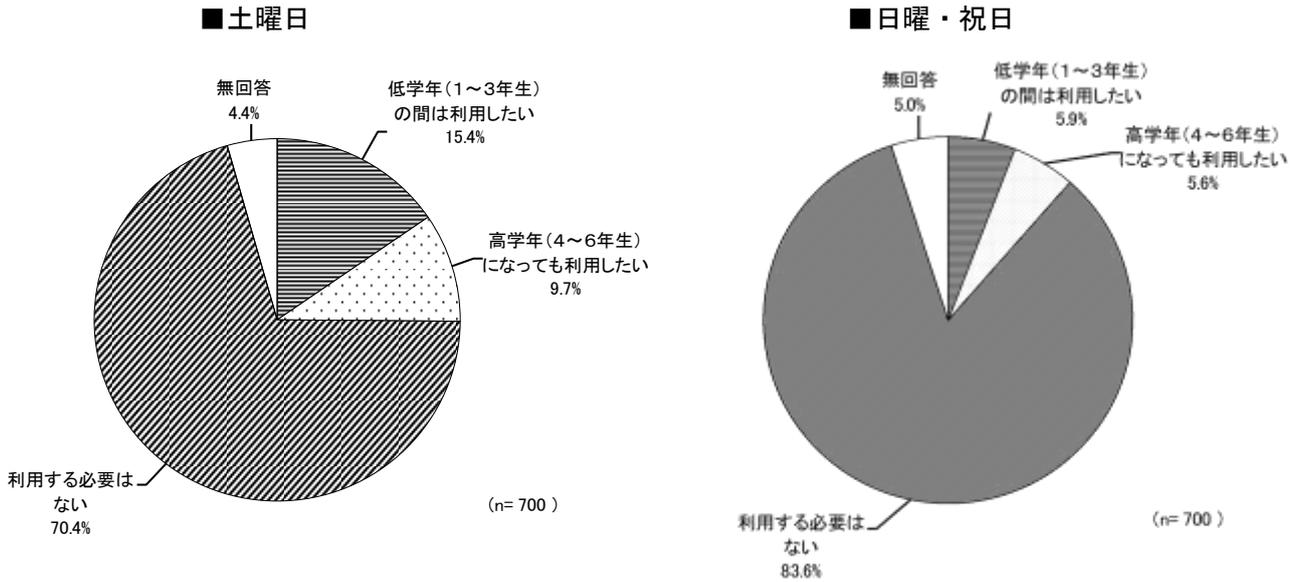


【問 27 または問 28 で「5. 学童保育」に○をつけた方】

問 29 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、学童保育の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。

土曜日は「利用する必要はない」(70.4%)が最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」(15.4%)、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」(9.7%)となっています。

日曜・祝日も「利用する必要はない」(83.6%)が最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」(5.9%)、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」(5.6%)となっています。

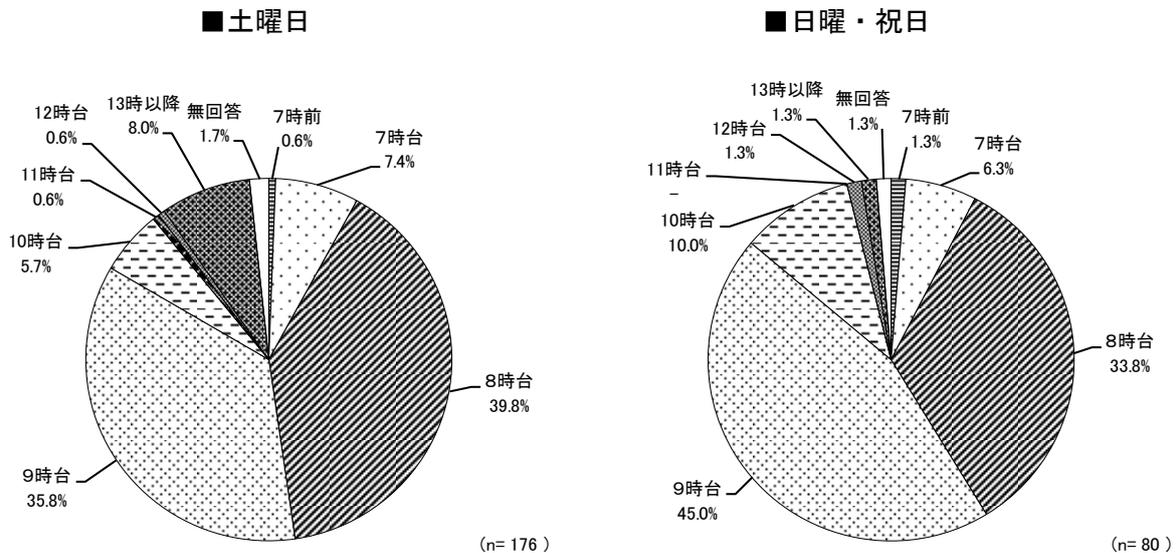


①利用したい時間帯

ア 開始時刻

土曜日は「8時台」(39.8%)が最も多く、「9時台」(35.8%)、「13時以降」(8.0%)と続きます。

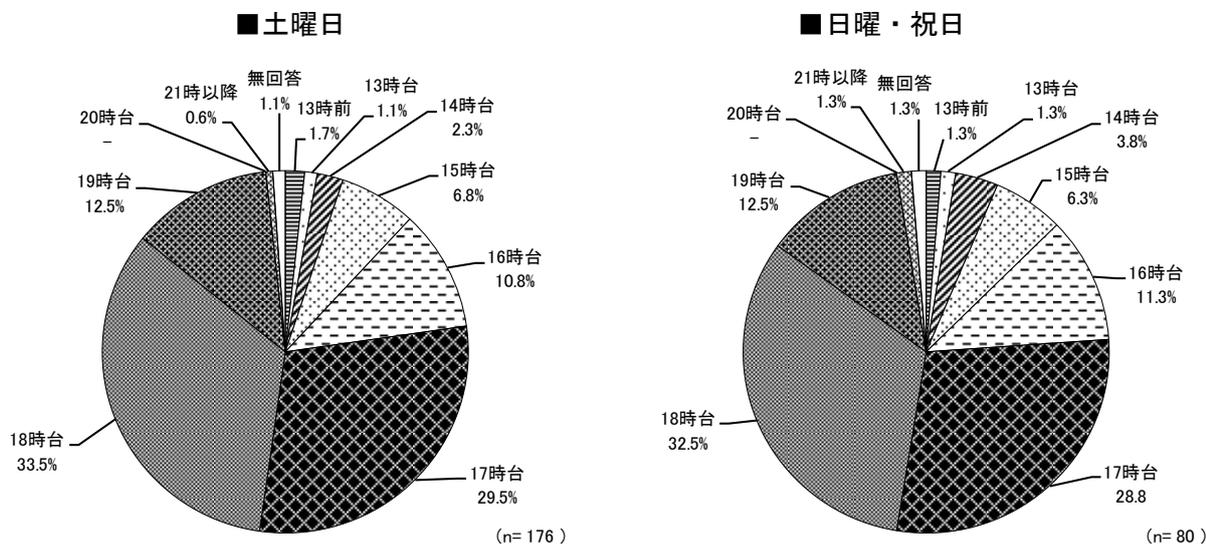
日曜・祝日も「9時台」(45.0%)が最も多く、「8時台」(33.8%)、「10時台」(10.0%)と続きます。



イ 終了時刻

土曜日は「18 時台」(33.5%)が最も多く、「17 時台」(29.5%)、「19 時台」(12.5%)と続きます。

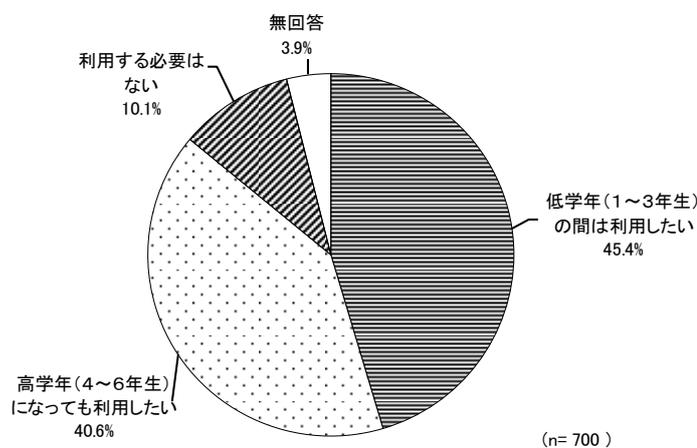
日曜・祝日も「18 時台」(32.5%)が最も多く、「17 時台」(28.8%)、「19 時台」(12.5%)と続きます。



問 30 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の学童保育の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。

「低学年（1～3年生）の間は利用したい」（45.4%）が最も多く、「高学年（4～6年生）になっても利用したい」（40.6%）、「利用する必要はない」（10.1%）となっています。

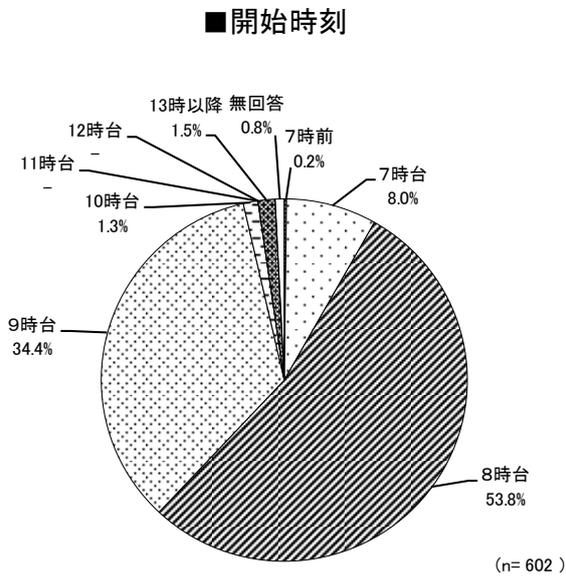
■夏休み・冬休みの学童保育利用希望



①利用したい時間帯

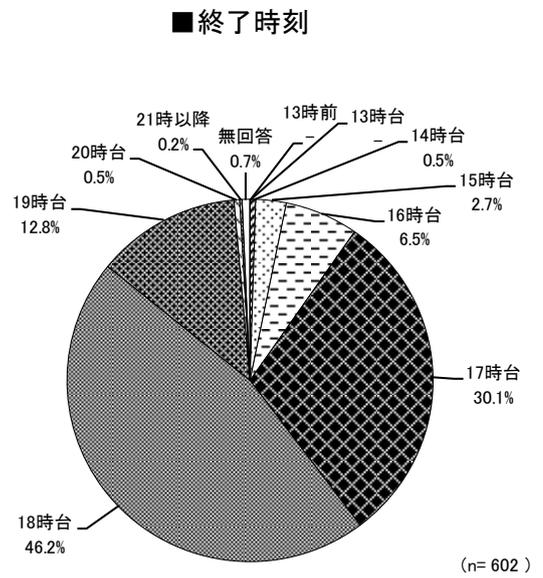
ア 開始時刻

「8時台」(53.8%)が最も多く、「9時台」(34.4%)、「7時台」(8.0%)と続きます。



イ 終了時刻

「18時台」(46.2%)が最も多く、「17時台」(30.1%)、「19時台」(12.8%)と続きます。



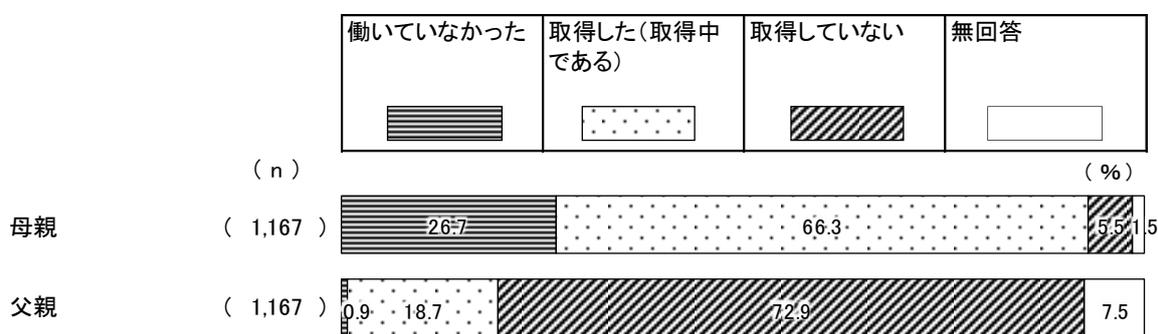
(11) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問 31 宛名のお子さんが生まれた時、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。また、取得していない方は、育児休業を取得していない理由に当てはまる番号をご記入ください。

母親は「取得した（取得中である）」（66.3%）が最も多く、「働いていなかった」（26.7%）、「取得していない」（5.5%）となっています。

父親は「取得していない」（72.9%）が最も多く、「取得した（取得中である）」（18.7%）、「働いていなかった」（0.9%）となっています。

■ 育児休業の取得状況



【経年比較】

前回調査と比べて、母親は「取得した（取得中である）」が多く、割合が増加しています。父親は「取得した（取得中である）」が増加し、「取得していない」が減少しています。

(単位: %)

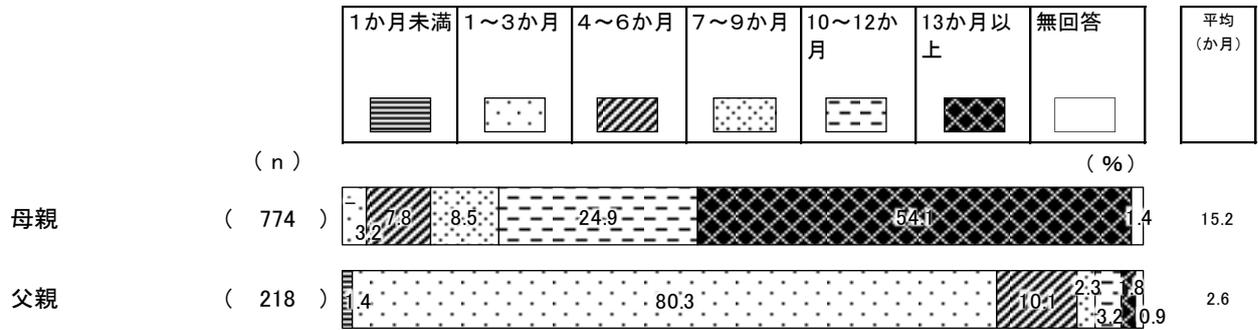
		有効回答者数	働いて いなかった	取得した (取得中である)	取得していない	無回答
母親	今回(R5)	1,167	26.7	66.3	5.5	1.5
	前回(H30)	1,234	40.4	48.5	9.8	1.3
父親	今回(R5)	1,167	0.9	18.7	72.9	7.5
	前回(H30)	1,234	1.1	3.8	88.2	6.9

①取得期間（取得した・取得中である）

母親は「13か月以上」（54.1%）が最も多く、「10～12か月」（24.9%）、「7～9か月」（8.5%）、と続きます。平均取得期間は15.2か月となっています。

父親は「1～3か月」（80.3%）が最も多く、「4～6か月」（10.1%）、「10～12か月」（3.2%）と続きます。平均取得期間は2.6か月となっています。

■育児休業の取得期間



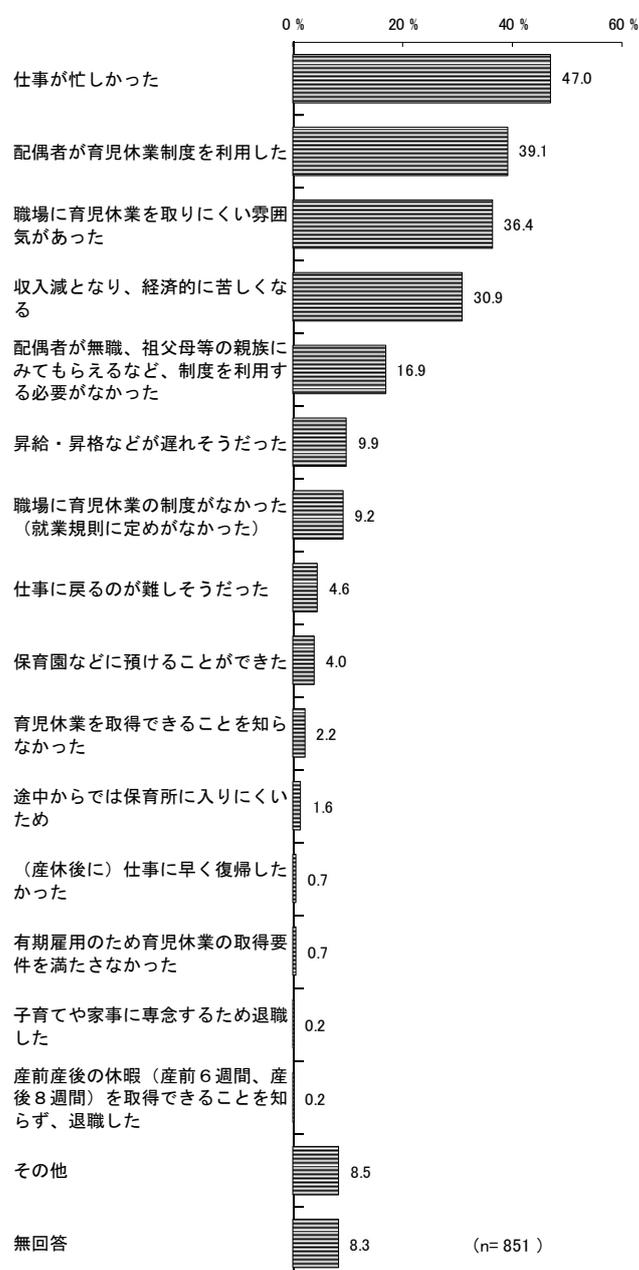
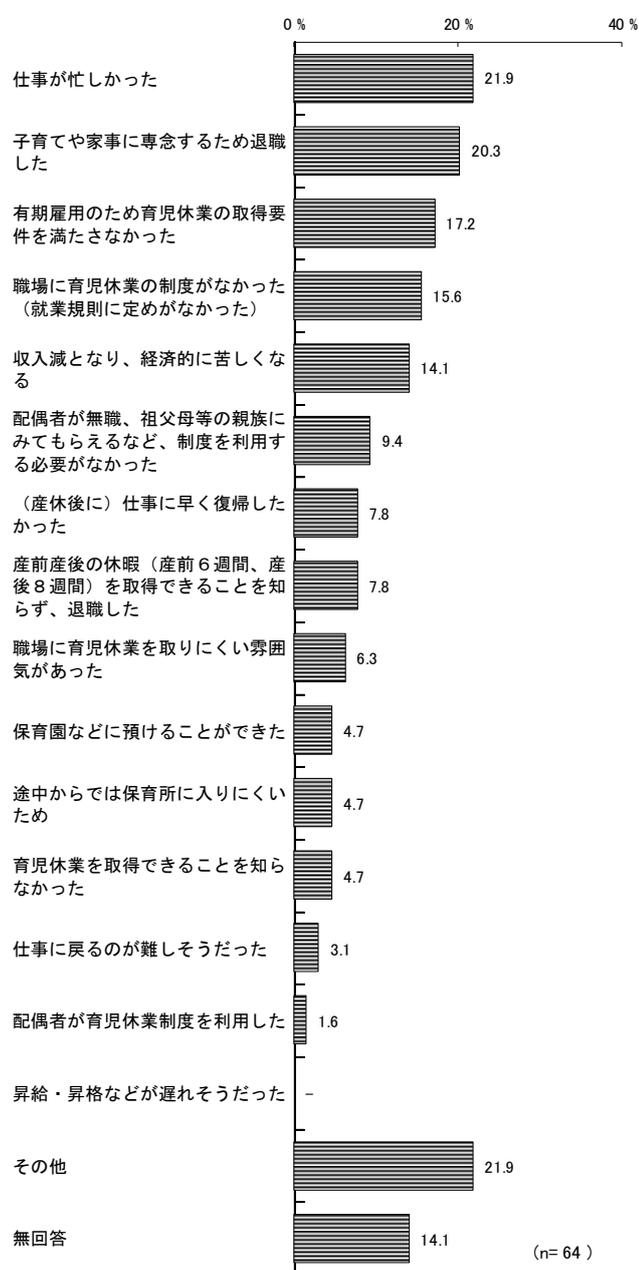
②取得していない理由

母親は「仕事が忙しかった」(21.9%)が最も多く、「子育てや家事に専念するため退職した」(20.3%)、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」(17.2%)、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」(15.6%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(14.1%)と続きます。

父親は「仕事が忙しかった」(47.0%)が最も多く、「配偶者が育児休業制度を利用した」(39.1%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(36.4%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(30.9%)、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」(16.9%)と続きます。

■ 母親（複数回答）

■ 父親（複数回答）



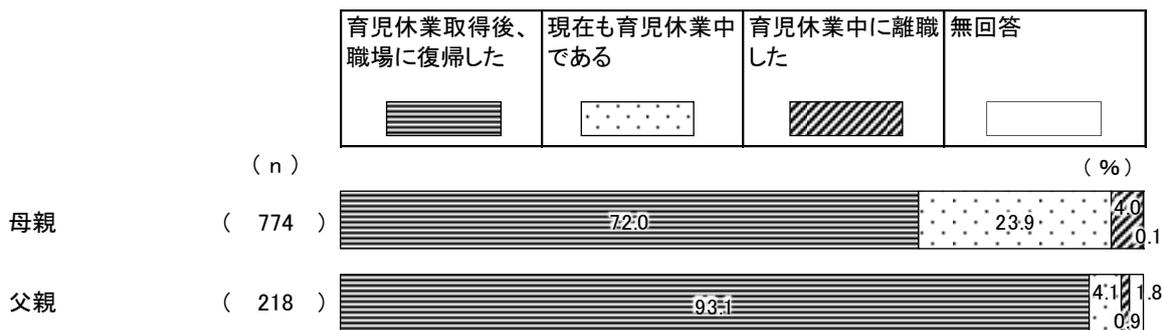
【問 31 で「2. 育児休業を取得した（取得中である）」に○をつけた方】

問 31-1 育児休業取得後、職場に復帰しましたか。

母親は「育児休業取得後、職場に復帰した」（72.0%）が最も多く、「現在も育児休業中である」（23.9%）、「育児休業中に離職した」（4.0%）となっています。

父親は「育児休業取得後、職場に復帰した」（93.1%）が最も多く、「現在も育児休業中である」（4.1%）、「育児休業中に離職した」（0.9%）となっています。

■ 育児休業取得後の復帰状況



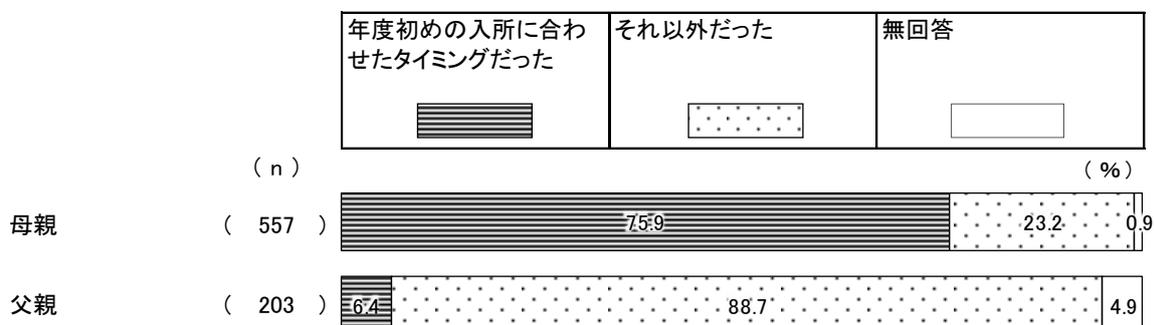
【問 31-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方】

問 31-2 育児休業から職場に復帰したのは、年度初めの保育所入所に合わせたタイミングでしたか。あるいはそれ以外でしたか。

母親は、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」（75.9%）が最も多く、「それ以外だった」（23.2%）となっています。

父親は、「それ以外だった」（88.7%）が最も多く、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」（6.4%）となっています。

■ 保育所入所のタイミング



【問 31-1 で「1. 育児休業取得後、職場に復帰した」に○をつけた方】

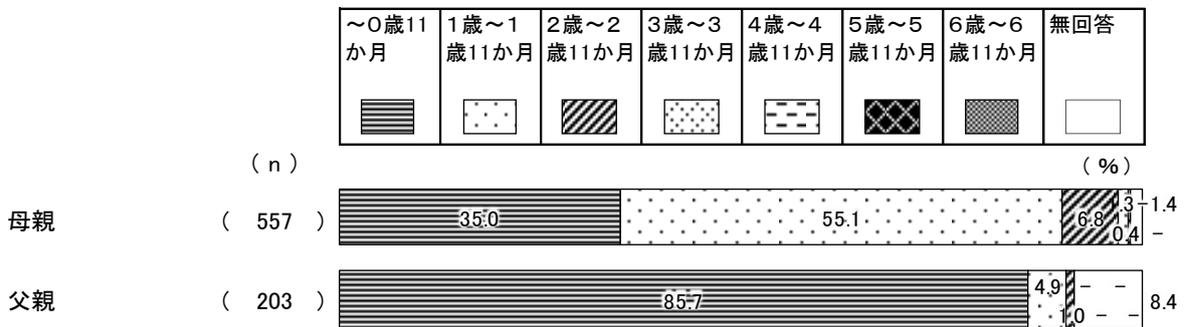
問 31-3 育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何か月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、何歳何か月のときまで取りたかったですか。

①実際の取得期間

母親は「1歳～1歳11か月」(55.1%)が最も多く、「～0歳11か月」(35.0%)、「2歳～2歳11か月」(6.8%)と続きます。

父親は「～0歳11か月」(85.7%)が最も多く、「1歳～1歳11か月」(4.9%)、「2歳～2歳11か月」(1.0%)と続きます。

■実際の取得期間

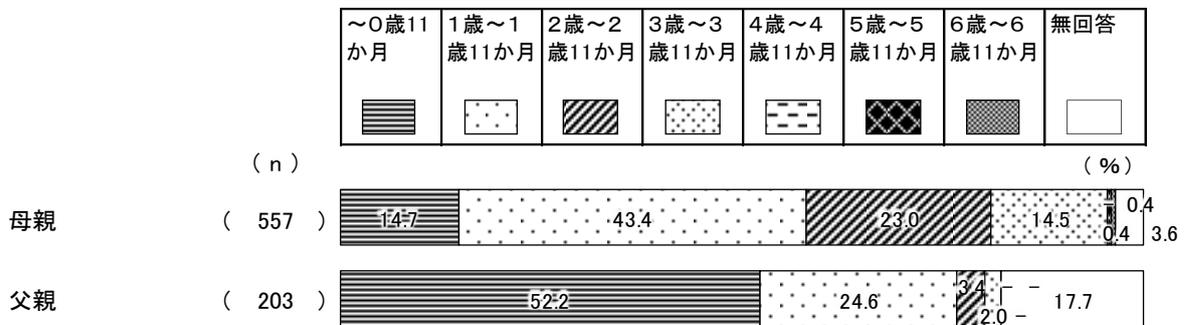


②希望の取得期間

母親は「1歳～1歳11か月」(43.4%)が最も多く、「2歳～2歳11か月」(23.0%)、「～0歳11か月」(14.7%)、「3歳～3歳11か月」(14.5%)と続きます。

父親は「～0歳11か月」(52.2%)が最も多く、「1歳～1歳11か月」(24.6%)、「2歳～2歳11か月」(3.4%)と続きます。

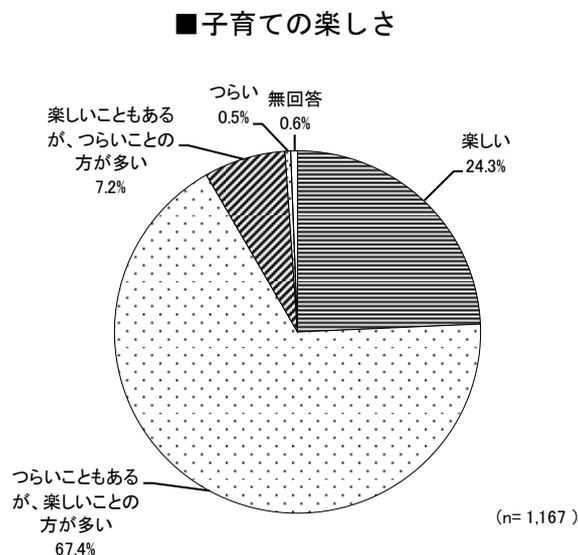
■希望の取得期間



(12) 子育て全般について

問 32 あなたは、子育てを楽しんでいると感じていますか。

「つらいこともあるが、楽しいことの方が多い」(67.4%)が最も多く、「楽しい」(24.3%)、「楽しいこともあるが、つらいことの方が多い」(7.2%)と続きます。



【年齢別】

すべての年齢で「つらいこともあるが、楽しいことの方が多い」が最も多くなっています。

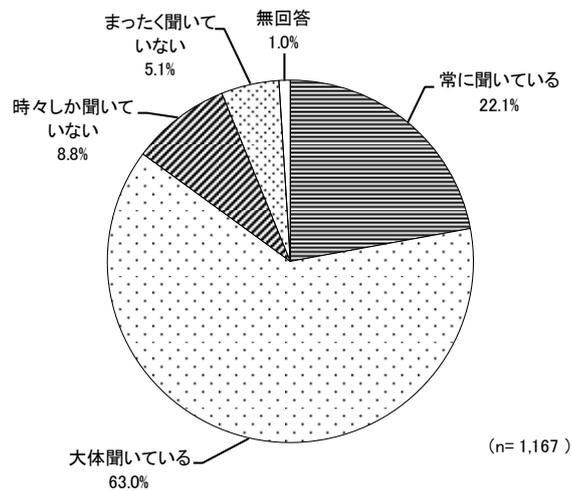
(単位:%)

	有効回答者数	楽しい	つらいこともあるが、楽しいことの方が多い	楽しいこともあるが、つらいことの方が多い	つらい	無回答
全体	1,167	24.3	67.4	7.2	0.5	0.6
0歳	298	32.9	60.1	5.7	0.3	1.0
1歳	166	27.1	66.9	5.4	0.6	0.0
2歳	168	18.5	72.6	7.1	1.2	0.6
3歳	164	21.3	69.5	9.1	0.0	0.0
4歳	185	20.0	70.3	8.6	0.5	0.5
5歳	177	19.8	71.2	8.5	0.6	0.0

問 33 あなたは宛名のお子さんのことについて決めるときに、子ども自身の意見や意思をどれくらい聞いていますか。

「大体聞いている」(63.0%)が最も多く、「常に聞いている」(22.1%)、「時々しか聞いていない」(8.8%)と続きます。

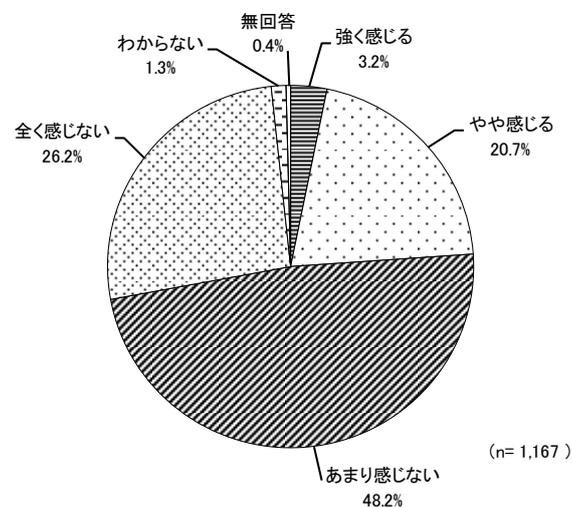
■子どもの意見や意思を聞いているか



問 34 あなたは子育てに関して孤独や孤立感を感じていますか。

「あまり感じない」(48.2%)が最も多く、「全く感じない」(26.2%)、「やや感じる」(20.7%)と続きます。

■子育ての孤立感



【年齢別】

すべての年齢で「あまり感じない」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効 回答者数	強く感じる	やや感じる	あまり 感じない	全く感じない	わからない	無回答
全体	1,167	3.2	20.7	48.2	26.2	1.3	0.4
0歳	298	4.0	24.2	42.3	26.2	2.7	0.7
1歳	166	3.6	16.3	54.8	24.7	0.6	0.0
2歳	168	3.6	22.0	48.8	23.8	1.2	0.6
3歳	164	2.4	21.3	46.3	29.3	0.6	0.0
4歳	185	1.6	23.8	45.9	27.0	1.6	0.0
5歳	177	3.4	14.1	55.4	27.1	0.0	0.0

【母親の就労状況別】

すべての就労状況で「あまり感じない」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効 回答者数	強く 感じる	やや 感じる	あまり 感じない	全く 感じない	わから ない	無回答
全体	1,167	3.2	20.7	48.2	26.2	1.3	0.4
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	461	2.6	19.1	50.8	26.9	0.7	0.0
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	236	3.8	23.3	43.6	26.3	2.5	0.4
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	195	4.6	19.0	49.7	26.2	0.5	0.0
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	29	0.0	20.7	44.8	31.0	3.4	0.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	6	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	219	3.2	23.3	47.0	23.7	1.8	0.9
これまで就労したことがない	12	0.0	8.3	58.3	33.3	0.0	0.0

【子育ての楽しさ別】

子育てが“楽しい”は孤立感を「全く感じない」、「楽しいこともあるが辛いことの方が多い」は「やや感じる」が多く、つらくなるにつれて、孤立感を感じる傾向がみられます。

(単位:%)

	有効 回答者数	強く感じる	やや感じる	あまり 感じない	全く 感じない	わからない	無回答
全体	1,167	3.2	20.7	48.2	26.2	1.3	0.4
楽しい	283	0.4	4.2	42.8	51.9	0.7	0.0
辛いこともあるが、 楽しいことの方が多い	787	1.9	24.7	52.6	19.7	1.1	0.0
楽しいこともあるが、 辛いことの方が多い	84	20.2	42.9	29.8	3.6	3.6	0.0
辛い	6	66.7	0.0	16.7	0.0	16.7	0.0

【経年経過】

子育てに関する孤立感は前回調査と同じ傾向になっています。

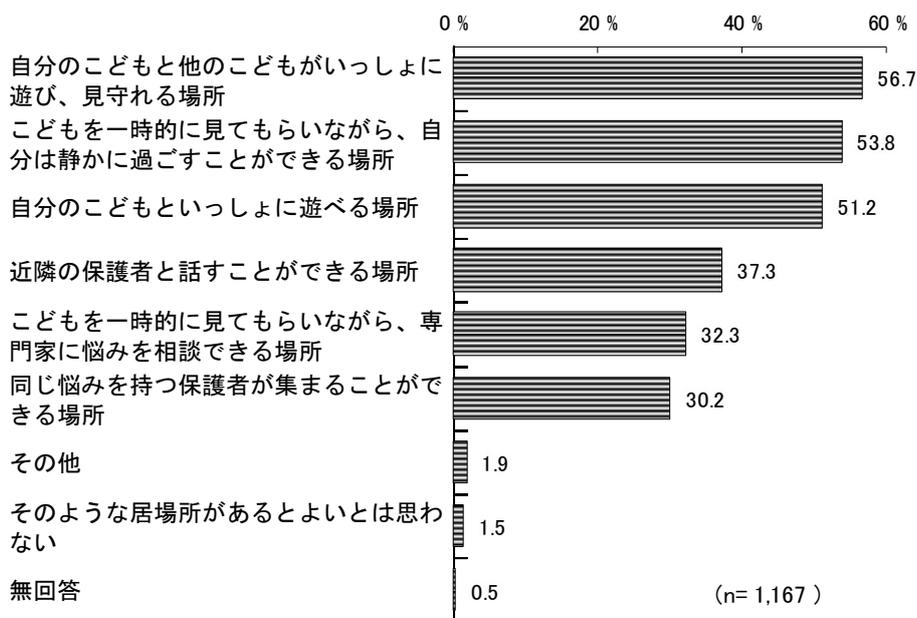
(単位:%)

	有効 回答者数	強く感じる	やや感じる	あまり 感じない	全く 感じない	わからない	無回答
今回(R5)	1,167	3.2	20.7	48.2	26.2	1.3	0.4
前回(H30)	1,234	2.7	21.4	47.6	25.2	1.8	1.3

問 35 あなた自身の居場所として、どのような場所があるとよいと思いますか。

「自分の子どもと他の子どもがいっしょに遊び、見守れる場所」(56.7%)が最も多く、「子どもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所」(53.8%)、「自分の子どもといっしょに遊べる場所」(51.2%)、「近隣の保護者と話すことができる場所」(37.3%)と続きます。

■自身の居場所として望ましいもの（複数回答）



【年齢別】

すべての年齢で、「子どもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所」、「自分の子どもといっしょに遊べる場所」、「自分の子どもと他の子どもがいっしょに遊び、見守れる場所」の割合が多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	近隣の保護者と話すことができる場所	同じ悩みを持つ保護者が集まることができる場所	子どもを一時的に見てもらいながら、専門家に悩みを相談できる場所	子どもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所	自分の子どもといっしょに遊べる場所	自分の子どもと他の子どもがいっしょに遊び、見守れる場所	その他	そのような居場所があるとは思わない	無回答
全体	1,167	37.3	30.2	32.3	53.8	51.2	56.7	1.9	1.5	0.5
0歳	298	35.2	30.2	37.9	55.7	58.4	56.7	1.7	2.0	0.7
1歳	166	33.1	30.7	33.1	48.8	60.2	54.8	2.4	2.4	0.6
2歳	168	33.9	31.5	31.5	64.9	51.8	60.1	1.8	0.6	0.6
3歳	164	39.6	32.3	29.9	52.4	48.2	65.9	1.8	0.0	0.0
4歳	185	38.4	29.2	28.1	53.0	44.3	51.4	1.1	1.6	0.0
5歳	177	44.1	27.1	28.8	47.5	41.2	53.7	2.8	1.7	0.0

【子育ての孤立感別】

子育てに孤立感を“強く感じる”“やや感じる”は「こどもを一時的に見てもらいながら、専門家に悩みを相談できる場所」「こどもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所」、「あまり感じない」「全く感じない」は「自分のこどもと他のこどもがいっしょに遊び、見守れる場所」が最も多くなっています。

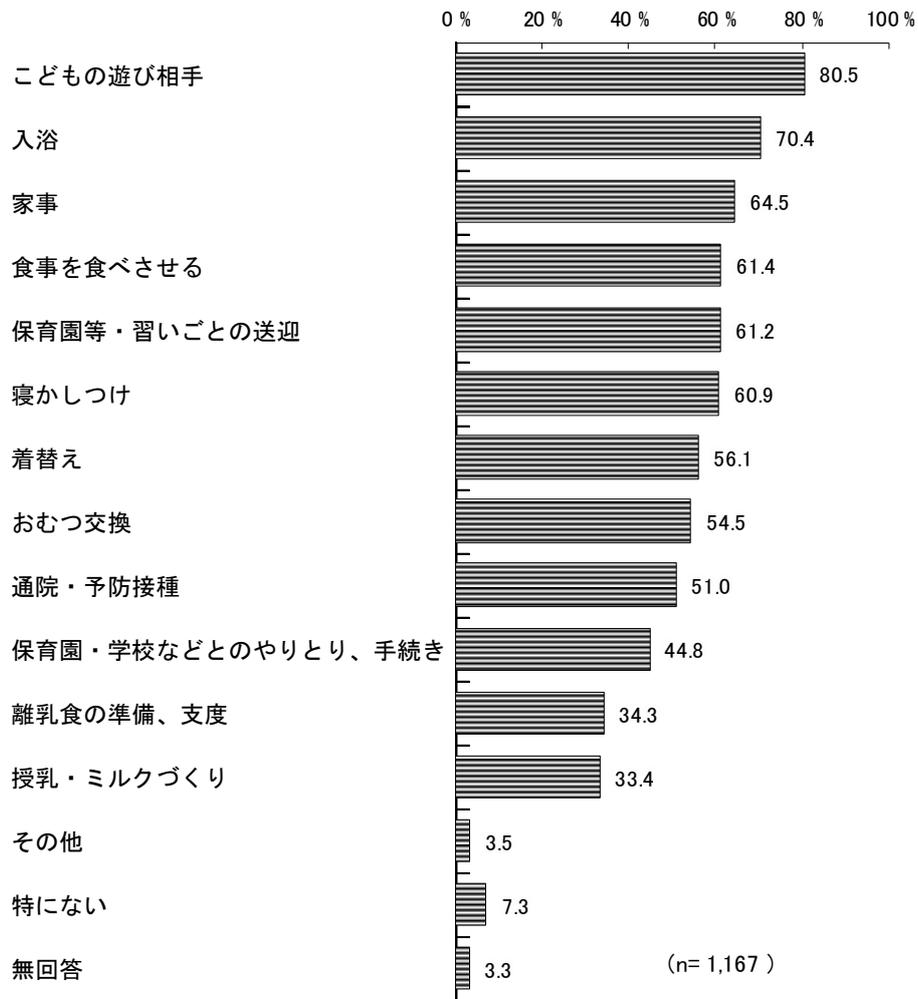
(単位:%)

	有効回答者数	近隣の保護者と話すことができる場所	同じ悩みを持つ保護者が集まることができる場所	こどもを一時的に見てもらいながら、専門家に悩みを相談できる場所	こどもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所	自分のこどもといっしょに遊べる場所	自分のこどもと他のこどもがいっしょに遊び、見守れる場所	その他	そのような居場所があると思わない	無回答
全体	1,167	37.3	30.2	32.3	53.8	51.2	56.7	1.9	1.5	0.5
強く感じる	37	29.7	54.1	64.9	64.9	32.4	45.9	2.7	0.0	0.0
やや感じる	242	32.6	31.8	43.8	69.4	40.5	54.1	2.9	1.2	0.4
あまり感じない	562	40.4	32.2	33.3	54.8	53.7	57.5	1.4	1.2	0.0
全く感じない	306	37.3	23.5	18.0	39.5	58.8	60.8	2.0	1.6	0.0

問 36 あなたは、配偶者・パートナーに対し、育児にあたりどのようなことを分担してほしいと思いますか。

「こどもの遊び相手」(80.5%)が最も多く、「入浴」(70.4%)、「家事」(64.5%)、「食事を食べさせる」(61.4%)、「保育園等・習いごとの送迎」(61.2%)、「寝かしつけ」(60.9%)と続きます

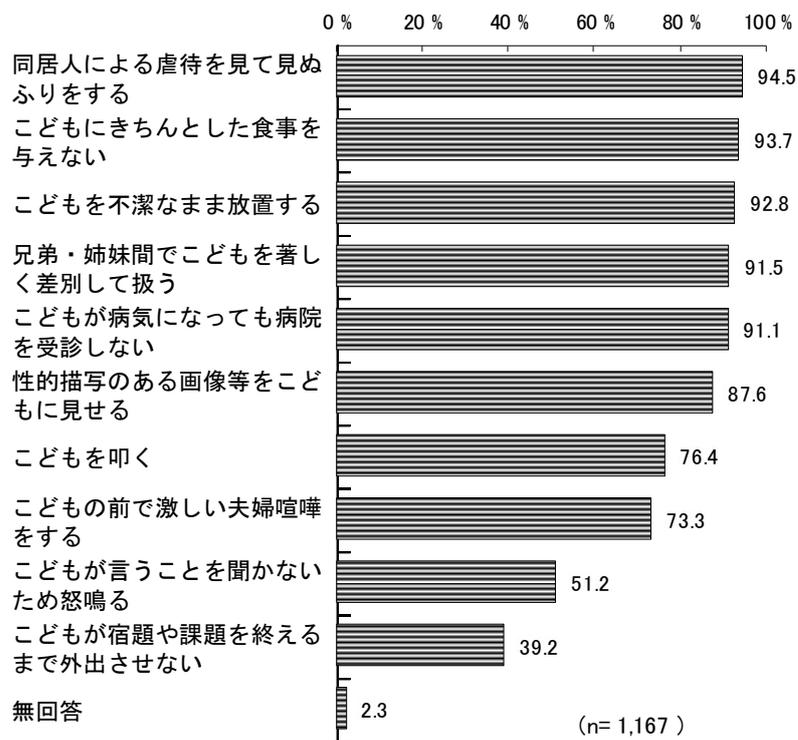
■ 配偶者・パートナーに望む育児の分担（複数回答）



問 37 以下について、あなたは児童虐待だと思いませんか。

「同居人による虐待を見て見ぬふりをする」(94.5%)が最も多く、「こどもにきちんとした食事を与えない」(93.7%)、「こどもを不潔なまま放置する」(92.8%)、「兄弟・姉妹間でこどもを著しく差別して扱う」(91.5%)、「こどもが病気になっても病院を受診しない」(91.1%)、「性的描写のある画像等をこどもに見せる」(87.6%)と続きます。

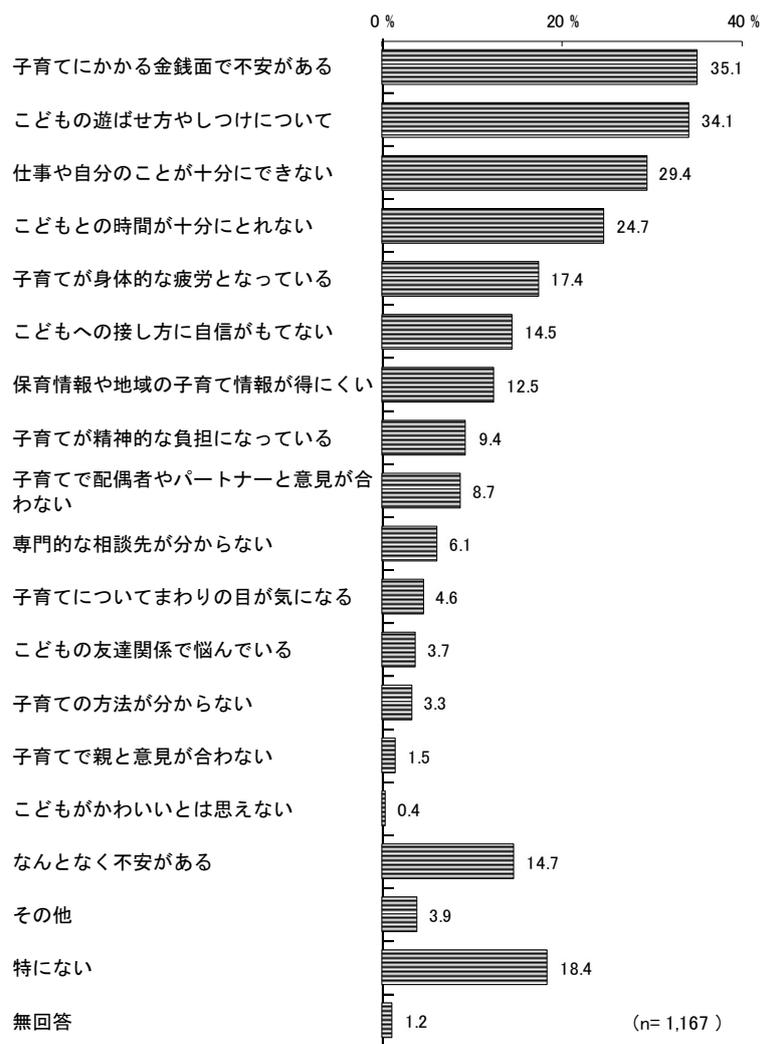
■ 児童虐待だと思うこと（複数回答）



問 38 宛名のお子さんの子育てに関して心配なことや不安なこと、悩んでいることは何ですか。

「子育てにかかる金銭面で不安がある」(35.1%)が最も多く、「こどもの遊ばせ方やしつけについて」(34.1%)、「仕事や自分のことが十分にできない」(29.4%)、「こどもとの時間が十分にとれない」(24.7%)、「子育てが身体的な疲労となっている」(17.4%)と続きます。

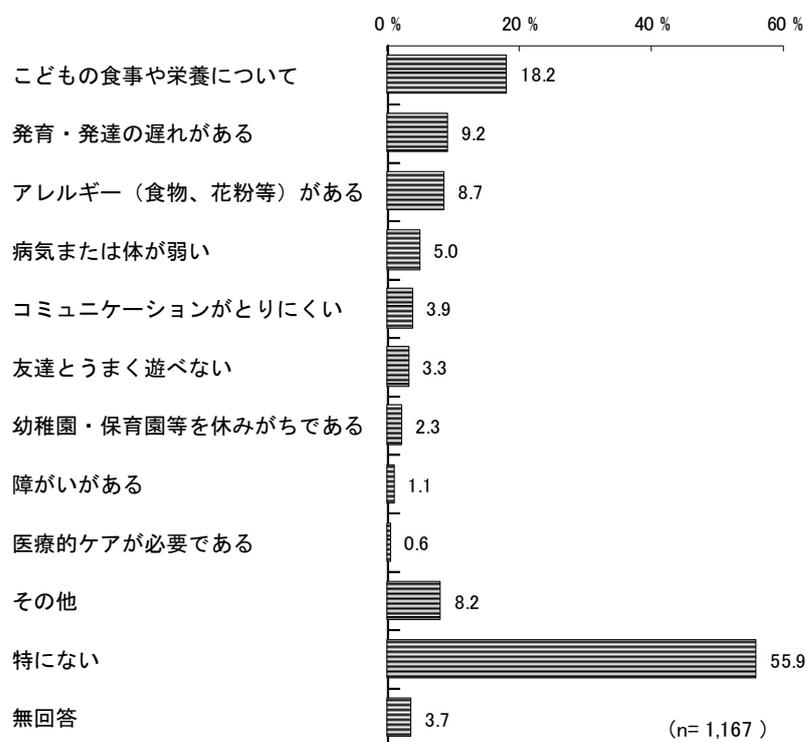
■子育てに関する心配、不安、悩み（複数回答）



問 39 お子さん自身のことについて、気になることや悩んでいることはありますか。

「こどもの食事や栄養について」(18.2%)が最も多く、「発育・発達の遅れがある」(9.2%)、「アレルギー(食物、花粉等)がある」(8.7%)、「病気または体が弱い」(5.0%)、「コミュニケーションがとりにくい」(3.9%)と続きます。

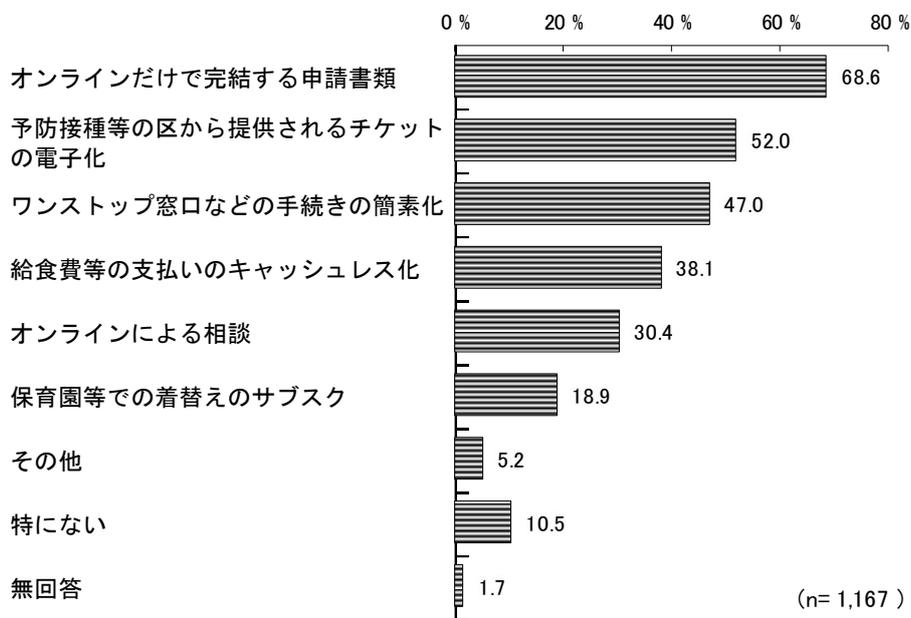
■こどもについて気になることや悩み(複数回答)



問 40 子育てに関する行政手続きとして、あるとよいと思うものはありますか。

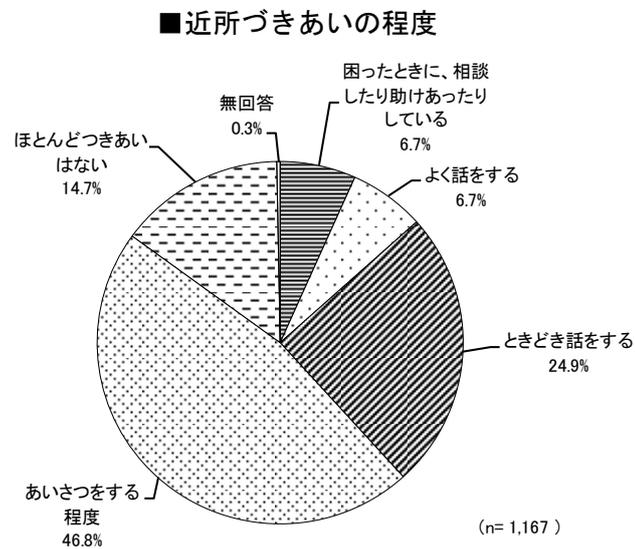
「オンラインだけで完結する申請書類」(68.6%)が最も多く、「予防接種等の区から提供されるチケットの電子化」(52.0%)、「ワンストップ窓口などの手続きの簡素化」(47.0%)と続きます。

■あるとよい行政手続き（複数回答）



問 41 あなたの近所とおつきあいの程度について、当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

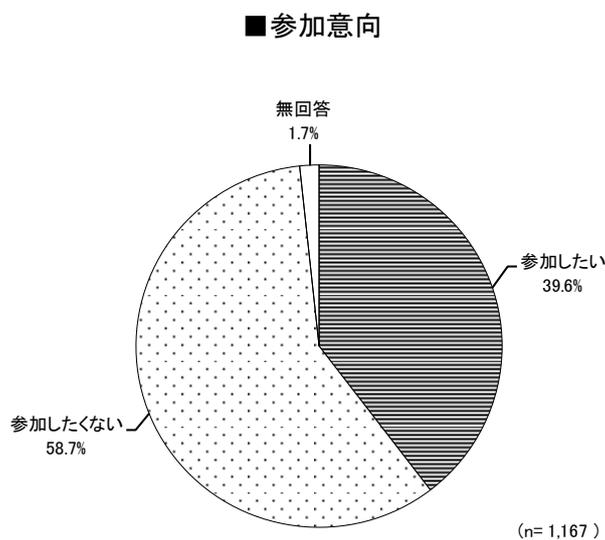
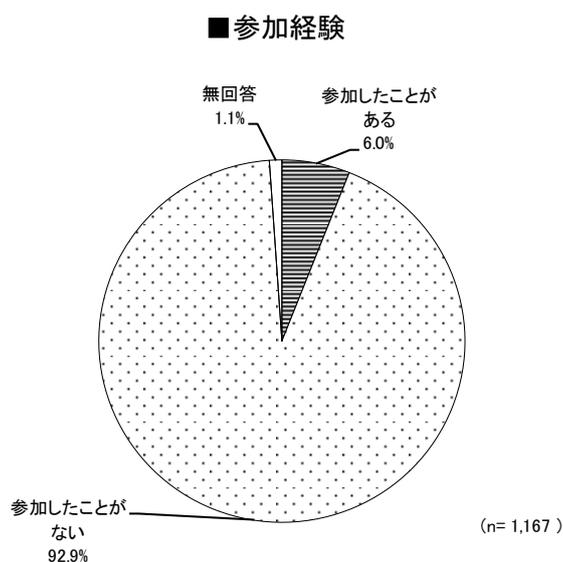
「あいさつをする程度」(46.8%)が最も多く、「ときどき話をする」(24.9%)、「ほとんどつきあいはない」(14.7%)と続きます。



問 42 あなたは、現在、地域での子育て活動に支援者（支援する側）として参加していますか。また、今後、参加したいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

参加経験は、「参加したことがない」(92.9%)が最も多く、「参加したことがある」(6.0%)となっています。

参加意向は、「参加したくない」(58.7%)が最も多く、「参加したい」(39.6%)となっています。



【子育て環境・支援への満足度別】

すべての満足度において、「参加したことがない」、「参加したくない」が最も多くなっています。

■参加経験

(単位:%)

	有効回答者数	参加したことがある	参加したことがない	無回答
全体	1,167	6.0	92.9	1.1
満足	119	5.0	94.1	0.8
まあまあ満足	485	7.0	92.2	0.8
ふつう	422	5.2	93.6	1.2
やや不満	105	5.7	94.3	0.0
不満	31	3.2	93.5	3.2

■参加意向

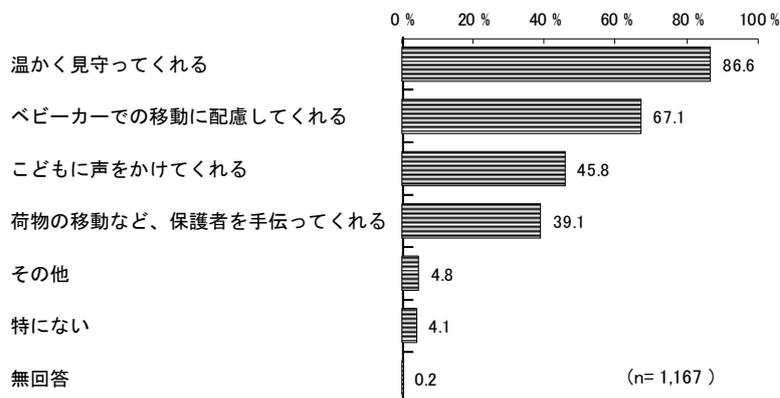
(単位:%)

	有効回答者数	参加したい	参加したくない	無回答
全体	1,167	39.6	58.7	1.7
満足	119	40.3	58.0	1.7
まあまあ満足	485	46.4	51.8	1.9
ふつう	422	31.3	67.3	1.4
やや不満	105	47.6	51.4	1.0
不満	31	16.1	83.9	0.0

問 43 お子さんと外出する時に、周囲や社会にされると嬉しいことについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「温かく見守ってくれる」(86.6%)が最も多く、「ベビーカーでの移動に配慮してくれる」(67.1%)、「こどもに声をかけてくれる」(45.8%)と続きます。

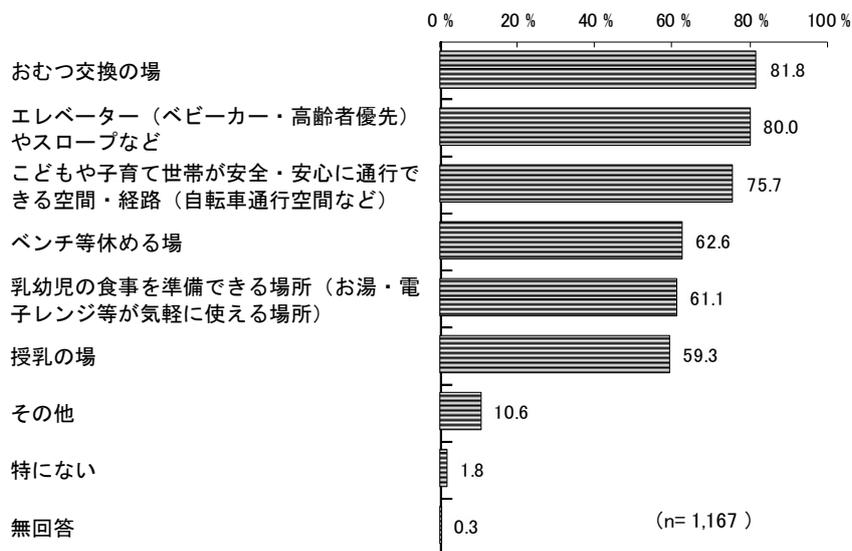
■こどもとの外出時に周囲にされると嬉しいこと（複数回答）



問 44 お子さんと外出する時にあるとよいと思うものについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「おむつ交換の場」(81.8%)が最も多く、「エレベーター（ベビーカー・高齢者優先）やスロープなど」(80.0%)、「こどもや子育て世帯が安全・安心に通行できる空間・経路（自転車通行空間など）」(75.7%)と続きます。

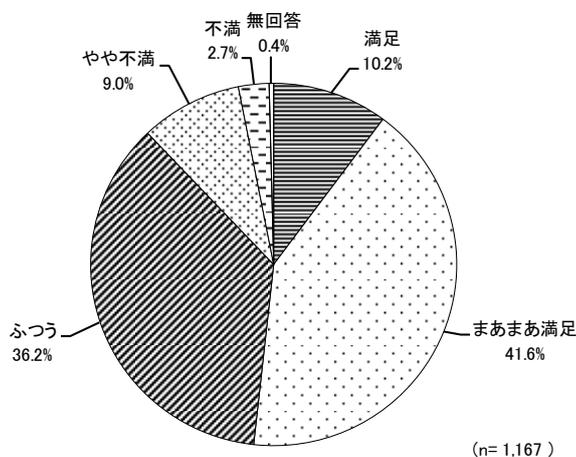
■こどもと外出時にあるとよいもの（複数回答）



問 45 大田区における子育ての環境や支援への満足度はいかがですか。

「まあまあ満足」(41.6%)が最も多く、「ふつう」(36.2%)、「満足」(10.2%)と続きます。

■大田区での子育ての満足度



【年齢別】

“3歳”は「ふつう」、他の年齢は「まあまあ満足」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
全体	1,167	10.2	41.6	36.2	9.0	2.7	0.4
0歳	298	11.4	45.6	30.2	8.1	4.7	0.0
1歳	166	10.2	39.2	38.0	11.4	0.6	0.6
2歳	168	7.7	45.2	35.1	9.5	2.4	0.0
3歳	164	14.6	36.0	40.9	7.9	0.6	0.0
4歳	185	8.6	38.4	37.8	11.4	3.8	0.0
5歳	177	8.5	42.9	39.5	6.2	1.7	1.1

【経年比較】

大田区における子育ての環境や支援への満足度は、前回調査と同じ傾向になっています。

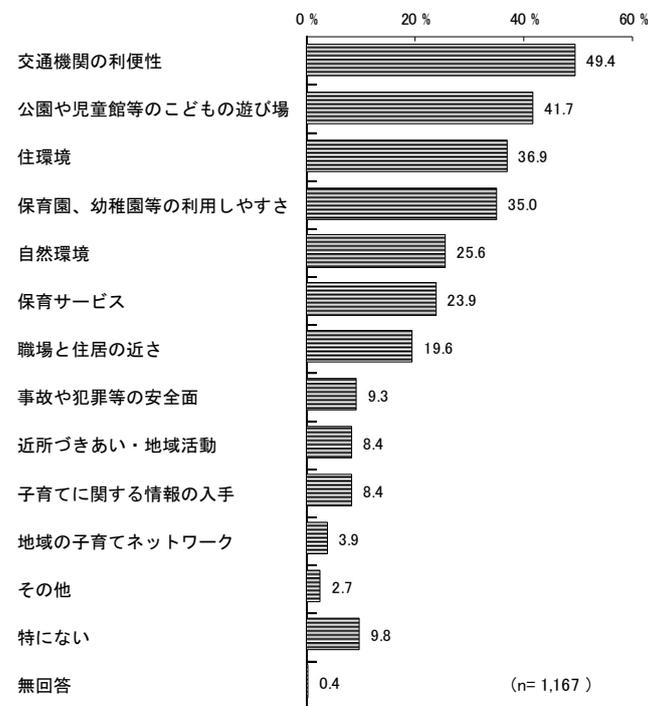
(単位:%)

	有効回答者数	満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
今回(R5)	1,167	10.2	41.6	36.2	9.0	2.7	0.4
前回(H30)	1,234	8.1	38.6	34.4	10.9	5.7	2.4

問 46 大田区における子育ての環境や支援について、満足している点は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

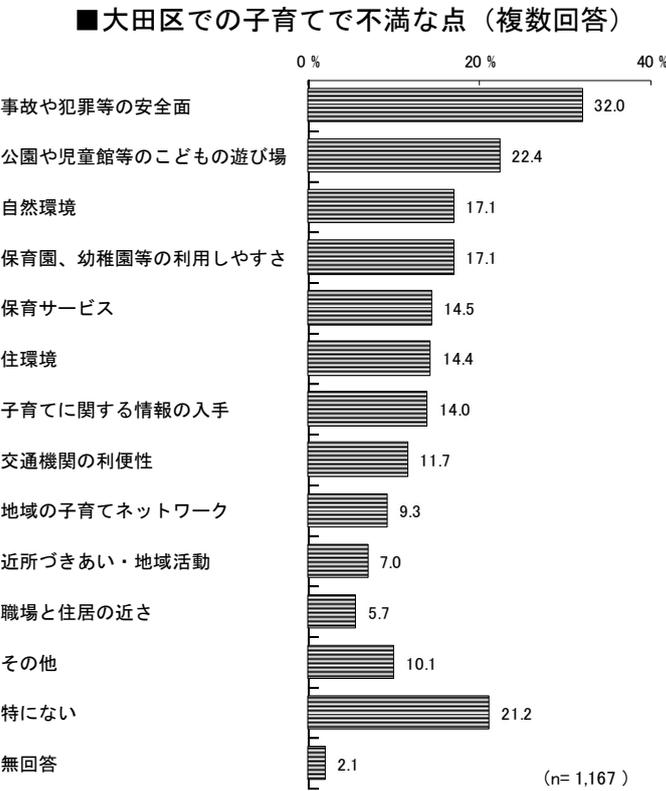
「交通機関の利便性」(49.4%)が最も多く、「公園や児童館等のこどもの遊び場」(41.7%)、「住環境」(36.9%)、「保育園、幼稚園等の利用しやすさ」(35.0%)、「自然環境」(25.6%)と続きます。

■大田区での子育てで満足している点（複数回答）



問 47 大田区における子育ての環境や支援について、不満な点は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

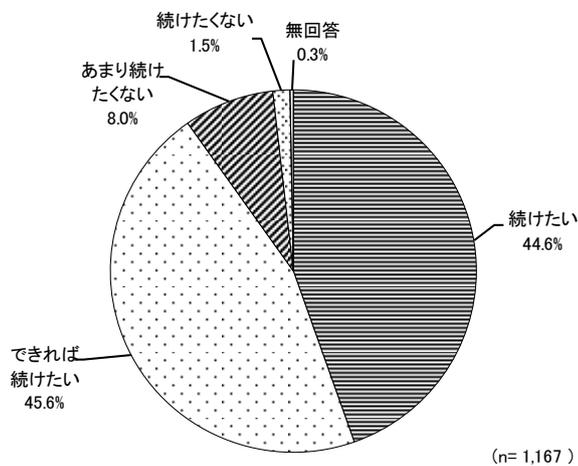
「事故や犯罪等の安全面」(32.0%)が最も多く、「公園や児童館等のこどもの遊び場」(22.4%)、「自然環境」(17.1%)、「保育園、幼稚園等の利用しやすさ」(17.1%)、「保育サービス」(14.5%)と続きます。



問 48 あなたは、今後も大田区で子育てを続けたいと思いますか。

「できれば続けたい」(45.6%)が最も多く、「続けたい」(44.6%)、「あまり続けたくない」(8.0%)、「続けたくない」(1.5%)となっています。

■今後の大田区での子育て意向



【子育て環境・支援への満足度別】

“満足” “まあまあ満足” は「続けたい」、「できれば続けたい」が最も多くなっています。満足度が低くなるにつれて、子育てを続けたい意向が低くなっています。

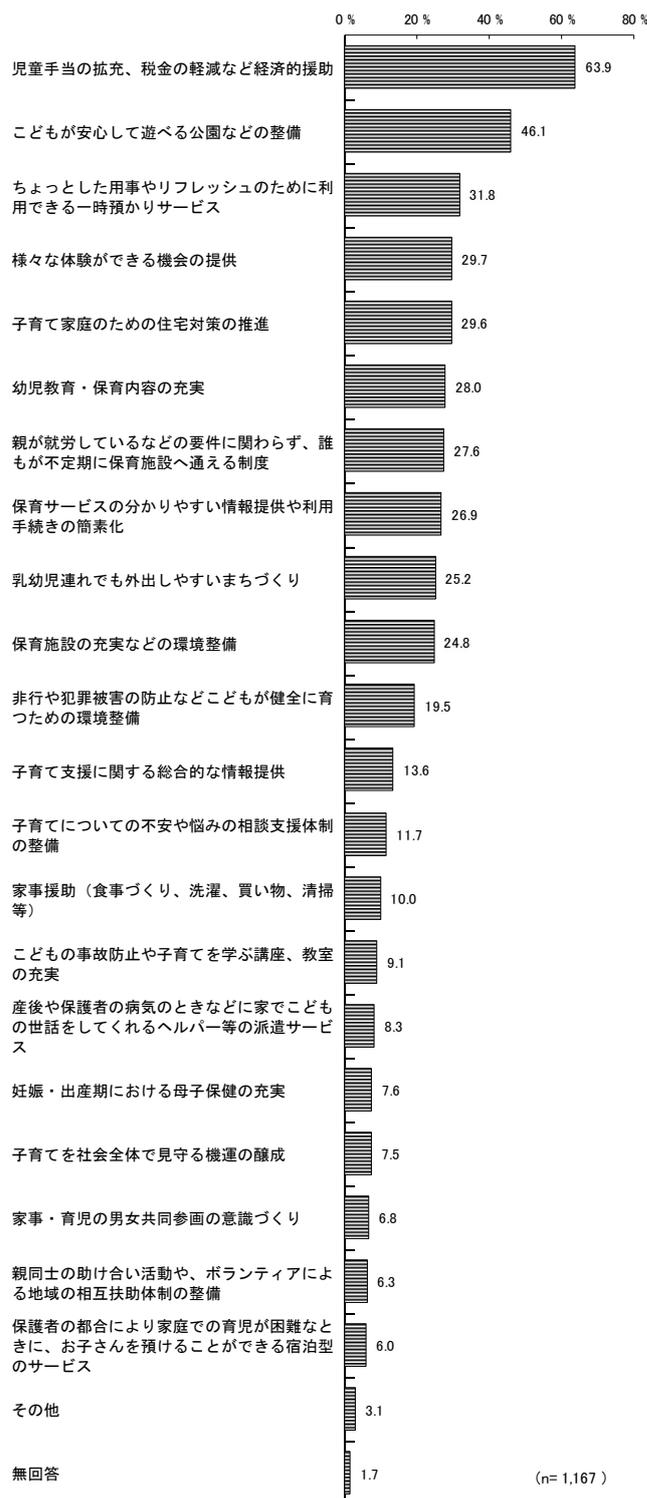
(単位: %)

	有効回答者数	続けたい	できれば 続けたい	あまり 続けたくない	続けたくない	無回答
全体	1,167	44.6	45.6	8.0	1.5	0.3
満足	119	76.5	21.8	1.7	0.0	0.0
まあまあ満足	485	54.4	43.1	2.5	0.0	0.0
ふつう	422	34.8	55.9	8.1	0.9	0.2
やや不満	105	14.3	52.4	29.5	3.8	0.0
不満	31	9.7	12.9	45.2	32.3	0.0

問 49 宛名のお子さんの子育てにあたって、今、あなたが望むサービス・施策は次の項目のうちどれですか。

「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」(63.9%)が最も多く、「こどもが安心して遊べる公園などの整備」(46.1%)、「ちょっとした用事やリフレッシュのために利用できる一時預かりサービス」(31.8%)、「様々な体験ができる機会の提供」(29.7%)、「子育て家庭のための住宅対策の推進」(29.6%)と続きます。

■子育てにあたって望むサービス・施策（複数回答）



【年齢別】

すべての年齢で「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	親同士の助け合い活動や、ボランティアによる地域の相互扶助体制の整備	子育て支援に関する総合的な情報提供	家事・育児の男女共同参画の意識づくり	こどもの事故防止や子育てを学ぶ講座、教室の充実	保育施設の充実などの環境整備	保育サービスの分かりやすい情報提供や利用手続きの簡素化	幼児教育・保育内容の充実	親が就労しているなどの要件に関わらず、誰もが不定期に保育施設へ通える制度	児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助	子育て家庭のための住宅対策の推進
全体	1,167	11.7	6.3	13.6	6.8	9.1	24.8	26.9	28.0	27.6	63.9	29.6
0歳	298	11.7	4.4	16.1	7.4	11.7	32.9	31.9	25.2	30.5	66.4	28.2
1歳	166	11.4	6.6	10.8	2.4	7.2	28.9	29.5	27.7	22.9	65.7	33.7
2歳	168	10.1	3.6	11.9	9.5	9.5	20.8	27.4	31.5	23.2	68.5	31.0
3歳	164	14.6	7.9	12.2	9.8	9.1	25.0	19.5	32.3	31.1	62.2	25.0
4歳	185	12.4	7.0	17.3	7.0	7.6	18.9	25.4	29.7	26.5	61.1	29.2
5歳	177	9.0	9.0	10.7	4.5	7.9	16.9	24.3	24.9	29.4	59.3	31.6

	一時預かりサービス	ちよとした用事やリフレッシュのために利用できる	お子さんを預けることができる宿泊型のサービス	保護者の都合により家庭での育児が困難なときに、お母さんを預けることができる宿泊型のサービス	産後や保護者の病気のときなどに家でこどもの世話をしてくれるヘルパー等の派遣サービス	家事援助(食事づくり、洗濯、買い物、清掃等)	妊娠・出産期における母子保健の充実	様々な体験ができる機会の提供	こどもが安心して遊べる公園などの整備	乳幼児連れでも外出しやすいまちづくり	非行や犯罪被害の防止などこどもが健全に育つための環境整備	子育てを社会全体で見守る機運の醸成	その他	無回答
全体	31.8	6.0	8.3	10.0	7.6	29.7	46.1	25.2	19.5	7.5	3.1	1.7		
0歳	37.9	7.0	11.1	6.7	10.7	24.2	42.3	37.9	14.4	3.7	2.3	1.0		
1歳	31.3	3.6	4.8	11.4	9.6	25.9	47.0	25.9	19.9	6.0	4.8	1.8		
2歳	32.7	5.4	6.0	7.1	8.3	33.3	49.4	23.8	22.0	7.7	1.8	1.8		
3歳	23.2	5.5	10.4	11.0	5.5	34.8	48.8	19.5	16.5	7.9	3.7	1.8		
4歳	30.8	5.4	7.0	12.4	3.8	32.4	46.5	16.8	20.5	9.7	4.3	1.6		
5歳	30.5	7.9	7.3	13.0	4.5	32.2	46.9	19.2	27.7	12.4	2.3	2.3		

【子育て環境・支援への満足度別】

すべての満足度で「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	地域の相互扶助体制の整備	親同士の助け合い活動や、ボランティアによる子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	子育て支援に関する総合的な情報提供	家事・育児の男女共同参画の意識づくり	こどもの事故防止や子育てを学ぶ講座、教室の充実	保育施設の充実などの環境整備	保育サービスの分かりやすい情報提供や利用手続きの簡素化	幼児教育・保育内容の充実	親が就労しているなどの要件に関わらず、誰もが不定期に保育施設へ通える制度	児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助	子育て家庭のための住宅対策の推進
全体	1,167	11.7	6.3	13.6	6.8	9.1	24.8	26.9	28.0	27.6	63.9	29.6	
満足	119	12.6	5.9	13.4	6.7	14.3	18.5	20.2	27.7	27.7	61.3	29.4	
まあまあ満足	485	12.4	7.6	11.3	7.0	10.5	23.9	28.2	27.2	26.4	61.4	27.2	
ふつう	422	11.1	5.5	16.6	6.2	7.3	26.5	28.0	30.1	27.3	65.9	32.5	
やや不満	105	10.5	3.8	15.2	9.5	6.7	25.7	23.8	26.7	26.7	71.4	30.5	
不満	31	9.7	3.2	3.2	3.2	0.0	32.3	19.4	19.4	51.6	64.5	25.8	

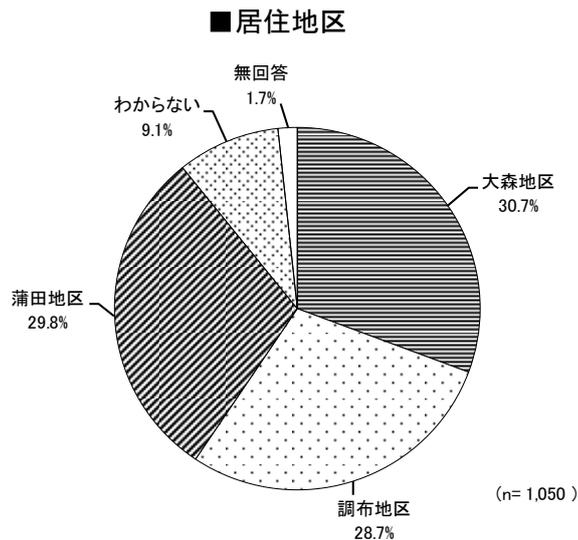
	一時預かりサービス	ちよっとした用事やリフレッシュのために利用できる	お子さんを預けることができる宿泊型のサービス	保護者の都合により家庭での育児が困難なときに、ヘルパー等の派遣サービス	産後や保護者の病気のときなどに家でこどもの世話をしてくれるヘルパー等の派遣サービス	家事援助(食事づくり、洗濯、買い物、清掃等)	妊娠・出産期における母子保健の充実	様々な体験ができる機会の提供	こどもが安心して遊べる公園などの整備	乳幼児連れでも外出しやすいまちづくり	乳幼児連れでも外出しやすいまちづくり	非行や犯罪被害の防止などこどもが健全に育つための環境整備	子育てを社会全体で見守る機運の醸成	その他	無回答
全体	31.8	6.0	8.3	10.0	7.6	29.7	46.1	25.2	19.5	7.5	3.1	1.7			
満足	25.2	4.2	6.7	4.2	7.6	35.3	42.0	25.2	24.4	9.2	3.4	2.5			
まあまあ満足	34.8	6.0	8.7	9.9	7.8	34.0	48.0	27.8	22.9	8.5	2.1	0.6			
ふつう	28.2	6.2	8.5	9.0	8.1	25.8	44.5	21.8	15.9	6.2	3.1	3.1			
やや不満	33.3	7.6	6.7	21.0	4.8	24.8	48.6	22.9	14.3	4.8	5.7	0.0			
不満	54.8	6.5	9.7	9.7	9.7	16.1	48.4	41.9	19.4	9.7	9.7	0.0			

2 小学校児童の保護者

(1) 住まいの地域について

問1 あなたのお住まいの地域（特別出張所）はどこですか。

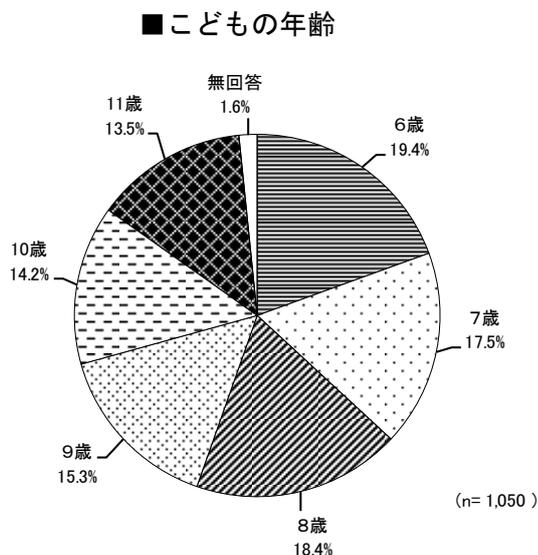
「大森地区」(30.7%)、「蒲田地区」(29.8%)、「調布地区」(28.7%)、「わからない」(9.1%)となっています。



(2) お子さんと家族の状況について

問2 宛名のお子さんの生年月をご記入ください。

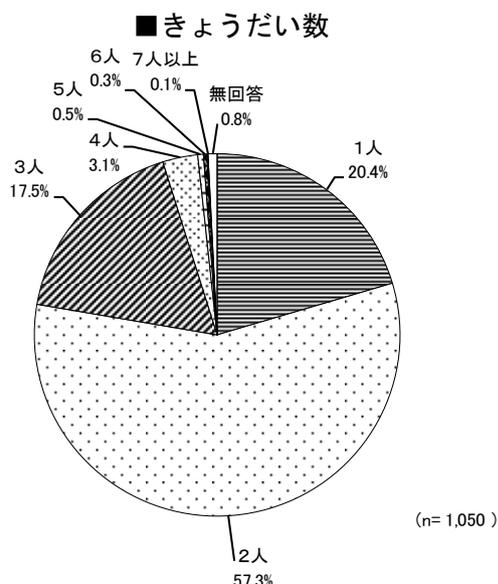
「6歳」(19.4%)、「8歳」(18.4%)、「7歳」(17.5%)、「9歳」(15.3%)、「10歳」(14.2%)、「11歳」(13.5%)となっています。



問3 宛名のお子さんの兄弟姉妹は何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数をご記入ください。お2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末子の方の生年月をご記入ください。

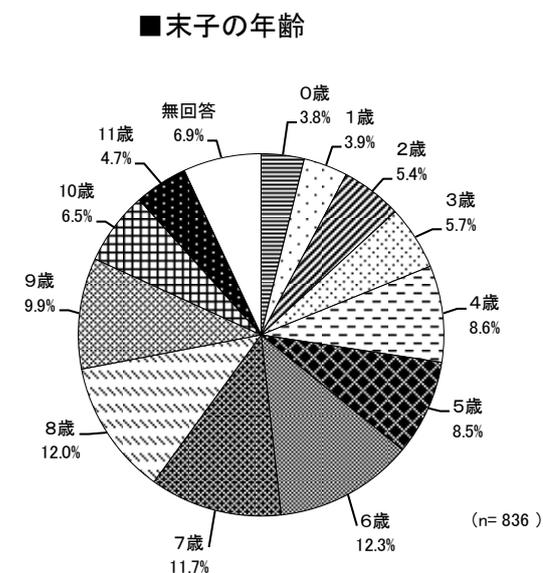
① きょうだい数

「2人」(57.3%)が最も多く、「1人」(20.4%)、「3人」(17.5%)と続きます。



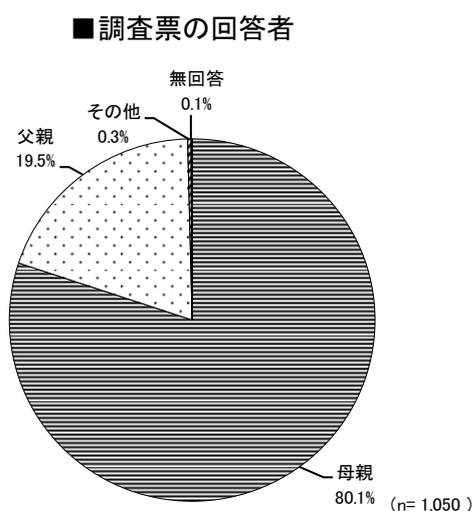
②末子の年齢

「6歳」(12.3%)が最も多く、「8歳」(12.0%)、「7歳」(11.7%)と続きます。



問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんからみた関係でお答えください。

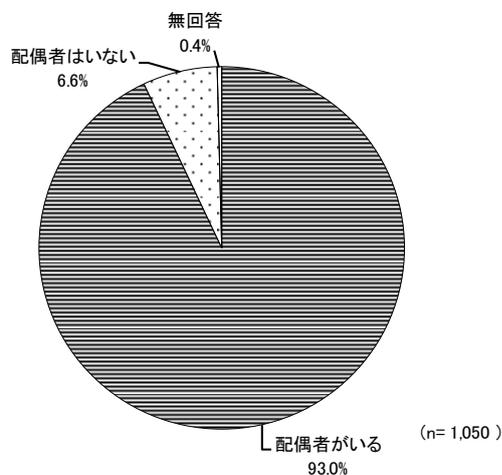
「母親」(80.1%)、「父親」(19.5%)となっています。



問5 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

「配偶者がいる」(93.0%)、「配偶者がいない」(6.6%)となっています。

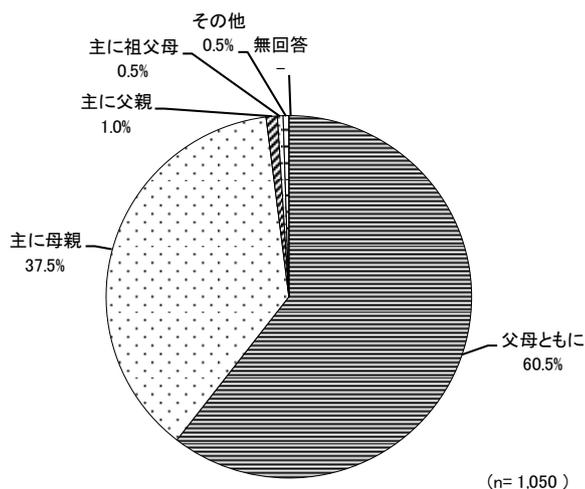
■ 調査回答者の配偶者の有無



問6 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんからみた関係でお答えください。

「父母ともに」(60.5%)が最も多く、「主に母親」(37.5%)、「主に父親」(1.0%)、「主に祖父母」(0.5%)と続きます。

■ 子育てを主に行っている人

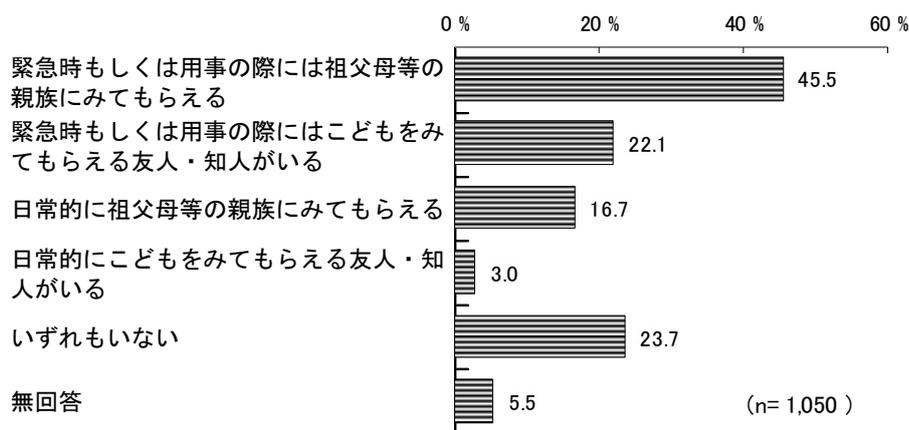


(3) こどもの育ちをめぐる環境について

問7 日頃、宛名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(45.5%)が最も多く、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(22.1%)、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(16.7%)と続きます。一方、「いずれもない」(23.7%)が2割半ばとなっており、約4人に1人が日ごろお子さんをみてもらえる親族・知人がいないことが伺えます。

■ こどもの面倒をみてくれる親族・知人の有無（複数回答）



【経年比較】

前回調査と同じく、「緊急時もしくは用事の際には祖父母などの親族にみてもらえる」が最も多くなっています。

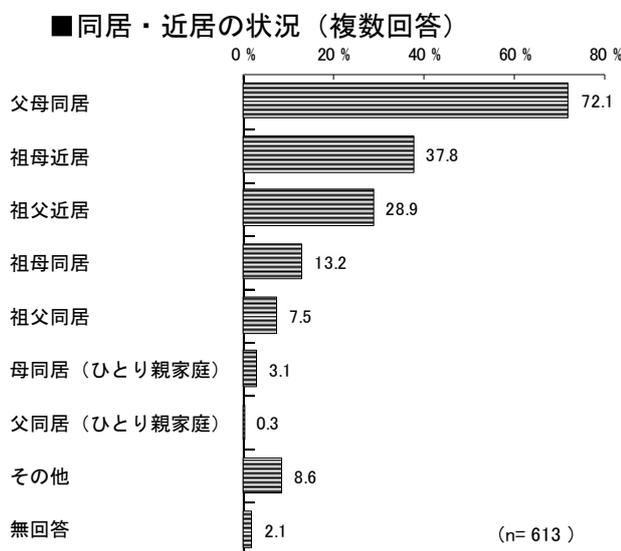
(単位: %)

	有効回答者数	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる	いずれもない	無回答
今回 (R5)	1,050	16.7	45.5	3.0	22.1	23.7	5.5
前回 (H30)	1,398	20.4	48.5	5.1	24.7	17.9	5.7

【問7で「1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」に○をつけた方】

問7-1 宛名のお子さんとの同居・近居（およそ30分以内で行き来できる範囲）の状況についてうかがいます。

「父母同居」（72.1%）が最も多く、「祖母近居」（37.8%）、「祖父近居」（28.9%）と続きます。

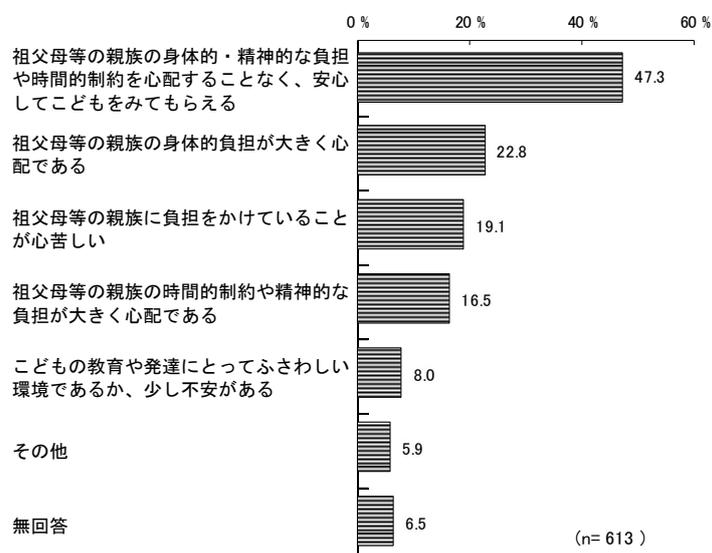


【問7で「1. 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」に○をつけた方】

問7-2 祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心してこどもをみてもらえる」（47.3%）が最も多く、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」（22.8%）、「祖父母等の親族に負担をかけていることが心苦しい」（19.1%）と続きます。

■祖父母等の親族にこどもをみてもらっている状況について（複数回答）

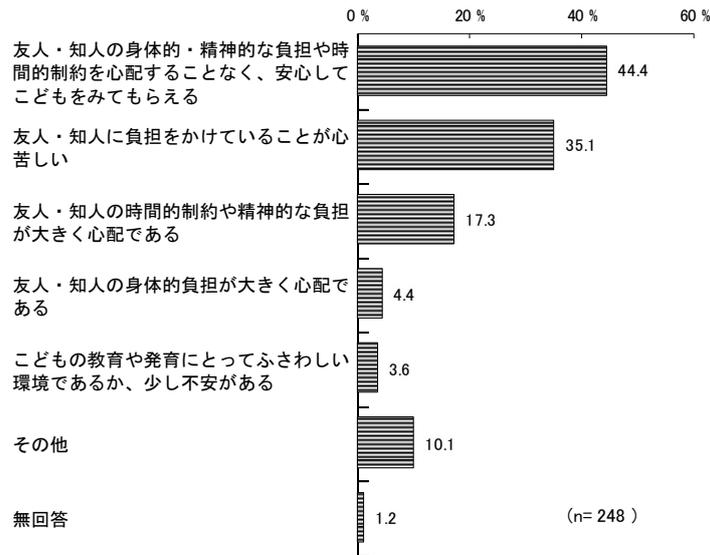


【問7で「3. 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」に○をつけた方】

問7-3 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。

「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」(44.4%)が最も多く、「友人・知人に負担をかけていることが心苦しい」(35.1%)、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」(17.3%)と続きます。

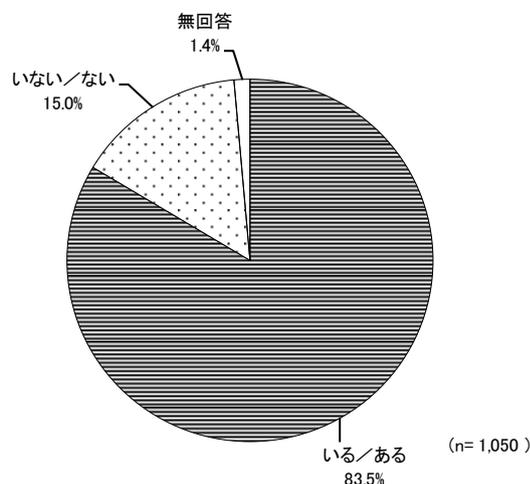
■友人・知人に子どもをみてもらっている状況について（複数回答）



問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。

「いる／ある」(83.5%)、「いない／ない」(15.0%)と続いています。

■相談できる人・場所の有無

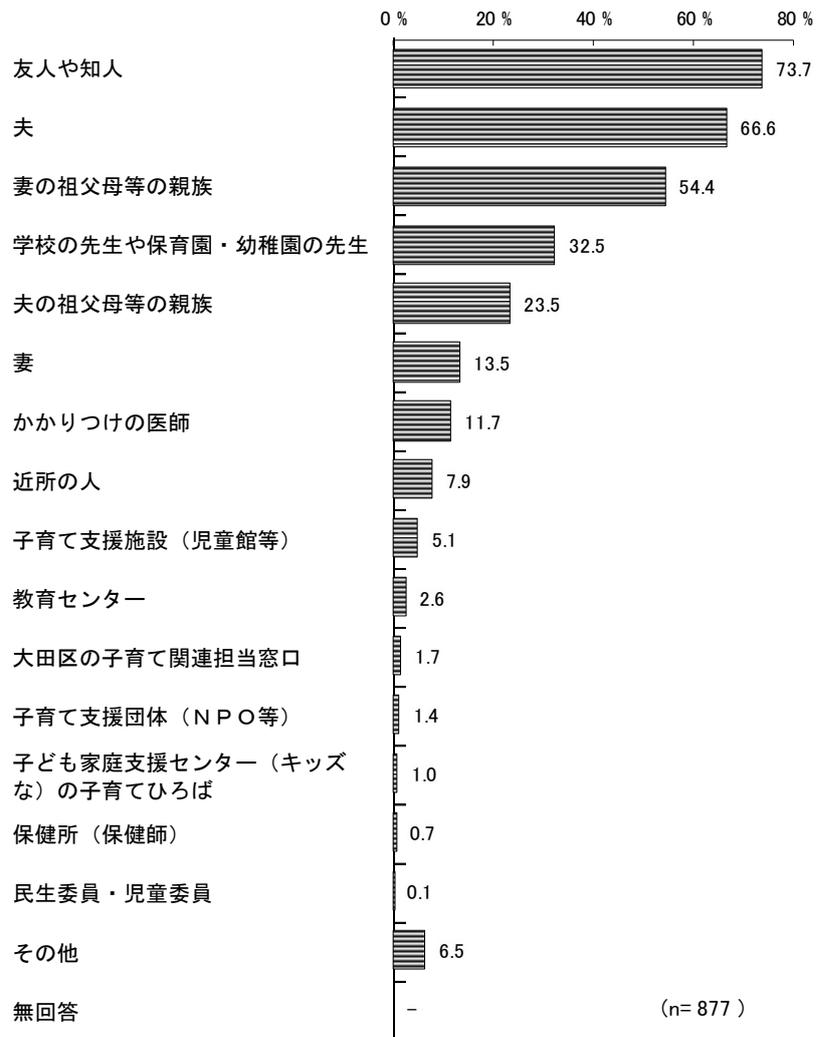


【問8で「1. いる／ある」に○をつけた方】

問8-1 お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

「友人や知人」（73.7%）が最も多く、「夫」（66.6%）、「妻の祖父母等の親族」（54.4%）、「学校の先生や保育園・幼稚園の先生」（32.5%）、「夫の祖父母等の親族」（23.5%）と続きます。

■気軽にできる相談先（複数回答）



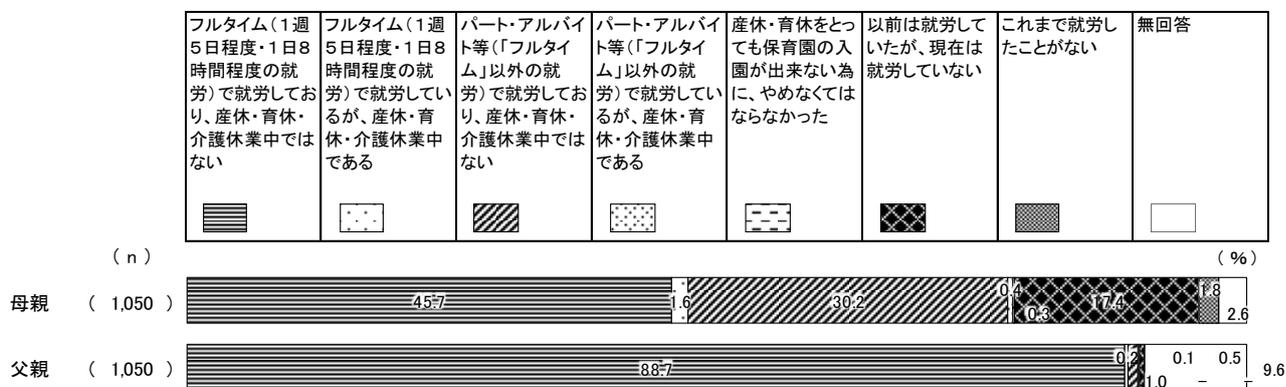
(4) 保護者の就労状況について

問9 あて名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

母親は「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（45.7%）が最も多く、「パート・アルバイト（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」（30.2%）、「以前は就労していたが、現在は就労していない」（17.4%）と続きます。

父親は「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、育休・介護休業中ではない」（88.7%）が最も多くなっています。

■保護者の就労状況



【母親：経年比較】

前回調査と異なり、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が最も多くなっています。また「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が前回調査と比べて少なくなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
今回(R5)	1,050	45.7	1.6	30.2	0.4	0.3	17.4	1.8	2.6
前回(H30)	1,398	32.8	1.3	35.7	0.3	0.2	23.8	3.1	2.9

【母親：就学前との比較】

就学前児童の保護者も小学生の保護者も、フルタイムで就労している方（休業中含む）が多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
小学生の保護者	1,050	45.7	1.6	30.2	0.4	0.3	17.4	1.8	2.6
就学前児童の保護者	1,167	39.5	20.2	16.7	2.5	0.5	18.8	1.0	0.8

59.7%

47.3%

【(1) で「1.~4.」(就労している)に○をつけた方】

(1)-1 1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間(残業時間を含む)」をお答えください。

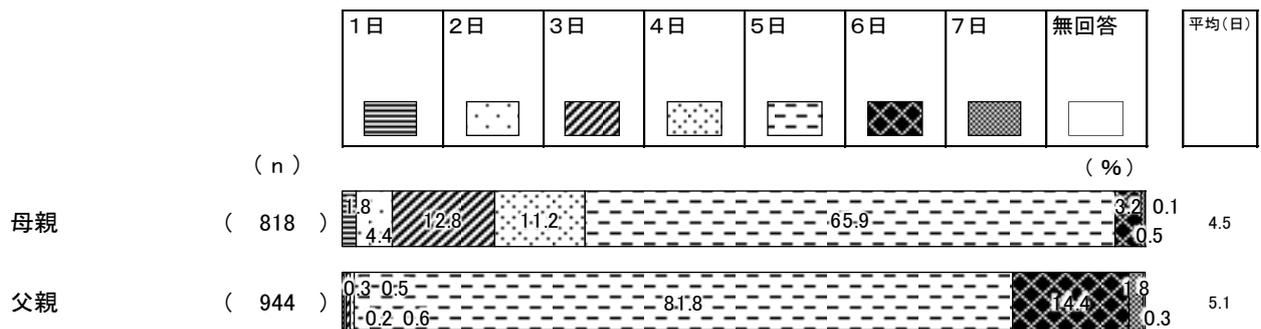
※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。

※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

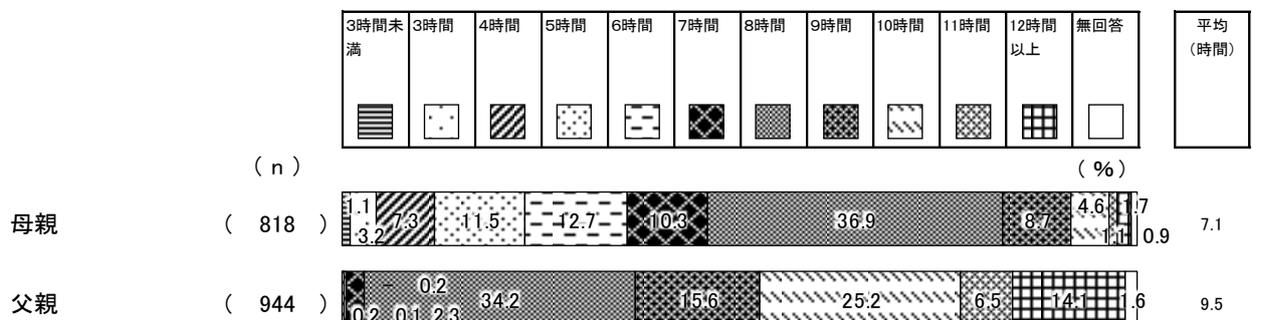
就労日数は、母親は「5日」(65.9%)が最も多く、「3日」(12.8%)、「4日」(11.2%)と続きます。1週当たりの平均就労日数は4.5日となっています。父親は「5日」(81.8%)が最も多く、「6日」(14.4%)、「7日」(1.8%)と続きます。1週当たりの平均就労日数は5.1日となっています。

就労時間は、母親は「8時間」(36.9%)が最も多く、「6時間」(12.7%)、「5時間」(11.5%)、「7時間」(10.3%)と続きます。1日当たりの平均就労時間は7.1時間となっています。父親は「8時間」(34.2%)が最も多く、「10時間」(25.2%)、「9時間」(15.6%)、「12時間以上」(14.1%)と続きます。1日当たりの平均就労時間は9.5時間となっています。

■ 1週当たりの就労日数



■ 1日当たりの就労時間



【(1) で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方】

(1)-2 土曜日・日曜日・祝日の勤務や夜勤はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

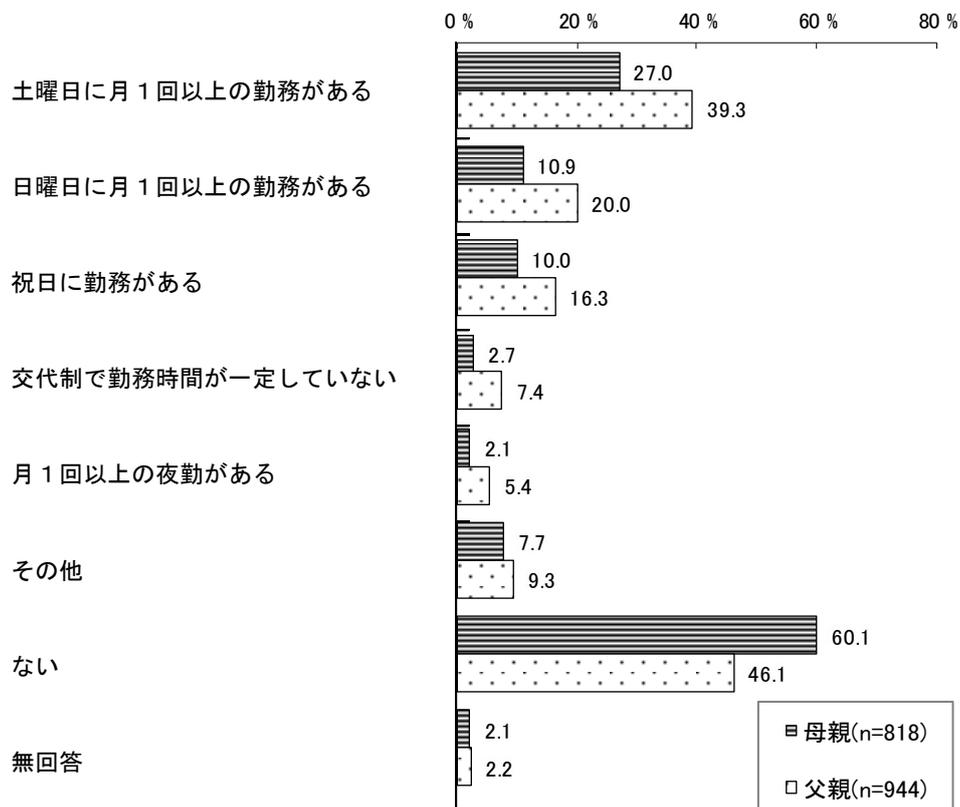
□内に数字でご記入ください。(時間は24時間制(例:午後6時→18時)でご記入ください。)

※「夜勤」とは深夜時間に労働することで、深夜労働の時間帯は「午後10時から午前5時まで」と労働基準法第61条で定義されています。

母親は、「土曜日に月1回以上の勤務がある」(27.0%)が最も多く、「日曜日に月1回以上の勤務がある」(10.9%)、「祝日に勤務がある」(10.0%)と続きます。

父親は、「月に1回以上の勤務がある」(39.3%)が最も多く、「日曜日に月1回以上の勤務がある」(20.0%)、「祝日に勤務がある」(16.3%)と続きます。

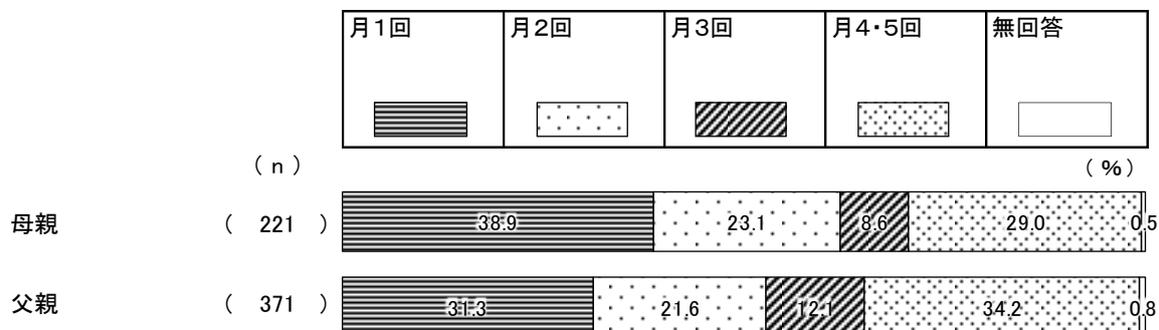
■土日、祝日の勤務や夜勤の状況



①月当たりの土曜日の就労回数

母親は「月1回」(38.9%)が最も多く、「月4・5回」(29.0%)、「月2回」(23.1%)と続きます。
 父親は「月4・5回」(34.2%)が最も多く、「月1回」(31.3%)、「月2回」(21.6%)と続きます。

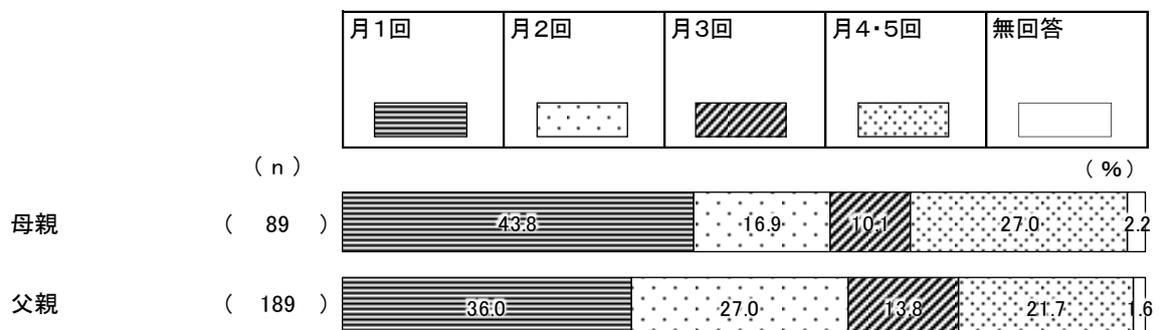
■月当たりの就労回数①土曜日



②月当たりの日曜日の就労回数

母親は「月1回」(43.8%)が最も多く、「月4・5回」(27.0%)、「月2回」(16.9%)と続きます。
 父親は「月1回」(36.0%)が最も多く、「月2回」(27.0%)、「月4・5回」(21.7%)と続きます。

■月当たりの就労回数②日曜日

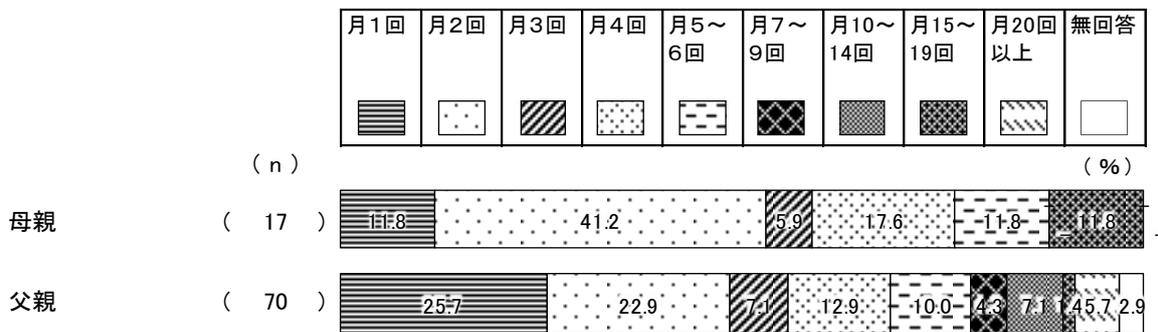


③月当たりの夜勤の就労回数

母親は「月2回」(41.2%)が最も多く、「月4回」(17.6%)、「月1回」「月5～6回」「月15～19回」(ともに11.8%)と続きます。

父親は「月1回」(25.7%)が最も多く、「月2回」(22.9%)、「月4回」(12.9%)と続きます。

■月当たりの就労回数

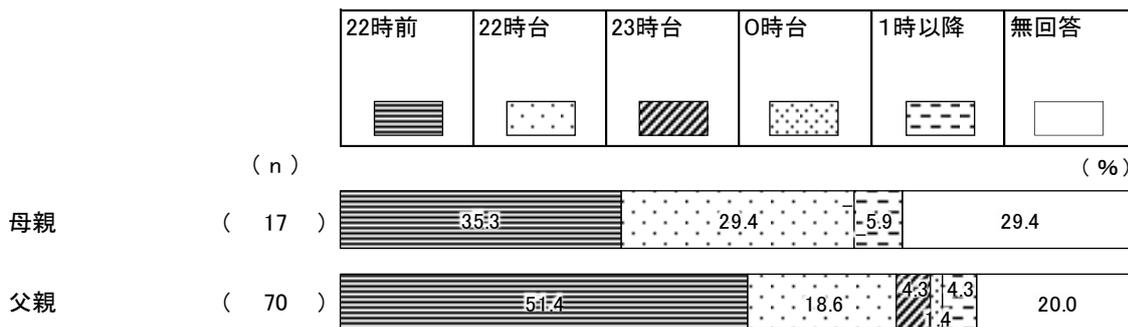


④夜勤開始時間

母親は「22時前」(35.3%)が最も多く、「22時台」(29.4%)、「1時以降」(5.9%)と続きます。

父親は「22時前」(51.4%)が最も多く、「22時台」(18.6%)、「23時台」「1時以降」(ともに4.3%)と続きます。

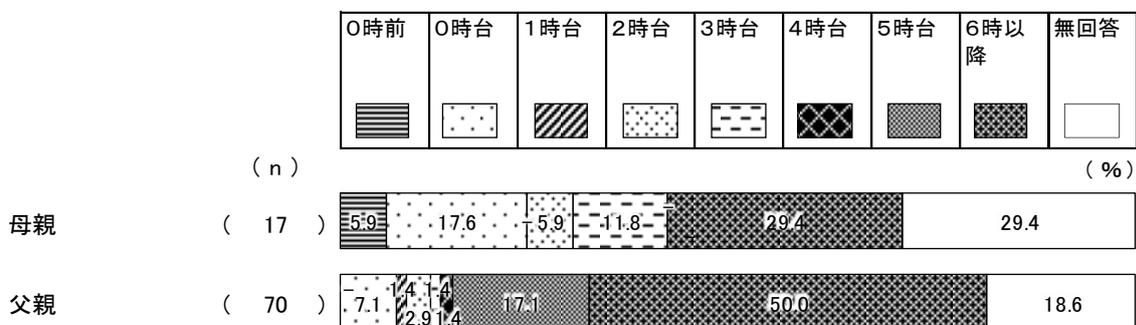
■夜勤・開始時間



⑤夜勤終了時間

母親は「6時以降」(29.4%)が最も多く、「0時台」(17.6%)、「3時台」(11.8%)と続きます。
 父親は「6時以降」(50.0%)が最も多く、「5時台」(17.1%)、「0時台」(7.1%)と続きます。

■夜勤・終了時間



【(1) で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方】

(1)-3 家を出る時刻と帰宅時刻をお答えください。時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。

※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。

(□内に数字でご記入ください。数字は一枠に一字。時間は24時間制(例：午後6時→18時)でご記入ください。)

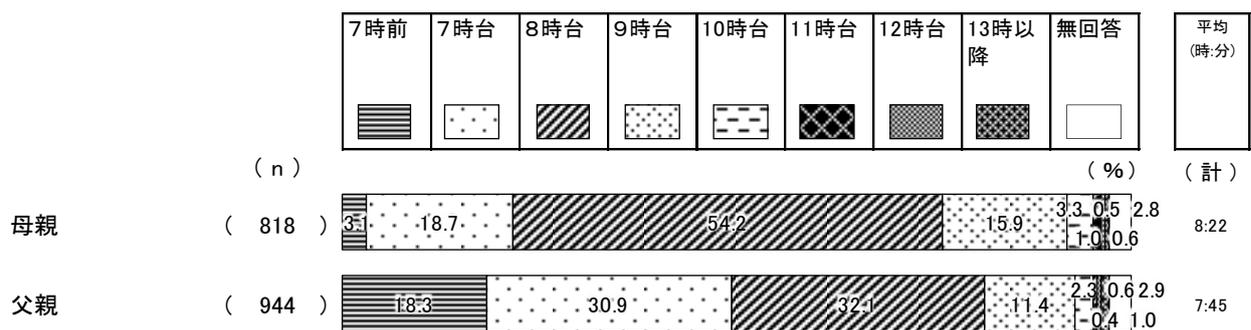
家を出る時刻は、母親は「8時台」(54.2%)が最も多く、「7時台」(18.7%)、「9時台」(15.9%)と続きます。平均時刻は8時22分となっています。

父親は、「8時台」(32.1%)が最も多く、「7時台」(30.9%)、「7時前」(18.3%)と続きます。平均時刻は7時45分となっています。

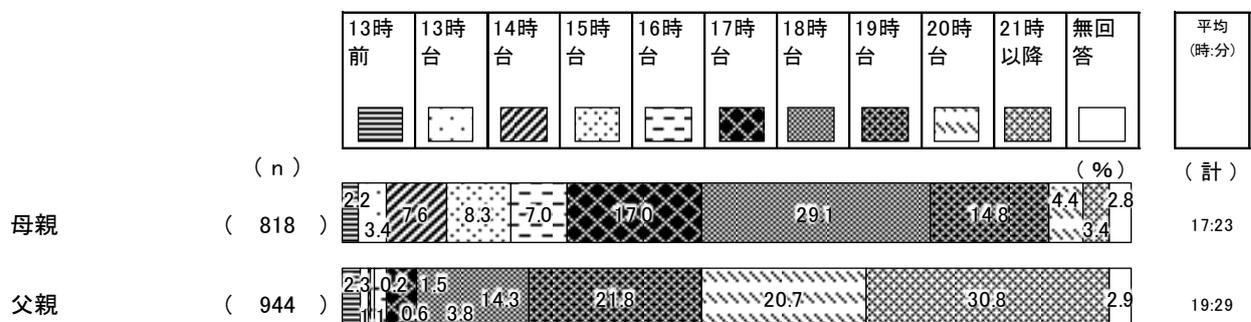
帰宅時刻は、母親は「18時台」(29.1%)が最も多く、「17時台」(17.0%)、「19時台」(14.8%)と続きます。平均時刻は17時23分となっています。

父親は、「21時以降」(30.8%)が最も多く、「19時台」(21.8%)、「20時台」(20.7%)と続きます。平均時刻は19時29分となっています。

■家を出る時間



■帰宅時間



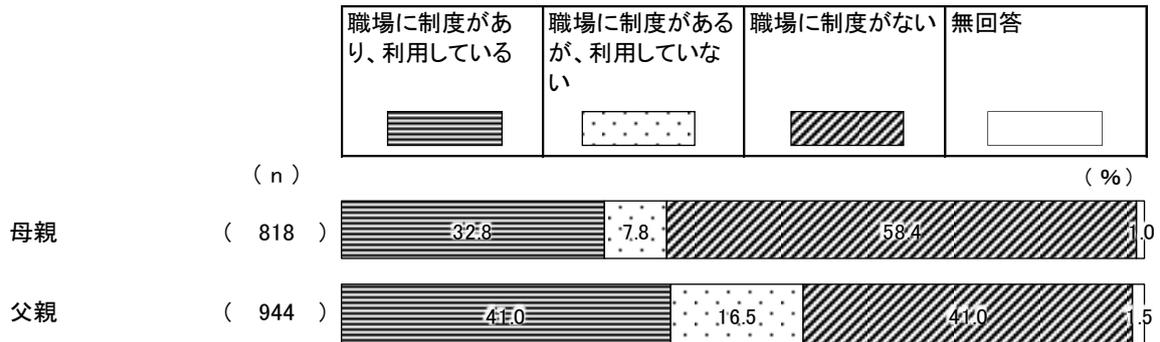
【(1) で「1.～4.」(就労している) に○をつけた方】

(1) -4 職場での在宅勤務(テレワーク)制度の導入状況及びあなたの利用状況についてお答えください。当てはまる番号1つに○をつけてください。

母親は、「職場に制度がない」(58.4%)、「職場に制度があり、利用している」(32.8%)、「職場に制度があるが、利用していない」(7.8%)となっています。

父親は、「職場に利用制度があり、利用している」「職場に制度がない」(ともに41.0%)、「職場に制度があるが、利用していない」(16.5%)となっています。

■職場でのテレワーク制度の導入状況及び利用状況



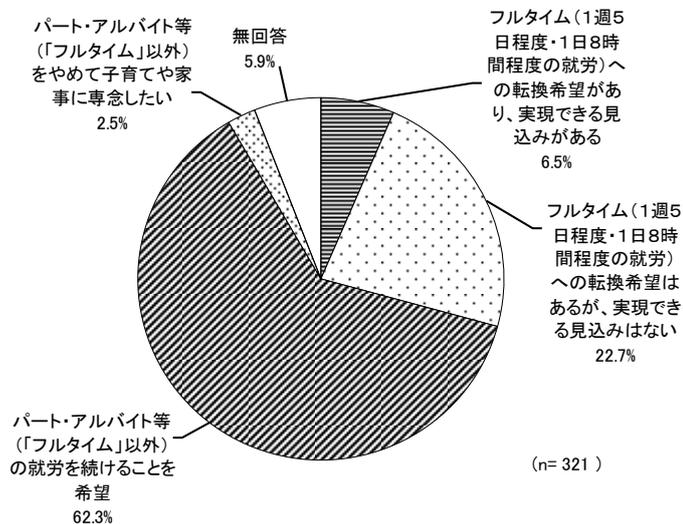
【問9の(1)または(2)で、「3.」または「4.」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方】

問10 フルタイムへの転換希望はありますか。

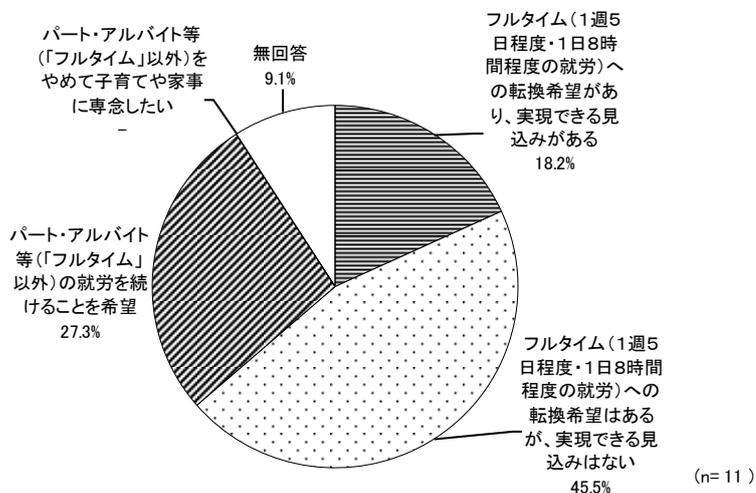
母親は「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」(62.3%)が最も多く、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(22.7%)、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある」(6.5%)と続きます

父親は、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(45.5%)、「パート・アルバイト等(「フルタイム」以外)の就労を続けることを希望」(27.3%)、「フルタイム(1週5日程度・1日8時間程度の就労)への転換希望があり、実現できる見込みがある」(18.2%)と続いています。

■フルタイムへの転換希望／母親



■フルタイムへの転換希望／父親



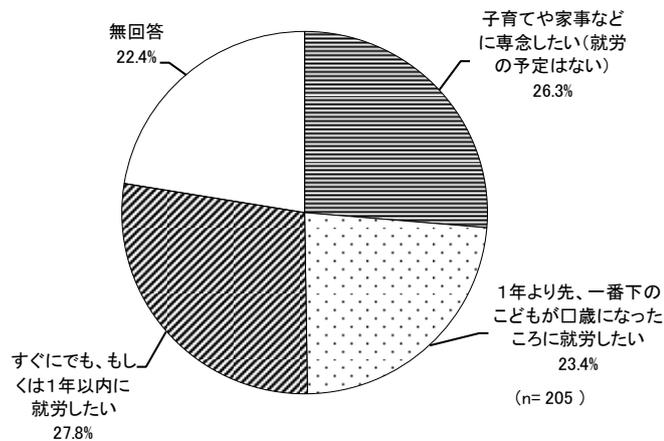
【問9の(1)または(2)で、「5.~7.」(就労していない)に○をつけた方】

問11 就労したいという希望はありますか。

母親は、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(27.8%)が最も多く、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」(26.3%)、「1年より先、一番下のこどもが□歳になったころに就労したい」(23.4%)と続きます。

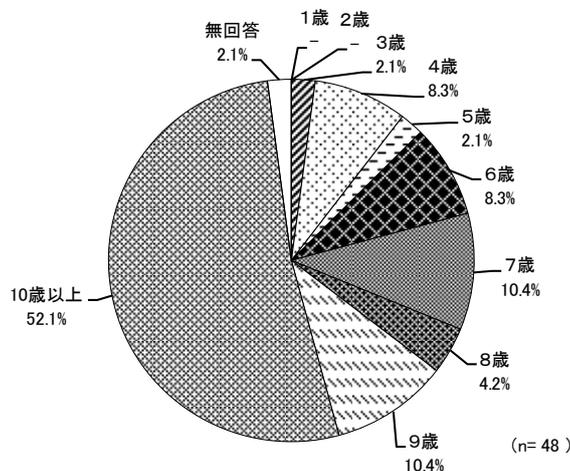
父親は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が3件、「子育てや家事などに専念したい(就労の予定はない)」1件となっています。

■就労希望／母親



- ① 末子の年齢(1年より先、一番下のこどもが()歳になったころに就労したい)
「10歳以上」(52.1%)が最も多く、「7歳」「9歳」(ともに10.4%)と続きます。

■末子の年齢／母親

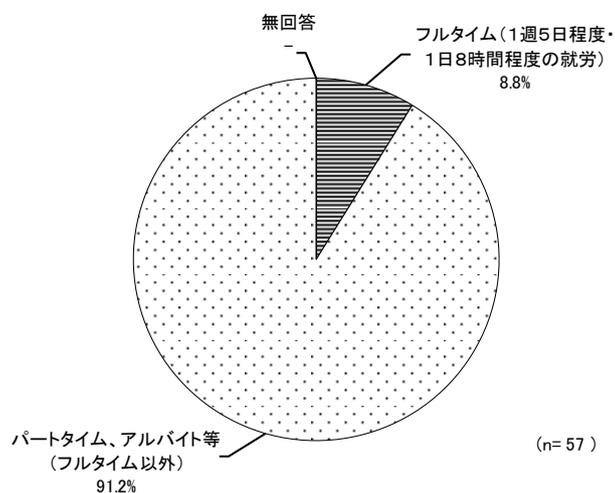


②希望する就労形態（すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい）

母親は「パートタイム、アルバイト等（フルタイム以外）」（91.2%）が最も多く、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」（8.8%）と続きます

父親は「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）」が3件となっています。

■希望する就労形態／母親



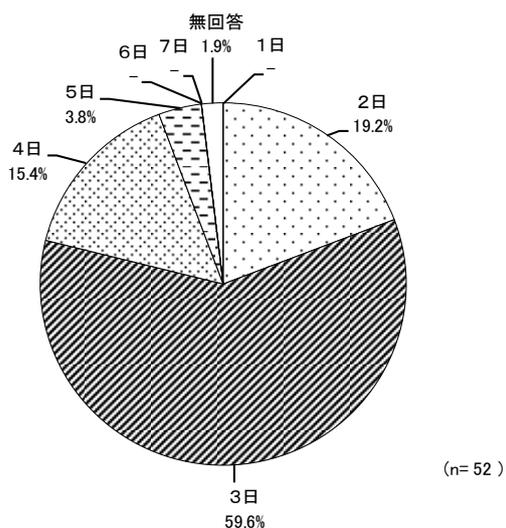
ア 1週当たり就労日数：母親

「3日」（59.6%）が最も多く、「2日」（19.2%）、「4日」（15.4%）と続きます。

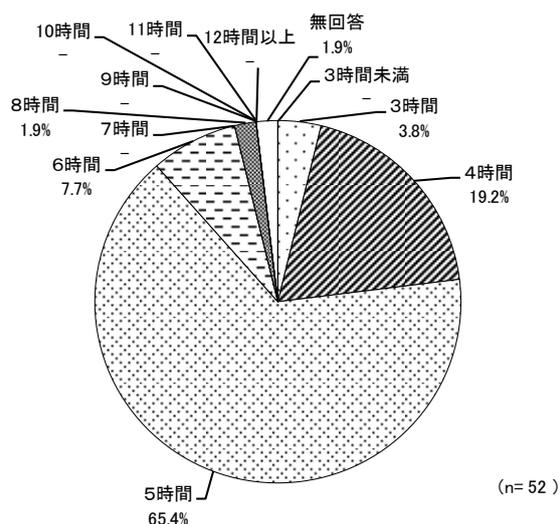
イ 1日当たり就労時間：母親

「5時間」（65.4%）が最も多く、「4時間」（19.2%）、「6時間」（7.7%）と続きます。

■1週当たり就労日数／母親



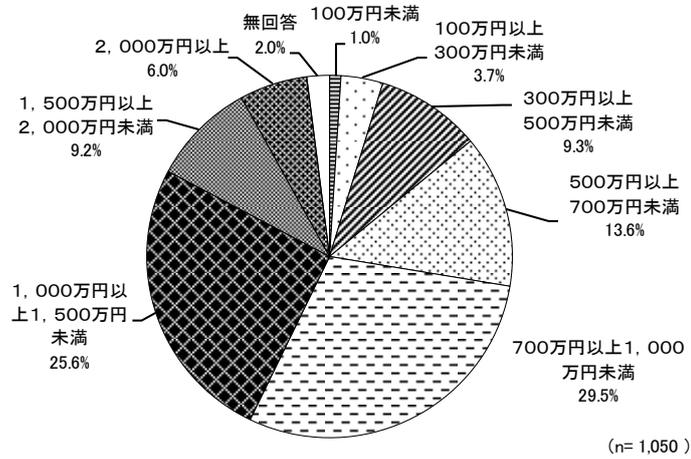
■1日当たり就労時間／母親



問 12 昨年の子間の世帯の総収入はどのくらいですか。生計を一つにする世帯の収入でお答えください。

「700万円以上1,000万円未満」(29.5%)が最も多く、「1,000万円以上1,500万円未満」(25.6%)、「500万円以上700万円未満」(13.6%)と続きます。

■年間世帯総収入



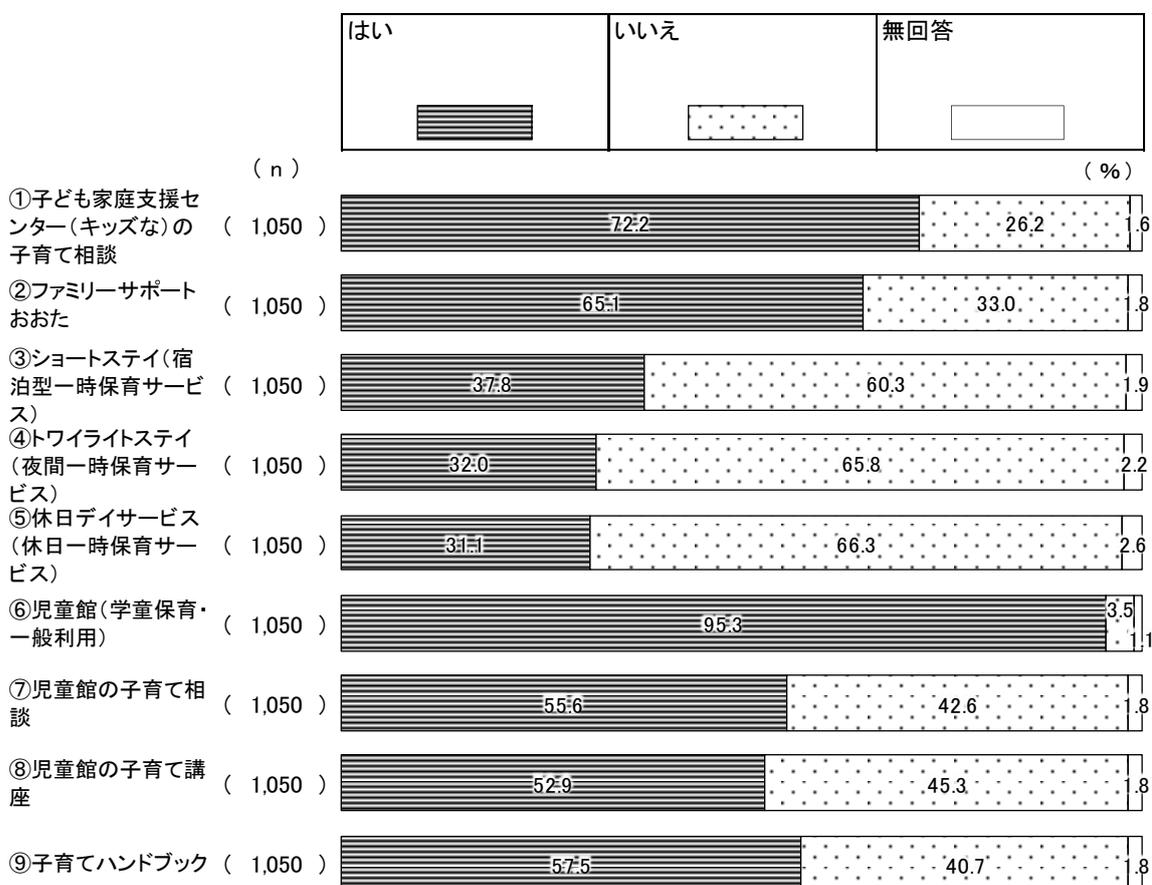
(5) 地域の子育て支援事業の利用状況について

問13 下記の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

① 認知度 (知っている)

“児童館 (学童保育・一般利用)” の認知度は9割半ばとなっています。一方“トワイライトステイ (夜間一時保育サービス)”、“休日デイサービス (休日一時保育サービス)” の認知度は約3割と低くなっています。

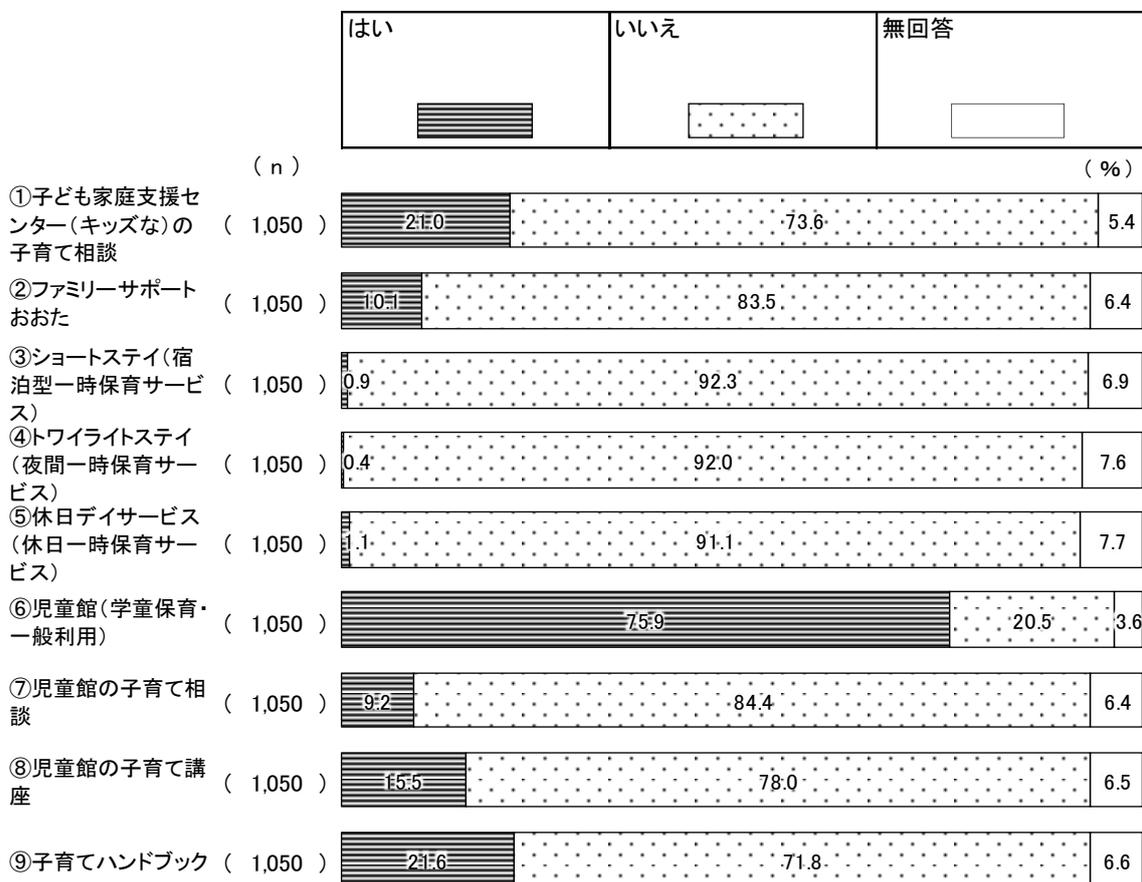
■ 認知度



② 利用経験（これまでに利用したことがある）

“児童館（学童保育・一般利用）”は7割半ばがこれまでに利用したことがあるとなっています。

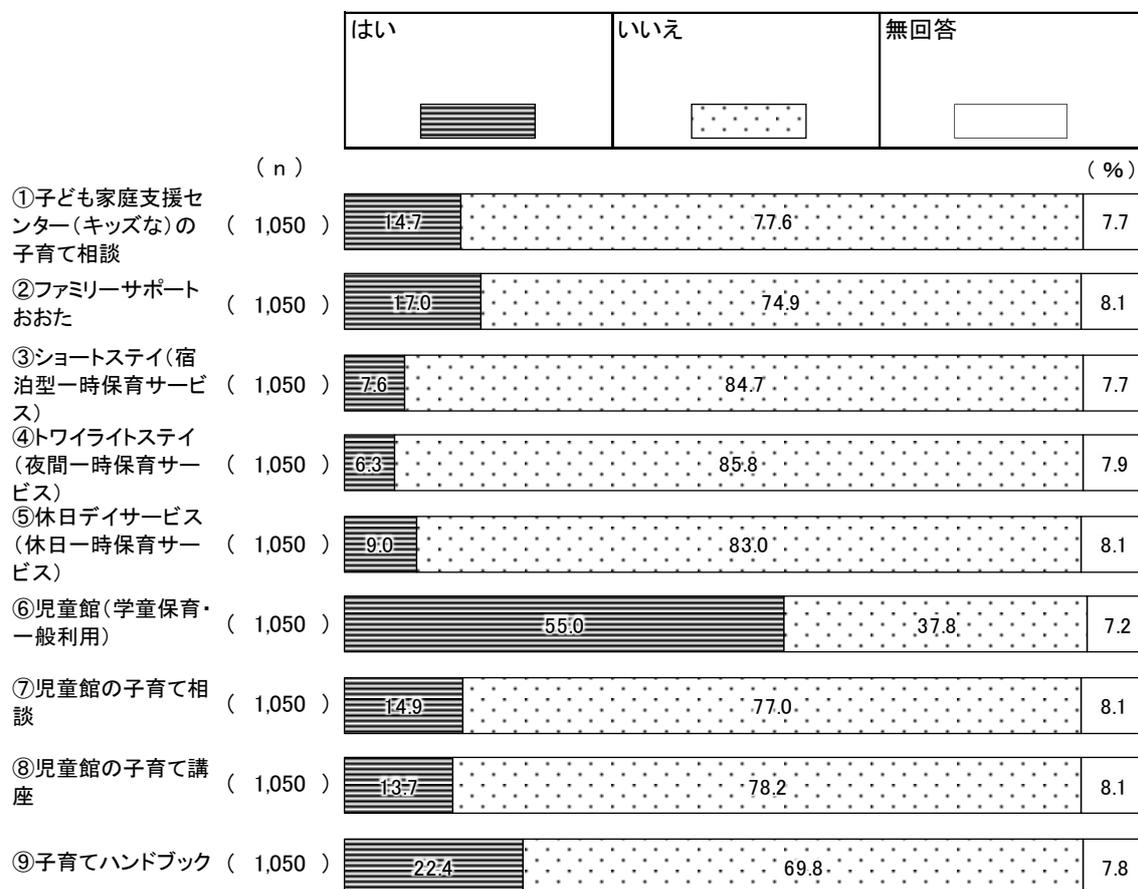
■ 利用経験



③ 利用意向（今後利用したい）

“児童館（学童保育・一般利用）”は5割半ばが今後利用したいとなっています。

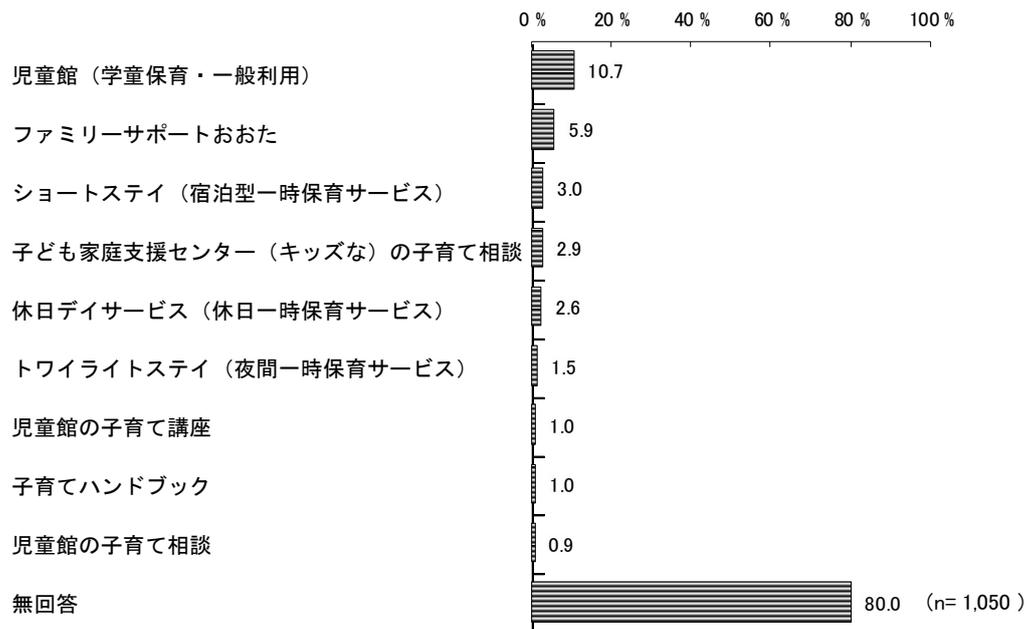
■ 利用意向



問 14 問 13①～⑨の事業について、改善してほしい事業はありますか。改善してほしい事業を3つまで選び、①～⑨の番号をご記入ください。また、改善点を各事業についてご記入ください。

「児童館（学童保育・一般利用）」が(10.7%)が最も多く、「ファミリーサポートおおた」(5.9%)、「ショートステイ（宿泊型一時保育サービス）」(3.0%)、「子ども家庭支援センター（キッズな）の子育て相談」(2.9%)と続きます。

■改善してほしい事業（3つまで）

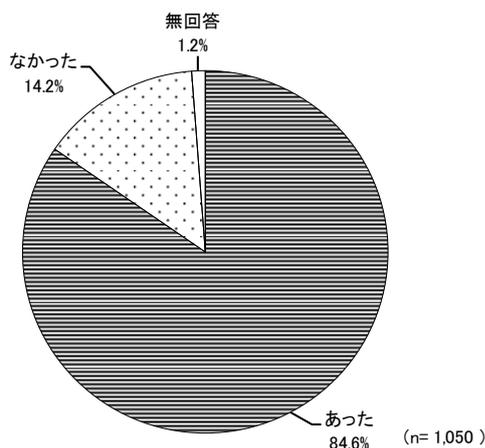


(6) 病気の際の対応について

問 15 この1年間に、宛名のお子さんが病気やけがで学校を休まなければならなかったことはありますか。

「あった」(84.6%)、「なかった」(14.2%)となっています。

■ 病気やケガで学校を休まなければならなかったこと



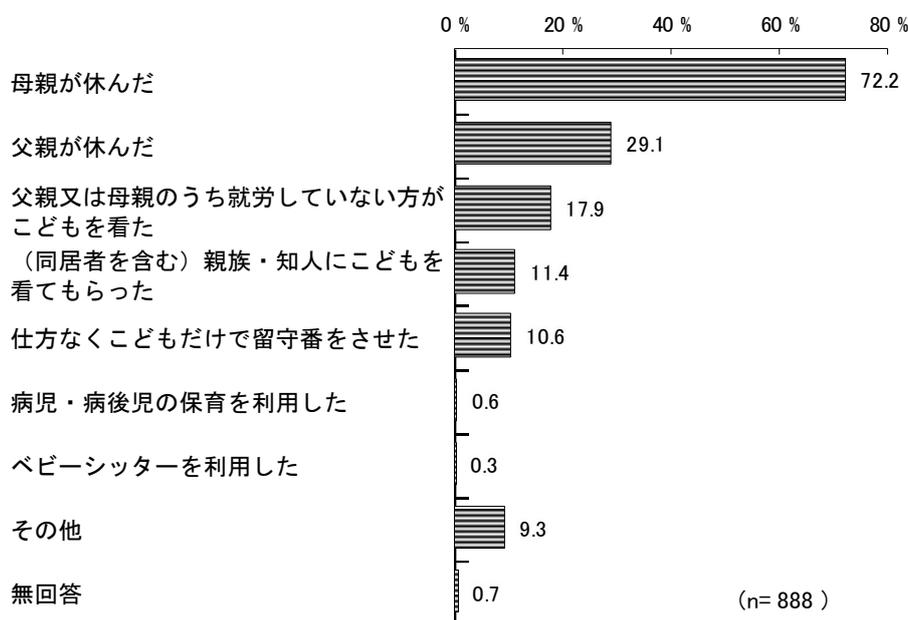
【問 15 で「1. あった」に○をつけた方】

問 15-1 この1年間に行った対処方法として当てはまる番号すべてに○をつけ、それぞれの日数もご記入ください。

① 1年間の対処方法

「母親が休んだ」(72.2%)が最も多く、「父親が休んだ」(29.1%)、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもを見た」(17.9%)と続きます。

■ 1年間の対処方法（複数回答）

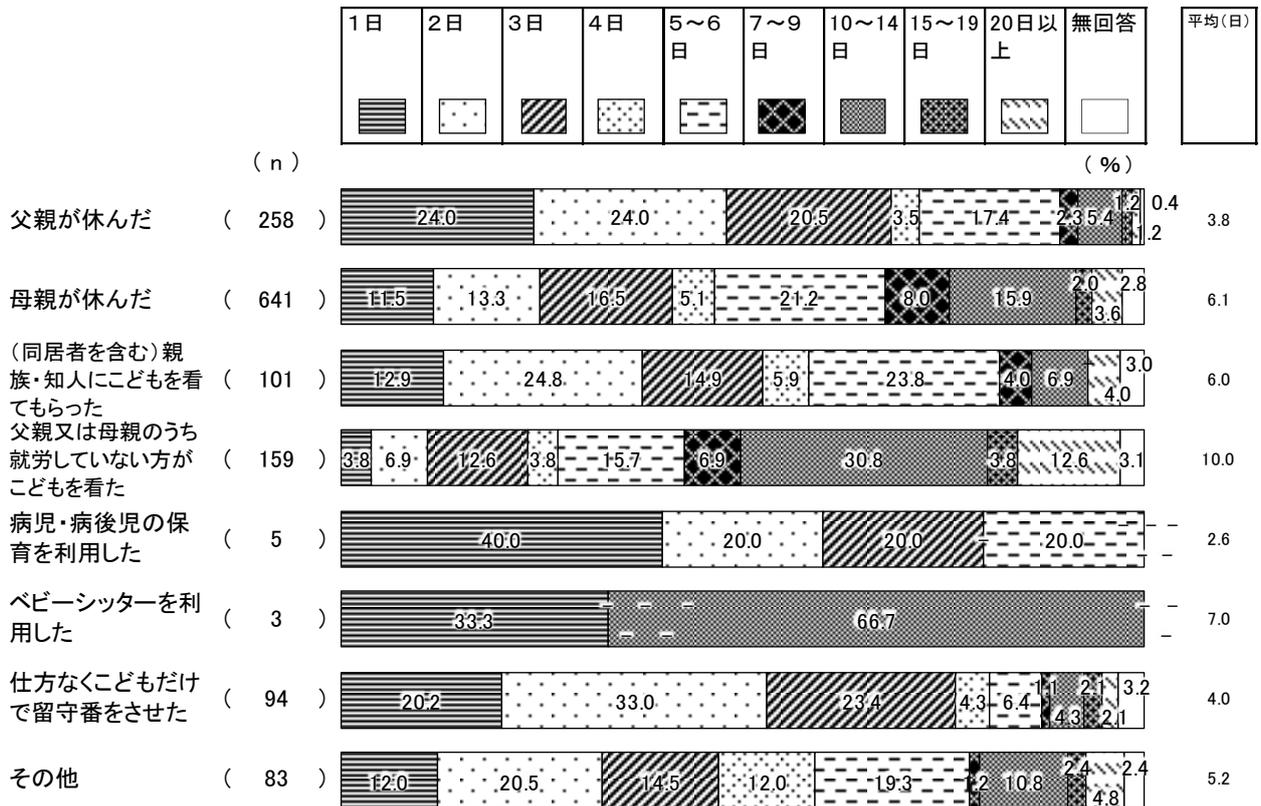


② 1年間の対処方法別日数

“父親が休んだ”は「1日」「2日」(24.0%)が最も多く、「3日」(20.5%)と続いており、平均3.8日となっています。

“母親が休んだ”は「5～6日」(21.2%)が最も多く、「3日」(16.5%)、「10～14日」(15.9%)と続いており、平均6.1日となっています。

■ 1年間の対処方法別日数

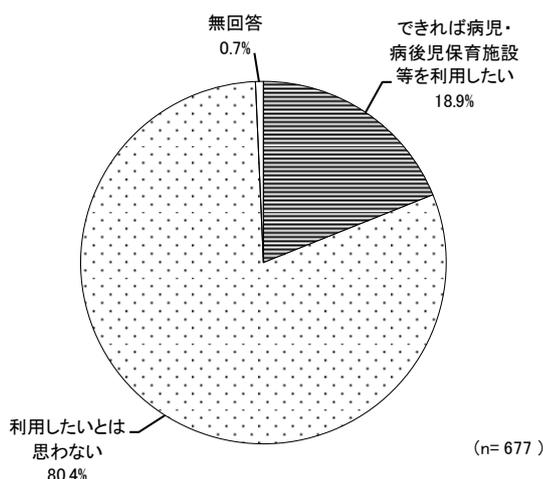


【問 15-1 で「1. 父親が休んだ」または「2. 母親が休んだ」に○をつけた方】

問 15-2 その際、「できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。なお、病児・病後児のための事業等の利用には、一定の利用料がかかります、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」(18.9%)、「利用したいとは思わない」(80.4%)となっています。

■病児・病後児保育施設等の利用希望



【母親の就労状況別】

すべての就労状況で「利用したいとは思わない」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	できれば病児・病後児保育施設等を利用したい	利用したいとは思わない	無回答
全体	677	18.9	80.4	0.7
フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	367	22.6	77.1	0.3
フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	11	36.4	54.5	9.1
パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	236	13.1	85.6	1.3
パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	4	0.0	100.0	0.0
産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	0	0.0	0.0	0.0
以前は就労していたが、現在は就労していない	44	15.9	84.1	0.0
これまで就労したことがない	4	0.0	100.0	0.0

【お子さんを見てもらえる親族・知人の有無別】（複数回答）

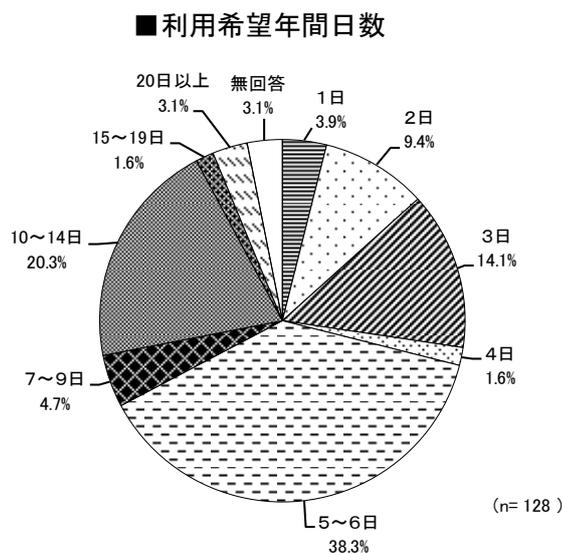
すべての区分で「利用したいとは思わない」が最も多くなっています。

（単位：％）

	有効回答者数	できれば病児・病後児保育施設等を利用したい	利用したいとは思わない	無回答
全体	677	18.9	80.4	0.7
日常的に祖父母等の親族にみてもらえる	109	22.0	78.0	0.0
緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる	308	16.2	82.5	1.3
日常的に子どもを見てもらえる友人・知人がいる	17	17.6	82.4	0.0
緊急時もしくは用事の際には子どもを見てもらえる友人・知人がいる	140	13.6	85.7	0.7
いずれもない	172	25.6	74.4	0.0

① 利用希望年間日数

「5～6日」(38.3%)が最も多く、「10～14日」(20.3%)、「3日」(14.1%)と続きます。

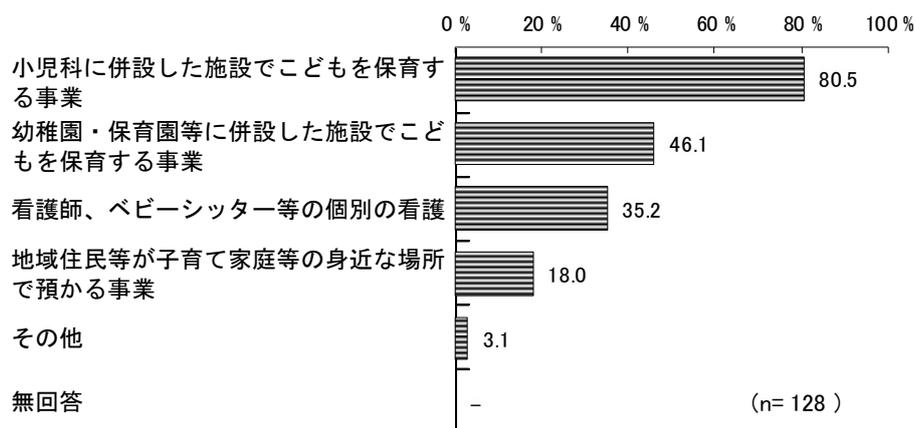


【問 15-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方】

問 15-3 上記の目的でこどもを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われませんか。

「小児科に併設した施設でこどもを保育する事業」(80.5%)が最も多く、「幼稚園・保育園等に併設した施設でこどもを保育する事業」(46.1%)、「看護師、ベビーシッター等の個別の看護」(35.2%)と続きます。

■ 病児・病後児保育施設等の望ましい事業形態 (複数回答)

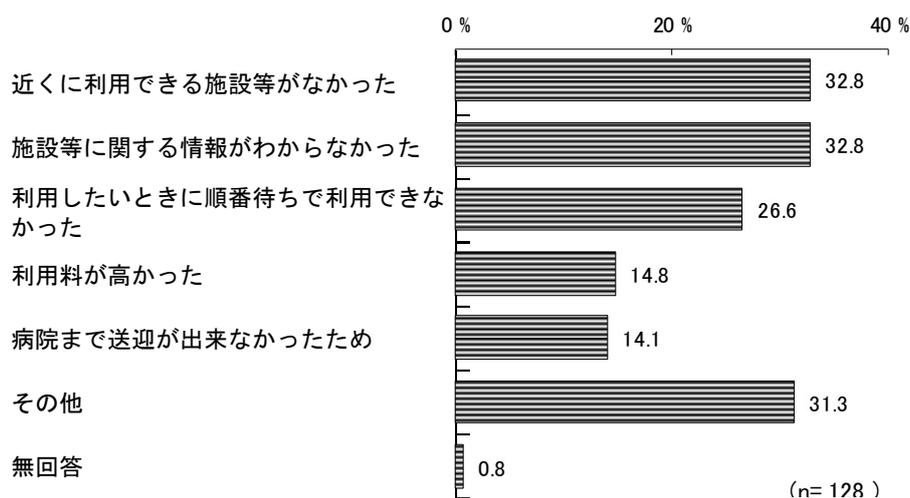


【問 15-2 で「1. できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」に○をつけた方】

問 15-4 病児・病後児保育施設等を利用したいとお考えであったのに、利用ができなかった理由は何ですか。

「近くに利用できる施設等がなかった」(32.8%)が最も多く、「施設等に関する情報がわからなかった」(32.8%)、「利用したいときに順番待ちで利用できなかった」(26.6%)と続きます。

■病児・病後児保育施設等が利用できなかった理由（複数回答）

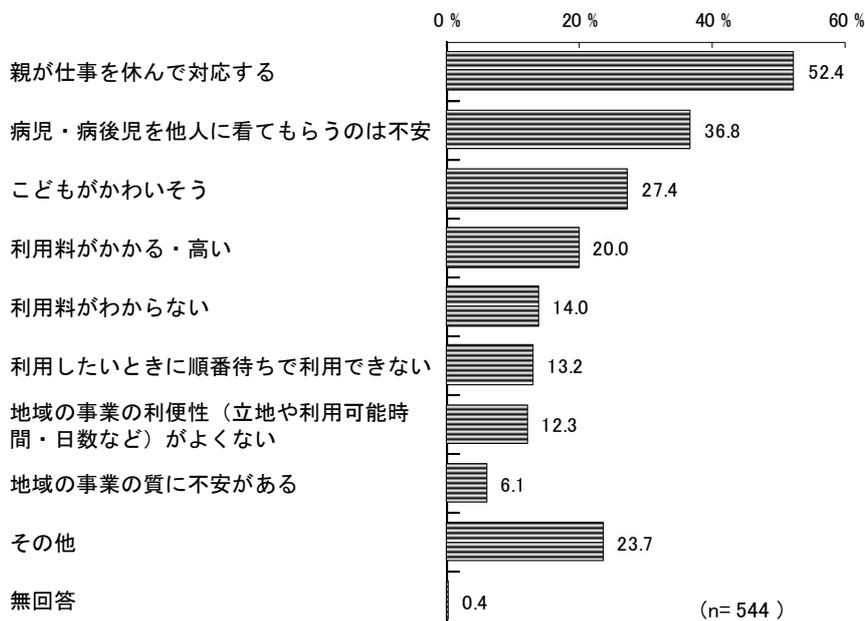


【問 15-2 で「2. 利用したいとは思わない」に○をつけた方】

問 15-5 そう思われる理由は何ですか。

「親が仕事を休んで対応する」(52.4%)が最も多く、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(36.8%)、「こどもがかawaiiそう」(27.4%)と続きます。

■病児・病後児保育施設等を利用したくない理由（複数回答）

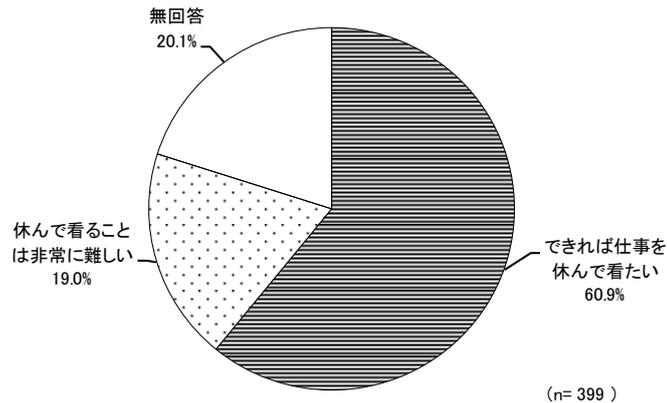


【問 15-1 で「3. (同居者を含む) 親族・知人に子どもを看てもらった」～「8. その他」に○をつけた方】

問 15-6 その際、「できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たい」と思われましたか。

「できれば仕事を休んで看たい」(60.9%)、「休んで看することは非常に難しい」(19.0%)となっています。

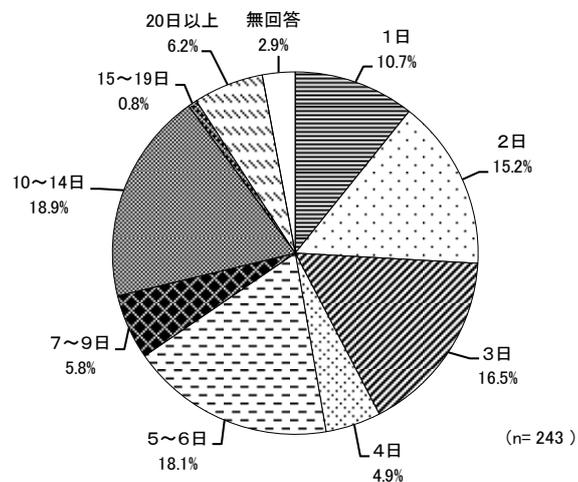
■ できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったこと



① 仕事を休んで看たい希望年間日数

「10～14日」(18.9%)が最も多く、「5～6日」(18.1%)、「3日」(16.5%)、「2日」(15.2%)と続きます。

■ 仕事を休んで看たい希望年間日数

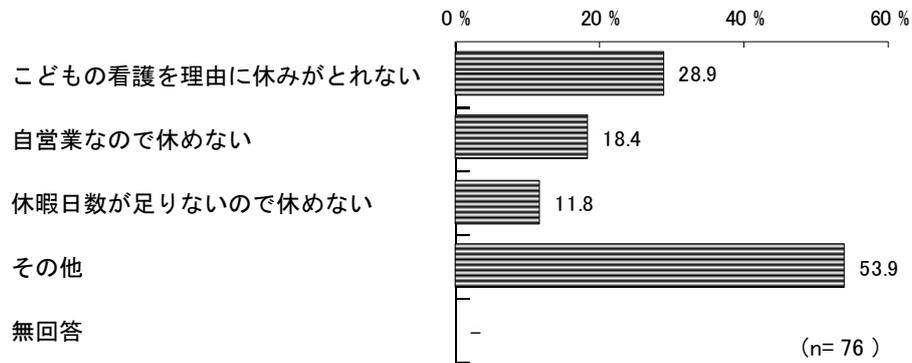


【問 15-6 で「2. 休んで見ることは非常に難しい」に○をつけた方】

問 15-7 そう思われる理由は何ですか。

「こどもの看護を理由に休みがとれない」(28.9%)が最も多く、「自営業なので休めない」(18.4%)、「休暇日数が足りないので休めない」(11.8%)、と続きます。

■休んで見ることは非常に難しいと思う理由（複数回答）



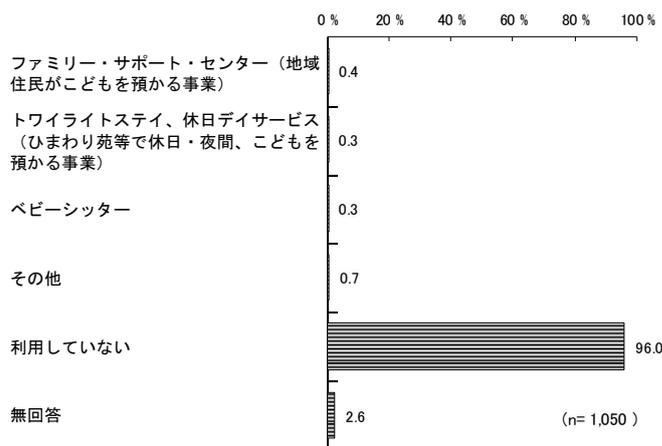
(7) 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 16 宛名のお子さんについて、日中の定期的な学童保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用はありますか。

①利用している事業

「利用していない」(96.0%)が最も多くなっています。

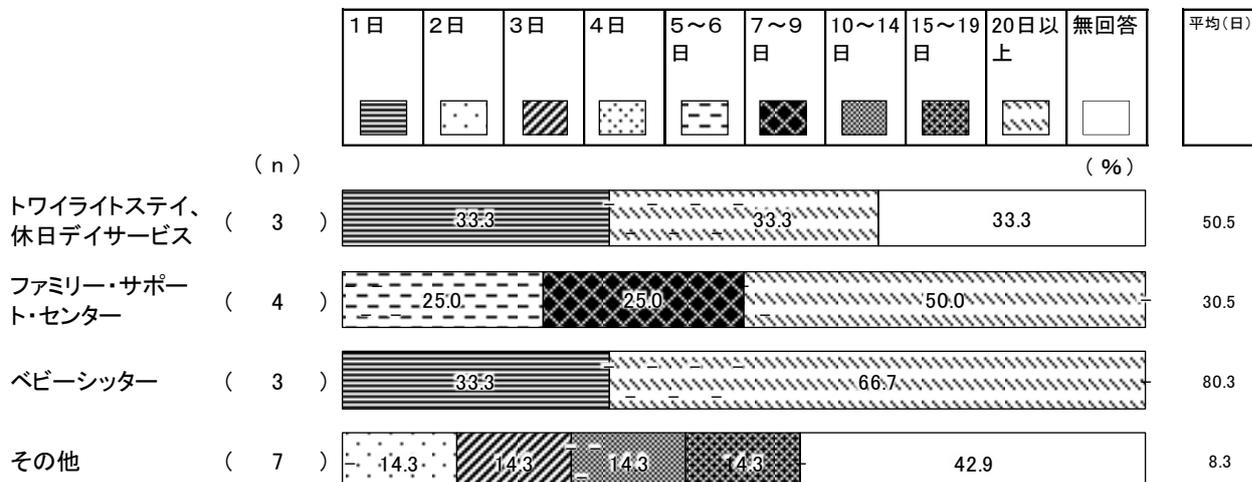
■利用している事業（複数回答）



②利用している事業別年間日数

“ファミリー・サポート・センター”は「20日以上」(50.0%)が最も多く、平均30.5日となっています。

■利用している事業別年間日数

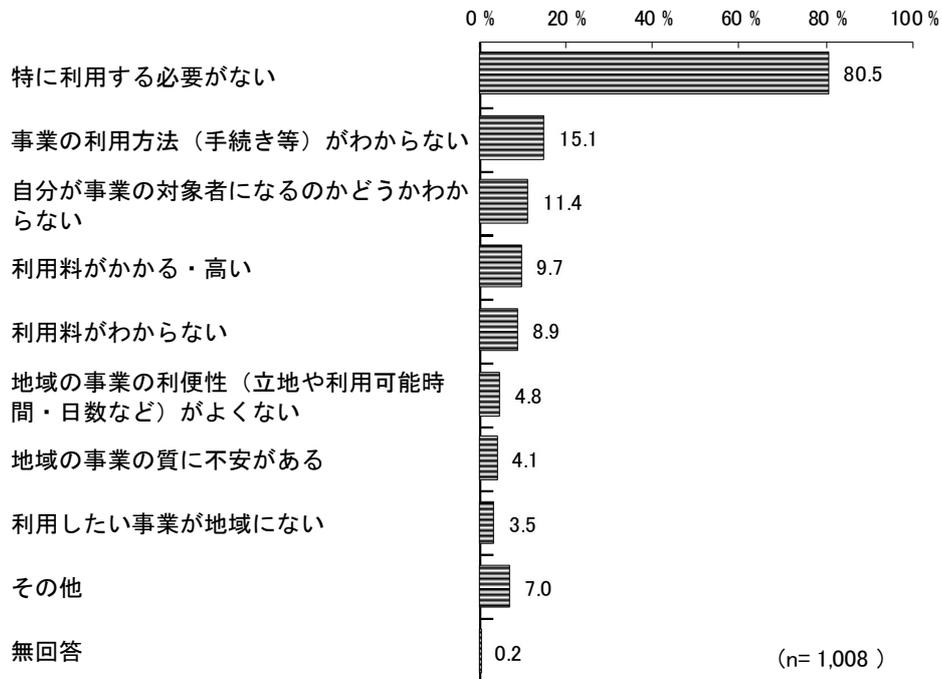


【問 16 で「5. 利用していない」に○をつけた方】

問 16-1 現在利用していない理由は何ですか。

「特に利用する必要がない」(80.5%)が最も多く、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(15.1%)、「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」(11.4%)と続きます。

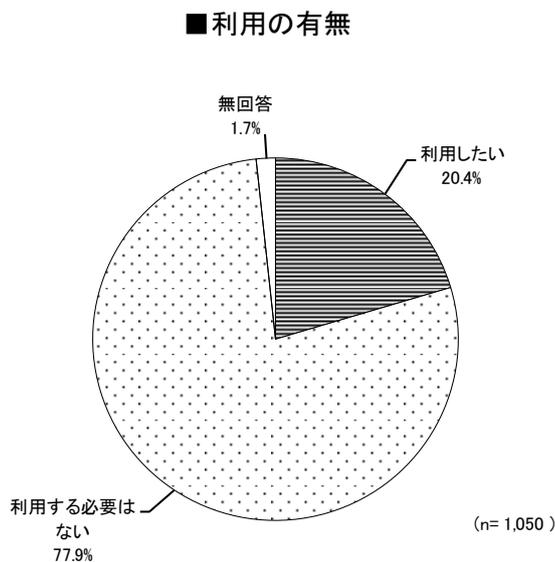
■利用していない理由(複数回答)



問17 宛名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、問24のような事業を利用する必要があると思いますか。利用の有無と利用の目的、利用したい年間日数をお答えください。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

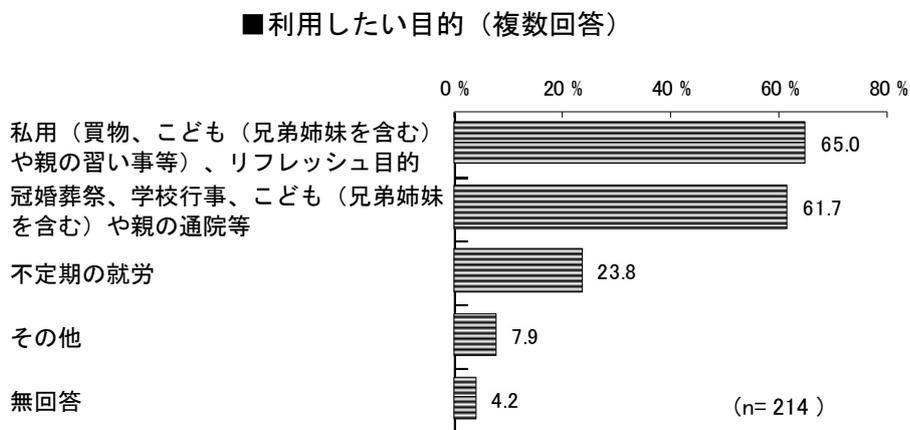
①利用の有無

「利用したい」(20.4%)、「利用する必要はない」(77.9%)となっています。



②利用したい目的

「私用（買物、こども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」（65.0%）が最も多く、「冠婚葬祭、学校行事、こども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」（61.7%）、「不定期の就労」（23.8%）と続きます。

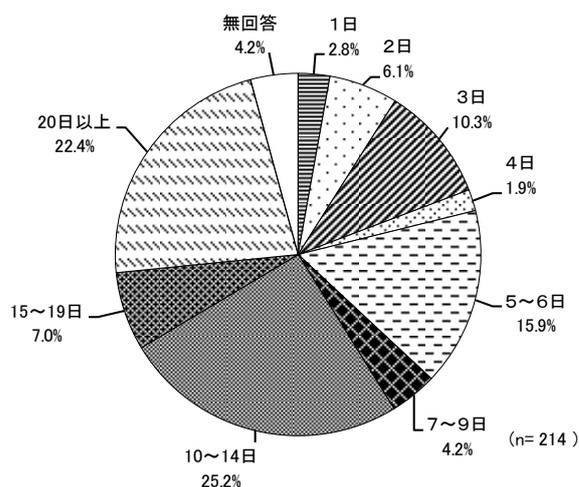


③利用したい年間日数

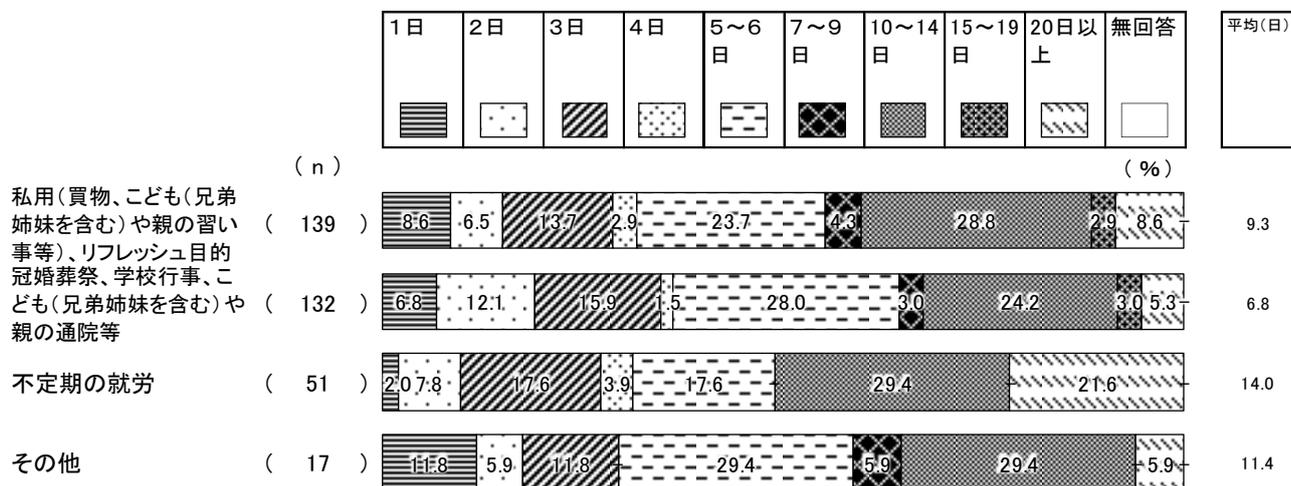
「10～14日」(25.2%)が最も多く、「20日以上」(22.4%)、「5～6日」(15.9%)と続きます。

利用したい年間日数(目的別)をみると“私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等、リフレッシュ目的)” “不定期の就労”は「10～14日」、 “冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等”は「5～6日」が最も多くなっています。

■利用したい年間日数(合計)



■利用したい年間日数(目的別)

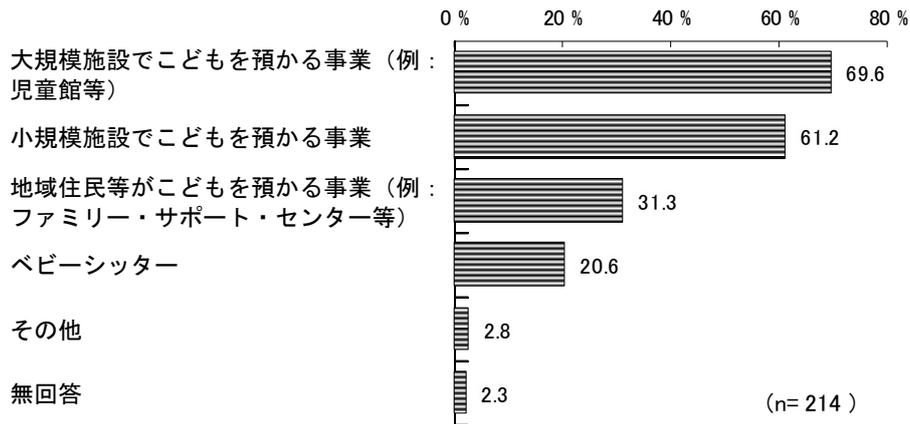


【問 17 で「1. 利用したい」に○をつけた方】

問 17-1 問 16 の目的でお子さんを預ける場合、下記のいずれの事業形態が望ましいと思われませんか。

「大規模施設でこどもを保育する事業（例：児童館等）」(69.6%)が最も多く、「小規模施設でこどもを預かる事業(61.2%)、「地域住民等がこどもを預かる事業（例：ファミリー・サポート・センター等）」(31.3%)と続きます。

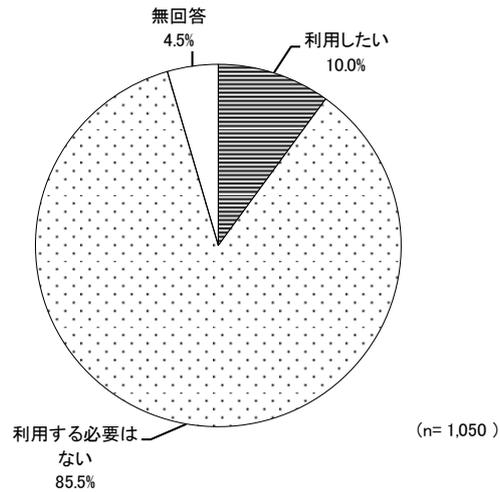
■望ましい事業形態（複数回答）



問 18 宛名のお子さんについて、1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の（兄弟姉妹含む）の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。短期入所生活援助事業（ショートステイ）（児童養護施設等で一定期間、こどもを保護する事業）の利用希望の有無について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

「利用したい」（10.0%）、「利用する必要はない」（85.5%）となっています。

■短期入所生活援助事業の利用希望

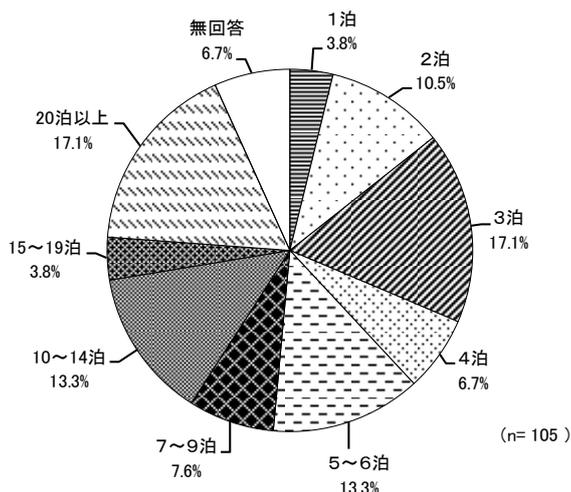


①利用したい年間日数

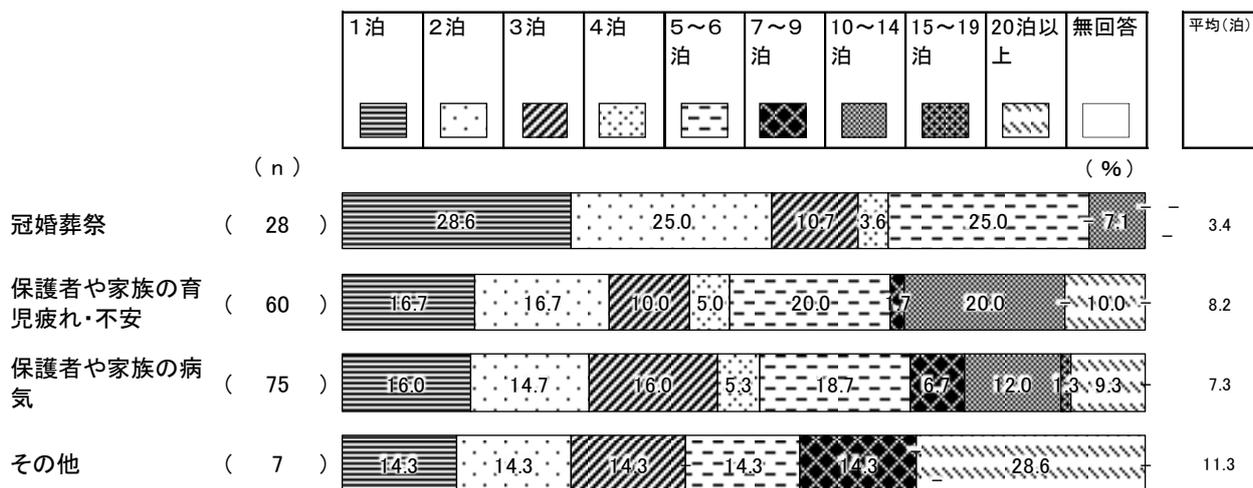
「3泊」「20泊以上」(ともに17.1%)が最も多く、「5～6泊」「10～14泊」(ともに13.3%)、「2泊」(10.5%)と続きます。

利用したい年間日数(目的別)をみると、「冠婚葬祭」は「1泊」、「保護者や家族の育児疲れ・不安」は「5～6泊」と「10～14泊」、「保護者や家族の病気」は「5～6泊」が最も多くなっています。

■利用したい年間日数(合計)



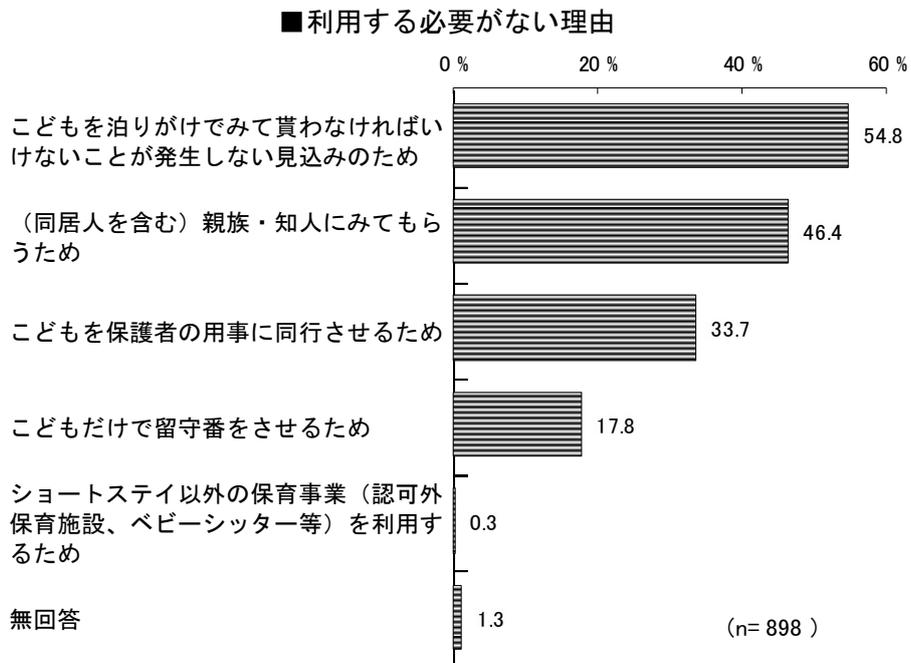
■利用したい年間日数(目的別)



【問 18 で「2. 利用する必要はない 」に○をつけた方】

問 18-1 利用する必要がない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「こどもを泊りがけでみて貰わなければいけないことが発生しない見込みのため」(54.8%)が最も多く、「(同居人を含む)親族・知人にみてもらうため」(46.4%)、「こどもを保護者の用事に同行させるため」(33.7%)と続きます。

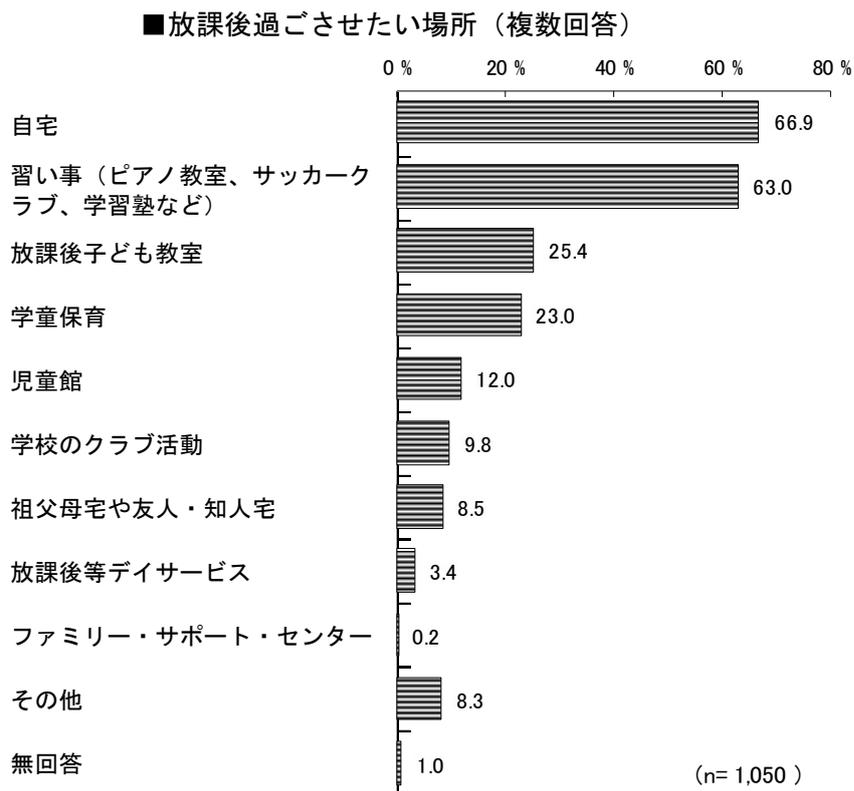


(8) 放課後の過ごし方について

問 19 宛名のお子さんについて、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。また、「5. 学童保育」の場合には、利用を希望する時間をご記入ください。

① 過ごさせたい場所

「自宅」(66.9%)が最も多く、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(63.0%)、「放課後子ども教室」(25.4%)、「学童保育」(23.0%)と続きます。



【地区別】

すべての地区で「自宅」「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	児童館	放課後子ども教室	学童保育	ファミリー・サポート・センター	放課後等デイサービス	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	学校のクラブ活動	その他	無回答
全体	1,050	66.9	8.5	12.0	25.4	23.0	0.2	3.4	63.0	9.8	8.3	1.0
大森地区	322	67.7	6.2	10.9	20.8	24.2	0.0	3.1	62.1	8.1	6.2	0.6
調布地区	301	68.4	8.3	8.0	26.9	17.6	0.7	3.7	64.8	11.0	7.6	1.0
蒲田地区	313	64.5	11.2	17.3	28.4	26.8	0.0	3.8	59.7	9.9	9.6	0.6

【低学年・高学年別】

“低学年”“高学年”ともに「自宅」が最も多くなっています。また、“低学年”は“高学年”と比べて「放課後子ども教室」「学童保育」が20ポイント以上多く、“高学年”は“低学年”と比べて「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が15ポイント以上多くなっています。

(単位:%)

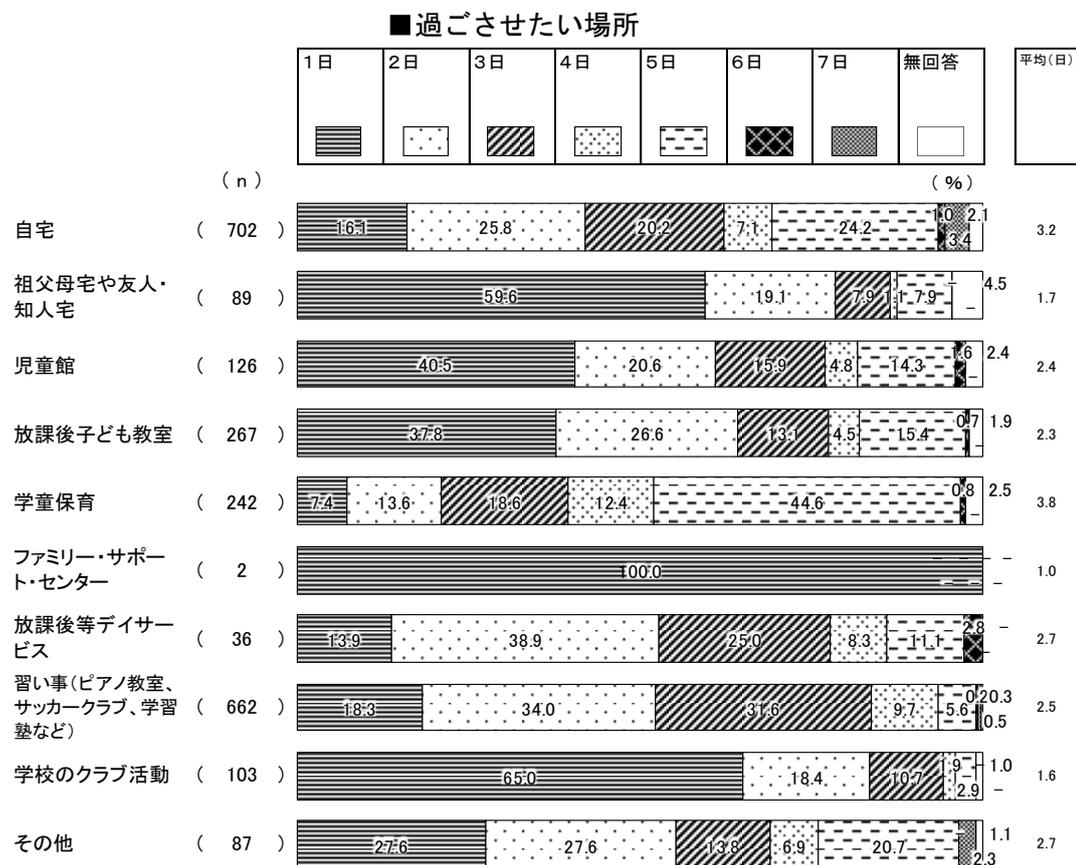
	有効回答者数	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	児童館	放課後子ども教室	学童保育	ファミリー・サポート・センター	放課後等デイサービス	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	学校のクラブ活動	その他	無回答
全体	1,050	66.9	8.5	12.0	25.4	23.0	0.2	3.4	63.0	9.8	8.3	1.0
低学年	581	57.5	8.8	14.1	36.0	34.9	0.0	3.6	56.3	5.7	6.2	1.0
高学年	452	79.0	8.0	9.3	12.4	7.1	0.4	3.3	71.9	14.6	11.3	1.1

②過ごさせたい場所別週当たり日数

過ごさせたい場所として多かったものをみると、「自宅」は「2日」(25.8%)が最も多く、「5日」(24.2%)、「3日」(20.2%)と続きます。

“習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)”は「2日」(34.0%)が最も多く、「3日」(31.6%)、「1日」(18.3%)と続きます。

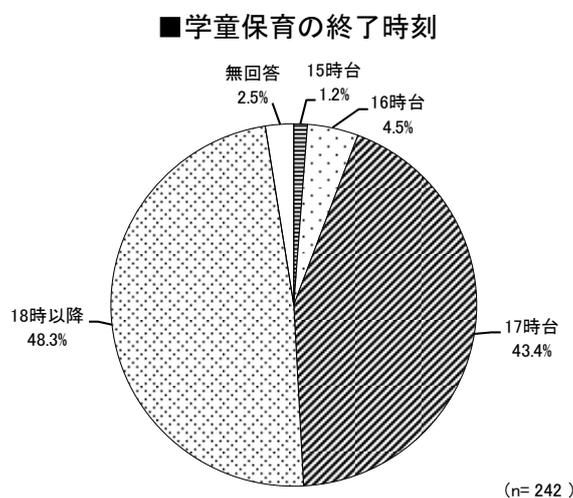
“放課後子ども教室”は「1日」(37.8%)が最も多く、「2日」(26.6%)、「5日」(15.4%)と続きます。



【「5. 学童保育」に○をつけた方】

①学童保育の終了時刻

「18時以降」(48.3%)が最も多く、「17時台」(43.4%)、「16時台」(4.5%)となっています。

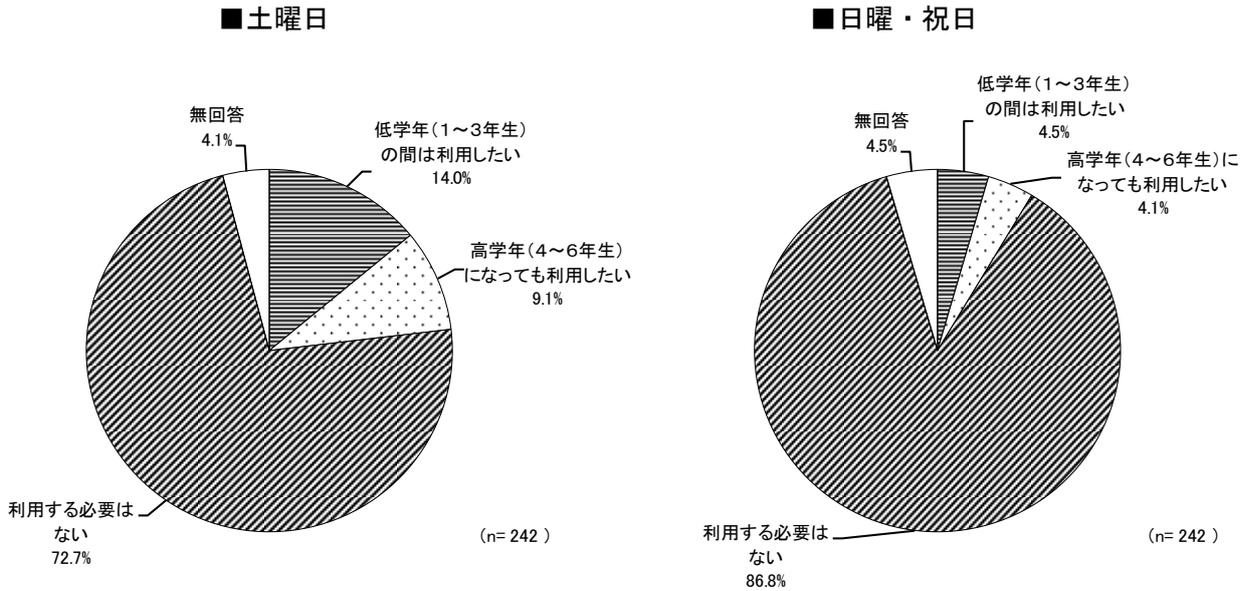


【問 19 で「5. 学童保育」に○をつけた方】

問 20 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、学童保育の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。

土曜日は、「利用する必要はない」(72.7%)が最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」(14.0%)、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」(9.1%)となっています。

日曜日・祝日も、「利用する必要はない」(86.8%)が最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」(4.5%)となっています。

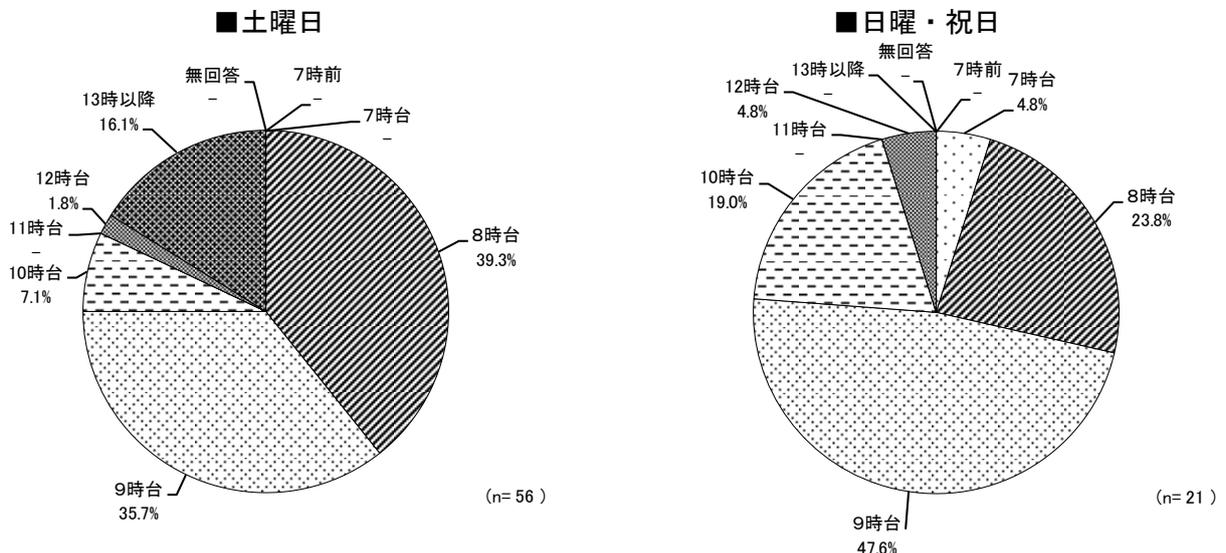


①利用したい時間帯

ア 開始時刻

土曜日は、「8時台」(39.3%)が最も多く、「9時台」(35.7%)、「13時以降」(16.1%)と続きます。

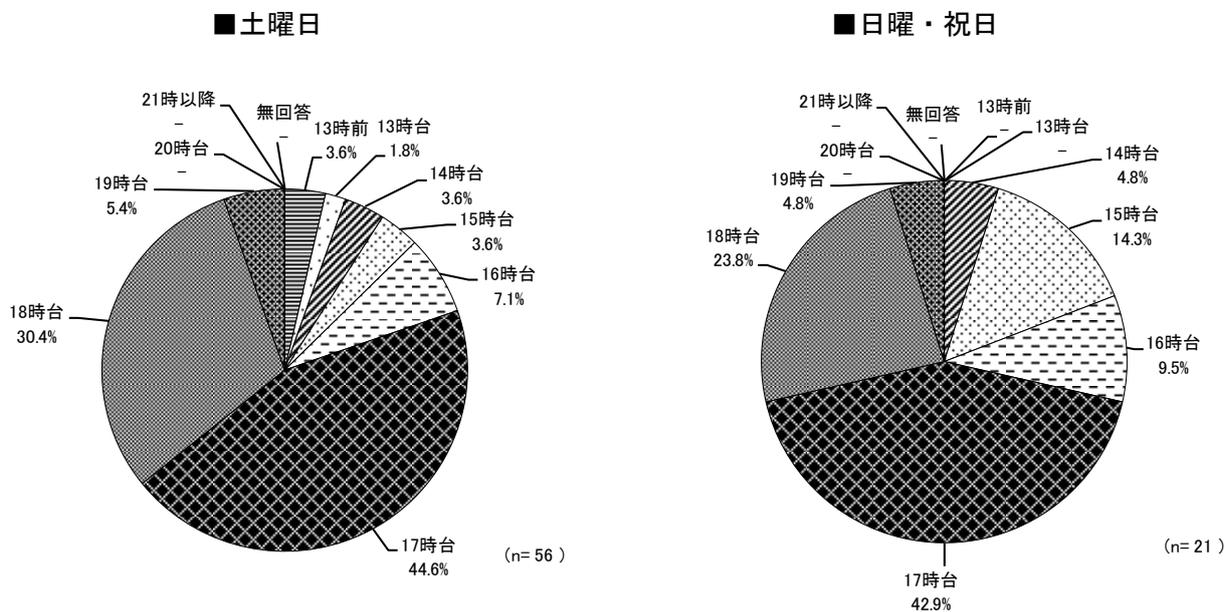
日曜日・祝日も、「9時台」(47.6%)が最も多く、「8時台」(23.8%)、「10時台」(19.0%)と続きます。



イ 終了時刻

土曜日は、「17 時台」(44.6%)が最も多く、「18 時台」(30.4%)、「16 時台」(7.1%)と続きます。

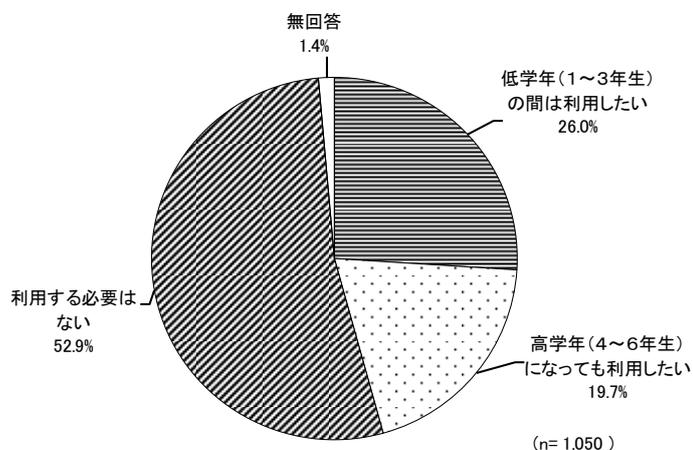
日曜・祝日は、「17 時台」(42.9%)が最も多く、「18 時台」(23.8%)、「15 時台」(14.3%)と続きます。



問 21 宛名のお子さんについて、お子さんの夏休み・冬休みなどの長期の休暇期間中の学童保育の利用希望はありますか。事業の利用には、一定の利用料がかかります。

「利用する必要はない」(52.9%)が最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」(26.0%)、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」(19.7%)となっています。

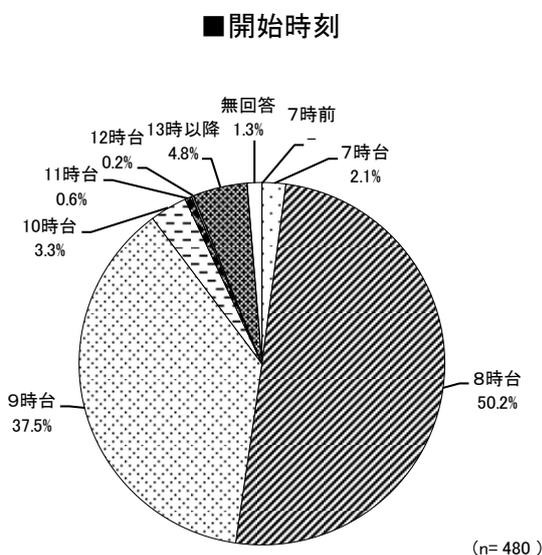
■夏休み・冬休みの学童保育利用希望



①利用したい時間帯

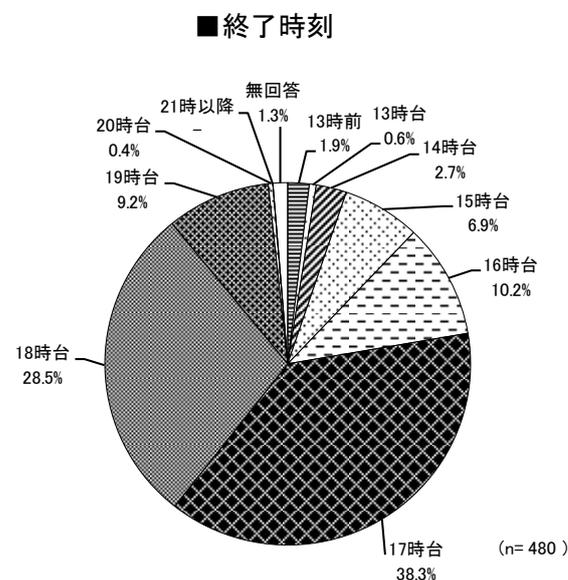
ア 開始時刻

「8時台」(50.2%)が最も多く、「9時台」(37.5%)、「13時以降」(4.8%)と続きます。



イ 終了時刻

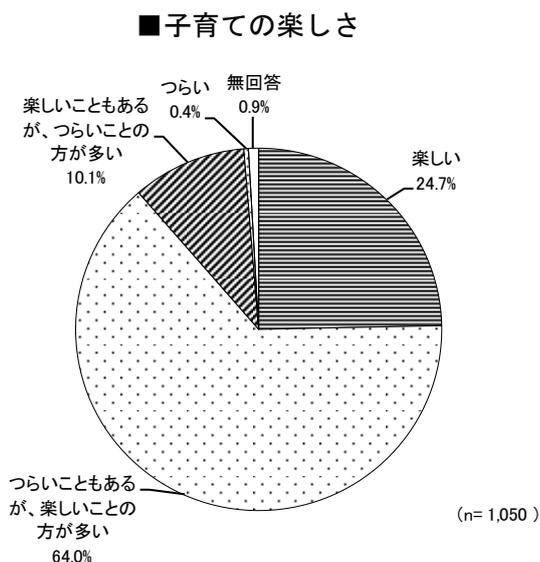
「17時台」(38.3%)が最も多く、「18時台」(28.5%)、「16時台」(10.2%)と続きます。



(9) 子育て全般について

問 22 あなたは、子育てを楽しんでいると感じていますか。

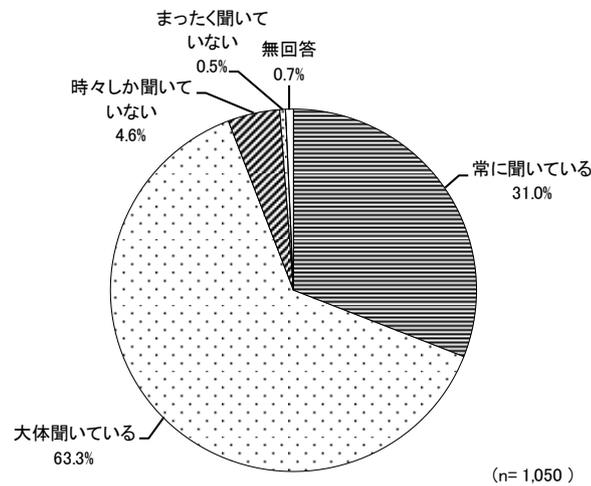
「つらいこともあるが、楽しいことの方が多い」(64.0%)が最も多く、「楽しい」(24.7%)、「楽しいこともあるが、つらいことの方が多い」(10.1%)、「つらい」(0.4%)となっています。



問 23 あなたは宛名のお子さんのことについて決めるときに、こども自身の意見や意思をどれくらい聞いていますか。

「大体聞いている」(63.3%)が最も多く、「常に聞いている」(31.0%)、「時々しか聞いていない」(4.6%)となっています。

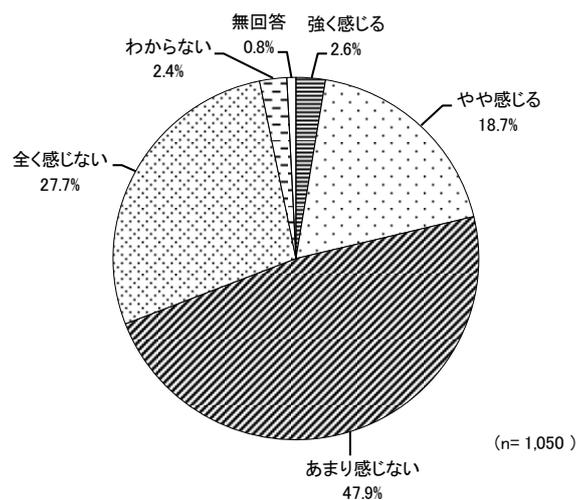
■ こどもの意見や意思を聞いているか



問 24 あなたは子育てに関して孤独や孤立感を感じていますか。

「あまり感じない」(47.9%)が最も多く、「全く感じない」(27.7%)、「やや感じる」(18.7%)と続きます。

■ 子育ての孤立感



【子育ての楽しさ別】

“楽しい”は「全く感じない」、「つらい」は「強く感じる」が最も多くなっています。

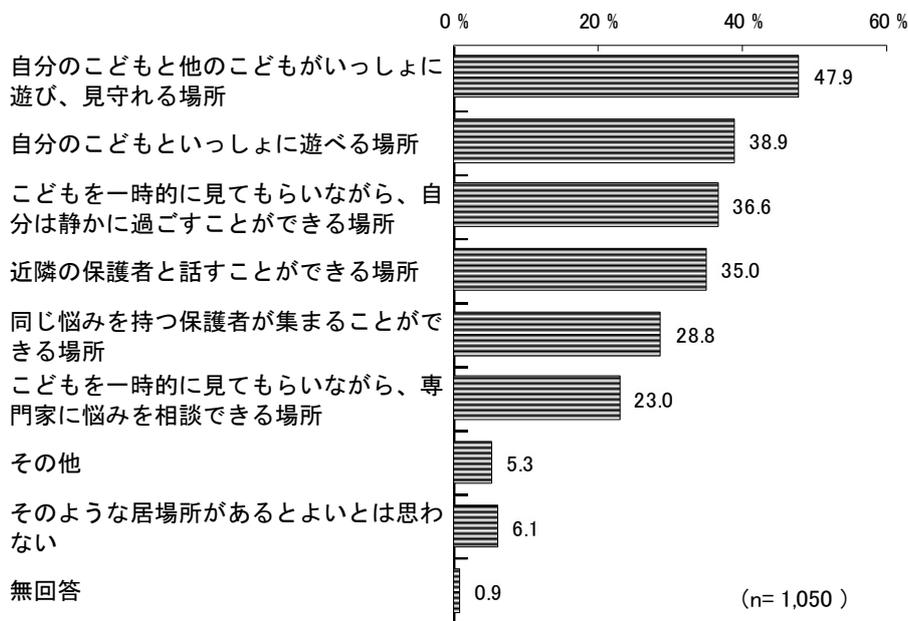
(単位:%)

	有効 回答者数	強く感じる	やや感じる	あまり 感じない	全く 感じない	わからない	無回答
全体	1,050	2.6	18.7	47.9	27.7	2.4	0.8
楽しい	259	1.5	3.5	37.5	56.0	1.5	0.0
つらいこともあるが、 楽しいことの方が多い	672	1.3	19.8	56.3	20.7	1.8	0.1
楽しいこともあるが、 つらいことの方が多い	106	11.3	50.0	25.5	4.7	8.5	0.0
つらい	4	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0

問 25 あなた自身の居場所として、どのような場所があるとよいと思いますか。

「自分の子どもと他の子どもがいっしょに遊び、見守れる場所」(47.9%)が最も多く、「自分の子どもといっしょに遊べる場所」(38.9%)、「子どもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所」(36.6%)と続きます。

■自身の居場所として望ましいもの（複数回答）



【子育ての孤立感別】

子育てに孤立感を“強く感じる”“やや感じる”は「子どもを一時的に見てもらいながら、自分は静かに過ごすことができる場所」、「あまり感じない」“全く感じない”は「自分の子どもと他の子どもがいっしょに遊び、見守れる場所」が最も多くなっています。

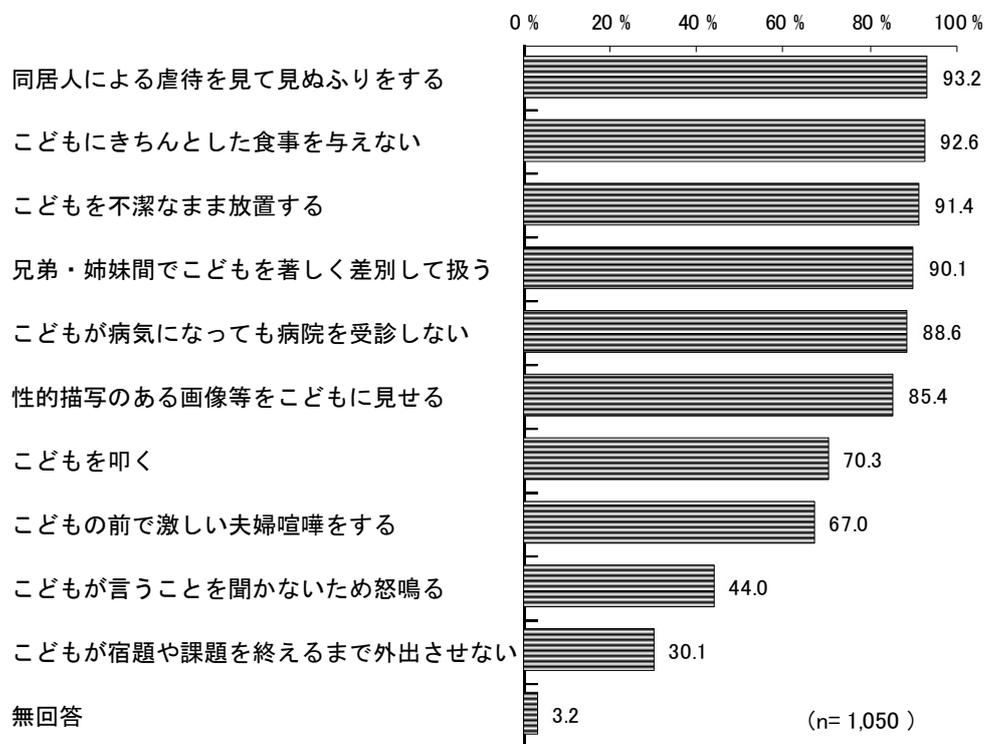
(単位: %)

	有効回答者数	近隣の保護者と話すことができる場所	同じ悩みを持つ保護者が集まることができる場所	専門家に悩みを相談できる場所	子どもを一時的に見てもらいながら、専門家に悩みを相談できる場所	自分を静かに過ごすことができる場所	自分の子どもといっしょに遊べる場所	自分の子どもと他の子どもがいっしょに遊び、見守れる場所	その他	そのような居場所があるとよいとは思わない	無回答
全体	1,050	35.0	28.8	23.0	36.6	38.9	47.9	5.3	6.1	0.9	
強く感じる	27	14.8	40.7	48.1	59.3	29.6	48.1	11.1	11.1	3.7	
やや感じる	196	32.7	34.7	31.1	43.4	27.6	37.2	4.1	7.1	0.5	
あまり感じない	503	37.2	30.0	23.7	38.8	39.2	50.3	4.0	4.4	0.0	
全く感じない	291	36.8	22.3	15.5	26.8	47.8	53.6	7.9	7.6	0.0	

問 26 以下について、あなたは児童虐待だと思いませんか。

「同居人による虐待を見て見ぬふりをする」(93.2%)が最も多く、「こどもにきちんとした食事を与えない」(92.6%)、「こどもを不潔なまま放置する」(91.4%)と続きます。

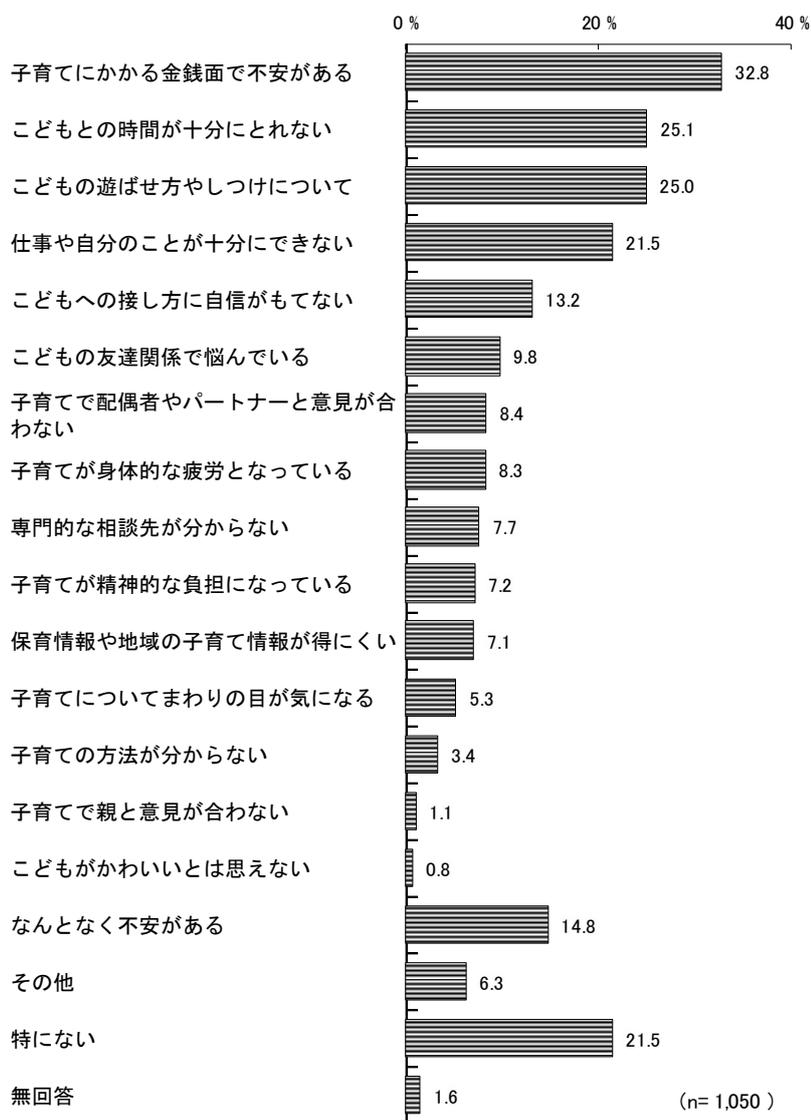
■ 児童虐待だと思うこと（複数回答）



問 27 宛名のお子さんの子育てに関して心配なことや不安なこと、悩んでいることは何ですか。

「子育てにかかる金銭面で不安がある」(32.8%)が最も多く、「こどもとの時間が十分にとれない」(25.1%)、「こどもの遊ばせ方やしつけについて」(25.0%)、「仕事や自分のことが十分にできない」(21.5%)、「こどもへの接し方に自信がもてない」(13.2%)と続きます。

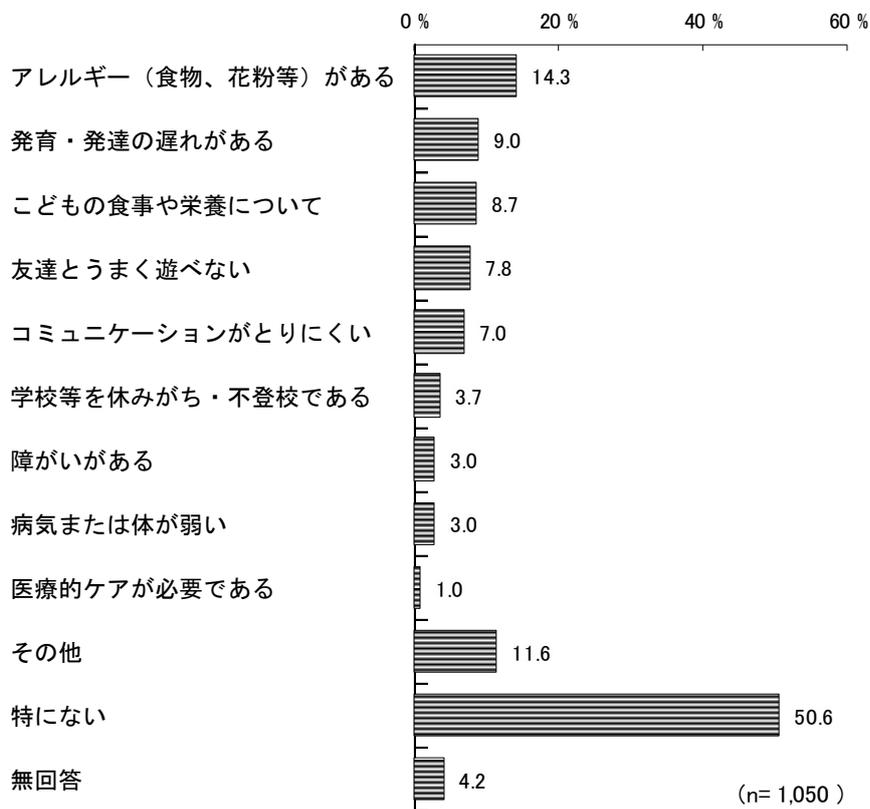
■子育てに関する心配、不安、悩み（複数回答）



問 28 お子さん自身のことについて、気になることや悩んでいることはありますか。

「アレルギー（食物、花粉等）がある」（14.3%）が最も多く、「発育・発達の遅れがある」（9.0%）、
「こどもの食事や栄養について」（8.7%）、「友達とうまく遊べない」（7.8%）、「コミュニケーションがとりにくい」（7.0%）と続きます。

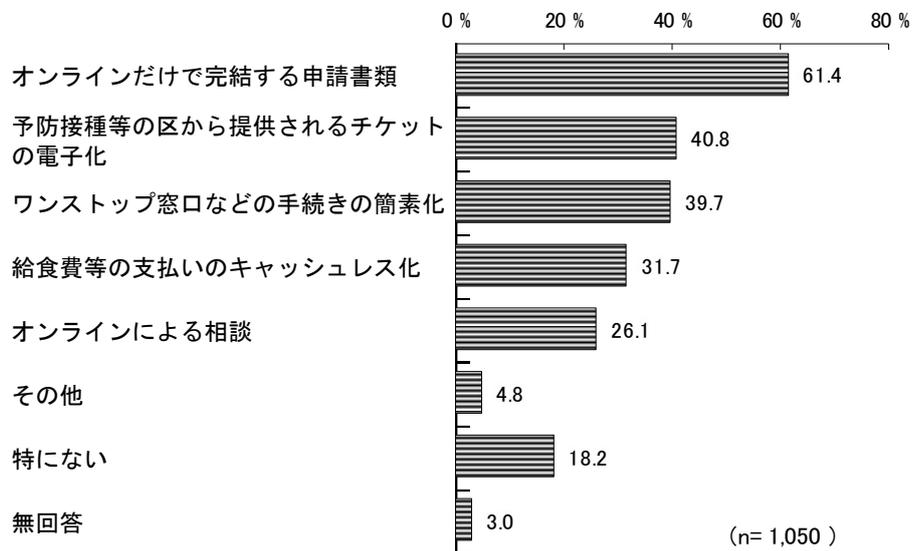
■こどもについて気になることや悩み（複数回答）



問 29 子育てに関する行政手続きとして、あるとよいと思うものはありますか。

「オンラインだけで完結する申請書類」(61.4%)が最も多く、「予防接種等の区から提供されるチケットの電子化」(40.8%)、「ワンストップ窓口などの手続きの簡素化」(39.7%)と続きます。

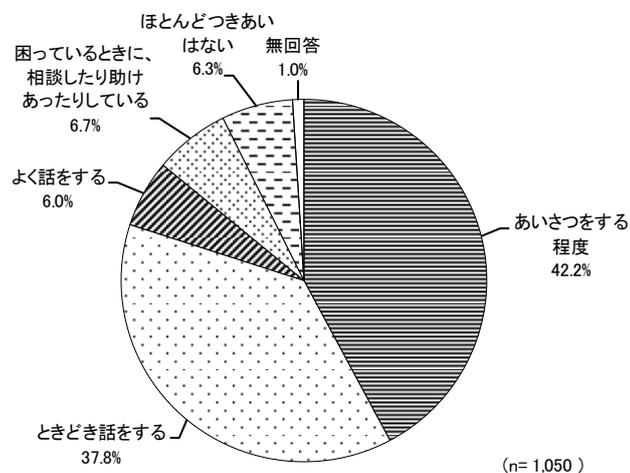
■あるとよい行政手続き（複数回答）



問 30 あなたの近所とのおつきあいの程度について、当てはまる番号1つに○をつけてください。

「あいさつをする程度」(42.2%)が最も多く、「ときどき話をする」(37.8%)、「困っているときに、相談したり助けあったりしている」(6.7%)と続きます。

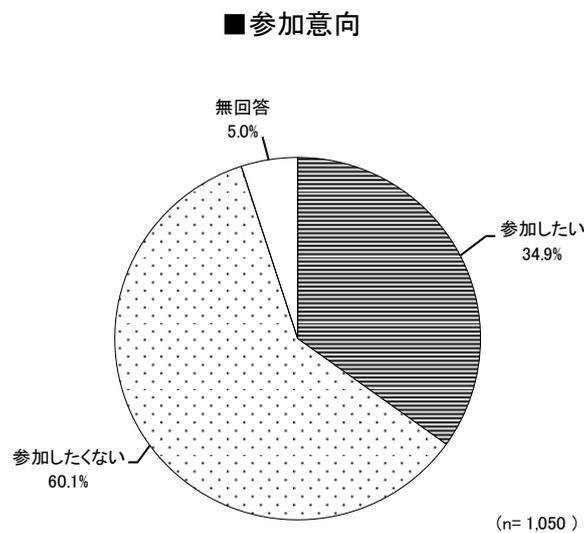
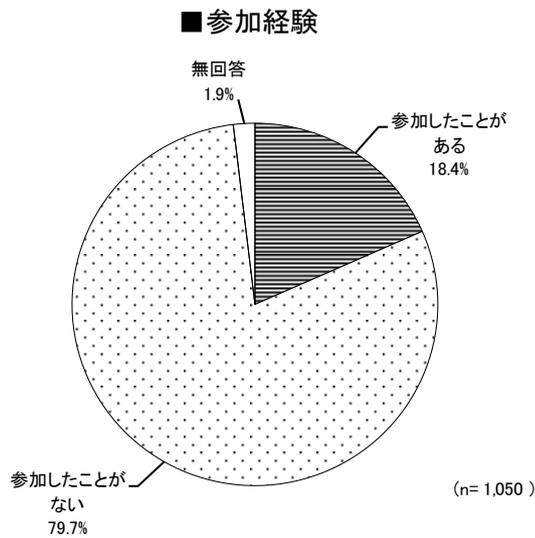
■近所付き合いの程度



問 31 あなたは、現在、地域での子育て活動に支援者（支援する側）として参加していますか。また、今後、参加したいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

参加経験は、「参加したことがない」（79.7%）が最も多く、「参加したことがある」（18.4%）となっています。

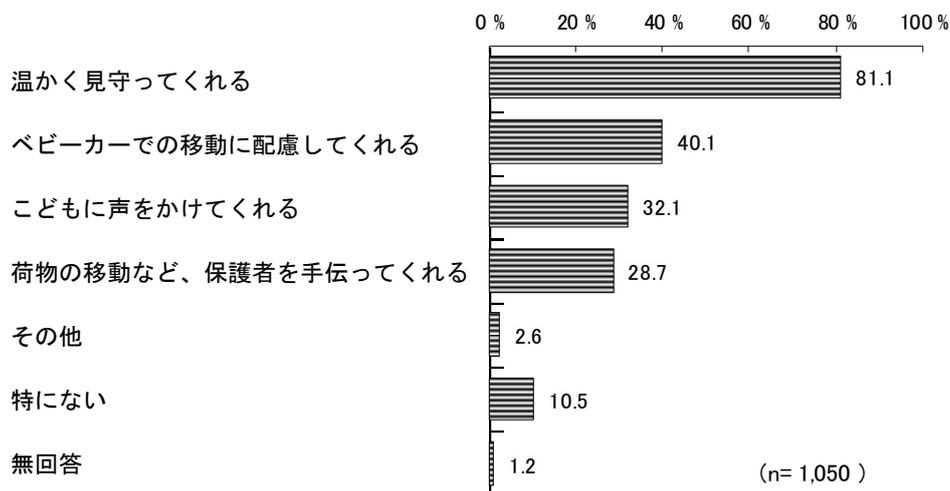
参加意向は、「参加したくない」（60.1%）が最も多く、「参加したい」（34.9%）となっています。



問 32 お子さんと外出する時に、周囲や社会にされると嬉しいことについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「温かく見守ってくれる」(81.1%)が最も多く、「ベビーカーでの移動に配慮してくれる」(40.1%)、「こどもに声をかけてくれる」(32.1%)と続きます。

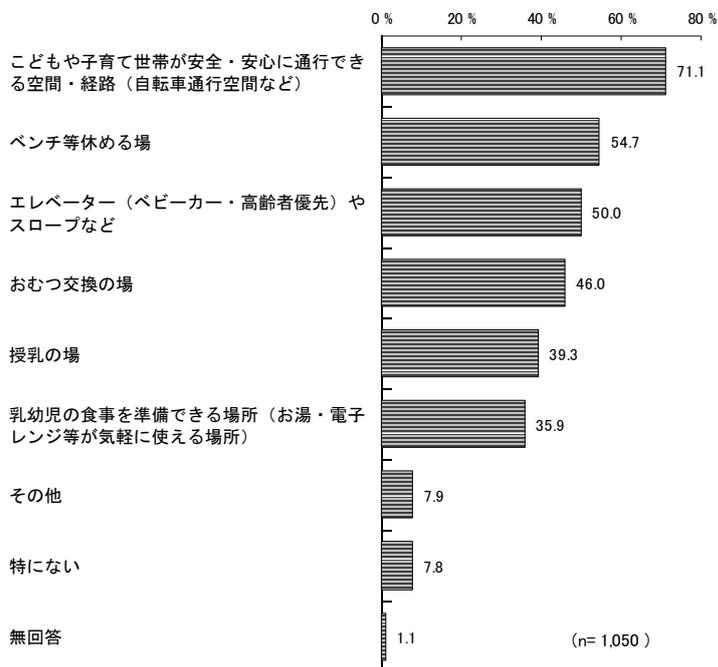
■こどもとの外出時に周囲にされると嬉しいこと（複数回答）



問 33 お子さんと外出する時にあるとよいと思うものについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「こどもや子育て世帯が安全・安心に通行できる空間・経路（自転車通行空間など）」(71.1%)が最も多く、「ベンチ等休める場」(54.7%)、「エレベーター（ベビーカー・高齢者優先）やスロープなど」(50.0%)と続きます。

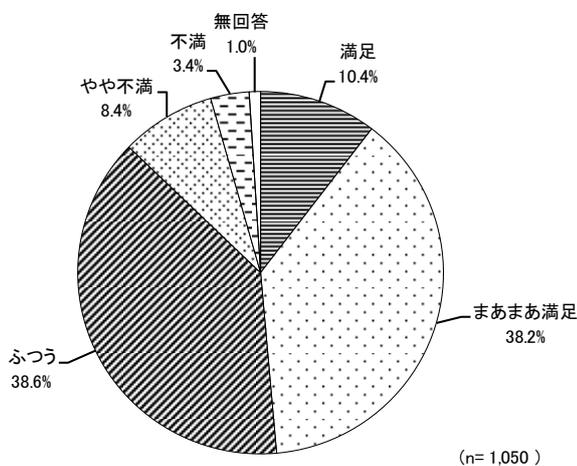
■こどもとの外出時にあるとよいと思うもの（複数回答）



問 34 大田区における子育ての環境や支援への満足度はいかがですか。

「ふつう」(38.6%)が最も多く、「まあまあ満足」(38.2%)、「満足」(10.4%)と続きます。

■大田区での子育ての満足度



【経年比較】

前回調査とほぼ同じ割合となっています。

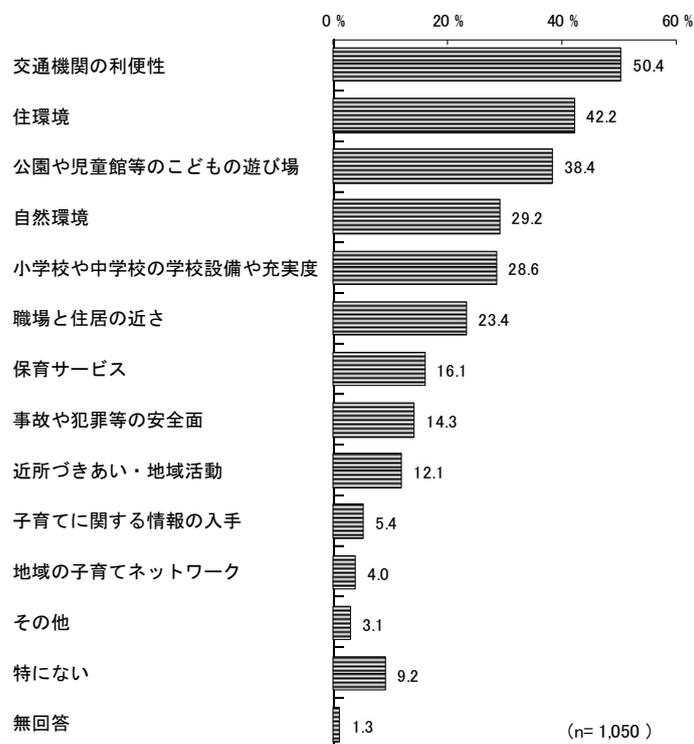
(単位: %)

	有効回答者数	満足	まあまあ満足	ふつう	やや不満	不満	無回答
今回(R5)	1,050	10.4	38.2	38.8	8.4	3.4	1.0
前回(H30)	1,398	7.9	38.6	40.2	8.2	2.4	2.7

問 35 大田区における子育ての環境や支援について、満足している点は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「交通機関の利便性」(50.4%)が最も多く、「住環境」(42.2%)、「公園や児童館等のこどもの遊び場」(38.4%)、「自然環境」(29.2%)、「小学校や中学校の学校設備や充実度」(28.6%)と続きます。

■大田区での子育てで満足している点（複数回答）



【地区別】

“大森地区”“蒲田地区”は「交通の利便性」、 “調布地区”は「住環境」が最も多くなっています。

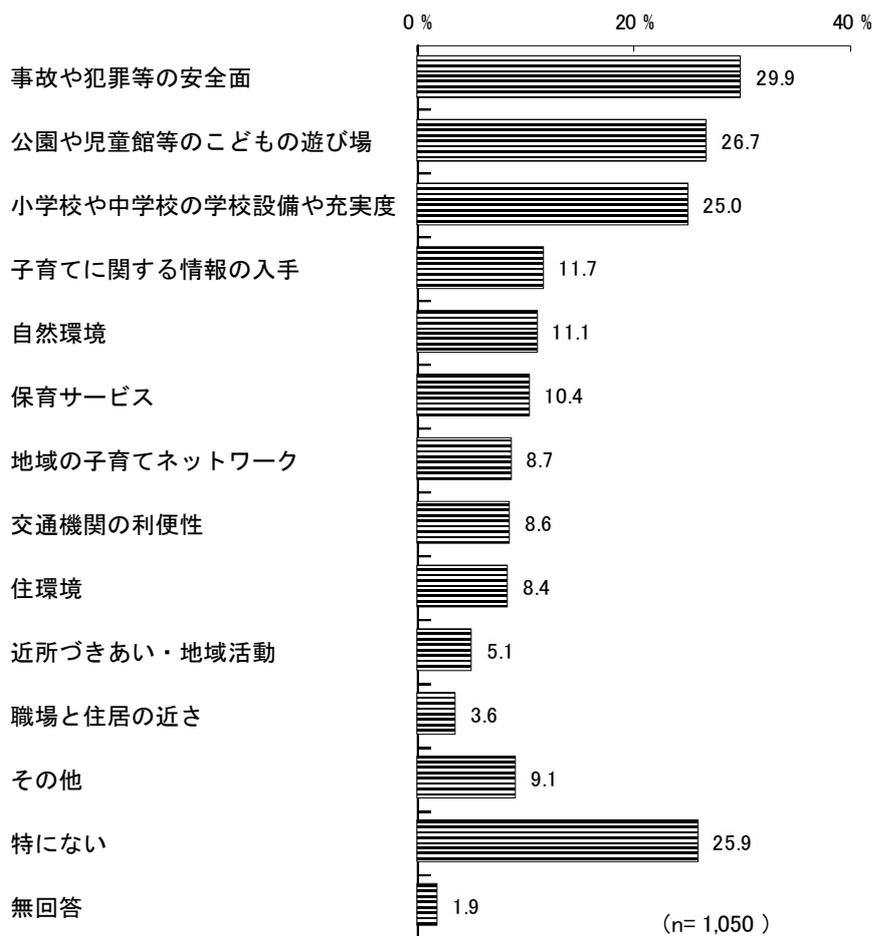
(単位:%)

	有効回答者数	住環境	自然環境	交通機関の利便性	保育サービス	小学校や中学校の学校設備や充実度	職場と住居の近さ	公園や児童館等のこどもの遊び場	近所づきあい・地域活動	地域の子育てネットワーク	子育てに関する情報の入手	事故や犯罪等の安全面	その他	特にない	無回答
全体	1,050	42.2	29.2	50.4	16.1	28.6	23.4	38.4	12.1	4.0	5.4	14.3	3.1	9.2	1.3
大森地区	322	37.9	27.0	45.0	11.8	24.8	26.4	34.8	11.8	2.5	4.3	14.9	4.0	9.9	2.2
調布地区	301	56.5	38.2	52.2	15.9	32.2	23.6	33.6	12.3	4.3	5.0	22.3	2.3	6.3	1.0
蒲田地区	313	34.8	24.6	52.4	21.7	29.1	21.4	43.1	11.2	4.5	6.1	7.3	3.2	11.5	0.3

問 36 大田区における子育ての環境や支援について、不満な点は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「事故や犯罪等の安全面」(29.9%)が最も多く、「公園や児童館等のこどもの遊び場」(26.7%)、「小学校や中学校の学校設備や充実度」(25.0%)、「子育てに関する情報の入手」(11.7%)、「自然環境」(11.1%)と続きます。

■大田区での子育てで不満な点（複数回答）



【地区別】

“大森地区”は「公園や児童館等のこどもの遊び場」、
 “調布地区”は「特にない」、
 “蒲田地区”は「事故や犯罪等の安全面」が最も多くなっています。

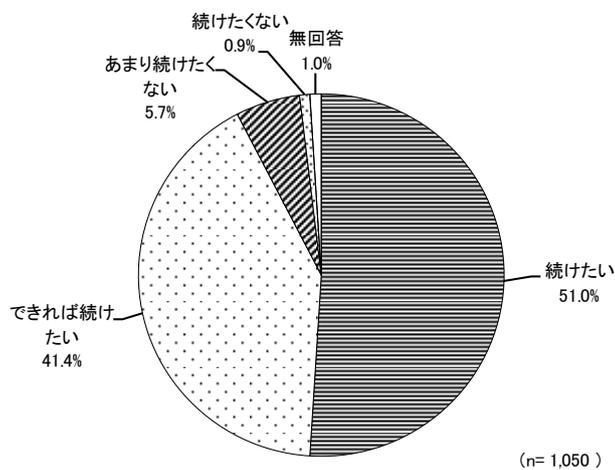
(単位:%)

	有効回答者数	住環境	自然環境	交通機関の利便性	保育サービス	小学校や中学校の学校設備や充実度	職場と住居の近さ	公園や児童館等のこどもの遊び場	近所づきあい・地域活動	地域の子育てネットワーク	子育てに関する情報の入手	事故や犯罪等の安全面	その他	特にない	無回答
全体	1,050	8.4	11.1	8.6	10.4	25.0	3.6	26.7	5.1	8.7	11.7	29.9	9.1	25.9	1.9
大森地区	322	9.6	11.2	10.6	11.8	28.9	3.4	29.8	4.3	7.8	13.0	28.3	11.2	22.0	2.5
調布地区	301	4.7	8.3	7.6	11.6	21.6	2.7	28.6	3.3	9.6	11.0	20.9	9.3	31.9	1.0
蒲田地区	313	9.9	13.7	7.3	9.3	25.2	4.2	21.4	7.3	7.3	11.2	39.6	8.6	24.9	1.3

問 37 あなたは、今後も大田区で子育てを続けたいと思いますか。

「続けたい」(51.0%)が最も多く、「できれば続けたい」(41.4%)、「あまり続けたくない」(5.7%)となっています。

■今後の大田区での子育て意向



【子育ての孤立感別】

孤立感を強く感じるほど、大田区での子育てを続けたくないと思う割合が多くなる傾向があります。

(単位: %)

	有効回答者数	続けたい	できれば 続けたい	あまり 続けたくない	続けたくない	無回答
全体	1,050	51.0	41.4	5.7	0.9	1.0
強く感じる	27	33.3	44.4	14.8	7.4	0.0
やや感じる	196	32.7	55.6	9.7	1.0	1.0
あまり感じない	503	52.5	41.4	5.0	0.8	0.4
全く感じない	291	65.3	31.3	3.1	0.0	0.3
わからない	25	28.0	60.0	8.0	4.0	0.0

【子育て環境・支援への満足度別】

“満足” “まあまあ満足” は「続けたい」、「ふつう」 “やや不満” “不満” は「できれば続けたい」が最も多くなっています。

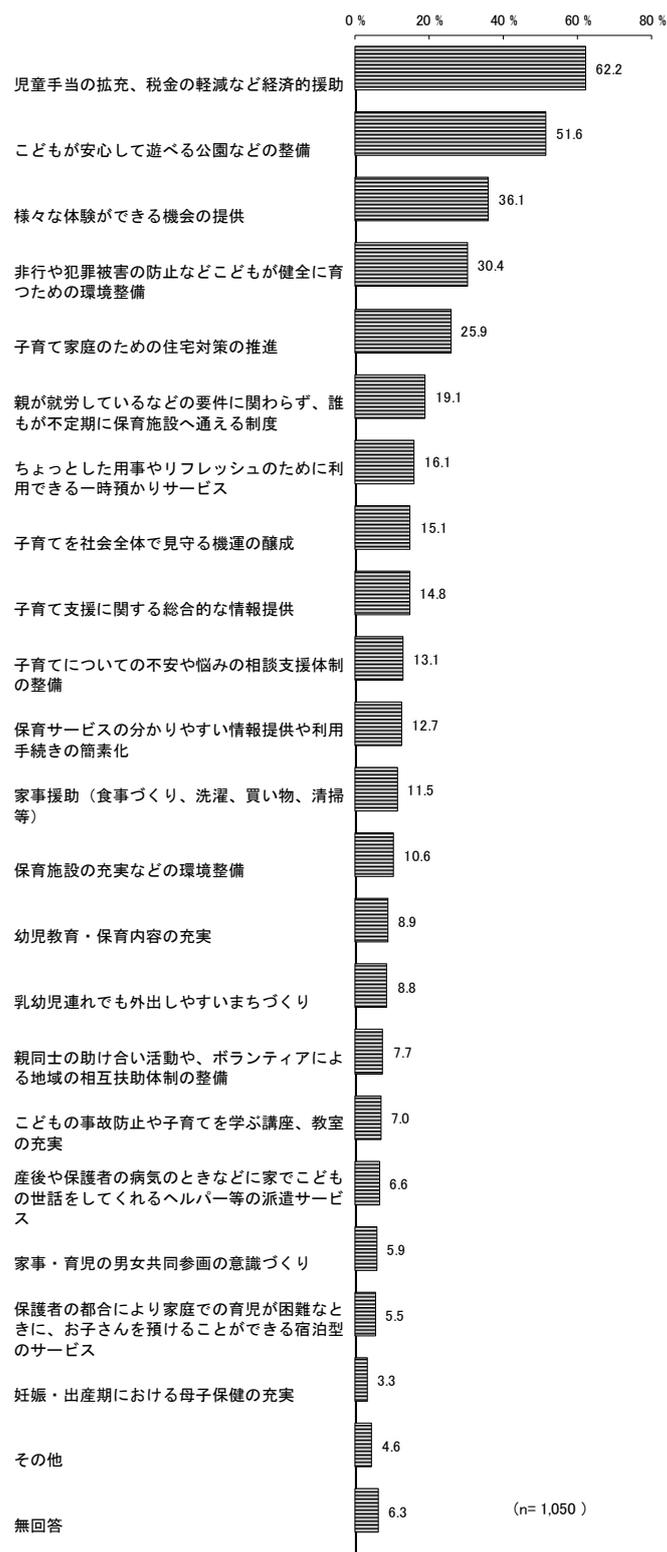
(単位:%)

	有効回答者数	続けたい	できれば 続けたい	あまり 続けたくない	続けたくない	無回答
全体	1,050	51.0	41.4	5.7	0.9	1.0
満足	109	84.4	13.8	0.9	0.0	0.9
まあまあ満足	401	62.6	35.9	1.0	0.5	0.0
ふつう	405	39.5	53.6	5.7	0.5	0.7
やや不満	88	27.3	50.0	21.6	1.1	0.0
不満	36	19.4	36.1	33.3	11.1	0.0

問 38 宛名のお子さんの子育てにあたって、今、あなたが望むサービス・施策は次の項目のうちどれですか。

「児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助」(62.2%)が最も多く、「こどもが安心して遊べる公園などの整備」(51.6%)、「様々な体験ができる機会の提供」(36.1%)、「非行や犯罪被害の防止などこどもが健全に育つための環境整備」(30.4%)、「子育て家庭のための住宅対策の推進」(25.9%)と続きます。

■子育てにあたって望むサービス・施策（複数回答）

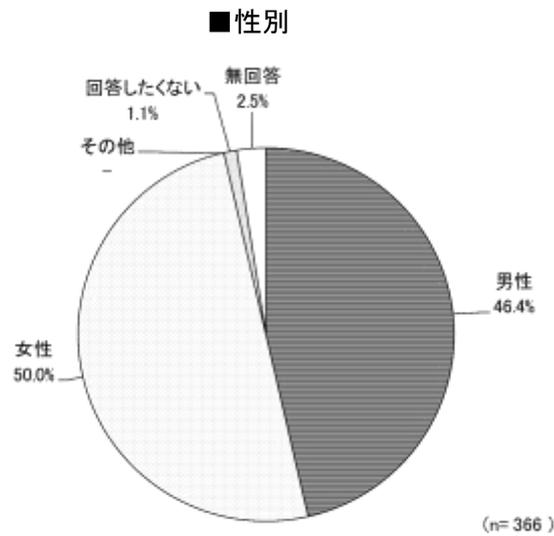


3 小学生

(1) あなたとご家族の状況について

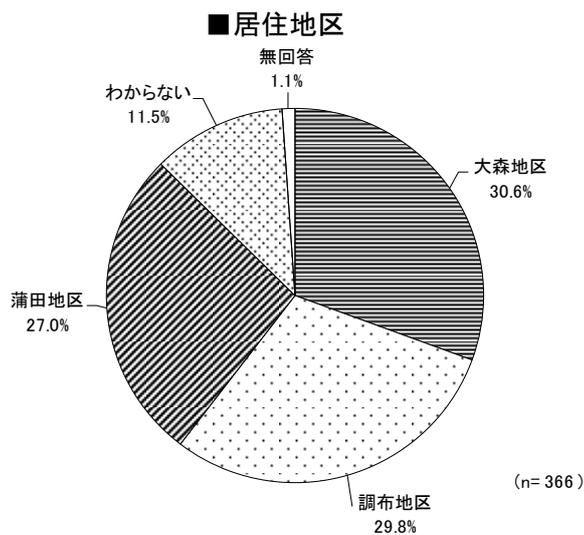
問1 あなたの性別をお答えください。

「男性」(46.4%)、「女性」(50.0%)、「回答したくない」(1.1%)となっています。



問2 あなたのお住まいの地域はどこですか。

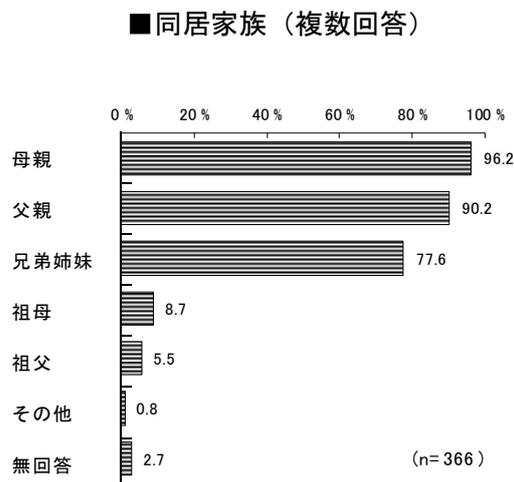
「大森地区」(30.6%)、「調布地区」(29.8%)、「蒲田地区」(27.0%)となっています。



問3 あなたは誰と一緒に住んでいますか。(いくつでも○)
また、あなたを含めて、何人で住んでいますか。

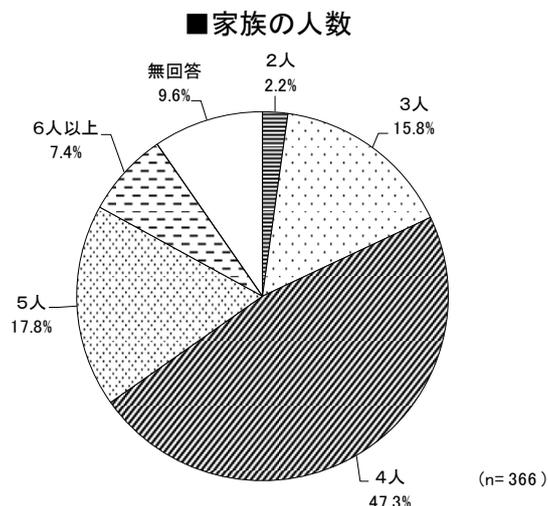
①同居家族

「母親」(96.2%)が最も多く、「父親」(90.2%)、「兄弟姉妹」(77.6%)、「祖母」(8.7%)、「祖父」(5.5%)と続きます。



②家族の人数

「4人」(47.3%)が最も多く、「5人」(17.8%)、「3人」(15.8%)、「6人以上」(7.4%)、「2人」(2.2%)と続きます。

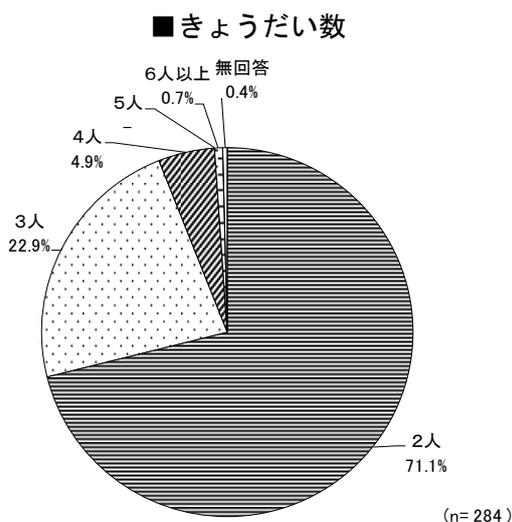


【問3で「3. 兄弟姉妹」に○をつけた方】

問3-1 あなたは何人きょうだいの何番目ですか。

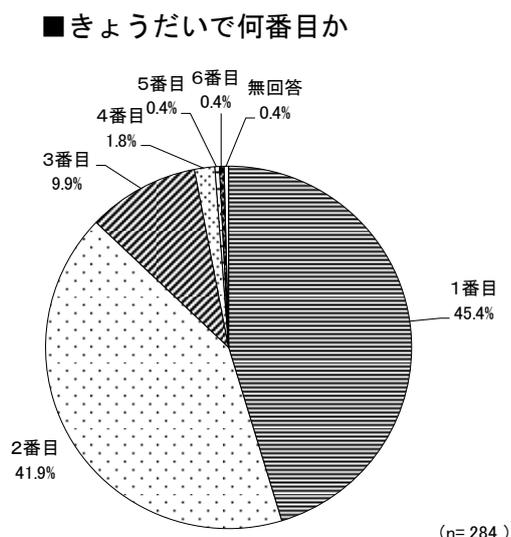
①きょうだい数

「2人」(71.1%)が最も多く、「3人」(22.9%)、「4人」(4.9%)と続きます。



②自身がきょうだいで何番目か

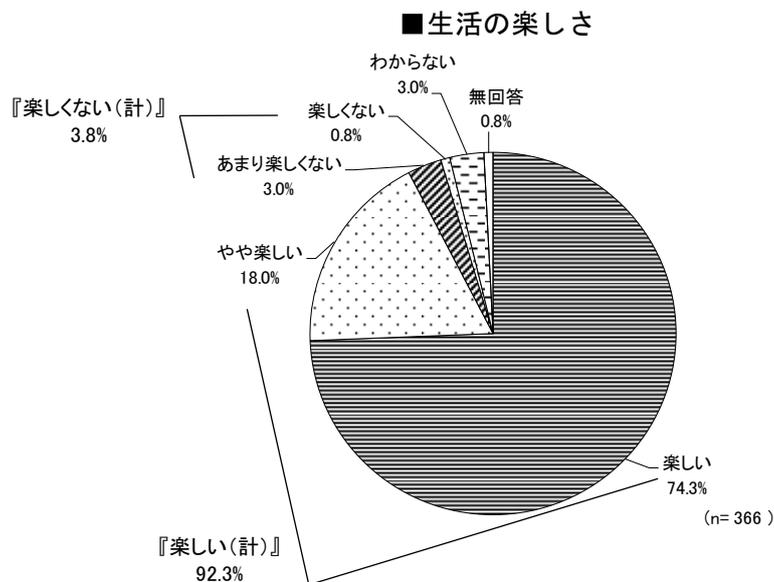
「1番目」(45.4%)が最も多く、「2番目」(41.9%)、「3番目」(9.9%)と続きます。



(2) あなた自身のこと、家族との関係について

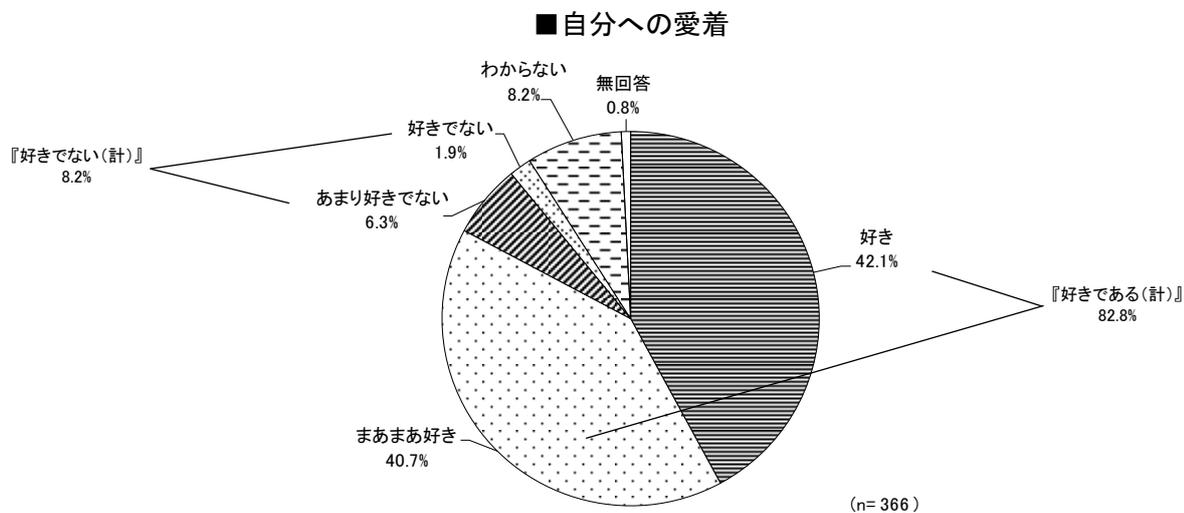
問4 毎日の生活は楽しいですか。

「楽しい」(74.3%)が最も多く、これに「やや楽しい」(18.0%)を合わせた『楽しい(計)』(92.3%)は約9割となっています。一方、「あまり楽しくない」(3.0%)、「楽しくない」(0.8%)、を合わせた「楽しくない(計)」(3.8%)、「わからない」(3.0%)は1割未満となっています。



問5 あなたは自分のことが好きですか。

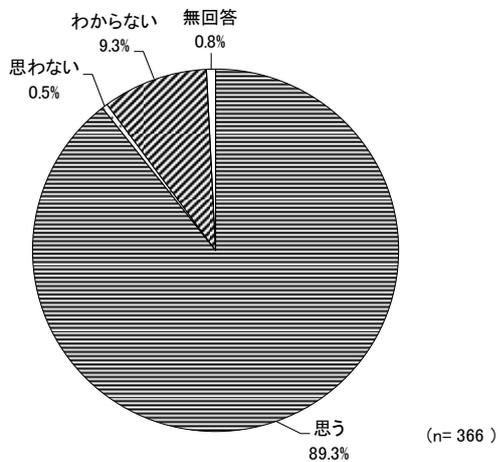
「好き」(42.1%)が最も多く、これに「まあまあ好き」(40.7%)、を合わせた『好きである(計)』(82.8%)は8割半ばとなっています。一方「あまり好きでない」(6.3%)と「好きでない」(1.9%)を合わせた『好きでない(計)』(8.2%)は1割未満となっています。また「わからない」(8.2%)は1割未満となっています。



問6 あなたは家族から大切にされていると思いますか。

「思う」(89.3%)が最も多く、「思わない」(0.5%)、「わからない」(9.3%)となっています。

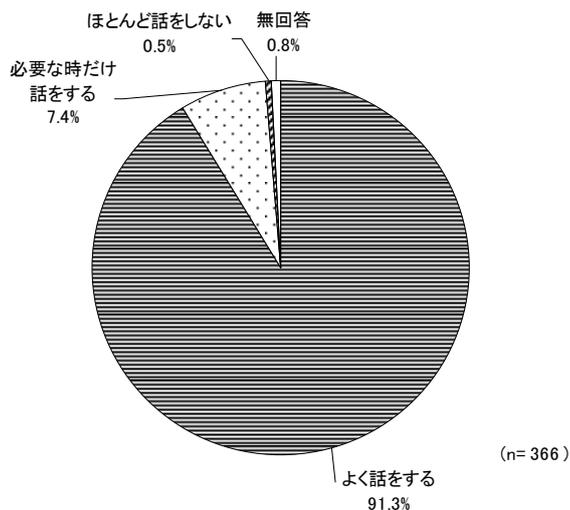
■家族から大切にされていると思うか



問7 あなたは、保護者（お母さん、お父さんなど）とよく話をしますか。

「よく話をする」(91.3%)が最も多く、「必要な時だけ話をする」(7.4%)、「ほとんど話をしない」(0.5%)となっています。

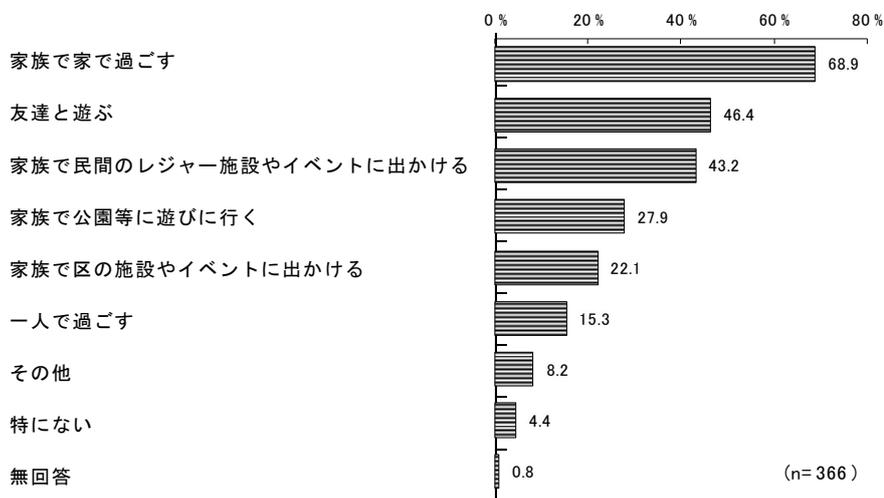
■保護者と話す機会



問 8 保護者が休日の時に、どのように過ごしたいと思いますか。

「家族で家で過ごす」(68.9%)が最も多く、「友達と遊ぶ」(46.4%)、「家族で民間のレジャー施設やイベントに出かける」(43.2%)と続きます。

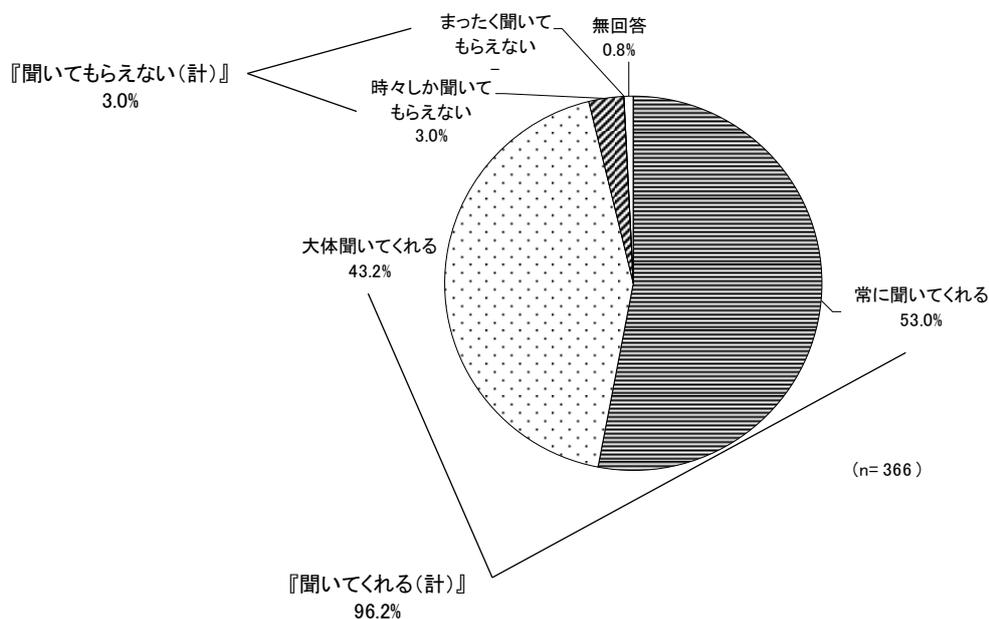
■保護者の休日にしたいこと（複数回答）



問 9 あなたの家では、あなたのしたいことや家族での過ごし方などを決める時に、保護者（お母さん、お父さんなど）があなたの意見を聞いてくれますか。

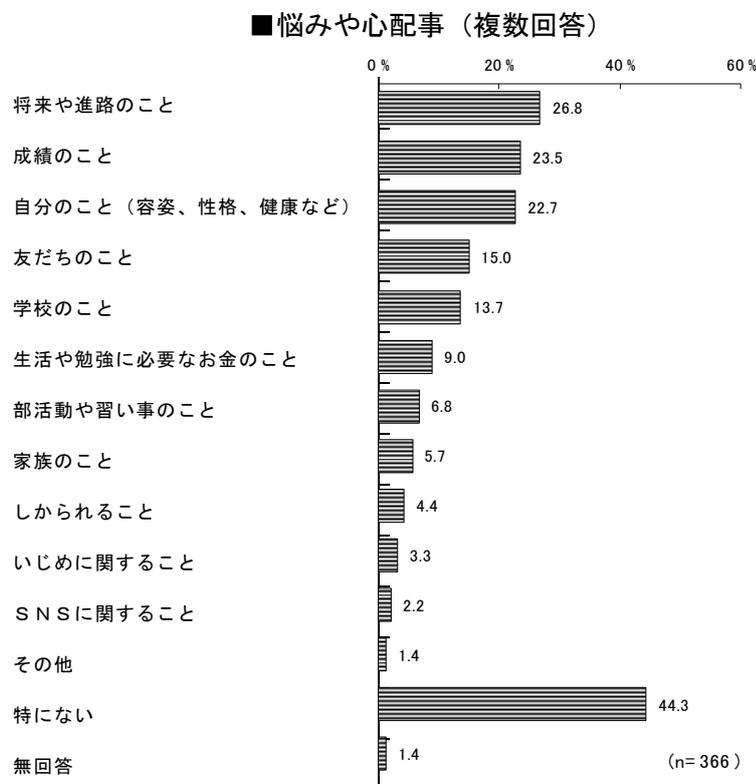
「常に聞いてくれる」(53.0%)が最も高く、これに「大体聞いてくれる」(43.2%)を合わせた「聞いてくれる(計)」(96.2%)は9割半ばとなっています。一方、「時々しか聞いてもらえない」(3.0%)と「まったく聞いてもらえない」(0.0%)を合わせた「聞いてもらえない(計)」(3.0%)は1割未満となっています。

■保護者が自分の意見を聞いてくれるか



問10 あなたの悩みや心配事はどれですか。

「将来や進路のこと」(26.8%)が最も多く、「成績のこと」(23.5%)、「自分のこと(容姿、性格、健康など)」(22.7%)と続きます。一方、「特にない」(44.3%)は4割半ばとなっています。



【性別】

“男性”“女性”ともに「特にない」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	性格、健康など(自分のこと(容姿、)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと
全体	366	22.7	23.5	26.8	15.0	2.2	13.7	6.8
男性	170	17.1	22.9	26.5	10.0	1.8	12.9	7.6
女性	183	26.8	24.0	26.2	18.6	2.2	15.3	5.5
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	4	75.0	25.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0

	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
全体	5.7	9.0	3.3	4.4	1.4	44.3	1.4
男性	7.1	8.8	3.5	6.5	1.2	48.8	0.0
女性	4.4	9.8	3.3	2.7	1.6	42.1	1.6
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【自分のことが好きか別】

“好き” “まあまあ好き” “わからない” は「特にない」が最も多くなっています。“あまり好きでない” “好きでない” は、「自分のこと（容姿、性格、健康など）が多くなっています。

(単位:%)

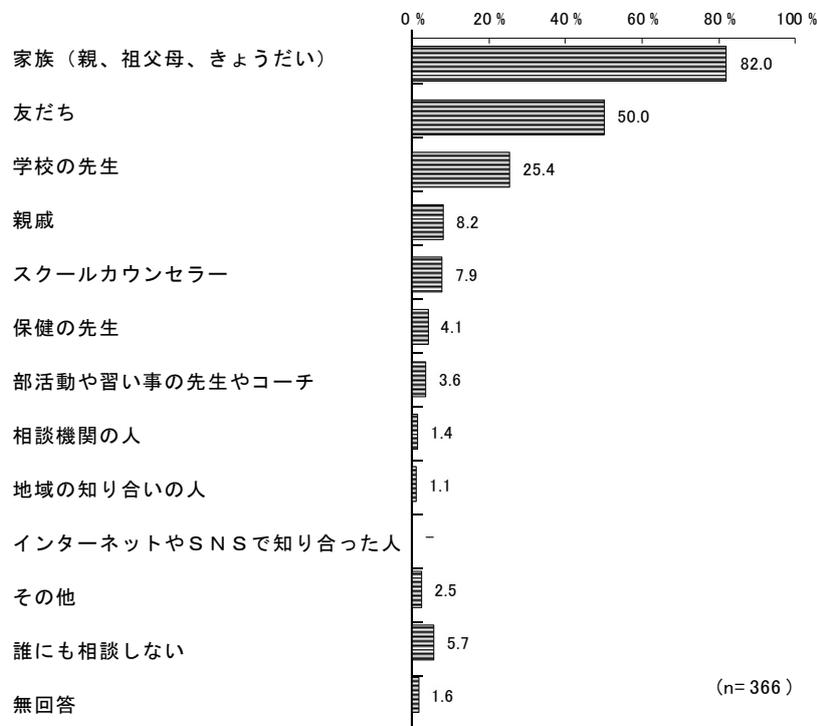
	有効回答者数	自分のこと(容姿、性格、健康など)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと
全体	366	22.7	23.5	26.8	15.0	2.2	13.7	6.8
好き	154	13.6	15.6	19.5	10.4	1.3	7.1	4.5
まあまあ好き	149	25.5	29.5	33.6	17.4	3.4	16.8	10.1
あまり好きでない	23	47.8	30.4	30.4	21.7	0.0	26.1	8.7
好きでない	7	42.9	42.9	14.3	28.6	0.0	42.9	14.3
わからない	30	33.3	26.7	33.3	20.0	3.3	16.7	0.0

	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
全体	5.7	9.0	3.3	4.4	1.4	44.3	1.4
好き	4.5	6.5	0.6	4.5	0.6	54.5	1.3
まあまあ好き	5.4	9.4	4.0	4.7	1.3	40.3	0.0
あまり好きでない	13.0	17.4	4.3	0.0	4.3	26.1	0.0
好きでない	0.0	28.6	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0
わからない	10.0	10.0	6.7	3.3	0.0	40.0	0.0

問 11 悩みや心配事は誰に相談しますか。

「家族（親、祖父母、きょうだい）」（82.0%）が最も多く、「友だち」（50.0%）、「学校の先生」（25.4%）と続きます。一方、「誰にも相談しない」は1割未満となっています。

■相談先（複数回答）

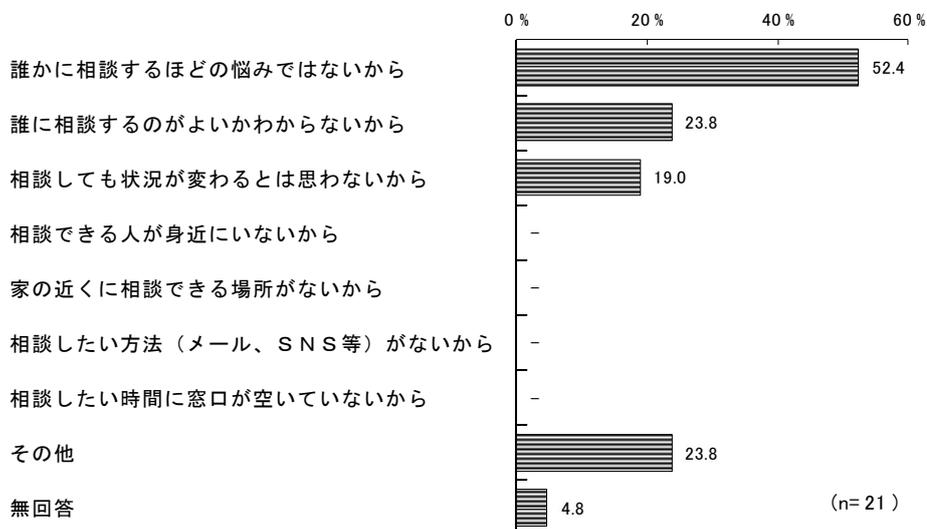


【問 11 で「12. 誰にも相談しない」に○をつけた方】

問 11-1 相談しない理由は何ですか。

「誰かに相談するほどの悩みではないから」（52.4%）が最も多く、「誰に相談するのがよいかわからないから」（23.8%）、「相談しても状況が変わるとは思わないから」（19.0%）と続きます。

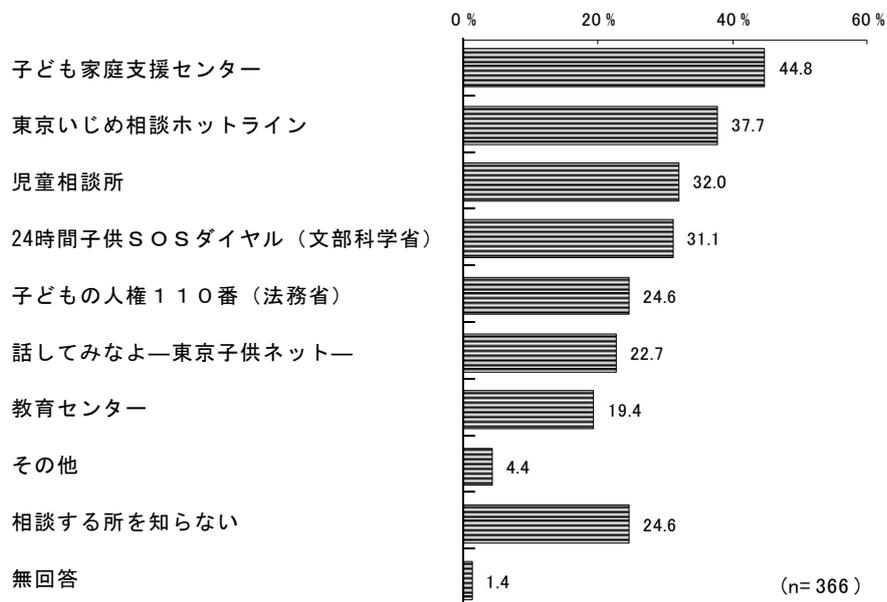
■相談しない理由



問 12 相談する所で知っているのはどれですか。

「子ども家庭支援センター」(44.8%)が最も多く、「東京いじめ相談ホットライン」(37.7%)、「児童相談所」(32.0%)と続きます。一方、「相談する所を知らない」が2割半ばとなっています。

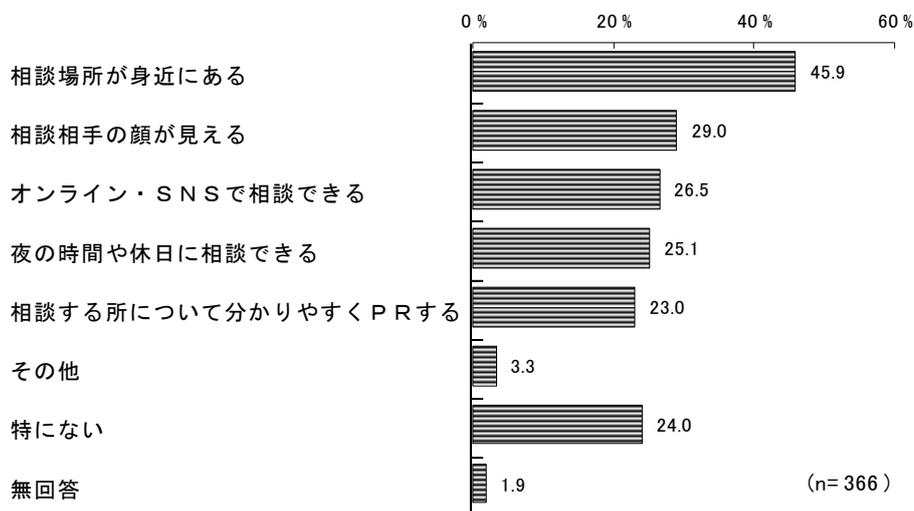
■ 悩みや心配事の相談先の認知度（複数回答）



問 13 問 12 のような相談する所が、相談しやすくなるためにはどうしたらよいと思いますか。

「相談場所が身近にある」(45.9%)が最も多く、「相談相手の顔が見える」(29.0%)、「オンライン・SNSで相談できる」(26.5%)、「夜の時間や休日に相談できる」(25.1%)と続きます。

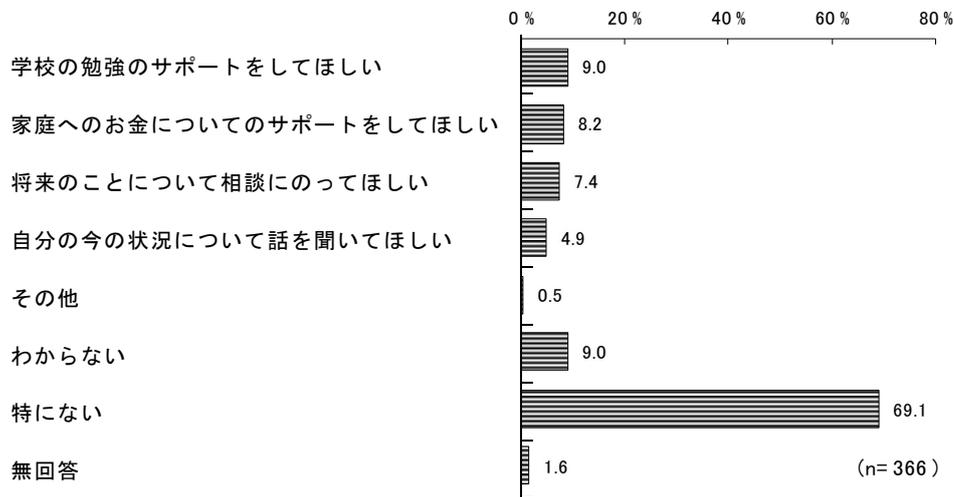
■ 悩みや相談事を相談しやすくするための方策（複数回答）



問 14 区役所や地域で活動する大人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか。

「学校の勉強のサポートをしてほしい」(9.0%)が最も多く、「家庭へのお金についてのサポートをしてほしい」(8.2%)、「将来のことについて相談にのってほしい」(7.4%)と続きます。

■区役所や地域で活動する大人に助けてほしいこと（複数回答）

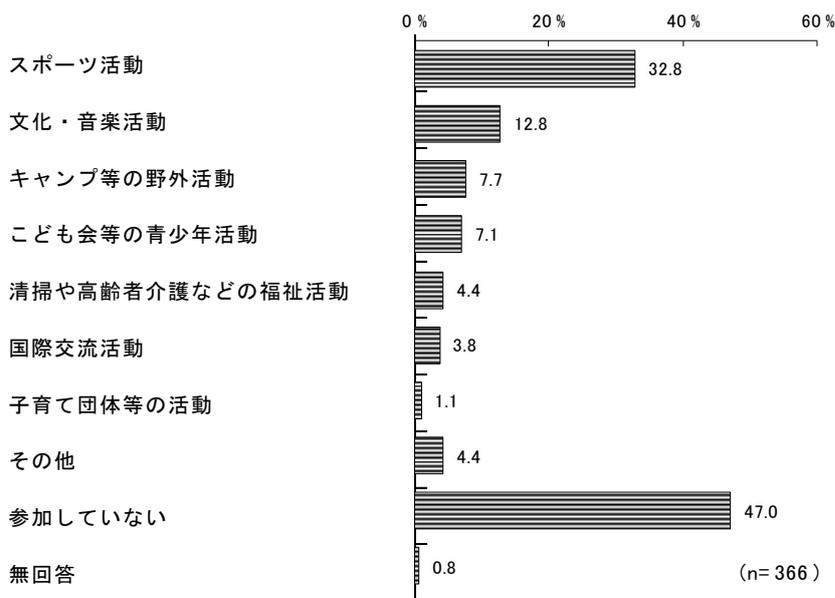


(3) 地域での活動について

問 15 あなたがこの1年間に参加した地域活動はどれですか。

「参加していない」(47.0%)が最も多く、4割半ばとなっています。参加した地域活動では、「スポーツ活動」(32.8%)が最も多く、「文化・音楽活動」(12.8%)、「キャンプ等の野外活動」(7.7%)と続きます。

■ 1年間に参加した地域活動（複数回答）



【性別】

“男性”“女性”ともに「参加していない」が最も多く、“女性”は“男性”と比べて10ポイント以上多くなっています。“男性”は“女性”と比べて「スポーツ活動」が15ポイント以上多くなっています。

(単位:%)

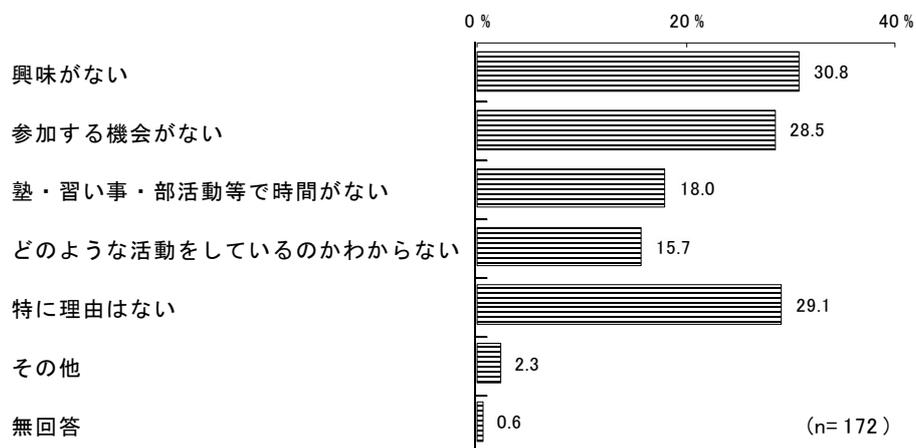
	有効回答者数	スポーツ活動	文化・音楽活動	福祉活動 清掃や高齢者介護などの	国際交流活動	こども会等の青少年活動	キャンプ等の野外活動	子育て団体等の活動	その他	参加していない	無回答
全体	366	32.8	12.8	4.4	3.8	7.1	7.7	1.1	4.4	47.0	0.8
男性	170	41.2	11.2	1.8	3.5	6.5	8.2	0.6	2.9	42.9	0.0
女性	183	24.0	13.1	5.5	3.8	7.1	6.6	1.1	6.0	53.6	0.5
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	4	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0

【問 15 で「9. 参加していない」に○をつけた方】

問 15-1 参加していない理由は何ですか。

「興味がない」(30.8%)が最も多く、「参加する機会がない」(28.5%)、「塾・習い事・部活動等で時間がない」(18.0%)と続きます。

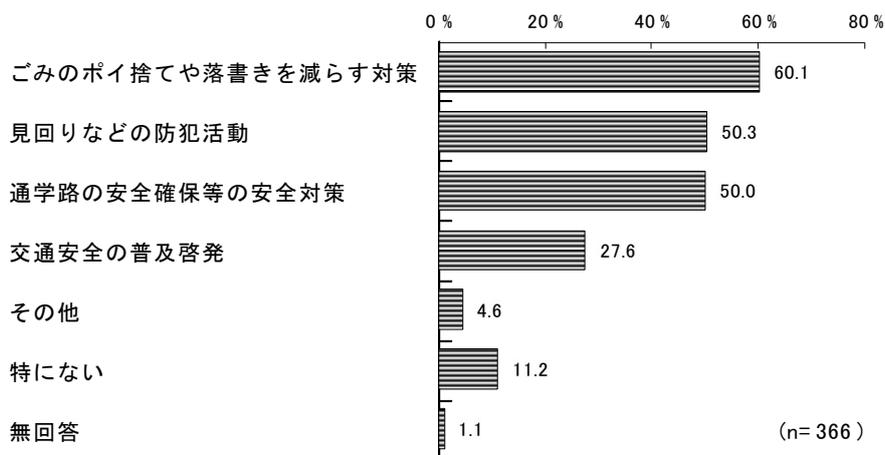
■参加していない理由（複数回答）



問 16 地域をよくするために必要だと思う地域活動は何ですか。

「ごみのポイ捨てや落書きを減らす対策」(60.1%)が最も多く、「見回りなどの防犯活動」(50.3%)、「通学路の安全確保等の安全対策」(50.0%)と続きます。

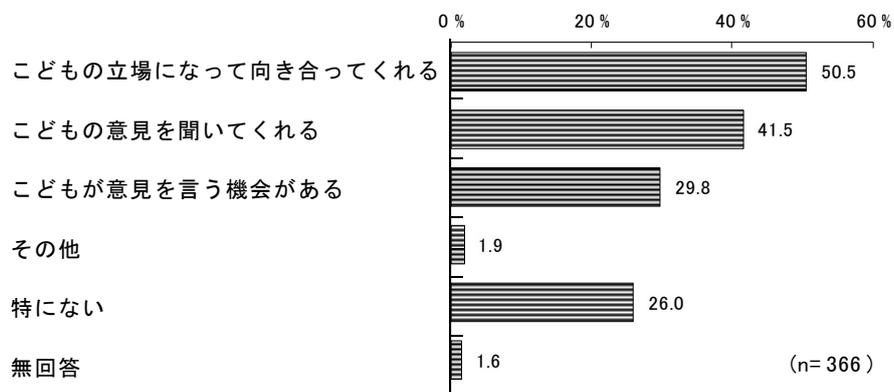
■地域をよくするために必要だと思う活動（複数回答）



問 17 地域活動をするにあたり、周りの大人にやってほしいことは何ですか。

「こどもの立場になって向き合ってくれる」(50.5%)が最も多く、「こどもの意見を聞いてくれる」(41.5%)、「こどもが意見を言う機会がある」(29.8%)と続きます。一方、「特にない」(26.0%)と2割半ばとなっています。

■地域活動での大人への要望（複数回答）

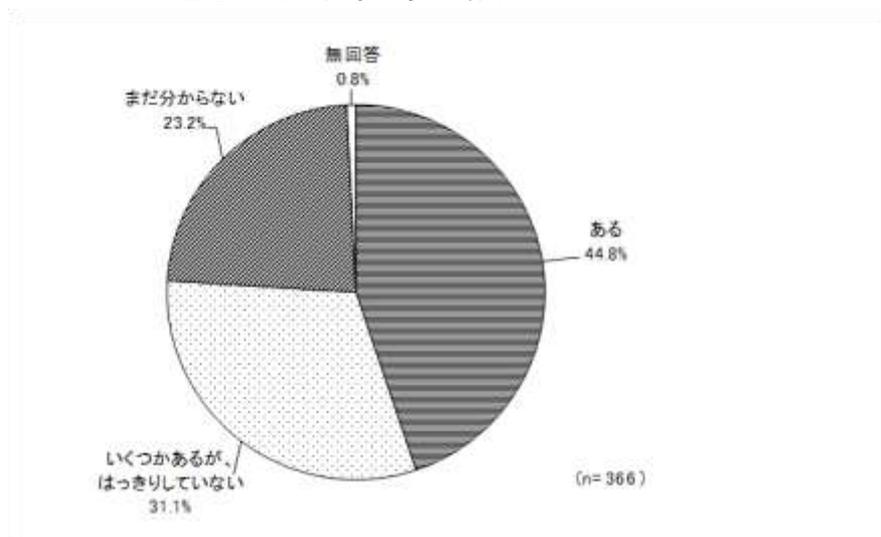


(4) 将来についての考えについて

問 18 あなたは、将来なりたい仕事や夢はありますか。

「ある」(44.8%)が最も多く、「いくつかあるが、はっきりしていない」(31.1%)、「まだ分からない」(23.2%)と続きます。

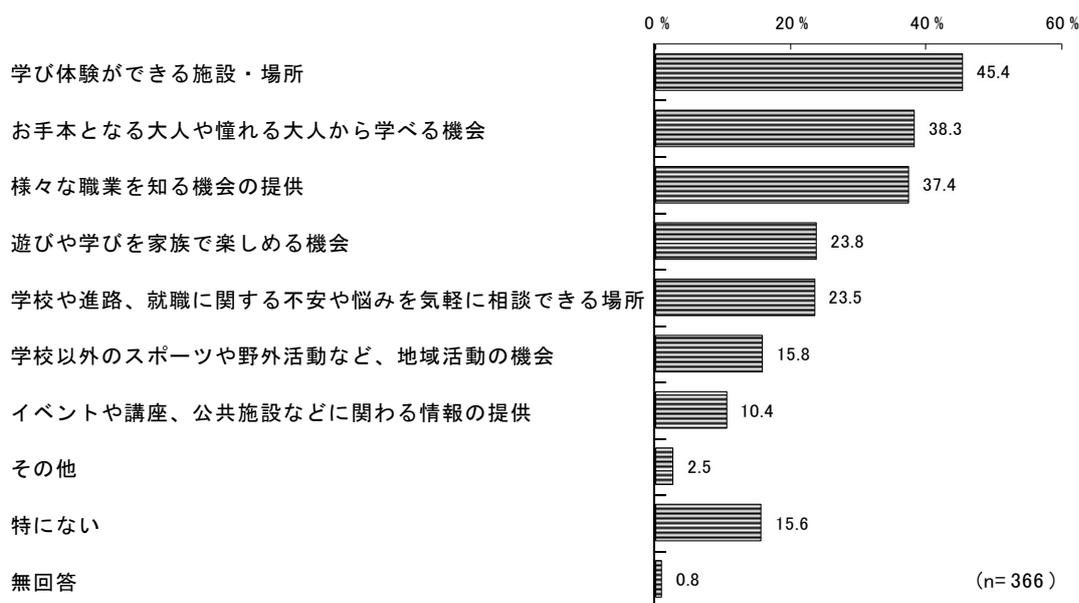
■ なりたい仕事や夢の有無



問 19 将来なりたい仕事や夢を見つけるために、どのような支援を受けたいですか。

「学び体験ができる施設・場所」(45.4%)が最も多く、「お手本となる大人や憧れる大人から学べる機会」(38.3%)、「様々な職業を知る機会の提供」(37.4%)と続きます。

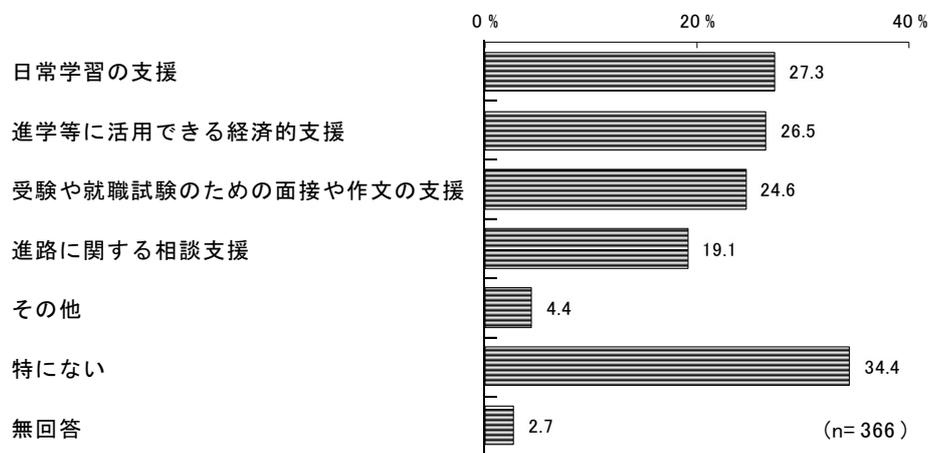
■ なりたい仕事や夢を見つけるために受けたい支援（複数選択）



問 20 将来なりたい仕事や夢を実現するために、どのような支援を受けたいですか。

「日常学習の支援」(27.3%)が最も多く、「進学等に活用できる経済的支援」(26.5%)、「受験や就職試験のための面接や作文の支援」(24.6%)、「進路に関する相談支援」(19.1%)と続きます。

■ なりたい仕事や夢を実現するために受けたい支援（複数回答）



【性別】

“男性”“女性”ともに「特にない」が最も多くなっています。

(単位: %)

	有効回答者数	日常学習の支援	面接や作文の支援 受験や就職試験のための	進学等に活用できる経済的支援	進路に関する相談支援	その他	特にない	無回答
全体	366	27.3	24.6	26.5	19.1	4.4	34.4	2.7
男性	170	23.5	25.3	29.4	21.2	2.4	34.7	1.8
女性	183	30.1	24.0	25.1	18.0	6.6	35.0	2.7
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	4	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

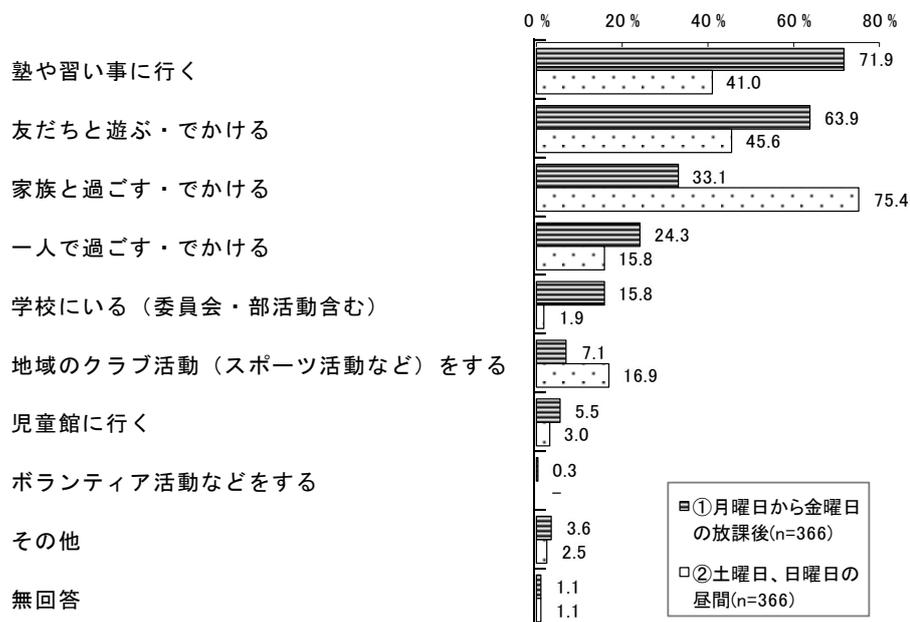
(5) ふだんの過ごし方について

問 21 『①月曜日から金曜日の放課後』、『②土曜日、日曜日の昼間』 それぞれにどんなことをすることが多いですか。

『①月曜日から金曜日の放課後』は、「塾や習い事に行く」(71.9%)が最も多く、「友だちと遊ぶ・でかける」(63.9%)、「家族と過ごす・でかける」(33.1%)と続きます。

『②土曜日、日曜日の昼間』は、「家族と過ごす・でかける」(75.4%)が最も多く、「友だちと遊ぶ・でかける」(45.6%)、「塾や習い事に行く」(41.0%)と続きます。

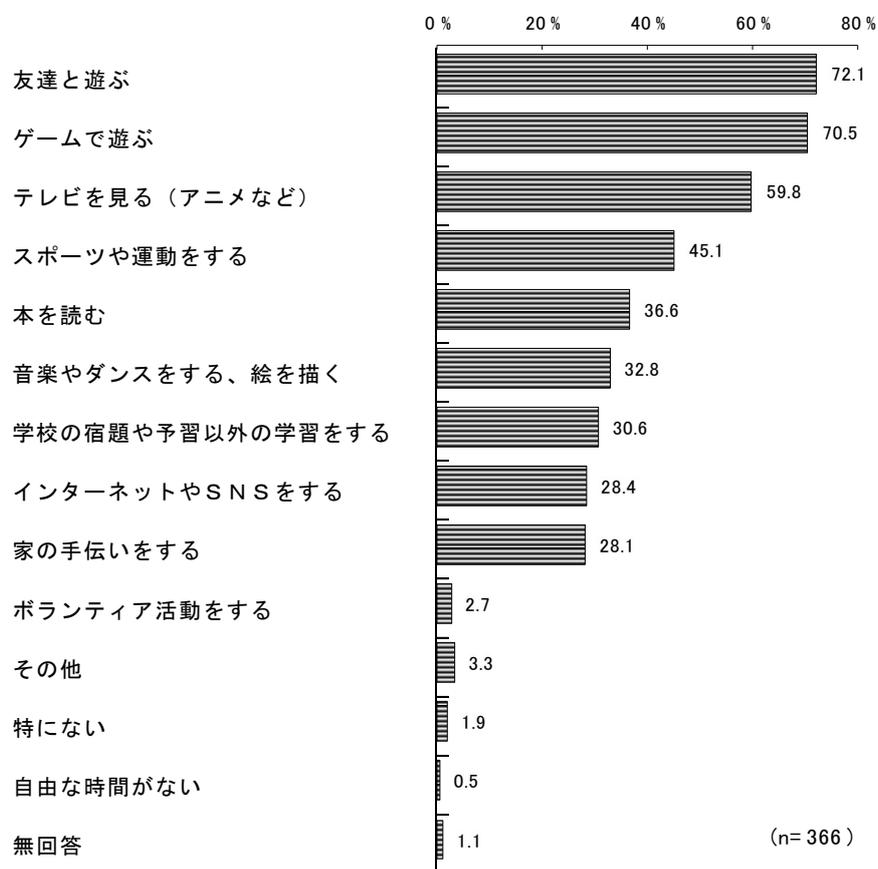
■放課後や休日の過ごし方（3つまで）



問 22 あなたは放課後や休日の自由な時間に、どんなことが出来るとよいと思いますか。

「友達と遊ぶ」(72.1%)が最も多く、「ゲームで遊ぶ」(70.5%)、「テレビを見る(アニメなど)」(59.8%)と続きます。

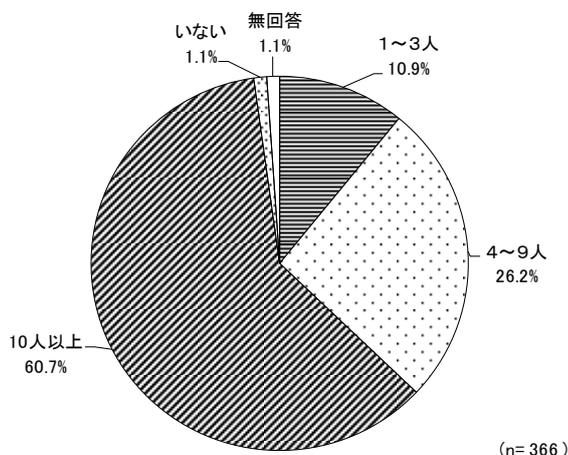
■放課後や休日にしたいこと(複数回答)



問 23 あなたは、一緒に遊んだり話したりする友だちが何人いますか。

「10人以上」(60.7%)が最も多く、「4～9人」(26.2%)、「1～3人」(10.9%)と続きます。

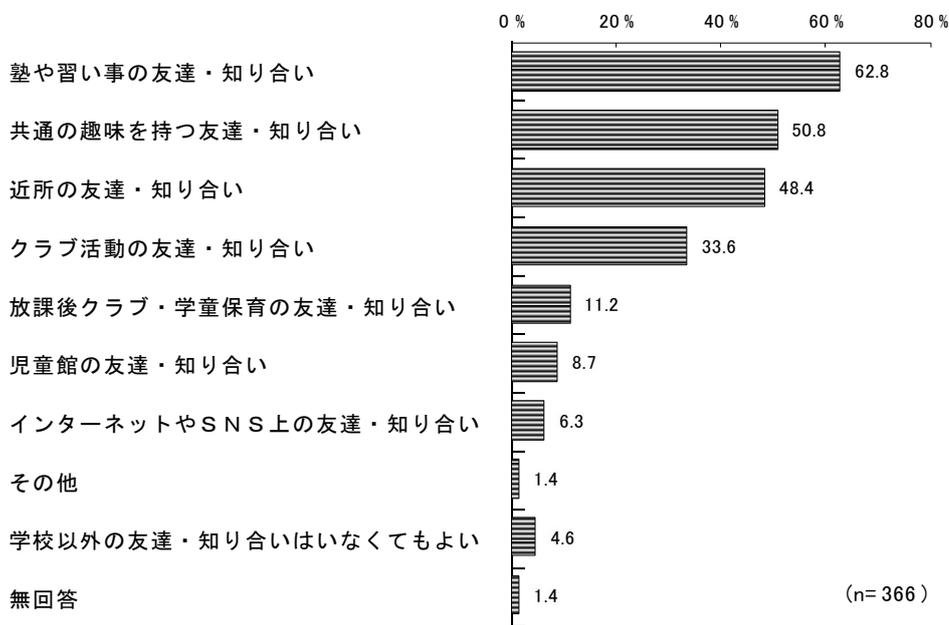
■一緒に遊んだり話したりする友だちの数



問 24 学校以外で、どんな友達や知り合いがいたら楽しいと思いますか。

「塾や習い事の友達・知り合い」(62.8%)が最も多く、「共通の趣味を持つ友達・知り合い」(50.8%)、「近所の友達・知り合い」(48.4%)と続きます。

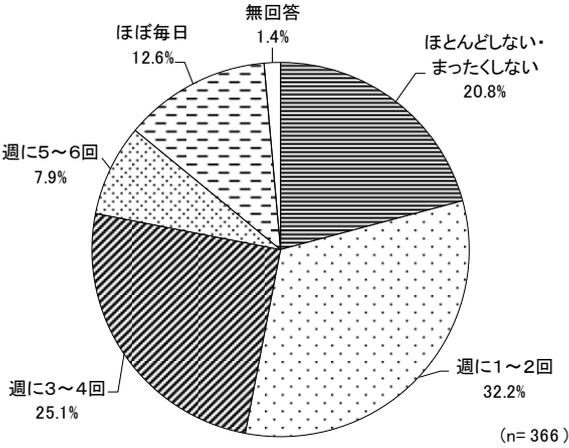
■学校以外でいたら楽しいと思う友達や知り合い（複数回答）



問 25 あなたは、30分以上体を動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。

「週に1～2回」(32.2%)が最も多く、「週に3～4回」(25.1%)、「ほとんどしない・まったくしない」(20.8%)と続きます。

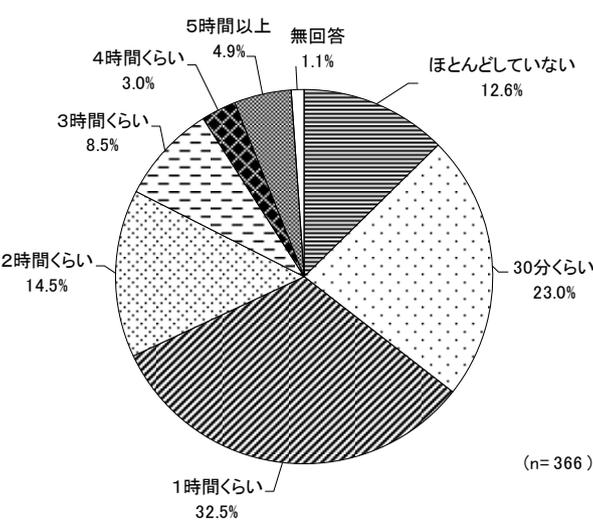
■30分以上からだを動かす遊びや習い事の1週間あたり実施頻度



問 26 ふだん、学校以外で1日何時間くらい勉強をしていますか。

「1時間くらい」(32.5%)が最も多く、「30分くらい」(23.0%)、「2時間くらい」(14.5%)と続きます。

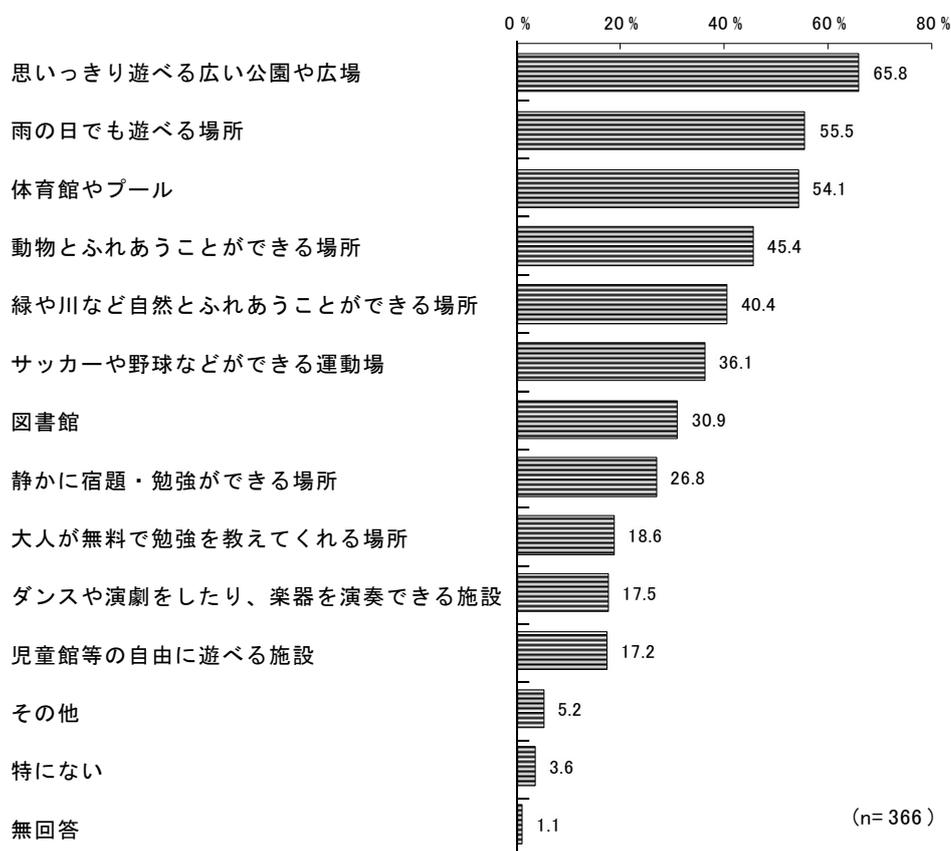
■学校以外での1日当たり勉強時間



問 27 近くにあったらいいと思う遊び場や施設は何ですか。

「思いっきり遊べる広い公園や広場」(65.8%)が最も多く、「雨の日でも遊べる場所」(55.5%)、「体育館やプール」(54.1%)、「動物とふれあうことができる場所」(45.4%)、「緑や川など自然とふれあうことができる場所」(40.4%)と続きます。

■近くに合ったらいいと思う遊び場・施設（複数回答）



【性別】

“男性”“女性”ともに「思いっきり遊べる広い公園や広場」が最も多くなっています。“男性”は“女性”に比べて「サッカーや野球などができる運動場」が多く、“女性”は“男性”に比べて「図書館」「ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設」「静かに宿題・勉強ができる場所」が多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	思いっきり遊べる広い公園や広場	サッカーや野球などができる運動場	体育館やプール	図書館	児童館等の自由に遊べる施設	緑や川など自然とふれあうことができる場所	動物とふれあうことができる場所
全体	366	65.8	36.1	54.1	30.9	17.2	40.4	45.4
男性	170	65.3	52.9	50.6	24.7	12.9	41.2	40.6
女性	183	68.3	19.7	58.5	38.3	19.7	40.4	49.7
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	4	25.0	25.0	25.0	25.0	25.0	75.0	50.0

	雨の日でも遊べる場所	ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設	静かに宿題・勉強ができる場所	大人が無料で勉強を教えてくれる場所	その他	特にない	無回答
全体	55.5	17.5	26.8	18.6	5.2	3.6	1.1
男性	54.1	8.8	19.4	16.5	7.1	3.5	0.0
女性	57.9	24.6	33.9	20.8	3.3	3.8	1.1
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0

【地区別】

すべての地区で「思いっきり遊べる広い公園や広場」が最も多くなっています。

(単位：%)

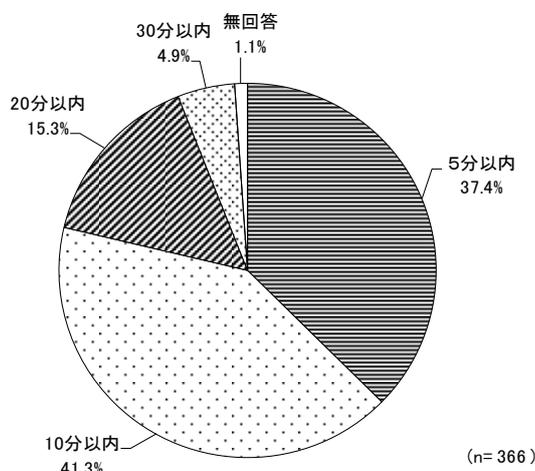
	有効回答者数	思いっきり遊べる広い公園や広場	サッカーや野球などができる運動場	体育館やプール	図書館	児童館等の自由に遊べる施設	緑や川など自然とふれあうことが出来る場所	動物とふれあうことが出来る場所
全体	366	65.8	36.1	54.1	30.9	17.2	40.4	45.4
大森地区	112	63.4	31.3	52.7	29.5	13.4	47.3	43.8
調布地区	109	69.7	40.4	58.7	40.4	19.3	44.0	51.4
蒲田地区	99	63.6	38.4	53.5	24.2	18.2	30.3	40.4

	雨の日でも遊べる場所	ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設	静かに宿題・勉強ができる場所	大人が無料で勉強を教えてくれる場所	その他	特にない	無回答
全体	55.5	17.5	26.8	18.6	5.2	3.6	1.1
大森地区	52.7	16.1	24.1	17.9	5.4	6.3	0.0
調布地区	55.0	22.0	34.9	22.9	4.6	4.6	0.9
蒲田地区	57.6	16.2	26.3	19.2	6.1	1.0	0.0

問 28 あなたは遊び場や施設が徒歩で何分以内であれば利用しますか。

「10分以内」(41.3%)が最も多く、「5分以内」(37.4%)、「20分以内」(15.3%)と続きます。

■遊び場や施設が徒歩何分以内なら利用するか

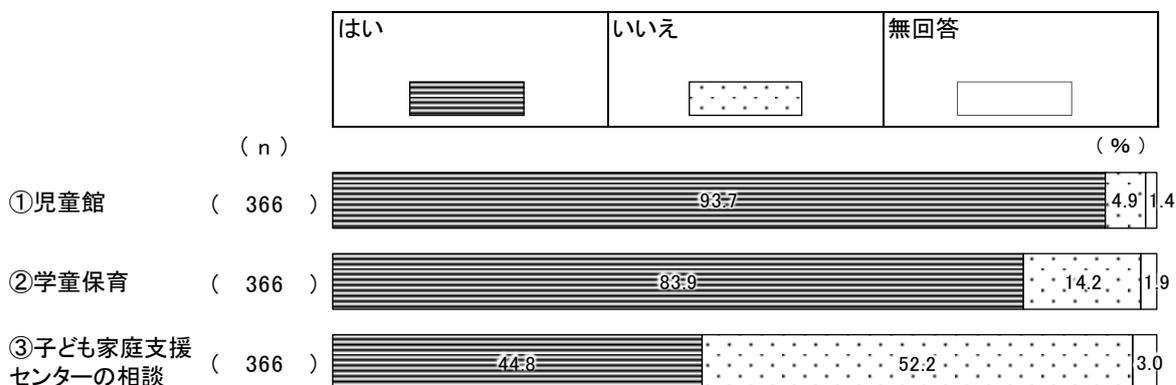


問 29 区のサービス・施設で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものを答えてください。①～③の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

① 認知度 (知っている)

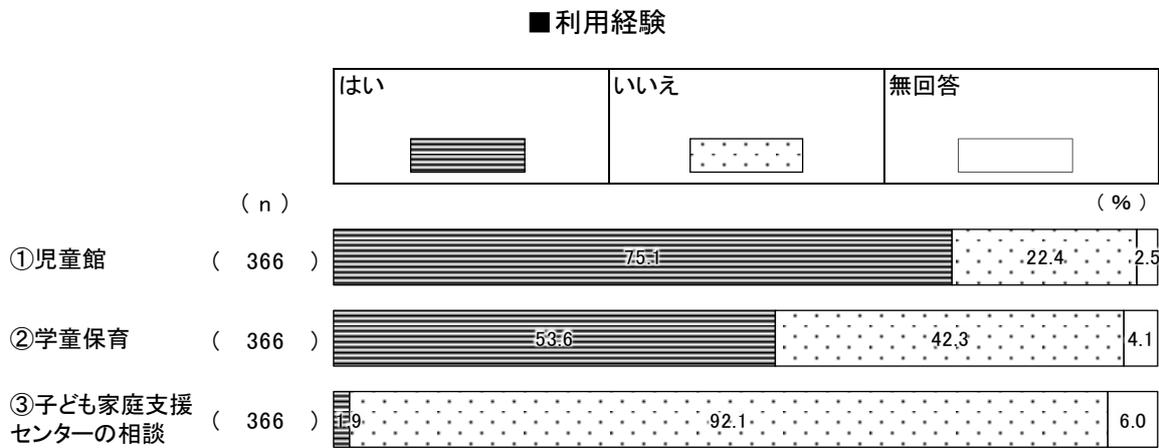
“児童館”の認知度が最も高く 93.7%、“学童保育”83.9%となっています。一方“子ども家庭支援センターの相談”の認知度は4割半ばとなっています。

■認知度



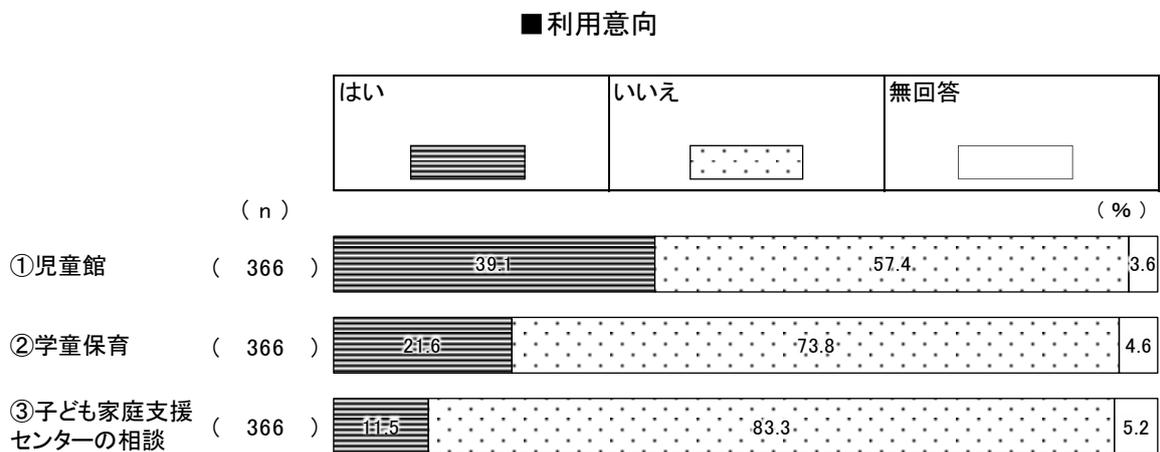
② 利用経験（これまでに利用したことがある）

“児童館”は7割半ば、“学童保育”は5割強がこれまでに利用したことがある一方で、“子ども家庭支援センターの相談”は約9割がこれまでに利用したことがないとなっています。



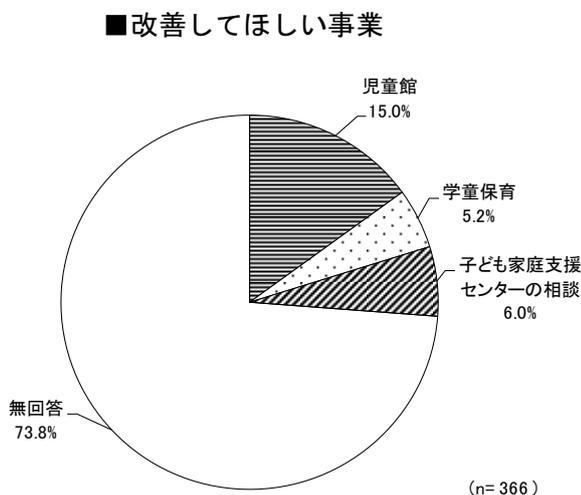
③ 利用意向（今後利用したい）

“児童館”は約4割、“学童保育”は約2割、“子ども家庭支援センターの相談”は約1割が今後利用したいとなっています。



問 30 問 29 の①～③の事業について、改善してほしい事業はありますか。改善してほしい事業を1つ選び、①～③の番号を記入してください。また、改善点をご記入ください。

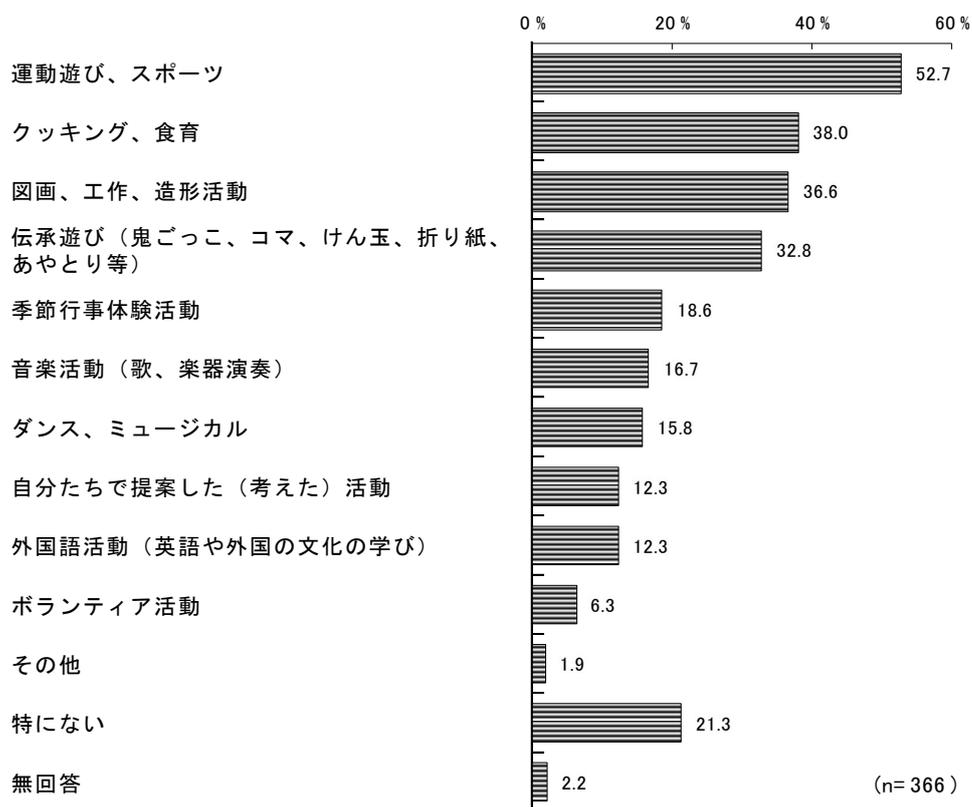
「児童館」(15.0%)、「学童保育」(5.2%)、「子ども家庭支援センターの相談」(6.0%)となっています。



問 31 児童館でやってみたいこと、やってほしいことは何ですか。

「運動遊び、スポーツ」(52.7%)が最も多く、「クッキング、食育」(38.0%)、「図画、工作、造形活動」(36.6%)、「伝承遊び(鬼ごっこ、コマ、けん玉、折り紙、あやとり等)」(32.8%)、「季節行事体験活動」(18.6%)と続きます。

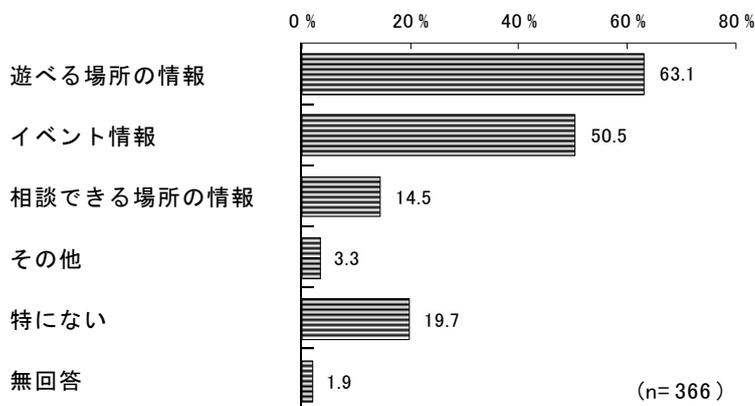
■児童館や中高生ひろばでやってみたいこと、やってほしいこと(複数回答)



問 32 あなたは、区役所からどんな情報を発信してほしいと思いますか。

「遊べる場所の情報」(63.1%)が最も多く、「イベント情報」(50.5%)、「相談できる場所の情報」(14.5%)と続きます。

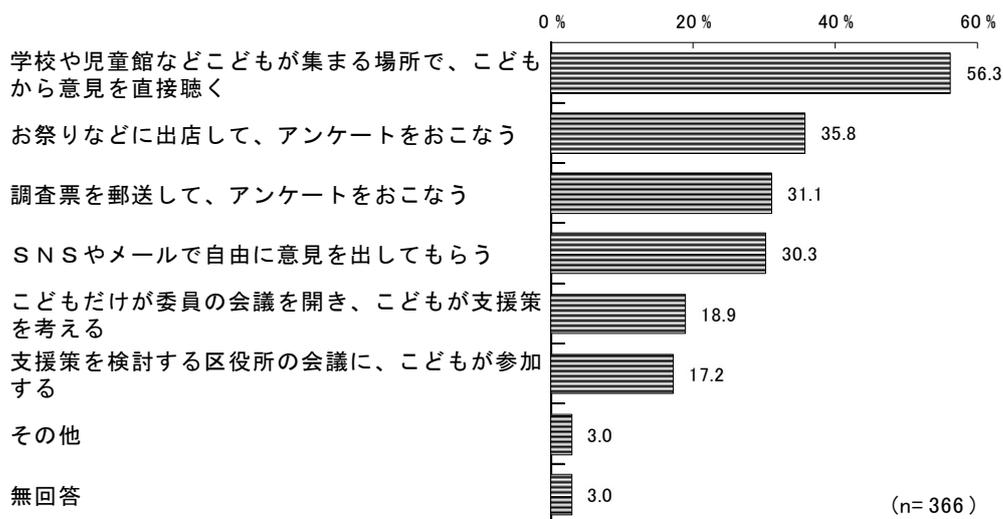
■区から発信してほしい情報（複数回答）



問 33 皆さんへの支援策を検討するために区役所が皆さんから意見を聞く方法として、よいと思うものは何ですか。

「学校や児童館など子どもが集まる場所で、子どもから意見を直接聴く」(56.3%)が最も多く、「お祭りなどに出店して、アンケートをおこなう」(35.8%)、「調査票を郵送して、アンケートをおこなう」(31.1%)と続きます。

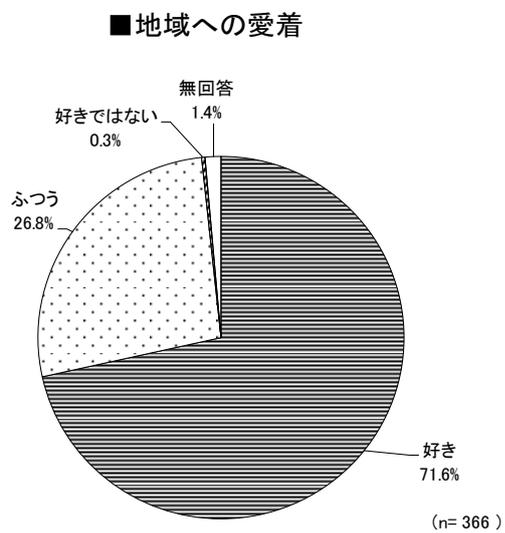
■区役所による望ましい意見聴取方法（複数回答）



(6) あなたのお考えについて

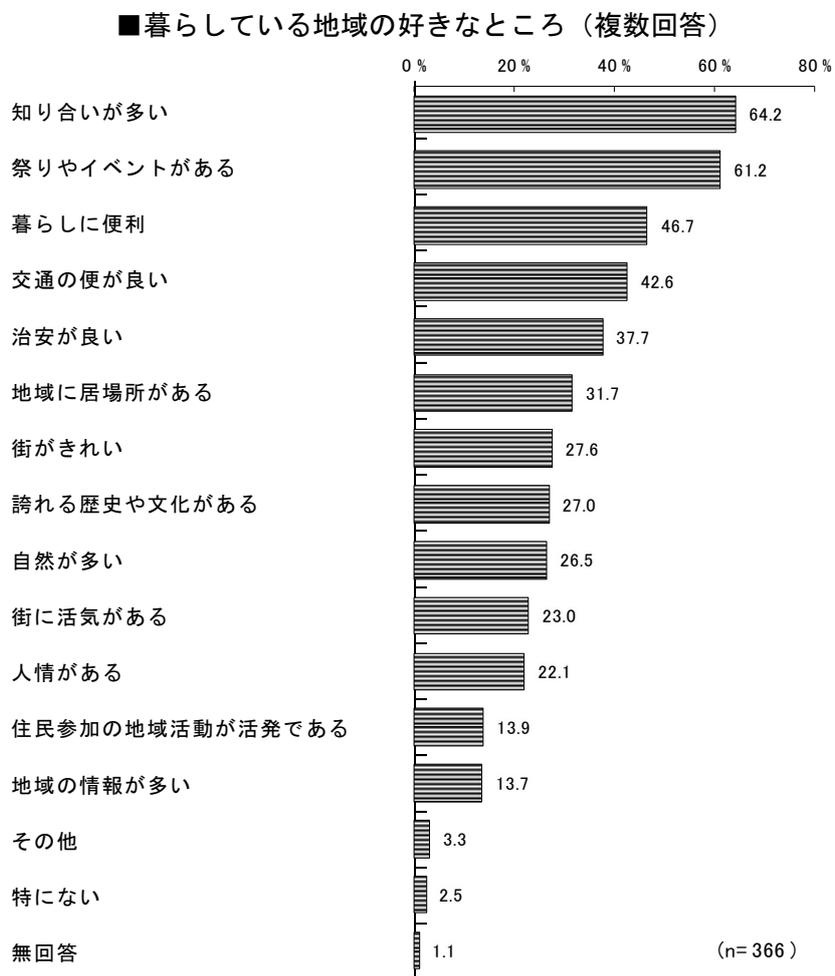
問 34 あなたは、現在暮らしている地域が好きですか。

「好き」(71.6%)が最も多く、「ふつう」(26.8%)と続きます。



問 35 暮らしている地域の好きなところは次のうちどれですか。

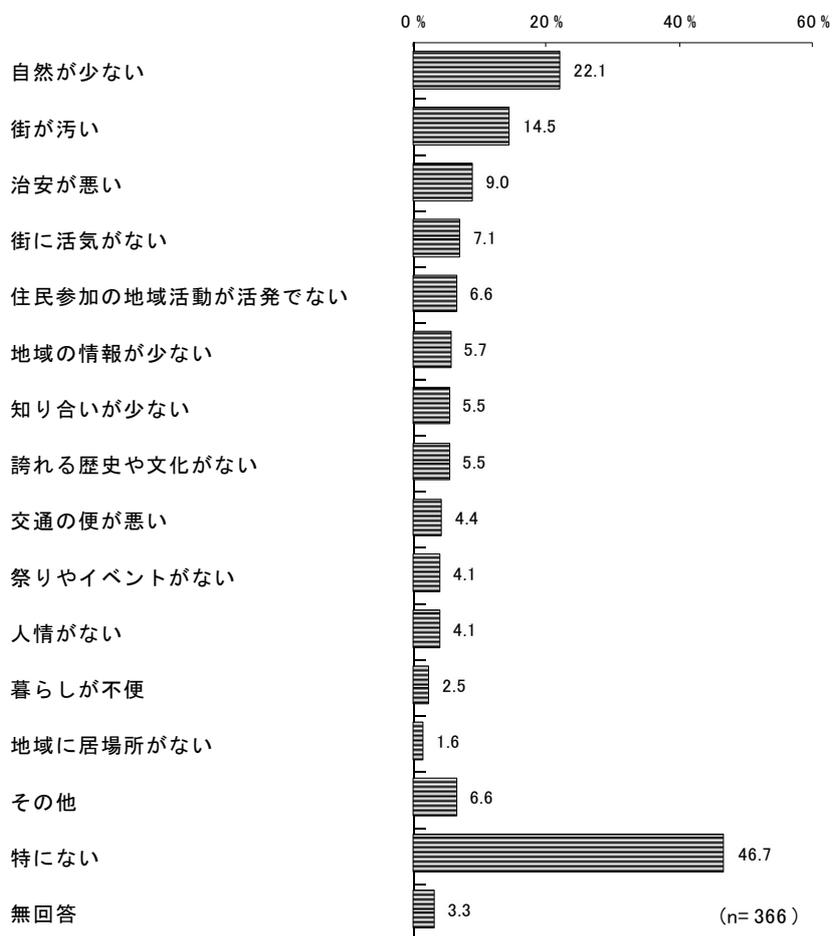
「知り合いが多い」(64.2%)が最も多く、「祭りやイベントがある」(61.2%)、「暮らしに便利」(46.7%)、「交通の便が良い」(42.6%)、「治安が良い」(37.7%)と続きます。



問 36 暮らしている地域の好きではないところは次のうちどれですか。

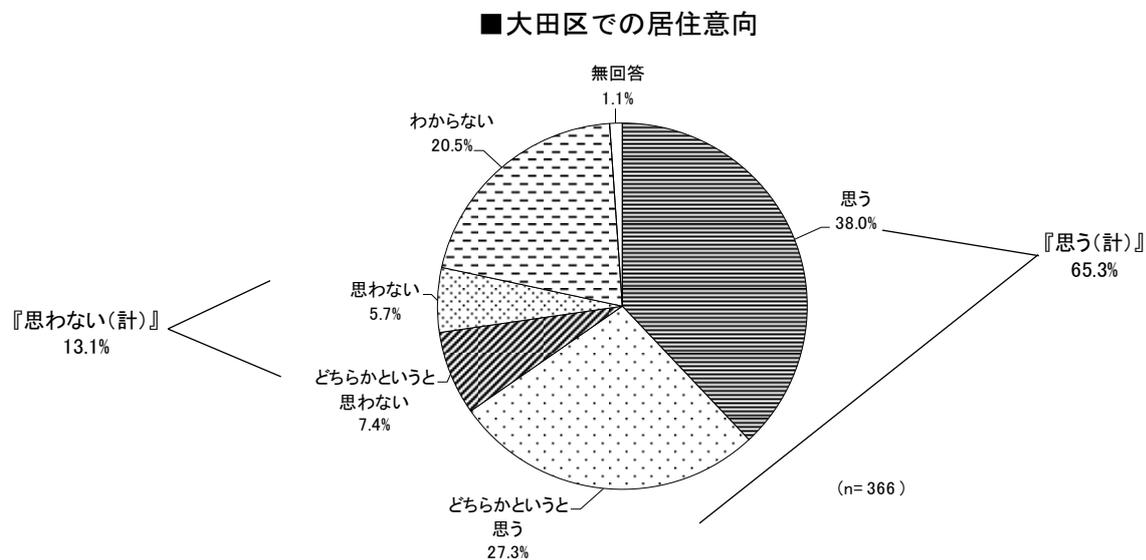
「自然が少ない」(22.1%)が最も多く、「街が汚い」(14.5%)、「治安が悪い」(9.0%)、「街に活気がない」(7.1%)、「住民参加の地域活動が活発でない」(6.6%)と続きます。

■暮らしている地域の好きではないところ（複数回答）



問 37 あなたは、将来も大田区に住みたいと思いますか。

「思う」(38.0%)が最も多く、これに「どちらかというと思う」(27.3%)を合わせた『思う(計)』(65.3%)は6割半ばとなっています。一方、「どちらかというと思わない」(7.4%)と「思わない」(5.7%)を合わせた『思わない(計)』(13.1%)は約1割となっています。また、「わからない」(20.5%)は約2割となっています。

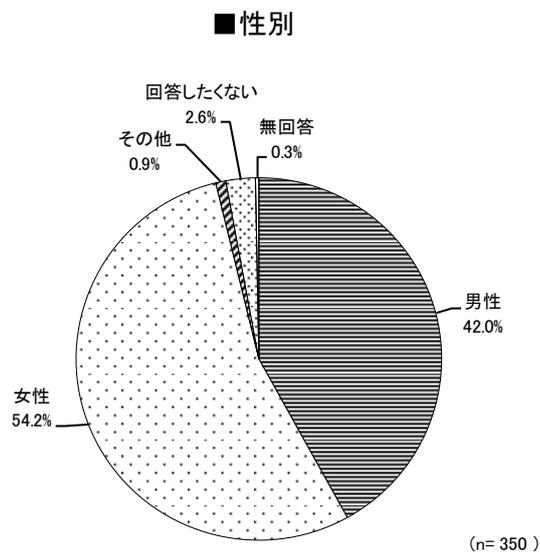


4 中学生

(1) あなたとご家族の状況について

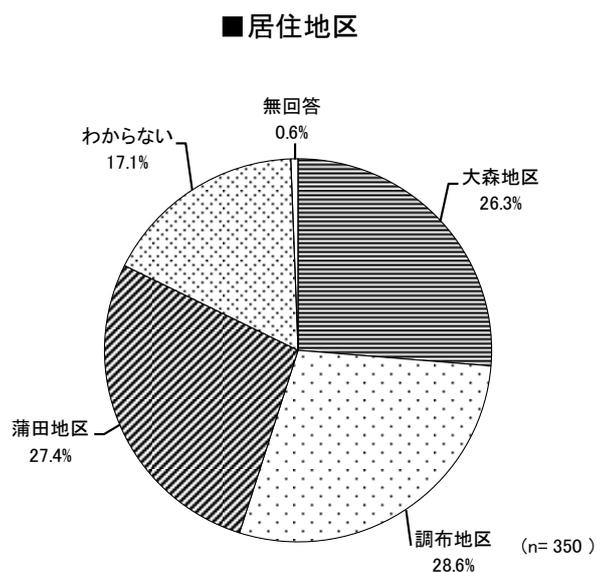
問1 あなたの性別をお答えください。

「男性」(42.0%)、「女性」(54.2%)、「回答したくない」(2.6%)となっています。



問2 あなたのお住まいの地域はどこですか。

「大森地区」(26.3%)、「調布地区」(28.6%)、「蒲田地区」(27.4%)となっています。

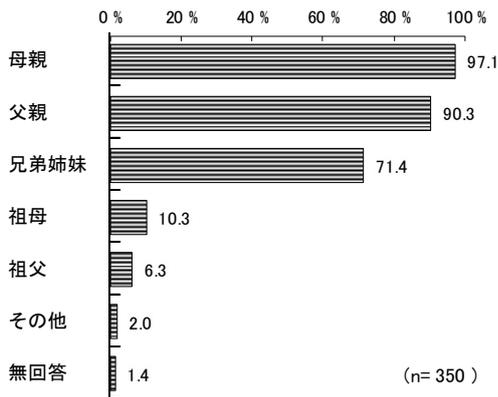


問3 あなたは誰と一緒に住んでいますか。また、あなたを含めて、何人で住んでいますか。

①同居家族

「母親」(97.1%)が最も多く、「父親」(90.3%)、「兄弟姉妹」(71.4%)、「祖母」(10.3%)、「祖父」(6.3%)と続きます。

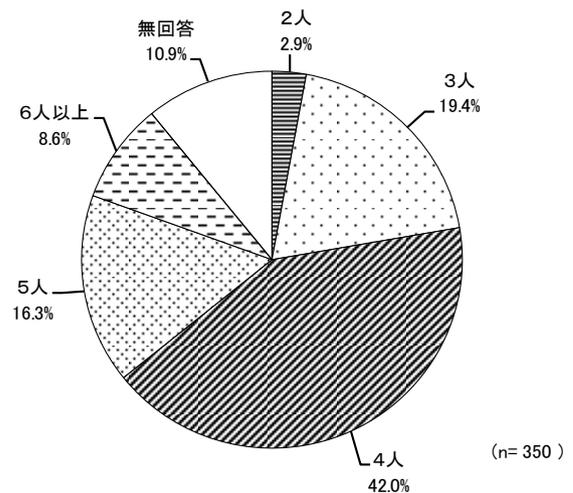
■同居家族（複数回答）



②家族の人数

「4人」(42.0%)が最も多く、「3人」(19.4%)、「5人」(16.3%)と続きます。

■家族の人数



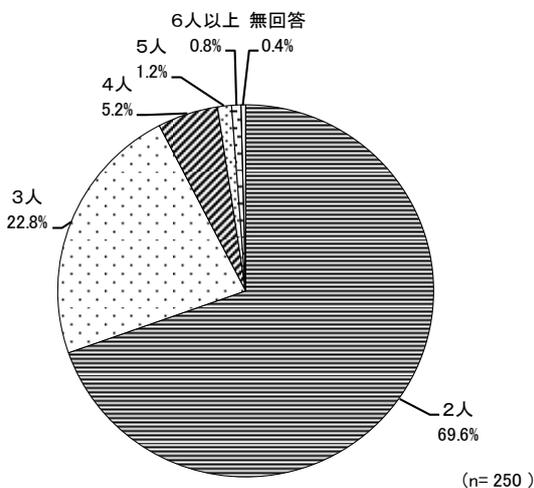
【問3で「3. 兄弟姉妹」に○をつけた方】

問3-1 あなたは何人きょうだいの何番目ですか。

①きょうだい数

「2人」(69.6%)が最も多く、「3人」(22.8%)、「4人」(5.2%)と続きます。

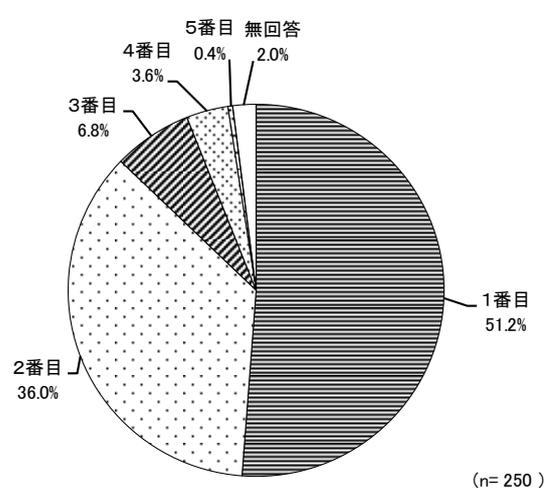
■きょうだい数



②自身がきょうだいで何番目か

「1番目」(51.2%)が最も多く、「2番目」(36.0%)、「3番目」(6.8%)と続きます。

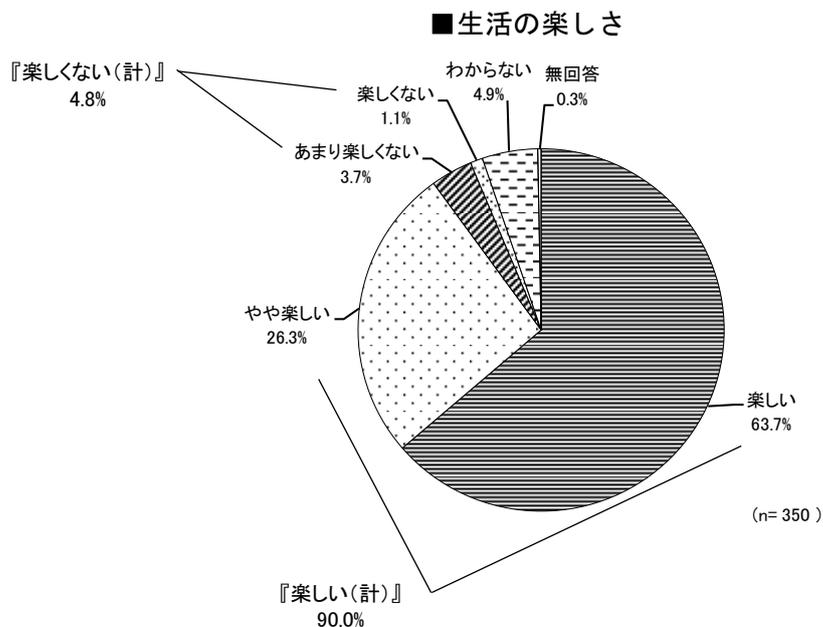
■きょうだいで何番目か



(2) あなた自身のこと、家族との関係について

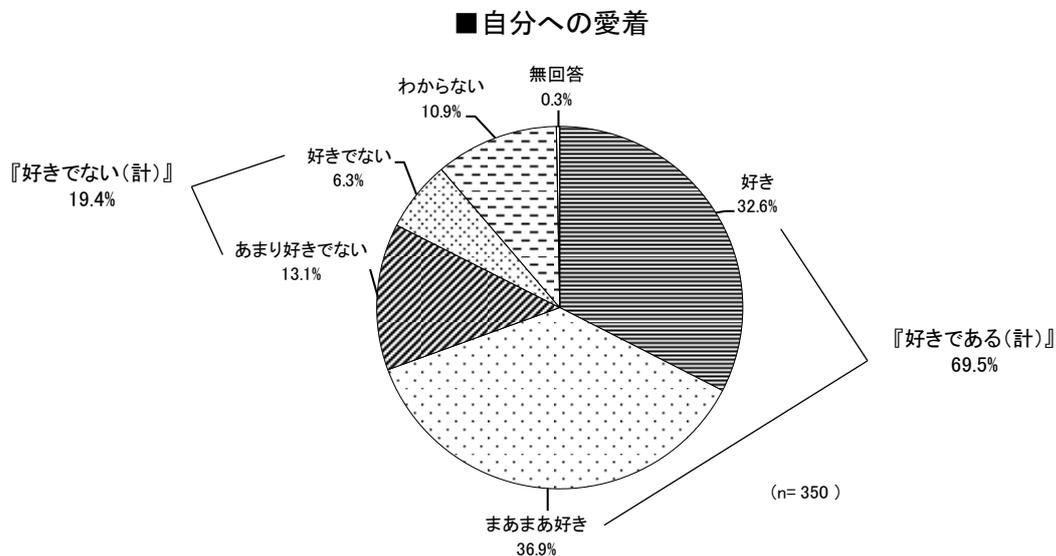
問4 毎日の生活は楽しいですか。

「楽しい」(63.7%)が最も多く、これに「やや楽しい」(26.3%)を合わせた『楽しい(計)』(90.0%)が9割となっています。一方、「あまり楽しくない」(3.7%)、「楽しくない」(1.1%)、を合わせた『楽しくない(計)』(4.8%)、「わからない」(4.9%)は1割未満となっています。



問5 あなたは自分のことが好きですか。

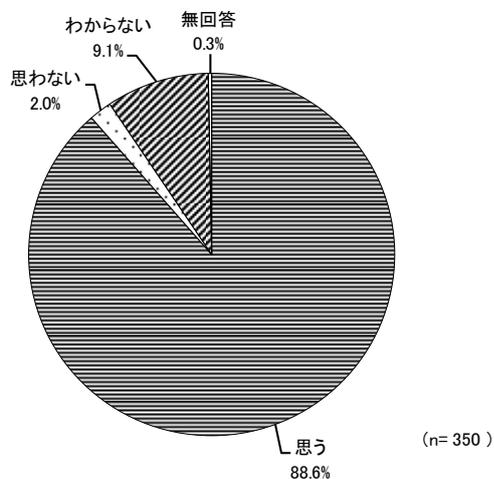
「まあまあ好き」(36.9%)が最も多く、これに「好き」(32.6%)を合わせた『好きである(計)』(69.5%)は約7割となっています。一方、「あまり好きでない」(13.1%)、「好きでない」(6.3%)、を合わせた『好きでない(計)』(19.4%)は約2割となっています。また「わからない」(10.9%)は約1割となっています。



問6 あなたは家族から大切にされていると思いますか。

「思う」(88.6%)が最も多く、「思わない」(2.0%)、「わからない」(9.1%)となっています。

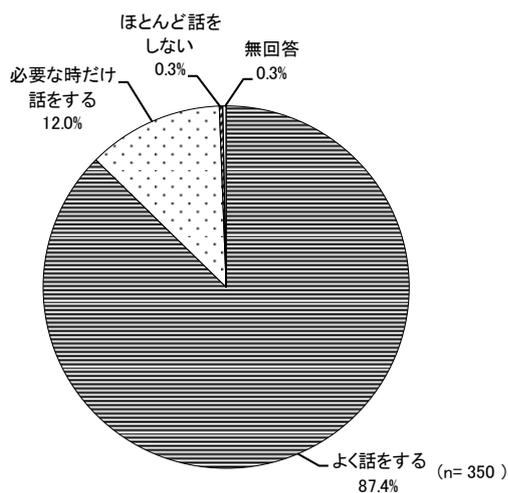
■保護者から大切にされていると思うか



問7 あなたは、保護者（お母さん、お父さんなど）とよく話をしますか。

「よく話をする」(87.4%)が最も多く、「必要な時だけ話をする」(12.0%)、「ほとんど話をしない」(0.3%)となっています。

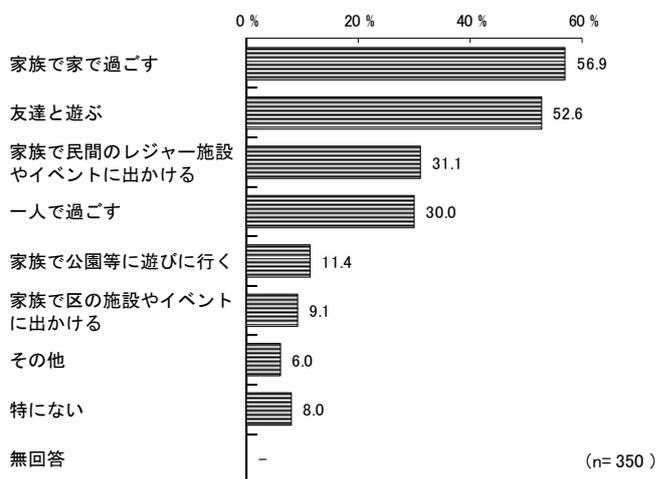
■保護者と話す機会



問8 保護者（お母さん、お父さんなど）が休日の時に、どのように過ごしたいと思いますか。

「家族で家で過ごす」(56.9%)が最も多く、「友達と遊ぶ」(52.6%)、「家族で民間のレジャー施設やイベントに出かける」(31.1%)と続きます。

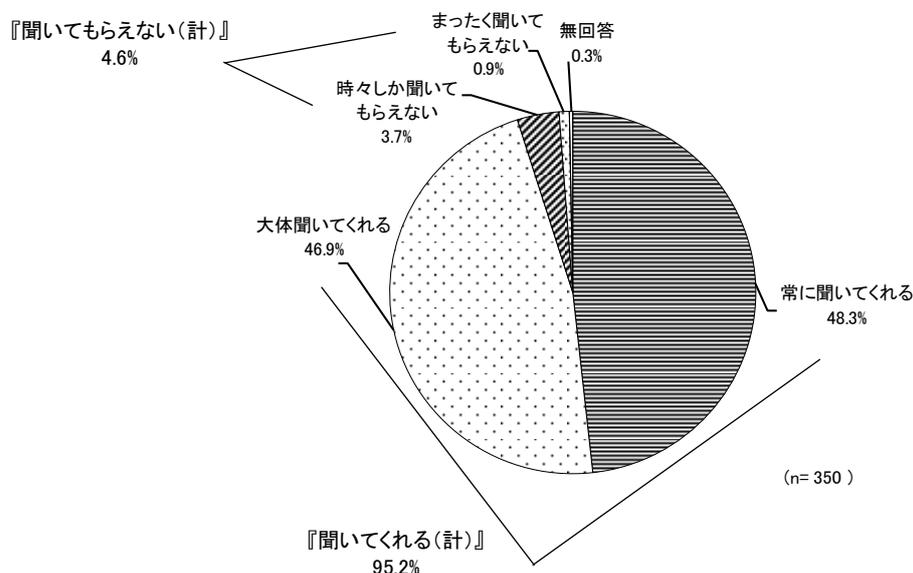
■保護者の休日にしたいこと（複数回答）



問9 あなたの家では、あなたのしたいことや家族での過ごし方などを決める時に、保護者（お母さん、お父さんなど）があなたの意見を聞いてくれますか。

「常に聞いてくれる」(48.3%)が最も高く、これに「大体聞いてくれる」(46.9%)を合わせた「聞いてくれる(計)」(95.2%)は9割半ばとなっています。一方、「時々しか聞いてもらえない」(3.7%)と「まったく聞いてもらえない」(0.9%)を合わせた「聞いてもらえない(計)」(4.6%)は1割未満となっています。

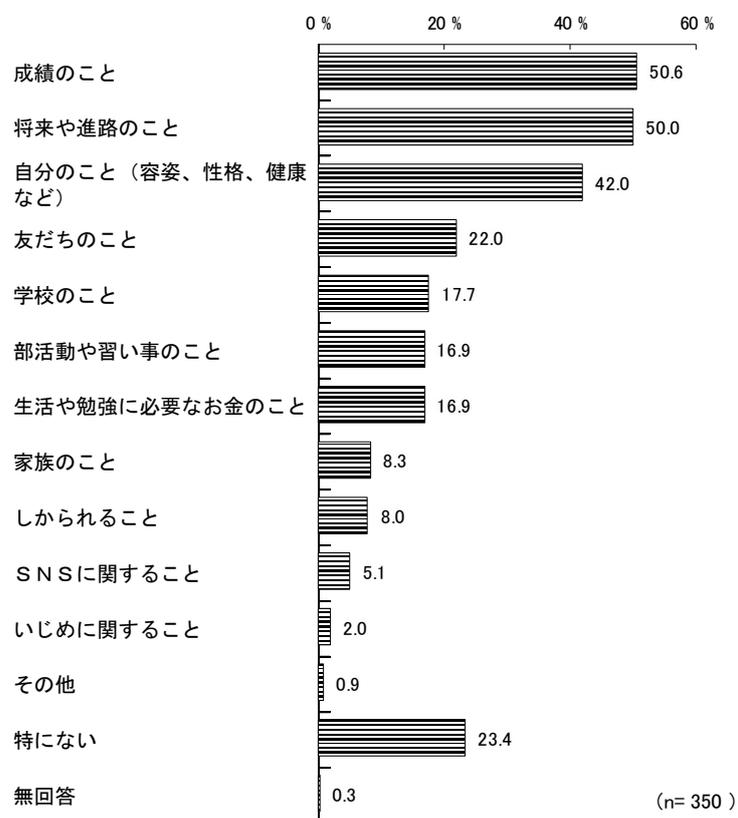
■保護者は自分の意見を聞いてくれるか



問 10 あなたの悩みや心配事はどれですか。

「成績のこと」(50.6%)が最も多く、「将来や進路のこと」(50.0%)、「自分のこと(容姿、性格、健康など)」(42.0%)と続きます。

■ 悩みや心配事 (複数回答)



【性別】

“男性”は「成績のこと」、「女性」は「将来や進路のこと」が最も多くなっています。“女性”は“男性”と比べて、「自分のこと（容姿、性格、健康など）」が約20ポイント、「友だちのこと」が約10ポイント多くなっています。

(単位：%)

	有効回答者数	自分のこと(容姿、性格、健康など)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
全体	350	42.0	50.6	50.0	22.0	5.1	17.7	16.9	8.3	16.9	2.0	8.0	0.9	23.4	0.3
男性	147	29.9	43.5	42.2	15.0	4.8	12.9	15.0	8.2	13.6	0.7	6.1	0.7	29.9	0.0
女性	190	50.0	54.2	55.8	25.8	4.7	20.0	18.4	7.4	17.9	2.1	8.4	0.5	19.5	0.5
その他	3	66.7	33.3	33.3	100.0	0.0	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0
回答したくない	9	66.7	88.9	55.6	33.3	22.2	22.2	22.2	11.1	33.3	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0

【自分への愛着別（自分のことが好きかどうか）】

“好き”では「特にない」が最も多く、それ以外では「自分のこと（容姿、性格、健康など）」「成績のこと」が多くなっています。また多くの項目で自分への愛着が低くなるにつれて、回答割合が多くなっています。

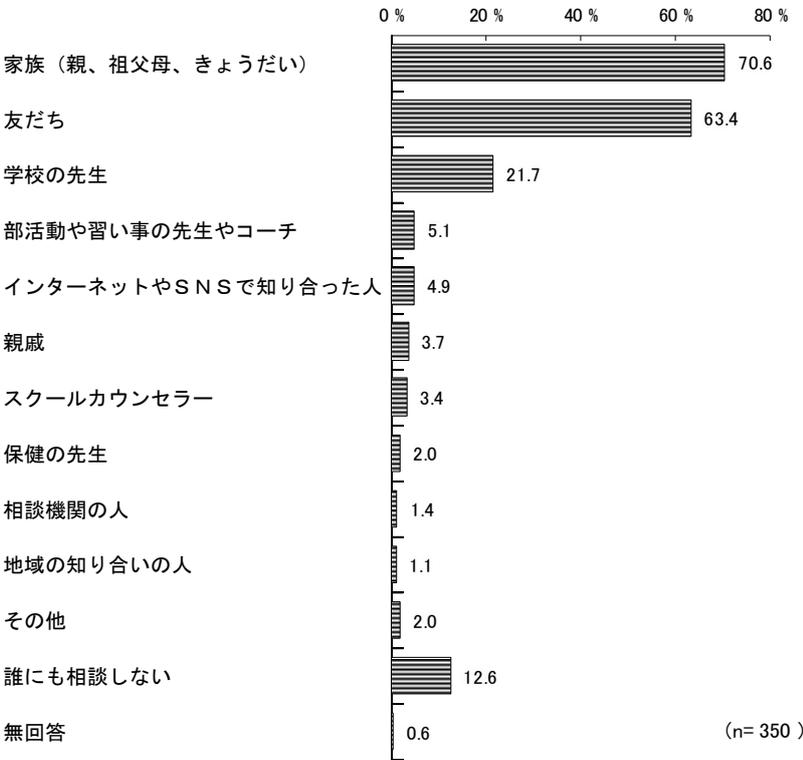
(単位：%)

	有効回答者数	自分のこと(容姿、性格、健康など)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
全体	350	42.0	50.6	50.0	22.0	5.1	17.7	16.9	8.3	16.9	2.0	8.0	0.9	23.4	0.3
好き	114	20.2	37.7	37.7	12.3	0.9	7.9	12.3	2.6	7.0	0.9	6.1	0.9	39.5	0.9
まあまあ好き	129	43.4	57.4	51.2	20.2	4.7	15.5	17.1	7.0	17.8	1.6	3.1	0.0	14.7	0.0
あまり好きでない	46	71.7	71.7	69.6	32.6	13.0	30.4	21.7	15.2	21.7	0.0	15.2	2.2	6.5	0.0
好きでない	22	86.4	59.1	77.3	50.0	4.5	54.5	31.8	36.4	50.0	4.5	22.7	4.5	4.5	0.0
好き(計)	243	32.5	48.1	44.9	16.5	2.9	11.9	14.8	4.9	12.8	1.2	4.5	0.4	26.3	0.4
好きでない(計)	68	76.5	67.6	72.1	38.2	10.3	38.2	25.0	22.1	30.9	1.5	17.6	2.9	5.9	0.0

問 11 悩みや心配事は誰に相談しますか。

「家族（親、祖父母、きょうだい）」（70.6%）が最も多く、「友だち」（63.4%）、「学校の先生」（21.7%）と続きます。一方、「誰にも相談しない」は1割半ばとなっています。

■相談先（複数回答）

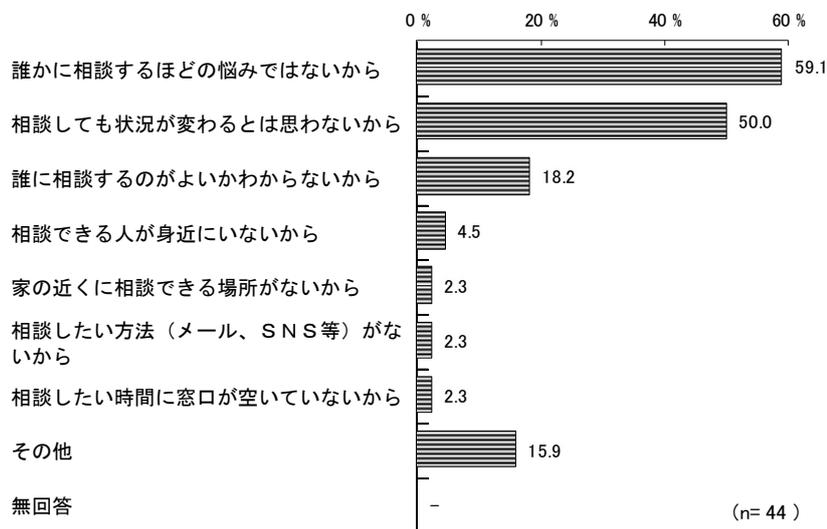


【問 11 で「12. 誰にも相談しない」に○をつけた方】

問 11-1 相談しない理由は何ですか。

「誰かに相談するほどの悩みではないから」(59.1%)が最も多く、「相談しても状況が変わると思わないから」(50.0%)、「誰に相談するのがよいかわからないから」(18.2%)と続きます。

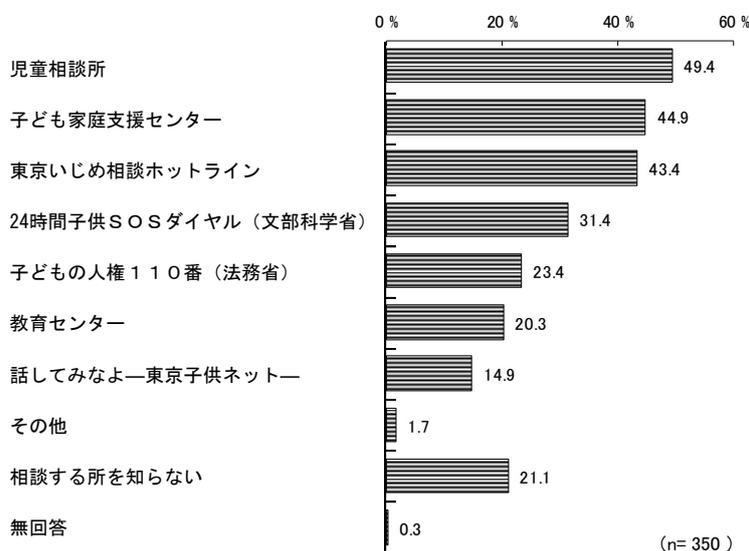
■相談しない理由（複数回答）



問 12 相談する所で知っているのはどれですか。

「児童相談所」(49.4%)が最も多く、「子ども家庭支援センター」(44.9%)、「東京いじめ相談ホットライン」(43.4%)と続きます。一方、「相談する所を知らない」(21.1%)が約2割となっています。

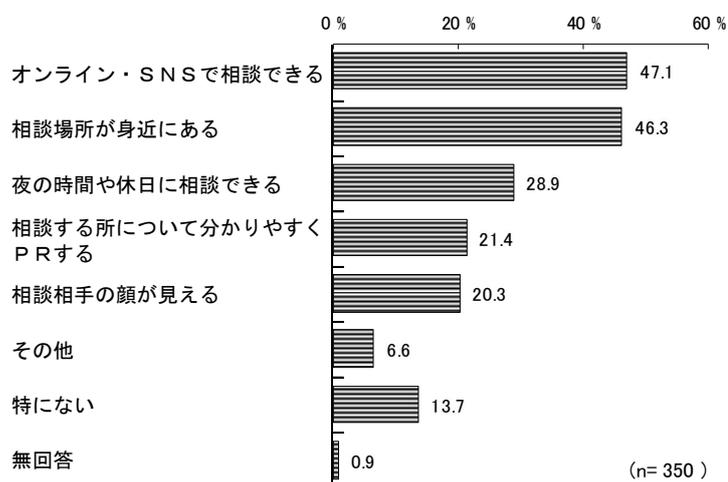
■悩みや心配事の相談先の認知度



問 13 問 12 のような相談する所が、相談しやすくなるためにはどうしたらよいと思いますか。

「オンライン・SNSで相談できる」(47.1%)が最も多く、「相談場所が身近にある」(46.3%)、「夜の時間や休日に相談できる」(28.9%)と続きます。

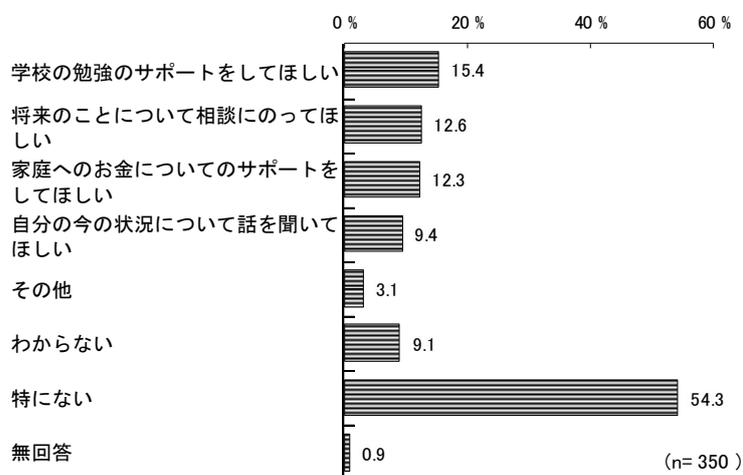
■ 悩みや相談事を相談しやすくなるための方策（複数回答）



問 14 区役所や地域で活動する大人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか。

「学校の勉強のサポートをしてほしい」(15.4%)が最も多く、「将来のことについて相談にのってほしい」(12.6%)、「家庭へのお金についてのサポートをしてほしい」(12.3%)と続きます。

■ 区役所や地域で活動する大人に助けてほしいこと（複数回答）

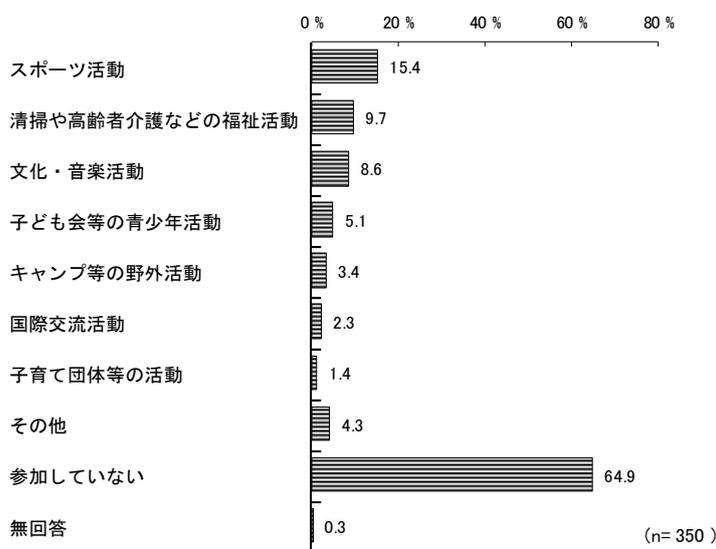


(3) 地域での活動について

問 15 あなたがこの1年間に参加した地域活動はどれですか。

「スポーツ活動」(15.4%)が最も多く、「清掃や高齢者介護などの福祉活動」(9.7%)、「文化・音楽活動」(8.6%)と続きます。

■ 1年間に参加した地域活動（複数回答）



【性別】

“男性”“女性”ともに「参加していない」が最も多くなっています。“男性”は“女性”と比べて「スポーツ活動」が多くなっています。

(単位:%)

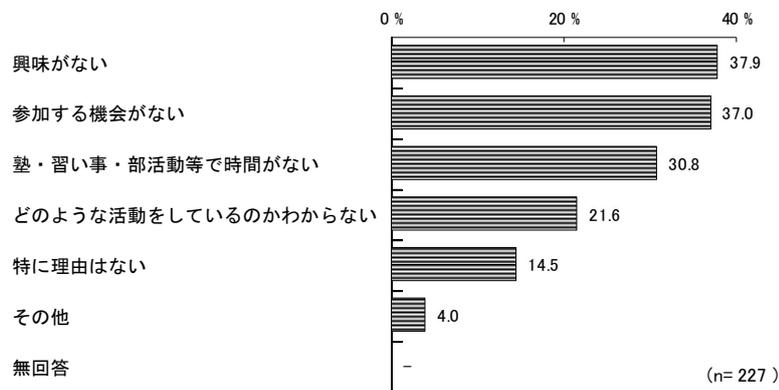
	有効回答者数	スポーツ活動	文化・音楽活動	福祉活動 清掃や高齢者介護などの	国際交流活動	子ども会等の青少年活動	キャンプ等の野外活動	子育て団体等の活動	その他	参加していない	無回答
全体	350	15.4	8.6	9.7	2.3	5.1	3.4	1.4	4.3	64.9	0.3
男性	147	22.4	7.5	10.2	3.4	7.5	5.4	0.7	4.8	59.2	0.0
女性	190	9.5	9.5	9.5	1.6	3.7	1.6	2.1	4.2	68.9	0.5
その他	3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
回答したくない	9	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	77.8	0.0

【問 15 で「9. 参加していない」に○をつけた方】

問 15-1 参加していない理由は何ですか。

「興味がない」(37.9%)が最も多く、「参加する機会がない」(37.0%)、「塾・習い事・部活動等で時間がない」(30.8%)と続きます。

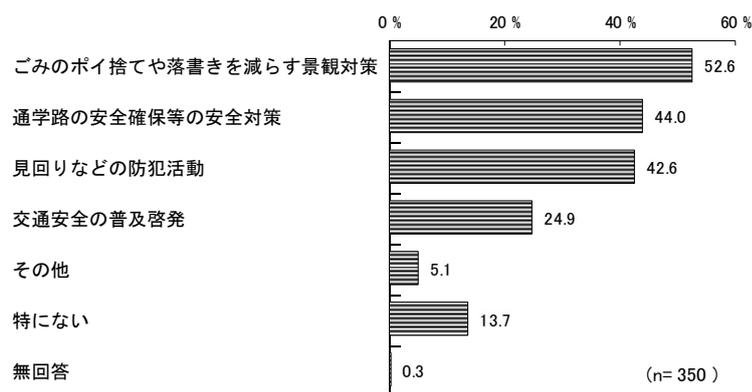
■参加していない理由（複数回答）



問 16 地域をよくするために必要だと思う地域活動は何ですか。

「ごみのポイ捨てや落書きを減らす景観対策」(52.6%)が最も多く、「通学路の安全確保等の安全対策」(44.0%)、「見回りなどの防犯活動」(42.6%)と続きます。

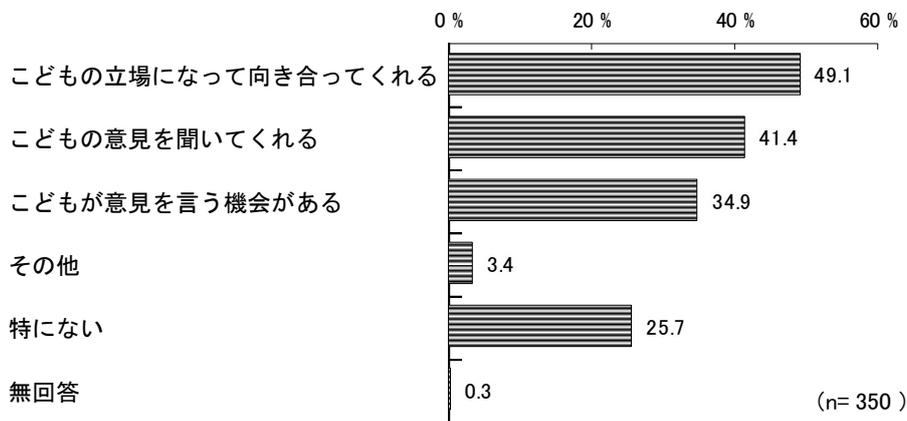
■地域をよくするために必要だと思う活動（複数回答）



問 17 地域活動をするにあたり、周りの大人にやってほしいことは何ですか。

「こどもの立場になって向き合ってくれる」(49.1%)が最も多く、「こどもの意見を聞いてくれる」(41.4%)、「こどもが意見を言う機会がある」(34.9%)と続きます。一方、「特にない」(25.7%)は2割半ばとなっています。

■地域活動での大人への要望（複数回答）

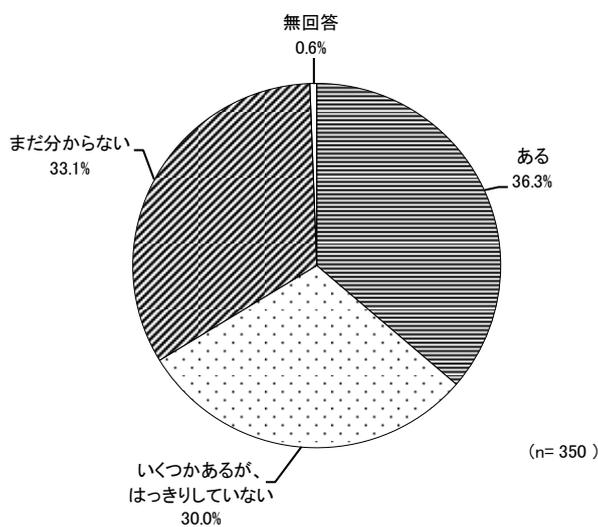


(4) 将来についての考えについて

問 18 あなたは、将来なりたい仕事や夢はありますか。

「ある」(36.3%)、「いくつかあるが、はっきりしていない」(30.0%)、「まだ分からない」(33.1%)となっています。

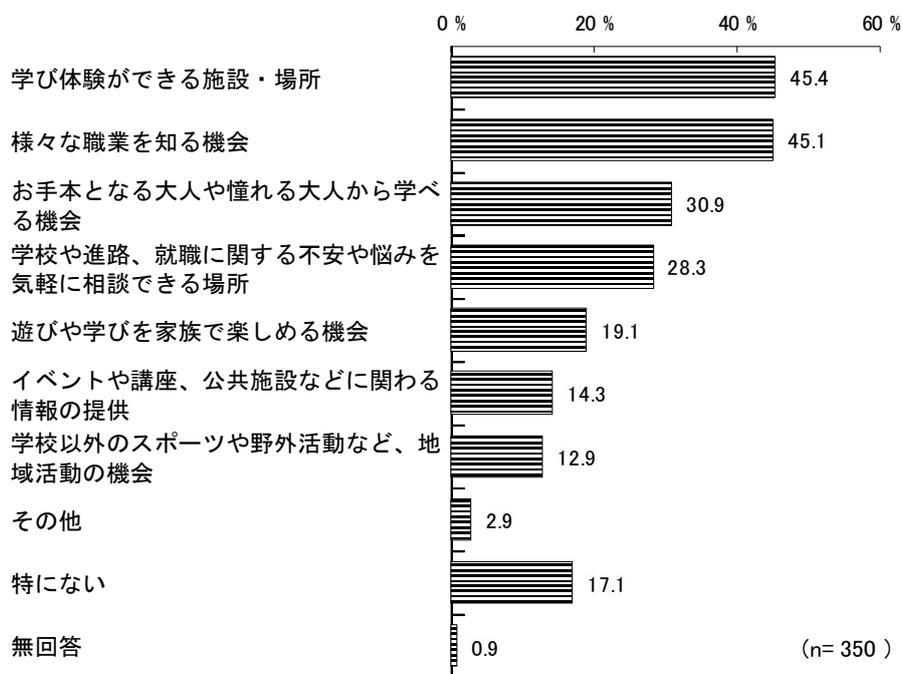
■なりたい仕事や夢の有無



問 19 将来なりたい仕事や夢を見つけるために、どのような支援を受けたいですか。

「学び体験ができる施設・場所」(45.4%)が最も多く、「様々な職業を知る機会」(45.1%)、「お手本となる大人や憧れる大人から学べる機会」(30.9%)と続きます。一方、「特にない」(17.1%)は1割半ばとなっています。

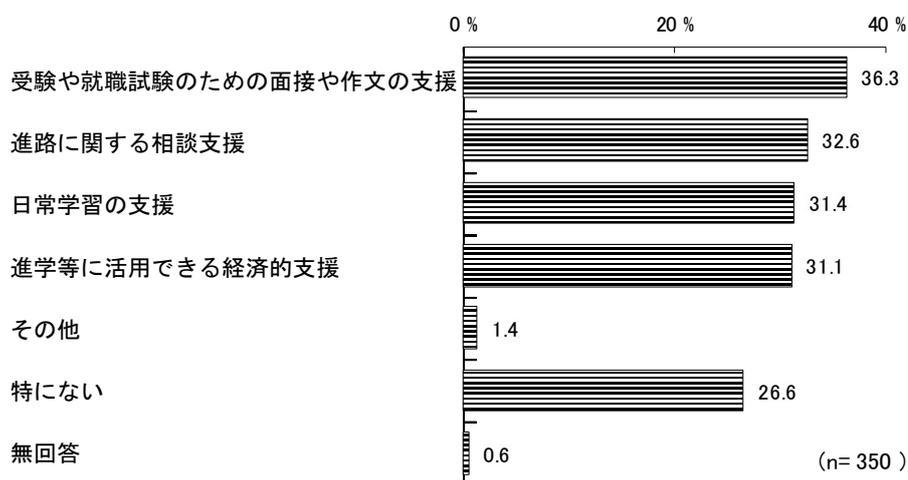
■ なりたい仕事や夢を見つけるために受けたい支援（複数回答）



問 20 将来なりたい仕事や夢を実現するために、どのような支援を受けたいですか。

「受験や就職試験のための面接や作文の支援」(36.3%)が最も多く、「進路に関する相談支援」(32.6%)、「日常学習の支援」(31.4%)と続きます。一方、「特にない」(26.6%)は2割半ばとなっています。

■なりたい仕事や夢を実現するために受けたい支援（複数回答）



【性別】

“男性”は「進路に関する相談支援」、「女性」は「受験や就職試験のための面接や作文の支援」が最も多くなっています。

(単位: %)

	有効回答者数	日常学習の支援	受験や就職試験のための面接や作文の支援	進学等に活用できる経済的支援	進路に関する相談支援	その他	特にない	無回答
全体	350	31.4	36.3	31.1	32.6	1.4	26.6	0.6
男性	147	29.3	32.7	28.6	34.0	0.7	29.3	0.7
女性	190	33.7	39.5	32.6	32.6	0.5	24.7	0.5
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0
回答したくない	9	33.3	44.4	44.4	22.2	11.1	22.2	0.0

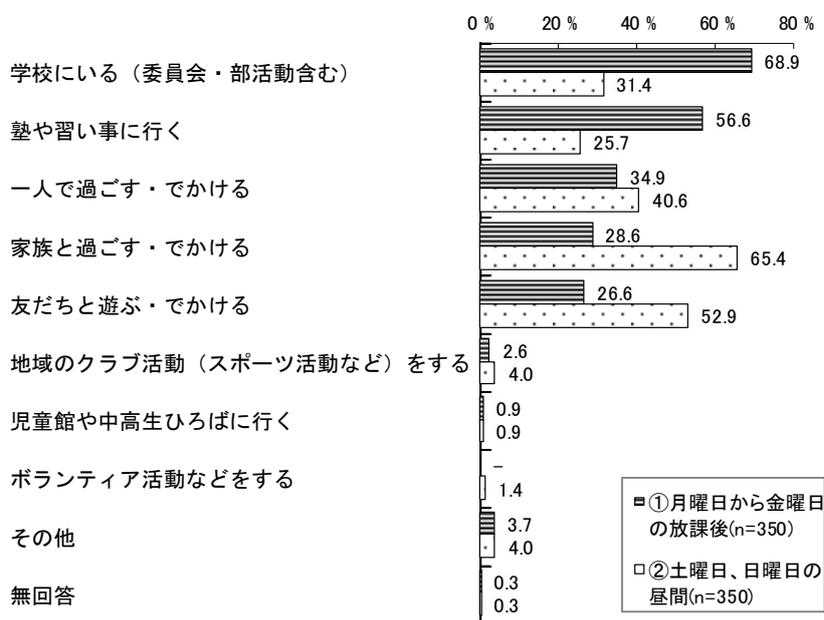
(5) 普段の過ごし方について

問 21 『①月曜日から金曜日の放課後』、『②土曜日、日曜日の昼間』それぞれにどんなことをすることが多いですか。

『①月曜日から金曜日の放課後』は、「学校にいる（委員会・部活動含む）」（68.9%）が最も多く、「塾や習い事に行く」（56.6%）、「一人で過ごす・でかける」（34.9%）と続きます。

『②土曜日、日曜日の昼間』は、「家族と過ごす・でかける」（65.4%）が最も多く、「友だちと遊ぶ・でかける」（52.9%）、「一人で過ごす・でかける」（40.6%）と続きます。

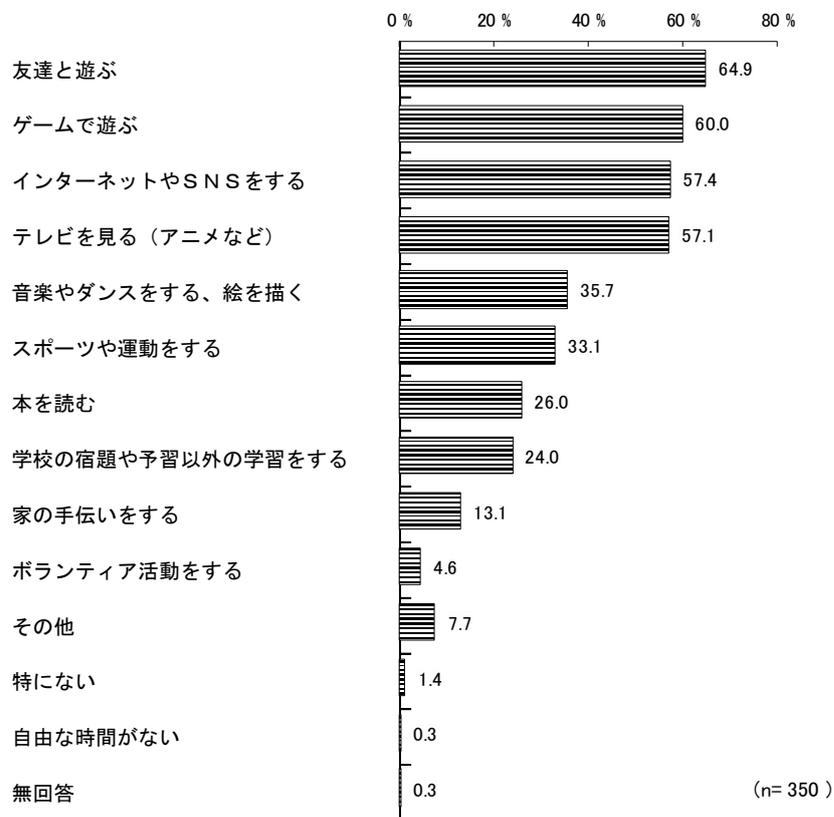
■放課後や休日の過ごし方（3つまで）



問 22 あなたは放課後や休日の自由な時間に、どんなことがしたいですか。

「友達と遊ぶ」(64.9%)が最も多く、「ゲームで遊ぶ」(60.0%)、「インターネットやSNSをする」(57.4%)と続きます。

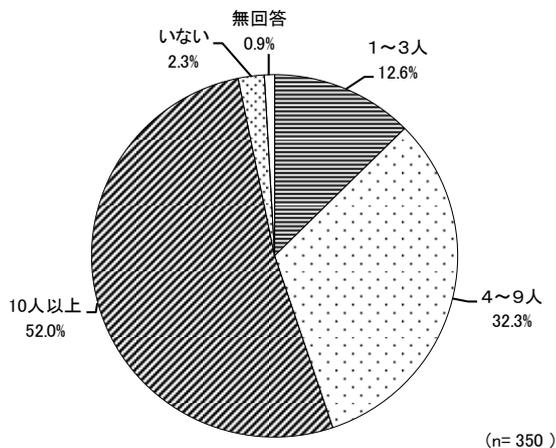
■放課後や休日にしたいこと（複数回答）



問 23 あなたは、一緒に遊んだり話したりする友だちが何人いますか。

「10人以上」(52.0%)が最も多く、「4～9人」(32.3%)、「1～3人」(12.6%)と続きます。

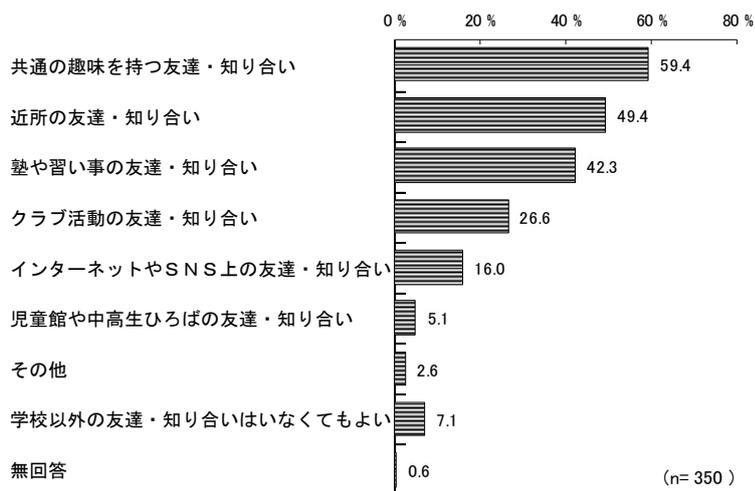
■一緒に遊んだり話したりする友だちの数



問 24 学校以外で、どんな友達や知り合いがいたら楽しいと思いますか。

「共通の趣味を持つ友達・知り合い」(59.4%)が最も多く、「近所の友達・知り合い」(49.4%)、「塾や習い事の友達・知り合い」(42.3%)と続きます。

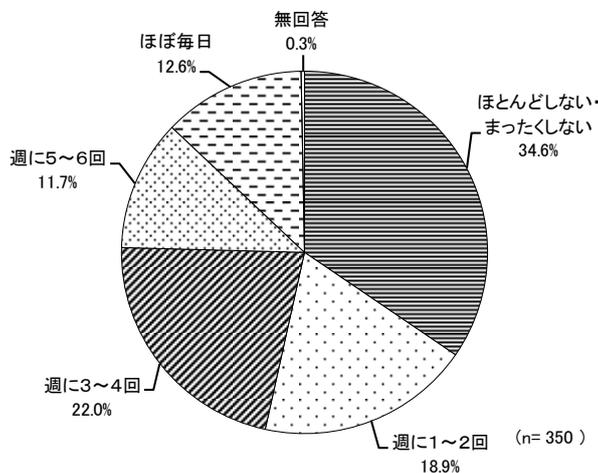
■学校以外でいたら楽しいと思う友達や知り合い（複数回答）



問 25 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。

「ほとんどしない・まったくしない」(34.6%)が最も多く、「週に3～4回」(22.0%)、「週に1～2回」(18.9%)と続きます。

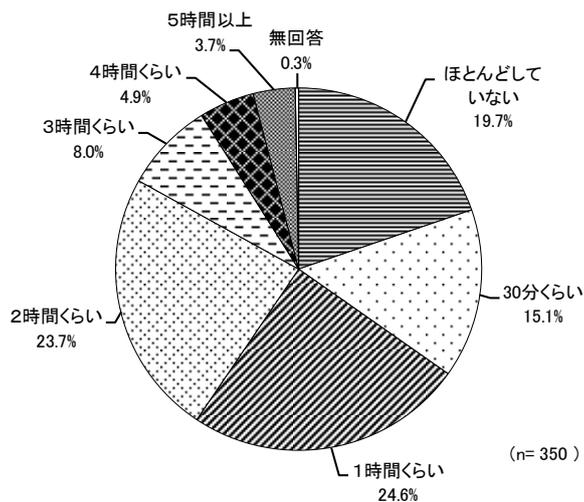
■30分以上からだを動かす遊びや習い事の1週間あたり実施頻度



問 26 普段、学校以外で1日何時間くらい勉強をしていますか。

「1時間くらい」(24.6%)が最も多く、「2時間くらい」(23.7%)、「ほとんどしていない」(19.7%)と続きます。

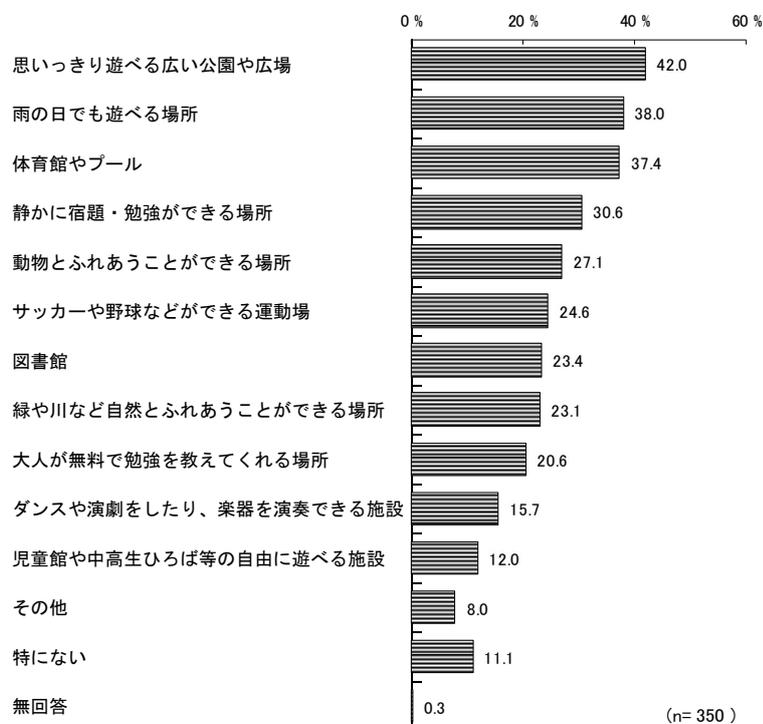
■学校以外での1日当たりの勉強時間



問 27 近くにあったらいいと思う遊び場や施設は何ですか。

「思いっきり遊べる広い公園や広場」(42.0%)が最も多く、「雨の日でも遊べる場所」(38.0%)、「体育館やプール」(37.4%)、「静かに宿題・勉強ができる場所」(30.6%)と続きます。

■ 近くにあったらいいと思う遊び場・施設（複数回答）



【性別】

“男性”は「思いっきり遊べる広い公園や広場」、「女性」は「雨の日でも遊べる場所」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	思いっきり遊べる広い公園や広場	サッカーや野球などができる運動場	体育館やプール	図書館	児童館や中高生ひろば等の自由に遊べる施設	緑や川など自然とふれあうことができる場所	動物とふれあうことができる場所	雨の日でも遊べる場所	ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設	静かに宿題・勉強ができる場所	大人が無料で勉強を教えてくれる場所	その他	特にない	無回答
全体	350	42.0	24.6	37.4	23.4	12.0	23.1	27.1	38.0	15.7	30.6	20.6	8.0	11.1	0.3
男性	147	50.3	39.5	39.5	17.7	12.2	24.5	19.7	35.4	7.5	21.8	15.0	4.8	14.3	0.7
女性	190	37.9	14.7	36.8	27.9	11.6	21.1	33.2	41.1	22.1	36.8	25.3	8.4	8.9	0.0
その他	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0
回答したくない	9	0.0	0.0	33.3	33.3	11.1	33.3	33.3	22.2	11.1	33.3	22.2	44.4	11.1	0.0

【地区別】

“調布地区”は「体育館やプール」が最も多く、それ以外の地区では「思いっきり遊べる広い公園や広場」が最も多くなっています。

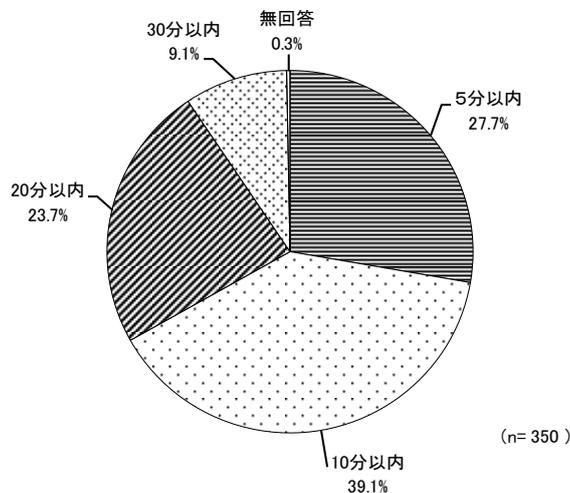
(単位:%)

	有効回答者数	思いっきり遊べる広い公園や広場	サッカーや野球などができる運動場	体育館やプール	図書館	児童館や中高生ひろば等の自由に遊べる施設	緑や川など自然とふれあうことができる場所	動物とふれあうことができる場所	雨の日でも遊べる場所	ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設	静かに宿題・勉強ができる場所	大人が無料で勉強を教えてくれる場所	その他	特にない	無回答
全体	350	42.0	24.6	37.4	23.4	12.0	23.1	27.1	38.0	15.7	30.6	20.6	8.0	11.1	0.3
大森地区	92	45.7	27.2	37.0	22.8	10.9	27.2	31.5	39.1	17.4	27.2	21.7	9.8	12.0	0.0
調布地区	100	39.0	31.0	40.0	38.0	10.0	25.0	31.0	37.0	16.0	36.0	19.0	11.0	9.0	1.0
蒲田地区	96	40.6	19.8	35.4	15.6	14.6	15.6	25.0	38.5	13.5	27.1	21.9	7.3	9.4	0.0

問 28 あなたは遊び場や施設が徒歩で何分以内であれば利用しますか。

「10分以内」(39.1%)が最も多く、「5分以内」(27.7%)、「20分以内」(23.7%)と続きます。

■遊び場や施設が徒歩何分以内なら利用するか

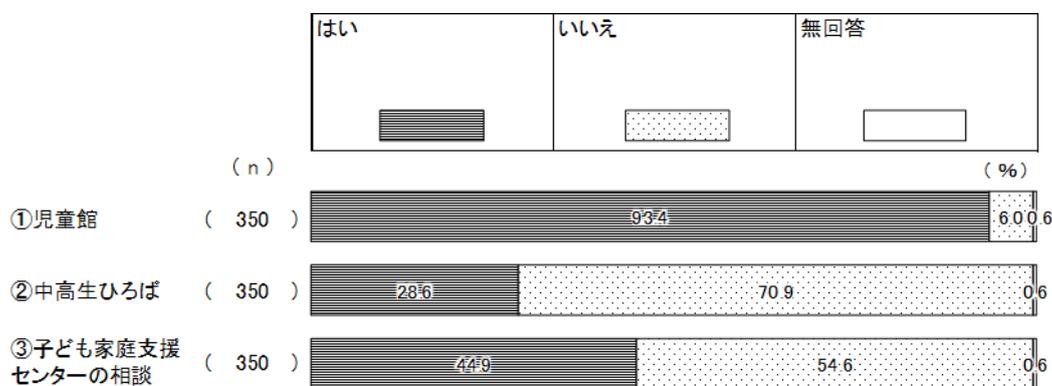


問 29 区のサービス・施設で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。①～③の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

① 認知度 (知っている)

“児童館”の認知度が最も高く93.4%、“中高生ひろば”が28.6%、“子ども家庭支援センターの相談”が4割半ばとなっています。

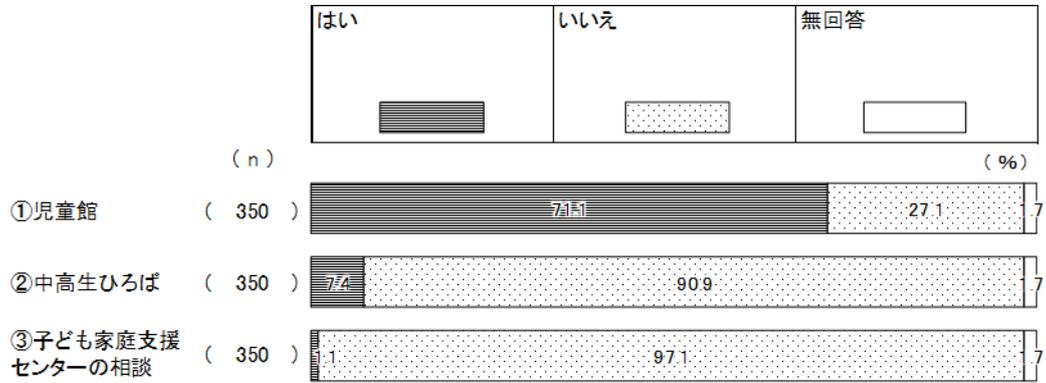
■認知度



② 利用経験（これまでに利用したことがある）

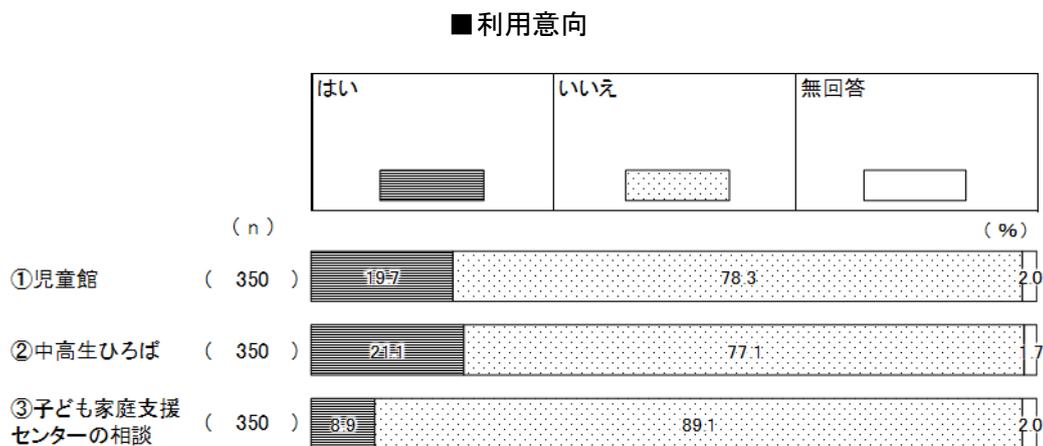
“児童館”は約7割がこれまでに利用したことがある一方で、“中高生ひろば”と“子ども家庭支援センターの相談”は9割以上がこれまでに利用したことがないとなっています。

■ 利用経験



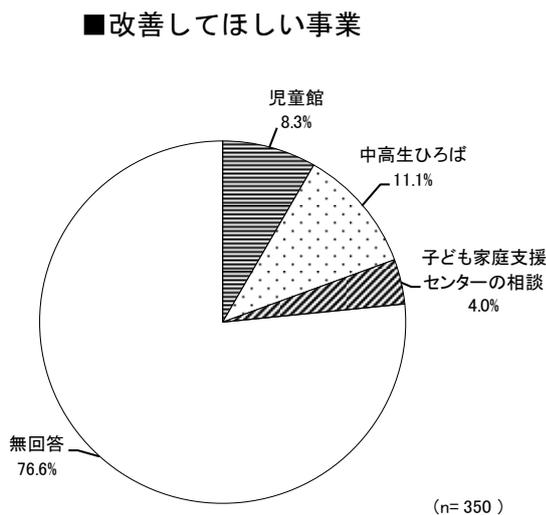
③ 利用意向（今後利用したい）

“児童館”と“中高生ひろば”は約2割、“子ども家庭支援センターの相談”は約1割が今後利用したいとなっています。



問 30 問 29 の①～③の事業について、改善してほしい事業はありますか。改善してほしい事業を1つ選び、①～③の番号をご記入ください。また、改善点をご記入ください。

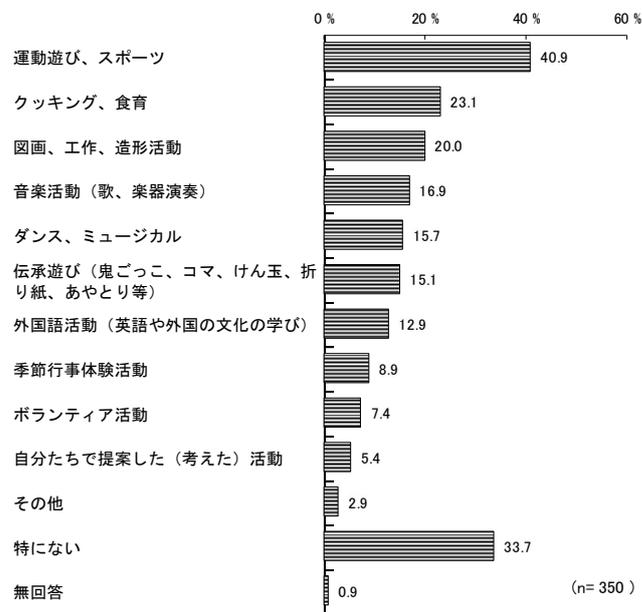
「児童館」(8.3%)、「中高生ひろば」(11.1%)、「子ども家庭支援センターの相談」(4.0%)となっています。



問 31 児童館や中高生ひろばでやってみたいこと、やってほしいことは何ですか。

「運動遊び、スポーツ」(40.9%)が最も多く、「クッキング、食育」(23.1%)、「図画、工作、造形活動」(20.0%)、「音楽活動(歌、楽器演奏)」(16.9%)、「ダンス・ミュージカル」(15.7%)と続きます。

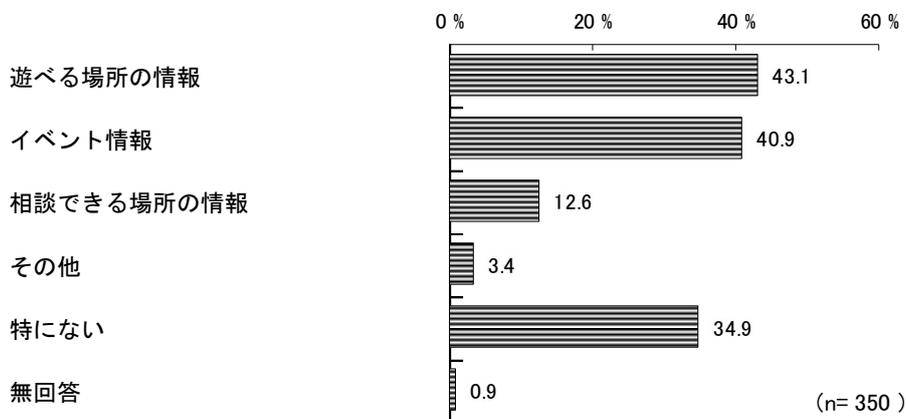
■ 児童館や中高生ひろばでやってみたいこと、やってほしいこと(複数回答)



問 32 あなたは、区役所からどんな情報を発信してほしいと思いますか。

「遊べる場所の情報」(43.1%)が最も多く、「イベント情報」(40.9%)、「相談できる場所の情報」(12.6%)と続きます。

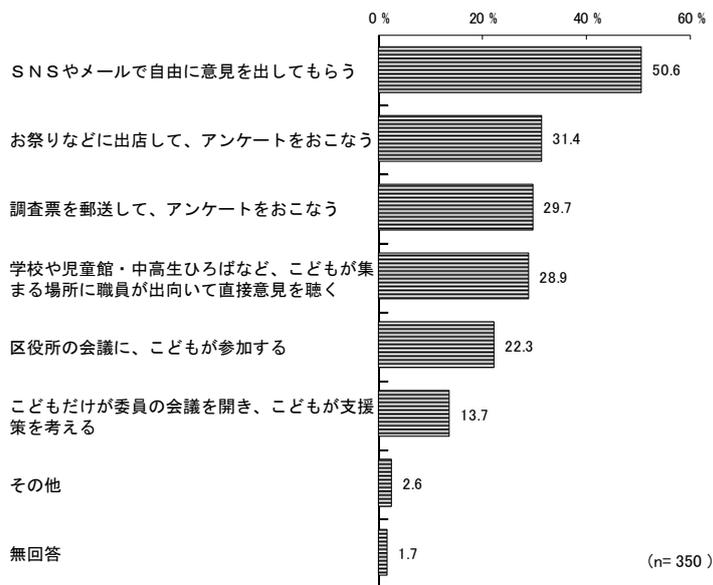
■ 区から発信してほしい情報(複数回答)



問 33 皆さんへの支援策を検討するために区役所が皆さんから意見を聞く方法として、よいと思うものは何ですか。

「SNSやメールで自由に意見を出してもらおう」(50.6%)が最も多く、「お祭りなどに出店して、アンケートをおこなう」(31.4%)、「調査票を郵送して、アンケートをおこなう」(29.7%)、と続きます。

■区役所による望ましい意見聴取方法（複数回答）

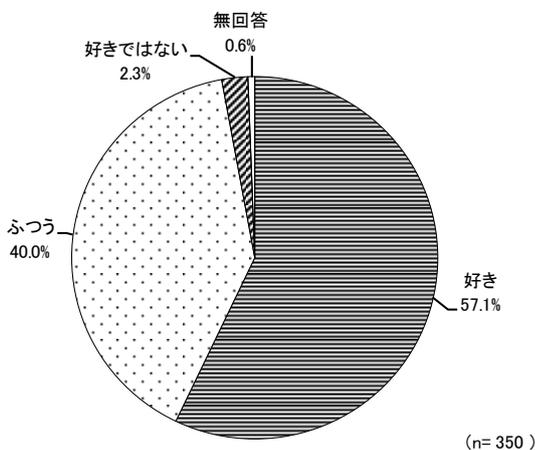


(6) あなたのお考えについて

問 34 あなたは、現在暮らしている地域が好きですか。

「好き」(57.1%)、「ふつう」(40.0%)、「好きではない」(2.3%)となっています。

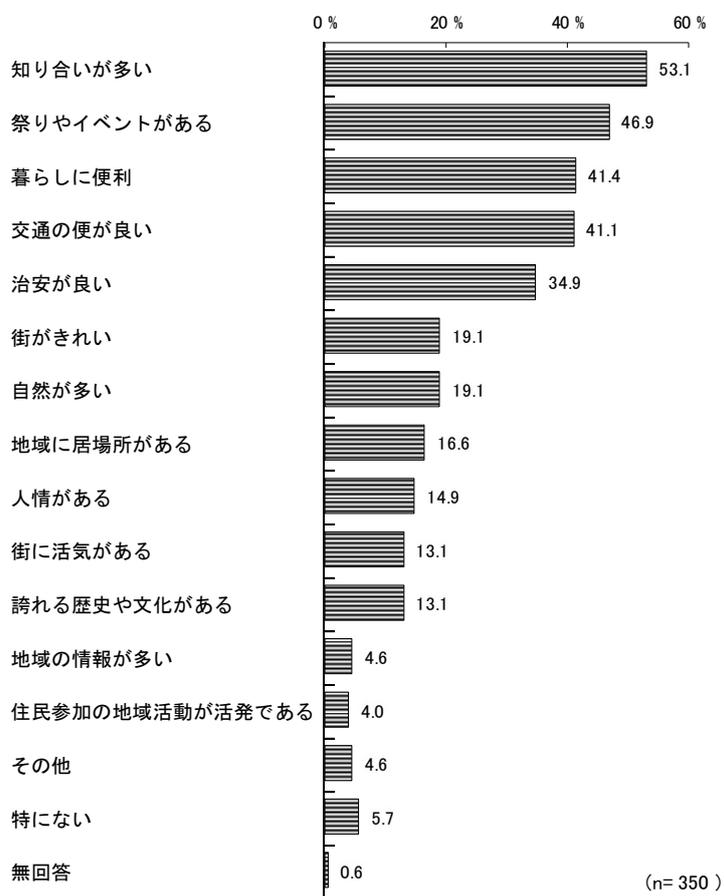
■地域への愛着



問 35 暮らしている地域の好きなところは次のうちどれですか。

「知り合いが多い」(53.1%)が最も多く、「祭りやイベントがある」(46.9%)、「暮らしに便利」(41.4%)、「交通の便が良い」(41.1%)、「治安が良い」(34.9%)と続きます。

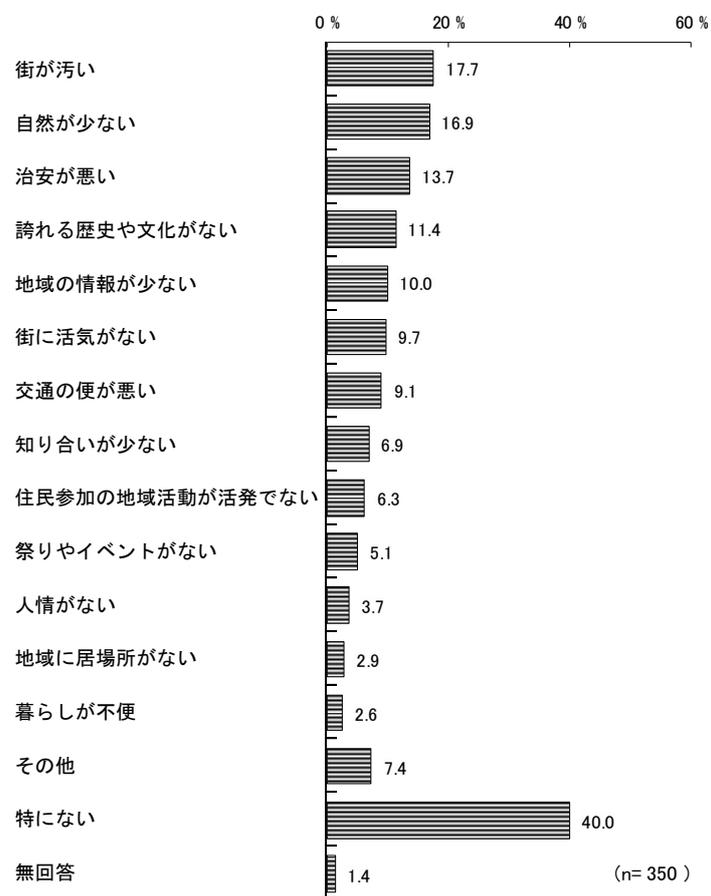
■暮らしている地域の好きなところ（複数回答）



問 36 暮らしている地域の好きではないところは次のうちどれですか。

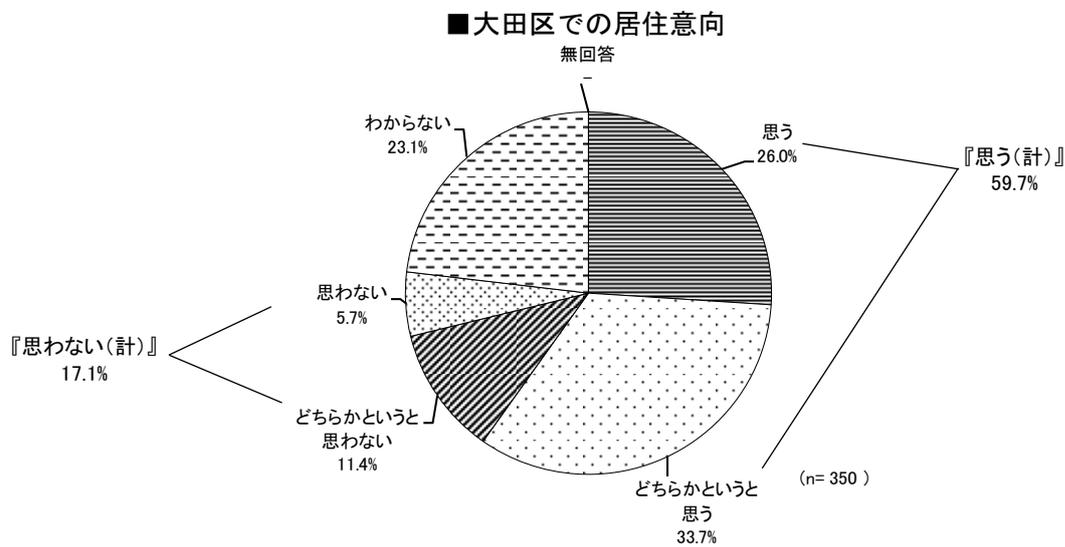
「街が汚い」(17.7%)が最も多く、「自然が少ない」(16.9%)、「治安が悪い」(13.7%)、「誇れる歴史や文化がない」(11.4%)、「地域の情報が少ない」(10.0%)と続きます。

■暮らしている地域の好きではないところ（複数回答）



問 37 あなたは、将来も大田区に住みたいと思いますか。

「どちらかというと思う」(33.7%)が最も多く、これに「思う」(26.0%)を合わせた『思う(計)』(59.7%)は約6割となっています。一方、「どちらかというと思わない」(11.4%)と「思わない」(5.7%)を合わせた『思わない(計)』(17.1%)は1割半ばとなっています。また、「わからない」(23.1%)は2割半ばとなっています。

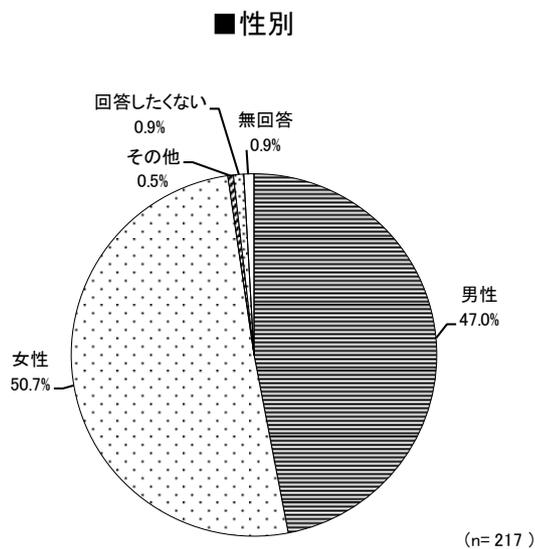


5 高校生世代

(1) あなたとご家族の状況について

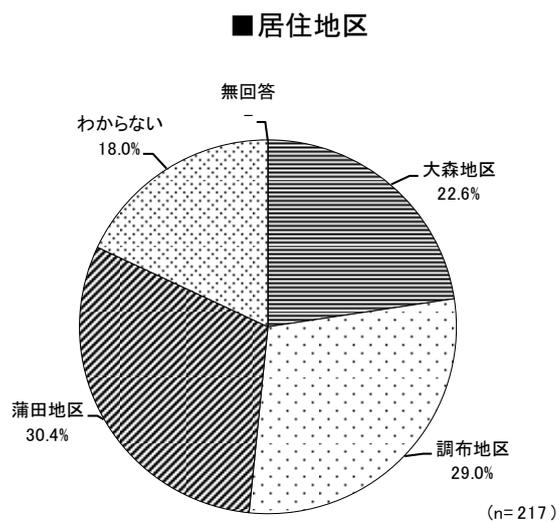
問1 あなたの性別をお答えください。

「男性」(47.0%)、「女性」(50.7%)、「回答したくない」(0.9%)となっています。



問2 あなたのお住まいの地域はどこですか。

「大森地区」(22.6%)、「調布地区」(29.0%)、「蒲田地区」(30.4%)となっています。

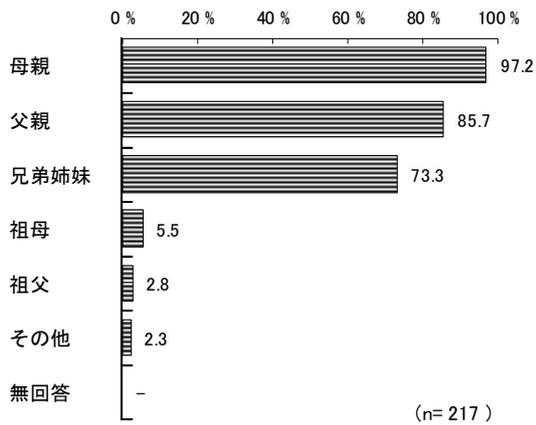


問3 あなたは誰と一緒に住んでいますか。また、あなたを含めて、何人で住んでいますか。

①同居家族

「母親」(97.2%)が最も多く、「父親」(85.7%)、「兄弟姉妹」(73.3%)、「祖母」(5.5%)、「祖父」(2.8%)と続きます。

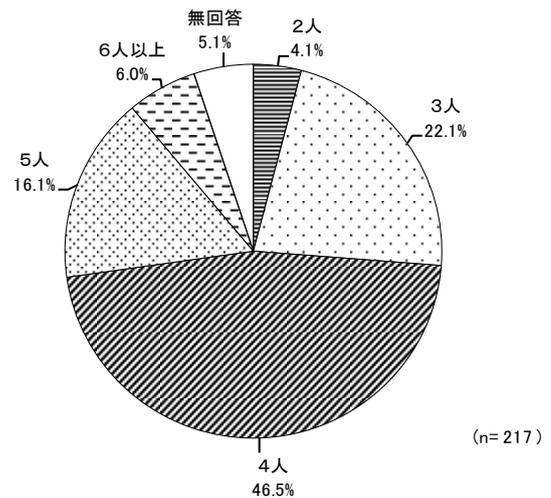
■同居家族（複数回答）



②家族の人数

「4人」(46.5%)が最も多く、「3人」(22.1%)、「5人」(16.1%)、「6人以上」(6.0%)と続きます。

■家族の人数



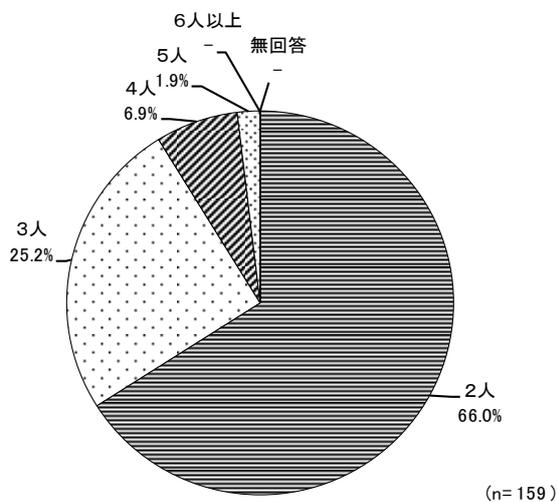
【問3で「3. 兄弟姉妹」に○をつけた方】

問3-1 あなたは何人きょうだいの何番目ですか。

①きょうだい数

「2人」(66.0%)が最も多く、「3人」(25.2%)、「4人」(6.9%)と続きます。

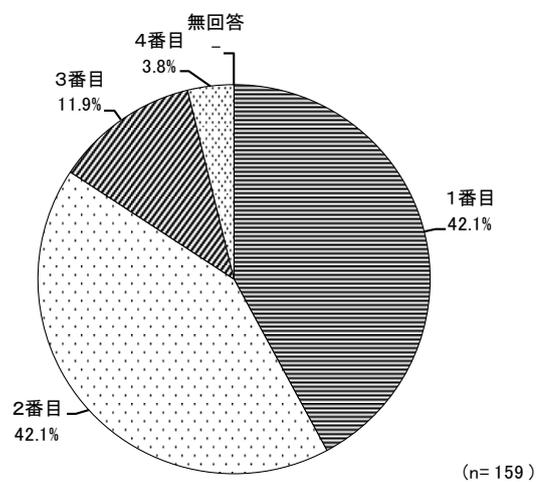
■きょうだい数



②自身がきょうだいで何番目か

「1番目」(42.1%)、「2番目」(42.1%)、「3番目」(11.9%)と続きます。

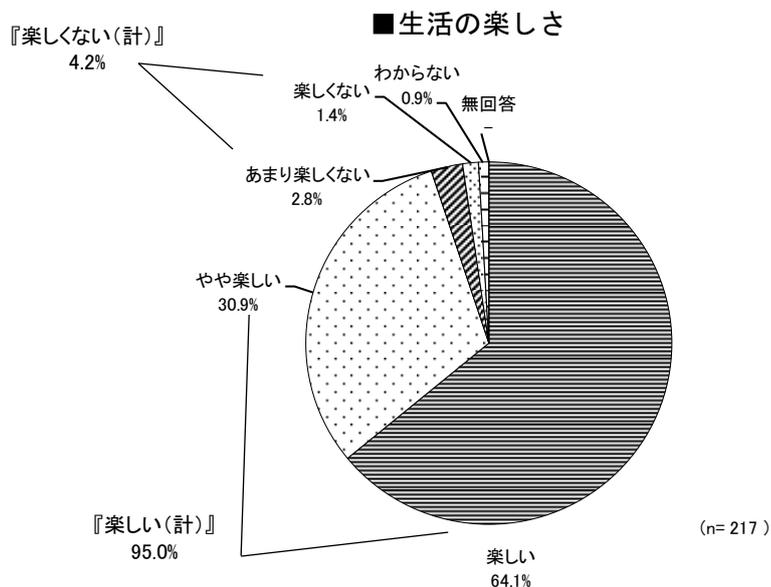
■きょうだいで何番目か



(2) あなた自身のこと、家族との関係について

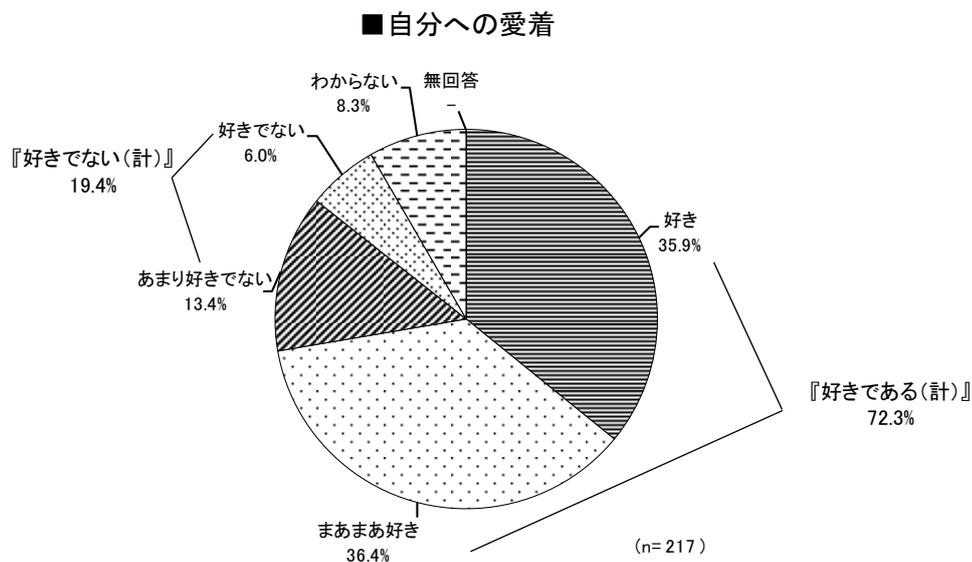
問4 毎日の生活は楽しいですか。

「楽しい」(64.1%)が最も多く、これに「やや楽しい」(30.9%)を合わせた『楽しい(計)』(95.0%)は9割半ばとなっています。一方、「あまり楽しくない」(2.8%)、「楽しくない」(1.4%)、を合わせた『楽しくない(計)』(4.2%)、「わからない」(0.9%)は1割未満となっています。



問5 あなたは自分のことが好きですか。

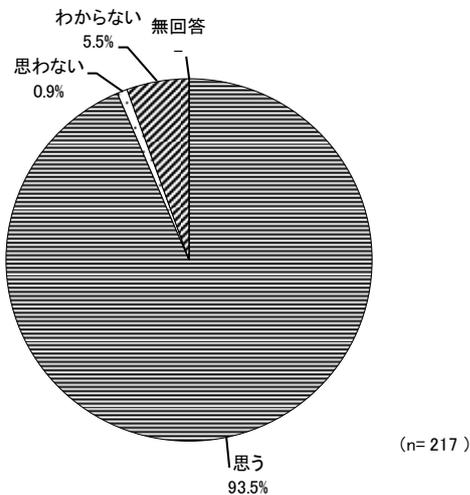
「まあまあ好き」(36.4%)が最も多く、これに「好き」(35.9%)を合わせた『好きである(計)』(72.3%)は約7割となっています。一方、「あまり好きでない」(13.4%)、「好きでない」(6.0%)、を合わせた『好きでない(計)』(19.4%)は約2割となっています。また「わからない」(8.3%)は1割未満となっています。



問6 あなたは家族から大切にされていますか。

「思う」(93.5%)が最も多く、「思わない」(0.9%)、「わからない」(5.5%)となっています。

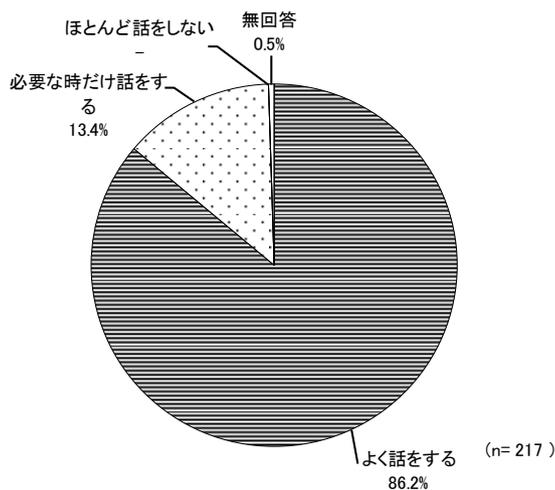
■保護者から大切にされていると思うか



問7 あなたは、保護者（お母さん、お父さんなど）とよく話をしますか。

「よく話をする」(86.2%)が最も多く、「必要な時だけ話をする」(13.4%)となっています。

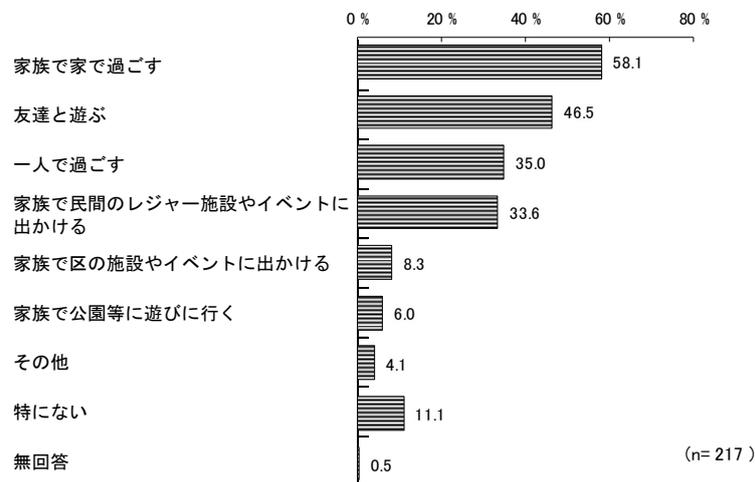
■保護者と話す機会



問8 保護者（お母さん、お父さんなど）が休日の時に、どのように過ごしたいと思いますか。

「家族で家で過ごす」(58.1%)が最も多く、「友達と遊ぶ」(46.5%)、「一人で過ごす」(35.0%)と続きます。

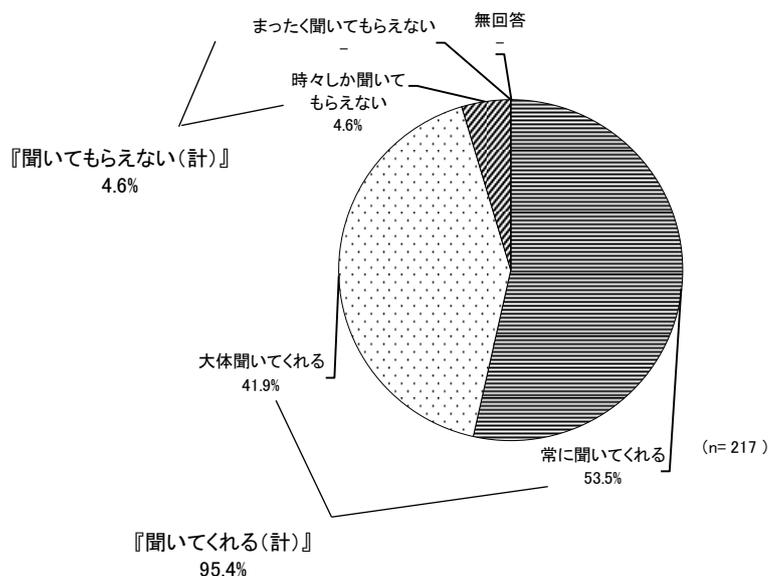
■保護者の休日にしたいこと（複数回答）



問9 あなたの家では、あなたのしたいことや家族での過ごし方などを決める時に、保護者（お母さん、お父さんなど）があなたの意見を聞いてくれますか。

「常に聞いてくれる」(53.5%)が最も高く、これに「大体聞いてくれる」(41.9%)を合わせた「聞いてくれる(計)」(95.4%)は9割半ばとなっています。一方、「時々しか聞いてもらえない」(4.6%)と「まったく聞いてもらえない」(0.0%)を合わせた「聞いてもらえない(計)」(4.6%)は1割未満となっています。

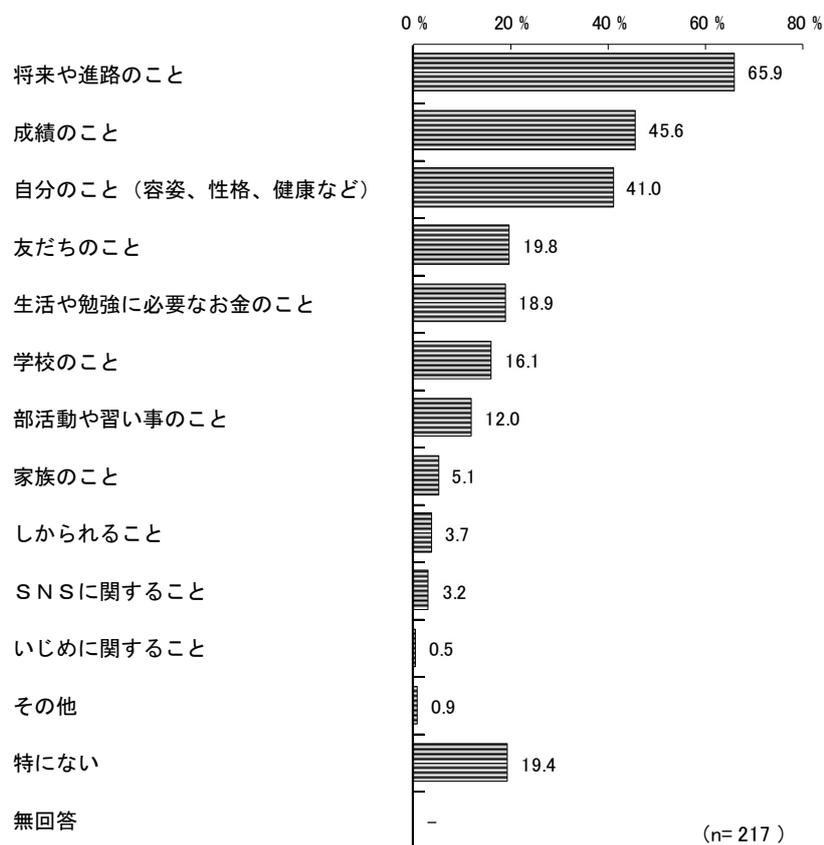
■保護者は自分の意見を聞いてくれるか c



問10 あなたの悩みや心配事はどれですか。

「将来や進路のこと」(65.9%)が最も多く、「成績のこと」(45.6%)、「自分のこと(容姿、性格、健康など)」(41.0%)と続きます。一方、「特にない」(19.4%)は約2割となっています。

■悩みや心配事(複数回答)



【性別】

“男性”“女性”ともに「将来や進路のこと」が最も多くなっています。“女性”は“男性”と比べて、ほとんどの項目で割合が多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	自分のこと(容姿、性格、健康など)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
全体	217	41.0	45.6	65.9	19.8	3.2	16.1	12.0	5.1	18.9	0.5	3.7	0.9	19.4	0.0
男性	102	36.3	44.1	63.7	15.7	0.0	13.7	13.7	3.9	13.7	1.0	1.0	0.0	19.6	0.0
女性	110	45.5	49.1	68.2	24.5	6.4	19.1	10.0	6.4	22.7	0.0	5.5	0.9	19.1	0.0
その他	1	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	2	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0

【自分への愛着別（自分のことが好きかどうか）】

すべての愛着で「将来や進路のこと」が最も多くなっています。「自分のこと（容姿、性格、健康など）」「成績のこと」「将来や進路のこと」で自分への愛着が低くなるにつれて、回答割合が多くなっています。

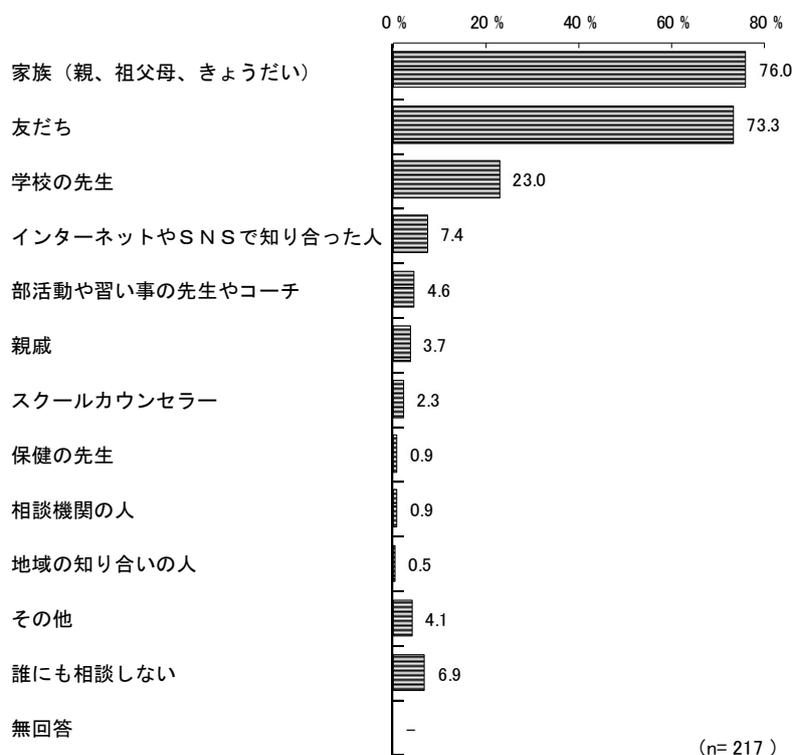
(単位:%)

	有効回答者数	自分のこと(容姿、性格、健康など)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない
全体	217	41.0	45.6	65.9	19.8	3.2	16.1	12.0	5.1	18.9	0.5	3.7	0.9	19.4
好き	78	28.2	42.3	57.7	12.8	1.3	15.4	10.3	7.7	19.2	1.3	5.1	1.3	24.4
まあまあ好き	79	39.2	46.8	68.4	20.3	2.5	12.7	12.7	0.0	15.2	0.0	2.5	0.0	20.3
あまり好きでない	29	69.0	48.3	72.4	44.8	10.3	24.1	24.1	10.3	31.0	0.0	3.4	0.0	10.3
好きでない	13	84.6	69.2	100.0	23.1	7.7	23.1	0.0	15.4	30.8	0.0	0.0	0.0	0.0
好き(計)	157	33.8	44.6	63.1	16.6	1.9	14.0	11.5	3.8	17.2	0.6	3.8	0.6	22.3
好きでない(計)	42	73.8	54.8	81.0	38.1	9.5	23.8	16.7	11.9	31.0	0.0	2.4	0.0	7.1

問 11 悩みや心配事は誰に相談しますか。

「家族（親、祖父母、きょうだい）」（76.0%）が最も多く、「友だち」（73.3%）、「学校の先生」（23.0%）と続きます。一方「誰にも相談しない」（6.9%）は1割未満となっています。

■相談先（複数回答）

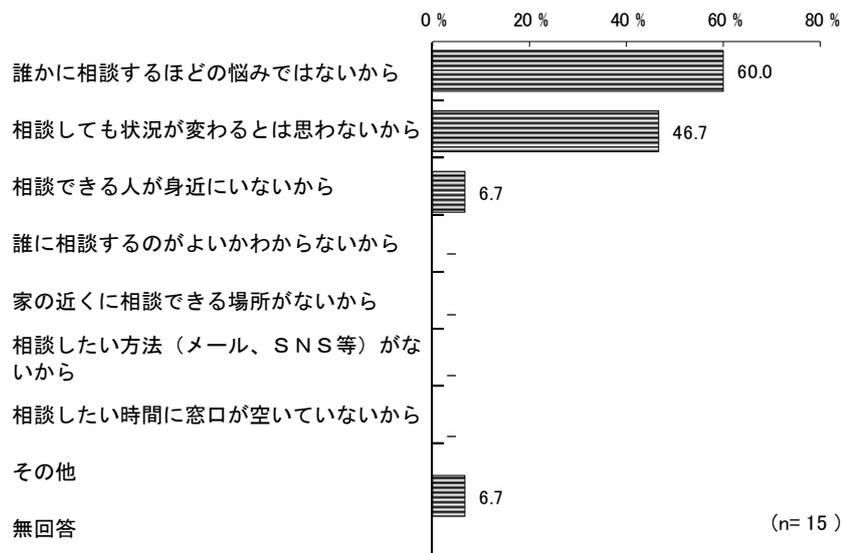


【問 11 で「12. 誰にも相談しない」に○をつけた方】

問 11-1 相談しない理由は何ですか。

「誰かに相談するほどの悩みではないから」(60.0%)が最も多く、「相談しても状況が変わるとは思わないから」(46.7%)、「相談できる人が身近にいないから」(6.7%)と続きます。

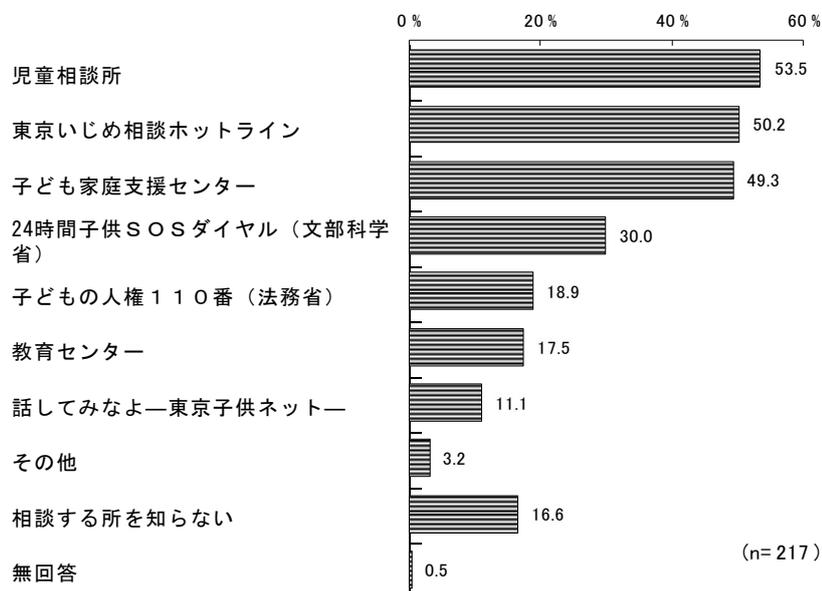
■相談しない理由（複数回答）



問 12 相談する所で知っているのはどれですか。

「児童相談所」(53.5%)が最も多く、「東京いじめ相談ホットライン」(50.2%)、「子ども家庭支援センター」(49.3%)と続きます。一方、「相談する所を知らない」(16.6%)は1割半ばとなっています。

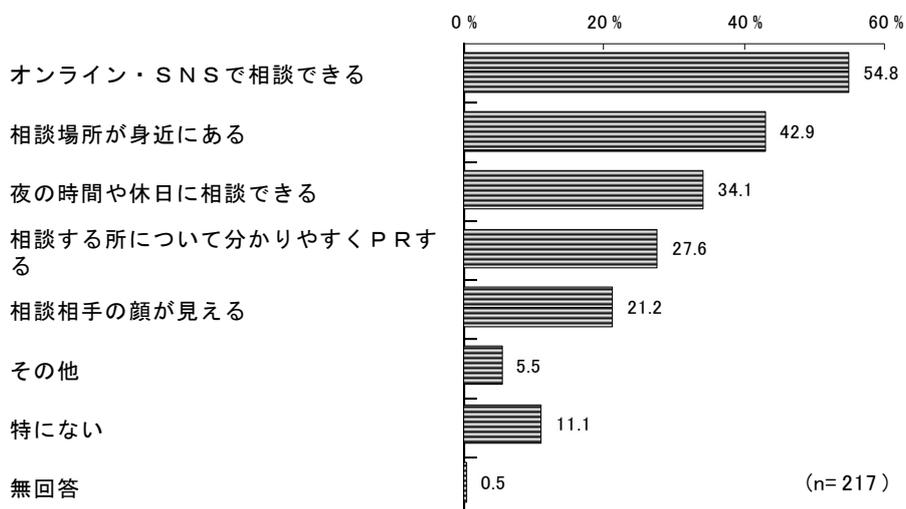
■悩みや心配事を相談できる機関の認知度（複数回答）



問 13 問 12 のような相談する所が、相談しやすくなるためにはどうしたらよいと思いますか。

「オンライン・SNSで相談できる」(54.8%)が最も多く、「相談場所が身近にある」(42.9%)、「夜の時間や休日に相談できる」(34.1%)と続きます。

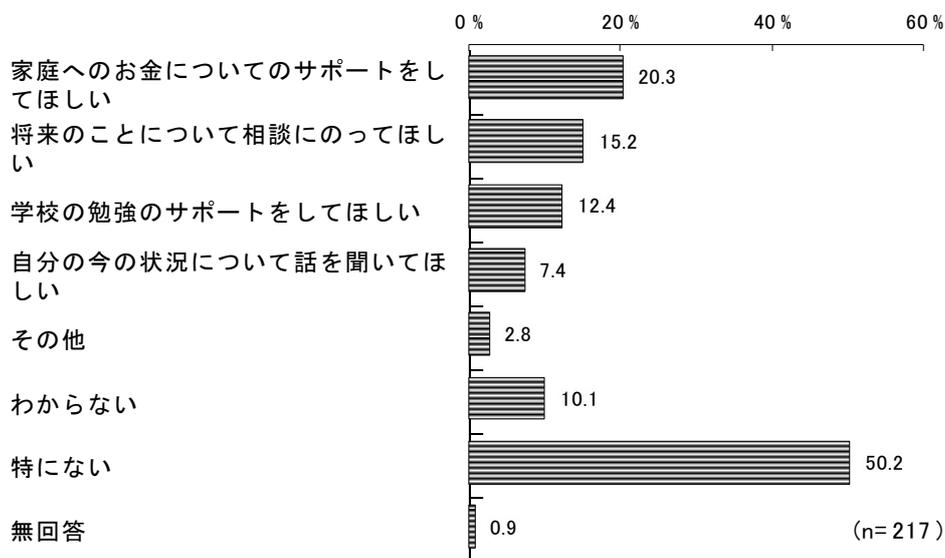
■悩みや相談事を相談しやすくするための方策（複数回答）



問 14 区役所や地域で活動する大人に助けてほしいことや、手伝ってほしいことはありますか。

「家庭へのお金についてのサポートをしてほしい」(20.3%)が最も多く、「将来のことについて相談にのってほしい」(15.2%)、「学校の勉強のサポートをしてほしい」(12.4%)と続きます。

■区役所や地域で活動する大人に助けてほしいこと（複数回答）

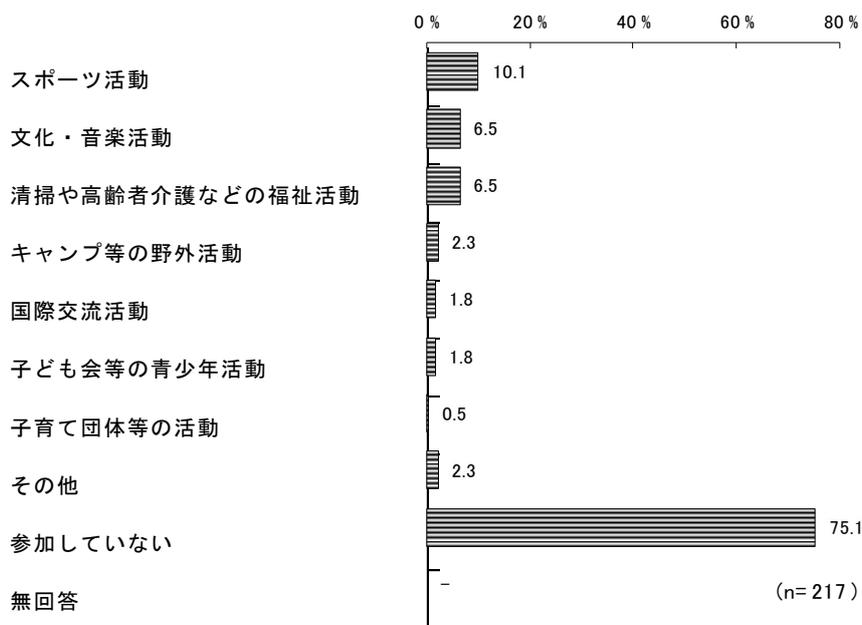


(3) 地域での活動について

問 15 あなたがこの1年間に参加した地域活動はどれですか。

「スポーツ活動」(10.1%)が最も多く、「文化・音楽活動」「清掃や高齢者介護などの福祉活動」(ともに6.5%)、「キャンプ等の野外活動」(2.3%)と続きます。

■ 1年間に参加した地域活動（複数回答）



【性別】

“男性”“女性”ともに「参加していない」が最も多くなっています。“男性”は“女性”と比べて「スポーツ活動」が多くなっています。

(単位: %)

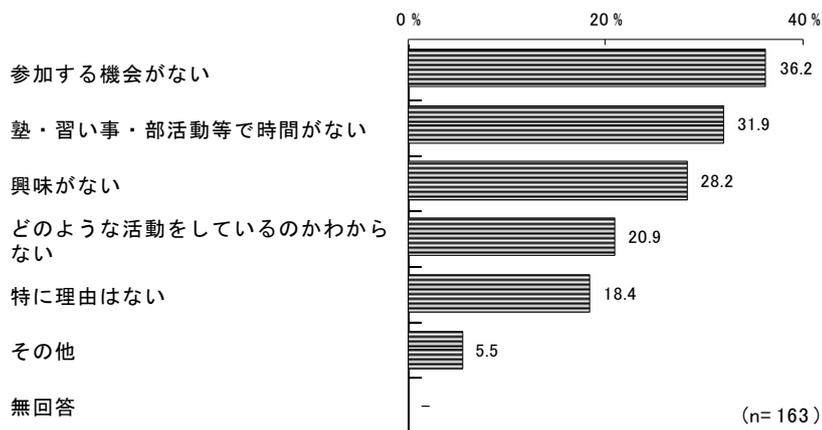
	有効回答者数	スポーツ活動	文化・音楽活動	清掃や高齢者介護などの福祉活動	国際交流活動	子ども会等の青少年活動	キャンプ等の野外活動	子育て団体等の活動	その他	参加していない	無回答
全体	217	10.1	6.5	6.5	1.8	1.8	2.3	0.5	2.3	75.1	0.0
男性	102	12.7	3.9	3.9	0.0	1.0	1.0	0.0	3.9	77.5	0.0
女性	110	7.3	9.1	9.1	3.6	2.7	3.6	0.9	0.9	72.7	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
回答したくない	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

【問 15 で「9. 参加していない」に○をつけた方】

問 15-1 参加していない理由は何ですか。

「参加する機会がない」(36.2%)が最も多く、「塾・習い事・部活動等で時間がない」(31.9%)、「興味がない」(28.2%)と続きます。

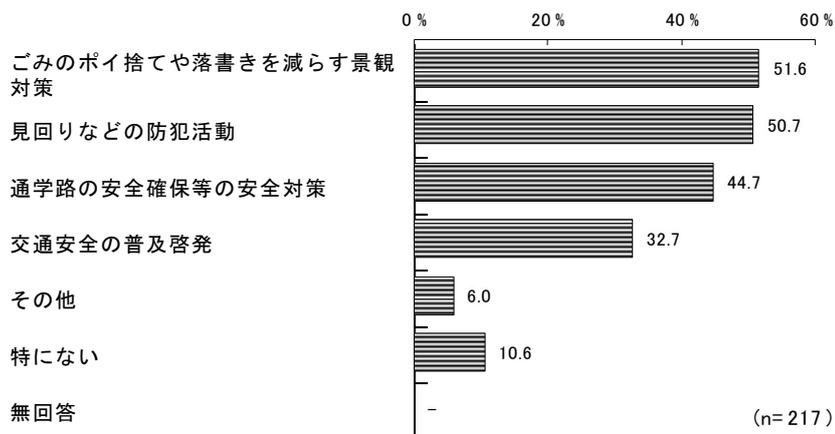
■参加していない理由（複数回答）



問 16 地域をよくするために必要だと思う地域活動は何ですか。

「ごみのポイ捨てや落書きを減らす景観対策」(51.6%)が最も多く、「見回りなどの防犯活動」(50.7%)、「通学路の安全確保等の安全対策」(44.7%)と続きます。

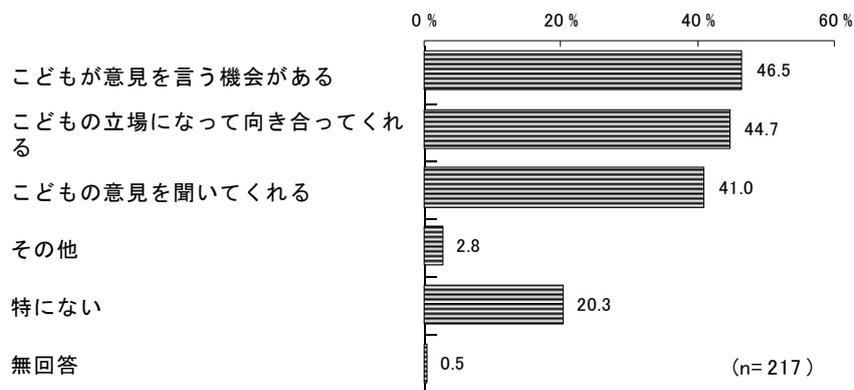
■地域をよくするために必要だと思う活動（複数回答）



問 17 地域活動をするにあたり、周りの大人にやってほしいことは何ですか。

「こどもが意見を言う機会がある」(46.5%)が最も多く、「こどもの立場になって向き合ってくれる」(44.7%)、「こどもの意見を聞いてくれる」(41.0%)と続きます。一方、「特にない」(20.3%)は約2割となっています。

■地域活動での大人への要望（複数回答）

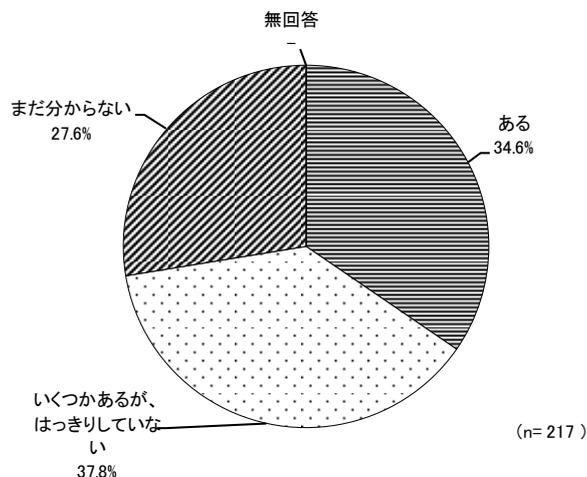


(4) 将来についての考えについて

問 18 あなたは、将来なりたい仕事や夢はありますか。

「いくつかあるが、はっきりしていない」(37.8%)が最も多く、「ある」(34.6%)、「まだ分からない」(27.6%)となっています。

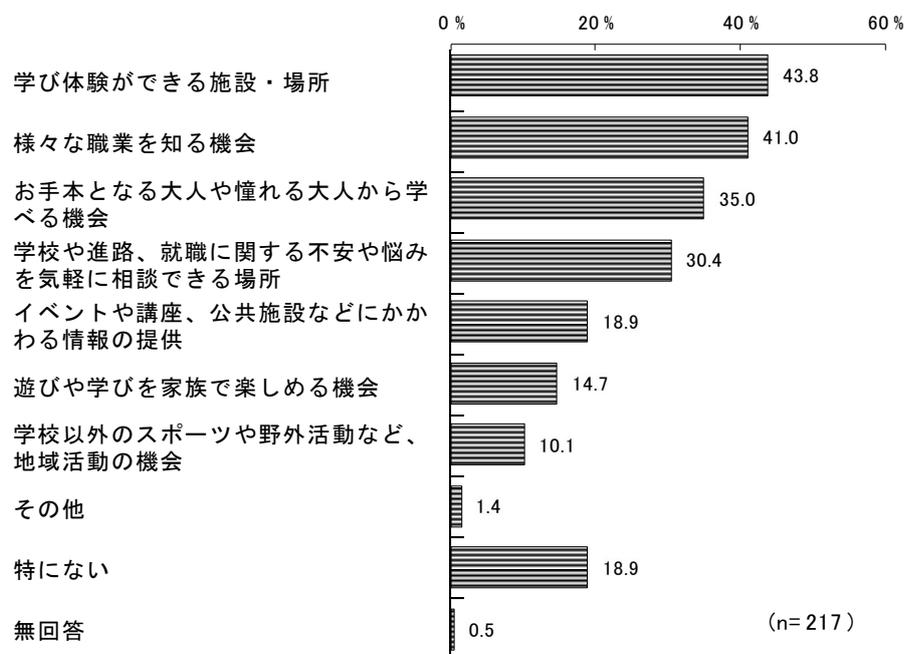
■なりたい仕事や夢の有無



問 19 将来なりたい仕事や夢を見つけるために、どのような支援を受けたいですか。

「学び体験ができる施設・場所」(43.8%)が最も多く、「様々な職業を知る機会」(41.0%)、「お手本となる大人や憧れる大人から学べる機会」(35.0%)、と続きます。一方、「特にない」(18.9%)は約2割となっています。

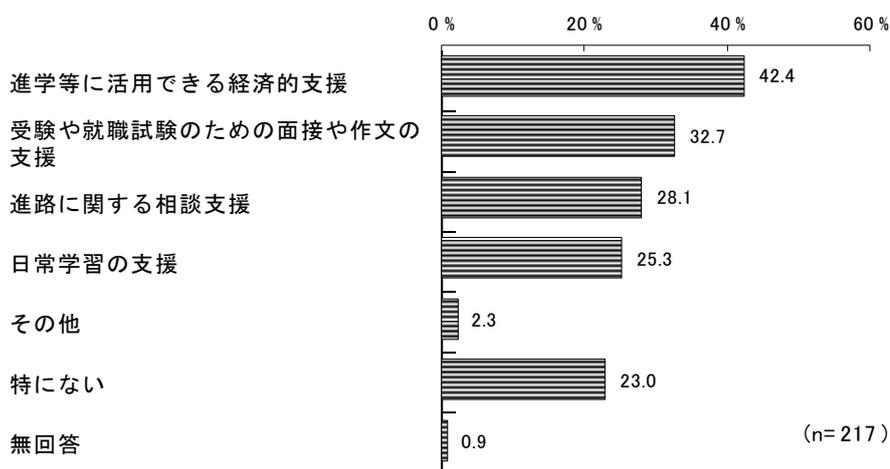
■ なりたい仕事や夢を見つけるために受けたい支援（複数選択）



問 20 将来なりたい仕事や夢を実現するために、どのような支援を受けたいですか。

「進学等に活用できる経済的支援」(42.4%)が最も多く、「受験や就職試験のための面接や作文の支援」(32.7%)、「進路に関する相談支援」(28.1%)と続きます。一方、「特にない」(23.0%)は2割半ばとなっています。

■なりたい仕事や夢を実現するために受けたい支援（複数回答）



【性別】

“男性” “女性” とともに「進学等に活用できる経済的支援」が最も多くなっています。

(単位: %)

	有効回答者数	日常学習の支援	受験や就職試験のための面接や作文の支援	進学等に活用できる経済的支援	進路に関する相談支援	その他	特にない	無回答
全体	217	25.3	32.7	42.4	28.1	2.3	23.0	0.9
男性	102	27.5	29.4	37.3	26.5	1.0	28.4	1.0
女性	110	22.7	35.5	46.4	30.9	2.7	19.1	0.9
その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
回答したくない	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

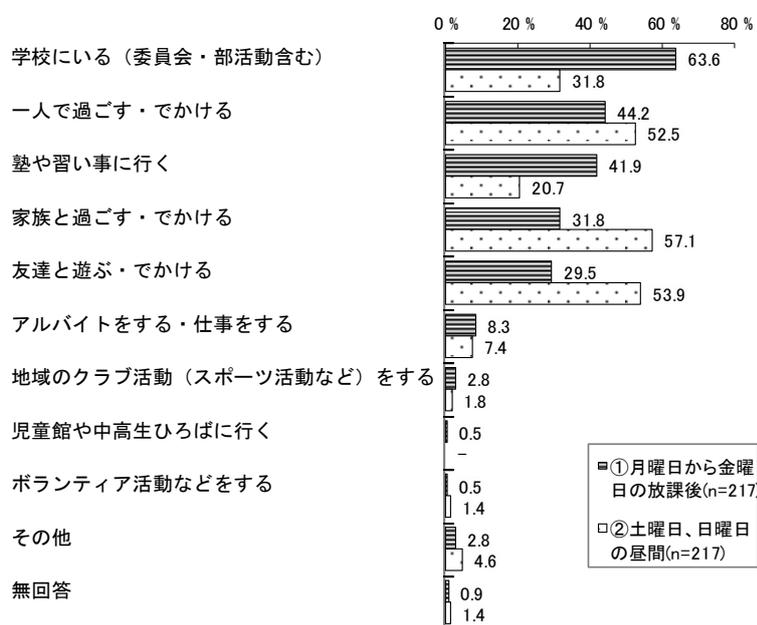
(5) 普段の過ごし方について

問 21 『①月曜日から金曜日の放課後（学生でない方は夕方から夜にかけて）』、『②土曜日、日曜日の昼間（仕事をしている方はお休みの日の昼間）』それぞれにどんなことをすることが多いですか。

『①月曜日から金曜日の放課後』は、「学校にいる（委員会・部活動含む）」(63.6%)が最も多く、「一人で過ごす・でかける」(44.2%)、「塾や習い事に行く」(41.9%)と続きます。

『②土曜日、日曜日の昼間』は、「家族と過ごす・でかける」(57.1%)が最も多く、「友だちと遊ぶ・でかける」(53.9%)、「一人で過ごす・でかける」(52.5%)と続きます。

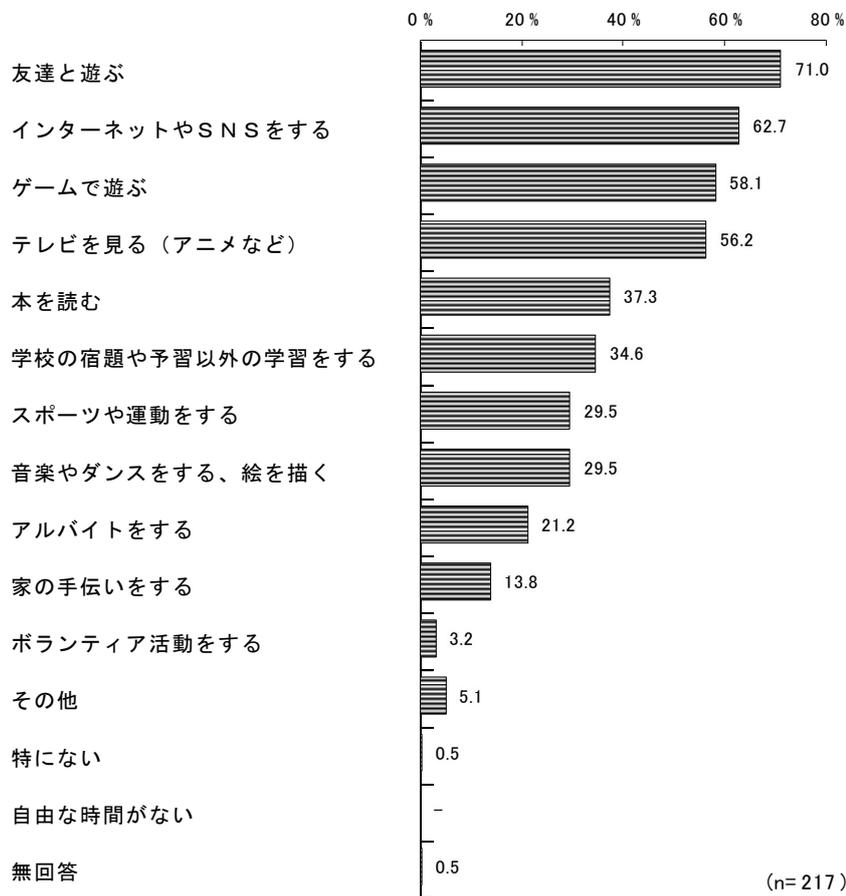
■放課後や休日の過ごし方（3つまで）



問 22 あなたは放課後や休日の自由な時間に、どんなことがしたいですか。

「友達と遊ぶ」(71.0%)が最も多く、「インターネットやSNSをする」(62.7%)、「ゲームで遊ぶ」(58.1%)と続きます。

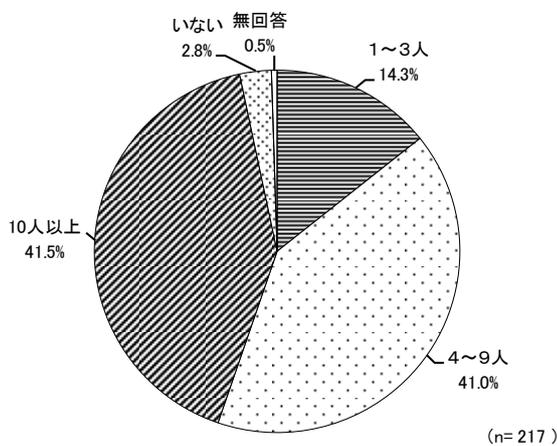
■放課後や休日にしたいこと（複数回答）



問 23 あなたは、一緒に遊んだり話したりする友だちが何人いますか。

「10人以上」(41.5%)が最も多く、「4～9人」(41.0%)、「1～3人」(14.3%)、「いない」(2.8%)と続きます。

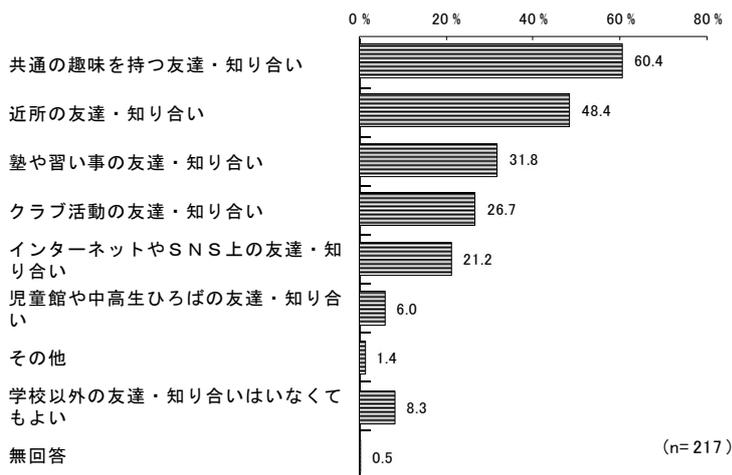
■一緒に遊んだり話したりする友だちの数



問 24 学校以外で、どんな友達や知り合いがいたら楽しいと思いますか。

「共通の趣味を持つ友達・知り合い」(60.4%)が最も多く、「近所の友達・知り合い」(48.4%)、「塾や習い事の友達・知り合い」(31.8%)と続きます。

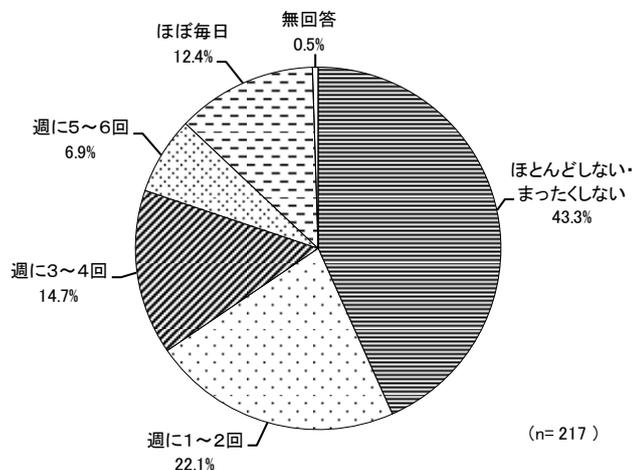
■学校以外でいたら楽しいと思う友達や知り合い（複数回答）



問 25 あなたは、30分以上からだを動かす遊びや習い事を、1週間でどれくらいしますか。

「ほとんどしない・まったくしない」(43.3%)が最も多く、「週に1～2回」(22.1%)、「週に3～4回」(14.7%)と続きます。

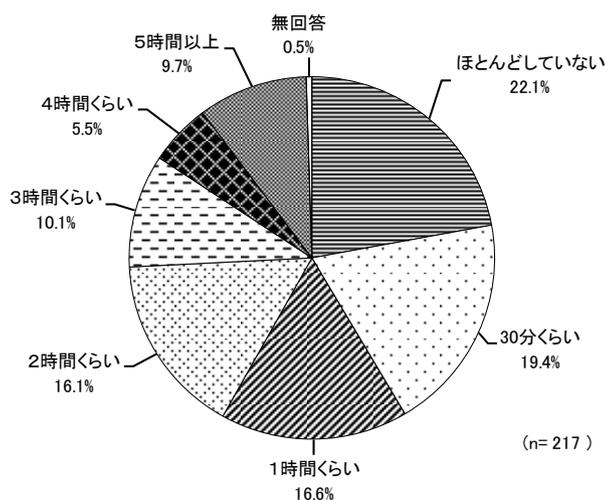
■30分以上からだを動かす遊びや習い事の1週間あたり実施頻度



問 26 普段、学校以外で1日何時間くらい勉強をしていますか。

「ほとんどしていない」(22.1%)が最も多く、「30分くらい」(19.4%)、「1時間くらい」(16.6%)と続きます。

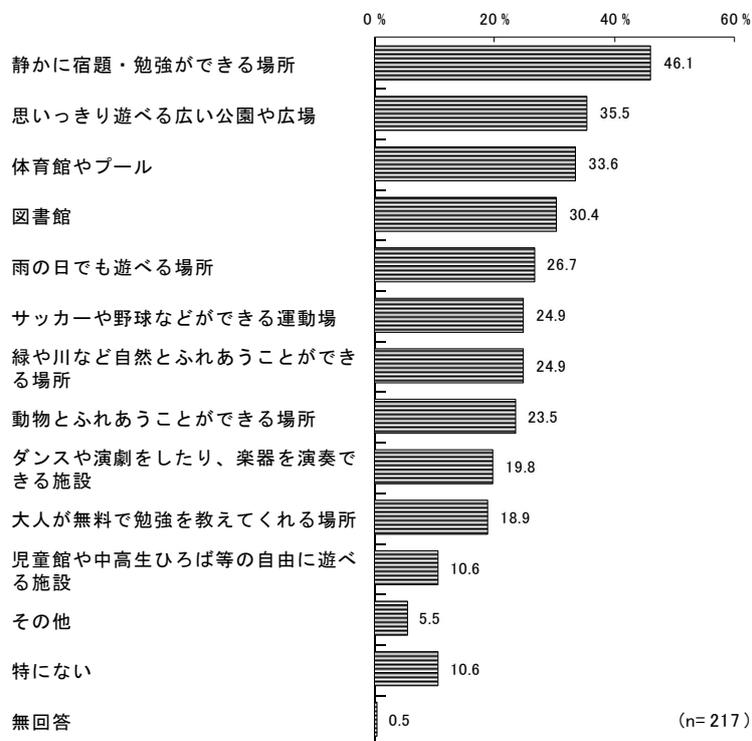
■学校以外での1日当たりの勉強時間



問 27 近くにあったらいいと思う遊び場や施設は何ですか。

「静かに宿題・勉強ができる場所」(46.1%)が最も多く、「思いっきり遊べる広い公園や広場」(35.5%)、「体育館やプール」(33.6%)と続きます。

■ 近くにあったらいいと思う遊び場・施設 (複数回答)



【性別】

“男性”は「思いっきり遊べる広い公園や広場」、 “女性”は「静かに宿題・勉強ができる場」が最も多くなっています。

(単位:%)

	有効回答者数	思いっきり遊べる広い公園や広場	サッカーや野球などができる運動場	体育館やプール	図書館	児童館や中高生ひろば等の自由に遊べる施設	緑や川など自然とふれあうことができる場所	動物とふれあうことができる場所	雨の日でも遊べる場所	ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設	静かに宿題・勉強ができる場所	大人が無料で勉強を教えてくれる場所	その他	特になし	無回答
全体	217	35.5	24.9	33.6	30.4	10.6	24.9	23.5	26.7	19.8	46.1	18.9	5.5	10.6	0.5
男性	102	41.2	36.3	32.4	22.5	8.8	22.5	17.6	19.6	9.8	37.3	12.7	4.9	15.7	1.0
女性	110	30.0	13.6	35.5	38.2	12.7	27.3	29.1	33.6	29.1	54.5	23.6	6.4	5.5	0.0
その他	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
回答したくない	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0

【地区別】

すべての地区で「静かに宿題・勉強ができる場」が最も多くなっています。

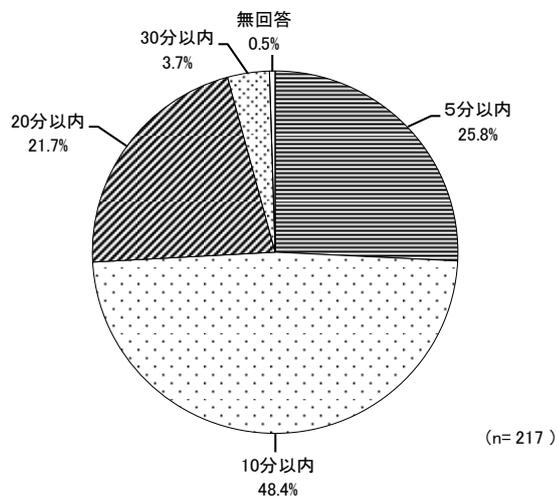
(単位:%)

	有効回答者数	思いっきり遊べる広い公園や広場	サッカーや野球などができる運動場	体育館やプール	図書館	児童館や中高生ひろば等の自由に遊べる施設	緑や川など自然とふれあうことができる場所	動物とふれあうことができる場所	雨の日でも遊べる場所	ダンスや演劇をしたり、楽器を演奏できる施設	静かに宿題・勉強ができる場所	大人が無料で勉強を教えてくれる場所	その他	特になし	無回答
全体	217	35.5	24.9	33.6	30.4	10.6	24.9	23.5	26.7	19.8	46.1	18.9	5.5	10.6	0.5
大森地区	49	38.8	28.6	34.7	26.5	18.4	20.4	12.2	32.7	26.5	49.0	18.4	8.2	12.2	0.0
調布地区	63	38.1	30.2	30.2	33.3	9.5	28.6	22.2	25.4	23.8	47.6	15.9	4.8	11.1	1.6
蒲田地区	66	36.4	19.7	33.3	28.8	12.1	24.2	28.8	27.3	13.6	42.4	19.7	6.1	10.6	0.0

問 28 あなたは遊び場や施設が徒歩で何分以内であれば利用しますか。

「10分以内」(48.4%)が最も多く、「5分以内」(25.8%)、「20分以内」(21.7%)と続きます。

■遊び場や施設が徒歩何分以内なら利用するか

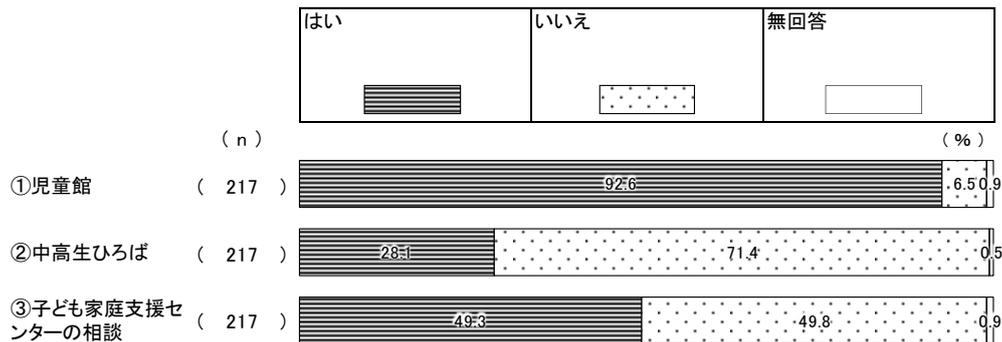


問 29 区のサービス・施設で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。①～③の事業ごとに、A～Cのそれぞれについて、「はい」「いいえ」のいずれかに○をつけてください。なお、事業によっては、お住まいの地域で実施されていないものもあります。

① 認知度（知っている）

“児童館”の認知度が最も高く92.6%、“中高生ひろば”が28.1%、“子ども家庭支援センターの相談”が約5割となっています。

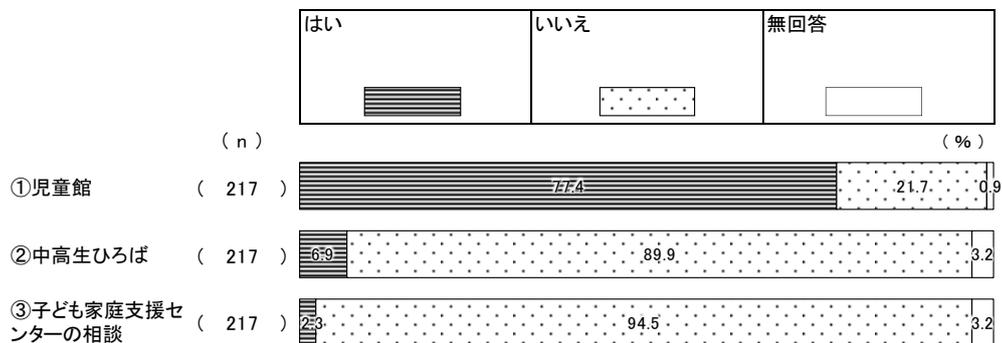
■ 認知度



② 利用経験（これまでに利用したことがある）

“児童館”は7割半ばがこれまでに利用したことがある一方で、“中高生ひろば”と“子ども家庭支援センターの相談”は約9割がこれまでに利用したことがないとなっています。

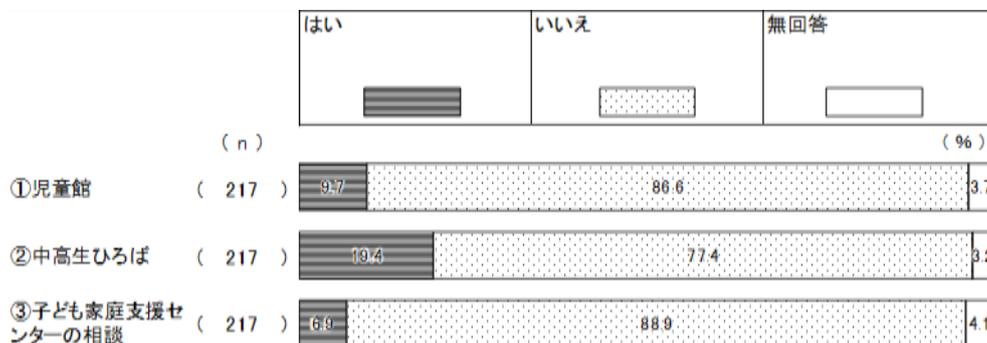
■ 利用経験



③ 利用意向（今後利用したい）

“中高生ひろば”は約2割、“児童館”と“子ども家庭支援センターの相談”は1割未満が今後利用したいとなっています。

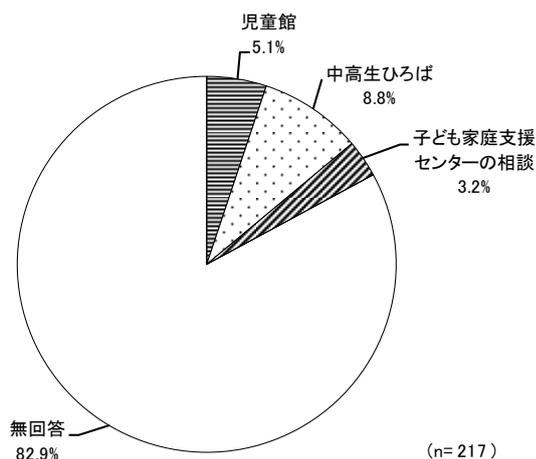
■ 利用意向



問 30 問 29 の①～③の事業について、改善してほしい事業はありますか。改善してほしい事業を1つ選び、①～③の番号をご記入ください。また、改善点をご記入ください。

「児童館」(5.1%)、「中高生ひろば」(8.8%)、「子ども家庭支援センターの相談」(3.2%)となっています。

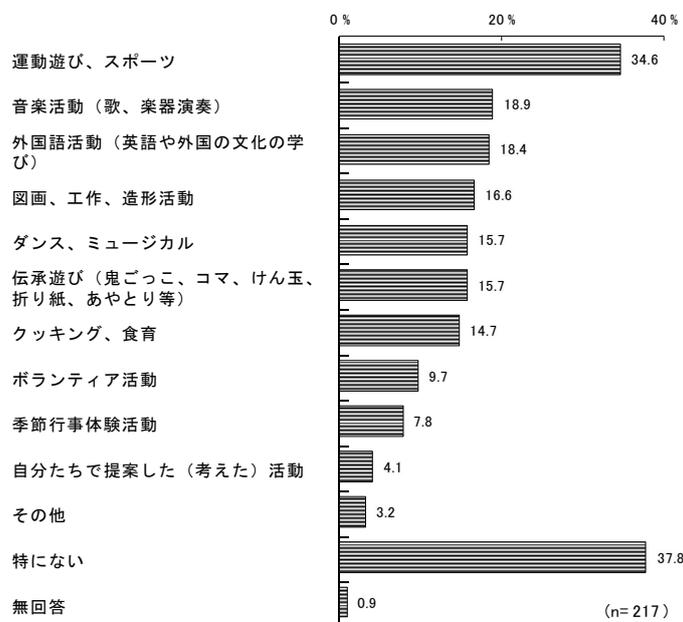
■ 改善してほしい事業



問 31 児童館や中高生ひろばでやってみたいこと、やってほしいことは何ですか。

「運動遊び、スポーツ」(34.6%)が最も多く、「音楽活動(歌、楽器演奏)」(18.9%)、「外国語活動(英語や外国の文化の学び)」(18.4%)、「図画、工作、造形活動」(16.6%)、「ダンス・ミュージカル」(15.7%)と続きます。

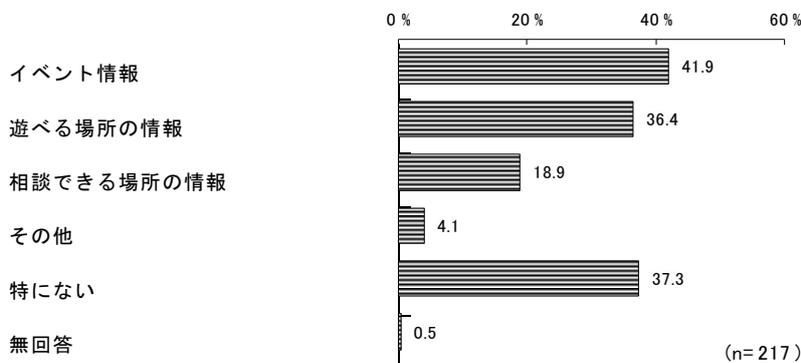
■ 児童館や中高生ひろばでやってみたいこと、やってほしいこと(複数回答)



問 32 あなたは、区役所からどんな情報を発信してほしいと思いますか。

「イベント情報」(41.9%)が最も多く、「遊べる場所の情報」(36.4%)、「相談できる場所の情報」(18.9%)と続きます。

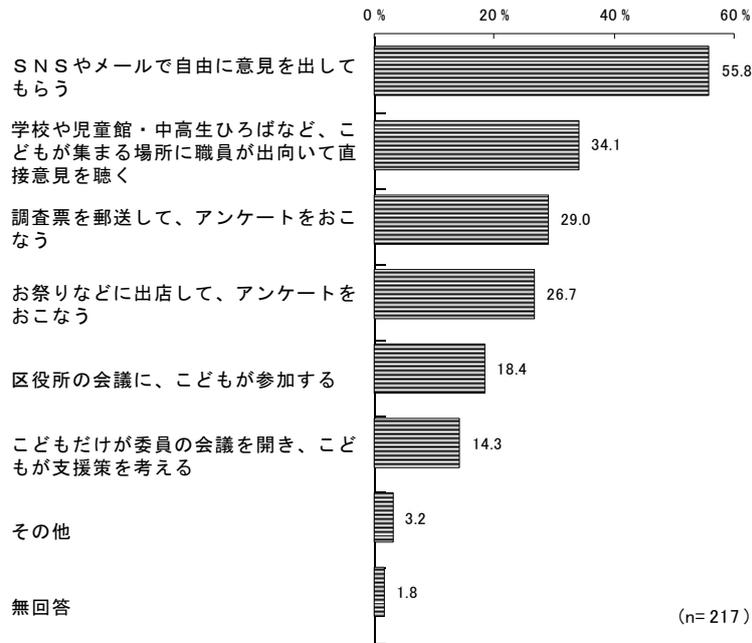
■ 区から発信してほしい情報(複数回答)



問 33 皆さんへの支援策を検討するために区役所が皆さんから意見を聞く方法として、よいと思うものは何ですか。

「SNSやメールで自由に意見を出してもらおう」(55.8%)が最も多く、「学校や児童館・中高生ひろばなど、こどもが集まる場所に職員が出向いて直接意見を聴く」(34.1%)、「調査票を郵送して、アンケートをおこなう」(29.0%)と続きます。

■区役所による望ましい意見聴取方法（複数回答）

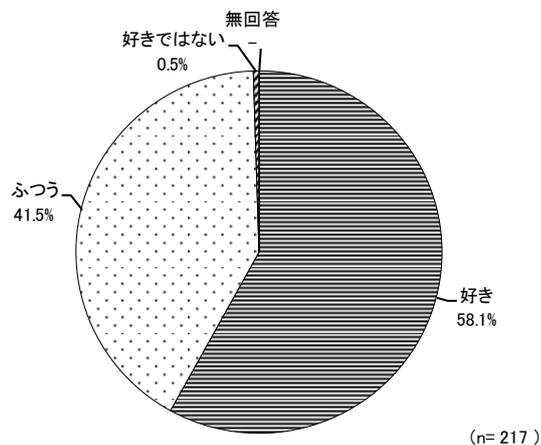


(6) あなたのお考えについて

問 34 あなたは、現在暮らしている地域が好きですか。

「好き」(58.1%)、「ふつう」(41.5%)、「好きではない」(0.5%)となっています。

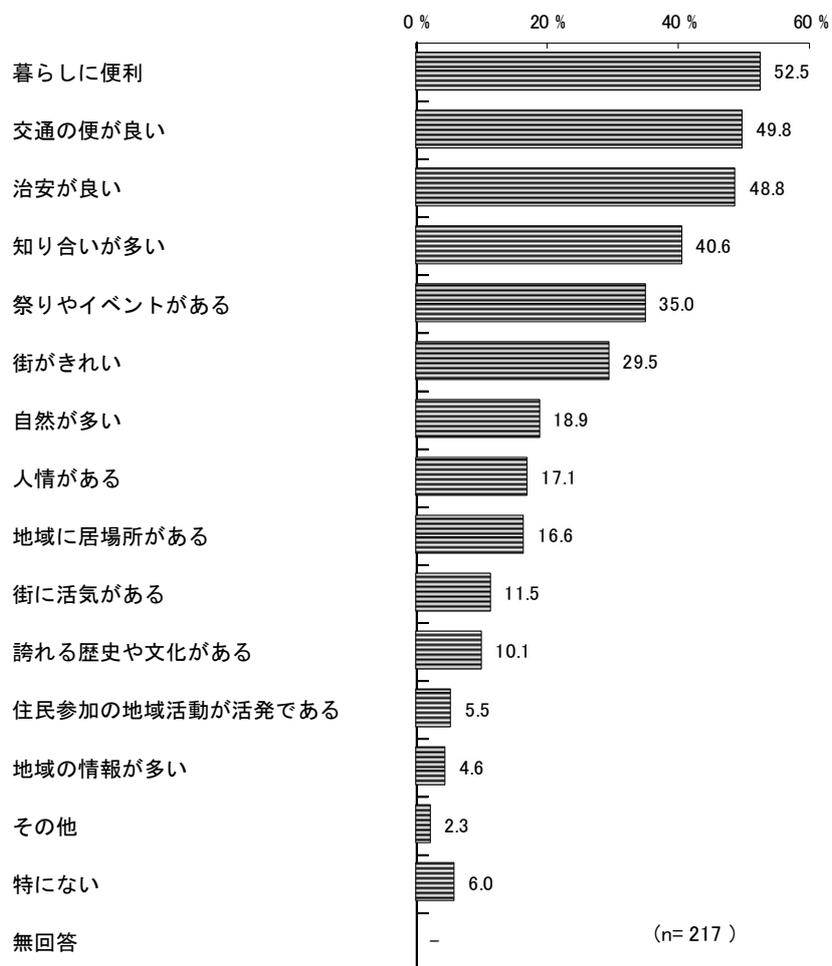
■地域への愛着



問 35 暮らしている地域の好きなところは次のうちどれですか。

「暮らしに便利」(52.5%)が最も多く、「交通の便が良い」(49.8%)、「治安が良い」(48.8%)、「知り合いが多い」(40.6%)、「祭りやイベントがある」(35.0%)と続きます。

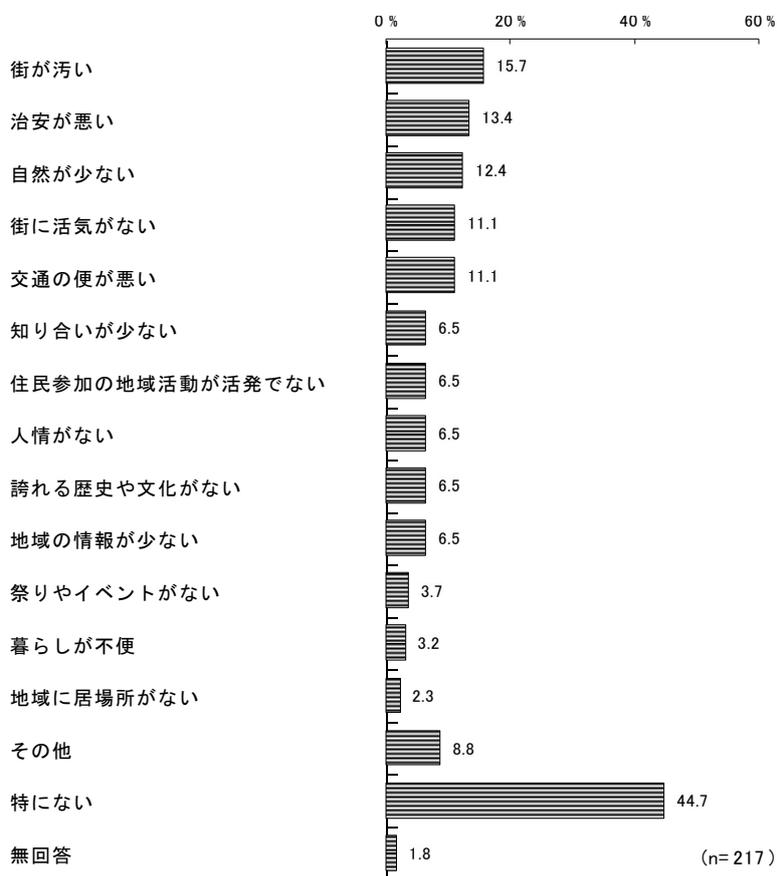
■暮らしている地域の好きなところ（複数回答）



問 36 暮らしている地域の好きではないところは次のうちどれですか。

「街が汚い」(15.7%)が最も多く、「治安が悪い」(13.4%)、「自然が少ない」(12.4%)、「街に活気がない」「交通の便が悪い」(ともに11.1%)、「知り合いが少ない」(6.5%)と続きます。

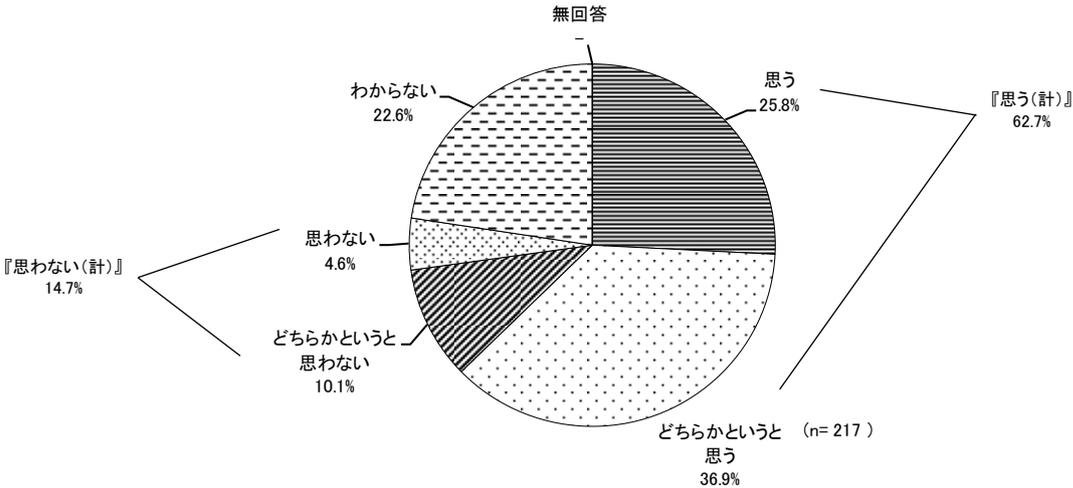
■暮らしている地域の好きではないところ（複数回答）



問 37 あなたは、将来も大田区に住みたいと思いますか。

「どちらかというと思う」(36.9%)が最も多く、これに「思う」(25.8%)を合わせた『思う(計)』(62.7%)は6割半ばとなっています。一方、「どちらかというと思わない」(10.1%)と「思わない」(4.6%)を合わせた『思わない(計)』(14.7%)は1割半ばとなっています。また、「わからない」(22.6%)は2割半ばとなっています。

■大田区での居住意向



6 自由意見

ご記入いただいた自由意見のうち、以下に主なものを抜粋して掲載します。

(1) 就学前児童保護者

①子育て家庭に対する相談体制の充実

- ・幼稚園や保育園などに入園する際の情報共有の場所がもっと身近にあり、気軽に相談できる場があるとよい。

②子育て情報の充実

- ・行政の支援の確認や利用登録・利用予約などのすべてがアプリ 1 つで済むと嬉しい。区のウェブサイトは、必要事項は記載されているものの無機質で情報が散らばっている。温かみあるデザインでなおかつ情報がすべてアプリに集約されスマホ 1 つで行政と繋がることを希望する。
- ・子育て情報は自ら動かないと情報がわからない事が多いと感じる。郵送や地域の掲示板などで、もう少しお知らせしてほしい。
- ・児童館の子育て情報・講座、地域の行事、その他の施設のイベントなど、各施設のHPに行かないとチェックできない、あるいは、オンラインで情報をとれず掲示板にしか書いていないなど、情報を得るのが不便と感じる。就労して忙しい中、子供達にもいろいろな経験をさせたいが、調べるとすでにイベントが終わっていることもある。同じプラットフォームで情報を得られたら、皆が地域にもっと参加すると思う。
- ・児童館の内部の最新の写真もどんどんHPにのせてほしい（オムツ交換台があるのかなど）。

③子育て家庭の地域交流の促進

- ・近隣住民との関わりがあまりないため、世代の異なる住民同士の交流の場があると顔見知りが増えて子育てしやすくなると思う。
- ・地域社会とのつながりを持つ事は、子育てだけでなく、様々な社会的な意味合いで大切であり重要である。自然に地域社会と家族がつながりを持てる取り組みがあるとよいと思う。
- ・保育園の保護者同士でもコミュニケーションを取る機会がないし、場所がないので開放してもらえらる施設などがあるとよい。

④子育てをサポートする地域のネットワークの充実

- ・祖父母に頼れないため、保育園以外に支援をしてもらえらる人とのつながりが必要である。ファミリーサポートをもっと利用しやすくしてほしい。
- ・近隣の方々との交流はあまりないので、昔遊びなど高齢者の方に教えてもらえらる機会があると嬉しい。上の子の学校のスクールサポートで、民生委員の方から折り紙を教えたい機会があったが、このような高齢者の方々ともどもたちを繋ぐ機会が小学生よりもっと小さい時から増えると、親や親族以外の大人との関わりが増え、学べることがたくさんあるのではないかと感じた。
- ・産後、身体が一番きつい時に慣れない育児がノンストップでスタートしてしまうのは大変だった。第一子の時は毎日不安と責任感と寝不足と孤独との戦いで、第二子の時は上の子を見てあげる時間が減って困り、上の子のごはんも時間をかけて作ってあげられないなど、2人育児に

手が足りなかった。ヘルパーのような方が来て話を聞いてくれたり、抱っこしていてくれたり、上の子と遊んでいてくれたり、食事を作ってくれたり、サポートしてくれると助かったと思う。

⑤保育サービス等の充実・整備

- ・近隣の一時預かりをしている保育施設に連絡しても今は行っていない、空きがないなどで利用できなかったことがない。子育てをしていてリフレッシュしたい時、子供の習い事や行事で少しの間でも子供を預けたい時に気軽に預けられる場所を地域ごとにもっと増やしてほしい。2～3時間見てもらえるだけでも大分助かることは多々あると思う。児童館は近くにたくさんあるので児童館での一時預かりも増えると嬉しい。
- ・病児保育が少なすぎる。有料で良いので、栄養バランスのとれた温かい夕飯を平日保育園のお迎え時に受け取れるサービスがあると本当に助かる。
- ・働いていない人でも保育園に預けることができる環境になると嬉しい。3人産んで金銭的に余裕が欲しいという理由ではなかなか入れられないのが現状である。保育園に預けることができた場合も、上の子の小学校、幼稚園の夏休みなどの長期休暇に合わせて休みを一緒にとってもよいなど、もう少し臨機応変に対応してくださると助かる方も沢山いるのではと思う。
- ・2人目以降の妊娠・出産前後の上の子の保育サポートを手厚くしていただきたい。現状は里帰りや育休取得が前提のサービスとなっており、保育園を利用した場合も送迎や家庭でのお世話が大変負担に感じた。
- ・上の子が発達障害と知的障害があり、親族でもなかなか預けることが困難である。幼稚園には通わせているが、どうしても用事がある時や親の心身が疲弊している時、預けられる場所があるととても助かる。
- ・ここにこサポートやびよびよサポートがあるのは嬉しいが、予約がとりづらい。Webで空き状況がわかり即時予約できると大変使いやすい。一時預かりも予約が取りづらいため、もう少し枠が増えると嬉しい。

⑥産科・小児医療の充実

- ・小児科医院がもっと増えてほしい。
- ・出産後の母子検診も補助・もしくは無料にしてほしい。

⑦こどもの居場所づくり

- ・身近な場所に自然を感じられる所がもう少しあるとよい。
- ・遊具の充実した公園が少ない。

⑨教育・保育の無償化、経済的支援について

- ・子供に関する手当に年収制限をかけないでほしい。
- ・保育料は無償化されているが、学童は負担が増え、経済的に不安がある。

(2) 小学生児童保護者

①子育て家庭に対する相談体制の充実

- ・子育ての相談、専門家に繋げるような道筋を提示してほしい。話を聞いて経過を把握してもら

う人がいたり、さらにどこかに繋げてもらえるシステムがあれば、前向きに子育てに取り組むことができるのではないか。

- ・母親同士の交流は良いことだとは思いますが、人付き合いが苦手な人や、自ら学んで情報などを取りたい人間もいるため、多様な相談方法が望ましい。
- ・子育てに関する相談を LINE などで行えると相談しやすいと思う。
- ・悩みのある若者は、子育ての悩みなどをネットで検索しているため、相談窓口のサイトを充実させると良いと思う。アプリのインストールより、ネットの検索で上位にくるよう工夫すれば本当に悩んでいる親に近づく機会になると思う。
- ・学校の先生方ともっと相談できるような体制にしてほしい。

②子育て情報の充実

- ・中学校進学にあたり、大田区立中学校の見学や情報を知る機会を作って欲しい。
- ・子育て支援の手続きをチャットボットで簡単に確認できると便利でありがたい。
- ・区や児童館、地域の掲示板、不審者情報など色々な機関が各々に情報を発信しているが、一本化して集約されたプラットフォームを作ってほしい。プラットフォームからユーザーが必要なカテゴリを登録し、情報を引き出せる様なアプリがあればありがたい。

③子育てをサポートする地域のネットワークの充実

- ・地域の行事などで、こどもを見守ってくれたり、声をかけてくださる方(とくに高齢の方)が多く、とても感謝している。
- ・子育ての細かなことを行政サービスや学校ばかりに頼るのは無理があると思うので、地域全体でこどもに優しい環境を作っていけることが理想である。子育てしていない、したことがない、子育てが終わった人もこれからもしない人もこども達を見守る、育てる雰囲気を作ってほしい。

④保育サービス等の充実・整備

- ・保育については就労ばかりを条件に挙げるが、就労より障害のある子をもつ親の方が負担が大きいことを知って頂きたい。障害のある子を可能な限りみるため就労が難しいのに、就労できないから(障害がなくても)きょうだいを保育園に入れられず育児負担が大きくなりとても辛かった。
- ・学童保育を充実させて欲しい。希望者は誰でも入れること、長期休暇の際も 8:00 から預け入れできることなど。児童館であれば一般利用でも年間を通して 19:00 まで利用可能にしてもらいたい。
- ・夏休みの学童保育枠をもっと増してほしい。学童保育を利用することができず、夏休みや長期休みは家で留守番をさせているが、とても心苦しいし心配である。
- ・夏休み等の長期休暇中の学童について、是非、お弁当の宅配をお願いしたい。
- ・幼稚園では理由に関わらず、少額で長期休みや放課後の預かり保育があり、非常に助かったが、小学生になると預け先がなく、母親の職探しに苦労している。小学生の学童保育も充実してほしい(仕事がある時期は、すぐ受け入れてくれるような施設)。
- ・放課後子ども教室はよい取組だが 16 時や 17 時まででは学童の代わりにならず、子育て支援になっていない。夏休みなどの長期休業中も開室してほしい。
- ・病児保育が少なく、大田区内の地域によって偏りがある。病児に対する施設(できれば小学生

低学年もスムーズに利用できる)をもう少し増やしていただけると、保護者も安心して仕事に取り組めると思う。

- ・一時預かりは人数制限があるため、シッター制度を利用してみたいが、コストパフォーマンスが悪いので利用しにくい。少しでも補助があるとシッター等ももっと利用しやすいと感じる。

⑤産科・小児医療の充実

- ・小児心療内科、精神科、小児科が少なくパンクしている。発達診断や発達の相談ができる施設も遠く、少ない現状である。支援金が無い上に手続きが面倒である。
- ・高校生まで医療費がかからなくなったため、とても嬉しく思う。

⑥親子のふれあいの場・体験機会の場づくり

- ・さまざまな職業体験など、いろいろなことを体験できる機会がもっと増えるとよい。

⑦こどもの居場所づくり

- ・公園整備の視点が高齢者向けに偏っているのが残念である。公園は全世代の健康増進のためのものはずであるが、こどもがのびのびとボール投げなども楽しめるための設備工夫などが後回しで残念である。こどもが元気な声で遊ぶのが邪魔という高齢者に向けて「こどもの遊び声がしない街に活気ありますか？」と真摯に問いかける姿勢を行政は見せて欲しい。こどもがこどもらしく成長する機会を大人の都合でなくさないでほしい。
- ・ボール遊びができる大きめの公園がもう少し増えると良い。
- ・小学校中～高学年になると地域の中の居場所があまりないように感じる。思いっきり身体を動かしたりボールが使えるような場所が必要だと思う。
- ・各地域に子ども食堂などの支援施設を設ける、又はその様な施設への援助をしてほしい。
- ・図書館の勉強できるスペースをもっと増やしてほしい。静かに勉強できるスペースを区役所や公共施設の一画に作ってほしい。
- ・学校(校庭・教室)を放課後、土・日にもっと開放してもらえると、スポーツや楽器演奏など文化活動がより活発になると思う。教員に管理の負担が増えないように、管理人的な人員を増やすというのはどうか。
- ・雨天時に遊べる屋内施設(無料)があると良い。児童館の休日開館などもあると良い。

⑧安全・安心なまちづくりの推進

- ・たばこのポイ捨て、歩きたばこ、自転車の二人乗り、自転車のスマホ運転(通話や画面操作をしながらの運転)を頻繁に見かける。子育てをする上で非常に大きな不安を抱いているので、そのような方が少しでも減少するように規制していただきたい。
- ・街中の道路が狭いところが多いため、拡幅して歩行者と車の距離が取れるようになるとありがたい。
- ・緑化、道幅の広さなど、安心して通行できる街の整備を是非お願いしたい。
- ・街灯が少なく、夕方遅くの学童からの帰宅時はとても暗くて危ないと思う。

⑨こどもを犯罪や交通事故から守るまちづくりの推進

- ・他区で導入している、小学生へのGPS付きの携帯の提供を大田区でも始めて欲しい。全員持つ

ていればこどもに差が出ず、送り迎えなどできない時に本人も安心して登校できると思う。

- ・大田区は不審者情報が多いのではないかと子供達のことが心配になることがある。地域の方々のご協力を頂けるとありがたい。
- ・学校近辺の横断歩道に信号機を付けてほしい。通学路内の壁やブロックのひび割れや破損を直してほしい。

⑩児童虐待の予防及び被虐待児と家庭への支援

- ・子ども家庭支援センター、児童相談所へ虐待の連絡をしても対応が遅い、または行動がともなわないため状況が変わらない、と感じる。

⑪教育・保育の無償化、経済的支援について

- ・給食費無償化を今後も続けて欲しい。
- ・多子世帯に所得制限無しで就学援助や受験の援助をしてほしい。
- ・金銭面を気にしなくてもよい子育てがしたい。低所得者でも高所得者でもないため、いつも補助の対象にはならず、不平等さを感じる。子育てしているのは皆同じなため、補助金等については線引きしないでほしい。

⑫保育士や教員の負担軽減や質の向上について

- ・教師、保育士に対する労働環境や賃上げの見直し。
- ・学校の先生の負担が大きいようで、お休みされる先生が多いように思う。先生への負担軽減やバックアップ体制の拡充が、結果こどもたちの学びの充実に繋がると思うので、教育の施設面だけではなく、内容面にも目を向けて欲しい。
- ・先生の負荷が高いと言われているため、できることはどんどん、外部委託やオンライン化を検討し解消していただき、こどもに向きあう時間を増やしていただきたい。

⑬学校教育の充実

- ・大田区内の小中学校は老朽化が進んでいるところが多く、順次建て替えしていると理解しているが、取り組みのスピードが遅い。建て替え期間を短くすること、こどもの教育の質の充実のために、代替施設を確保することを強く求めたい。
- ・小学校での教育カリキュラムの拡充を期待している。タブレットなどが配布されているだけで、先生側がまだまだ慣れていない様子で先生によってかなり差がある。塾に行けるか行けないかの経済格差で学力にも格差が出ないよう、学校でもっとフォローできるシステムがほしい。
- ・現在貸与されているタブレットの重量が気になる。教科書、水筒にタブレットを加えると結構な重さになっているため、軽量なものに変更されるとよい。
- ・診断のつかないいわゆるグレーゾーンの児童を受け入れる体制作りを希望する。学習面でできるだけ他の子供達について行けるよう、手厚いサポートがあるとよい（特に人生のベースとなる小学校で）。

(3) 小学生

①産科・小児医療の充実

- ・病院は土曜と日曜日（休日）もやってほしい。

②学校教育の充実

- ・プールを室内プールにしてほしい（授業が中止になるから）。
- ・学校の英語の授業を面白いものにしてほしい。英語が多すぎて、授業の内容が理解できない。

③こどもの居場所づくり

- ・ボール遊びが自由にできる公園を増やしてほしい。
- ・最近友達と遊ぶ時、遊ぶ場所に困っている。こどもだけで行ける室内の楽しい施設を作って欲しい。
- ・もっと身近に学習について質問できる場所が欲しい。
- ・近所に図書館などの公共施設がほしい。ボールを使ったり、楽しく遊べる、広い公園がほしい。
- ・野球ができる（ボールが使える場所）がいっぱいあるといいと思う。雨でも遊べる場所がいっぱいあるといいと思う。

④安全・安心なまちづくりの推進

- ・街灯を増やしてほしい。
- ・たばこがくさい。
- ・犬の散歩マナーを守るようにしてほしい。

(4) 中学生

①学校教育の充実

- ・学校施設を修繕してほしい。

②様々な交流を踏まえた人材育成

- ・近くに空港があるのは便利であり、もっと身近に感じたい（例えば、職場体験で行けたり、職業人の話を聞く会で話を聞けたり、空港見学ができたりなど）。それができるのは大田区ならではのだからすごい事だと思う。
- ・放課後にネイティブの英語教室をやってほしい。

③こどもの居場所づくり

- ・学生が使える勉強スペースなどを増やして欲しい（お年寄りが使っていることが多く、使えるスペースが少ない）。図書館のような静かに勉強ができるところと、友達と教え合いながら勉強できるところを作って欲しい。
- ・子供がキャッチボールできる公園がないので、作って欲しい。
- ・無料で使用できる公民体育館がほしい（バドミントンができる広さ）。
- ・中学生になってから近くに遊べるところが少なく、雨の日など中高生がフラッと立ち寄れる場

所がほしい。球技禁止の公園が多いので、球技ができる公園を増やしてほしい。

- ・学校に行きたくない子、障害のある子が自由にできる居場所をつくってほしい。
- ・小学校、中学校問わず、不登校が別室でも、違う形でも行けるようにしてほしい。私の通っている別室では先生が休みだと休みになってしまうので、休みがないようにしてほしい。

④安全・安心なまちづくりの推進

- ・公立学校のトイレをもう少しきれいにしてほしいです。
- ・街をもっときれいにしてほしい。
- ・道路をきれいにしてほしい。

⑤子どもを犯罪や交通事故から守るまちづくりの推進

- ・防犯対策の強化を実施して欲しい。

(5) 高校生世代

①産科・小児医療の充実

- ・医療費無償化を大学生までして欲しい。

②こどもの居場所づくり

- ・中高生ひろばなど、高校生が参加できる活動に関してよりPR活動を行ってほしい。
- ・図書館以外にも無料で使えて勉強や遊びができる施設があると便利でいいと思う。

③安全・安心なまちづくりの推進

- ・路上喫煙者を減らして欲しい。

④子どもを犯罪や交通事故から守るまちづくりの推進

- ・信号無視をしている大人が多い。急いでいる事も共感出来るが、1つの常識として守ってほしい。

7 調査結果の分析

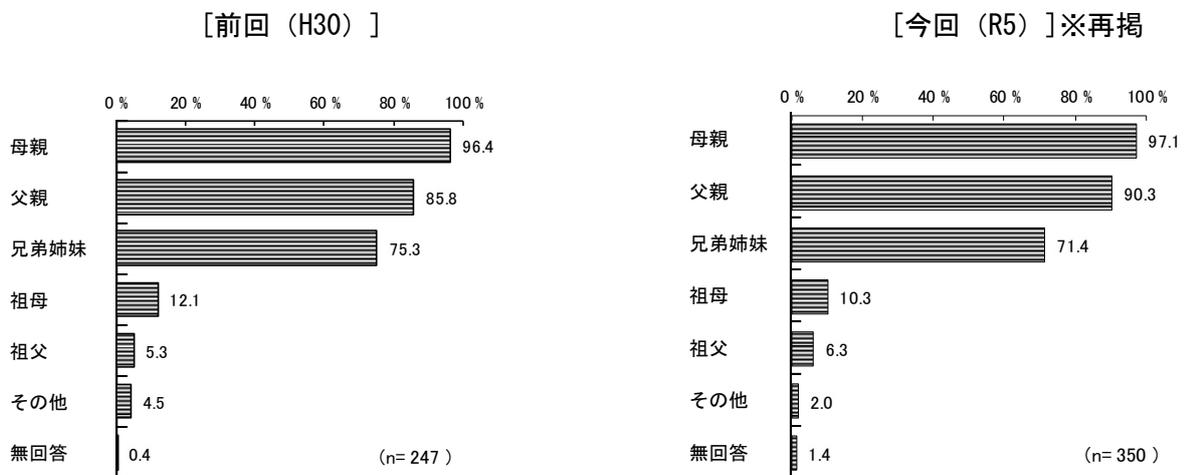
(1) 前回調査との比較

前回調査（平成 30 年度実施）の調査結果と比較し、区の子ども・子育てを取り巻く環境の変化について整理しました。

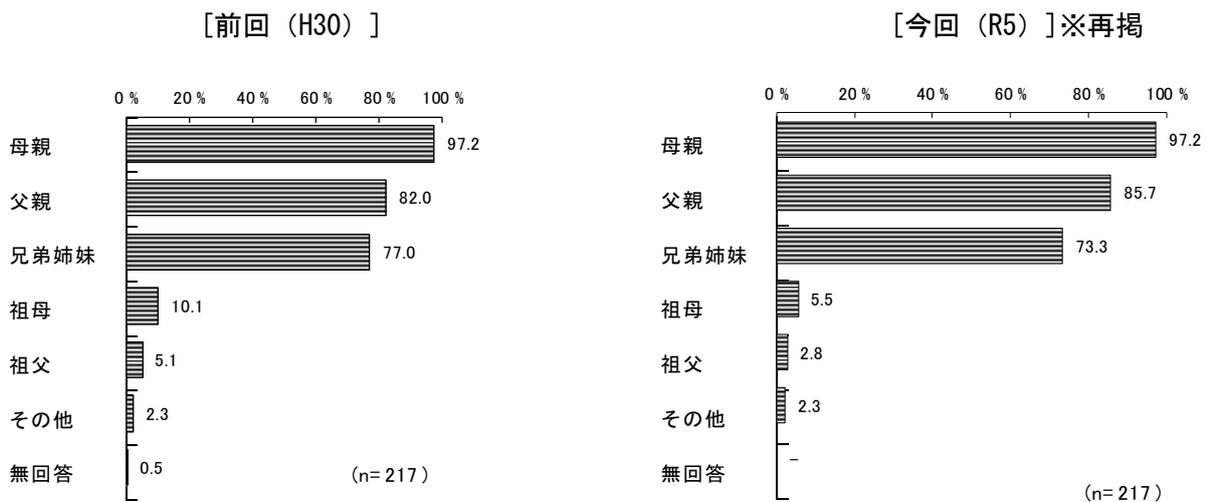
①世帯構成

前回調査と比較すると、「母親」は差がみられないが、「父親」は多くなっています。一方、中学生、高校生世代ともに「兄弟姉妹」「祖母」の割合が少なくなっています。

■同居家族（中学生）



■同居家族（高校生世代）

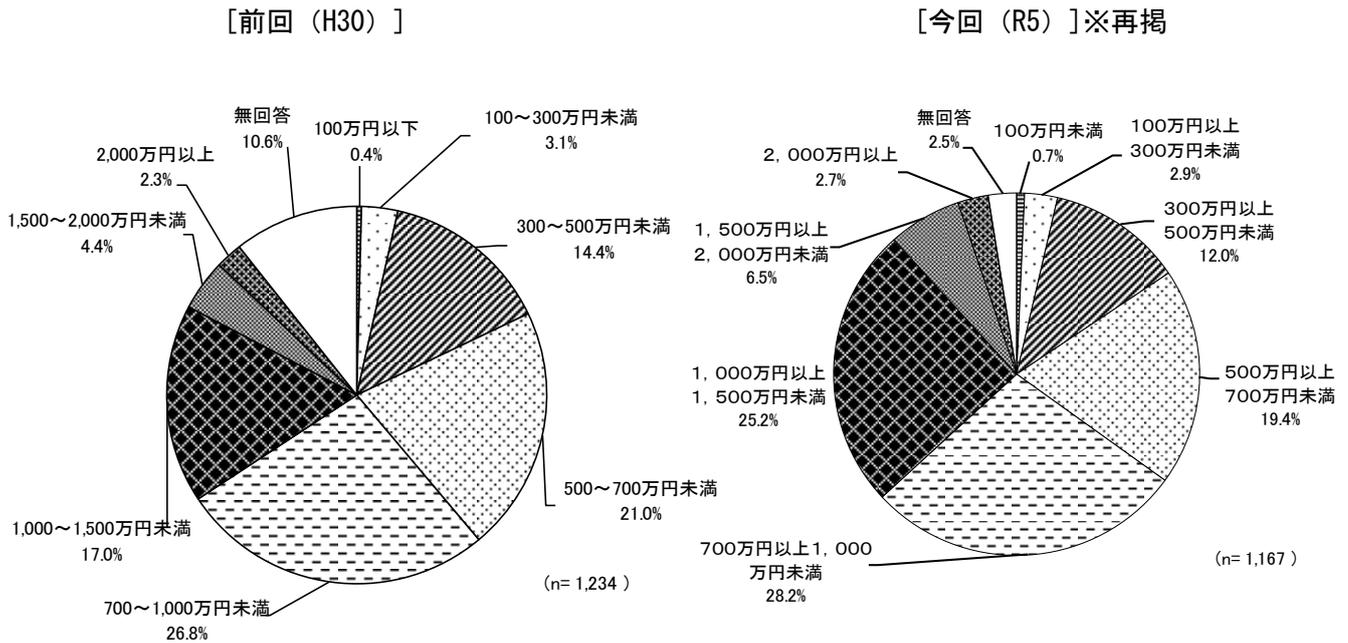


②世帯年収

就学前児童保護者の世帯年収は、前回調査では、「700万円以上1,000万円未満」(26.8%)、「500万円以上700万円未満」(21.0%)が多くなっていましたが、今回調査では「700万円以上1,000万円未満」(28.2%)、「1,000万円以上1,500万円未満」(25.2%)がいずれも2割を超えて多くなっています。

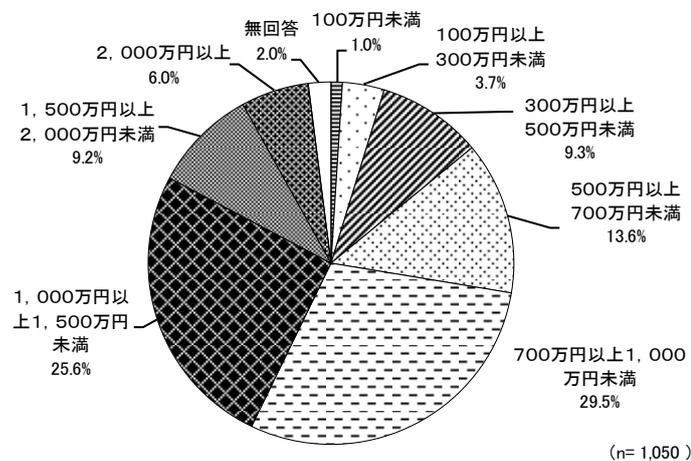
小学生児童保護者でも、今回調査では「700万円以上1,000万円未満」(29.5%)、「1,000万円以上1,500万円未満」(25.6%)がいずれも2割を超えて多くなっています。

■年間世帯総収入（就学前児童保護者）



■年間世帯総収入（小学生児童保護者）

[今回 (R5)] ※再掲



※前回調査では世帯年収に関する設問がなかったため、今回調査のみ掲載しています。

③母親の就労状況

就学前児童保護者では、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が約4割となっており、前回調査の約3割から増加しています。フルタイムでの就労（産休・育休・介護休業中含む）、パート・アルバイト等での就労（産休・育休・介護休業中含む）についてもそれぞれ増加傾向にある一方で、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が前回調査の3割半ばから約2割に減少しています。

小学生児童保護者では、「フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が4割半ばとなっており、前回調査の3割半ばから増加しています。パート・アルバイト等での就労や就労していない割合が前回調査より減少しています。

就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに、フルタイムでの就労が増加しています。

■母親の就労状況 ※再掲

<就学前児童保護者>

(単位:%)

	有効回答者数	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
前回(H30)	1,234	30.8	16.7	11.9	1.9	1.0	35.8	1.8	0.9
今回(R5)	1,167	39.5	20.2	16.7	2.5	0.5	18.8	1.0	0.8

<小学校児童保護者>

(単位:%)

	有効回答者数	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である	産休・育休をとっても保育園の入園が出来ない為に、やめなくてはならなかった	以前は就労していたが、現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
前回(H30)	1,398	32.8	1.3	35.7	0.3	0.2	23.8	3.1	2.9
今回(R5)	1,050	45.7	1.6	30.2	0.4	0.3	17.4	1.8	2.6

④定期的な教育・保育事業の利用

前回調査と比べて、「利用している」割合が多くなっています。利用している教育・保育事業では、「認可保育園」が約5割から6割半ばに増加した一方、「幼稚園」は3割半ばから2割半ばに減少しています。教育・保育事業を利用している理由においても、「子育てをしている方が現在就労している」が約6割から7割半ばに増加しており、定期的な教育・保育事業の利用及び認可保育園の利用が増加していることが伺えます。

■定期的な教育・保育事業の利用有無 ※再掲

(単位:%)

	有効回答者数	利用している	利用していない	無回答
前回(H30)	1,234	66.5	33.4	0.2
今回(R5)	1,167	73.3	25.6	1.1

■利用している教育・保育事業（複数回答） ※再掲

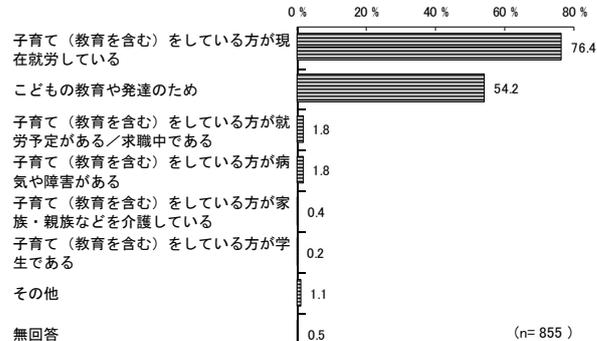
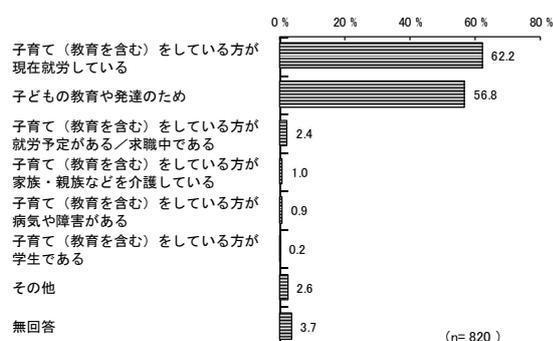
(単位:%)

	有効回答者数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育所	家庭福祉員(保育ママ)	事業所内保育施設	認証保育所	企業主導型保育施設	定期利用保育事業	その他認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
前回(H30)	820	36.8	8.5	48.5	—	1.5	0.5	0.1	7.2	0.9	0.7	2.3	—	1.2	2.3	0.2
今回(R5)	855	24.8	7.0	63.9	0.5	1.4	0.5	0.1	5.6	1.5	0.6	1.5	0.1	0.9	1.4	0.0

■教育・保育事業を利用している理由（複数回答）

[前回 (H30)]

[今回 (R5)] ※再掲



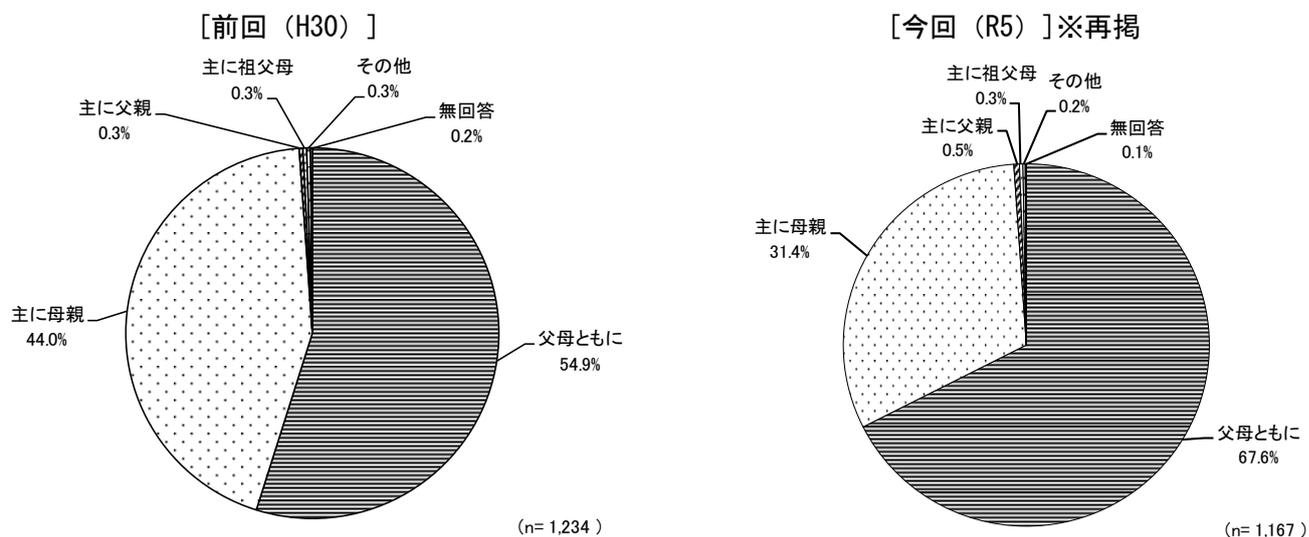
⑤父親の育児参加

子育てを主に行う人は、就学前児童では「父母ともに」が前回調査の5割半ばから約7割、小学生児童保護者では5割半ばから約6割に増加しています。

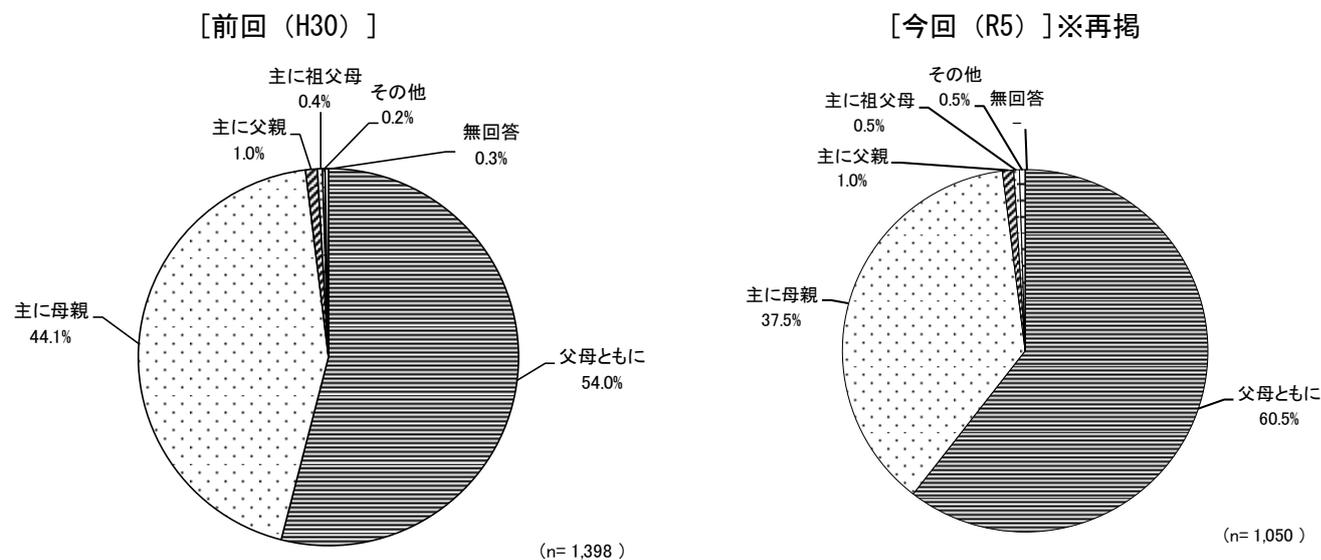
また、父親の育児休業の取得は前回調査時の3.8%から18.7%へ増加しており、父親の育児参加が進んでいることが伺えます。

■子育てを主に行っている人

<就学前児童保護者>



<小学生児童保護者>



■育児休業の取得状況 ※再掲

(単位: %)

		有効回答者数	働いて いなかった	取得した (取得中である)	取得していない	無回答
母親	前回 (H30)	1,234	40.4	48.5	9.8	1.3
	今回 (R5)	1,167	26.7	66.3	5.5	1.5
父親	前回 (H30)	1,234	1.1	3.8	88.2	6.9
	今回 (R5)	1,167	0.9	18.7	72.9	7.5

(2) 抱えている悩み

①子育てに関する心配、不安、悩み【就学前児童保護者・小学生児童保護者】(複数回答)

<きょうだいの人数別>

就学前児童保護者では、「なし(一人っ子)」「2人きょうだい」において、“こどもの遊ばせ方やしつけについて”が多くなっています。「3人以上」において“子育てにかかる金銭面で不安がある”が多い一方、「全体」と比較して“こどもの遊ばせ方やしつけについて”が少なくなっています。

小学生児童保護者では、いずれも“子育てにかかる金銭面で不安がある”が多くなっており、きょうだい数が増えるにつれて多くなる傾向があります。

(単位:%)

		有効回答者数	こどもの遊ばせ方やしつけについて	専門的な相談先が分からない	保育情報や地域の子育て情報が得にくい	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な疲労となっている	こどもとの時間が十分にとれない	こどもへの接し方に自信がもてない	子育てで配偶者やパートナーと意見が合わない	子育てで親と意見が合わない	
就学前児童保護者	全体	1,167	34.1	6.1	12.5	9.4	17.4	24.7	14.5	8.7	1.5	
	なし(一人っ子)	437	38.9	8.5	17.4	9.4	18.8	21.1	12.4	7.8	1.6	
	2人きょうだい	560	34.5	4.3	10.2	8.6	17.1	28.8	18.0	9.6	1.4	
	3人以上	165	21.2	5.5	7.3	12.7	15.2	21.2	8.5	7.9	1.2	
小学生児童保護者	全体	1,050	25.0	7.7	7.1	7.2	8.3	25.1	13.2	8.4	1.1	
	なし(一人っ子)	214	25.7	10.3	10.7	7.9	7.5	22.0	15.9	9.3	2.3	
	2人きょうだい	602	26.1	8.1	6.0	6.3	8.1	23.8	15.1	8.0	1.0	
	3人以上	226	21.7	4.4	6.2	9.3	9.7	32.7	6.2	8.8	0.4	
			仕事や自分のことが十分にできない	子育てについてまわりの目が気になる	こどもがかわいいとは思えない	こどもの友達関係で悩んでいる	子育ての方法が分からない	子育てにかかる金銭面で不安がある	なんとなく不安がある	その他	特にない	無回答
就学前児童保護者	全体	29.4	4.6	0.4	3.7	3.3	35.1	14.7	3.9	18.4	1.2	
	なし(一人っ子)	29.3	4.1	0.5	2.7	5.0	36.8	19.0	3.7	14.4	0.7	
	2人きょうだい	28.9	4.5	0.4	4.1	2.3	33.6	13.4	4.6	20.9	1.3	
	3人以上	31.5	6.7	0.6	4.8	1.8	36.4	8.5	2.4	20.0	1.2	
小学生児童保護者	全体	21.5	5.3	0.8	9.8	3.4	32.8	14.8	6.3	21.5	1.6	
	なし(一人っ子)	22.9	5.1	0.0	11.7	5.1	29.4	21.5	5.1	18.7	0.5	
	2人きょうだい	20.8	6.0	1.0	10.1	4.0	30.2	13.8	7.1	21.9	2.3	
	3人以上	22.6	4.0	0.9	7.1	0.4	43.4	11.1	5.3	22.1	0.9	

<配偶者の有無別>

「配偶者がいる」と比較して、「配偶者がいない」において、就学前児童保護者では“子育てにかかる金銭面で不安がある”“子どもとの時間が十分にとれない”“子育てが身体的な疲労となっている”、小学生児童保護者では“子育てにかかる金銭面で不安がある”“子どもとの時間が十分にとれない”“なんとなく不安がある”が多くなっており、金銭面や時間的な悩みが多くなる傾向があります。

(単位:%)

		有効回答者数	子どもの遊ばせ方やしつけについて	専門的な相談先が分からない	保育情報や地域の子育て情報が得にくい	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な疲労となっている	子どもとの時間が十分にとれない	子どもへの接し方に自信がもてない	子育てで配偶者やパートナーと意見が合わない	子育てで親と意見が合わない
童保護者 就学前児	全体	1,167	34.1	6.1	12.5	9.4	17.4	24.7	14.5	8.7	1.5
	配偶者がいる	1,124	34.7	6.3	12.7	9.0	17.1	24.3	14.8	8.9	1.2
	配偶者がいない	41	19.5	0.0	7.3	22.0	26.8	36.6	7.3	2.4	9.8
童保護者 小学生児	全体	1,050	25.0	7.7	7.1	7.2	8.3	25.1	13.2	8.4	1.1
	配偶者がいる	977	25.3	7.3	6.9	7.0	8.2	24.9	13.0	8.8	0.9
	配偶者がいない	69	20.3	14.5	11.6	10.1	10.1	30.4	15.9	2.9	4.3

		仕事や自分のことが十分にできない	子育てについてまわりの目が気になる	子どもがかわいいとは思えない	子どもの友達関係で悩んでいる	子育ての方法が分からない	子育てにかかる金銭面で不安がある	なんとなく不安がある	その他	特にない	無回答
童保護者 就学前児	全体	29.4	4.6	0.4	3.7	3.3	35.1	14.7	3.9	18.4	1.2
	配偶者がいる	29.7	4.4	0.4	3.6	3.4	35.0	14.7	3.9	18.5	1.2
	配偶者がいない	22.0	12.2	0.0	7.3	0.0	41.5	17.1	4.9	14.6	0.0
童保護者 小学生児	全体	21.5	5.3	0.8	9.8	3.4	32.8	14.8	6.3	21.5	1.6
	配偶者がいる	21.9	5.3	0.7	9.7	3.5	31.7	14.3	6.8	22.1	1.3
	配偶者がいない	17.4	5.8	0.0	10.1	2.9	49.3	21.7	0.0	13.0	2.9

<世帯年収別>

就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、「500万円未満」において“子育てにかかる金銭面で不安がある”が多くなっています。

「500万円以上700万円未満」「700万円以上1,000万円未満」においても、“子育てにかかる金銭面で不安がある”が多くなっています。

「1,000万円以上1,500万円未満」「1,500万円以上」においては、就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに“子育てにかかる金銭面で不安がある”が少なくなる傾向がある一方、就学前児童保護者では“こどもの遊ばせ方やしつけについて”、小学生児童保護者では“こどもとの時間が十分にとれない”が多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	こどもの遊ばせ方やしつけについて	専門的な相談先が分からない	保育情報や地域の子育て情報が得にくい	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な疲労となっている	こどもとの時間が十分にとれない	こどもへの接し方に自信がもてない	子育てで配偶者やパートナーと意見が合わない	子育てで親と意見が合わない
就学前児童保護者	全体	1,167	34.1	6.1	12.5	9.4	17.4	24.7	14.5	8.7	1.5
	500万円未満	182	24.7	4.4	8.2	13.2	18.7	18.7	14.3	6.0	2.7
	500万円以上700万円未満	226	36.3	7.1	12.4	11.1	19.5	21.7	15.9	8.4	2.7
	700万円以上1,000万円未満	329	32.8	4.9	12.2	8.5	18.5	22.8	12.8	10.6	1.2
	1,000万円以上1,500万円未満	294	37.8	7.8	14.3	9.5	16.0	29.9	14.6	9.5	0.3
	1,500万円以上	107	35.5	6.5	16.8	3.7	14.0	29.9	13.1	6.5	0.9
小学生児童保護者	全体	1,050	25.0	7.7	7.1	7.2	8.3	25.1	13.2	8.4	1.1
	500万円未満	147	24.5	10.9	9.5	5.4	7.5	22.4	12.2	6.1	3.4
	500万円以上700万円未満	143	26.6	9.1	5.6	5.6	4.2	23.1	14.0	7.7	1.4
	700万円以上1,000万円未満	310	24.5	7.4	5.2	8.7	11.6	21.6	11.6	9.4	0.6
	1,000万円以上1,500万円未満	269	25.3	7.1	7.8	8.6	8.2	27.9	14.1	8.9	1.1
	1,500万円以上	160	26.3	6.3	9.4	5.6	6.9	33.1	15.0	8.1	0.0

		仕事や自分のことが十分にできない	子育てについてまわりの目が気になる	子どもがかわいいとは思えない	子どもの友達関係で悩んでいる	子育ての方法が分からない	子育てにかかる金銭面で不安がある	なんとなく不安がある	その他	特にない	無回答
就学前児童保護者	全体	29.4	4.6	0.4	3.7	3.3	35.1	14.7	3.9	18.4	1.2
	500万円未満	24.7	4.4	0.0	3.8	2.7	45.6	18.7	2.2	23.1	0.5
	500万円以上 700万円未満	29.6	5.8	0.4	4.4	4.9	49.6	14.6	4.0	11.9	2.2
	700万円以上 1,000万円未満	28.9	5.8	0.3	2.7	2.7	35.3	15.8	3.3	19.1	0.9
	1,000万円以上 1,500万円未満	33.0	4.1	1.0	3.7	2.0	24.5	13.3	4.8	19.0	1.4
	1,500万円以上	29.0	0.9	0.0	2.8	3.7	16.8	9.3	7.5	22.4	0.0
小学生児童保護者	全体	21.5	5.3	0.8	9.8	3.4	32.8	14.8	6.3	21.5	1.6
	500万円未満	13.6	8.2	0.0	12.9	4.1	51.0	18.4	3.4	16.3	2.0
	500万円以上 700万円未満	18.9	6.3	0.0	9.1	0.7	39.9	18.2	2.8	26.6	1.4
	700万円以上 1,000万円未満	21.0	5.2	0.3	9.0	3.2	37.1	15.5	6.5	21.9	0.6
	1,000万円以上 1,500万円未満	27.1	4.8	1.9	9.7	4.1	25.7	14.1	7.1	19.7	1.9
	1,500万円以上	23.8	3.8	1.3	8.1	4.4	13.8	8.1	10.0	25.0	0.6

<子育ての楽しさ別>

就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、「楽しい」において「全体」と比較して“特にない”が多くなっています。

また、「楽しいこともあるが、つらいことの方が多い・つらい」において、「全体」と比較して“子育てが身体的な疲労となっている”“子育てが精神的な負担になっている”“こどもの遊ばせ方やしつけについて”“こどもへの接し方に自信がもてない”“仕事や自分のことが十分にできない”が多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	こどもの遊ばせ方やしつけについて	専門的な相談先が分からない	保育情報や地域の子育て情報が得にくい	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な疲労となっている	こどもとの時間が十分にとれない	こどもへの接し方に自信がもてない	子育てで配偶者やパートナーと意見が合わない	子育てで親と意見が合わない
就学前児童保護者	全体	1,167	34.1	6.1	12.5	9.4	17.4	24.7	14.5	8.7	1.5
	楽しい	283	21.9	4.2	10.2	1.8	6.7	15.5	3.5	5.7	0.4
	つらいこともあるが、楽しいことの方が多い	787	37.5	6.2	13.7	7.8	17.0	27.8	16.4	9.4	1.5
	楽しいこともあるが、つらいことの方が多い・つらい	90	45.6	11.1	10.0	48.9	55.6	26.7	33.3	12.2	4.4
小学生児童保護者	全体	1,050	25.0	7.7	7.1	7.2	8.3	25.1	13.2	8.4	1.1
	楽しい	259	15.4	6.2	5.4	0.8	0.8	20.8	1.9	2.7	0.8
	つらいこともあるが、楽しいことの方が多い	672	28.3	7.6	7.6	4.9	7.7	26.8	14.1	9.1	0.9
	楽しいこともあるが、つらいことの方が多い・つらい	110	29.1	12.7	9.1	37.3	30.0	27.3	35.5	18.2	3.6

		仕事や自分のことが十分にできない	子育てについてまわりの目が気になる	こどもがかわいいとは思えない	こどもの友達関係で悩んでいる	子育ての方法が分からない	子育てにかかる金銭面で不安がある	なんとなく不安がある	その他	特にない	無回答
就学前児童保護者	全体	29.4	4.6	0.4	3.7	3.3	35.1	14.7	3.9	18.4	1.2
	楽しい	19.1	2.5	0.0	2.5	1.4	27.2	8.5	4.2	31.4	0.7
	つらいこともあるが、楽しいことの方が多い	31.3	4.7	0.1	4.2	2.7	37.6	16.3	3.4	15.5	0.9
	楽しいこともあるが、つらいことの方が多い・つらい	46.7	10.0	4.4	3.3	14.4	40.0	22.2	7.8	3.3	0.0
小学生児童保護者	全体	21.5	5.3	0.8	9.8	3.4	32.8	14.8	6.3	21.5	1.6
	楽しい	10.0	1.9	0.0	3.9	0.4	24.7	5.4	6.2	40.9	3.1
	つらいこともあるが、楽しいことの方が多い	23.2	5.5	0.4	11.6	3.4	35.9	17.4	6.7	17.1	0.3
	楽しいこともあるが、つらいことの方が多い・つらい	39.1	12.7	4.5	13.6	10.9	34.5	21.8	4.5	4.5	0.0

<子育ての孤立感別>

就学前児童保護者では「感じる」、小学生児童保護者では「わからない」を除く分類で“子育てにかかる金銭面で不安がある”が最も多くなっています。

就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、「感じる（強く感じる・やや感じる）」において、「全体」と比較して“子育てが精神的な負担になっている”“子育てが身体的な疲労となっている”“子どもへの接し方に自信が持てない”“仕事や自分のことが十分にできない”が多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	子どもの遊ばせ方やしつけについて	専門的な相談先が分からない	保育情報や地域の子育て情報が得にくい	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な疲労となっている	子どもとの時間が十分にとれない	子どもへの接し方に自信がもてない	子育てで配偶者やパートナーと意見が合わない	子育てで親と意見が合わない
就学前児童保護者	全体	1,167	34.1	6.1	12.5	9.4	17.4	24.7	14.5	8.7	1.5
	感じる(強く感じる・やや感じる)	279	43.0	10.8	19.4	24.4	34.4	30.1	27.2	15.4	2.5
	感じない(あまり感じない・全く感じない)	868	31.5	4.6	10.4	4.8	12.1	23.2	10.3	6.5	1.2
	わからない	15	33.3	6.7	13.3	0.0	13.3	20.0	26.7	13.3	0.0
小学生児童保護者	全体	1,050	25.0	7.7	7.1	7.2	8.3	25.1	13.2	8.4	1.1
	感じる(強く感じる・やや感じる)	223	30.0	15.2	9.4	21.1	20.6	26.5	27.4	13.9	2.7
	感じない(あまり感じない・全く感じない)	794	23.4	5.9	6.7	3.0	4.9	25.4	8.8	6.9	0.8
	わからない	25	36.0	0.0	4.0	20.0	8.0	12.0	32.0	8.0	0.0

		仕事や自分のことが十分にできない	子育てについてまわりの目が気になる	子どもがかわいいとは思えない	子どもの友達関係で悩んでいる	子育ての方法が分からない	子育てにかかる金銭面で不安がある	なんとなく不安がある	その他	特にない	無回答
就学前児童保護者	全体	29.4	4.6	0.4	3.7	3.3	35.1	14.7	3.9	18.4	1.2
	感じる(強く感じる・やや感じる)	44.8	9.0	1.4	5.7	5.7	41.6	24.0	6.5	4.7	0.7
	感じない(あまり感じない・全く感じない)	24.7	3.2	0.1	3.1	2.3	32.8	11.5	3.1	23.0	0.8
	わからない	26.7	6.7	0.0	0.0	13.3	60.0	33.3	6.7	13.3	0.0
小学生児童保護者	全体	21.5	5.3	0.8	9.8	3.4	32.8	14.8	6.3	21.5	1.6
	感じる(強く感じる・やや感じる)	35.0	11.7	2.7	17.0	6.3	35.0	22.9	9.0	6.3	0.4
	感じない(あまり感じない・全く感じない)	18.0	3.3	0.0	7.9	1.8	32.6	12.6	5.5	26.3	1.0
	わからない	20.0	16.0	8.0	8.0	32.0	24.0	16.0	8.0	12.0	4.0

<子育て環境・支援への満足度別>

就学前児童保護者では、「不満（やや不満・不満）」において、「満足（満足・まあまあ満足）」「ふつう」と比較して、“保育情報や地域の子育て情報が得にくい”が多くなっています。

小学生児童保護者では、「不満（やや不満・不満）」において、「満足（満足・まあまあ満足）」「ふつう」と比較して、“子育てにかかる金銭面で不安がある”が多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	こどもの遊ばせ方やしつけについて	専門的な相談先が分からない	保育情報や地域の子育て情報が得にくい	子育てが精神的な負担になっている	子育てが身体的な疲労となっている	こどもの時間が十分にとれない	こどもへの接し方に自信がもてない	子育てで配偶者やパートナーと意見が合わない	子育てで親と意見が合わない
就学前児童保護者	全体	1,167	34.1	6.1	12.5	9.4	17.4	24.7	14.5	8.7	1.5
	満足(満足・まあまあ満足)	604	34.6	4.5	8.6	6.8	15.6	23.8	14.4	7.9	1.2
	ふつう	422	34.8	7.3	14.2	11.4	17.3	25.6	14.5	9.2	1.9
	不満(やや不満・不満)	136	30.9	9.6	25.0	15.4	25.7	26.5	14.7	9.6	1.5
小学生児童保護者	全体	1,050	25.0	7.7	7.1	7.2	8.3	25.1	13.2	8.4	1.1
	満足(満足・まあまあ満足)	510	23.3	6.9	5.1	6.7	8.2	24.5	13.5	8.6	1.6
	ふつう	405	27.9	7.9	8.9	5.2	6.2	24.4	13.1	8.1	1.0
	不満(やや不満・不満)	124	23.4	10.5	10.5	16.1	14.5	31.5	12.9	8.9	0.0

		仕事や自分のことが十分にできない	子育てについてまわりの目が気になる	こどもがかわいいとは思えない	こどもの友達関係で悩んでいる	子育ての方法が分からない	子育てにかかる金銭面で不安がある	なんとなく不安がある	その他	特にない	無回答
就学前児童保護者	全体	29.4	4.6	0.4	3.7	3.3	35.1	14.7	3.9	18.4	1.2
	満足(満足・まあまあ満足)	27.0	3.6	0.3	3.6	2.0	29.3	15.1	3.5	21.5	1.5
	ふつう	31.0	4.7	0.2	3.8	4.7	40.8	16.1	3.6	16.6	0.5
	不満(やや不満・不満)	34.6	8.1	1.5	3.7	4.4	43.4	8.8	7.4	11.0	0.7
小学生児童保護者	全体	21.5	5.3	0.8	9.8	3.4	32.8	14.8	6.3	21.5	1.6
	満足(満足・まあまあ満足)	20.4	4.1	0.4	8.8	3.1	30.8	11.8	5.3	23.1	1.4
	ふつう	20.5	6.7	0.2	9.4	3.7	32.8	17.8	5.4	22.0	0.7
	不満(やや不満・不満)	31.5	6.5	4.0	15.3	4.0	43.5	17.7	13.7	13.7	0.0

②抱えている悩み【小学生・中学生・高校生世代】（複数回答）

<生活の楽しさ別>

小学生では、「楽しくない」において“学校のこと”が最も多くなっています。

中学生では、「楽しい」において“成績のこと”、「楽しくない」において“将来や進路のこと”が最も多くなっています。

高校生世代においては、すべての分類で“将来や進路のこと”が最も多くなっています。

すべての年代において、「楽しくない」において割合が多くなっており、“自分のこと（容姿、性格、健康など）”や“将来や進路のこと”が多い傾向が見られます。

（単位：％）

		有効回答者数	自分のこと（容姿、性格、健康など）	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
小学生	全体	366	22.7	23.5	26.8	15.0	2.2	13.7	6.8	5.7	9.0	3.3	4.4	1.4	44.3	1.4
	楽しい	338	21.0	23.4	26.6	14.8	2.4	12.1	6.8	5.6	8.3	2.7	4.4	0.6	46.7	0.6
	楽しくない	14	35.7	21.4	28.6	21.4	0.0	42.9	14.3	7.1	28.6	14.3	7.1	21.4	21.4	0.0
	わからない	11	63.6	36.4	36.4	18.2	0.0	27.3	0.0	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0
中学生	全体	350	42.0	50.6	50.0	22.0	5.1	17.7	16.9	8.3	16.9	2.0	8.0	0.9	23.4	0.3
	楽しい	315	41.0	50.5	49.2	20.6	5.1	15.2	16.5	4.8	14.6	1.6	7.0	0.3	23.8	0.3
	楽しくない	17	70.6	64.7	76.5	35.3	5.9	58.8	29.4	64.7	58.8	5.9	23.5	0.0	0.0	0.0
	わからない	17	35.3	41.2	41.2	35.3	5.9	17.6	11.8	17.6	17.6	5.9	11.8	11.8	41.2	0.0
高校生世代	全体	217	41.0	45.6	65.9	19.8	3.2	16.1	12.0	5.1	18.9	0.5	3.7	0.9	19.4	0.0
	楽しい	206	39.8	45.1	64.6	18.0	3.4	15.0	11.7	4.9	18.0	0.5	3.9	1.0	20.4	0.0
	楽しくない	9	66.7	55.6	88.9	55.6	0.0	33.3	22.2	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	わからない	2	50.0	50.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

<自分のことが好きか別>

小学生では、「好きでない」において、“自分のこと（容姿、性格、健康など）”“成績のこと”“学校のこと”が多くなっています。

中学生では、「好き」において“成績のこと”、「好きでない」において“自分のこと（容姿、性格、健康など）”“成績のこと”“将来や進路のこと”が多くなっています。

高校生世代では、“将来や進路のこと”が最も多くなっています。

すべての年代において、「好きでない」において割合が多くなっており、“自分のこと（容姿、性格、健康など）”や“将来や進路のこと”が多い傾向が見られます。

(単位:%)

		有効回答者数	自分のこと(容姿、性格、健康など)	成績のこと	将来や進路のこと	友だちのこと	SNSに関すること	学校のこと	部活動や習い事のこと	家族のこと	生活や勉強に必要なお金のこと	いじめに関すること	しかられること	その他	特にない	無回答
小学生	全体	366	22.7	23.5	26.8	15.0	2.2	13.7	6.8	5.7	9.0	3.3	4.4	1.4	44.3	1.4
	好き	303	19.5	22.4	26.4	13.9	2.3	11.9	7.3	5.0	7.9	2.3	4.6	1.0	47.5	0.7
	好きでない	30	46.7	33.3	26.7	23.3	0.0	30.0	10.0	10.0	20.0	10.0	3.3	6.7	20.0	0.0
	わからない	30	33.3	26.7	33.3	20.0	3.3	16.7	0.0	10.0	10.0	6.7	3.3	0.0	40.0	0.0
中学生	全体	350	42.0	50.6	50.0	22.0	5.1	17.7	16.9	8.3	16.9	2.0	8.0	0.9	23.4	0.3
	好き	243	32.5	48.1	44.9	16.5	2.9	11.9	14.8	4.9	12.8	1.2	4.5	0.4	26.3	0.4
	好きでない	68	76.5	67.6	72.1	38.2	10.3	38.2	25.0	22.1	30.9	1.5	17.6	2.9	5.9	0.0
	わからない	38	42.1	36.8	44.7	28.9	10.5	15.8	15.8	5.3	18.4	7.9	13.2	0.0	36.8	0.0
高校生世代	全体	217	41.0	45.6	65.9	19.8	3.2	16.1	12.0	5.1	18.9	0.5	3.7	0.9	19.4	0.0
	好き	157	33.8	44.6	63.1	16.6	1.9	14.0	11.5	3.8	17.2	0.6	3.8	0.6	22.3	0.0
	好きでない	42	73.8	54.8	81.0	38.1	9.5	23.8	16.7	11.9	31.0	0.0	2.4	0.0	7.1	0.0
	わからない	18	27.8	33.3	55.6	5.6	0.0	16.7	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6	5.6	22.2	0.0

(3) 行政に求めるサービス・施策

①子育てにあたって望むサービス・施策【就学前児童保護者・小学生児童保護者】(複数回答)

<配偶者の有無別>

就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、“児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助”が最も多くなっています。

また、就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、「配偶者はいない」において、「配偶者がいる」と比較して“こどもが安心して遊べる公園などの整備”が少なくなっている一方で、“子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備”“保護者の都合により家庭での育児が困難なときに、お子さんを預けることができる宿泊型のサービス”が多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	親同士の助け合い活動や、ボランティアによる地域の相互扶助体制の整備	子育て支援に関する総合的な情報提供	家事・育児の男女共同参画の意識づくり	子どもの事故防止や子育てを学ぶ講座、教室の充実	保育施設の充実などの環境整備	保育サービスの分かりやすい情報提供や利用手続きの簡素化	幼児教育・保育内容の充実	親が就労しているなどの要件に関わらず、誰もが不定期に保育施設へ通える制度	児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助	子育て家庭のための住宅対策の推進
就学前児童保護者	全体	1,167	11.7	6.3	13.6	6.8	9.1	24.8	26.9	28.0	27.6	63.9	29.6
	配偶者がいる	1,124	11.5	6.2	13.5	6.9	9.3	24.7	27.4	28.0	27.6	63.5	29.6
	配偶者はいない	41	17.1	7.3	17.1	4.9	4.9	26.8	12.2	29.3	26.8	73.2	26.8
小学生児童保護者	全体	1,050	13.1	7.7	14.8	5.9	7.0	10.6	12.7	8.9	19.1	62.2	25.9
	配偶者がいる	977	12.9	7.9	14.5	6.1	7.3	10.8	12.8	9.1	19.8	61.5	25.0
	配偶者はいない	69	17.4	5.8	18.8	2.9	4.3	7.2	11.6	5.8	11.6	73.9	39.1

		ちよつとした用事やリフレッシュのために利用できる一時預かりサービス	とができる宿泊型のサービス	困難なときに、お子さんを預けることができる	保護者の都合により家庭での育児が困難なときに、お子さんを預けることができる	保護者の派遣サービス	家でこどもの世話をしてくれるヘルパー等の派遣サービス	産後や保護者の病気のときなどに家でこどもの世話をしてくれるヘルパー等の派遣サービス	物、清掃等)	家事援助(食事づくり、洗濯、買い物、清掃等)	実	妊娠・出産期における母子保健の充実	様々な体験ができる機会の提供	整備	子どもが安心して遊べる公園などの整備	乳幼児連れでも外出しやすいまちづくり	が健全に育つための環境整備	非行や犯罪被害の防止などこどもが健全に育つための環境整備	醸成	子育てを社会全体で見守る機運の醸成	その他	無回答
就学前児童 保護者	全体	31.8	6.0	8.3	10.0	7.6	29.7	46.1	25.2	19.5	7.5	3.1	1.7									
	配偶者がいる	31.7	5.8	8.2	10.1	7.8	29.5	46.8	25.6	19.9	7.5	3.1	1.7									
	配偶者はいない	34.1	12.2	9.8	7.3	2.4	34.1	29.3	14.6	9.8	7.3	2.4	2.4									
小学生児童 保護者	全体	16.1	5.5	6.6	11.5	3.3	36.1	51.6	8.8	30.4	15.1	4.6	6.3									
	配偶者がいる	16.2	5.0	6.4	10.7	3.5	36.9	52.8	9.4	31.3	15.6	4.6	5.9									
	配偶者はいない	14.5	13.0	8.7	23.2	1.4	24.6	36.2	0.0	18.8	10.1	2.9	8.7									

<世帯年収別>

小学生児童保護者の「1,500万円以上」を除くすべての世帯年収で、“児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助”が最も多くなっていますが、年収が高くなるにつれて割合が少なくなる傾向にあります。

(単位:%)

	有効回答者数	子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	親同士の助け合い活動や、ボランティアによる地域の相互扶助体制の整備	子育て支援に関する総合的な情報提供	家事・育児の男女共同参画の意識づくり	子どもの事故防止や子育てを学ぶ講座、教室の充実	保育施設の充実などの環境整備	保育サービスの分かりやすい情報提供や利用手続きの簡素化	幼児教育・保育内容の充実	親が就労しているなどの要件に関わらず、誰もが不定期に保育施設へ通える制度	児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助	子育て家庭のための住宅対策の推進	
就学前児童保護者	全体	1,167	11.7	6.3	13.6	6.8	9.1	24.8	26.9	28.0	27.6	63.9	29.6
	500万円未満	182	13.7	7.7	11.5	6.6	11.0	21.4	20.3	24.2	35.2	72.5	42.9
	500万円以上 700万円未満	226	10.6	4.0	13.7	7.1	8.0	20.8	29.6	24.3	35.8	69.0	35.4
	700万円以上 1,000万円未満	329	13.7	5.5	16.4	5.5	9.1	26.4	28.6	22.5	27.7	63.5	29.8
	1,000万円以上 1,500万円未満	294	8.5	6.5	11.2	8.5	8.8	26.2	24.5	33.7	21.1	61.9	21.8
	1,500万円以上	107	13.1	9.3	14.0	7.5	10.3	29.0	31.8	42.1	16.8	49.5	18.7
	小学生児童保護者	全体	1,050	13.1	7.7	14.8	5.9	7.0	10.6	12.7	8.9	19.1	62.2
500万円未満	147	15.0	6.8	15.6	3.4	9.5	6.8	9.5	6.1	18.4	71.4	36.7	
500万円以上 700万円未満	143	11.9	4.2	14.7	4.2	2.1	7.0	16.1	8.4	21.0	70.6	25.9	
700万円以上 1,000万円未満	310	11.6	9.0	14.5	7.4	8.4	9.7	10.3	6.8	19.4	67.1	29.7	
1,000万円以上 1,500万円未満	269	16.0	7.8	14.1	4.8	9.7	11.2	15.2	11.9	19.3	59.1	22.7	
1,500万円以上	160	11.9	9.4	17.5	9.4	2.5	17.5	12.5	10.0	17.5	43.8	13.1	

		ちよつとした用事やリフレクシユのため利用できる一時預かりサービス	保護者の都合により家庭での育児が困難なときに、お子さんを預けることができる宿泊型のサービス	産後や保護者の病気のときなどに家でこどもの世話をしてくれるヘルパー等の派遣サービス	家事援助(食事づくり、洗濯、買い物、清掃等)	妊娠・出産期における母子保健の充実	様々な体験ができる機会の提供	子どもが安心して遊べる公園などの整備	乳幼児連れでも外出しやすいまちづくり	非行や犯罪被害の防止など子どもが健全に育つための環境整備	子育てを社会全体で見守る機運の醸成	その他	無回答
就学前児童保護者	全体	31.8	6.0	8.3	10.0	7.6	29.7	46.1	25.2	19.5	7.5	3.1	1.7
	500万円未満	29.7	4.4	5.5	5.5	9.9	23.1	37.9	21.4	13.2	5.5	1.6	3.3
	500万円以上 700万円未満	29.6	8.0	7.5	7.1	8.8	27.0	46.9	29.6	18.1	5.3	3.5	0.4
	700万円以上 1,000万円未満	34.0	4.9	8.2	7.9	6.4	31.9	47.1	25.8	22.2	7.3	3.0	0.6
	1,000万円以上 1,500万円未満	31.3	6.1	9.2	13.9	7.1	32.3	54.1	25.5	22.8	11.6	4.4	1.7
	1,500万円以上	35.5	9.3	12.1	16.8	6.5	30.8	38.3	21.5	19.6	5.6	1.9	2.8
	全体	29.7	4.4	5.5	5.5	9.9	23.1	37.9	21.4	13.2	5.5	1.6	3.3
小学生児童保護者	500万円未満	14.3	10.9	6.1	10.9	3.4	27.2	49.0	8.2	28.6	11.6	4.1	5.4
	500万円以上 700万円未満	16.8	1.4	6.3	6.3	4.9	33.6	51.0	6.3	32.2	11.2	4.2	7.0
	700万円以上 1,000万円未満	15.5	4.5	6.8	9.4	2.9	39.7	53.9	8.4	28.7	14.5	3.9	6.1
	1,000万円以上 1,500万円未満	14.9	4.1	6.3	13.0	3.0	37.9	53.5	10.4	34.6	18.2	4.5	5.6
	1,500万円以上	20.0	8.8	7.5	18.1	3.8	38.8	47.5	10.0	29.4	19.4	6.9	5.6

<きょうだいの人数別>

就学前児童保護者・小学生児童保護者ともに、すべてのきょうだいの人数で“児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助”が最も多くなっており、とくに「3人以上」で割合が多くなっています。次に「こどもが安心して遊べる公園などの整備」が多くなっています。就学前児童保護者では「ちょっとした用事やリフレッシュのために利用できる一時預かりサービス」、小学生児童保護者では「様々な体験ができる機会の提供」が多くなっています。

また、「なし（一人っ子）」では、“子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備”、“子育て支援に関する総合的な情報提供”の割合がほかのきょうだい人数よりも多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	子育てについての不安や悩みの相談支援体制の整備	親同士の助け合い活動や、ボランティアによる地域の相互扶助体制の整備	子育て支援に関する総合的な情報提供	家事・育児の男女共同参画の意識づくり	こどもの事故防止や子育てを学ぶ講座、教室の充実	保育施設の充実などの環境整備	保育サービスの分かりやすい情報提供や利用手続きの簡素化	幼児教育・保育内容の充実	親が就労しているなどの要件に関わらず、誰もが不定期に保育施設へ通える制度	児童手当の拡充、税金の軽減など経済的援助	子育て家庭のための住宅対策の推進
就学前児童保護者	全体	1,167	11.7	6.3	13.6	6.8	9.1	24.8	26.9	28.0	27.6	63.9	29.6
	なし(一人っ子)	437	13.0	4.1	16.0	6.2	12.4	29.7	26.8	26.8	28.8	65.2	30.2
	2人きょうだい	560	11.4	7.3	12.1	7.7	7.5	21.6	26.6	28.9	25.0	61.4	30.0
	3人以上	165	7.9	8.5	11.5	5.5	6.1	23.0	27.9	29.1	32.1	67.9	26.1
小学生児童保護者	全体	1,050	13.1	7.7	14.8	5.9	7.0	10.6	12.7	8.9	19.1	62.2	25.9
	なし(一人っ子)	214	20.1	7.5	17.3	6.1	6.1	10.7	9.8	6.1	20.1	61.2	22.9
	2人きょうだい	602	12.1	7.5	15.0	6.3	7.8	11.5	12.3	8.8	18.3	58.5	25.2
	3人以上	226	9.7	8.8	11.9	4.9	6.2	8.4	16.4	11.9	19.5	73.9	30.5

		ちよつとした用事やリフレクシユのため利用できる一時預かりサービス	保護者の都合により家庭での育児が困難なときに、お子さんを預けることができる宿泊型のサービス	産後や保護者の病気のときなどに家でこどもの世話をしてくれるヘルパー等の派遣サービス	家事援助(食事づくり、洗濯、買い物、清掃等)	妊娠・出産期における母子保健の充実	様々な体験ができる機会の提供	こどもが安心して遊べる公園などの整備	乳幼児連れでも外出しやすいまちづくり	非行や犯罪被害の防止などこどもが健全に育つための環境整備	子育てを社会全体で見守る機運の醸成	その他	無回答
就学前児童保護者	全体	31.8	6.0	8.3	10.0	7.6	29.7	46.1	25.2	19.5	7.5	3.1	1.7
	なし(一人っ子)	32.5	6.6	8.0	7.8	9.8	27.5	41.6	29.5	16.7	6.2	2.5	1.6
	2人きょうだい	31.6	5.5	9.1	12.9	5.7	30.0	48.9	22.5	22.5	8.8	3.8	1.6
	3人きょうだい	30.9	5.5	6.1	6.1	7.9	35.8	49.7	23.6	17.6	6.7	2.4	2.4
小学生児童保護者	全体	16.1	5.5	6.6	11.5	3.3	36.1	51.6	8.8	30.4	15.1	4.6	6.3
	なし(一人っ子)	15.9	7.5	9.8	13.1	4.2	34.1	50.5	6.5	34.6	15.0	6.1	5.1
	2人きょうだい	15.9	5.5	4.8	10.5	3.3	38.0	52.2	8.6	30.4	16.4	3.8	7.1
	3人きょうだい	16.4	3.5	7.5	12.8	2.2	33.6	50.9	11.5	27.0	11.5	5.3	5.3

②将来なりたい仕事や夢を実現するために受けた支援【小学生・中学生・高校生世代】

(複数回答)

<世帯構成別>

すべての年代の「ひとり親」において、“進学等に活用できる経済的支援”が多くなっています。

中学生では“受験や就職試験のための面接や作文の支援”“進学等に活用できる経済的支援”、高校生世代では“進学等に活用できる経済的支援”が多くなっています。

(単位:%)

		有効回答者数	日常学習の支援	受験や就職試験のための面接や作文の支援	進学等に活用できる経済的支援	進路に関する相談支援	その他	特にない	無回答
小学生	全体	366	27.3	24.6	26.5	19.1	4.4	34.4	2.7
	ひとり親	24	33.3	16.7	41.7	29.2	0.0	20.8	4.2
	核家族	298	26.2	25.2	25.8	19.8	4.4	35.9	2.0
	多世代	34	32.4	23.5	26.5	8.8	8.8	32.4	2.9
中学生	全体	350	31.4	36.3	31.1	32.6	1.4	26.6	0.6
	ひとり親	30	36.7	43.3	43.3	30.0	3.3	26.7	0.0
	核家族	278	30.2	36.0	28.4	33.5	1.4	27.0	0.7
	多世代	37	35.1	37.8	40.5	32.4	0.0	24.3	0.0
高校生世代	全体	217	25.3	32.7	42.4	28.1	2.3	23.0	0.9
	ひとり親	30	26.7	33.3	53.3	20.0	6.7	16.7	0.0
	核家族	172	24.4	33.7	41.9	29.7	1.7	23.8	0.6
	多世代	14	28.6	21.4	28.6	21.4	0.0	28.6	7.1

※高校生世代:「ひとり親」「核家族」「多世代」に分類されない世帯構成を除いています。

(4) 調査結果から考えられる支援の方向性

①変化するこども・子育てへの対応

就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに母親のフルタイムでの就労が増加しており、定期的な教育・保育事業の利用も増加している状況にあります。加えて、父親の育児参加が進みつつあり、共働き・共育てへと子育ての形が変化してきていることが分かりました。こうしたこども・子育てを取り巻く状況の変化を的確にとらえ、取組を進めていくことが求められます。

②悩み・課題を抱えるすべてのこども・保護者への支援

就学前児童保護者・小学生児童保護者の調査では、多子世帯やひとり親家庭において、金銭面での不安や時間的制約、身体的な疲労や不安を感じている割合が多い傾向が見られました。

また、子育てをつらいと感じている保護者においては、上記に加え、こどもの遊ばせ方やしつけ、こどもとの接し方及び仕事や自分のことが十分にできないといった悩みを抱えている傾向が見られました。

小学生・中学生・高校生世代の調査では、毎日の生活が楽しくない、自分のことが好きでないこどもにおいて、悩みを多く抱えている傾向が見られました。

こうしたことから、悩み・課題を抱えるすべてのこども・保護者に対し、相談の機会の提供等により、必要な支援につなげていくことが重要と考えられます。

③孤立感を感じているこども・保護者への支援

子育ての孤立感を感じている人は、子育てが精神的な負担になっている、子育てが身体的な疲労となっている傾向が見られました。こうした精神的負担、身体的疲労の解消につながるとともに、孤立させない支援に取り組んでいくことが必要と考えられます。

④潜在するこどもの支援ニーズの継続的な把握

今回の分析において、悩みを多く抱えるこどもは毎日の生活が楽しくない、自分のことが好きでないといったウェルビーイングや自己肯定感と関連していることや、こうした課題を抱えるこどもが一定数いることが把握されました。このように、支援を必要とするこどもが潜在していることが推察されるため、今回の調査結果で得られた結果と合わせて、今後もヒアリング等によりこどもの支援ニーズを継続的に把握していくことが必要と考えられます。

大田区子ども・子育て支援計画改訂に向けたアンケート調査報告書

(令和6年5月)

発行：大田区 こども家庭部 子育て支援課

〒144-8621

東京都大田区蒲田五丁目13番14号

電話：03-5744-1780

FAX：03-5744-1525

ファミリー・アテンダント事業の実施について

ファミリー・アテンダント事業について、子育て世帯の孤独・孤立の解消及び防止を図るアウトリーチ型の支援として、以下のとおり実施する。

1 見守り訪問

(1) 対象

生後6か月から12か月までの乳幼児を育てる世帯（第一子に限る）

(2) 事業内容

対象世帯を毎月訪問し、玄関先等で子育ての様子等をお伺いする。
訪問終了後、専用のマイページで使える育児チケットを配付し、子育て支援品（おむつ等）をお届けする。

(3) スケジュール（予定）

- ・ 6月下旬 対象世帯に案内を送付
- ・ 7月1日 予約開始
- ・ 7月中旬 訪問開始

(4) 委託先

株式会社パソナライフケア

2 伴走支援

(1) 対象

生後6か月から12か月までの乳幼児を育てる世帯（第一子に限る）

(2) 事業内容

希望世帯を対象に、地域ボランティアが子育て世帯を訪問し、子育てに関する悩みの傾聴や協働による家事・育児のサポート等を行う。

(3) スケジュール（予定）

- ・ 7月下旬 訪問開始

(4) 委託先

一般社団法人大田区支援ネットワーク

3 周知方法

区報7月1日号

区ホームページ 他

こども文教委員会 令和6年6月21・24日
こども家庭部 資料3番
所管 子ども家庭総合支援センター開設準備室

(仮称) 大田区子ども家庭総合支援センターの検討状況について

(仮称) 大田区子ども家庭総合支援センター (以下、「センター」という。) の令和8年度中の開設に向け、以下のとおり検討を進めている。

1 開設準備体制

令和6年度組織改正で「子ども家庭総合支援センター開設準備室」を新設。センター開設を見据え、児童福祉領域の相談支援を担う人材のさらなる育成に向け、心理職スーパーバイザー、児童相談人材育成専門員を配置した。

2 確認書について

区は、こどもの安全・安心を守るため、東京都が設置する児童相談所 (一時保護所を含む。) と区が設置する子ども家庭支援センターが連携した、新たな児童福祉相談支援に関する仕組みの具体化に向けて、以下の認識を共有し検討を進めるため確認書を取り交わした。

【確認書の主な内容】

区は、こども家庭センター機能を含む虐待予防等の未然防止の取組を強化、都は、地域支援の充実に向けた取組を強化し、虐待の未然防止から専門的支援までを切れ目なく実施し、地域支援の充実を図る。

3 都区検討事項

- (1) 運営体制 (相談受付方法等)
- (2) レイアウト等 (都区使用スペース等)
- (3) 賃借料等

4 今後のスケジュール

- 令和6年度 都区連携の大枠・方向性の確定
- 令和7年度 都区連携体制の具体化、開設に向けた諸準備
- 令和8年度中 センター開設 (予定)